

国立国語研究所学術情報リポジトリ

幼児の語彙能力

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001258

国立国語研究所報告66

幼児の語彙能力

国立国語研究所

東京書籍株式会社

The National Language Research Institute
Research Report 66

THE LEXICAL ABILITY OF PRE-SCHOOL CHILDREN

This is a report on research designed to clarify the lexical ability of pre-school children.

Contents

Foreword

1. Outline of research
2. Methods and procedures used in research
 - (1) for adjectives
 - (2) for words of time and space
 - (3) for verbs
3. Criteria for response evaluation
4. Results and discussion
 - (1) test of adjectives
 - (2) test of words of time and space
 - (3) test of verbs
5. Ability to use vocabulary and related factors
 - (1) ability to use adjectives
 - (2) ability to use words of time and space
 - (3) ability to use verbs
 - (4) discussion

6. Summary

Appendices

TOKYO-SHOSEKI (publishers) Ltd.

5-18, 1-chome, Taito, Taito-ku, TOKYO, JAPAN

刊行のことば

子どもはどのように言語を習得し発達させていくか、その実態、特徴、問題点を明らかにすることは、国語教育の改善のため、また国語国字問題の解決のために欠くことのできない研究課題である。

これに関して、国立国語研究所では、昭和42年から3か年計画で、特別研究「就学前児童の言語能力に関する全国調査」を実施した。これは、幼児が就学までにどれだけの文字力・語彙力・文法能力・コミュニケーション能力などを獲得するかを、全国的な視野でとらえようとしたもので、そのうち文字力に関する調査の結果は『幼児の読み書き能力』（国立国語研究所報告45）、文法・コミュニケーション能力に関する調査の結果は『幼児の文法能力』（国立国語研究所報告58）として、すでに発表した。本書は、それらに引き続いて、語彙能力に関する調査の結果を報告するものである。

昭和43、44年に実施したこの調査は、日本語の語彙のうちの性状語、時間・空間語また動詞に関する基本的な語についての理解の水準を確かめることに主眼をおいたもので、このために語理解に関するいくつかの水準を設定して調査した。また、この調査は、将来、経年調査が実施された場合の、比較の基礎データにすることが意図されているため、客観的なテスト形式で測定できるよう、絵図版や玩具を用意した。

この調査は、岩手・仙台・東京・京都・和歌山の幼稚園の4～5歳児クラスの幼児（延べ66園約1,200名）について、すべて一人ずつ個別テストの形で実施したものであって、関係幼稚園及び所管機関ならびに多くの調査員各位には、格別の協力と配慮をいただいた。また、「幼児の言語生活」に関するアンケート調査では、被調査者の家庭の協力を得た。本書の刊行にあたり、厚く御礼を申し上げる。

この研究は、当時の第2研究部（部長 興水実）において、国語教育研究室の村石昭三、天野清（現在、国立教育研究所員）が担当した。

本書に報告する調査について、主としてその企画、問題作成、実施運営にあたり、また、本報告書の執筆をしたものは下名である。

村石昭三（現言語教育研究部長）

なお、調査の全般にわたっては鈴木昭子（旧姓 福田）が、また報告書作成については川又瑠璃子が補助的作業に従事した。

昭和55年3月

国立国語研究所長 林 大

も く じ

第1章 調査の概要

第1節 「就学前児童の言語能力に関する全国調査」	
	について ……7
第2節 調査経過の概要	…10
1 昭和43年度就学前児童の言語能力に関する全国調査	…10
2 昭和44年度就学前児童の言語能力に関する全国調査	…16
第3節 「就学前児童の語彙力調査」について	…23
1 理解の水準	…23
2 言語の系	…24

第2章 調査の実施手続き

第1節 性状語調査	…27
1 調査の概要	…27
2 本テストの構成	…27
3 性状語テストの構成	…27
4 テストの方法	…28
5 正誤の判定基準と記録のとり方	…28
6 各テストの実施要領	…29
7 記録用紙	…38
第2節 時間・空間語調査	…42
1 調査の概要	…42
2 本テストの構成	…42
3 時間・空間語テストの構成	…42
4 テストの方法	…44
5 正誤の判定基準と記録のとり方	…44
6 各テストの実施要領	…45
7 記録用紙	…54
第3節 動詞調査	…58
1 調査の概要	…58
2 動詞テストの調査地域と人数配分	…58
3 テスト語彙(動詞)	…58
4 テストの構成	…64
5 テストの方法	…65
6 正誤の判定基準と記録のとり方	…65
7 各テストの実施要領	…66

8	記録用紙	70
第4節	言語生活アンケート調査	94
第5節	被験者と特性	99
第3章 反応の判定基準		
第1節	性状語	103
第2節	時間・空間語	112
第3節	動詞	124
第4章 結果と考察		
第1節	性状語テスト	129
1	対語テスト	129
2	発語テスト	155
3	基準反応率・系反応率一覧表	173
4	パラメーターの分離テスト	177
5	系列化テスト	186
6	結果に対する考察	193
第2節	時間・空間語テスト	197
1	対語テスト	197
2	発語テスト	231
3	基準反応率・系反応率一覧表	238
4	位置変換(前・後ろ)テスト	240
5	時間判断(前・過ぎ)テスト	244
6	時間判断(けさ・ゆうべ・今夜)テスト	251
7	時間判断(過去・未来)テスト	255
8	時間判断(遠・近)テスト	260
9	結果に対する考察	263
第3節	動詞テスト	267
1	対語テスト	267
2	対文テスト	294
3	対絵テスト	295
4	テストの順序効果	307
5	結果に対する考察	309
6	基準反応率・系反応率一覧表	313
第5章 語彙能力と諸要因との関係		
第1節	性状語能力と諸要因	374
第2節	時間・空間語能力と諸要因	378
第3節	動詞能力と諸要因	383

1 地域	384
2 クラス年齢	390
3 性	391
4 生活年齢	392
第4節 結果に対する考察	395
第6章 まとめ	397

付録資料

1 性状語テスト《手びき》	406
2 性状語テスト《絵図・用具》	415
3 時間・空間語テスト《絵図・用具》	432
4 動詞テスト《絵図》	437
5 被験者の特性《アンケート調査》	452
6 系の成立《図表》	475

第1章 調査の概要

第1節 「就学前児童の言語能力に関する全国調査」について

本報告は、国立国語研究所が特別研究として実施した「就学前児童の言語能力に関する全国調査」（昭和42年度、43年度、44年度）の第3次報告であり、第1次および第2次報告は、それぞれ次の報告書としてすでに公にされている。

- 『幼児の読み書き能力』（国立国語研究所報告45）東京書籍刊 昭和47年3月
- 『幼児の文法能力』（国立国語研究所報告58）東京書籍刊 昭和52年3月

そこで、本報告書『幼児の語彙能力』をこれらに加えることによって、上記課題に対する報告の一応の集成を見ることになる。

さて、「就学前児童の言語能力に関する全国調査」が国立国語研究所で企画された目的は、10および16ページにある年報記事に記されているように、

就学前児童の言語能力の習得の過程および条件を全国的規模で明らかにし、国語問題と国語教育との基礎的資料を提供する。

ことにあったが、われわれはこの調査の必要をとくに4つの問題点から考えた。

- 1) 近年、就学前児童の言語能力の習得過程は、マス・コミの普及によって大きく変化している。
- 2) 就学前児童期は言語形成期として、国語教育上、きわめて大切な時期である。
- 3) 就学年齢引き下げが社会問題化しているが、その中心問題は言語能力の完成の度合いである。
- 4) 就学前児童の言語能力について、各地に部分的調査はあるが、発音・文字・話しことばの全般にわたる全国的な概観は得られていない。

これらについて、若干の問題に触れるならば、本調査が企画されたのは、昭和41年であり、この時期に注目されたのは、テレビを中心とするマス・コミのさまざまな影響が論議されるようになったことである。特にテレビはNHKの「国民生活時間調査」によれば、国民一人平均2時間52分、ラジオは27分、新聞は20分、他の印刷物が31分で、過去5年間に、見る時間が3倍に増し、聞くだけの時間が逆に3分の1に減っていることが指摘されている。このことは、幼児の日常生活にも大きな変化をもたらしていることは当然予測されて、実際463ページに見るように、幼児のテレビ視聴時間は一日平均2時間以上のものが全体の46.0～57.1%と示されている。したがって、昭和28年に登場したテレビは幼児の言語環境を一変させ、とりわけ、幼児の語彙はテレビの影響で急速に増大したのではないかということが考えられた。しかし一方では、語彙の増大といっても、流行語的

な語彙の一時的な増加は認められるにしても、幼児が基本的に習得しなければならぬ語彙の理解は逆に低下しているのではないかとの疑問も提出されていた。われわれが特に語彙力調査を考えたのはこうしたことが問題点にあげられたことによる。

この時期で注目された第2点は、3)に指摘した「就学年齢の引き下げ」の社会問題化である。すなわち、文部省は昭和38年9月、幼稚園教育振興7か年計画を発表して、人間形成の基礎は幼児期にあるから、将来の日本を担うに足る国民の育成をはかるために教育内容を刷新するとともに、すべての幼児が適切な環境のもとに、幼稚園教育を受けられるよう、幼稚園教育の充実と普及とをはかるということで、それ以来一時期を画して幼児教育は脚光を浴びることになった(私幼時報 No. 175による)。そして翌39年は幼稚園教育要領の改訂公布、その40年には幼稚園幼児指導要録の改訂通達、幼稚園教育課程研究推進校の指定が行われた。当時、灘尾元文部大臣の「幼稚園の義務化」に関する発言や、中村元文部大臣の「義務教育10年の発想による学齢5歳に引下げ」に関する発言が、この話題の社会問題化にいつそうの拍車をかけた。

これに対して、われわれは就学年齢の引き下げや義務化の可否の基礎になる言語能力の実態を明らかにする課題に注目した。たとえば、集団生活に適應できるか否かを考えるにあたっては、集団内での言語による一定のコミュニケーション能力が習得されている必要があるし、学齢引き下げの根拠になっている幼児の発達加速度現象にしても、特に言語能力の習得からどのように確認できるかを検討する必要があると考えた。われわれが幼児の読み書き能力調査を他の調査にさきがけて昭和42年度に実施したのは、こうした社会問題化に早急に答える必要を感じたためであり、その結果、現代の幼児は15年前の幼児に比較して、文字を読む能力は1年半の早期習得が認められたことを『幼児の読み書き能力』の中で報告した。

また、2)に指摘した言語形成期の問題は、つとに周知されてきたことであるが、特に国語教育との関連が注目されるようになったところに特徴があり、それは、3)の就学年齢引き下げ論議とも関連するところがある。すなわち、従前のように、幼児に対する保育が比較的家庭生活を中心に行われていたのであれば、ことばのしつけは各家庭の問題として扱われるから、幼児の言語発達の問題は主として心理学上の問題としてすまずことができていた。それが幼児の就園率の増大や保育所施設の充実ともなって、幼児に対する保育は家庭から幼稚園、保育所に移行する比重が大きくなってきて、そこに一定の言語指導カリキュラムの確立が要請され、より実践的な資料やより効果的な指導法が求められるようになってきた。さらに、就学年齢引き下げや幼稚園義務化が仮定的に進められるに際して、幼児に対する言語指導カリキュラムが要求され、小学校の国語教育につなぐ、いわゆる「ヘッド・スタート・プログラム」が必要となり、そのために各種の言語能力の実態調査による基礎資料づくりが求められるようになってきた。

最後に、4)の問題点にあげた全国調査の必要性は、特に従来の言語能力調査が部分的な調査にとどまり、必ずしも全国的な実態として認めるに足る資料性を持つものはほとんど見当たらなかった。

そこで、われわれは本調査が将来、経年調査としてふたたび試みられたり、地域による比較調査として試みられたりする際の基本調査となることを意図したので、特にこの点を問題点としてあげることにした。そして、この基本調査の性格は、昭和28年度小学校入学児童の6年間の言語発達を追跡調査した『小学生の言語能力の発達』（国立国語研究所報告26）、また、昭和46年度から3年計画で児童・生徒の文章表現力の実態を調査した『児童の表現力と作文』（国立国語研究所報告63）にも一貫して示されている。

第2節 調査経過の概要

「就学前児童の言語能力に関する全国調査」の調査経過の概要を、特に本報告書でとりあげた語彙力調査を主にし、周辺の関係調査にも触れて述べるならば、次のようになる。これについて、年度別にあげるならば、

昭和42年度 就学前児童の文字力調査

昭和43年度 就学前児童の語彙力調査——A 範疇化 B 性状語 C 時間・空間語 D 動詞分化

昭和44年度 就学前児童の語彙（動詞）、コミュニケーション能力調査

昭和45年度 「就学前児童の文字力調査」の検証・補充調査

昭和46年度～48年度 「就学前児童の文字力調査」の報告書作成、並びに「語彙・文法・コミュニケーション能力調査」の検証・補充調査

である。このうち、語彙力に関する本調査は昭和43年度および44年度にわたるので、その調査経過を両年度の国立国語研究所年報に従って記述する。

なお、既刊の報告書のうち、『幼児の読み書き能力』は上記の調査内容のうち、主として、昭和42年度に本調査を実施した「就学前児童の文字力調査」の報告であり、『幼児の文法能力』は主として、昭和43年度に本調査を実施した「就学前児童の語彙力調査」の中のD動詞分化テストと、昭和44年度に本調査を実施した「就学前児童のコミュニケーション能力調査」の報告である。そして、本報告書は昭和43年度に本調査を実施した「就学前児童の語彙力調査」の中のB性状語、C時間・空間語テストと、昭和44年度に本調査を実施した「就学前児童の語彙力（動詞）調査」を内容にしている。

第1項 昭和43年度 就学前児童の言語能力に関する全国調査

1 目的・意義

幼児、児童、生徒が言語、文字をどのように習得し、どのように使用するか、またその要因はなにか等を明らかにする言語発達の研究は、国語教育、とくに、その教育計画や指導法の確立、改善のために欠くことのできぬ基礎的な仕事として重視されなければならない。本調査は3年計画で就学前児童の言語能力の習得の過程および条件を全国的規模で明らかにしようとするものであり、本年度はその第2年次として、就学前児童の語彙力調査を行った。

2 担当者

本調査に関する計画立案、実施は、国語教育研究室の村石昭三、天野清の2名が担当し、福田昭子がこの作業を助けた。さらに調査の諸段階でテスト作成専門員(5名)、準備および前調査幼稚園(3園)、本調査幼稚園(30園)、調査員(30名)、実験協力園(2園)の協力を得た。

3 これまでの経過

「就学前児童の言語能力に関する全国調査」は昭和42年度よりはじまる。すなわち、第1年次は「就学前児童の文字力調査」として、次の調査を主に行った。

〔調査1〕読み書き水準調査——就学前児童の文字力の全国的水準を明らかにするために、平がな、清音、撥音、濁音、半濁音の読み書きテスト、拗音、長音、拗長音、促音および助詞「は」「へ」の読みテストを、東京、東北、近畿の3地方の全幼稚園から層別抽出した122幼稚園、2,235名（4・5歳児クラス）について行った。また、幼稚園、家庭に対してアンケート調査を行った。

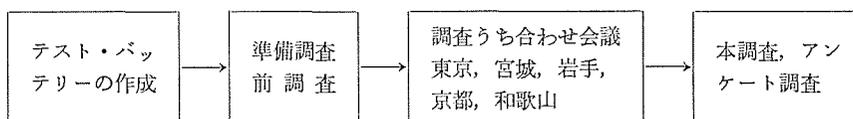
〔調査2〕特定幼児の文字調査——就学前児童がどの程度の範囲の文字をどれだけ読み書きできるかを、平がな、片かな、アルファベット、数字にわたり、全国の特定18幼稚園の幼児72名（4・5歳児クラス）について追跡調査した。

4 本年度の作業

〔調査概要〕就学前児童の語彙力調査「2年計画 第1年次」

東京、東北（宮城・岩手）、近畿（京都、和歌山）の各地方の幼稚園から抽出した延べ30園918名の就学前児童（4・5歳児クラス）を対象に基本的な語の理解水準をテスト法によって明らかにした。いっぽう、被調査園、家庭を対象にしたアンケート調査から、就学前児童の言語生活に関する実態調査を行った。

〔調査手順〕



〔テスト・バッテリー〕

本調査のテスト・バッテリーは、次の4種から構成した。調査地区と被調査者の人数配分は、次の通りである。

地区		テスト	A 範疇化	B 性状語*	C 時間・空間語*	D 動詞分化
東		京	78	74	80	76
東 北	{	宮 城	75	74		
		岩 手	76	76		
近 畿	{	京 都			79	76
		和 歌 山			77	77

A 範疇化テスト（省略）

* 被調査者数は実際にテストした有効人数であり、調査企画段階の人数とは若干異なる(27ページ参照)。

B 性状語テスト

性状語のうち、視知覚の可能な対象について、その大きさ、高さ等を比較形容する13対26語（句を含む）を選んだ。^{*}

1. 大きい, 小さい 2. 多い, 少ない 3. 太い, 細い 4. 濃い, 薄い^{*}
5. 厚い, 薄い 6. 広い, 狭い 7. 高い, 低い 8. 長い, 短い
9. 深い, 浅い 10. 高い, 安い^{*} 11. 暑い, 寒い^{*} 12. 最も大きい, 最も小さい
13. いちばん大きい, いちばん小さい

(1) 単語・単語の系テスト——性状語を関連した単語（句）・単語の系（対）の中に位置づけて理解しているかを調べた。

(2) 単語・事物の系テスト——性状語をそれぞれが指示する事物と結びつけて理解しているかを、発語、誘導発語、認知の各段階に分け、絵カードを使って調べた。

(3) パラメーターの分離テスト——ホース、手帳、リボン、ブロック積み木の4材料を使い、長さ、太さ、厚さ、大きさ、広さ、高さの各パラメーターが分離できるかを調べた。

(4) 系列化テスト——6種の絵カード（円、コップ、池、りんご、犬、道）各5枚続きを使い、大小、多少、広狭の順序に配列させ、系列化ができるかを調べた。

C 時間・空間語テスト

時間、空間語のうち、幼児の生活のなかで多く使用され、しかも時間、空間語の系をつくるための基本となる11対(系列)、46語を選んだ。^{**}

1. 前, 後（まえ, うしろ／まえ, あと）——先, 後（さき, あと）, 前, 過（まえ, すぎ）
2. 上, 下（うえ, した） 3. たて, よこ, ななめ 4. 外, 中（そと, なか） 5. 左, 右（ひだり, みぎ）
6. 朝, 昼, 夜（あさ, ひる, よる）——朝, 晩（あさ, ばん） 昼, 夜（ひる, よる）
7. 日, 月, 火, 水, 木, 金, 土〈曜日〉 8. 春, 夏, 秋, 冬〈季節〉
9. 一昨日, 昨日, 今日, 明日, 明後日 10. 一昨年, 去年, 今年, 来年, 再来年 11. 今朝, 昨夜, 今夜

(1) 単語・単語の系テスト——時間、空間語を関連した単語・単語の系（対、サークル、シリーズ）の中に位置づけて理解しているかを調べた。

(2) 単語・事物の系テスト——時間、空間語を、それぞれが指示する事物と結びつけて理解しているかを、発語、誘導発語、認知の各水準で絵カードを使って調べた。

(3) 位置変換(前後)テスト——2台の自動車(玩具)の位置変換による前後関係の理解を調べた。

(4) 時間判断テスト——特定の時間語（今朝、昨晚、今夜）について、相互の時間的前後関係が理解されているかを調べた。

* 10, 11および4はそれぞれ7および5の異なる文脈での対関係をもつ語として選んだ。また, 12, 13は最上級をあらわす句形式としてとりあげた。

** 11は6および9の単語の複合によって成立した系列のものであり, (4)時間判断テストの中で扱った。

D 動詞分化テスト（省略）

〔テスト・バッテリーの作成分担〕

テスト・バッテリーは、次の専門員の協力を得て作成した。各テストの責任分担は、次の通りである。

- A 範疇化テスト 天野清,〔専門員〕阿部千春（東京大学大学院）
- B 性状語テスト 村石昭三,〔専門員〕大日方重利（東京教育大学大学院）
- C 時間・空間語テスト 村石昭三,〔専門員〕加藤綾子,大滝ミドリ（東京家政大学助手）
- D 動詞分化テスト 天野清,〔専門員〕小態均（都留文科大学助教授）

〔調査園〕

園名	住所
(東京地区 6 園)	
亀戸幼稚園	東京都江東区亀戸 4-17-3
道灌山幼稚園	東京都荒川区西日暮里 4-7-15
高千穂幼稚園	東京都杉並区大宮町 2-19-1
翼蔭幼稚園	東京都田無市向台町 2-5-1
小川幼稚園	東京都千代田区神田小川町 3-6
まきば幼稚園	東京都板橋区徳丸 2-9-7
(宮城地区 6 園)	
お人形社幼稚園	仙台市北五番丁50
東岡幼稚園	仙台市原町南目字町67
聖和幼稚園	仙台市木ノ下21-5
仲よし幼稚園	仙台市榴ヶ岡21
小さき花幼稚園	仙台市畳屋丁31
東仙台幼稚園	仙台市燕沢字苗代東30-1
(岩手地区 6 園)	
わかば幼稚園	岩手県岩手郡零石町源太堂
おさなご幼稚園	岩手県上閉伊郡大槌町桜木町 2-24
あづま幼稚園	岩手県紫波郡紫波町土館字内川26-1
清心幼稚園	岩手県東磐井郡千厩町千厩字浦51
金ヶ崎聖母幼稚園	岩手県胆沢郡金ヶ崎町表小路 6
摺沢幼稚園	岩手県東磐井郡大東町摺沢字観音堂86
(京都地区 6 園)	
京極幼稚園	京都市上京区塔ノ段藪ノ下町428
明倫幼稚園	京都市中京区室町通錦上ル

待賢幼稚園	京都市上京区猪熊通丸太町下ル
伏見板橋幼稚園	京都市伏見区下板橋町 610
慧日幼稚園	京都市東山区本町15丁目
円山幼稚園	京都市東山区高台寺北門通下河原東入鷺尾町 524

(和歌山地区 6 園)

勝浦幼稚園	和歌山県東牟婁郡那智勝浦町勝浦 342
初島幼稚園	和歌山県有田市初島町浜1769—1
湯浅幼稚園	和歌山県有田郡湯浅町大字湯浅 785
高野山幼稚園	和歌山県伊都郡高野町高野山 356
愛の光幼稚園	和歌山県那賀郡粉河町石町
下津幼稚園	和歌山県海草郡下津町大字下津 477

[調査員^{*}]

(東京地区)

大日方重利 (東教大 大学院生)	加藤 綾子 (東京家政大 助手)
阿部 千春 (東京大 大学院生)	大滝ミドリ (東京家政大 助手)
小熊 均 (都留文科大 助教授)	江川 洋子

(宮城地区)

加藤 正信 (東北大 助教授)	佐藤 淑子 (東北大 大学院生)
加藤 貞子	玉川 公代 (東北大 大学院生)
木村 進 (東北大 大学院生)	

(岩手地区)

坂口 忠 (岩手県教育センター所員)	川村 善衛 (岩手大 専攻科学生)
大沢 博 (岩手大 助教授)	石川 悌司 (岩手大 専攻科学生)
牧野 誠一 (岩手大 学生)	倉島 敬治 (岩手大 助手)
斎藤 義憲 (岩手大 専攻科学生)	

(京都地区)

長田 久男 (京都市教研 所員)	森下 正康 (京都大 大学院生)
井上 福造 (京都市教研 所員)	小林 保太 (京都大 大学院生)
堀内 太郎 (京都市教研 所員)	中嶋 順子 (京都大 大学院生)
山田 典男 (京都市教研 所員)	

(和歌山地区)

杉原 治 (和歌山県教育研修センター所員)	笹井 佳子 (和歌山大 学生)
-----------------------	-----------------

* 調査員の職名はすべて調査実施時のものである。

関 崎一 (和歌山大 助教授)

田中 隆司 (和歌山大 学生)

島 佐江子 (和歌山大 学生)

〔調査経過〕

- 5月・「就学前児童の言語能力に関する全国調査」のための語彙力テスト作成専門員会議を開いた。
- 6月・語彙力テスト試案（A 範疇化テスト，B 性状語テスト）を完成した。
- 7月・語彙力テスト試案による準備調査を東京・王子保育園，川口・舟戸幼稚園で実施した。
- ・「就学前児童の言語能力に関する全国調査」のための調査園を18幼稚園に委嘱した。
- 8月・語彙力テスト試案（C 時間・空間語テスト D 動詞分化テスト）による準備調査を東京・王子保育園で実施した。
- 9月・語彙力テスト第二次試案（A 範疇化テスト）による準備調査を東京・王子保育園で実施した。
- 10月・「就学前児童の言語能力に関する全国調査」のための被調査園を12幼稚園に委嘱した。
- ・「就学前児童の言語能力に関する全国調査」のための調査員を30名に委嘱した。
 - ・語彙力テスト（A 範疇化テスト，B 性状語テスト）の前調査を栃木県大田原市・ふたば幼稚園，川口・舟戸幼稚園で実施した。
- 11月・語彙力テスト（A 範疇化テスト，B 性状語テスト）のための諸調査票を完成した。
- ・「就学前児童の言語能力に関する全国調査」のための，A・Bテストの実施打ち合わせ会議（東北・東京地方）を調査員，幼稚園代表者と次の3会場で行った。
(宮城地区) 仙台・お人形社幼稚園 (岩手地区) 零石町・わかば幼稚園
(東京地区) 東京・道灌山幼稚園
 - ・東京，東北地方で「就学前児童の言語能力に関する全国調査」を行った。調査期間は11月中旬～12月中旬
- 12月・語彙力テスト（C 時間・空間語テスト，D 動詞分化テスト）の前調査を東京・保善寺幼稚園，川口・舟戸幼稚園で実施した。
- 1月・語彙力テスト（C 時間・空間語テスト，D 動詞分化テスト）のための諸調査票を完成した。
- ・「就学前児童の言語能力に関する全国調査」のための，C・Dテストの実施打ち合わせ会議（近畿・東京地方）を調査員，幼稚園代表者と次の3会場で行った。（京都地区）京都・明倫幼稚園（和歌山地区）湯浅町・湯浅幼稚園（東京地区）東京・高千穂幼稚園
 - ・東京，近畿地方で「就学前児童の言語能力に関する全国調査」を行った。調査期間は1月下旬～2月下旬
- 2月・被調査園30園，被調査者家庭916家庭に対してアンケート調査を行った。
- 3月・特定語に関する実験調査を国立国語研究所で行った。被験者は東京・帝京幼稚園児。

第2項 昭和44年度 就学前児童の言語能力に関する全国調査

1 目的・意義

幼児、児童、生徒が言語、文字をどのように習得し、どのように使用するか、またその要因はなにか等を明らかにする言語発達の研究は、国語教育、とくに、その教育計画や指導法の確立、改善のために欠くことのできぬ基礎的な仕事として重視されなければならない。本調査は3年計画で就学前児童の言語能力の習得の過程および条件を全国的規模で明らかにしようとするものであり、本年度は調査の最終年次として、就学前児童の語彙・コミュニケーション能力調査を行った。

2 担当者

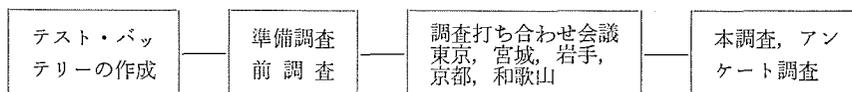
本調査に関する計画立案、実施は、国語教育研究室の村石昭三、天野清の2名が担当し、福田昭子がこの作業を助けた。さらに調査の諸段階でテスト作成専門員(3名)、準備・前調査幼稚園および小学校(1幼稚園、1小学校)、本調査幼稚園(30園)、調査員(34名)、実験協力園(2園)の協力を得た。

3 これまでの経過(省略)

4 本年度の作業

東京、東北(宮城・岩手)、近畿(京都・和歌山)の各地方の幼稚園から抽出した延べ30園、1188名の就学前児童(4・5歳児クラス)を対象に、基本的な動詞の理解水準ならびにコミュニケーションの水準をテスト法によって明らかにした。一方、被調査園、家庭を対象にしたアンケート調査から就学前児童の言語生活、言語指導法に関する実態調査を行った。

〔調査手順〕



〔被調査者数〕

本調査における調査地区と被調査者の人数配分は、次の通りである。

地区	テスト	語彙力テスト*	コミュニケーション能力テスト	
			文の作成・変換	物語の再生・伝達
東 京		153	77	180
東 北	宮 城	164	—	—
	岩 手	165	—	—
近 畿	京 都	161	82	—
	和 歌 山	137	69	—

* 被調査者数は実際にテストした有効人数であり、調査企画段階の人数とは若干異なる(11ページ参照)。

調査1 就学前児童の語彙（動詞）力調査

〔動詞の選定〕

基本的な動詞，220語を中心に理解の水準をテスト法によって明らかにした。各動詞は，日本語の動詞のうち，幼児の生活のなかでよく使用され，しかも将来，幼児が日本語の動詞の系をつくりあげるための基本となる単語という観点から選んだ。選定に先だって，次の各種の資料により共通度の高い語をまず抽出した。

- ・特定幼児の表現語彙集
- ・文部省『児童，生徒の語彙力の調査(低学年)』
- ・国際文化振興会『日本語基本語彙』
- ・阪本一郎『教育基本語彙』
- ・国立国語研究所『現代雑誌九十種の用語用字』

その上で，さらに次の選択基準を設けて，220語を確定した。①複合語はのぞく（例：追いかける）。②敬語動詞はのぞく（例：いらっしゃる）。③俗語はのぞく（例：食う）。④自動詞・他動詞は絵になりやすいもの，対の系が明白なものを優先する。⑤使役，可能，受身動詞は基本形で提出する。⑥多義語は基本的な意味で提出する。ただし，系の成立の関係で，上記の基準にかかわらず選ばれたものもある。たとえば，21（受け取る）は複合語であるが，7（預ける）の対語として提出してあるなど。

（語彙表）

*印の単語は2回以上提出してあることを示す。（ ）内のは単純の動詞以外のもので形容詞や連語形式のものなど。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|---------------------------|
| ・ 1 会う | * 2 上がる | ・ 3 明ける | * 4 開ける |
| * 5 上げる | ・ 6 揚げる | ・ 7 預ける | ・ 8 与える |
| ・ 9 暖める | ・ 10 当たる | ・ 11 集める | ・ 12 余る |
| ・ 13 編む | ・ 14 謝る | ・ 15 洗う | ・ 16 ある |
| * 17 歩く | ・ 18 いじめる | ・ 19 入れる | ・ 20 浮かぶ |
| ・ 21 受け取る | ・ 22 受ける | ・ 23 動かす | ・ 24 歌う |
| * 25 打つ | ・ 26 奪う | ・ 27 生まれる | ・ 28 埋める |
| ・ 29 売る | ・ 30 追う | ・ 31 起きる | ・ 32 置く |
| ・ 33 送る | ・ 34 遅れる | * 35 起こす | ・ 36 怒る <small>おこ</small> |
| ・ 37 押さえる | * 38 教える | ・ 39 押す | ・ 40 落ちる |
| ・ 41 落とす | ・ 42 踊る | ・ 43 (同じ) | ・ 44 おぼれる |
| * 45 降りる | ・ 46 折る | * 47 降ろす | ・ 48 終わる |
| ・ 49 買う | ・ 50 帰る | ・ 51 罹る | * 52 書く |

- 53 隠れる
- 57 勝つ
- 61 枯れる
- 65 聞く
- 69 切れる
- *73 消す
- 77 転ぶ
- *81 さす(差・刺)
- 85 茂る
- 89 縛る
- 93 閉める
- 97 空く
- 101 背負う
- 105 倒す
- *109 たたく
- 113 (足りない)
- 117 散る
- 121 続く
- 125 つぶる
- 129 出る
- 133 届ける
- 137 止める
- 141 治る
- *145 なでる
- 149 並べる
- 153 煮る
- 157 濡れる
- *161 延ばす
- 165 履く
- *169 外す
- *173 離す
- *177 貼る
- *181 拾う
- *54 掛ける
- 58 担ぐ
- 62 かわいがる
- 66 切る
- 70 来る
- 74 答える
- 78 壊す
- 82 騒ぐ
- 86 (静かにする)
- *90 しぼむ
- 94 締める
- 98 進む
- 102 狭まる
- *106 出す
- *110 畳む
- 114 違う
- 118 つかまえる
- 122 包む
- 126 つぼめる
- *130 解く
- 134 飛ぶ
- 138 取る
- 142 泣く
- 146 なめる
- *150 逃がす
- *154 抜く
- 158 寝かす
- 162 登る
- 166 吐く
- 170 外れる
- *174 離れる
- 178 引く
- 182 広がる
- 55 駆ける
- 59 悲しむ
- 63 乾く
- 67 着る
- 71 暮れる
- 75 混む
- *79 咲く
- *83 しかる
- 87 沈む
- 91 絞る
- 95 知る
- 99 捨てる
- 103 攻める
- 107 助かる
- 111 立つ
- 115 縮める
- *119 つく(点・着)
- 123 つながら
- 127 積む
- 131 溶ける
- 135 跳ぶ
- 139 (ない)
- 143 殴る
- 147 習う
- 151 握る
- *155 脱ぐ
- 159 寝る
- *163 乗る
- 167 始まる
- 171 話す
- 175 はめる
- 179 弾く
- 183 広げる
- 56 固まる
- 60 かぶる
- 64 消える
- 68 (奇麗になる)
- 72 加える
- 76 殺す
- 80 下げる
- 84 敷く
- 88 死ぬ
- *92 仕舞う
- 96 吸う
- 100 座る
- 104 反らす
- 108 尋ねる
- 112 食べる
- 116 散らかす
- 120 付ける
- *124 つなぐ
- 128 出かける
- 132 閉じる
- *136 止まる
- 140 直す
- *144 投げる
- 148 鳴らす
- 152 逃げる
- 156 塗る
- 160 乗せる
- 164 入る
- 168 走る
- 172 放す
- 176 払う
- 180 冷やす
- 184 拭く

- | | | | |
|----------|-----------|----------|----------|
| ・185 吹く | *186 ふくらむ | ・187 太る | ・188 増やす |
| ・189 降る | *190 減らす | ・191 干す | ・192 ほどく |
| ・193 ほめる | ・194 掘る | ・195 巻く | ・196 負ける |
| *197 曲げる | ・198 混ぜる | ・199 守る | ・200 見える |
| ・201 迎える | ・202 結ぶ | ・203 燃す | ・204 戻る |
| *205 もらう | ・206 焼く | ・207 やせる | ・208 破る |
| ・209 止む | ・210 やる | *211 行く | ・212 汚れる |
| ・213 寄せる | ・214 読む | ・215 喜ぶ | ・216 沸かす |
| *217 別れる | ・218 分ける | ・219 忘れる | ・220 笑う |

[テストの構成]

テスト語彙、220語の動詞を均等に4群に分け、各被調査者は各1群につき、約30～40分の調査時間をかけて、対語、対文^{*}、対絵^{*}の各テストを受けた。

- (A) 対語テスト——動詞に関連した単語・単語の系の中で位置づけて理解しているかを調べる。
 全語（4対10語ないし13語）^{*}について行い、反応が基準語以外の語（○, ×, ×）の場合はその語を登録し、新しい語反応が出なくなるまでテストをくりかえす。

例：ツクの反対は？ 答。キエル^{*}の反対は？ 答

- (B) 対文テスト——動詞に関連した文・文の系の中で位置づけて理解しているかを調べる。
 全文（6対12文ないし18文）^{*}について行い、反応が基準語以外の語（○, ×, ×）の場合はその語を含む文を登録し、新しい語反応が出なくなるまでテストをくりかえす。

例：あかりがツクの反対は、あかりが？ 答。あかりがキエルの反対は、あかりが？ 答。

- (C) 対絵テスト——動詞をそれが指示する事象（絵図）と結びつけて理解しているかを調べる。

1. 発語 全絵（35対70絵）^{**}について行い、必要な動詞を自発的に言わせる。

例：（バスに乗り降りしている二つの絵を示しながら）「こっちは男の人がバスに[?]、こっちは男の人がバスから[?]。

2. 誘導発語 発語テストのうち、基準語反応（○）を除く他のすべての語について、対の絵動詞を誘導しながら言わせる。

例：（上記の例で[?]が言えなかった場合、二つの絵を示しながら）こっちは男の人がバスからオリルところでしょう。だから、こっちは男の人がバスに[?]。

3. 語認知 誘導発語テストのうち、基準語反応（○）を除く他のすべての語について、対の絵動詞を含む当該ページを提示しながら、必要な絵図を指示させる。

* 対文・対絵にはそれぞれ対関係をあらわす文および絵が配してある。

** それぞれ単一の群の中における語数、文数、絵図数を示す。

例：（上記の例で「ノル」が言えなかった場合、その絵動詞を含む当該ページを提示しながら）これらの絵の中で、何かにノルところの絵はどれでしょう。指でさしてください。

調査2 就学前児童のコミュニケーション能力調査（省略）

〔テストの作成分担〕

各テストの作成に際しての、責任分担および専門員の協力は、次の通りである。

調査1 就学前児童の語彙力調査 村石昭三，〔専門員〕大日方重利（東京教育大学大学院），
高木和子（東京教育大学大学院）

調査2 就学前児童のコミュニケーション能力調査 天野 清，〔専門員〕牛島めぐみ（東京教育
大学大学院）

〔被調査園〕

園 名	住 所
（東京地区 6 園）	
亀戸幼稚園	東京都江東区亀戸 4-17-3
道灌山幼稚園	東京都荒川区西日暮里 4-7-15
九段幼稚園	東京都千代田区三番町16-1
ほぜんじ幼稚園	東京都中野区上高田 1-31-2
翼蔭幼稚園	東京都田無市向台町 2-5-1
まきば幼稚園	東京都板橋区徳丸 2-9-7
（宮城地区 6 園）	
お人形社幼稚園	仙台市北五番丁50
東岡幼稚園	仙台市原町南日字町67
聖和幼稚園	仙台市木ノ下21-5
仲よし幼稚園	仙台市榴ヶ岡21
小さき花幼稚園	仙台市畳屋丁31
東仙台幼稚園	仙台市燕沢字苗代東30-1
（岩手地区 6 園）	
わかば幼稚園	岩手県岩手郡雫石町源太堂
おさなご幼稚園	岩手県上閉伊郡大槌町桜木町 2-24
あづま幼稚園	岩手県紫波郡紫波町土館字内川26-1
清心幼稚園	岩手県東磐井郡千厩町千厩字浦51
金ヶ崎聖母幼稚園	岩手県胆沢郡金ヶ崎町表小路 6
摺沢幼稚園	岩手県東磐井郡大東町摺沢字観音堂86

(京都地区 6 園)

京極幼稚園	京都市上京区塔ノ段葎ノ下町 428
明倫幼稚園	京都市中京区室町通錦上ル
待賢幼稚園	京都市上京区猪熊通丸太町下ル
伏見板橋幼稚園	京都市伏見区下板橋町 610
慧日幼稚園	京都市東山区本町15丁目
円山幼稚園	京都市東山区高台寺北門通下河原東入鷺尾町 524

(和歌山地区 6 園)

湯浅幼稚園	和歌山県有田郡湯浅町大字湯浅 785
愛の光幼稚園	和歌山県那賀郡粉河町石町
下津幼稚園	和歌山県海草郡下津町大字下津 477
印南幼稚園	和歌山県日高郡印南町印南
慈光幼稚園	和歌山県西牟婁郡串本町串本 836
南部幼稚園	和歌山県日高郡南部町芝松原

〔調査員〕

(東京地区)

青木 剛士 (東教大 大学院生)	片山美津子 (東教大 大学院生)
新井邦二郎 (東教大 大学院生)	三津山柁江 (東教大 大学院生)
内野康人之 (東教大 大学院生)	江川 洋子 (東京・豊島区教育委員会嘱託)
小林 幸子 (東教大 大学院生)	

(宮城地区)

高橋 巖 (聖和短大 助教授)	木村 進 (東北大 大学院生)
内海 瞭子 (聖和短大 助教授)	佐藤 淑子 (東北大 大学院生)
永瀬 治郎 (東北大 大学院生)	玉川 公代 (東北大 大学院生)

(岩手地区)

坂口 忠 (宮古市教育委員会)	牧野 誠一 (岩手大 専攻科学生)
大沢 博 (岩手大 助教授)	大日方重利 (東教大 大学院生)
倉島 敬治 (岩手大 講師)	高木 和子 (東教大 大学院生)

(京都地区)

長田 久男 (京都市教研 所員)	本田 勇 (京都市教研 所員)
山田 典男 (京都市教研 所員)	駒田 朋子 (京都大 大学院生)
磯島 良夫 (京都市教研 所員)	寺田ひろ子 (京都大 大学院生)
吉岡 克己 (京都市教研 所員)	塹江 光子 (京都大 研修員)

(和歌山地区)

関 崎一 (和歌山大 助教授)	小薮 晴美 (和歌山大 学生)
桜井 義則 (和歌山大 学生)	武本 節子 (和歌山大 学生)
谷口 真一 (和歌山大 学生)	南館 忠智 (三重大 助教授)
神徳 広美 (和歌山大 学生)	

〔調査経過〕

- 5月・「就学前児童の言語能力に関する全国調査」のための語彙・コミュニケーション能力調査の作成専門員会議を開いた。
- 6月・コミュニケーション能力調査（文の作成・変換）の準備調査を、東京・王子保育園で実施した。
- ・語彙力（動詞）テスト試案を完成した。
- 7月・語彙力テスト試案による準備調査を東京・王子保育園，埼玉・川口南幼稚園で実施した。
- ・特定語に関する実験調査を国立国語研究所で行った。被験者は東京・帝京幼稚園児。
- 8月・語彙力テストのための動詞カードを作成した。
- 9月・「就学前児童の言語能力に関する全国調査」のための被調査園を30幼稚園に委嘱した。
- 10月・「就学前児童の言語能力に関する全国調査」のための調査員を34名に委嘱した。
- ・語彙力テスト第2次試案による準備調査を東京・西原小学校で実施した。
- 11月・語彙・コミュニケーション能力調査の前調査を，東京・王子保育園，埼玉・川口南幼稚園で実施した。
- 12月・「就学前児童の言語能力に関する全国調査」のための被調査者を抽出した。
- 1月・語彙・コミュニケーション能力調査のための諸調査票を完成した。
- ・「就学前児童の言語能力に関する全国調査」のための実施打ち合わせ会議を調査員・幼稚園代表者と次の5会場で行った。
(東京地区) 東京・まきば幼稚園，(京都地区) 京都・明倫幼稚園，(和歌山地区) 和歌山・湯浅幼稚園，(宮城地区) 仙台・東岡幼稚園，(岩手地区) 盛岡・青山幼稚園
 - ・「就学前児童の言語能力に関する全国調査」の本調査を実施した。(1月下旬～2月下旬)
- 3月・被調査園30園，被調査者家庭1,008家庭に対してアンケート調査を行った。
- ・特定語に関する実験調査を国立国語研究所で行った。被験者は東京・帝京幼稚園児。

第3節 「就学前児童の語彙力調査」について

第1項 理解の水準

昭和42年度に本調査を実施した「就学前児童の文字力調査」では、幼稚園に通う4、5歳児クラスの児童がどれだけの読み書き能力を持っているかを全国的な水準で明らかにすることを目的にしたものであり、いわば、どれだけの量の文字が読み書きできるかという意味の「全国的な水準」を得ることにあった。これに対して、「就学前児童の語彙力調査」では、現代の幼児は語彙に関するどのような「理解の水準」に達しているかを明らかにすることにあった。文字力調査のような量的な水準を求めるのではなくて、質的な水準を求めることを目的とした。

もっとも、語彙力調査の企画段階では、現代の幼児がどれだけの語彙量を持つかの調査も意図しないわけではなかった。特にテレビによる幼児の言語生活の変化は、幼児の語彙量を著しく増大させているのではないかという判断を確かめるには、語彙量の調査が必要であると考えられたが、当時、この期待にこたえられるだけの科学的にして必要十分な調査法を準備できるまでには必ずしも至らなかった。そして、これを消極的な理由とするならば、むしろ積極的な理由として、現代の幼児は量的にはともかくも、どれだけ正確に語の意味を把握しているか。テレビ文化の浸透によって、果たして基本的な語の、基本的な意味は確実に把握できているかの危惧に答える語彙理解の調査の方を優先すべきであると判断したことがあげられる。

このため、語彙力調査の対象とする語彙は性状語、時間・空間語および動詞に関する基本的な語に限ることにし、かつ、被験者数では1語当たり200名程度を期待し、かつ、東北、東京、近畿地区という、比較的広領域を対象とすることによって、本調査の意図を満たしうるようにした。

さて、語の理解の水準を明らかにするという目的で、その調査内容を考えるために、昭和41年度から準備調査を試みるうちに、調査内容の基礎になるヒントを得ることができた。

日本語の単語の中には、反対語、系列語、多義語などの関係で結び合っている単語の群があるが、そのうち、反対語について、3、4歳の幼児に〈大きい〉の反対は何ですかと尋ねると、〈大きくない〉と答え、逆に〈小さい〉の反対は何ですかと尋ねると、〈小さくない〉という答えが返ってくる。では幼児たちは〈大きい〉、〈小さい〉という単語は知らないのかというところではない。次にその幼児たちに絵(大きい犬と小さい犬)を見せて、その特徴を言わせると、〈大きい〉〈小さい〉ということばで答えられるものがある。さらに、絵を呈示しても正反応を示さない幼児には、大きい犬、小さい犬を指示させれば、たいいていのものは正しく指示することができるのである。

そして、5歳以後の幼児になると、はっきりと反応が〈大きい〉〈小さい〉を反対関係の単語として答えるのが顕著になってくる。そこで3、4歳までは反対の関係は、

大きい——大きくない

小さい——小さくない

ということばの結びつきで成立し、5歳以後、

大きい——小さい

が意味的に整理されていくと考えられ、それらの違いは言語習得の上でどう位置づけられるかを問題にする必要があると考えられた。

ところで、以前からあった理解の水準の見方としては、理解語・表現語という2分法があった。理解はできていても表現にまで及ばぬ段階とか、理解もしているし表現もできる段階とか、また別な見方では、流行語のように、自由に発語はするが理解がともなわぬというものもあると考えられてきた。そこで上述の結果と対照させれば、上述の「大きい」「小さい」の諸反応のうち、絵を指示させるのは語認知だから理解の方に入るし、絵を比較して発語するのは表現の方に入るから、ここまでは問題はない。しかし、「大きい」「小さい」が理解も表現もできるのに、「大きい」の反対語の結びつきを「大きくない」としているのはどう判断するか。

もともと、理解語とは耳で聞いて対象の事物との結びつきができていない語であり、表現語の方は幼児が口に出して言った語であるから、理解語・表現語の名称およびそれに対応する調査法は語の使用の現象、操作を説明するにはよいけれども、理解の深まり、水準を取りだす用語としては不十分であるし、それに対応した調査法も適切とはいえない。こうしてわれわれは、理解の水準に言語・言語の次元、言語・事物の次元、そして事物・事物の次元を設け、それぞれに系の構造を内包させて水準を考えた。

第2項 言語の系

「大きい」に対することばは「大きくない」であるとするのは、幼児なりにつくった対語的なことばのまとめ方である。ことばを使って意思を通じる成人には、成人の使うことばの系（システム）があるように、幼児にも成人と違ったことばの系（システム）が、低年齢から存在していると考えられることができる。

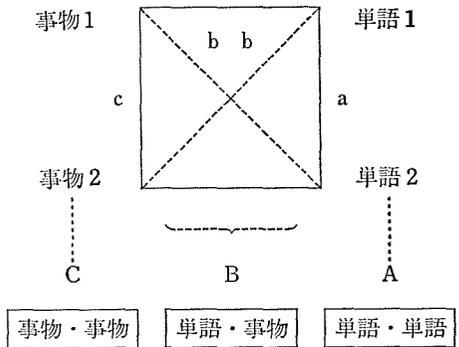
では、語の理解の水準を明らかにするための調査として、どの面が対象になるかを考えるならば、次の3つの系を取りだすことができる。

- A 単語・単語の系
- B 単語・事物の系
- C 事物・事物の系

例として、上述の「大きい」「小さい」をあげよう。ある事物としての「大きい犬」に対して、「大きい」という語が正しく答えられるし、もちろん「大きい犬はどれですか」と尋ねられて、正しくその犬を指摘することができるのであれば、事物と単語の結びつきができていないことになる(B)。

次に事物と単語の結びつきはもちろんできている上に、1-3-1 図 言語の系

「大きい」は「小さい」に対することばであり、「小さい」は「大きい」に対することばであるという単語間の意味の整理ができてい（大きい—大きくないでもかまわない）ならば、そのかぎりでも単語相互の意味の系ができていことになる(A)。さらに、単語がさす事物相互のかかわりとして、何枚かの大きさの絵をどのように並べても、一定の「大きい」「小さい」の知覚上の判断ができていというのであれば、事物相互の結びつきができていことになる(C)。



こうして、これら3つの面を総称して、「言語の系」と呼ぶことができるであろうと考えた。これを簡単に図示すると1—3—1図のようになる。

そこで、A単語・単語、B単語・事物、C事物・事物の各言語の系に関する調査で、どんな研究対象が設定されるか。まず、A単語・単語の系について考えれば、

- 範疇語 $a(b \cdot c)$ 例：動物（うさぎ・ねこ）
- 類義語 $a=b=c$ 例：なおす=修理=修繕
- 反対語 a/b 例：明るい/暗い
- 同族語 $(a \cdot b \cdot c)$ 例：山・丘・森・林
- 同音語 $a=a_1 \cdot a_2$ 例：はし=端・箸
- 複合語 $a+b=ab$ 例：飛ぶ+付く=飛び付く
- 多義語 $a \rightarrow a_1 \cdot a_2 \cdot a_3$ 例：日が上がる・値段が上がる・位が上がる

などが取り出される。このうち、本調査では、性状語、時間・空間語および動詞を取り扱ったので、これらを一定の一方法で処理できる方法として反対語関係で対語を構成し、テストすることが適当であると判断した。

次に、B単語・事物の系について考えれば、たとえば、

- 語彙量・範囲の拡大 $a + b + c$ 例：名詞→動詞→形容詞などの語彙量・範囲の拡大に関する調査。
- 名づけのルール $a = A, a \neq B$ 例：助数詞調査などに見られるような、動物に対して、匹と呼称する動物と、匹といわず頭と呼称する動物など、名づけのルールに関する調査。
- 名発生の系統性 $a \begin{cases} b \{ \\ c \{ \end{cases}$ 例：鳴らす $\begin{cases} \text{(笛を)吹く} \\ \text{(ピアノを)弾く} \end{cases}$ のような、概括的な名づけから、個々の事物に即した名づけへの分化過程の調査。

* $a(b \cdot c)$ 等は一定の単語あるいは事物関係を記号化して示したものである。

- 特殊・一般 a「A」→A 例：山＝「富士山」→山一般のような、特殊から一般化に関する調査。
- 場の使い分け $a_1=A_1 \cdot a_2=A_2$ 例：おはよう・おはようございますのあいさつに見られるような、語使用の適切性に関する調査。

などがあり、従来、われわれはこれらに関するいくつかの調査を手がけてきた。たとえば、「就学前児童の言語能力に関する全国調査」でも、名発生の系統性に関する調査は、「動詞分化テスト」(13ページ参照)として実施し、特殊・一般に関する調査は「範疇化テスト」(11ページ参照)として実施し、また名づけのルールに関する調査も、助数詞調査として、準備調査で試みてきた。そこで本調査では、それらの諸調査の重要性を認めながらも、それらとの重複を避けること。しかもより重要なことは、A単語・単語の系に関する調査と単語・事物の系に関する調査とを関連させることにあった。そこで、調査対象をA単語・単語の系のそれと同一の性状語、時間・空間語および動詞に置き、4～5水準を設定し、そこでの理解の程度を明らかにすることにした。ここでいう各水準テストとは、次の通りである。

対語テスト 単語と単語との対関係の理解の水準を調べるテスト

対文テスト^{*} 簡単な文脈の中で、単語と単語との対関係の理解の水準を調べるテスト

発語テスト 簡単な事物(絵)を呈示し、対語の事物関係との理解の水準を調べるテスト

誘発(誘導発語)テスト 簡単な事物(絵)と、対語の一方を呈示し、残る一方を誘発して事物関係との理解の水準を調べるテスト

認知テスト 対語の一方を呈示し、それが意味する事物(絵)の理解の水準を調べるテスト

とし、対語テストは、より基底にある言語水準でのテスト、認知テストは、言語・事物の水準の中でも最も表層にある理解のテストと位置づけることにした。

最後に、C事物・事物の系の理解調査では、従来、心理学では種々の思考・学習実験が試みられ、J. piagetの保存に関する一連の諸実験などが知られており、われわれの本調査で実施した性状語調査と対象が深く関連する面がある。このため、本調査では性状語調査の中で、パラメーターの分離テストおよび系列化テストをあげた。しかし、C事物・事物の系での調査に集中することは本調査の主旨ではないので、主調査に関与する範囲内にとどめることにした。

なお、本調査が計画・実施された1968年以後、世界的にはようやく、次元形容詞を対象にした意味の構造化に関する研究が活発になってきたときであり、その点では本調査はそれらにやや早まる形で着手されたが、本調査の研究目的は上述したように、日本の就学前児童の語彙能力の実態を一定の理解水準に依拠したテスト法で明らかにすることにあつたので、外国の意味研究の目的とは必ずしも同一でないことを記しておく。

* 対文テストは動詞に関する調査にだけ実施し、性状語、時間・空間語の調査では含めなかった。動詞の場合が他に比較して最も文脈構成に適していたからである。

第2章 調査の実施手続き

第1節 性状語調査

性状語調査を実施するため、次の内容を含む手引書が作成された。なお、手引書の性格上、文体は敬体で統一した。

第1項 調査の概要

この調査は、東北（宮城・岩手）、東京、近畿（京都、和歌山）の各地域の幼稚園から抽出した約900名（30園）の就学前児童（4歳児・5歳児クラス）を対象に、基本的な語の理解の特徴をテスト法によって明らかにします。一方、幼稚園、家庭を対象にしたアンケート調査から、幼児の言語生活に関する実態をさぐります。

第2項 本テストの構成

本年度に行うテスト・バッテリーは、次の4領域から構成されています。調査地域と被調査者の人数配分は、次の通りです。

地域 \ テスト	A 範疇化	B 性状語	C 時間・空間語	D 意味分化
東京	75	75	75	75
東北	宮城	75		
	岩手	75		
近畿	京都		75	75
	和歌山		75	75

ここで説明する内容は、上記のなかのB性状語テストです。

第3項 性状語テストの構成

性状語のうち、視覚覚の可能な対象について、その対象の大きさ、高さ等を比較形容する形容詞から構成されています。

1. 大きい・小さい
2. 多い・少ない
3. 太い・細い

4. 濃い・薄い 5. 厚い・薄い 6. 広い・狭い
 7. 高い・低い 8. 長い・短い 9. 深い・浅い
 10. 高い・安い^{*} 11. 暑い・寒い^{*} 12. 最も大きい・最も小さい
 13. いちばん大きい・いちばん小さい

上記の各性状語を次の6側面からテストして、理解の特徴を明らかにし、就学前段階での理解水準を問題にします。

テストⅠ 単語・単語の系(反対語) 全語(13対26語)について行う。

テストⅠ補 テストⅠで○×× 反応の語は補充欄にその語を登録し、新しい語形式反応が出なくなるまでテストをくりかえす。

テストⅡ 発語 全語(16対32語)について行う。

テストⅢ 誘導発語 テストⅡのうち、正反応(○)をのぞく全語について行う。

テストⅣ 認知 テストⅢのうち正反応(○)をのぞく全語について行う。

テストⅤ パラメーターの分離 4材料について行う。

テストⅥ 系列化 6種のカードについて行う。

第4項 テストの方法

1 個別テスト

所定のテスト用具(テストⅡ～Ⅳ、Ⅵではカード、テストⅤではホース、手帳、リボン、ブロック積み木)を使い、幼児一人ずつ個別にテストをします。

2 所要時間

時間制限はありませんが、大体、テストⅠ～Ⅵ全体に要する時間は40～50分です。4歳児クラスの方が5歳児クラスより、また誤反応の多いものは若干、時間がかかります。幼児がテストを放棄しないよう、適宜、気分転換を工夫してください。

第5項 正誤の判定基準と記録のとり方

1 判定基準

記号 テスト	○	○	×	×	N
I	当該の基準的な語形式による反応(幼児音を含む)	当該の基準的な語形式以外の慣用な反応(幼児語・方言を含む)	意味の上では正しいが「～+ナイ」形式による反応	意味に誤りのある反応	無答(知らないを含む)

* 10, 11および4はそれぞれ、7および5の異なる文脈での反対語関係をもつ形容詞としてあげました。また、12, 13は最上級をあらわす表現形式としてとりあげました。

** ○, ○, ×, ×およびNの判定基準段階は第1次基準であり、最終的には14段階に細分されました(103ページ参照)。

Ⅱ	上に同じ	上に同じ	上に同じ	上に同じ	上に同じ
Ⅲ	上に同じ	上に同じ	上に同じ	上に同じ	上に同じ
Ⅳ	正しい指摘			誤った指摘	上に同じ
Ⅴ	正しい抽出	不完全な抽出*		誤った抽出	上に同じ
Ⅵ	正しい配列			誤った配列	上に同じ

幼児の反応に対する一応の判定基準を示したものです。テスト I に関しては、具体例でもって後述してあります。

2 記録のとり方

(1) 調査員は幼児に問いかけながら、次のことを記録しておいてください。

1. 幼児の反応を→反応欄に記入
2. その反応の正誤を→記号で正誤欄に記入

ただし、2についてはその最終的な判定は国立国語研究所が行いますから、判定に迷う場合には記入しなくても結構です。ただし、幼児の反応だけは忠実に記録しておいてください。

(2) 幼児の反応はすべてのテストの場合、反応欄に正確に 片カナ で記入していただきますが、幼児音で反応した場合（大きい→オーチイ）はその幼児音のまま片カナ表記をしてください。そして、正誤の判定が明白な場合には、正誤欄に記号を書きいれてください。

ただし、反応が正反応（基準的な語形式による反応）であれば、正誤欄に○と書くのみで、必ずしも反応欄に記入する必要はありません。

3 記録用紙

記録票 2枚

テストの前後に、2枚の記録票について、園名・幼児名・調査日・調査者氏名をお忘れなく記入してください。

その他の事項は、テストが終了後に園側の協力を得て記録票を完成してください。

第6項 各テストの実施要領

テスト1 単語・単語の系(反対語)

(1) 刺激語および反応語に対する正誤判定

刺激語	正誤				N	刺激語	正誤
	○	○	×	×			
1. 大きい	チ イ サ イ チ ッ サ イ チ ッ チャ イ	チ ン コ イ	オ オ キ ク ナ イ	ス ク ナ イ		1' 小さい	
2. 多い	ス ク ナ イ	ス コ シ チ ッ ト	オ オ ク ナ イ	タ ク サ ン		2' 少ない	

* 2～3個の抽出が可能なのに、1個の抽出しか行わなかった場合、誤った抽出が混合した場合は×となる。

3. 太	い	ホ	ソ	イ	ホ	ソ	ッ	コ	イ	フ	ト	ク	ナ	イ	ホ	ソ	ナ	ガ	ッ	ポ	イ	3'	細	い								
4. 最も大きい		モ	ト	モ	チ	イ	サイ	イ	チ	バ	ン	チ	イ	サイ	モ	ト	モ	オ	オ	キ	ク	ナ	イ	モ	ト	モ	タ	カ	イ	4'	最も小さい	
5. 濃	い	ウ		ス		イ		ウ	ス	ッ	ポ		イ	コ	ク		ナ		イ	≡	ワ		イ						5'	淡	い	
6. 高	い						(省略)	ヤ	ス	ッ	ポ		イ	タ	カ	ク		ナ		イ	ヒ	ク		イ					6'	安	い	
7. いちばん多い							(＃)	イ	チ	バ	ン	ス	コ	シ	イ	チ	バ	ン	オ	オ	ク	ナ	イ	ス	ク					7'	いちばん少ない	
8. 厚*	い						(＃)	ウ	ス	ッ	パ	ラ	イ	ア	ツ	ク		ナ		イ	サ	ム		イ						8'	狭	い
9. 広	い						(＃)						(省略)	ヒ	ロ	ク		ナ		イ	セ	マ	ッ	ク	ル	シ	イ		9'	狭	い	
10. 高	い						(＃)						(＃)	タ	カ	ク		ナ		イ	ヤ	ス		イ					10'	低	い	
11. 暑	い						(＃)						(省略)							ウ	ス		イ						11'	寒	い	
12. 長	い						(＃)						(＃)											(省略)					12'	短	い	
13. 深	い						(＃)						(＃)											(＃)					13'	浅	い	

(2) 教示と実施手順

(ア) 教示

テスト導入のために、現物の石とボールを持たせて、「これは石、これはボールです。さわってごらん下さい。どっちがかたいでしょうか。(答を待つ。かならずしも口答で答えなくてもよい。)

石の方がかたいね。では、こっちのボールはどうなんでしょう。(答を待つ)。ボールはやわらかいね。だから、かたいの反対は？(答を待つ)。そう、かたいの反対はやわらかいですね。また、やわらかいの反対はかたいですね。では、これから先生がいろんなことばを言いますから、反対のことばを言ってください。」

「はい、では、オオキイの反対は？(答を待つ)。では次に進みます。オオイの反対は？……(以下同じ)」

(イ) 呈示順序(上記一覧表参照)

1. 大きい→13 深い→1' 小さい→13' 浅い→(補充語)

(ウ) 教示上の注意

- ① タカイ(6, 10)の反対に、ヒクイ・ヤスイのいずれかがでたら「もっとほかにタカイの反対になることばがあったら言ってください」とたずねる。
- ② 幼児語、方言で答えた場合も「もっとほかに……」の質問を行う。
- ③ オオキイをイイキオと答えた場合は導入法の不備だから、練習をくりかえす。

また、「～の反対」ということばが納得できない幼児がいたり、導入に使った「石」「ボール」から離れて反対語を考えることのできぬ幼児がいたりする。このような場合には、実物を隠して、「先生が『固い』と言ったら？」(答を待つ)「やわらかいでしょう。では先生がやわらかいと言ったら？」(答を待つ)の導入を行うこと。

* 後記、記録例の注参照のこと。

- ④ 知らないと答えたり、誤答した児童に対して、正答をひきだすために無理があってはならない。

たとえば、「大きい反対は？」という問いかけを「大きい帽子の反対は？」という問いかけに変更したりすることはいけない。

〔補充テストについて〕

幼児の反対語の○×および×については、それらを補充テスト刺激語として記録紙の空欄に登録し、上記のテスト手順をくりかえすこと。

(3) 記録の例

刺激語	反 応	正 誤
1. 大きい	チッサイ	○
2. 多い	チット	○
3. 太い	ホンヨッポソイ	
4. 最も大きい		○
5. 濃い	N	N

3* は正誤の判定保留の例

4 は基準的な語形式による反応のため、反応記入を省略した例

5 は反応・正誤欄の両方にN、Nを書くべき例

8* 〈厚い〉の刺激語に対して、「サムイ」の反応が出たならば、それは11の問題として扱い、11欄に登録すること。そして、再び〈厚い〉の刺激語を呈示すること。他の問題もこれに準ずる（問題6、10、11、5'、8'）

テストII 発 語

(1) 刺激カード

1. 犬（大小）容積
2. りんご（多少）非連続
3. 竹（太細）
4. 犬（最大・最小）— 5枚
5. 色（濃淡）
6. 果物類（高安）
7. りんご（いちばん多少）— 5枚
8. 本（厚薄）

9. 池（広狭）面積
10. 丸（大小）面積
11. 煙突（高低）
12. コップ（多少）連続
13. 冷暖房具（暑寒）
14. 鉛筆（長短）
15. プール（深浅）
16. 道（広狭）幅

(2) 反応語に対する正誤判定

テスト I の正誤判定表に準じます。ただし、次の例は慣用反応 (○) とみなします。

9. 池 11. 煙突 14. 鉛筆=大小
15. プール=多少 16. 道=細 (太をのぞく)

もっとも、なお若干の問題点があるので、今後の討議により変更がありうると考えてください。

(3) 教示と実施手順

〔練習〕 石とボール (現物) を呈示して、石はボールとくらべて固かったね。ではボールは石にくらべてどうでしょう。(答を待つ)。そう。ボールの方が石よりもやわらかいですね。いまから、同じようなものを出しますから、ふたつをくらべて、どちらの方がほかのものよりもどうなのか、答えてください。

[1. 犬] 犬が2匹いますね。形は似ていますが、この犬とこの犬とくらべて、どんなふうにしてちがうでしょうか。この犬は、この犬よりも^{*}? ではこの犬は、この犬よりも^{**}?

[2. リンゴ] リンゴがお皿の^{*}のっていますね。ふたつのお皿のリンゴをくらべて、どんなふうにしてちがうでしょうか、こっちのお皿のリンゴは、こっちのお皿のリンゴよりも?(くりかえし)

[3. 竹] 上に準ず。

[4. 犬-5枚] (大きい順に配列し)、犬が5匹並んでいますね。この犬はここにいる全部の犬とくらべてどんなふうにしてちがうでしょうか。この犬はここにいる全部の犬の中で?(くりかえし)

[5. 色] 両方のカードに色がぬってありますね。この色はこの色とくらべてどんなにしてちがうでしょうか。この色の方がこの色よりも?(くりかえし)

[6. 果物類] パイナップル、リンゴがあります。パイナップルは300円で、リンゴは50円だそうですね。パイナップルの方がリンゴより?(くりかえし)

[7. リンゴ-5枚] リンゴが5つのお皿の^{*}のっていますね。こっちのお皿のリンゴは、ここにある全部のお皿のリンゴとくらべて、どんなふうにしてちがうでしょうか。こっちのお皿のリンゴはここにある全部のお皿の中で?(くりかえし)

[8. 本] 2に準ず。

[9. 池] 2に準ず。

[10. 丸] マルがふたつありますね。このマルとこのマルとくらべて、どんなふうにしてちがうでしょうか。このマルの方がこのマルよりも?(くりかえし)

[11. 煙突] 煙突が2本ありますね。この煙突とこの煙突とくらべてどんなふうにしてちがうでしょうか。この煙突の方がこの煙突よりも?(くりかえし)

[12. コップ] ふたつのコップに水が入っていますね。こっちのコップの水とこっちのコップの

* 大きな犬。 ** 小さな犬のこと。以下、各対の呈示順はこれに準ずる。

水とくらべてどんなふうがちがうでしょうか。こっちのコップの水の方が、こっちのコップの水よりも？（くりかえし）

[13. 冷暖房具] ふたりの女の人が扇風器とストーブにあたっています。この女の人はずなぜ扇風器にあたっているのでしょうか。ではこの女の人はずなぜストーブにあたっているのでしょうか。

[14. 鉛筆] 鉛筆が2本ありますね。この鉛筆とこの鉛筆とくらべてどんなふうがちがうでしょうか。この鉛筆の方がこの鉛筆よりも？（くりかえし）

[15. プール] 男の子がプールの中で立っていますね。こっちのプールとこっちのプールとくらべてどんなふうがちがうでしょうか。こっちのプールの方が、こっちのプールよりも？（くりかえし）

[16. 道] 上に準ず。

(4) 呈示順序

1. 犬(大小)→16. 道 (広狭)

(5) 記録例

カード	語	反応	正誤	語	反応	正誤
1. 犬	大きい	スクナイ	×	1' 小さい	オオキクナイ	×
2. リンゴ	多い	スケナイ		2' 少ない	タクシャン	
9. 池	広い	チイサイ	○	9' 狭い	オオキイ	○

2は正誤の判定保留の例

9は反応が慣用による反応とその正誤例

(6) テストⅢに移行させるもの

正反応（○）以外の問題はすべてテストⅢに移行させてテストを行います。

テストⅢ 誘導発語

テストⅡにおいて正反応（○）以外のもののみを扱います。反対語のふたつともが正反応以外の場合は一通り全部の片方がすんだ後にあらためて行います。

(1) 刺激カード

テストⅡに準ずる。

(2) 教 示

練習なし

[1. 犬]—[オオキイが無答であった場合]。犬が2匹いますね。この犬とこの犬とくらべてどんなふうがちがいますか。この犬の方がこの犬よりチイサイです。ではこの犬の方がこの犬よりも？

[2~16] 上に同じ。

- (3) 呈示順序 } テストⅡに準ずる。
- (4) 記録例 }

テストⅣ 認 知

テストⅢにおいて正反応(○)以外のもののみを扱います。反対語のふたつともが正反応(○)以外であった場合は一通り全部の片方がすんだ後にあらためて行います。

(1) 刺激カード

水準Ⅱに準ずる。

(2) 教 示

練習など

[1. 犬]—[オオキイが答であった場合]。オオキイの方の犬を指でさしなさい。

[2.~16.] 上に同じ。

- (3) 呈示順序 テストⅡに準ずる。

(4) 記録例

カ ー ド	語	反 応	正誤	語	反 応	正誤
1. 犬	大 き い		○	1' 小 さい	小をさす	×
4. 犬(5枚)	最も大きい	C ₃	×	4' 最も小さい	C ₄	×

4の反応はカード番号で示した例

テストV パラメーターの分離

(1) 刺激材料

1. ホース (長さ×太さ)

	短	中	長	
太	①	②	③	見本A=③
中	④	⑤	⑥	見本B=⑤
細	⑦	⑧	⑨	

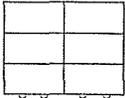
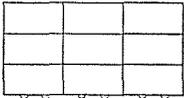
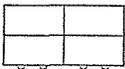
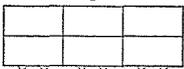
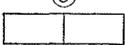
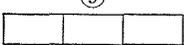
2. 手帳 (厚さ×大きさ)

	小	中	大	
厚	①	②	③	見本A=⑤
中	④	⑤	⑥	見本B=⑨
薄	⑦	⑧	⑨	

3. リボン (長さ×広さ)

	短20cm	中25cm	長30cm	
広	①	②	③	見本A=②
中	④	⑤	⑥	見本A=⑦
狭	⑦	⑧	⑨	

4. ブロック (高さ×大きさ)

①	②	③	見本A=①
			
④	⑤	⑥	見本B=④
			
⑦	⑧	⑨	
			

(2) 教 示

〔練習〕 ブロックを使って、適当に（色×形）→4種とする。

「いろいろな色や形のブロックがありますね。これと同じイロのブロックをふたつちょうだい。」

（まちがったらくりかえす）

〔1. ホース〕 「いろいろなホースがありますね。これと同じナガサのホースをとってちょうだい。」

（もとへホースをもどす）。「はい、今度はこれと同じフトサの筆をとってちょうだい。」

注意 幼児が1本だけとって満足していたら、「もうそれだけですか」とたずね、「ない」と答えるまで探させます。

〔2～4〕 上に準ず。

(3) 材料の配置

全部の材料をバラバラに配置する。ただし、材料が重なり合ったり、また同じパラメーターの材料が一か所に集中することがないようにしてください。

(4) 呈示順序*

1 → 2 → 3 → 4 (計16試行)

(5) 記 録 例

材 料	語	反 応	正 誤	語	反 応	正 誤
1. ホース	長	② 5	×	太	3	○
			○		N	N

②は正反応を示す。

テストVI 系列化

(1) 刺激カード

使用カードは各5枚

1. 丸 (大 小)
2. コップ (多 少)
3. 池 (広 狭)
4. リンゴ (多 少)
5. 犬 (大 小)
6. 道 (広 狭)

* 呈示順序 見本A(長)→見本B(長)→見本A(太)→見本B(太)→見本B(太)

見本Aを呈示するときは見本Bはとりのぞいておく。見本Bを呈示するときは、見本Aはとりのぞいておく。

** 刺激材料の◎は見本と同じものを示す。

(2) 教 示

〔練習〕 など

(1) (丸のカードをランダムに並べて), 「丸が大きいのも小さいのも, いろいろありますね。丸を大きい順に並べてください。」

(注意)1. 「～の順」という指示のことばが納得できないように思われたら, 「大きい方から小さい方へ順番に (順々に) 並べるのですよ。」といいかえてもよい。

2. 配列の順は左から並べようが右から並べようがさしつかえない。

〔2～6〕 上に準ずる。

(3) 呈示順序

1. 丸(大→小)→6. 道(広→狭)

(4) 記 録 例

カ ー ド	語	> > >	正誤
1. 丸	大小	○ ○ ○ ○ ○	○ 1.は正反応例
2. コップ	多少	① ③ ② ④ ⑤	× 2.は誤反応例

第7項 記録用紙 (次ページ)

岩 手	仙 台	東 京	<input type="text"/>	No
--------	--------	--------	----------------------	----

就学前児童の語彙力調査
性状語テスト

記録票 1

() 歳児クラス

国立国語研究所

(テストI) 単語・単語の系-反対語

刺激語	反応	正誤	刺激語	反応	正誤
1 大きい			1' 小さい		
2 多い			2' 少ない		
3 太い			3' 細い		
4 最も大きい			4' 最も小さい		
5 濃い			5' 薄い		
6 高い			6' 安い		
7 いちばん多い			7' いちばん少ない		
8 厚い			8' 薄い		
9 広い			9' 狭い		
10 高い			10' 低い		
11 暑い			11' 寒い		
12 長い			12' 短い		
13 深い			13' 浅い		

⑧

園名	幼稚園				No.				
幼児名				男	女				
調査日	昭和	年	月	日	幼児年齢	歳	月	保育年数	年
生年月日	昭和	年	月	日生	調査者氏名				

(テストV) パラメーターの分離

材 料	語	反 応	正 誤	語	反 応	正 誤
1 ホース	長		4	太		3
			1			7
2 手帳	厚		5	大		3
			9			7
3 リボン	長	1		広	3	
		2			4	
4 ブロック・ビル	高	1		大	3	
		2			4	

(テストVI) 系列化

カード	語	> > >	正 誤	< < <	正 誤
1 丸	大小	○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○	
2 コップ	多少	○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○	
3 池	広狭	○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○	
4 りんご	多少	○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○	
5 犬	大小	○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○	
6 道	広狭	○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○	

岩 手	仙 台	東 京	No.
--------	--------	--------	-----

就学前児童の語彙力調査
性状語テスト

記録票 2

() 歳児クラス

国立国語研究所

(テストII～IV)

カ ー ド	語	テストII 発 語		テストIII 誘導発語		テストIV 認 知	
		反 応	正誤	反 応	正誤	反 応	正誤
1 犬	大 き い						
2 り ん ご	多 い						
3 竹	太 い						
4 犬 (5枚)	最も大きい						
5 色	濃 い						
6 果 物 類	高 い						
7 りんご(5枚)	いちばん多い						
8 本	厚 い						
9 池	広 い						
10 丸	大 き い						
11 煙 突	高 い						
12 コ ッ プ	多 い						
13 冷 暖 房 具	暑 い						
14 鉛 筆	長 い						
15 プ ー ル	深 い						
16 道	広 い						

園名	幼稚園	
幼児名		男女

No.

調査日	昭和 年 月 日	幼児年齢	歳 月	保育年数	年
生年月日	昭和 年 月 日生	調査者氏名			

語	テストII 発 語		テストIII 誘導発語		テストIV 認 知	
	反 応	正誤	反 応	正誤	反 応	正誤
1' 小 さ い						
2' 少 な い						
3' 細 い						
4' 最も小さい						
5' 淡 い						
6' 安 い						
7' いちばん少ない						
8' 薄 い						
9' 狭 い						
10' 小 さ い						
11' 低 い						
12' 少 な い						
13' 寒 い						
14' 短 い						
15' 浅 い						
16' 狭 い						

第2節 時間・空間語調査

時間・空間語調査を実施するため、次の内容を含む手引書が作成された。なお、手引書の性格上、文体は敬体で統一した。

第1項 調査の概要

この調査は、東北（宮城・岩手）、東京、近畿（京都・和歌山）の各地域の幼稚園から抽出した約900名（30園）の就学前児童（4歳・5歳児クラス）を対象に、基本的な語の理解の特徴をテスト法によって明らかにします。いっぽう、幼稚園、家庭を対象にしたアンケート調査から、幼児の言語生活に関する実態をさぐります。

第2項 本テストの構成

本年度に行うテスト・バッテリーは、次の4領域から構成されています。調査地域と被調査者の人数配分は次の通りです。

テスト 地域		A		B		C		D	
		範	疇	性	状	時間・空間語	動	詞	分
東	京	75		75		75		75	
東 北	{ 宮 城	75		75					
	{ 岩 手	75		75					
近 畿	{ 京 都					75		75	
	{ 和 歌 山					75		75	

ここで説明する内容は、上記のなかのC時間・空間語テストです。

第3項 時間・空間語テストの構成

時間・空間語のうち、幼児の生活のなかでよく使用され、しかも将来、幼児が日本語の時間・空間語の系をつくりあげるための基本となる単語という観点からテスト語は選んであります。

1. 前・後 (先・後) (前・過) 2. 上・下 3. 縦・横・斜め 4. 外・中
5. 左・右 6. 朝・昼・夜 (朝・晩, 昼・夜) 7. 日・月・火・水・木・金・土
8. 春・夏・秋・冬 9. 一昨日・昨日・今日・明日・明後日
10. 一昨年・去年・今年・来年・再来年 11. 今朝・昨夜・今夜

* 11は6および9の単語の複合によって成立した系列のものです。テストVIb時間判断の項で調べることにしてあります。

上記の各時間・空間語を次の6側面からテストして、それらの理解の特徴を明らかにし、就学前段階での時間・空間語の理解水準を問題にします。

テストⅠ 単語・単語の系 時間・空間語を、関連した単語の系の中に位置づけて理解しているかどうかを扱います。

a. 対 全語（8対16語）について行う。

罫 テストⅠaで○、×反応の語は補充欄にその語を登録し、新しい語形式反応が出なくなるまでテストをくりかえす。

b. サークル・シリーズ

全語（7対24語）について色板を用いながら行う。ただし、1～7のうち、×、N反応のものは1'～7'のテストを省く。

テストⅡ 単語・事物の系 時間・空間語を、指示する事物と結びつけて理解しているかどうかを扱います。

Ⅱ 発語 全語（10対31語）について、10種の絵カードを用いながら行う。

テストⅢ 誘導発語 テストⅡのうち、基準反応(○)をのぞく全語について、系列内1単語を絵カードとともに呈示しながら行う。

テストⅣ 認知 テストⅢのうち、基準反応(○)をのぞく全語について、単語を呈示しながら、必要な絵カードを指示させる。

テストⅤ 位置変換—前後 2台の自動車（玩具）の位置変換による前後関係の理解を扱います。

全設問（8問）について、4種の位置変換を試みながら行う。

テストⅥ 時間判断 特定の時間語に関して相互の前後関係が理解されているかどうかを中心に扱います。

a. 前・過

全設問（発語、指示、判断）について行う。ただし、

○1. 発語の各項目の反応が×、N反応のものは、2. 指示の該当項目の発問は省く。

○1. 発語、2. 指示の発問には時計（玩具）を呈示するが、3. 判断の発問には時計は呈示しない。

b. ケサ・ユウベ・コンヤ 全設問（説明・認知・判断）について行う。ただし、

○1. 説明の各項目の反応が反応(○)のものは、2. 指示のみ該当項目の発問は省く。

c. 過去・未来 全設問について行う。

d. 遠近 全設問について行う。

第4項 テストの方法

1 個別テスト

所定のテスト用具を使い、幼児にひとりずつ個別にテストします。

- テスト用具 テストI b 色版(3～8枚)
 テストII～IV 絵カード(10種, 14枚)
 テストV 自動車(玩具2台)
 テストVIa 時計(玩具1個)

2 所要時間

時間制限はありませんが、大体テストI～VI全体に要する時間は40分です。

各幼児の身心の疲労の状態により、休憩を入れるとか、玩具で遊ぶなどして適宜、気分転換を工夫してください。

第5項 正誤の判定基準と記録のとり方

1 判定基準

記号 テスト	○	○	×	N
I a	当該の基準的な語形式による反応(幼児音を含む)	当該の基準的な語形式以外の慣用による反応(幼児語, 方言を含む)	意味に誤りのある反応	無答(知らないを含む)
I b	当該の基準的な語形式・系列による反応(幼児音を含む)	反応の一部に基準的な語形式以外の語形式および系列がみられるもの	○ ○ 以外の反応で, Nでないもの	上に同じ
II	I a, I bに準ずる	I a, I bに準ずる	I a, I bに準ずる	上に同じ
III	上に同じ	上に同じ	上に同じ	上に同じ
IV	正しい指摘		誤った指摘	上に同じ
V	I a に準ずる	I a に準ずる	I a に準ずる	上に同じ
VI ^a / _b	上に同じ	上に同じ	上に同じ	上に同じ

* ○, ○, ×及びNの判定基準段階は第1次基準段階であり, 最終的には14段階に細分された(112ページ参照)。

2 記録のとり方

(1) 調査員は幼児に問いかけながら、次のことを記録しておいてください。

1. 幼児の反応を→反応欄に記入
2. その反応の正誤を→記号で正誤欄に記入

ただし、2についてはその最終的な判定は国立国語研究所が行いますから、判定に迷う場合には記入しなくても結構です。ただし、幼児の反応だけは忠実に記録しておいてください。

(2) 幼児の反応はすべてテストの場合、反応欄に正確に片カナで記入していただきますが、幼児音で反応した場合（ソト→チョト）はその幼児音のまま片カナ表記をしてください。そして正誤の判定が明白な場合には正誤欄に記号を書きいれてください。

ただし、反応が正反応（基準的な語形式による反応）であれば、正誤欄に○と書くのみで、必ずしも反応欄に記入する必要はありません。

3 記録用紙

記録票 2枚

テストの前後に、2枚の記録票について、園名・幼児名・調査日・調査者氏名をお忘れなく記入してください。

その他の事項は、テストが終了後に園側の協力を得て記録票を完成してください。

第6項 各テストの実施要領

テストIa 単語・単語の系一対

(1) 教示

「これから先生ということばを言って遊びましょう。まず先生と、反対のことば集めをしましょう。オーキイの反対は？ 足→？ こども→？ このようにやるのよ。」

以上の手順で幼児が納得しなければ「先生がオーキイと言ったら、○○ちゃんはチャーサイと言います。先生がチャーサイと言ったら、○○ちゃんはオーキイと言います。」という教示にふりかえる。

「では、マエの反対は？（先生がマエと言ったら？）……（以下同じ）。」

(2) 呈示順序

1. マエ→8 ヨル→1' ウシロ→8' ヒル→(補充語^{*})

補充テストについて

幼児の反応が○、×（方言や他の誤った語形式反応）については、その反応語を補充テスト刺激語として記録票に登録し、上記のテスト手順をくりかえすこと。

(3) 記録の例

刺激語	反応	正誤
1. マエ / ウシロ	ウシロ	○
2. サキ / アト	モト	
3. ウエ / シタ	シモ	○
4. ナナメ / *	マッスグ	
<hr/>		
4' マッスグ / ナナメ	マガッテル	?

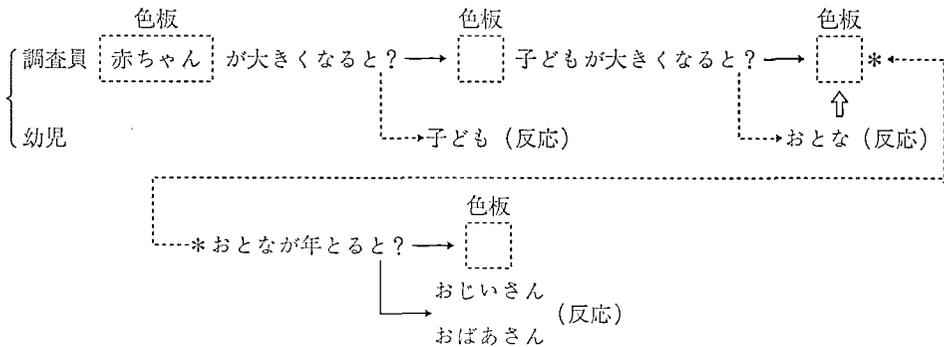
- * 1は正答の例
- 2, 4, 4'は判定保留の例
- 3は基準的な語形式以外の反応例
- * 4'は4の反応を□に記入し、それを刺激語として呈示した例。

テスト I b 単語・単語の系——サークル・シリーズ

(1) 教示

「今度は○○ちゃんね、赤ちゃんがだんだん大きくなると何になりますか？ 子ども、子どもがだんだん大きくなると？ おとなになりますね。では、これからいろんな順番のことを聞いていきますよ。」

〔色板の使い方〕



(注意) 調査員は赤ちゃんと言いながら色板を呈示し、「赤ちゃんが大きくなると？」と言いながら、次の色板を置いてみせ、幼児に反応子どもを促す。その反応を受け、「では子どもが大きくなると？」と言いながら、次の色板を置いてみせ、幼児に反応おとなを促す。以下同じ。

〔問1〕「では、起きてから寝るまでの1日の順番を言ってみましょう。1日はまずアサ (色板) が来ますね。アサが来る(過ぎる)とその次には？ 何が来ますか？ A (色板), はいAが来ると？ B (色板), はいBがくると？ アサ色板, はいそうですね。それが1日の順番ですね。」

(注意) A Bが誤反応でも、それを否認するような態度をみせないこと。

(注意) 最初の刺激語アサが再び出てくるまで継続すること。ただし、全くアサが出てこない

と判断された場合は中止する。

〔問2〕 「1週間の曜日を順番に言ってみましょう。〔日曜日〕知ってますか？まず〔日曜日〕（色板）が来ますね。〔日曜日〕が来るとその次は？何（曜日）が来ますか？……（略）」→再び〔日曜日〕が出るまで。

〔問3〕 「1年の季節を順番に言ってみましょう。〔春〕って知ってますか？まず〔春〕（色板）が来ますね。〔春〕が来ると、その次には？（どんな季節）が来ますか？……（略）」→再び〔春〕が出るまで。

〔問4〕 「〔キョウ〕って知ってますね。〔キョウ〕（色板）がここですよ。〔キョウ〕の日が過ぎるとその次の日は何と言いますか？……（略）」→幼児が反応しなくなるまで。

〔問5〕 「〔キョウ〕（色板）がここでしたね。では、〔キョウ〕の日の来る前の日は何と言いますか？……（略）」→幼児が反応しなくなるまで。

〔問6〕 「〔コトシ〕って知ってますね。〔コトシ〕（色板）がここですよ。〔コトシ〕が過ぎると、その次の年は何と言いますか？……（略）」→幼児が反応しなくなるまで。

〔問7〕 「〔コトシ〕（色板）がここでしたね。では、〔コトシ〕が来る前の年は何と言いますか？……（略）」→幼児が反応しなくなるまで。

〔問1'〕 「〔アサ〕の来る前を何と言いますか？……（略）」

〔問2'〕 「〔日曜日〕の来る前の曜日を何と言いますか？……（略）」

〔問3'〕 「〔春〕の来る前の季節を何と言いますか？……（略）」

〔問4'〕 問4の最終反応をもって、最初の刺激語とする。（以下これに準ずる。）

（例） 問4 〔キョウ〕→アシタ→N 問4' 〔アシタ〕→キョウ
 問4 〔キョウ〕→……アサツテ→N 問4' 〔アサツテ〕→……キョウ

〔問5'～問7'〕—略

(2) 呈示順序

1. 〔アサ〕→7' 〔コトシ〕→1' 〔アサ〕→7' 〔……オトトシ〕

（注意） 問1～問7で×、N反応のものは、1'～7'の該当設問を省く。たとえば、問2がN反応ならば問2'のテストは行わない。

(3) 記録の例

刺激語	反応	正誤	刺激語	反応	正誤
1. 〔アサ〕→ヒル→ヨル→アサ	ヒルマエ→ヒルス ギ→ヨル→アサ	○	1. 〔アサ〕→ヒル→ヨル→アサ	ヨナカ→ヒル ル→アサ	○
2. 〔日〕→月……………日	オヤスミ→ヨウチ エン	N			

テストⅡ 発語

(1) 教示と実施要領

〔問1・1' マエ・ウシロ〕 **カードA** (自動車と自転車) を呈示しながら、「こっちは？ 自転車。自動車と自転車の場所をくらべてみましょう。自動車は自転車の？ どっちにありますか。自転車は自動車の？ どっちにありますか。口で言って教えてちょうだい。」

(注意) 指でこっちと言って示したり、「ミギ。ヒダリ」で答えたりする幼児があれば、もう一度「自動車は自転車の **[?]**」の間をくりかえす。(以下同じ)

〔問2・2' ウエ・シタ〕 **カードB** (白いマル、黒いマルと棒) を呈示しながら、「白いマルと、黒いマルとの場所をくらべてみましょう。白いマルは棒の？ どこにありますか。黒いマルは棒の？ どこにありますか。」

〔問3・問3' ソト・ナカ〕 **カードC** (白いマル・黒いマル) を呈示しながら、「白い小さいマルと黒いマルとの場所をくらべてみましょう。こっちの白いマルは大きいマルの？ どこにありますか。こっちの黒いマルは大きいマルの？ どっちにありますか。」

〔問4・問4' ミギ・ヒダリ〕 **カードD** (白いマル・黒いマルと棒) を呈示しながら、「白いマルと黒いマルとの場所をくらべてみましょう。白いマルは棒の？ どこにありますか。黒いマルは棒の？ どこにありますか。」

〔問5. タテ・ヨコ・ナナメ〕 **カードE** (棒3本) を呈示しながら、「この3本の棒の場所をくらべてみましょう。この(タテ)棒は？ この(ヨコ)棒は？ この(ナナメ)棒は？」

〔問6. アサ・ヒル・ヨル〕 **カードF** (朝・昼・夜3枚) を朝・昼・夜の順序に配列し、説明を全部すませてから質問する。

F₁=お日さまが山から出てきます。坊やが歯をみがいています。

F₂=お日さまが上の方に出ています。坊やがブランコに乗って遊んでいます。

F₃=暗くなってお星さまが出ています。坊やがベットの中で寝ています。さあ、この3枚の絵は1日のいつのことですか。はい、これ(アサ)は？ これ(ヒル)は？ これ(ヨル)は？」

〔問7. 春……冬〕 **カードG** (春・夏・秋・冬4枚) を春・夏・秋・冬の順序に配列し、説明を全部すませてから質問する。

G₁=あたたかくなって、桜がさいています。はじめて小学校にあがるところです。

G₂=朝顔がさいています。暑いので川で泳いでいるところです。

G₃=涼しくなって、もみじの葉が落ちています。みんなが運動会でかけっこをしています。

G₄=寒くなって、雪が降っています。みんながスキーをしているところです。

さあ、この4枚の絵は1年のいつの季節のことですか。……(略)」

〔問8. キノウ・キョウ・アシタ〕 「1月の□□日って、いつのことか知ってますか？ (答を待つ) では、(カードHを呈示) カレンダーでいうとこの日でしたね。(その日を指示) では、こ

の日（次の日）のことを何と言いますか？ この日（前の日）を何と言いますか？」

（注意）キョウと**キョウ**というこぼが自発的に出なければ、そこで中止する。

〔問9. 日……土〕カードI^{*}（カレンダー）を呈示しながら、「きょうは□日ですが、何曜日かしら？ はい、それでは次の日の□日は何曜日かしら？……（略）」

〔問10. キョネン・コトシ・ライネン〕カードJ

「昭和44年って、いつの年のことか知ってますか？（答を待つ）では（カードJを呈示）」
以下の手順は問8に同じ。

(2) 呈示順序

問1. 1' → 問2 2' → 問3 3' → 問4 4' → 問5 ……問10.

(3) 記録の例

テストIに準ずる。

(4) テストIIIに移行させるもの

基準反応（○）以外の問題はすべてテストIIIに移行させてテストを行います。

テストIII 誘導発語

テストIIにおいて基準反応（○）以外のもののみを扱います。テストIIで対話〔問1～4〕のふたつともが基準反応（○）以外の場合は一通り全部の片方がすんだ後にあらためて行っていただきますが、その他の場合および問5以下では、〔テストII発語で基準反応（○）が得られなければ〕ひき続いてただちに問をテストIII誘導発語に切り換えてください。

(1) 教示と実施要領

〔問1. マエ〕カードA

「（自転車を指示して）自転車は自動車のウシロにありますね。では、（自動車を指示して）自動車は自転車の□□？ どちらにありますか。」

〔問2～問4～問1'～問4'〕問1に準ずる。

(2) 誘導語

問1	ウシロ	問1'	マエ	問3	ナカ	問3'	ソト
問2	シタ	問2'	ウエ	問4	ヒダリ	問4'	ミギ

〔問5. タテ・ヨコ・ナナム〕カードEを呈示しながら、「（タテ棒を指示して）この棒は3本のなかでタテになっていますね。では、（ヨコを指示して）この棒は？ どうなっていますか？」

* カードHとカードIと同じ。

(ナナメ棒を指示して)この棒は？」

こうして再びタテ棒を指示し「タテ」という発語をさせて終わる。

〔問6. アサ・ヒル・ヨル〕「カードF」を呈示しながら、以下、テストⅡと同じ。絵の説明を終わってから、誘導語「アサ」をだす。そして、再び「アサ」という発語をさせて終わる。

〔問7. 春……冬〕問6に準ずる。誘導語は「春」

〔問8. キノウ・キョウ・アシタ〕「カードH」(カレンダー)を呈示しながら、「きょうは何日ですか。はい○日ですね(幼児が答えられなかったらテストが答えを指示してやる)。○日はきょうですね」以下、テストⅡの実施要領に同じ。そして再び「キョウ」という発語をさせて終わる。

〔問9〕上記手順に同じ。誘導語は「テスト当日の曜日」

〔問10〕上記手順に同じ、誘導語は「コトジ」

(3) 呈示順序

テストⅡに同じ。

(4) 記録の例 (略)

(5) テストⅣに移行させるもの

基準反応(○)以外の問題はすべてテストⅣに移行させてテストを行います。

テストⅣ 認知

テストⅢにおいて基準反応(○)以外のもののみを扱います。テストⅢで対話〔問1～4〕のふたつともが基準反応(○)以外の場合は一通り全部の片方がすんだ後にあらためて行っていただきますが、その他の場合および問5以下では〔テストⅢ誘導発語で基準反応が得られなければ〕ひき続いてただちにその問題のテストⅣ認知に切り換えてください。

(1) 教示と実施要領

〔問1. マエ〕「カードA」を呈示しながら、「自動車と自転車とで「マエ」にあるものを指でさしなさい。

〔問1'～問7〕問1に準ずる。

〔問8. キノウ・キョウ・アシタ〕「カードH」を呈示しながら、「「キョウ」は1月○日だから、ここ(日付を指示)です。では「アシタ」はどの日でしょう。指でさしてください。「キノウ」はどの日でしょうか？」

〔問9～問10〕問8に準ずる。

■各問とも認知順序は適宜変化を持たせることが必要である。

(2) 呈示順序 (略)

(3) 記録の例

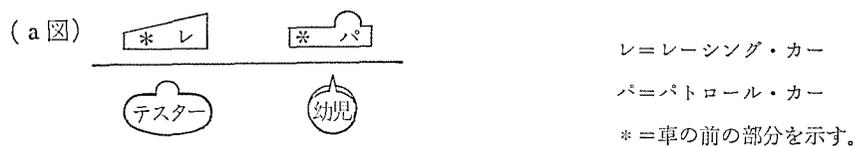
カード	語	反応	正誤
A	1. マエ	マエ	N
G	7. 春……冬	春夏秋冬	○

テストV 位置変換—前後

(1) 教示と実施要領

レーシングカーおよびパトロールカーを各図(記録1参照)のごとく配車し、「①は②の[マエ]にある、とか[ウシロ]にあるとか言ってください。」と指示し、発語させていく。[右・左]などと言った反応をした場合には[マエ・ウシロ]のいずれかに言いなおさせる。

■ [場面構図]



(2) 呈示順序

(a)→(b) 配車の位置変更はすべて調査員が行う。

(3) 記録の例

自動車	質問	反応	正誤
	①は②の	前 ③ N	×
	②は①の	前 ③ N	○

テスト V/a 時間判断—前・過

(1) 教示と実施要領

1. 発語 (6:15マエ)

[時計] (玩具)を用意して幼児の前で[6:15マエ]に針を合わせ、「いま、時間は何時ですか？」と問う。

2. 指示 (6:15マエ)

[時計] (玩具)を幼児の前で[正6:00]にしておき、「この長い針を動かして[6:15マエ]にしてください。」と指示する。短針は調査者がにぎってあげればよい。

3. 判断 (6:15マエ)

〔時計は使用せず〕「6:15マエ」というのは、もう6時になっているのですか、まだ6時になっていないのですか？」と問う。

(2) 呈示順序

1. 発語の各問を全部すませて、2. 指示 3. 判断テストに進む。

■発語テストで時計の時間が正しく読みとれていないものは、
指示テストは省略して、ただちに判断テストに入る。

■発語テスト、指示テストとも最初から2問程度で、N、または×反応を示したものには必ずしも全問について行う必要はありません。

(3) 記録の例

時 計	1. 発 語		2. 指 示		3. 判 断	
	いま何時？	正誤	～にしてください	正誤	○時になっている なっていない？	正誤
6:15 マエ	6:00	×	6:25	×	ハイ・イイエ ㊟	N

テスト V/b 時間判断——ケサ・ユウベ・コンヤ

(1) 教示と実施要領

1. 説明 (ケサ)

「ケサ って知ってる？ いつのことかしら？」と問う。

2. 認知 (ケサ)

「ケサ って、キノウのこと？ キョウのこと？ アシタのことですか？(答を待つ)はい、ではケサ はアサのこと？ ヒルのこと？ ヨルのことですか？(答を待つ)」と問う。

3. 判断 (ユウベ)

「ユウベ って、もう過ぎちゃったこと？ 過ぎないことですか？(答を待つ)」と問う。

(1) 呈示順序

1. 説明の各問を全部すませて、2. 認知 3. 判断テストに進む。

■1. 説明で、幼児から、2. 認知の内容が表現されれば 指示テストは省略して、ただちに判断テストに入る。

■ケサ は判断テストを行わない。

(3) 記録の例

	1. 説明		2. 認知				3. 判断			
	いつのこと?	正誤	~のこと	~のこと	~のこと?	正誤	過ぎたこと	過ぎないこと?	正誤	
ユウベ	ズット昔ノコト	×	キノウ	キョウ	アシタ		ハイ	イイエ	N	○
			アサ	ヒル	ヨル	○				

テスト V/c 時間判断——過去・未来

(1) 教示と実施要領

アシタ っていうのはもう過ぎた日のこと？ まだ過ぎない日のこと？ どちらでしょうか？

(2) 呈示順序

アシタ → …… サライネン

(3) 記録の例

テスト V/b に準ずる。

テスト V/d 時間判断——遠近

(1) 教示と実施要領

アシタ / アサ ッテ では、どちらが遠い日のことでしょうか？

(2) 呈示順序

アシタ / アサ ッテ → …… キョネン / オトトシ

(3) 記録の例

テスト V/b に準ずる。

第7項 記録用紙

和歌山	京都	東京	<input type="text"/>	No.
-----	----	----	----------------------	-----

就学前児童の語彙力調査
時間・空間語テスト

記録票 1

() 歳児クラス

国立国語研究所

(テストIa) 単語・単語の系一対

	刺激語	反応	正誤	刺激語	反応	正誤
1	マエ / ウシロ 〈空間〉			1' ウシロ / マエ		
2	サキ / アト			2' アト / サキ		
3	ウエ / シタ			3' シタ / ウエ		
4	ナナメ / *			4' * / ナナメ		
5	タテ / ヨコ			5' ヨコ / タテ		
6	ソト / ナカ			6' ナカ / ソト		
7	アサ / バン			7' バン / アサ		
8	ヨル / ヒル			8' ヒル / ヨル		
9	ミギ / ヒダリ			9' ヒダリ / ミギ		
10	マエ / アト 〈時間〉			10' アト / マエ		

④

	刺激語	反応	正誤	刺激語	反応	正誤

園名	幼稚園		
幼児名		男	女

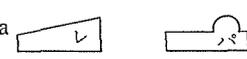
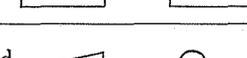
No.

調査日	昭和	年	月	日	幼児年齢	歳	月	保育年数	年
生年月日	昭和	年	月	日生	調査者氏名				

(テストIb) 単語・単語の系-サークル・シリーズ

刺激語	反応	正誤	刺激語	反応	正誤
1 アサ → ヒル → ヨル → アサ			1' アサ → ヨル → ヒル → アサ		
2 日 → 月 …… 土 → 日			2' 日 → 土 …… 月 → 日		
3 春 → 夏 → 秋 → 冬 → 春			3' 春 → 冬 → 秋 → 夏 → 春		
4 キョウ → アシタ → アサツテ → ……			4' …アサツテ → アシタ → キョウ		
5 キョウ → キノウ → オトイ → ……			5' …オトイ → キノウ → キョウ		
6 コトシ → ライネン → サライネン → ……			6' …サライネン → ライネン → コトシ		
7 コトシ → キョネン → オトシ			7' …オトシ → キョネン → コトシ		

(テストV) 位置変更-前後

自動車	発問	反応	正誤
a 	1 (レ) は (パ) の	前・後・N	
	2 (パ) は (レ) の	前・後・N	
b 	3 (レ) は (パ) の	前・後・N	
	4 (パ) は (レ) の	前・後・N	
c 	5 (レ) は (パ) の	前・後・N	
	6 (パ) は (レ) の	前・後・N	
d 	7 (レ) は (パ) の	前・後・N	
	8 (パ) は (レ) の	前・後・N	

和歌山	京都	東京	No.
-----	----	----	-----

就学前児童の語彙力調査
時間・空間語テスト

記録票 2

() 歳児クラス

国立国語研究所

(テストII～IV) 単語・事物の系

カード	語	テストII 発語		テストIII 誘導発語		テストIV 認知	
		反応	正誤	反応	正誤	反応	正誤
A	1. マエ			ウシロ			
B	2. ウエ			シタ			
C	3. ソト			ナカ			
D	4. ミギ			ヒダリ			
E	5. タテ/ヨコ/ナナメ			タテ・			
F	6. アサ/ヒル/ヨル			アサ・			
G	7. 春/……/冬			春・			
H	8. キノウ/キョウ/アシタ			・キョウ・			
I	9. 日/……/土			*・			
J	10. キョネン/コトシ/ライネン			・コトシ・			

* テスト当日の曜日

(テストVIa) 時間判断一前・過

時計	1. 発語		2. 指示		3. 判断	
	いま、何時?	正誤	～にしてください	正誤	○時になっている。なっていない?	
6:15 マエ					ハイ・ [●] イイエ・N	
3:5 スギ					[●] ハイ・イイエ・N	
6:30					[●] ハイ・イイエ・N	
3:5 マエ					ハイ・ [●] イイエ・N	
6:15 スギ					[●] ハイ・イイエ・N	

園名	幼稚園	
幼児名	男女	

No.

調査日	昭和 年 月 日	幼児年齢	歳 月	保育年数	年
生年月日	昭和 年 月 日生	調査者氏名			

語	テストII 発 語		テストIII 誘導発語		テストIV 認 知	
	反 応	正 誤	反 応	正 誤	反 応	正 誤
1'. ウシロ			マエ			
2'. シタ			ウエ			
3'. ナカ			ソト			
4'. ヒグリ			ミギ			

(テストVIb) 時間判断—ケサ・ユウベ・コンマ

	1. 説 明		2. 認 知		3. 判 断	
	いつのこと?	正 誤	～のこと, ～のこと, ～のこと	正 誤	過ぎたこと, 過ぎないこと?	正 誤
ケ サ			キノウ ●キョウ アシタ ●アサ ヒル ヨル			
ユウベ			●キノウ キョウ アシタ アサ ヒル ●ヨル		●ハイ イ イ イエ N	
コンマ			キノウ ●キョウ アシタ アサ ヒル ●ヨル		●ハイ イ イ イエ N	

(テストVIc) 時間判断—過去・未来

きょう	過ぎたこと 過ぎない(これからの)こと?	正 誤	ことし	過ぎたこと 過ぎない(これからの)こと?	正 誤
アシタ	過 ・ ●未 ・ N		ライネン	過 ・ ●未 ・ N	
オトトイ	●過 ・ 未 ・ N		オトトシ	●過 ・ 未 ・ N	
アサツテ	過 ・ ●未 ・ N		キョネン	●過 ・ 未 ・ N	
キノウ	●過 ・ 未 ・ N		サライネン	過 ・ ●未 ・ N	

(テストVI d) 時間判断—遠近

きょう	どっちが遠いこと?	正 誤	ことし	どっちが遠いこと?	正 誤
アシタ/アサツテ	アシ・●アサ・N		サライネン/ライネン	●サラ・ライ・N	
オトトイ/キノウ	●オト・キノ・N		キョネン/オトトシ	キョ・オト・N	

第3節 動詞調査

動作・行為・現象を表す動詞調査を実施するため、次の内容を含む手引書が作成された。なお、手引書の性格上、文体は敬体で統一した。

第1項 調査の概要

この調査は、東北(宮城・岩手)、東京、近畿(京都・和歌山)の各地域の幼稚園から抽出した約800名(36園)の就学前児童(4歳、5歳児クラス)を対象にした、「就学前児童の語彙、コミュニケーション能力調査」の中の語彙力調査であります。基本的な動詞220語の理解の特徴をテスト法によって明らかにします。いっぽう、幼稚園、家庭を対象にしたアンケート調査から、就学前児童の言語生活に関する実態をさぐります。

第2項 動詞テストの調査地域と人数配分

地域	種類	A	B	C	D	計
東	京	42	42	42	42	168
東 北	宮 城 岩 手	42	42	42	42	168
		42	42	42	42	168
近 畿	京 都 和 歌 山	42	42	42	42	168
		42	42	42	42	168
計		210	210	210	210	840

本年度に行う動詞テストはA B C Dの4種類から構成されています。各被調査者はその中の所定の1種類のテストを受けます。

第3項 テスト語彙(動詞)

日本語の動詞のうち、幼児の生活のなかでよく使用され、しかも将来、幼児が日本語の動詞の系をつくりあげるための基本となる単語という観点から選んであります。

選定に先だって、次の各種の資料により共通度の高い450語をまず抽出しました。

- ・特定幼児の表現語彙集
- ・文部省 『児童、生徒の語彙調査(低学年)』
- ・国際文化振興会 『日本語基本語彙』
- ・阪本一郎 『教育基本語彙』

・国立国語研究所 『現代雑誌九十種の用語用字』

そうして、さらに次の選択基準を設けました。

1. 複合語はのぞく 例：追いかける
2. 敬語動詞はのぞく 例：いらっしゃる
3. 俗語はのぞく 例：食う
4. 自動詞・他動詞はいずれかにきめる。

絵になりやすいもの、対の系が明白なものを優先する。

5. 使役、可能、受身動詞は基本形で提出する。
6. 多義語は基本的な意味で提出する。

ただし、系の関係で上記の基準にかかわらず選ばれたものもあります。

2-3-1 表 就学前児童の語彙力調査(動詞)

語 彙 表 [*]			
・ 1. 会う	* 2. 上がる	・ 3. 明ける	* 4. 開ける
* 5. 上げる	・ 6. 揚げる	・ 7. 預ける	・ 8. 与える
・ 9. 暖める	・ 10. 当たる	・ 11. 集める	・ 12. 余る
・ 13. 編む	・ 14. 謝る	・ 15. 洗う	・ 16. ある
* 17. 歩く	・ 18. いじめる	・ 19. 入れる	・ 20. 浮かぶ
・ 21. 受け取る	・ 22. 受ける	・ 23. 動かす	・ 24. 歌う
* 25. 打つ	・ 26. 奪う	・ 27. 生まれる	・ 28. 埋める
・ 29. 売る	・ 30. 追う	・ 31. 起きる	・ 32. 置く
・ 33. 送る	・ 34. 遅れる	* 35. 起こす	・ 36. おこる
・ 37. 押さえる	* 38. 教える	・ 39. 押す	・ 40. 落ちる
・ 41. 落とす	・ 42. 踊る	・ 43. (同じ)	・ 44. おぼれる
* 45. 降りる	・ 46. 折る	* 47. 降ろす	・ 48. 終わる
・ 49. 買う	・ 50. 帰る	・ 51. 羅る	* 52. 書く
・ 53. 隠れる	* 54. 掛ける	・ 55. 駆ける	・ 56. 固まる
・ 57. 勝つ	・ 58. 担ぐ	・ 59. 悲しむ	・ 60. かぶる
・ 61. 枯れる	・ 62. かわいがる	・ 63. 乾く	・ 64. 消える
・ 65. 聞く	・ 66. 切る	・ 67. 着る	・ 68. (奇麗になる)
・ 69. 切れる	・ 70. 来る	・ 71. 暮れる	・ 72. 加える
* 73. 消す	・ 74. 答える	・ 75. 混む	・ 76. 殺す
・ 77. 転ぶ	・ 78. 壊す	・ 79. 咲く	・ 80. 下げる
* 81. さす	・ 82. 騒ぐ	・ 83. しかる	・ 84. 敷く

* *印の単語は2回以上提出してあることを示す。()内は基本の動詞形以外の語。

- 85. 茂る
- 89. 縛る
- 93. 閉める
- 97. 空く
- 101. 背負う
- 105. 倒す
- *109. たたく
- 113. (足りない)
- 117. 散る
- 121. 続く
- 125. つぶる
- 129. 出る
- 133. 届ける
- 137. 止める
- 141. 治る
- *145. なでる
- 149. 並べる
- 153. 煮る
- 157. 濡れる
- *161. 延ばす
- 165. 履く
- *169. 外す
- *173. 離す
- *177. 貼る
- *181. 拾う
- 185. 吹く
- 189. 降る
- 193. ほめる
- *197. 曲げる
- 201. 迎える
- *205. もらう
- 209. 止む
- 213. 寄せる
- *217. 別れる
- 86. (静かにする)
- *90. しぼむ
- 94. 締める
- 98. 進む
- 102. 狭まる
- *106. 出す
- *110. 畳む
- 114. 違う
- 118. つかまえる
- 122. 包む
- 126. つぼめる
- *130. 解く
- 134. 飛ぶ
- 138. 取る
- 142. 泣く
- 146. なめる
- *150. 逃がす
- *154. 抜く
- 158. 寝かす
- 162. 登る
- 166. 吐く
- 170. 外れる
- *174. 離れる
- 178. 引く
- 182. ひろがる
- 186. ふくらむ
- *190. 減らす
- 194. 掘る
- 198. 混ぜる
- 202. 結ぶ
- 206. 焼く
- 210. やる
- 214. 読む
- 218. 分ける
- 87. 沈む
- 91. 絞る
- 95. 知る
- 99. 捨てる
- 103. 攻める
- 107. 助かる
- 111. 立つ
- 115. 縮める
- 119. つく(点・着)
- 123. つながる
- 127. 積む
- 131. 溶ける
- 135. 跳ぶ
- 139. (ない)
- 143. 殴る
- 147. 習う
- 151. 握る
- *155. 脱ぐ
- 159. 寝る
- *163. 乗る
- 167. 始まる
- 171. 話す
- 175. はめる
- 179. 弾く
- 183. 広げる
- 187. 太る
- 191. 干す
- 195. 巻く
- 199. 守る
- 203. 燃す
- 207. やせる
- *211. 行く
- 215. 喜ぶ
- 219. 忘れる
- 88. 死ぬ
- *92. 仕舞う
- 96. 吸う
- 100. 座る
- 104. 反らす
- 108. 尋ねる
- 112. 食べる
- 116. 散らかす
- 120. 付ける
- *124. つなぐ
- 128. 出かける
- 132. 閉じる
- *136. 止まる
- 140. 直す
- 144. 投げる
- 148. 鳴らす
- 152. 逃げる
- 156. 塗る
- 160. 乗せる
- 164. 入る
- 168. 走る
- 172. 放す
- 176. 払う
- 180. 冷やす
- 184. 拭く
- 188. 増やす
- 192. ほどく
- 196. 負ける
- 200. 見える
- 204. 戻る
- 208. 破る
- 212. 汚れる
- 216. 沸かす
- *220. 笑う

2-3-2表 語彙配列表

	(対語テスト語彙)		(対文テスト語彙)	
A	1. つく (点)	1'-1 きえる(消)	1-1 あかりがつく	1'-1 あかりがきえる
	2. あげる(上)	2'-1 さげる(下)	2-1 旗を上にあげる	2'-1 旗を下にさげる
		2'-2 おろす(下)	2-2 本をタナにあげる	2'-2 本をタナからおろす
		2'-3 もらう	2-3 おかしを友だちにあげる	2'-3 おかしを友だちからもらう
	3. おりる(降)	3'-1 のる (乗)	3-1 バスからおりる	3'-1 バスにのる
		3'-2 あがる(上)	3-2 お部屋から庭におりる	3'-2 庭からお部屋にあがる
	4. ぬぐ (脱)	4'-1 はく (履)	4-1 靴をぬぐ	4'-1 靴をはく
		4'-2 きる (着)	4-2 洋服をぬぐ	4'-2 洋服をきる
		4'-3 かぶる	4-3 帽子をぬぐ	4'-3 帽子をかぶる
B	1. うごく(動)	1'-1 とまる(止)	1-1 おもちゃの車が動く	1'-1 おもちゃの車がとまる
	2. おとす(落)	2'-1 ひろう(拾)	2-1 おかあさんがお皿をおとす	2'-1 おかあさんがお皿をひろう
	3. さす (刺)	3'-1 ぬく (抜)	3-1 針をさす	3'-1 針をぬく
		3'-2 すぼめる	3-2 かさをさす	3'-2 かさをすぼめる
4. あける(開 明)	4'-1 しめる(閉)	4-1 箱のふたをあける	4'-1 箱のふたをしめる	
	4'-2 くれる(暮)	4-2 夜があける	4'-2 日がくれる	
C	1. しばる	1'-1 ほどく	1-1 ひもで手をしばる	1'-1 手のひもをほどく
	2. 入れる(入)	2'-1 出す (出)	2-1 箱にお人形をいれる	2'-1 箱からお人形を出す
	3. おろす(下)	3'-1 つむ (積)	3-1 車から荷物をおろす	3'-1 車に荷物をつむ
		3'-2 のせる(乗)	3-2 赤ん坊を車からおろす	3'-2 赤ん坊を車にのせる
4. あがる(上)	4'-1 おりる(降)	4-1 階段をあがる	4'-1 階段をおりる	
	4'-2 さがる(下)	4-2 テストの成績があがる	4'-2 テストの成績がさがる	
D	1. にかす	1'-1 つかまえる	1-1 トンボをにかす	1'-1 トンボをつかまえる
	2. なげる	2'-1 うけとる	2-1 ボールをなげる	2'-1 ボールをうけとる
	3. おこる(起)	3'-1 ねかす(寝)	3-1 赤ちゃんをおこす	3'-1 赤ちゃんをねかす
		3'-2 たおす(倒す)	3-2 木をおこす	3'-2 木をたおす
4. いく (行)	4'-1 くる (来)	4-1 こっちからむこうへいく	4'-1 むこうからこっちへくる	
	4'-2 かえる(帰)	4-2 幼稚園にいく	4'-2 幼稚園からかえる	

2-3-3表 対絵テスト語彙

A 11	のる	A 11'	おりる	B 11	あける	B 11'	しめる
A 12	はく	A 12'	ぬぐ	B 12	おきる	B 12'	ねる
A 13	あげる	A 13'	さげる	B 13	おとす	B 13'	ひろう
A 14	つく	A 14'	きえる	B 14	かわく	B 14'	ぬれる
A 15	こむ	A 15'	すく	B 15	すわる	B 15'	たつ
A 21	おろす	A 21'	のせる	B 21	はじまる	B 21'	おわる
A 22	もらう	A 22'	とどける	B 22	とぶ	B 22'	とまる
A 23	いく	A 23'	かえる	B 23	あう	B 23'	わかれる
A 24	さく	A 24'	ちる	B 24	はめる	B 24'	はずす
A 25	しる	A 25'	わすれる	B 25	さす	B 25'	ぬく
A 31	ほる	A 31'	うめる	B 31	のぼる	B 31'	おりる
A 32	あたえる	A 32'	うばう	B 32	あつめる	B 32'	ちらかす
A 33	つぶる	A 33'	あける	B 33	うごかす	B 33'	とめる
A 34	おくれる	A 34'	すすむ	B 34	おさえる	B 34'	はなす
A 35	かける	A 35'	あるく	B 35	かぶる	B 35'	ぬぐ
A 41	あたる	A 41'	はずれる	B 41	たずねる	B 41'	こたえる
A 42	しく	A 42'	たたむ	B 42	たたむ	B 42'	ひろげる
A 43	はいる	A 43'	でる	B 43	なぐる	B 43'	なでる
A 44	はらう	A 44'	もらう	B 44	ふやす	B 44'	へらす
A 45	くわえる	A 45'	へらす	B 45	みえる	B 45'	かくれる
A 51	うまれる	A 51'	しぬ	B 51	うる	B 51'	かう
A 52	おしえる	A 52'	ならう	B 52	あげる	B 52'	おろす
A 53	かける	A 53'	はずす	B 53	しかる	B 53'	ほめる
A 54	うつ	A 54'	ぬく	B 54	ちがう	B 54'	(同じ)
A 55	まもる	A 55'	せめる	B 55	にげる	B 55'	おう
A 61	まく	A 61'	とく	B 61	つく	B 61'	はなれる
A 62	よせる	A 62'	はなす	B 62	あがる	B 62'	おりる
A 63	ふくらむ	A 63'	しばむ	B 63	むすぶ	B 63'	とく
A 64	のぼす	A 64'	まげる	B 64	おぼれる	B 64'	たすかる
A 65	あげる	A 65'	もらう	B 65	わかれる	B 65'	つづく
A 71	ひろがる	A 71'	せばまる	B 71	かつぐ	B 71'	おろす
A 72	よごれる	A 72'	(きれいになる)	B 72	ある	B 72'	(ない)
A 73	はなれる	A 73'	つく	B 73	のぼす	B 73'	ちぢめる
A 74	ねかす	A 74'	おこす	B 74	さわぐ	B 74'	(静かにする)
A 75	まぜる	A 75'	わける	B 75	教える	B 75'	たずねる

C 11	なく	C 11'	わらう	D 11	ぬぐ	D 11'	きる
C 12	かつ	C 12'	まける	D 12	ひく	D 12'	おす
C 13	うかぶ	C 13'	しずむ	D 13	つける	D 13'	けす
C 14	ふとる	C 14'	やせる	D 14	いれる	D 14'	だす
C 15	やぶる	C 15'	はる	D 15	いじめる	D 15'	かわいがる
C 21	たたく	C 21'	なでる	D 21	とじる	D 21'	あける
C 22	もす	C 22'	けす	D 22	あたためる	D 22'	ひやす
C 23	あがる	C 23'	おりる	D 23	こわす	D 23'	なおす
C 24	ひろう	C 24'	すてる	D 24	つかまえる	D 24'	にがす
C 25	つなぐ	C 25'	はなす	D 25	ふる	D 25'	やむ
C 31	にがす	C 31'	ころす	D 31	あける	D 31'	くれる
C 32	あまる	C 32'	(たりない)	D 32	はしる	D 32'	あるく
C 33	おく	C 33'	とる	D 33	おくる	D 33'	むかえる
C 34	おる	C 34'	つなぐ	D 34	かかる	D 34'	なおる
C 35	きる	C 35'	はる	D 35	きれる	D 35'	つながる
C 41	さす	C 41'	つぼめる	D 41	しめる	D 41'	はなす
C 42	つつむ	C 42'	あける	D 42	いく	D 42'	くる
C 43	にぎる	C 43'	はなす	D 43	よろこぶ	D 43'	かなしむ
C 44	やる	C 44'	もらう	D 44	あずける	D 44'	うけとる
C 45	だす	C 45'	しまう	D 45	うける	D 45'	なげる
C 51	かれる	C 51'	しげる	D 51	おこる	D 51'	わらう
C 52	でかける	C 52'	もどる	D 52	かく	D 52'	よむ
C 53	かたまる	C 53'	とける	D 53	きく	D 53'	はなす
C 54	しばる	C 54'	ほどく	D 54	すう	D 54'	はく
C 55	つむ	C 55'	おろす	D 55	たおす	D 55'	おこす
C 61	せおう	C 61'	おろす	D 61	あらう	D 61'	しばる
C 62	かける	C 62'	ふく	D 62	ほす	D 62'	たたむ
C 63	なめる	C 63'	たべる	D 63	にる	D 63'	わかす
C 64	ならべる	C 64'	しまう	D 64	やく	D 64'	あげる
C 65	かく	C 65'	けす	D 65	あむ	D 65'	かける
C 71	さく	C 71'	しぼる	D 71	ひく	D 71'	たたく
C 72	おちる	C 72'	のる	D 72	ふく	D 72'	たらす
C 73	かく	C 73'	ぬる	D 73	うたう	D 73'	おどる
C 74	しかる	C 74'	あやまる	D 74	そらす	D 74'	まげる
C 75	なげる	C 75'	うつ	D 75	とぶ	D 75'	ころぶ

第4項 テストの構成

		A	B	C	D
対	語	↓	↓	↓	↓
対	文	↓	↓	↓	↓
対	発 語	↓	↓	↓	↓
	誘導発語	↓	↓	↓	↓
絵	語 認 知	↓	↓	↓	↓

A, B, C, Dはテスト異なり語, 220語を均等に4分割したものであり, 各被調査者は所定の1種につき, 対語, 対文, 対絵の各テストを受けることになります。*

対語テスト

- ・全語(4対10~13語)について行います。
- ・反応が基準語以外の語(○, ×, ×)は補充の余白欄にその語を登録し, 新しい語反応が出なくなるまでテストをくりかえします。

対文テスト

- ・全文(6対12~18文)について行います。
- ・反応が基準語以外の語(○, ×, ×)は補充の余白欄にその語を含む文を登録し, 新しい語反応が出なくなるまでテストをくりかえします。

対絵テスト

1. 発 語 全絵(35対70絵)について行い, 必要な動詞を自発的に言わせませす。
2. 誘導発語 発語テストのうち, 基準語反応(○)をのぞく他のすべての語について, 対の絵動詞を誘導しながら行います。
3. 語 認 知 誘導発語テストのうち, 基準語反応(○)をのぞく他のすべての語について, 対の絵動詞を呈示しながら, 必要な絵図を指示させませす。

対語・対文テストは動詞に関連した単語・単語の系の中に位置づけて理解しているかどうかを調べるものであり, 対絵テストは動詞をそれが指示する事象と結びつけて理解しているかどうかを調べるものであります。

* A, B, C, Dの各群の中で, さらに各テストの対の順序を逆にしてテストするAr, Br, Cr, Dr 群を設けた。

第5項 テストの方法

1 個別テスト

所定の教示にしたがい、幼児にひとりずつ次の順で個別にテストします。

- 対語 } 口頭で必要な語反応を求めます。
 対文 }
 ↓ 対絵—絵図を呈示しながら必要な語反応を求めます。
 また、絵図の認知を求めます。

2 所要時間

時間の制限は設けませんが、だいたい、全体に要する時間は30～40分です。各幼児の心身の疲労の状態により、休憩を入れるとかして適宜、気分転換を工夫してください。

第6項 正誤の判定基準と記録のとり方

1 判定基準*

テスト		記号				
		○	◐	⊗	×	N
対語	対語	当該の基準語形式による反応* (幼児音を含む)	当該の基準語以外の形式による反応で、⊗, ×, N以外のもの (幼児語, 方言を含む)	意味的に正しく「～+ナイ」形式による反応	意味に誤りのある反応	無答(知らないを含む)
	対文	上に同じ*	上に同じ	上に同じ	上に同じ	上に同じ
対	発語	上に同じ*	上に同じ	上に同じ	上に同じ	上に同じ
	誘導発語	上に同じ*	上に同じ	上に同じ	上に同じ	上に同じ
絵	語認知	正しい指摘			誤った指摘	上に同じ

* 対語、対文の基準語は基本形で呈示してあります。

対絵の基準語は「～テイル」という形式で呈示してありますが、発語テストの場合、基本形で答えても基準語と同じであると認めます。

2 記録のとりかた

(1) 調査員は幼児に問いかけながら、次のことを記録しておいてください。

* ○, ◐, ⊗, ×及びNの判定基準段階は、第1次基準段階であり、最終的には15段階に細分された(124ページ参照)。

1. 幼児の反応を → 反応欄に記入
2. その反応の正誤を → 記号で正誤欄に記入

ただし、2 についての最終的な判定は国立国語研究所が行いますから、判定に困難な場合には記入しないでください。1 の幼児の反応だけは忠実に記録しておいてください。

- (2) 幼児の反応はすべてのテストの場合、反応欄に正確に 片カナ で記入していただきますが、幼児音で反応した場合(ツク→チュク)はその発音のまま片カナ表記をしてください。
- (3) 反応が正反応 (基準語形式による反応であれば、正誤欄に○と書くだけで、必ずしも反応欄に記入する必要はありません。

3 記録票

3 枚

テストの前後に、3 枚の記録票について、園名、幼児名、調査日、調査者氏名をお忘れなく記入してください。それから、その他の事項はテストが終了後に園側の協力を得て記録票を完成してください。

第 7 項 各テストの実施要領

実施要領は A 種のテストを例に説明します。B, C, D の各テストはこれに準じます。

対語テスト

(1) 教示

「これから先生といろんなことばを言って遊びましょう。まず、先生と、反対のことばを集めましょう。オオキイの反対は？ コドモ→?, キライ→?, このようにやるのですよ。」

以上の手順で幼児が納得できなければ、「先生がオオキイと言ったら、○○ちゃんはチイサイと言うのです。先生がチイサイと言ったら、○○ちゃんはオオキイと言うのです」という教示にふりかえてください。

「では、ツク の反対は？」(先生がツクと言ったら?)……(以下同じ)。

(2) 呈示順序

1. つく→4. ぬぐ→1' 1. きえる→4' 3. かよう→(補充語)

(3) 教示上の注意

1. 教示はあくまで刺激語だけにかぎり、「何かがつくの反対は？」という言い方はしないでください。
2. 「アゲル」などのように 2 個以上の反対語が予想されるものについては、「そう、そのほかに、まだアゲルの反対のことばがありますか」とたずねる。誤反応については「うん、そうかな？」と軽く疑問をなげかけて答をうながすようにしてください。
3. 「ツク」の反対語は「クツ」と答えた場合は導入法の不備であるから練習をくりかえしてください。

さい。

4. 「ツク」の反対語を「ツカナイ」と答えた場合は、「ナイ」をつけなくて、ほかに反対のことばはないかな、と注意をうながしてください。

〔補充テストについて〕

幼児の答えのうち、基準語以外の反応語(○, ×, ×)については、それらを補充テストの刺激語として、記録票の空欄に登録し、基準語以外の反応がなくなるまで、上記のテスト手順をくりかえしてください。

(4) 記録の例

刺激語	反応語	正誤
1. あげる	アゲナイ	×
	イタダク	○
~~~~~		
補 あげない	アゲル	記入不要
いただく	N	

対文テスト

(1) 教示

「こんどは先生が短いお話を言いますから、反対のお話をつくって遊びましょう。〈おとなはオーキイ、では子どもは[?]〉、このようにやるのですよ。」

「では、あかりが[ツク]の反対は、あかりが[?]」(先生があかりがツクと言ったら、あかりが[?])…(以下同じ)。

(2) 呈示順序

11 あかりがつく→43 帽子をぬぐ→1'1 あかりがきえる→4'3 帽子をかぶる→(補充文)

(3) 教示上の注意

1. 原則として、幼児には動詞だけ答えさせればよいようにしましょう。たとえば「旗を上にあげるの反対は、旗を下に[?]」という教示のしかたを守ること。幼児によっては、話を先取りして、旗の上にアゲルの反対は、旗ヲ上ニサゲ?と混乱することがありますからご注意ください。他の諸注意は対語テストに準ずる。

〔補充テストについて〕

幼児の答えのうち、基準文以外の反応語(○, ×, ×)については、それらを補充テストの刺激文として、記録票の空欄に登録し、基準語以外の反応がなくなるまでテストをくりかえします。

(4) 記録の例

	刺激文	反応語	正誤
1-1	あかりがつく	ヒカル キエル	○
補	あかりがひかる	ケース*	記入不要
補	あかりをけす*	ツケル	記入不要
補	あかりをつける	ケース**	記入不要

* ケスは〈あかりが[?]〉でできた反応ではありますが、刺激の文としては〈あかりをけす〉として登録してください。

** 最下段のケースは刺激文としてすでに登録されていますから、ここでの系列のテストは終わることになります。

対絵テスト1 発語テスト

(1) 教示

「こんどは先生がおもしろいいろいろな絵をふたつずつ反対のことをしている絵を見せますから、何をしている絵か教えてください。」

(A11 およびA11'の絵を示しながら)「こっちは男の人がバスに[?]、こっちは男の人がバスから[?](幼児の答えを待つ)

(2) 呈示順序

A11—A11' → A75—A75' → 誘導発語

(3) 誘導発語に移行させるもの

発語テストで基準反応(○)以外の問題はすべて誘導発語に移行させてテストを行います。

対絵テスト2 誘導発語テスト

(1) 教示

「こんどは先生が片方の絵は何をしている絵か教えますから、もうひとつの絵は反対に何をしているかを教えてください。」

[A11が発語テストで○以外の反応があった時]

(A11'の方を示しながら)「こっちは男の人がバスからオリテイルでしょう。だから、(A11を示しながら)こっちは男の人がバスに[?](幼児の答えを待ちます)。

(2) 呈示順序

A11 → A75 → A11' → A75' → 語認知

(3) 語認知に移行させるもの

誘導発語テストで基準反応(○)以外の問題はすべて語認知に移行させてテストを行います。

### 対絵テスト3 語認知テスト

#### (1) 教示

「こんどは先生が○○している絵はどれですかとたずねますから、その絵を探して指でさしててください。」

[A11が誘導発語テストで○以外の反応であった時]

(A1のページを示しながら)「この中で、〈何かにノッテル〉ところの絵はどれですか。」(幼児の指示を待ちます)

#### (2) 呈示順序

A11→A75→A11'→A75'

ただし、1ページでテストすべき語が相接してある場合は互いの順序を逆にして行ってください。

#### (3) 問題の呈示例

A71 ナニカガ ヒロガッテイル絵ハ?  
 B15 ナニカニ スワッテイル絵ハ?  
 B45 ナニカカラ ミエテイル絵ハ?  
 B65 ナニカニ ワカレテイル絵ハ?  
 C13 ナニカニ ウカンデイル絵ハ?  
 C31 ナニカカラ ニガシテイル絵ハ?  
 C32 ナニカガ アマッテイル絵ハ?  
 C33 ナニカニ オイテイル絵ハ?  
 D44 ナニカデ ヨロコンデイル絵ハ?  
 D51 ナニカデ オコッテイル絵ハ?  
 D74 ナニカラ ソランテイル絵ハ?

A51' ナニカガ シンデイル絵ハ?  
 A71' ナニカガ セバマッテイル絵ハ?  
 B15' ナニカニ タッテイル絵ハ?  
 B45' ナニカニ カクレテイル絵ハ?  
 B65' ナニカガ ツヅイテイル絵ハ?  
 C13' ナニカニ シズンデイル絵ハ?  
 C31' ナニカデ コロンテイル絵ハ?  
 C32' ナニカガ タリナイ絵ハ?  
 C33' ナニカカラ トッテイル絵ハ?  
 C44' ナニカデ カナンデイル絵ハ?  
 D51' ダレカガ ワラッテイル絵ハ?  
 D74' ナニカラ マゲテイル絵ハ?

すべて、動詞に隣接するヲ、ニ、ガをもって呈示し、また、ナニが人の場合には、ダレカという呈示に変えてください。

#### (4) 記録のとり方

番号	絵	発語		誘導発語		語認知	
		反対	正誤	反応	正誤	反応	正誤
A11	男の人が バスに (ノッテイル)	ノル	○				
A12	靴を (ハイテイル)	ミセテル	×	ハイテイル	○		
A13	男の人が 旗を (アゲテイル)	モッテル		ミセテル		A13	○

1. 反応は現在形、過去形などちがった形で出ることがありますが、正誤には関係しません。
2. 語認知の反応欄の記入には絵番号を書きこんでください。

第8項 記録用紙

岩 仙 東 京 和 手 台 京 都 山		No.
------------------------	--	-----

就学前児童の語彙力調査 1969

動詞テスト

記録票 1

A(対語・対文)

( ) 歳児クラス

国立国語研究所

刺 激 語	反 応 語	正 誤	刺 激 語	反 応 語	正 誤
1 つ く (点)			1'-1 きえる (消)		
2 あげる (上)			2'-1 さげる (下)		
			2'-2 おろす (下)		
			2'-3 もらう		
3 おりる (降)			3'-1 の る (乗)		
			3'-2 あがる (上)		
4 ぬ ぐ (脱)			4'-1 は く (履)		
			4'-2 き る (着)		
			4'-3 かぶる		

(注) 調査幼児のうち、Ar, Br, Cr, Drの各群だけは呈示順序が逆になる。

<Arの場合> 対語テスト 1'-1 → 4'-3 → 1 → 4 → (補充語)

対文テスト 1'-1 → 4'-3 → 1-1 → 4-3 → (補充語)

園名	幼稚園	
幼児名		男 女

No.
-----

調査日	昭和 年 月 日	幼児年齢	歳 月	保育年数	年
生年月日	昭和 年 月 日生	調査者氏名			

刺激文	反応語	正誤	刺激文	反応語	正誤
1-1 あかりがつく			1'-1 あかりがきえる		
2-1 旗を上にあげる			2'-1 旗を下にさげる		
2-2 本をタナにあげる			2'-2 本をタナからおろす		
2-3 おかしを友だちにあげる			2'-3 おかしを友だちからもらう		
3-1 バスからおりる			3'-1 バスにのる		
3-2 お部屋から庭におりる			3'-2 庭からお部屋にあがる		
4-1 靴をぬぐ			4'-1 靴をはく		
4-2 洋服をぬぐ			4'-2 洋服をきる		
4-3 帽子をぬぐ			4'-3 帽子をかぶる		

対絵テスト 発語 A11'-A11 → A75'-A75 → 誘導発語

誘導 A11'-A75' → A11 → A75 → 語認知

認知 A11'-A75' → A11 → A75

岩 仙 東 京 和 手 台 京 都 山	No.
------------------------	-----

就学前児童の語彙力調査 1969

動詞テスト

記録票 2

A(対絵)

( ) 歳児クラス

国立国語研究所

番号	絵	発 語		誘 導 発 語		語 認 知	
		反 応	正 誤	反 応	正 誤	反 応	正 誤
A 11	男の人がバスに(ノッテイル)	-----		-----		-----	
A 12	靴を (ハイテイル)	-----		-----		-----	
A 13	男の子が旗を(アゲテイル)	-----		-----		-----	
A 14	あかりが (ツイテイル)	-----		-----		-----	
A 15	電車の中が (コンデイル)	-----		-----		-----	
A 21	おかあさんが 赤ん坊を車から(オロシテイル)	-----		-----		-----	
A 22	男の子が ほうびを (モラッテイル)	-----		-----		-----	
A 23	友だちと家から幼稚園に(イク)	-----		-----		-----	
A 24	花が (サイテイル)	-----		-----		-----	
A 25	男の子はその人の名前を(シッテイル)	-----		-----		-----	
A 31	土をシャベルで(ホッテイル)	-----		-----		-----	
A 32	おかあさんが 子どもにお金を(アタエテイル)	-----		-----		-----	
A 33	目を (ツブッテイル)	-----		-----		-----	
A 34	左の時計は 真中の時計より(オクレテイル)	-----		-----		-----	
A 35	馬が (カケテイル)	-----		-----		-----	
A 41	矢が的に (アタッテイル)	-----		-----		-----	
A 42	男の子がふとんを(シイテイル)	-----		-----		-----	
A 43	左の男の人はお風呂に(ハイッテイル)	-----		-----		-----	
A 44	店の人に リンゴのお金を(ハラッテイル)	-----		-----		-----	
A 45	さじで砂糖を(クワエテイル)	-----		-----		-----	

園名	幼稚園		No.
幼児名		男女	

調査日	昭和	年	月	日	幼児年齢	歳	月	保育年数	年
生年月日	昭和	年	月	日生	調査者氏名				

番号	絵	発語		誘導発語		語認知	
		反応	正誤	反応	正誤	反応	正誤
A 11'	男の人がバスから(オリテイル)	-----		-----		-----	
A 12'	靴を (ヌイテイル)	-----		-----		-----	
A 13'	男の子が旗を(サゲテイル)	-----		-----		-----	
A 14'	あかりが (キエテイル)	-----		-----		-----	
A 15'	電車の中が (スイテイル)	-----		-----		-----	
A 21'	おかあさんが 赤ん坊を車に(ノセテイル)	-----		-----		-----	
A 22'	男の子が おとしものの傘を(トドケテイル)	-----		-----		-----	
A 23'	友だちと幼稚園から家に(カエル)	-----		-----		-----	
A 24'	花びらが (チツテイル)	-----		-----		-----	
A 25'	男の子は その人の名前を(ワスレテイル)	-----		-----		-----	
A 31'	土の中にアリを(ウメテイル)	-----		-----		-----	
A 32'	泥棒が 子どもからお金を(ウバツテイル)	-----		-----		-----	
A 33'	目を (アケテイル)	-----		-----		-----	
A 34'	右の時計は 真中の時計より(ヌスンデイル)	-----		-----		-----	
A 35'	馬が (アルイテイル)	-----		-----		-----	
A 41'	矢が的から (ハズレテイル)	-----		-----		-----	
A 42'	男の子がふとんを(クタンデイル)	-----		-----		-----	
A 43'	右の男の人はお風呂から(デテイル)	-----		-----		-----	
A 44'	店の人からおつりを(モラツテイル)	-----		-----		-----	
A 45'	さじで砂糖を(ヘラシテイル)	-----		-----		-----	

岩 仙 東 京 和 手 台 京 都 歌 山	No
--------------------------	----

就学前児童の語彙力調査 1969

動詞テスト

記録票 3

A(対絵)

( ) 歳児クラス

国立国語研究所

番号	絵	発 語		誘 導 発 語		語 認 知	
		反 応	正 誤	反 応	正 誤	反 応	正 誤
A 51	たまごからひよこが(ウマレテイル)	-----		-----		-----	
A 52	姉さんは妹に ピアノのひきかたを(オシエテイル)	-----		-----		-----	
A 53	姉さんががくを壁に(カケテイル)	-----		-----		-----	
A 54	机の上に釘を(ウツテイル)	-----		-----		-----	
A 55	男の人が味方の陣地を(マモツテイル)	-----		-----		-----	
A 61	足にほうたいを(マイテイル)	-----		-----		-----	
A 62	椅子のそばに腰かけを(ヨセテイル)	-----		-----		-----	
A 63	風船が(フクランデイル)	-----		-----		-----	
A 64	男の子が手を(ノバシテイル)	-----		-----		-----	
A 65	女の子は 男の子におかしを(アゲテイル)	-----		-----		-----	
A 71	道が先にいって(ヒロガツテイル)	-----		-----		-----	
A 72	手が (ヨゴレテイル)	-----		-----		-----	
A 73	右の男の子は 左の男の子から(ハナレテイル)	-----		-----		-----	
A 74	おかあさんが赤ん坊を(ネカシテイル)	-----		-----		-----	
A 75	白のごいしと 黒のごいしを(マゼテイル)	-----		-----		-----	

園名	幼稚園	
幼児名		男女

No.
-----

調査日	昭和 年 月 日	幼児年齢	歳 月	保育年数	年
生年月日	昭和 年 月 日生	調査者氏名			

番号	絵	発 語		誘 導 発 語		語 認 知	
		反 応	正 誤	反 応	正 誤	反 応	正 誤
A 51'	ひよこが2匹(シンデイル)	-----		-----		-----	
A 52'	妹は姉さんから ピアノのひきかたを(ナラッテイル)	-----		-----		-----	
A 53'	姉さんががくを壁から(ハズシテイル)	-----		-----		-----	
A 54'	机の上の釘を(ヌイテイル)	-----		-----		-----	
A 55'	男の人が敵の陣地を(セメテイル)	-----		-----		-----	
A 61'	足のほうたいを(トイテイル)	-----		-----		-----	
A 62'	椅子から蹴かけを(ハナシテイル)	-----		-----		-----	
A 63'	風船が (シボンデイル)	-----		-----		-----	
A 64'	男の子が手を(マゲテイル)	-----		-----		-----	
A 65'	男の子は 女の子からおかしを(モラッテイル)	-----		-----		-----	
A 71'	道が先について(セバマッテイル)	-----		-----		-----	
A 72'	洗って手が(キレイニナッテイル)	-----		-----		-----	
A 73'	右の男の子は 左の男の子のそばに(ツイテイル)	-----		-----		-----	
A 74'	おかあさんが赤ん坊を(オコシテイル)	-----		-----		-----	
A 75'	ごいしを白と黒に(ワケテイル)	-----		-----		-----	

岩 仙 東 京 和 手 台 京 都 山	No.
------------------------	-----

就学前児童の語彙力調査 1969

動詞テスト

記録票 1

B(対語・対文)

( ) 歳児クラス

国立国語研究所

刺 激 語	反 応 語	正 誤	刺 激 語	反 応 語	正 誤
1 うごく(動)			1'-1 とまる(止)		
2 おとす(落)			2'-1 ひろう(拾)		
3 さす(刺)			3'-1 ぬく(抜)		
			3'-2 すほめる		
			4'-1 しめる(閉)		
			4'-2 くれる(暮)		
4 あける(開)					
(明)					

園名	幼稚園		
幼児名		男女	

No.	
-----	--

調査日	昭和	年	月	日	幼児年齢	歳	月		年
生年月日	昭和	年	月	日生	調査者氏名				

刺激文	反応語	正誤	刺激文	反応語	正誤
1-1 おもちゃの車が動く			1'-1 おもちゃの車がとまる		
2-1 おかあさんがお皿をおとす			2'-1 おかあさんがお皿をひろう		
3-1 針をさす			3'-1 針をぬく		
3-2 かさをさす			3'-2 かさをすぼめる		
4-1 箱のふたをあける			4'-1 箱のふたをしめる		
4-2 夜があける			4'-2 日がくれる		

岩 仙 東 京 和 手 台 京 都 歌 山	No.
-----------------------------	-----

就学前児童の語彙力調査 1969

動詞テスト

記録票 2

B(対絵)

( ) 歳児クラス

国立国語研究所

番号	絵	発 語		誘 導 発 語		語 認 知	
		反 応	正 誤	反 応	正 誤	反 応	正 誤
B 11	箱のふたを(アケテイル)	-----		-----		-----	
B 12	男の子が(オキテイル)	-----		-----		-----	
B 13	おかあさんが皿を床に(オトシテイル)	-----		-----		-----	
B 14	せんたくものが(カワイテイル)	-----		-----		-----	
B 15	おばさんがたたみの上に (スワッテイル)	-----		-----		-----	
B 21	幕があがって劇が(ハジマッテイル)	-----		-----		-----	
B 22	鳥が空を(トンデイル)	-----		-----		-----	
B 23	女の子が道で先生に(アッテイル)	-----		-----		-----	
B 24	指輪を指に(ハメテイル)	-----		-----		-----	
B 25	虫に針を(サシテイル)	-----		-----		-----	
B 31	男の子が木に(ノホッテイル)	-----		-----		-----	
B 32	男の子がほうきで 落葉を(アツメテイル)	-----		-----		-----	
B 33	電池で車を(ウゴカシテイル)	-----		-----		-----	
B 34	おかあさんが口を手で(オサエテイル)	-----		-----		-----	
B 35	男の子が帽子を(カブッテイル)	-----		-----		-----	
B 41	先生は生徒に(タズネテイル)	-----		-----		-----	
B 42	ハンケチが(タタンテアル)	-----		-----		-----	
B 43	右の男の子が友だちを(ナグッテイル)	-----		-----		-----	
B 44	水をいれて バケツの水を(フヤシテイル)	-----		-----		-----	
B 45	月が雲の間から(ミエテイル)	-----		-----		-----	

園名	幼稚園		No.
幼児名		男女	

調査日	昭和	年	月	日	幼児年齢	歳	月	保育年数	年
生年月日	昭和	年	月	日生	調査者氏名				

番号	絵	発語		誘導・発語		語認知		
		反	応	正誤	反	応	正誤	反
B 11'	箱のふたを(シメテイル)	-----		-----		-----		
B 12'	男の子が(ネテイル)	-----		-----		-----		
B 13'	おかあさんが床の皿を(ヒロツテイル)	-----		-----		-----		
B 14'	せんたくものが(ヌレテイル)	-----		-----		-----		
B 15'	おばさんがたたみの上に(クツテイル)	-----		-----		-----		
B 21'	幕がおりて劇が(オワツテイル)	-----		-----		-----		
B 22'	鳥が木に(トマツテイル)	-----		-----		-----		
B 23'	女の子が道で先生と(ワカレテイル)	-----		-----		-----		
B 24'	指輪を指から(ハズシテイル)	-----		-----		-----		
B 25'	箱の釘を(ヌイテイル)	-----		-----		-----		
B 31'	男の子が木から(オリテイル)	-----		-----		-----		
B 32'	男の子がほうきで 落葉を(チラカシテイル)	-----		-----		-----		
B 33'	手で車を(トメテイル)	-----		-----		-----		
B 34'	おかあさんが 口から手を(ハナシテイル)	-----		-----		-----		
B 35'	男の子が帽子を(ヌイデイル)	-----		-----		-----		
B 41'	生徒は先生に(コタエテイル)	-----		-----		-----		
B 42'	ハンケチが(ヒロゲテアル)	-----		-----		-----		
B 43'	男の子が犬の頭を(ナデテイル)	-----		-----		-----		
B 44'	水をこぼして バケツの水を(ヘラシテイル)	-----		-----		-----		
B 45'	月が雲の中に(カクレテイル)	-----		-----		-----		

岩 仙 東 京 和 手 台 京 都 歌 山	No.
--------------------------	-----

就学前児童の語彙力調査 1969

動詞テスト

記録票 3

B(対絵)

( ) 歳児クラス

国立国語研究所

番号	絵	発 語		誘 導 発 語		語 認 知	
		反 応	正 誤	反 応	正 誤	反 応	正 誤
B 51	やおやおじさんは 野菜を(ウツテイル)	-----		-----		-----	
B 52	おとうさんが本をたなに(アゲテイル)	-----		-----		-----	
B 53	おかあさんが子どもを(シカッテイル)	-----		-----		-----	
B 54	象と犬とは大きさが(チガッテイル)	-----		-----		-----	
B 55	猫は犬から(ニゲテイル)	-----		-----		-----	
B 61	船が岸に (ツイテイル)	-----		-----		-----	
B 62	おかあさんが 庭から縁側に(アガッテイル)	-----		-----		-----	
B 63	靴のひもを(ムスンデイル)	-----		-----		-----	
B 64	男の子が川で(オホレテイル)	-----		-----		-----	
B 65	道が先の方で2本に(ワカレテイル)	-----		-----		-----	
B 71	男の人が荷物を肩に(カツイデイル)	-----		-----		-----	
B 72	こちらには本が(アル)	-----		-----		-----	
B 73	亀が首を (ノバシテイル)	-----		-----		-----	
B 74	教室でみんなが(サワイデイル)	-----		-----		-----	
B 75	おまわりさんは女の子に 道を (オシエテイル)	-----		-----		-----	

園名	幼稚園	
幼児名		男女

No.
-----

調査日	昭和 年 月 日	幼児年齢	歳 月	保育年数	年
生年月日	昭和 年 月 日生	調査者氏名			

番号	絵	発語		誘導発語		語認知	
		反応	正誤	反応	正誤	反応	正誤
B 51'	おきゃくさんは野菜を(カッテイル)	-----		-----		-----	
B 52'	おとうさんが 本をたなから(オロシテイル)	-----		-----		-----	
B 53'	おかあさんが子どもを(ホメテイル)	-----		-----		-----	
B 54'	小犬と猫とは大きさが(オナジ)	-----		-----		-----	
B 55'	犬は猫を(オツテイル)	-----		-----		-----	
B 61'	船が岸から(ハナレテイル)	-----		-----		-----	
B 62'	おかあさんが 縁側から庭に(オリテイル)	-----		-----		-----	
B 63'	靴のひもを(トイテイル)	-----		-----		-----	
B 64'	男の人のおかげで 男の子は (タスカッテイル)	-----		-----		-----	
B 65'	道が先にいっても 一本で (ツヅイテイル)	-----		-----		-----	
B 71'	男の人が荷物を肩から(オロシテイル)	-----		-----		-----	
B 72'	こちらには本が(ナイ)	-----		-----		-----	
B 73'	亀が首を (チヂメテイル)	-----		-----		-----	
B 74'	教室でみんなが(シズカニシテイル)	-----		-----		-----	
B 75'	女の子はおまわりさんに 道を (タズネテイル)	-----		-----		-----	

岩 仙 東 京 和 手 台 京 都 歌 山	No.
--------------------------	-----

就学前児童の語彙力調査 1969

動詞テスト

記録票 1

C(対話・対文)

( ) 歳児クラス

国立国語研究所

刺 激 語	反 応 語	正 誤	刺 激 語	反 応 語	正 誤
1 しばる			1'-1 ほどく		
2 入れる(入)			2'-1 だす(出)		
3 おろす(下)			3'-1 つむ(積)		
			3'-2 のせる(乗)		
4 あがる(上)			4'-1 おりる(降)		
			4'-2 さがる(下)		

園名	幼稚園		No.
幼児名		男女	

調査日	昭和 年 月 日	幼児年齢	歳 月	保育年数	年
生年月日	昭和 年 月 日生	調査者氏名			

刺激文	反応語	正誤	刺激文	反応語	正誤
1-1 ひもで手をしばる			1'-1 手のひもをほどく		
2-1 箱にお人形を いれる			2'-1 箱からお人形を だす		
3-1 車から荷物を おろす			3'-1 車に荷物をつむ		
3-2 赤ん坊を車から おろす			3'-2 赤ん坊を車に のせる		
4-1 階段をあがる			4'-1 階段をおりる		
4-2 テストの成績が あがる			4'-2 テストの成績が さがる		

岩 仙 東 京 和 手 台 京 都 歌 山	No.
-----------------------------	-----

就学前児童の語彙力調査 1969

動詞テスト

記録票 2

C(対絵)

( ) 歳児クラス

国立国語研究所

番号	絵	発 語		誘 導 発 語		語 認 知	
		反 応	正 誤	反 応	正 誤	反 応	正 誤
C 11	男の子が (ナイテイル)	-----		-----		-----	
C 12	こっちのおすもうさんは(カッテイル)	-----		-----		-----	
C 13	ボートが川の上に(ウカンデイル)	-----		-----		-----	
C 14	左の人は (フトッテイル)	-----		-----		-----	
C 15	男の子が障子の紙を(ヤブイテイル)	-----		-----		-----	
C 21	女の子が おかあさんの肩を(タタイテイル)	-----		-----		-----	
C 22	マッチで紙を(モシテイル)	-----		-----		-----	
C 23	女の子が階段を(アガッテイル)	-----		-----		-----	
C 24	男の子が紙くずを(ヒロッテイル)	-----		-----		-----	
C 25	犬をくさりに(ツナイテイル)	-----		-----		-----	
C 31	ネズミを ネズミとりから(ニガシテイル)	-----		-----		-----	
C 32	リンゴをひとつずつくばっても まだふたつ(アマッテイル)	-----		-----		-----	
C 33	花びんを机の上に(オイテイル)	-----		-----		-----	
C 34	木の枝を手で(オッテイル)	-----		-----		-----	
C 35	紙をはさみで(キッテイル)	-----		-----		-----	
C 41	男の子が傘を(サシテイル)	-----		-----		-----	
C 42	風呂敷に品物を(ツツンデイル)	-----		-----		-----	
C 43	鉄棒を手で (ニギッテイル)	-----		-----		-----	
C 44	女の子は犬にえさを(ヤッテイル)	-----		-----		-----	
C 45	箱から人形を(ダシテイル)	-----		-----		-----	

園名	幼稚園		No
幼児名		男女	

調査日	昭和 年 月 日	幼児年齢	歳 月	保育年数	年
生年月日	昭和 年 月 日生	調査者氏名			

番号	絵	発語		誘導発語		語認知	
		反応	正誤	反応	正誤	反応	正誤
C 11'	男の子が (ワラッテイル)	.....		.....		.....	
C 12'	こっちのおすもうさんは(マケテイル)	.....		.....		.....	
C 13'	ボートが川の底に(シズンデイル)	.....		.....		.....	
C 14'	右の人は (ヤセテイル)	.....		.....		.....	
C 15'	お姉さんが障子の紙を(ハッテイル)	.....		.....		.....	
C 21'	先生が男の子の頭を(ナデテイル)	.....		.....		.....	
C 22'	お湯で火を (ケシテイル)	.....		.....		.....	
C 23'	女の子が階段を(オリテイル)	.....		.....		.....	
C 24'	男の子が紙くずを(ステテイル)	.....		.....		.....	
C 25'	犬をくさりから(ハナシテイル)	.....		.....		.....	
C 31'	熊を鉄砲でうって(コロシテイル)	.....		.....		.....	
C 32'	リンゴをひとつずつくばったので まだふたつ(タリナイ)	.....		.....		.....	
C 33'	花びんを机の上から(トッテイル)	.....		.....		.....	
C 34'	木の枝をひもで(ツナイデイル)	.....		.....		.....	
C 35'	紙をセロテープで(ハッテイル)	.....		.....		.....	
C 41'	男の子が傘を(ツボメテイル)	.....		.....		.....	
C 42'	風呂敷包みを(アケテイル)	.....		.....		.....	
C 43'	鉄棒から手を(ハナシテイル)	.....		.....		.....	
C 44'	犬は女の子からえさを(モラッテイル)	.....		.....		.....	
C 45'	箱に人形を (シマッテイル)	.....		.....		.....	

岩 仙 東 京 和 手 台 京 都 歌 山	No.
--------------------------	-----

就学前児童の語彙力調査 1969

動詞テスト

記録票 3

C(対絵)

( ) 歳児クラス

国立国語研究所

番号	絵	発 語		誘 導 発 語		語 認 知	
		反 応	正 誤	反 応	正 誤	反 応	正 誤
C 51	木の葉が (カレテイル)	-----		-----		-----	
C 52	おかあさんが買物に(デカケテイル)	-----		-----		-----	
C 53	氷が (カタマツテイル)	-----		-----		-----	
C 54	手をひもで (シバツテイル)	-----		-----		-----	
C 55	荷物を車に (ツンデイル)	-----		-----		-----	
C 61	おかあさんが赤ん坊を(セオツテイル)	-----		-----		-----	
C 62	男の子がお湯をからだに(カケテイル)	-----		-----		-----	
C 63	男の子があめを(ナメテイル)	-----		-----		-----	
C 64	おかあさんがお茶碗を(ナラベテイル)	-----		-----		-----	
C 65	鉛筆で字を (カイテイル)	-----		-----		-----	
C 71	朝顔の花が (サイテイル)	-----		-----		-----	
C 72	男の人が馬から(オチテイル)	-----		-----		-----	
C 73	鉛筆で手紙を(カイテイル)	-----		-----		-----	
C 74	先生は男の子を(シカツテイル)	-----		-----		-----	
C 75	男の子がボールを(ナゲテイル)	-----		-----		-----	

園名	幼稚園		No.
幼児名		男女	

調査日	昭和	年	月	日	幼児年齢	歳	月	保育年数	年
生年月日	昭和	年	月	日生	調査者氏名				

番号	絵	発語		誘導発語		語認知	
		反応	正誤	反応	正誤	反応	正誤
C 51'	木の葉が (シゲッテイル)	-----		-----		-----	
C 52'	おかあさんが買物から(モドッテイル)	-----		-----		-----	
C 53'	雪だるまが (トケテイル)	-----		-----		-----	
C 54'	手のひもを (ホドイテイル)	-----		-----		-----	
C 55'	荷物を車から(オロシテイル)	-----		-----		-----	
C 61'	おかあさんが赤ん坊を(オロシテイル)	-----		-----		-----	
C 62'	男の子が タオルでからだを(ファイテイル)	-----		-----		-----	
C 63'	男の子がごはんを(タベテイル)	-----		-----		-----	
C 64'	おかあさんがお茶碗を(シマッテイル)	-----		-----		-----	
C 65'	ゴムで字を (ケシテイル)	-----		-----		-----	
C 71'	朝顔の花が (シボンデイル)	-----		-----		-----	
C 72'	男の人が馬に(ノッテイル)	-----		-----		-----	
C 73'	クレヨンで色を(ヌッテイル)	-----		-----		-----	
C 74'	男の子は先生に(アヤマッテイル)	-----		-----		-----	
C 75'	男の子がボールを(ウッテイル)	-----		-----		-----	

岩 仙 東 京 和 手 台 京 都 歌 山	No.
-----------------------------	-----

就学前児童の語彙力調査 1969

動詞テスト

記録票 1

D(対話・対文)

( ) 歳児クラス

国立国語研究所

刺 激 語	反 応 語	正 誤	刺 激 語	反 応 語	正 誤
1 にかす			1'-1 つかまえる		
2 なげる			2'-1 うけとる		
3 おこす(起)			3'-1 ねかす(寝)		
			3'-2 たおす(倒す)		
4 い く(行)			4'-1 く る(来)		
			4'-2 かえる(帰)		

園名	幼稚園	
幼児名		男女

No.
-----

調査日	昭和 年 月 日	幼児年齢	歳 月	保育年数	年
生年月日	昭和 年 月 日生	調査者氏名			

刺激文	反応語	正誤	刺激文	反応語	正誤
1-1 トンボをにがす			1'-1 トンボをつかまえる		
2-1 ボールをなげる			2'-1 ボールをうけとる		
3-1 赤ちゃんをおこす			3'-1 赤ちゃんをねかす		
3-2 木をおこす			3'-2 木をたおす		
4-1 こっちから むこうへいく			4'-1 むこうから こっちへくる		
4-2 幼稚園に行く			4'-2 幼稚園からかえる		

岩 仙 東 京 和	No
手 台 京 都 山	

就学前児童の語彙力調査 1969

動詞テスト

記録票 2

D(対絵)

( ) 歳児クラス

国立国語研究所

番号	絵	発 語		誘 導 発 語		語 認 知	
		反 応	正 誤	反 応	正 誤	反 応	正 誤
D 11	男の子が洋服を(ヌイテイル)	-----		-----		-----	
D 12	おかあさんが うばぐるまを(ヒイテイル)	-----		-----		-----	
D 13	マッチでろうそくに火を(ツケテイル)	-----		-----		-----	
D 14	バケツに水を (イレテイル)	-----		-----		-----	
D 15	男の子が犬を (イジメテイル)	-----		-----		-----	
D 21	女の子が門の扉を(トジテイル)	-----		-----		-----	
D 22	手をストーブで(アタクメテイル)	-----		-----		-----	
D 23	三輪車を (コワシテイル)	-----		-----		-----	
D 24	トンボをあみで(ツカマエテイル)	-----		-----		-----	
D 25	雨が (フツテイル)	-----		-----		-----	
D 31	夜が (フケテイル)	-----		-----		-----	
D 32	男の人が (ハシッテイル)	-----		-----		-----	
D 33	飛行機で外国に行く おとうさんを(オクツテイル)	-----		-----		-----	
D 34	男の子が病気に(カカッテイル)	-----		-----		-----	
D 35	黒い線が (キレテイル)	-----		-----		-----	
D 41	女の子がバンドを(シメテイル)	-----		-----		-----	
D 42	男の子がむこうへ(イッテイル)	-----		-----		-----	
D 43	男の子が 飛行機をもって(ヨロコンデイル)	-----		-----		-----	
D 44	男の子が 駅の人に荷物を(アズケテイル)	-----		-----		-----	
D 45	男の子がボールを(ウケテイル)	-----		-----		-----	

園名	幼稚園	
幼児名		男女

No.
-----

調査日	昭和 年 月 日	幼児年齢	歳 月	保育年数	年
生年月日	昭和 年 月 日生	調査者氏名			

番号	絵	発語		誘導発語		語認知	
		反応	正誤	反応	正誤	反応	正誤
D 11'	男の子が洋服を(キテイル)	-----		-----		-----	
D 12'	おかあさんが うばぐるまを(オシテイル)	-----		-----		-----	
D 13'	息でろうそくの火を(ケシテイル)	-----		-----		-----	
D 14'	バケツから水を(ダシテイル)	-----		-----		-----	
D 15'	男の子が犬を(カワイガッテイル)	-----		-----		-----	
D 21'	女の子が門の扉を(アケテイル)	-----		-----		-----	
D 22'	頭を氷で (ヒヤシテイル)	-----		-----		-----	
D 23'	三輪車を (ナオシテイル)	-----		-----		-----	
D 24'	トンボをあみから(ニガシテイル)	-----		-----		-----	
D 25'	雨が (ヤンデイル)	-----		-----		-----	
D 31'	日が (クレテイル)	-----		-----		-----	
D 32'	男の人が (アルイテイル)	-----		-----		-----	
D 33'	飛行機で外国から帰った おとうさんを(ムカエテイル)	-----		-----		-----	
D 34'	男の子の病気が(ナオッテイル)	-----		-----		-----	
D 35'	黒い線が (ツナガッテイル)	-----		-----		-----	
D 41'	女の子がバンドを(ハズシテイル)	-----		-----		-----	
D 42'	男の子がこっちに(キテイル)	-----		-----		-----	
D 43'	男の子が 飛行機をこわして(カナシンデイル)	-----		-----		-----	
D 44'	男の子が 駅の人から荷物を(ウケトッテイル)	-----		-----		-----	
D 45'	男の子がボールを(ナゲテイル)	-----		-----		-----	

岩 仙 東 京 和 手 台 京 都 歌 山		No.
--------------------------	--	-----

就学前児童の語彙力調査 1969

動詞テスト

記録票 3

D(対絵)

( ) 歳児クラス

国立国語研究所

番号	絵	発 語		誘 導 発 語		語 認 知	
		反 応	正 語	反 応	正 誤	反 応	正 誤
D 51	おじさんは ガラスをこわされて(オコッテイル)	-----		-----		-----	
D 52	男の子が手紙を(カイテイル)	-----		-----		-----	
D 53	おとうさんはラジオを(キイテイル)	-----		-----		-----	
D 54	男の人がたばこを(スッテイル)	-----		-----		-----	
D 55	台風が木を (タオシテイル)	-----		-----		-----	
D 61	おかあさんが着物を(アラッテイル)	-----		-----		-----	
D 62	おかあさんが着物を(ホシテイル)	-----		-----		-----	
D 63	おなべでおかずを(ニテイル)	-----		-----		-----	
D 64	あみで餅を (ヤイテイル)	-----		-----		-----	
D 65	おかあさんが 毛糸のセーターを(アンデイル)	-----		-----		-----	
D 71	女の人がピアノを(ヒイテイル)	-----		-----		-----	
D 72	男の子が笛を(フイテイル)	-----		-----		-----	
D 73	みんなでうたを(ウタッテイル)	-----		-----		-----	
D 74	女の人が からだをうしろに(ソラシテイル)	-----		-----		-----	
D 75	男の人が (トンデイル)	-----		-----		-----	

園名	幼稚園		No.
幼児名		男女	

調査日	昭和	年	月	日	幼児年齢	歳	月	保育年数	年
生年月日	昭和	年	月	日生	調査者氏名				

番号	絵	発語		誘導発語		語認知	
		反応	正誤	反応	正誤	反応	正誤
D 51'	男の子が (ワラッテイル)	-----		-----		-----	
D 52'	女の子が手紙を(ヨンデイル)	-----		-----		-----	
D 53'	女の子がおかあさんに 幼稚園のことを(ハナシテイル)	-----		-----		-----	
D 54'	男の人がたばこの煙を(ハイテイル)	-----		-----		-----	
D 55'	男の人が木を(オコシテイル)	-----		-----		-----	
D 61'	おかあさんが着物を(シボッテイル)	-----		-----		-----	
D 62'	おかあさんが着物を(クタンデイル)	-----		-----		-----	
D 63'	やかんでお湯を(ワカシテイル)	-----		-----		-----	
D 64'	おなべでてんぷらを(アゲテイル)	-----		-----		-----	
D 65'	おかあさんが 洋服にアイロンを(カケテイル)	-----		-----		-----	
D 71'	男の人がたいこを(タタイテイル)	-----		-----		-----	
D 72'	手で鈴を (ナラシテイル)	-----		-----		-----	
D 73'	女の子がダンスを(オドッテイル)	-----		-----		-----	
D 74'	女の子がからだを前に(マゲテイル)	-----		-----		-----	
D 75'	男の人が (コロンデイル)	-----		-----		-----	

## 第4節 言語生活アンケート調査

本調査の語彙力調査と関連させて、全被調査者の家庭に対して、「お子さんの言語生活についてのアンケート」調査を、昭和43及び44年度について行った。これは全被調査者の言語生活を中心にした諸特性を明らかにするとともに、語彙力テスト諸結果との交差分析に利用された。また、別に被調査者の通園する幼稚園の規模・性格及び保育方針に関する簡単な「幼稚園アンケート調査」を昭和43及び44年度について行った。

これらの諸アンケート調査のうち、昭和43年度「お子さんの言語生活についてのアンケート」調査用紙をあげることにする。昭和44年度の同上アンケートは昭和43年度のものに必要部分（V お子さんの活動の項は除く）は全く同一である。また幼稚園に対するアンケートは特に本報告の分析の対象にしなかったので省略することにした。

### 昭和43年度 お子さんの言語生活についてのアンケート

国立国語研究所

#### I お子さんのことについておたずねいたします。

- (1) お子さんのなまえ ( )
- (2) 性 別 (男 女)
- (3) 生年月日 昭和 年 月 日生
- (4) 現在の幼稚園に入園したのは 昭和 年 月
- (5) 現在の幼稚園に入る前に他の幼稚園、保育園に入っていたことがありますか。  
A ない  
B ある  
↳その園に入ったのは(昭和 年 月)
- (6) 今までに、大きな病気をしたことは  
A ない  
B ある→その病名は ( )
- (7) 字やなにかをかく時、鉛筆をどちらの手にもっていますか。  
A 右 B 左 C 両方

#### II ご家族のことについておたずねいたします。

- (1) 本人といっしょに生活している家族の方を○印でかこんでください。また、兄弟、使用人には( )の中にその人数を入れてください。

1. 祖父 2. 祖母 3. 父 4. 母 5. 兄 ( )人 6. 姉 ( )人  
(本人) 7. 弟 ( )人 8. 妹 ( )人 9. その他の家族の人 ( )人  
10. 使用人 ( )人 11. その他 ( )人 計 ( )人

(2) 省略

(3) 省略

(4) お父さん、お母さんは、両方とも働いていらっしゃいますか。(共働きですか)

A はい B いいえ

(5) お父さん、お母さんの年齢は

父 ( )歳 母 ( )歳

(6) お子さんが幼稚園から帰ったあと、夕方までその子のめんどうをみるのは主としてだれですか。○印をつけてください。

1. 祖父 2. 祖母 3. 父 4. 母 5. 兄姉 6. その他家族 7. お手伝いさん  
8. その他 ( )

(7) お兄さん、お姉さんがある家庭についてだけおたずねいたします。

すぐ上の方は (1. 兄 2. 姉)

その方と本人はどのくらい、年がひらいていますか。

( )歳 ( )か月

### Ⅲ お宅の生活についておたずねします。

(1) 省略

(2) 省略

(3) 省略

(4) お子さん(とくに本人)用の絵本、雑誌、漫画本は、月に何冊ぐらい買っていますか。(幼稚園を通して購入するのを含めて)

( )冊ぐらい

### Ⅳ お子さんのこのごろの家庭での生活についておうかがいします。

「はい」「いいえ」のいずれかに○印をつけてください。また( )の中に記入してください。

- 1) テレビは毎日かかさずみている。 はい いいえ  
2) 毎日ではないが、好きな番組はよくみている。 はい いいえ  
3) たまにみる程度 はい いいえ  
4) テレビは全然みない。 はい いいえ  
5) 平均して1日どのくらいテレビをみますか。( )時間 ( )分

- |                                                                                                            |    |     |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|
| 6) 絵本や漫画は毎日みている。                                                                                           | はい | いいえ |
| 7) 絵本や漫画は毎日ではないが、よくみている。                                                                                   | はい | いいえ |
| 8) 絵本や漫画は買って来た時だけで、あとはもうみない。                                                                               | はい | いいえ |
| 9) 絵本や漫画はたまにみている程度                                                                                         | はい | いいえ |
| 10) 絵本や漫画は全然みない                                                                                            | はい | いいえ |
| 11) 物語りの本（単行本）もよく読む                                                                                        | はい | いいえ |
| 12) 毎週か、毎月きまって、特定の先生について何か「おけいこ」<br>をしていますか。                                                               | はい | いいえ |
| その内容 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ピアノ、バレエ、英語、習字、絵、その他（<input type="text"/>）</span> |    |     |
| 13) お宅には電話がありますか。                                                                                          | はい | いいえ |
| 14) （前の問で「はい」と答えた人だけ）お子さんは電話のベルがな<br>ったとき、その対応に出ることがありますか。                                                 | はい | いいえ |
| 15) お子さんはなぞなぞ遊びをしますか。                                                                                      | はい | いいえ |
| 16) お子さんには幼児音（先生をシェンシェというなど）が残って<br>いますか。                                                                  | はい | いいえ |
| 17) お子さんは、だんまり、とおしゃべりと分けた場合、どちらか<br>といえばおしゃべりの方ですか。                                                        | はい | いいえ |
| 18) お子さんは、家の中で遊ぶより外で遊ぶ方が好きですか。                                                                             | はい | いいえ |

V このごろ(ここ1～2か月)のお子さんの活動についておたずねします。「はい」または「いいえ」のどちらかに○印をつけてください。(ここ1～2か月の間の様子についてたずねているのですから、それにかぎってお答え願います。)

- |                                                             |    |     |
|-------------------------------------------------------------|----|-----|
| 1. ここ1～2か月の間に「この字なんて読むの」という質問をはじ<br>めた。                     | はい | いいえ |
| 2. ひらがなについて「この字なんて読むの」という質問をよくして<br>いる。                     | はい | いいえ |
| 3. 新聞やカンパンまたはテレビの画面の中に自分の名前の字をみつ<br>けて、これは自分の字だといってよろこんでいる。 | はい | いいえ |
| 4. 家族のものが何か書いていると、鉛筆と紙をほしがり、字以外の<br>何かをしきりにかく。              | はい | いいえ |
| 5. 本を読んでくれとしきりにせがむ。                                         | はい | いいえ |
| 6. 字には、まだ、あまり関心がないようだ。                                      | はい | いいえ |
| 7. 駅のなまえや、かんぱんの字に関心をもって質問する。                                | はい | いいえ |

- |                                                          |    |     |
|----------------------------------------------------------|----|-----|
| 8. しりとり遊びをおぼえた。                                          | はい | いいえ |
| 9. 自分で簡単なお話をかいたり、手紙をかいたりする。                              | はい | いいえ |
| 10. ひらがなはもうみんなおぼえてしまって、このごろ、かたかなや漢字について「これはなんと読むの」と質問する。 | はい | いいえ |
| 11. 絵本にかいてある文章を声を出して大きな声で読んでいる。                          | はい | いいえ |
| 12. 文や本を読むとき、だまって読んでいる。                                  | はい | いいえ |
| 13. 自分のなまえだけでなく、家族のものなまえをかいたりする。                         | はい | いいえ |
| 14. 新聞のテレビ番組欄から自分の好きな番組名をさがす。                            | はい | いいえ |
| 15. 字に対する関心が強く、なんでもともかく読もうとしている。                         | はい | いいえ |
| 16. 本を与えるとき「読んでくれ」とせがむのではなく、自分で読むようになった。                 | はい | いいえ |

VI お子さんのことばや生活について、おかあさんはどのような扱いをしていますか。「はい」「いいえ」のいずれかに○印をつけてください。

- |                                         |    |     |
|-----------------------------------------|----|-----|
| 1. 文字は特別に指導しないで、子どもが自然におぼえるのにまかせている。    | はい | いいえ |
| 2. 漫画(かいじゅう・おぼけ)の本は見ることを禁じている。          | はい | いいえ |
| 3. よく、子どもといっしょに絵本を読んだり、聞かせたりする。         | はい | いいえ |
| 4. 童話は特別に聞かせないで、幼稚園にまかせている。             | はい | いいえ |
| 5. 乱暴なことば、下品なことばを使ったときは、そのつどたしなめている。    | はい | いいえ |
| 6. 悪いことをしたときは、「ごめんなさい」と言わせるようにしている。     | はい | いいえ |
| 7. 朝のあいさつ(オハヨウなど)はいつも言わせるようにしている。       | はい | いいえ |
| 8. 寝るときのあいさつ(オヤスミナサイなど)はいつも言わせるようにしている。 | はい | いいえ |
| 9. 「きょう、幼稚園で何があったの？」ということはずねるようにしている。   | はい | いいえ |
| 10. 子どもがどんなテレビ番組を見るかどうかは子どもの自由にまかせている。  | はい | いいえ |
| 11. テレビを見ながら食事をすることは禁じている。              | はい | いいえ |
| 12. 食事のときは家族みんなが話題を出し合うようにしている。         | はい | いいえ |
| 13. おとなの世界についてのむずかしい質問(性、ストライキ、政治       |    |     |

のこと)にはとり合わないようになっている。 はい いいえ  
14. 子どものなぞなぞ遊びには、いっしょに相手になるようにしてい  
る。 はい いいえ

---

(どうもありがとうございました)

昭和 年 月 日 (母, 父, その他〔 〕) が記入しました。

## 第5節 被験者と特性

本調査のうち、性状語テストは東京、宮城(仙台)、岩手の3地域の18幼稚園194名、時間・空間語テストは東京、京都、和歌山の3地域の18幼稚園228名、動詞テストのうち、A群は東京、宮城(仙台)、岩手、京都、和歌山の5地域の30幼稚園184名の4歳児クラス、5歳児クラスの幼児について実施した(27~41ページおよび58ページ参照)。調査地域の選定で、東京、宮城、京都については都市部、そして岩手、和歌山については特に郡部と指定し、調査園を決定した。そして、各園から4歳児クラス、5歳児クラスの幼児を、性状語テストでは10~11名、時間・空間語テストでは12~13名、動詞Aテストでは6~7名を無作為に抽出し、被調査者にした。

そして、各被調査者の特性に関しては、各テスト終了後、被調査者の親に対して別紙(94~98ページ)のアンケート調査を行った。なお、別に知能テストの実施も考えられたが、幼児の知能テストの結果には必ずしも信頼性が高くないので、アンケートに含めた言語生活の諸事項をもって、知能テストに代わるものとし、被調査者の特性とした。そこで、以下にアンケート項目にしたがって、その特性を述べるが、2-5-1表は性状語テスト、時間・空間語テスト及び動詞Aテストの3群間における被調査者の各項目での有意差の有無を、 $\chi^2$ 検定によって調べたものである。

2-5-1 表 アンケート項目の有意差( $\chi^2$ )

	$\chi^2$	df	p		$\chi^2$	df	p
1. 性別	0.012	2	—	16. 稽古ごとをする	2.411	2	0.30
2. 年齢	9.061	2	0.05*	17. 電話に出る	2.439	2	0.30
3. 保育年数	14.483	2	0.01**	18. なぞなぞをする	1.544	2	0.50
4. 病 気	6.023	2	0.05*	19. 幼児音が残る	0.119	2	0.95
5. 家族数	3.749	2	0.20	20. おしゃべりである	5.172	2	0.10
6. 兄弟数	5.152	2	0.10	21. 外の遊びが好き	0.196	2	0.95
7. 共働き	0.965	2	0.70	22. 読み方の質問	0	1	—
8. 父の年齢	2.753	2	0.30	23. ひらがなの質問	0.120	1	0.95
9. 母の年齢	6.625	2	0.05*	24. 名前の字を見つける	0.088	1	0.95
10. 面倒を見る人	4.620	2	0.10	25. 本読みをせがむ	5.225	1	0.05*
11. 兄 姉	25.441	2	0.01**	26. 文字に関心がない	4.328	1	0.05*
12. 子どもの本	2.299	2	0.50	27. 駅名の質問	3.490	1	0.10
13. テレビを見る	5.040	2	0.10	28. しりとりをする	0.049	1	0.90
14. 漫画本を見る	0.042	2	0.95	29. 話や手紙を書く	1.360	1	0.30
15. 物語の本を読む	3.410	2	0.20	30. かたかな・漢字	2.170	1	0.20

31. 声を出して読む	1.564	1	0.30	40. 乱暴なことば	2.967	2	0.30
32. 黙 読	0.234	1	0.70	41. 朝のあいさつ	0.243	2	0.90
33. 家族の名前を書く	0.934	1	0.50	42. 寝るときのあいさつ	1.761	2	0.50
34. 好みの番組名	3.051	1	0.10	43. 外での経験	0.950	2	0.70
35. 字に対する関心	2.147	1	0.20	44. テレビ番組	2.701	2	0.30
36. 自分で読む	0.218	1	0.70	45. テレビと食事	0	2	—
37. 文字は自然に	0.958	2	0.70	46. 食事のときの話題	0.877	2	0.70
38. 絵 本	4.665	2	0.10	47. むずかしい質問	0	2	—
39. 童 話	5.752	2	0.10	48. なぞなぞ遊びの相手	1.231	2	0.70

## 1. 性

被調査者の人数の割合は男46.4～48.4%，女51.6～53.6%である。

## 2. 年 齢

大部分の被調査者は4：6～6：6の年齢範囲内にあるが、性状語テストに比較して、時間・空間語テストは調査期が2～3か月おくれたため、その分だけ被調査者の年齢が高くなっている。

## 3. 保育年数

大部分が1年及び2年保育であるが性状語テストの被調査者の方が1年保育に占める割合が高い。

## 4. 他の幼稚園の経験の有無

大部分が他の幼稚園の経験はなく、他の幼稚園の経験がある被調査者は性状語テストで4.6%，時間・空間語テストで6.1%である。

## 5. 病気の経験

病気の経験者は全体の5.7（時間・空間語テスト）～12.5（動詞テスト）%を占めているが、大部分の被調査者には病気の経験はない。

## 6. 利 手

大部分が右手利きであり、左または両方という回答は全体の6.6～10.3%である。

## 7. 家族人数

4人以下の回答が38.2～44.8%，6人以下の回答が全体の78.8～80.7%を占めている。

## 8. 兄弟姉妹数

大部分が2人であり、1人は全体の9.2～13.9%，3人以上は12.9～21.8%を占めている。

## 9. 両親の共働き

共働きという回答は全体の23.9～28.8%である。

## 10. 父の年齢

大部分の父親の年齢は31～41歳の間であり、全体の76.7～81.0%を占めている。

## 11. 母の年齢

大部分の母親の年齢は26～35歳の間にあり、69.3～79.4%を占めている。時間・空間語テストの被調査者の母親の年齢はテスト時期が2～3か月おそいため、31歳以上の年齢の占める割合が高い。

#### 12. 面倒を見る人

母が最も多く全体の76.3～84.3%、次いで祖母が8.2～13.9%となっている。

#### 13. すぐ上の兄姉の有無

すぐ上に兄姉がある被調査者は全体の43.8～54.3%を占め、そのうち、兄があるとの回答は全体の37.6～54.5%、姉があるとの回答は全体の42.7～62.4%を占め、テスト間では、性状語テストに特に姉を持つ被調査者が多い。

#### 14. 子どもの本

4冊の範囲内で購入すると回答したものが大部分で、全体の83.5～90.2%を占めている。

#### 15. 家庭生活

テレビ関係では、毎日見ると回答したものは全体の89.9～93.5%を占め、テレビを見る時間は、1時間以上3時間以下が大部分を占めている。絵本・漫画は毎日見ると回答したものは50.0～53.1%を占め、物語の本もよく読むと回答したものは43.5～48.7%を占めている。何かの稽古ごとは26.3～33.8%のものがし、電話の対応に出ると回答したものは42.3～59.2%を占め、なぞなぞ遊びは80.4～85.3%のものがしている。被調査者の幼児音は8.2～9.2%と1割弱のものが残っていると回答している。被調査者がおしゃべりか否かの質問には、64.1～74.6%がハイと回答し、外遊びが好きか否かの質問には、68.5～71.1%がハイと回答している。

#### 16. 子どもの活動

子どもの活動面では、特に文字活動を取りあげて質問した。字の読み方の質問では、全体の53.4～66.2%がハイと回答し、ひらがなの読み方の質問では50.4～51.0%のものがハイと回答し、名前の字を見て喜ぶかの質問では、61.8～62.9%のものがハイと回答し、本を読んでくれとせがむかの質問では53.1～63.9%がハイと回答し、性状語テストの被調査者の方が高い割合を示している。

文字への関心の有無では、関心のないものは7.0～12.9%を占め、性状語テストの被調査者の方が高い割合を示している。駅名の看板には64.9～75.4%のものが関心を示し、しりとり遊びは66.0～69.3%のものが覚えたと回答し、簡単な話を手紙に書くことは約半数(47.9～52.6%)がハイと答え、かたかな・漢字の質問は6割前後(59.8～65.4%)のものがすると答えている。

さらに、6割のものは絵本を大きな声で読み、2～3割のものは字を黙って読んでいる。家族の名前については、約7割のものが書けると答え、3～4割のものが好みの番組名をさがし、6～7割のものが字に対する関心が強く、本を与えると自分で読むと回答している。

#### 17. 子どもの扱い方

主に言語生活上のしつけについて質問をした。文字は自然に覚えるのを待つかの質問には8～9割がハイと回答し、漫画の本は大部分が見せると回答し、絵本をいっしょに読むのは全体の65.8～

73.4%であり、童話を聞かせるのは幼稚園に任せると答えたのは全体の34.2~46.9%である。

悪いことばづかいを叱るかの質問には、全体の85.1~88.6%がハイと回答し、悪いときは大部分の家庭でごめんなさいと言わせている。朝のあいさつは67.9~70.6%の家庭で、寝るときのあいさつは76.3~79.9%の家庭でさせると回答している。外であったことをたずねるのは全体の73.9~79.4%の家庭でしている。

テレビを自由に見せると回答したのは全体の77.2~84.2%で、テレビを見ながらの食事を認めているのは56.0~57.7%である。食事のときの話題は54.3~61.3%の家庭が出すと回答し、むずかしい質問が出たときには全体の44.0~45.4%の家庭が無視すると回答し、さらになぞなぞ遊びの相手をするかの質問には大部分の家庭で子どもの相手をするると回答している。

そして、2-5-1表によれば、3テスト間で被調査者の特性に差が認められたのは、年齢、保育年数、病気の有無、母の年齢、兄弟関係のほか、子どもの活動の「本を読んでもくれとせがむ」「文字にはまだ関心がない」の2項目だけで、それ以外には3テスト間に差は認められない。ただし、動詞テストの被験者には、文字活動に関するアンケートを求めなかったため、その資料を欠いている。

しかし、特性間に有意差の認められたものでも、被調査者の年齢及び母の年齢差は性状語テスト及び時間・空間語テストの調査時期のずれに依存したことであるから、それを考えれば、ほとんど大部分の項目で、性状語、時間・空間語および動詞テスト間の被調査者の集団としての特性はほぼ等質と考えてよいであろう。

# 第3章 反応の判定基準

## 第1節 性状語

性状語テストにおける諸反応の判定基準段階は、当初第一次的に、28ページに示したように、大まかに5段階に分類しておいた。しかし、テスト結果の諸反応は、特にテストⅠ、Ⅱ、Ⅲにおいて第一次判定基準段階以上に精細に分類する必要が生じたので、最終的には次の14段階に分類した。そして、この判定基準段階の基本線は性状語テストに限らず、時間・空間語および動詞テストの判定基準段階の設定にも適用させることにした。

3-1-1表 性状語テストの反応コード番号、記号

	設問数	分反 類 数 応	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
地 域		3	岩 手	仙 台	東 京											
性 別		2	男	女												
年 齢		5	~ 4-11	5-0 ~ 5-5	5-6 ~ 5-11	6-0 ~ 6-5	6-6 ~ 6-11									
保育年数		4	1	2	3	4以上										
テストⅠ	26	14	○ ₁	○ ₂	⊙	○ ₁	○ ₂	⊙	⊗	×	× ₁	× ₂	× ₃	× ₄	N	NT
テストⅡ	32	14	○ ₁	○ ₂	⊙	○ ₁	○ ₂	⊙	⊗	×	× ₁	× ₂	× ₃	× ₄	N	NT
テストⅢ	32	14	○ ₁	○ ₂	⊙	○ ₁	○ ₂	⊙	⊗	×	× ₁	× ₂	× ₃	× ₄	N	NT
テストⅣ	32	4	○	×	N	NT										
テストⅤ	16	5	○	○	×	N	NT									
テストⅥ	12	4	○	×	N	NT										

テスト I, II, III

番号	記号	内 容
1	○ ₁	基準語による反応
2	○ ₂	基準語の幼児音による反応
3	⊙	異なる文脈であれば、○反応と認められる反応
4	○ ₁	基準語と同義による語反応
5	○ ₂	基準語と同義の方言, 幼児語による反応
6	⊙	異なる文脈での○反応
7	⊗	異なる文脈での「基準語の対語+ナイ」反応
8	×	「基準語の対語+ナイ」反応
9	× ₁	意味の異なる語反応
10	× ₂	音系列を逆にした反応
11	× ₃	事物連想による反応
12	× ₄	雑(N, NT および上記以外の諸反応)
13	N	無反応または「知らない」反応
14	NT	テストもれ [*]

テストIVおよびテストVI

番号	記号	内 容
1	○	正反応
2	×	誤反応 ^{**}
3	N	無反応または「知らない」反応
4	NT	テストもれ

テストV

番号	記号	内 容
1	○	正反応
2	○	正反応ながら, 一部を欠く
3	×	誤反応
4	N	無反応または「知らない」反応
5	NT	テストもれ

* テストもれとは、テストターの誤判断でテスト必要なしとされたり、また何らかの不注意で記録もれのあったものをさす。

** テストVIの場合の×反応には、一部を欠いたり、一部に順番の誤りがある反応を含む。

3-1-2 就学前児童の語彙力調査 性状語テスト <テストIの1> 反応の正誤判定例*

語	○		異なる文脈での○反応	□		異なる文脈での○反応	×	×				
	1 基準語形	2 幼児音		1 基準語と同義	2 方言・幼児語			意味上は○形式「～ナイ」	1 意味の異なるもの	2 音系列を逆にしたもの	3 事物連想	4 雑
大きい	オオキイ	オッキイ		デッカイ				チイサクナイ	オーイ, グカイ, ナガイ フトイ, ナガイノ		オサカナ	
小さい	サイコウチイサイ	チッチャイ チイチャイ チイサイ チッサイ						オオキクナイ				
多い	オオイ		イッパイ タクサン					スクナクナイ アンマリ スクナクナイ	オオキイ オッキイ イナイ			
少ない	スクナイ		スコシ スコシ チット		ペッコ (ベッコ)			オオクナイ オオイクナイ	チイサイ アツクナイ チツチャイ	イオ		
太い	フトイ				フトイ	デブッチョ		ホンクナイ	オウキイ, オッキイ サイコーナガイ, アツイ ナガイ	イソオ	ホソナガイキ	
細い	ホソイ				ホソコイ ホソカイ	ヤセッポイ ヤセテル ヤセ		フトクナイ	チイサイ, チーチャイ ミジカイ, フトクナクナイ スクナイ, ペッチャンコ			
最も大きい	モットモオオキイ	モットモ オッキイ		モットモ デッカイ				チイサクナイ	サイコウノホソイ サイコウナガイ, ナガイ チュウグライ		ビン	
最も小さい	モットモチイサイ	モットモ チッチャイ		イチバン チイサイ				オオキクナイ	モットモホソイ ミジカイ		チイサイイン アリ, ヤセテン	
濃い	コイ コイ コイ					アツイ		ウスクナイ	オモタイ, オオキイ フトイ, グカイ イッパイ, デツカイ		コイノホリ ツリザオデツル アカ	コイジ ナナイ
うすい	ウスイ							コクナイ	スクナイ, スコシ チイサイ	イコ		クル

* 空欄は判定例作成のための調査資料中にたまたま該当例がなかったことによる。以下同じ。

3-1-3表 就学前児童の語彙力調査 性状語テスト〈テストIの2〉反応の正誤判定例

語	○		○		異なる 文脈での 反応	異なる 文脈での 反応	異なる 文脈での 反応	□	×	×				
	1 基準語形式	2 幼児音	1 基準語と 同義	2 方言・幼児語						1 意味上は○○ 形式「～ナイ」	1 意味の異なるもの	2 音系列を 逆したもの	3 事物連想	4 雑
高	ikai									yasukunai anmari yasukunai takakunai	fuwai, ikai oosakai tesukkayasui		saikowezeniaru kyoutawone, shita yasetenno, betto jyusuwatteteru	
安	yasui				hikui					takakunai	tesukkayasui, sukunai honnochisai mijikai			itai
いちばん 多	ichiban otoi					ichiban itsubai ichiban takusan				ichibansuku nakunai	desukkai, takai oosukai, otoi sukunakunai mottototai itsubai			
いちばん 少ない	ichiban sukunai					ichiban sukunai				ichiban ooskunai	chisai, sukunai fuwai, chisai ichibanchikui ooskunai, soshin		daidokoro yasetenno	
厚	atsui				koi					usukunai anmari usukunai	oosukai, fuwai fuwai, yawai nagai, hirabettai			
薄	usui				tsumetai samui					atsukunai atsukunai	tesukkayasui, sukunai fuwai, nurui, honsoi namanurui, chyuugurai	itsupa		
広	hiroii				hirogaru					semakunai anmari semakunai	oosukai oosukai fuwai			katata katata
狭	semai					semai semekai (semakkoi) (semakkoi)				hirokunai	chisai, honsoi chisai, shikukai honsoi, sukunai kitsui			
高	takai									hikunai	oikui, nagai chyuugurai, hiroi oosukai		waku, wurutoraman yaseteru, yanonoweto oruganotakai okuroi shita	
低	hikui									takakunai	chisai, sukunai tesukkayasui, mijikai			

3-1-4表 就学前児童の語彙力調査 性状語テスト〈テストIの3〉反応の正誤判定例

語	○		異なる 文脈での ○ 反応	○		異なる 文脈での ○ 反応	☒	×	×			
	1 基準語 形式	2 幼児音		1 基準語 と同義	2 方言・ 幼児語				1 意味の異なるもの	2 音系列を 逆したもの	3 事物連想	4 雑
暑い	アツイ	アツツイ	アツタカイ						サムクナイ	ヌクイ	ストーブ	
寒い	サムイ		ツメタイ スズシイ	サブイ		シャッコイ ハッコイ			アツクナイ アツクナイ	スズシイ ヌルイ		アカイ
長い	ナガイ								ミジカクナイ	フトイ, フトッテル オオキイ, オッキイ チュウウグライ, オオイ ハンベロイ, オオイ	ヤセテル	イタイ
短い	ミジカイ	ミチカイ ミジナイ							ナガクナイ	チツチャイ, チイサイ ホソイ, ヒクイ ホソコイ, セマコイ スクナイ		
深い	フカイ								アサクナイ	タカイ, イカイ オオイ, イツバイ オオキイ	ウミ サイコウウミ	
浅い	アサイ			ヤサカイ アサクコイ					フカクナイ	チイサイ, クナイ スコシスコナイ コイ, ホソイ スコシ, ヒクイ ウスイ, セメカイ	イチバンシタ	カキ

3-1-5表 就学前児童の語彙力調査 性状語テスト <テストII~IIIの1> 反応の正誤判定例

カ ー ド	○		○		○		○		×		4 雑
	1 語	1 標準語形式	2 幼児音	1 異なる脈文での ○反応	1 基準語と同義	2 方言・ 幼児語	○ 異なる 文脈での ○反応	× 意味上は ○○形式 「~ ナイ」	1 意味の異なるもの	2 系列を 逆にし たもの	
1犬 人	大きい	オオキイ チイサイ	オッキイ チツチヤイ チツサイ チイチヤイ キイタイ		デッカイ				オオイ, ツヨイ, オモイ チュウグライ ヒクイ, カルイ ヨワイ		コツチガイイ
2り 人	小さい	オオキイ オオオイ オオオイ アタンオーイ			イツパイ タクサンアル				オオキイ オオキイ オモイ		イイ チコ
3竹	少ない	スクナイ フタツ スクナイ			スクイ チツコ ベッコ				チイサイ チツチヤイ チタリナイ カルイ		ココ ヒトツシカナイ
4太 竹	太い	フトイ チヨットイ フトイ			フットイ				オオキイ, ナガイ デツカイ, スコシオッキイ ハンガオオキイ ハンガオオキイ		イイ
5細	細い	ホンイ			ホンコイ ホンコイ				ミンカイ, ナガクナイ, チツチ ヤイ, スクナイ, チイサイ, ヒ クイ, ウスイ, モットチイサイ チヨツビリ, カルイ, セマイ, アツイ, タカイ, オモイ		コノグライ キテル
6犬 五 枚	最も 大きい	モットモ オオキイ モットモオ モッキイ			イチバンオオキイ イチバンテツカイ イチバンオオキイ モットモテツカイ				フトイ, オモイ, オオキイ, スコシオオキイ, コツチノホ ウカオオキイ, デツカイ, カラダカオオキイ オオキイオオカアサン		イツツ, イイ オーサマイ オーキサガ チガウ
7最も 小さい	最も 小さい	モットモ チイサイ			イチバン キータイ				ホンイ, カルイ チイサイ コツチノホーガチーサイ カラダカチイサイ		ヒトツ コツチ センブイ アカチヤン
8濃い 色	濃い	コイ			アツイ				オオイ, タカイ, カタイ オオキイ, イツパイ フトイ, イツパイツイテル		ケレイ, ピンク, コウガモ センブイ アカチヤン
9うすい	うすい	ウスイ							アツク ナイ		ケレイデナイ, ス ラサツナイ, アカ

3-1-6表 就学前児童の語彙力調査 性状語テスト <テストII~IIIの2> 反応の正誤判定例

カ ー ド	語	○		異なる 文脈での 反応	異なる脈 文での反応	<input checked="" type="checkbox"/>	意味上は ○○「~ 形式ナ イ」	1	2	×			
		1	2							1	2	3	4
		1	2							意味の異なるもの	2 系列を 逆にし たもの	3 事物連想	4 雑
6	果物類												
	高い	タカイ						ヤスクナイ	オオキイ, オカネガオオイ, イッパンオオキイ			コッチガイ	
	安い	ヤスイ ウンヤスイ					タカクナイ		チヤイヤイ, オカネガスクナイ, フツナイ, スクシチヤイ, スクシヒクイ, ベッコイ			フツッテル 30円 マロイ オモタイ	
7	りんご(5枚)	イオオ オオイ							イオオキイ, オオキイ, スククオオイ, ククオオイ, イッパンオオイ, モットモオオイ			オトーサン コッチガイ イッパン オオキイ	
	いちばん 多い	イオオ オオイ							イオオキイ, オオキイ, スククオオイ, ククオオイ, イッパンオオイ, モットモオオイ			ヒトツアル ヒトツ ツツスクナイ ヒトルイ カク ク	
	いちばん 少ない	イオオ オオイ							イオオキイ, オオキイ, スククオオイ, ククオオイ, イッパンオオイ, モットモオオイ			ヒトツアル ヒトツ ツツスクナイ ヒトルイ カク ク	
8	本	アツイ							イオオキイ, オオキイ, スククオオイ, ククオオイ, イッパンオオイ, モットモオオイ			イッパンヨメル	
	厚い	アツイ							イオオキイ, オオキイ, スククオオイ, ククオオイ, イッパンオオイ, モットモオオイ			イッパンヨメル	
	薄い	ウスイ							イオオキイ, オオキイ, スククオオイ, ククオオイ, イッパンオオイ, モットモオオイ			イッパンヨメル	
9	池	ヒロイ							イオオキイ, オオキイ, スククオオイ, ククオオイ, イッパンオオイ, モットモオオイ			イッパンヨメル	
	広い	ヒロイ							イオオキイ, オオキイ, スククオオイ, ククオオイ, イッパンオオイ, モットモオオイ			イッパンヨメル	
	狭い	セマイ							イオオキイ, オオキイ, スククオオイ, ククオオイ, イッパンオオイ, モットモオオイ			イッパンヨメル	
10	丸	オオキイ オオキイ							イオオキイ, オオキイ, スククオオイ, ククオオイ, イッパンオオイ, モットモオオイ			イッパンヨメル	
	大きい	オオキイ オオキイ							イオオキイ, オオキイ, スククオオイ, ククオオイ, イッパンオオイ, モットモオオイ			イッパンヨメル	
	小さい	チヤイヤイ							イオオキイ, オオキイ, スククオオイ, ククオオイ, イッパンオオイ, モットモオオイ			イッパンヨメル	

3-1-7表 就学前児童の語彙力調査 性状語テスト <テストII～IIIの3> 反応の正誤判定例

カード	語	○		異なる文脈での反応	1 基準語と義同	2 方言・幼児語	異なる文脈での反応	□	異なる文脈での反応	□	意味上は形式「～ナイ」	×		
		1 基準語形式	2 幼児音									1 意味の異なるもの	2 音列を逆にしたもの	3 事物連想
11	高い	タカイ		ナガイ チヨット オッキイ			デッカイ	□	ヒククナイ	ヒククナイ	イッパイ フトイ オモイ			コッチ
	低い	ヒクイ		ミジカイ チーチャイ			キータイ		ナガクナイ	タカクナイ	ヤスイ, ホソイ, カルイ, ナガク チッチャイ, ホソナガイ			コッチ
12	多い	オオイ			イッパイ タクサン	イッペー タクサン			スクナイ	スクナイ	サイコウアル, フカイ オッキイ, オモイ, フットイ			コイ
	少ない	スクナイ チヨット スクナイ	ツクナイ		スコシ, チ ヨビツ, スコシ ナ イ, チヨット	チ ツク シ ク イ ベツ コ			オオクナイ イッパイ デナイ	オオクナイ イッパイ デナイ	チーサイ, アサイ, ウ スイ, カルイ, アンマ リ ハイ イ ツ テ ナイ, ナン イ, タリナイ			
13	冷 暖 具 房	アツイ		ヌクイ アツタカイ							アツタカイ オッキイ ヌクイ, オソイ		アツク ナリタイ	
	寒い	サムイ サムイカラ		ツメタイ スズシイ		サンブイ サブイ			アツクナイ	アツクナイ	オツキイ, チイサイ スズシイ ハヤイ		カゼガ ビ ユ ツ テ ク ル コ ゲ チ ヤ ウ	
14	長い	ナガイ ナガスギル コツチ ウガナガイ		ホソナガイ			デッカイ		ミジカク ナイ	ミジカク ナイ	タカイ テ ア ブ チ ヨ イ フ ト イ オ モ イ		コッチガ イ イ	
	短い	ミジカイ	ミチカイ	チーサイ, ス コ シ ナ イ, チ イ タ イ イ, キ ー タ イ チ イ サ ス ギ ル オ オ イ			ホソ チ ッ チ ヤ イ		ナガクナイ	ナガクナイ	ホソコイ, ホソイ ヒクイ, スクナイ セマイ, カルイ		ヤスイ	
15	深い	フカイ					ミ ス カ イ イ ッ パ イ タ ク サ ン		アサクナイ アサイナイ	アサクナイ アサイナイ	オツキイ, ナガイ, アツ イ, タカイ, ヒロイ, コ イ, オ オ キ ク ナ ッ テ ル		オヨカ レ ル イ イ	
	浅い	アサイ		スクナイ ミ ズ チ ヨ ッ ク ナ イ	アサカイ チ ッ ト ア サ コ イ ア サ コ イ	アサカイ チ ッ ト ア サ コ イ ア サ コ イ	オオク ナイ	フカクナイ	フカクナイ	ヒクイ, ウスイ, セメイ, タリナイ ペッコ, セマイ, セバイ ミジカイ, キイ タイ		コノグ ラ イ キ ラ ル	タカイ	

3-1-8表 就学前児童の語彙力調査 性状語テスト <テストII~IIIの4> 反応の正誤判定例

カード	○		○		○		異なる文脈での反応	異なる文脈での反応	☒	意味上の形式「～ナイ」	×		
	1 基準語形式	2 幼児音	1 異なる文脈での基準語と同義	2 方言・幼児語	1 異なる文脈での反応	2 音系列を逆にしたもの					3 事物連想	4 雑	
16	広い	ヒロイ ハバヒロイ	フティ フトッテル	フティ フトッテル	フティ フトッテル モッア デッア デッア								
	狭い	セマイ ホソクテ セマイ ハバガセマイ	ホソイ チヨット チイサイ ハバホソイ チッチャイ キータイ										

3-1-9表 就学前児童の語彙力調査 性状語テスト <テストV・VI> 反応の正誤表

(テストV) パラメーターの分離

材料	語	反応	正誤	語	反応	正誤
1. ホース	長	3, 6, 9	4	太	1, 2, 3	3
		2, 5, 8	1		4, 5, 6, 7	
2. ボール紙	厚	4, 5, 6	5	大	2, 5, 8	3
		7, 8, 9	9		3, 6, 9, 7	
3. リボン	長	1, 2, 5, 8	1	広	1, 2, 3	3
		1, 4, 7	2		4, 7, 8, 9	
4. ビル	高	1, 2, 3	1	大	1, 9	3
		4, 5, 6	2		4, 8	

(テストVI) 系列化

カード	語	>	>	>	正誤	<	<	<	正誤
1. 丸	大小	1(2)(3)(4)(5)	2(3)(4)(5)	3(4)(5)	○	5(4)(3)(2)(1)	4(3)(2)(1)	3(2)(1)	○
2. コップ	多少	1(2)(3)(4)(5)	2(3)(4)(5)	3(4)(5)	○	5(4)(3)(2)(1)	4(3)(2)(1)	3(2)(1)	○
3. 池	広狭	1(2)(3)(4)(5)	2(3)(4)(5)	3(4)(5)	○	5(4)(3)(2)(1)	4(3)(2)(1)	3(2)(1)	○
4. りんご	多少	1(2)(3)(4)(5)	2(3)(4)(5)	3(4)(5)	○	5(4)(3)(2)(1)	4(3)(2)(1)	3(2)(1)	○
5. 犬	大小	1(2)(3)(4)(5)	2(3)(4)(5)	3(4)(5)	○	5(4)(3)(2)(1)	4(3)(2)(1)	3(2)(1)	○
6. 道	広狭	1(2)(3)(4)(5)	2(3)(4)(5)	3(4)(5)	○	5(4)(3)(2)(1)	4(3)(2)(1)	3(2)(1)	○

## 第 2 節 時間・空間語

時間・空間語テストにおける諸反応の判定基準段階は、当初は第一次的に、44ページに示したように、大まかに5段階に分類しておいた。しかし、テスト結果の諸反応は、特にテストⅠ、Ⅱ、Ⅲにおいて第一次判定基準段階以上に精細に分類する必要が生じたので、次の14段階に分類した。なお、この判定基準段階の基本線は性状語テストに準じて作成してある。

3-2-1表 時間・空間語テストの反応コード番号、記号

	設問数	反分類数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
地域		3	和歌山	京都	東京											
性別		2	男	女												
年齢		5	~4-11	5-0 ~5-5	5-6 ~5-11	6-6 ~6-5	6-6 ~6-11									
保育年数		4	1	2	3	4 以上										
テストⅠa	20	14	○ ₁	○ ₂	☐	○ ₁	○ ₂	☐	☒	×	×	×	×	×	N	NT
テストⅠb	14	13	○ ₁	○ ₂	☐	○ ₁	○ ₂	○ ₃	○ ₃	×	×	×	×	N	NT	
テストⅤ	8	4	○	×	N	NT										
テストⅡ	14	13	○ ₁	○ ₂	☐	○ ₁	○ ₂	○ ₃	○ ₄	×	×	×	×	N	NT	
テストⅢ	14	13	○ ₁	○ ₂	☐	○ ₁	○ ₂	○ ₃	○ ₄	×	×	×	×	N	NT	
テストⅣ	14	7	○	×	×	N ₁	N ₂	×	NT		NT					
テストⅥa1	5	9	○ ₁	○ ₂	○ ₃	×	×	×	×	N	NT					
2	5	9	○ ₁	○ ₂	○ ₃	×	×	×	×	N						
3	5	4	○	×	N	NT										
テストⅥb1	3	8	○ ₁	○ ₂	×	×	×	×	N	NT						
2	3	6	○	×	×	×	N	NT								
3	2	4	○	×	N	NT										
テストⅥc	8	4	○	×	N	NT										
テストⅥd	4	4	○	×	N	NT										

テスト I a

14判定基準の内容は性状語テストに準ずる。

番号	記号	内 容
1	○ ₁	基準語反応
2	○ ₂	基準語＋幼児語
3	<input checked="" type="checkbox"/>	異文脈での○反応
4	○ ₁	基準語と同義
5	○ ₂	方言・幼児語
6	<input checked="" type="checkbox"/>	異文脈での○反応
7	<input checked="" type="checkbox"/>	異文脈での「～ナイ」反応
8	×	「～ナイ」反応
9	× ₁	意味の誤反応
10	× ₂	音系列の逆反応
11	× ₃	事物連想反応
12	× ₄	雑反応
13	N	無反応
14	NT	テストもれ

テスト I b, II, III

番号	記号	内 容
1	○ ₁	基準語反応で、順序が正しい
2	○ ₂	幼児音による基準語反応で、順序が正しい
3	<input checked="" type="checkbox"/>	異文脈での○反応
4	○ ₁	基準語と同義で、順序が正しい
5	○ ₂	方言・幼児語反応で順序が正しい
6	○ ₃	基準語の系および順序は正しいが、一部に他語の混入がある反応
7	○ ₄	基準語の系を持つが、順序が混乱
8	× ₁	一部の基準語を欠くか挿入がある、また順序の混乱を含む
9	× ₂	意味の誤反応
10	× ₃	事物連想反応
11	× ₄	雑反応
12	N	無反応
13	NT	テストもれ

テスト I a の基準段階にあげた「～ナイ」反応(, ×) および音系列の逆反応は生起確率を無

視してよいと考えられたので除外した。

#### テストⅣ

番号	記号	内 容
1	○	正反応
2	× ₁	全部誤反応
3	× ₂	一部誤反応
4	N ₁	全部無反応
5	N ₂	一部無反応
6	×N	誤反応+無反応
7	NT	テストもれ

#### テストⅤ

番号	記号	内 容
1	○	基準語反応
2	×	〈前・後〉以外の反応
3	N	無反応
4	NT	テストもれ

#### テストⅥ a 1, 2

番号	記号	内 容
1	○ ₁	基準語反応
2	○ ₂	基準語と同義反応
3	○ ₃	基準語と類義反応
4	× ₁	前／過の使い誤り反応
5	× ₂	時刻認知の誤り
6	× ₃	事物連想反応
7	× ₄	離反応
8	N	無反応
9	NT	テストもれ

ただしテストⅥa 2は指示テストなので、1 ○₁の基準語反応は正反応を意味し、6 ×₄事物連想反応はありえないので項目から除外した。

#### テストⅥ a 3

番号	記号	内 容
1	○	正反応
2	×	誤反応

- 3 N 無反応
- 4 NT テストもれ

テスト VI b 1

番号	記号	内 容
1	○ ₁	基準語反応
2	○ ₂	基準語と同義反応
3	× ₁	日が誤反応
4	× ₂	時間が誤反応
5	× ₃	時間認知の誤り
6	× ₄	事物連想反応
7	N	無反応
8	NT	テストもれ

テスト VI b 2

番号	記号	内 容
1	○	日, 時間とも正反応
2	× ₁	日が誤または無反応, 時間が正反応
3	× ₂	日が正反応, 時間が誤または無反応
4	× ₃	日, 時間とも誤またはいずれかが無反応
5	N	日, 時間とも無反応
6	NT	テストもれ

テスト VI b 3, VI c, VI d

番号	記号	内 容
1	○	基準語反応
2	×	誤反応
3	N	無反応
4	NT	テストもれ

3-2-2表 就学前児童の語彙力調査 時間・空間語テスト <テストI aの1> 反応の正誤判定例

語	○		◎		◎		◎		⊗		×			
	1 基準語形式	2 幼児音	異なる文脈での反応	異なる文脈での反応	異なる文脈での反応	異なる文脈での反応	異なる文脈での反応	異なる文脈での反応	意味上は○○形式「～ナイ」	1 異なるもの	2 音系列を逆にしたもの	3 事物連想	4 雑	
前 / ウシロ	マエ											キシヤ ウシロムク	コノアイダ コトシ カルイ	
後ろ / マエ	ウシロ	オシロ								ミギ		ジドウシヤ セナカ		
先 / アト	サキ				セントウ ハジメ					マエ イマ		ハリ, ハヤイ スグ, アトアルク ユビ, アトアルク イグ,	ベットデアアルク アツチコッチ オモイ	
後 / サキ	アト				ウシロ					マエ キカ		オソイ ユックリ	ニンゲン アル ユビ	
上 / シタ	ウエ											フジサン アタマ ソラ	チイサイ チツチヤイノ オツキイ	
下 / ウエ	シタ									マエ ウラ		アシ ソコ	スナノナカデス	
縦 / ヨコ	タテ									シタ, ウラ, ウエ, マッスグ		タカイ, シカク ヒクイ	オニワ, アシ チイサイ オチチル スワル	
横 / タテ	ヨコ									ウエ, ヒタリ, マエ ウシロ		シカク	イキスルトコ クリスマス	

3-2-3表 就学前児童の語彙力調査 時間・空間語テスト 〈テストIaの2〉反応の正誤判定例

語	○		○		○		⊗		×		4 雑
	1 基準語形	2 幼児音	異なる文脈での反応	異なる文脈での反応	異なる文脈での「ナイ」反応	意味上は○○形式「～ナイ」	1 意味異なるもの	2 音系列を逆にしたもの	3 事物連想		
外 / ナカ	ソト			オモテ					オヘヤ, オウチ ドウブツ, ウチ ジドウシヤ	オテテ マル カド	
中 / ノト	ナカ			ウチ ウチガワ					オソト, オニワ アメリカガアル オモテ, オウチ	ヨル アシ アサ	
朝 / バン	アサ		オヒル ヒルマ ヒル						オキルノ クモリ オヒサマ	ゲツヨウビ ウエ	
晩 / アサ	バン		ヒル	ヨル ヨナカ ユウガタ					ゴハン ネル バンメシ	ヒダリ ウラ ソト ウエ	
夜 / ヒル	ヨル		アサ	ヨナカ ユウガタ					コンバンワ デンキ, ハレ オツキサマ ユウヤケ	ウエ	
昼 / ヨル	ヒル (オヒル)		アサ	ユウガタ バン					ゴハン, ゴハンタ ベル, テレビ アラシ, ハチジ バンゴハン コンニチワ	オキル ソト	
右 / ヒダリ	ミギ									ユウガタ チイ アサ バン	
左 / ミキ	ヒダリ								オテテ	バン	
前 / アト	マエ									コトシ キヨウ ヨルノ クライトキ キシヤ	
後 / マエ	アト								ツイテイク イク マエムク	アシ ハキイ アンゼン	

3-2-4表 就学前児童の語彙力調査 時間・空間語テスト <1b> 反応の正誤判定例

語	○				×						
	1 基準語 アサ→ヒル →ヨル →アサ	2 幼児音	1 基準語と 同義	2 方言・ 幼児語	3 基準語+他語挿入 ヒルマ→ユウガタ →ヨル→アサ ヒル→ヨル オヒル→バン →ネル→アサ ヒル→ユウガタ→ ヨル→ヨナカ→ア サ	4 基準語 順序 混乱	1 基準語の一部をなく 他語挿入, 語順混乱 ヒル→ヨル, 夕方→ヨル, ヨル→アサ, ヨル, ユウガタ→ ヨル→アサ	2 意味の 異なるもの ヒルマ→ユウ ガタ	3 事物連想 オヒサマ→オツキ サマ→オヒサマ アメ→クモリ→サ ムイ→アシタ ユウヤケ→クラク ナル→ネル→アサ	4 雑	
朝→昼→夜 →朝			ヒル→ユウ ガタ→アサ ヒル→バン →アサ								
朝→夜→昼 →朝	アサ→ヨル →ヒル →アサ				ヨル→ユウガタ→ ヒル→アサ ヨナカ→ヨルユウ ガタ→ヒル→アサ ヨル→ユウガタ→ ゴゴ→オヒル→ア サ		ヨル→ヒル, ヨル→アサ, ヒル→バン, ユウガタ→アサ ヒル→ヨシ ヒルマ→ユウガタ→ヨル→アサ	バス, デンシヤ ジドウシヤ ネテル, アソブノ →クルマカハシル			
日, 月 →土, 日	日, 月 →土, 日						月水木日, 月火水土日, 土月 火, 月火金土日, 月火木日月, 木 火金土日, 水木金月水, 月火金木 土日, 火水木水月土日, 木金水木 水, 土金水木土日				
日, 土 →月, 日	土金木水火 月日土 →月日						土金木月日, 木火水, 土金土, 土木金, 水土金土, 土金, 土金木月木金土日				
春→夏→秋 →冬→春	春→夏→秋 →冬→春						夏冬春, 冬秋春, 秋冬春, 夏春, 夏, 冬夏, 冬秋, 冬, 冬夏秋, 冬夏冬, 冬秋夏秋, 秋冬夏, 秋冬 夏秋冬夏, 秋夏冬, 冬秋冬夏春	冬→オ正月→3月 春→3月→オ日サ マ	ヨル, アサ, 夕方 ヨル, アサ, ヨル ヨル ユキ→クリ スマス		
春→冬→秋 →夏→春	春→冬→秋 →夏→春						冬秋冬夏, 冬夏, 冬夏秋, 冬, 秋 冬夏秋春, 冬春, 秋冬春, 春秋, 夏夏, 夏春, 夏冬, 秋夏冬, 夏冬 夏春秋冬秋, 冬秋夏秋, 春冬3月 春冬夏7月, 夏秋冬秋春, 冬お正 月秋, 冬夏秋冬春				

今日 明日 明後日	キョウ アサ アサツテ								アシタ、アシタノアサ、アシタ→ソノツギ、アシタ→金ヨウビ、アシタ→キョウ	キノウ	土ヨウビ、水ヨウビ、28日、金→日、土ヨウ→火ヨウ→木	
明後日 明日 今日	アサツテ アサ キョウ							アシタ、キョウ→キノウ、アシタ→キノウ、アサツテ→キノウ、アサツテ→アサツテ→オトトイ	キノウ	春、土ヨウビ 金ヨウビ →月ヨウビ	グルリン ン	
今日 昨日 一昨日	キョウ キノウ オトトイ							キノウ→キノウノキノウ、キノウ→キノウノマエ、キノウ→キノウノツギ、オトトイ、キノウ→コナイダ、アシタ→オトトイ	アサツテ →アシタ →アサツテ アサ→アシタ アシタ	水ヨウビ、火ヨウビ、日ヨウビ、ミタイ コナイダ、土ヨウ 4月	アサ、夕方 ヨル ズウツ マエ	
一昨日 昨日 今日	オト キ オトノウ キョウ							キノウ→キョウ オトトイ→アサツテ オトトイ→アサツテ→アサツテ	アサツテ	アメ→クモリ		
今年 来年 更来年	コト ライ イネ ネン							ライネン		2年生 コノツギノヒ	サイキン 1週間 学校 トリ ドシ 春、冬 コトシ 秋、冬 夏、春→夏	
更来年 来年 今年	サライ ライ イネ ネン コトシ							ライネン ライネン→キョネン→コトシ				
今年 去年 一昨年	コトシ キョ ネン オトトシ							コトシ→N→オトトシ キョネン		12月 ココ→アキ トリドシ	冬→夏 幼稚園 ズツトマエ オ正月 春、夏	
一昨年 去年 今年	オト キ オトシ コトシ							キョネン →ライ ライネン →サライ	キョネン→ ライイネン →サライ			

3-2-5表 就学前児童の語彙力調査 時間・空間語テスト <II~III> 反応の正誤判定例

カ イ ド	○					×			
	1 語 基 準 語	2 幼児音 基準語と 同義+順序	3 方言・ 幼児語 +順序	4 基準語 +順序 の混乱	1 1部の基 準語を欠 いたり挿 入あり。ま た語順の 混乱も含む	2 意味の異 なる時 間語空間 語	3 事 物 連 想	4 雑	
A 1 前	マエ					ヒダリ, ムコウ ミギ, ウシロ			
1' 後ろ	ウシロ	オシロ				マエ, ミギ, トナリ ココ, ヒダリガウ			
B 2 上	ウエ					ミギ, ヒダリ, シタ ムコウ, マエ, ウシロ マンナカ			
2' 下	シタ					ウシロ, ミギ, ハジ ヒダリガウ, ウエ, シタ/マンナカ	ハタ		
C 3 外	ソト					マエ, ヒダリ, ヨコ ミギ, ナカ, チヨッ トウエ, ヨコッチョ シタ, テテイル ハジノ方	オウチ		
3' 中	ナカ					ヨコ, ナナメ, ウシ ロ, ハジツコ, テタ トコ, テテイル	オヒロバ クロイ マル		
B 4 右	ミギ					ナカ, ヒダリ, マンナ カ, ナカガウ, マエ ヨコ, マエガウ, ウラ ウエ, ヒガシ, コッ チガウ			
4' 左	ヒダリ	ヒラリ				ヨコ, ミギ, シタ, マ エ, ウシロ, マンナカ	クロイ		
E 5 縦/横/斜	タテ/ヨコ/ナナメ	タテ/ヨコ/ハスカイ タテ/ヨコ/ハス				マッスグ/ナナ メ/ヨコ マッスグ/タテ /ヨコ ヨコ/N/サカ タテ/マッスグ /タテ タテ/N/ヨコ タテ/シタ/ヨ コ	フロヤ/エワ/ソト タテ/ネタ/ハル/ タテ/テイル/ ジカイ/ココ/ ノウエ/ココ/ テ/コケテル/ ツクリカエッテル/ タテ/ネトル/ ケトル		

カード	○		Ω				×			
	1 標準語	2 幼児音	1 標準語と同義	2 方言・幼児語	3 標準語・他語挿入	4 標準語・順序混乱	1 基準語の一部を欠く 他語挿入・語順混乱	2 異味の異なるもの	3 事物連想	4 雑
F 6	朝/昼/夜 アサ/ヒル/ヨル アサ/オ アサ/ヒル/ヨル		アサ/ヒル/ヨル アサ/オヒル/ヨル アサ/オヒル/ヨル アサ/ヒル/ヨル				アサ/N/ヨル アサ/オヒル/ヨル アサ/アサ/ヨル ヨアケマエ/アサ/ヨル		アサ/日ヨウ 暗クナル	キョウ/アシタ ネルノ アシタ/コンド アサッテ 1月/2月/3月
G 7	春夏秋冬 アサ/ヒル/ヨル		春夏秋冬 アサ/ヒル/ヨル				春夏秋冬, 秋夏N冬 夏, 冬, N夏N冬, 春夏秋冬, 春夏秋冬 春夏秋冬, 春夏秋冬, 春夏秋冬, N秋 N冬		運動会	アサヒル/アサ サ, アサヒル/タ 方バン, 3月8 月10月1月
H 8	昨日 今日 明日 キノウ キョウ アシタ	キンノ キノウ アシタ	アサッテ/アシタ アサッテ/キョウ アシタ/キョウ/アシタ 日曜/キョウ/アシタ キノウ/キョウ アサッテ マエ/キョウ/アシタ オトイ/キョウ アシタ 20日/キョウ/アシタ				アサッテ	オシヤカサマが死 タ日, ネハン, 節分 水ヨウ日, 24/キョ ウ/26, 1ニチ/キョウ /サンニチ 11日/キョウ/21日 6日/キョウ/7日 日曜/キョウ/N 金曜/キョウ/日曜	3時 ジユ ロク/キョウ /ハチ	
I 9	日~土 日/...../土		月火水木土 火土日火, 土日月火 土曜, 月火, 金土日 木土日, 土日土, 火 木, 火, 月水木金土 水金, 火水木金土, 日, 月火金木日火 金土, 金土日水			月火水木 土金日		キョウ/ハ土曜		
J 10	去年 今年 来年 キョネン コトシ ライネン	キョネン コトシ ライネン	ライネン/コトシ /モウスグ ライネン/コトシ /ハル キョネン/オトシ N/コトシ/ライネン	キョネン /コトシ /コンド				ナナツ 前ノ年/今/次ノ年 今ノコト 43年/コトシ/45年 34年/コトシ/N	ニワトリ 夏/コトシ/冬 N/コトシ/春 N/コトシ /ニニチ	

3-2-6表 テストV

		発問	正答	前・後以外の反応
a		レはパの	前	タイヤノトコロ
		パはレの	後	
b		レはパの	前	ヒダリ, ヨコ, オンナジ方向, コッチ, ナカ, ウエ
		パはレの	前	ミギ, ヒダリ, シタ
c		レはパの	後	ミギ
		パはレの	前	ハンタイ, ヒダリ, シタ
d		レはパの	後	ヒダリ, ヒダリガワ, ウエ, ハンタイ, ヨコムキ, ミギ, ソト, 同じ方ヲ向イテイル
		パはレの	後	ヨコ, シタ, ヒダリ

3-2-7表 (テストVIa) 時間判断—前・過 1. 発語

	○ ₁ 基準語	○ ₂ 基準語と 同義	○ ₃ 基準語と類義	× ₁ 前/過の 使い誤り	× ₂ 時刻認知 の誤り	× ₃ 事物連想	× ₄ 雑
6:15 マエ	6時15分マエ	5時45分スギ 5時45分	6時チョット マエ (少シ)	6時15分スギ	6時 9時 6時9分 9時60分	(○○ノ時間)	9月 9時ト6時
3:5 スギ	3時5分スギ 3時5分	(4時55分前)	3時チョット スギ (少シ)	3時5分マエ	3時 3時1時	オヤツノ時間	3時ト1時
6:30 (半)	6時30分 6時半	(7時30分前)			6時 7時半 6時7時		6月
3:5 マエ	3時5分マエ	2時55分スギ 2時55分	3時チョット マエ (少シ)	3時5分スギ	1時10分 13時 2時スギ		
6:15 スギ	6時15分スギ	(7時45分前)	6時チョット すぎ (少シ)	6時15分マエ	6時3分		

3-2-8表 (テストVIb) 1. 説明

	○ ₁ 基準語	○ ₂ 基準語と同義	× ₁ (日が×)	× ₂ (時間が×)	× ₃ 時間認知 の誤り	× ₄ 事物連想
今朝	キョウのアサ		朝	キョウ	ユウガタ	幼稚園へ行 クトキ
昨夜	キノウのヨル	キノウのバン	夜中	キノウ キノウノコト	オヒル	ズットマエ
今夜	キョウのヨル	キョウのバン	夜, 夜中 ヨルマイニチ	キョウノコト, キョウ キョウのユウガタ	アシタ	

3-2-9表 テスト VIc

きょう		正答	雑	ことし		正答	雑
アシタ	過・未・N	未		ライネン	過・未・N	未	
オトトイ	過・未・N	過		オトトシ	過・未・N	過	
アサッテ	過・未・N	未		キョネン	過・未・N	過	
キノウ	過・未・N	過		サライネン	過・未・N	未	

3-2-10表 テスト VI d

どっちが遠いこと？	正 答	雑
ア シ タ/アサッテ	アサッテ	
オトトイ/キノウ	オトトイ	ニチヨウ, アサッテ, アサ, ヨル
サライネン/ライネン	サライネン	
キョネン/オトトシ	オトトシ	オナジ, ヨソノヒトノウチ

### 第3節 動詞

動詞テストにおける諸反応の判定基準段階は、当初は第一次的に、44ページに示したように、大まかに6段階に分類しておいた。しかし、テスト結果の諸反応は、特に認知テスト以外において第一次判定基準段階以上に精細に分類する必要が生じたので、次の15段階に分類した。そして、この判定基準段階の基本線は、性状語、時間・空間語テストの判定基準段階に準じてあるが、次の点が異なっている。

1. 性状語、時間・空間語テストで、基準語+幼児音反応(○₂)は基準語反応(○₁)と別にコードを立てたが、動詞テストではコードを基準語反応と同一にした。
2. 絵図から規定された語反応および自動詞、他動詞の混同をそれぞれに独立のコードを立てた。動詞テストでは絵図からの規定が特に大きいこと、また、動詞テストにだけ、自動詞、他動詞の混同という反応が生じたためである。

#### I 対語、対文、対絵(語認知をのぞく)テスト

番号 記号 内容

- |    |                |                                                  |
|----|----------------|--------------------------------------------------|
| 1  | {              | ○ ₁ 基準語(対の刺激語)と同じ語反応。例：基準語(つく)→反応(ツク) |
|    | ○ ₂ | 基準語の幼児音による反応                                     |
| 2  | ☐              | 異なる文脈であれば、○反応と認められるもの。例：点く→ハナレル(消える)〈点く〉→〈着ク〉    |
| 3  | ○ ₁ | 基準語と同義による語反応。例：点く→トモル                            |
| 4  | ○ ₂ | 基準語と同義の方言、幼児語による反応。例：降りる→オンリスル                   |
| 5  | ☐              | 異なる文脈での○反応。                                      |
| 6  | ×              | 意味上は○, ○, 語形式が「～ナイ」反応。例：つく→キエナイ                  |
| 7  | ☒              | 異なる文脈での ☐, ☐, 語形式が「～ナイ」反応                        |
| 8  | × ₁ | 絵図から規定された語反応。例：旗を上げる→モツ                          |
| 9  | × ₂ | 意味の異なる語反応                                        |
| 10 | × ₃ | 音系列を逆にした語反応                                      |
| 11 | × ₄ | 事物連想による反応                                        |
| 12 | × ₅ | 雑(N, NT および × ₆ 以外の諸反応)               |
| 13 | × ₆ | 自動詞と他動詞の混同。例：点く→ツケル                              |
| 14 | N              | 無反応または「知らない」反応                                   |
| 15 | NT             | テストもれ                                            |

## II 対絵テスト(語認知テストのみ)

番号	記号	内 容
1	○	正反応
2	×	誤反応
3	N	無反応または「知らない」反応
4	NT	テストもれ

上記の判定基準についての該当反応を、特にテストAの中から、判定にまぎらわしく、そのために協議の末、決定された諸例を参考までにあげれば次の通りである。

### 対語テスト

A1→消える  
ハナス×₆  
A2→上げる  
アガル×₆  
A2→上げる  
モツ×₂, 上ニイク×₂, モドス×₂, 入レル×₂  
A2→上げる  
カエス , イウナイ×₄  
A3→降りる  
サゲル×₂, オロス×₆, オチル ₂ (東北方言)  
  
A4→脱ぐ  
トル ₁

A1'1 →点く  
デル , ミエル×₂  
A2'1→下げる  
オトス ₁, 下ニヤル×₂  
A2'2→下ろす  
トル×₂, ダス×₂  
A2'3→もらう  
  
A3'1→乗る  
ノボル   
A3'2→上がる  
ハイル×₂

### 対絵テスト

A13→あげている  
モッテイル×₁, フッテイル×₁  
A14→点いている  
アカルクナッタ×₄  
A15→混んでいる  
ツマッテイル ₂, ツンデル ₂, 多イ×₁  
A21→おろしている  
ダンテイル×₁, ダイテイル×₁  
A22→もらっている

A14'→消えている  
クラクナッタ×₄, ツカナイ×  
A15→すいている  
スクナイ×₁, アイテル ₁  
A21'→乗せている  
イレテイル×₁, ネカセル×₁  
A22'→とどけている  
ヒロッタ×₄, ワタシテイル×₁

A23→行く

クル $\times_1$ , キタ $\times_1$

ハイル $\times_1$

A24→さいている

アンジョウナッテル $\times_5$

ヒライテイル $\times_1$

A25→知っている

オボエテイル $\bigcirc$ , ワカル $\bigcirc$ , カンガエテイル

$\times_1$ , オモイダシテル $\times_1$ , オモッテイル $\times_1$

A31→掘っている

トッテイル $\times_2$

A32→与えている

ワタンテイル $\times_1$ , クレタ $\times_1$

A33→つぶっている

ヒクッテイル(岩手) $\bigcirc_2$ , フサイデイル $\bigcirc_1$

A34→おくれている

オソイ $\times_4$ , チイサイ $\times_5$

チガウ $\times_5$ , オソクナッテイル $\times_4$

A35→かけている

ヒトガノッテイル $\times_5$

A41→当たっている

ササッテイル $\times_1$

A42→しいている

A44→払っている

ワタンテイル $\times_1$ , アゲテイル $\times_1$

A45→加えている

イレテル $\times_2$ , オオクスル $\times_4$

A51→生まれている

A23'→帰る

イク $\times_1$ ,

A24'→散っている

チレタ $\bigcirc_2$ , カレタ $\times_1$ , オチル $\times_1$

A25'→忘れている

シラナイ $\times$ , ワカラナイ $\boxtimes$

カンガエテイル $\times_1$

A31'→埋めている

イレテイル $\times_2$

A32'→奪っている

トッテイル $\times_1$ , ススンデイル $\times_2$

トリアゲタ $\times_1$

A33'→開けている

アイテイル $\times_6$ , ヒライテル $\bigcirc_1$ ,

サマシテイル $\times_4$

A34'→進んでいる

ハヤイ $\times_4$

A35'→歩いている

トマッテイル $\times_1$

A41'→はずれている

ハナレテイル $\times_1$ , デテイル $\times_1$

A42'→たたんでいる

カタヅケテイル $\times_1$ , シマッテイル $\times_1$ ,

アゲテイル $\times_1$

A44'→もらっている

A45'→減らしている

トッテル $\times_1$ , スクナクスル $\times_4$

スクッテイル $\times_1$

A51→死んでいる

デテキタ×₁

A52→教えている

A53→かけている

ツケテイル×₁, ツル×₁, モドシタ×₄

A54→うっている

タタイテイル□, サンテイル×₂

A55→守っている

ウケル×₁

A61→まいている

ツケテイル×₁

A62→寄せている

オイテイル×₁, イレテイル×₁, ヒツツケテイル×₁

A63→ふくらんでいる

空気がハイッテイル×₄, 大キクナッタ×₄

A64→伸ばしている

ダシテイル×₁, 前ニヤッテイル×₁

マッスグニシテイル×₁

A71→広がっている

ヒロイ×₄, フトイ×₄, ヒロクナッテイル×₄,

オオキイ×₄

A72→よごれている

キタナイ×₄, マックロ×₄

A73→離れている

A74→寝かしている

ネセタ○₁

A75→まぜている

アツメル×₁

ネテイル×₁, アソソデイル×₁, ヒックリカ  
エイル×₁

A52'→習っている

オシエテモラウ×₅, オソワッテイル○₁

A53'→はずしている

トッテイル×₁, オロシテイル×₁

A54'→抜いている

トッテイル×₁, ハズレテイル×₂

A55'→攻めている

ナゲテイル×₁

A61'→といている

ハズレテイル×₁, トッテイル×₁

マイテイル×₁

A62'→離している

トル×₁, モッテイク×, オイテイル×₁

ヒイテイル×₁

A63'→しぼんでいる

トンダ×₁, 空気がヌケタ×₄, チヂム○₁, 小  
サクナッタ×₄

A64'→曲げている

チヂメテイル×₂, タタイテイル×₁

オガンデル×₁

A71'→狭まっている

ホソイ×₄, セマイ×₄, セマクナッテイル×₄

A72'→きれいになっている

マッシロ×₄, ウツクシイ○₁, キレイ○₁

A73'→ついている

イタ×₁, ナランデル×₁, クツツイテイル○₁

A74'→起こしている

オキサセル○₁

A75'→わけている

バラバラニスル×₂

# 第4章 結果と考案

## 第1節 性状語テスト

### 1 対語テスト

対語テストは対義関係にある各対の性状語は何かをたずね、被験者に単語・単語水準での理解および系の成立程度を明らかにすることが目的である。

対語テストの刺激語は形状を表す語を中心に13対26語が用意されている。そして、(1~13)には、〈小さい〉〈少ない〉などの基準語反応を期待する、〈大きい〉〈多い〉などが刺激語として登録された。

また、(1'~13')にはそれとは逆に、〈大きい〉〈多い〉などの基準語反応を期待する、〈小さい〉〈少ない〉などが刺激語として登録された。

そして、〈大きいの反対は何ですか?〉〈多いの反対は何ですか?〉という問いかけで順次反応が求められた。その後、被験者の全反応は13判定基準およびテストもれ(N T)の項目を加えて14項目(104ページ参照)に分類された。

4-1-1 A表は、(1~13) (1'~13') の反応語のうち、○₁ (基準語反応) および、○₂ (基準語を幼児音で反応) の合計だけについて、それら 4-1-1A表 対語テストの反応語の基準反応率 (○₁, ○₂)

の反応率を示したものである。反応率でみると、〈大小〉〈多少〉〈暑寒〉〈高低〉関係を表す語が高い。それに対して、〈厚薄〉〈濃淡〉関係を表す語、また、最上の特徴を表すに用いられる〈最も大きい、最も小さい〉は正答率が低い。そして、一方、〈大小〉〈多少〉関係のように、対語内の基準反応率が比較的同程度のもとの、〈高安〉〈厚薄〉関係のように、対語内の

1	小さい	85.6%	1'	大きい	84.5%
2	少ない	54.6%	2'	多い	58.8%
3	細い	42.3%	3'	太い	39.1%
4	最も小さい	15.5%	4'	最も大きい	20.7%
5	淡い	14.4%	5'	濃い	27.8%
6	安い	19.1%	6'	高い	55.7%
7	いちばん少ない	29.9%	7'	いちばん多い	29.9%
8	薄い	8.8%	8'	厚い	17.5%
9	狭い	29.9%	9'	広い	47.9%
10	低い	45.9%	10'	高い	47.9%
11	寒い	54.1%	11'	暑い	52.5%
12	短い	35.0%	12'	長い	51.5%
13	浅い	21.1%	13'	深い	28.4%

* 形状を表す語のほかに、形状を表す語と同音の〈暑い—寒い〉, 〈濃い—淡い〉〈高い—安い〉を加えた。

基準反応率に比較的差がいちじるしいものがある。

そこで、各対語内の反応率の有意差の検定を試みたのが、4-1-1B表である。これによれば、性状を表す13対26語の中で、有意な差が認められた対語は、

高い>安い、濃い>薄い、広い>狭い、  
長い>短い、厚い>薄い

であり、傾向的に差が現れたのは、

最も大きい>最も小さい、深い>浅いであった。この点から、有意差のあった対語の特性について2点を指摘することができる。第1は、有意差の認められた対語群は、13対26語の中で、比較的基準反応率の低いグループであること。第2は、有意差の認められた対語関係では、基準反応率のより高い語がすべて、量的な多さを意味するものである。こ

れはクラーク (E. V. Clark) のいう積極的極性 (+) という内容に相当する。

そこで以上述べた特性から逆に、基準反応率の高い対語群では有意差が認められなかったことを意味し、量的に少ないことを意味する消極的極性 (-) の群は基準反応率がより低かったという事実と対応する。

この点で、われわれはクラークの意味素性仮説のうち、積極的極性の方が消極的極性より先に学習されるという極性仮説を承認したことになるが、次のことに注目する必要がある。すなわち、極性仮説は幼児にすでにかなり意味の習得された語群については有意差が認められないので、適用されない。したがって、極性仮説は幼児が対語の意味を学習する初期の特徴として指摘することが可能である。

また、本テストはその実施手順として、「大きいの反対は何？」とたずねた上で、「小さいの反対は何？」とたずねているので、量的に多い語を先に刺激語として用意し、量的に少ない語を後に刺激語として用意したから、結果的に学習効果は後に反応語として引きだされる量的な多さを意味する語に有効に働くのではないかと考えられる。この点はさらにテストⅡ、Ⅲ、Ⅳでは同時的な反応を要求しているから、その検討が試みられることになる。

次に、比較的基準反応率が高かった対語は、

大きさ、多さ、暑さ、高さ

4-1-1B表 対語テスト各対の  $\chi^2$  による有意差検定

対	語	$\chi^2$	P	df
1'	大 < 1 小	0	—	1
2'	多 > 2 少	0.771	0.50	1
3'	太 < 3 細	0.840	0.50	1
4'	最大 > 4 最小	2.800	0.10	1
5'	濃 > 5 淡	47.766	0.01**	1
6'	高 > 6 安	58.394	0.01**	1
7'	いちばん多 = 7 いちばん少	0	—	1
8'	厚 > 8 薄	6.387	0.05*	1
9'	広 > 9 狭	13.272	0.01**	1
10'	高 > 10 低	0.120	0.80	1
11'	暑 < 11 寒	0.160	0.70	1
12'	長 > 11 短	12.117	0.01**	1
13'	深 > 13 浅	3.078	0.10	

であったが、その大きさ、多さの中でもどのような次元や量を表す語が高い基準反応率かはここでは取りあげないで、テストⅡ，Ⅲ，Ⅳの結果を得た上で考察する。

なお、対語内で最も基準反応率に差の大きかったものは、高い>安い、濃い>淡いであったが、その理由の一つには、〈高い〉の反対語として、より一般的な意味として空間的な位置を表す〈低い〉語が想起されたということが考えられる。しかし、それならば〈濃い〉の反対語は〈薄い〉以外に一般的な意味として想起されるものは別がないのに、このような差が生じるのはなぜか。また、〈淡い〉は厚さを意味する〈厚い〉を反対語に想起する割合が高いとも思われるのに、その出現の割合（ 項の反応）は2.1%ときわめて少ない。そこで、われわれは、〈濃い〉の反対語として〈淡い〉をはじめとして〈薄い〉以外の語をも想起することができず、そのために無反応（N項目）が60.8%に達していると判断するのが適切である。なお、本テストは形状語が中心の中に濃淡を表す語が例外的に含まれているという「期待の不一致」が基準反応を低めるとも考えられるが、結果的にはその事実は認められない。

4-1-2表 性状語テスト1(1~13) 対語テストの反応

判定 反応語	合計		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	○ ₁	○ ₂	○ ₁	○ ₂	□	○ ₁	○ ₂	□	□	× ₁	× ₁	× ₂	× ₃	× ₄	N	NT
1 小さい	194 100.0	121 62.4	45 23.2							4 2.1	2 1.0		1 .5		20 10.3	1 .5
2 少ない	194 100.0	105 54.1	1 .5			13 6.7				11 5.7	17 8.8	1 .5	1 .5		44 22.7	1 .5
3 細い	194 100.0	82 42.3				6 3.1	5 2.6	5 2.6		17 8.8	40 20.6				38 19.6	1 .5
4 最も小さい	194 100.0	24 12.4	6 3.1			2 1.0				82 42.3	3 1.5		3 1.5		76 39.2	1 .5
5 うすい	194 100.0	28 14.4			1 .5	1 .5				13 6.7	17 8.8	4 2.1	8 4.1	2 1.0	118 60.8	2 1.0
6 安い	194 100.0	37 19.1			10 5.2					18 9.3	38 19.6	2 1.0	8 4.1		80 41.2	1 .5
7 いちばん 少ない	194 100.0	58 29.9								3 1.5	67 34.5		2 1.0		63 32.5	1 .5
8 薄い	194 100.0	17 8.8			11 5.7			1 .5		30 15.5	17 8.8	1 .5	2 1.0		114 58.8	1 .5
9 狭い	194 100.0	58 29.9					2 1.0			47 24.2	31 16.0		3 1.5	1 .5	51 26.3	1 .5
10 低い	194 100.0	89 45.9								21 10.8	46 23.7		8 4.1		29 14.9	1 .5
11 寒い	194 100.0	104 53.6	1 .5		21 10.8			6 3.1		23 11.9	16 8.2		3 1.5	1 .5	18 9.3	1 .5
12 短い	194 100.0	66 34.0	2 1.0							26 13.4	67 34.5		5 2.6		27 13.9	1 .5
13 浅い	194 100.0	40 20.6	1 .5				2 1.0			49 25.3	32 16.5		5 2.6		64 33.0	1 .5

*各欄の上段の数字は反応人数、下段の数字は全被験者に対するパーセント。

4-1-3表 性状語テスト1(1'~13') 対語テストの反応

反応語	判定	対語テストの反応														
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
1' 大きい	合計	142 100.0	22 11.3		3 1.5				6 3.1	9 4.6					8 4.1	NT
2' 多		194 100.0	114 58.8		20 10.3				10 5.2	18 9.3				30 15.5	1 .5	
3' 太		194 100.0	73 37.6	3 1.5		1 .5			23 11.9	57 29.4	1 .5			32 16.5	1 .5	
4' 最も大きい		194 100.0	36 18.6	4 2.1	3 1.5				2 1.0	79 40.7				61 31.4	2 1.0	
5' 濃		194 100.0	54 27.8	4 2.1					35 18.0	24 12.4				70 36.1	4 2.1	
6' 高		194 100.0	108 55.7						27 13.9	8 4.1				45 23.2	1 .5	
7' いちばん多		194 100.0	57 29.4	1 .5	5 2.6				5 2.6	68 35.1				53 27.3	1 .5	
8' 厚		194 100.0	34 17.5	19 9.8					31 16.0	32 16.5				74 38.1	1 .5	
9' 広		194 100.0	93 47.3		1 .5				35 18.0	28 14.4				31 16.0	2 1.0	
10' 高		194 100.0	93 47.9						27 13.9	40 20.6				31 16.0	1 .5	
11' 替		194 100.0	100 51.5	2 1.0	40 20.6	1 .5	2 1.0		30 15.5	4 2.1				10 5.2	1 .5	
12' 長		194 100.0	100 51.5		1 .5				25 12.9	43 22.2				21 10.8	1 .5	
13' 深		194 100.0	55 28.4						26 13.4	20 10.3				1 .5	90 46.4	1 .5

## 1-1 対語テストと地域差

対語テストにおける各語の反応を考えると地域差を問題にする必要がある。それは第1には、ここに基準語あるいは正答としてあげた語は共通語形をあげているから、地域によって、その共通語形よりもその地域の方言形の方がより優位に使用されていけば、それだけ共通語形反応を低めていることがある。したがって、そこでの基準反応率の高さは必ずしも語理解の難易に直接に結びつくとはいえないことがある。そして第2には、では、特定の性状を表す意味の方言形にはどんなものが反応として現れたかを明らかにする必要がある。もっとも、その方言形は、特定の比較的狭い地域での方言であったり、成人とは異なった児童方言形であったり、児童方言形がさらに幼児音で発音されたものであったり、さらには幼児語と混用されていたりしたものであれば、その判定は困難さを増すことになるが、本調査では一括して、項目5 (○₂) にまとめた。

4-1-4表 対語テストにおける地域差

	x ²	df	P		x ²	df	P
1	1.618	2	0.30	1'	2.521	2	0.30
2	5.909	2	0.10	2'	8.157	2	0.05*
3	3.885	2	0.20	3'	0.838	2	0.70
4	3.411	2	0.20	4'	0.427	2	0.90
5	—	2	—	5'	3.826	2	0.20
6	15.528	2	0.01***	6'	1.215	2	0.70
7	2.146	2	0.50	7'	4.483	2	0.20
8	0.250	2	0.90	8'	0.069	2	0.98
9	4.722	2	0.10	9'	1.920	2	0.50
10	5.589	2	0.10	10'	4.600	2	0.20
11	1.120	2	0.70	11'	3.080	2	0.30
12	2.981	2	0.30	12'	5.440	2	0.10
13	4.087	2	0.20	13'	1.328	2	0.70

4-1-4表は、対語テストにおける基準反応率の高低に関する地域差をx²検定によって調べた結果である。それによれば、地域差の認められた反応は、

(6) 安い

(2') 多い

である。そして、傾向的に差があった反応は、(2) 少ない (9) 狭い (10) 低い (12') 高いである。そこで、(6) 安い (2') 多いについて、3地域間の有意差をみると、

4-1-5表 〈安い〉〈多い〉の地域差

(6) 安 い		(2') 多 い		
O ₁	O ₁ 以外	O ₁	O ₁ 以外	
岩 手	4	68	33	39
仙 台	22	48	45	25
東 京	11	41	36	16

岩手×仙台  $\chi^2=15.831$   $P<0.01^{**}$   $\chi^2=4.836$   $P<0.05^*$

岩手×東京  $\chi^2=6.862$   $P<0.01^{**}$   $\chi^2=6.682$   $P<0.01^{**}$

仙台×東京  $\chi^2=1.568$   $P<0.30$   $\chi^2=0.313$   $P<0.70$

となり、岩手は他の2地域に比較して、基準率が有意に低いことを示している。そしてこのことは、傾向的に差がみられた(2)少ない(9)狭い(10)低いについても同様である。ただし、(2')多いについては例外で、仙台が基準反応率が低い。

(6)安い(2')多いについて、基準反応以外での反応の特徴を地域別にみると(137, 140ページ参照),

(6) 安い		(2') 多い
13 N反応		4 基準語と同義
岩手	41 (56.9小)	13 (18.1小)
仙台	20 (28.6小)	3 (4.3小)
東京	19 (26.5小)	4 (7.7小)

となり、岩手の基準反応の低さは、(6)安いではN反応が多く、(2')多いでは基準語と同義反応(イッパイ、タクサン)が多く、そのために地域差が現れていることを示している。

4-1-6表 性状語テスト1(1~13) 対語テストの地域差

反応語	判定	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
			O ₁	O ₂	□	O ₁	O ₂	□	×	×	×	×	×	×	×	×
(1) 小さい																
1 岩手		72 100.0	49 68.1	12 16.7											11 15.3	
2 仙台		70 100.0	42 60.0	16 22.9						3 4.3	1 1.4		1 1.4		7 10.0	
3 東京		52 100.0	30 57.7	17 32.7						1 1.9	1 1.9				2 3.8	1 1.9
(2) 少ない																
1 岩手		72 100.0	31 43.1			6 8.3				5 6.9	6 8.3		1 1.4		23 31.9	
2 仙台		70 100.0	41 58.6	1 1.4		3 4.3				6 8.6	4 5.7	1 1.4			14 20.0	
3 東京		52 100.0	33 63.5			4 7.7					7 13.5				7 13.5	1 1.9
(3) 細い																
1 岩手		72 100.0	27 37.5			1 1.4	4 5.6	1 1.4		4 5.6	16 22.2				19 26.4	
2 仙台		70 100.0	27 38.6			3 4.3	1 1.4	3 4.3		9 12.9	15 21.4				12 17.1	
3 東京		52 100.0	28 53.0			2 3.8		1 1.9		4 7.7	9 17.3				7 13.5	1 1.9
(4) 最も小さい																

1	岩手	72 100.0	6 8.3	1 1.4	1 1.4	1 1.4						29 40.3			3 4.2	32 44.4
2	仙台	70 100.0	8 11.4	3 4.3								32 45.7				27 38.6
3	東京	52 100.0	10 19.2	2 3.8	1 1.9							21 40.4				17 32.7
	(5) うすい															
1	岩手	72 100.0	10 13.9	1 1.4	1 1.4							1 8.3			2 2.8	49 68.1
2	仙台	70 100.0	10 14.3									10 14.3			3 4.3	36 51.4
3	東京	52 100.0	8 15.4	1 1.9								2 7.7			1 1.9	33 63.5
	(6) 安い															
1	岩手	72 100.0	4 5.6	2 2.8								6 8.3			4 5.6	41 56.9
2	仙台	70 100.0	22 31.4	6 8.6								7 10.0			2 2.9	20 28.6
3	東京	52 100.0	11 21.2	2 3.8								5 9.6			1 1.9	19 36.5
	(7) いちばん少ない															
1	岩手	72 100.0	17 23.6									1 1.4				31 43.1
2	仙台	70 100.0	23 32.9									1 1.4			1 1.4	20 28.6
3	東京	52 100.0	18 34.6									1 1.9			1 1.9	12 23.1

(8) 薄 い																									
1 岩 手	72 100.0	6 8.3	2 2.8											9 12.5	6 8.3					1 1.4					48 66.7
2 仙 台	70 100.0	7 10.0	9 12.9				1 1.4							16 22.9	7 10.0	1 1.4				1 1.4					28 40.0
3 東 京	52 100.0	4 7.7												5 9.6	4 7.7										38 73.1
(9) 狭 い																									
1 岩 手	72 100.0	16 22.2												14 19.4	13 18.1										26 36.1
2 仙 台	70 100.0	21 30.0					1 1.4							23 32.9	8 11.4					1 1.4					16 22.9
3 東 京	52 100.0	21 40.4					1 1.9							10 19.2	10 19.2										9 17.3
(10) 低 い																									
1 岩 手	72 100.0	28 38.9												4 5.6	18 25.0										17 23.6
2 仙 台	70 100.0	30 42.9												11 15.7	19 27.1										8 11.4
3 東 京	52 100.0	31 59.6												6 11.5	9 17.3					1 1.9					4 7.7
(11) 重 い																									
1 岩 手	72 100.0	40 55.6	4 5.6				4 5.6							6 8.3	4 5.6					3 4.2					10 13.9
2 仙 台	70 100.0	34 48.6	5 7.1				2 2.9							15 21.4	8 11.4										6 8.6

3	東京	52 100.0	30 57.7	1 1.9	12 23.1							2 3.8	4 7.7			2 3.8	1 1.9	
(12) 短い																		
1	岩手	72 100.0	30 41.7	1 1.4								6 8.3	20 27.8	2 2.8		13 18.1		
2	仙台	70 100.0	21 30.0	1 1.4								14 20.0	27 38.6	1 1.4		6 8.6		
3	東京	52 100.0	15 28.8									6 11.5	20 38.5	2 3.8		8 15.4	1 1.9	
(13) 浅い																		
1	岩手	72 100.0	10 13.9								2 2.8	18 25.0	15 20.8	4 5.6		23 31.9		
2	仙台	70 100.0	15 21.4	1 1.4								22 31.4	9 12.9			23 32.9		
3	東京	52 100.0	15 28.8									9 17.3	8 15.4	1 1.9		18 34.6	1 1.9	

4-1-7表 性状語テスト1(1'~13') 対語テストの反応の地域差

(1')	大きい																	
1	岩手	72 100.0	53 73.6	4 5.6	2 2.8							1 1.4	3 4.2	3 4.2		6 8.3		
2	仙台	70 100.0	55 78.6	6 8.6								4 5.7	4 5.7		1 1.4			
3	東京	52 100.0	34 65.4	12 23.1	1 1.9							1 1.9	2 3.8		1 1.9	1 1.9		

(2) 多い																	
1	岩手	72 100.0	33 45.8					13 18.1				4 5.6	8 11.1	1 1.4			13 18.1
2	仙台	70 100.0	45 64.3					3 4.3				4 5.7	6 8.6				12 17.1
3	東京	52 100.0	36 69.2					4 7.7				2 3.8	4 7.7				5 9.6
(3) 多い																	
1	岩手	72 100.0	27 37.5	1 1.4								6 8.3	20 27.8	2 2.8			16 22.2
2	仙台	70 100.0	24 34.3	1 1.4								11 15.7	22 31.4	1 1.4			10 14.3
3	東京	52 100.0	22 42.3	1 1.9							1 1.9	6 11.5	15 28.4				6 11.5
(4) 最も大きい																	
1	岩手	72 100.0	13 18.1														28 38.9
2	仙台	70 100.0	14 20.0	1 1.4				1 1.4				1 1.4	30 42.9	3 4.3			20 28.6
3	東京	52 100.0	9 17.3	3 5.8				2 3.8				1 1.9	22 42.3	1 1.9			13 25.0
(5) 濃い																	
1	岩手	72 100.0	15 20.8					1 1.4				11 15.3	10 13.9	1 1.4			33 45.8
2	仙台	70 100.0	25 35.7					3 4.3				15 21.4	6 8.6	1 1.4			18 25.7
3	東京	52 100.0	14 26.9									9 17.3	8 15.4	1 1.9			19 36.5





## 1-2 系の成立

テスト1は対語テストと称し、「大きいの反対は何?」「小さいの反対は何?」という質問形式で対語の反応を求め、単語・単語の系の成立の程度を明らかにすることを目的にしたものであり、その系の成立を語理解の基底にある系の成立とみた。そこで、テスト1で実施した13対26語について、対語の14反応項目を交差させることによって、系の成立程度を調べることにした。そして、系は次の4項目に限って分析することにし、4-1-10表の系の交差部分は(▼)で示すことにした。

- ₁—○₁                    基準語反応の系  
 (○₁, ○₂)—(○₁, ○₂) 幼児音反応を含む基準語反応の系  
 × — ×                    「～ナイ」反応の系  
 N — N                    無答反応の系

4-1-8 表は、基準語反応の系、幼児音反応を含む基準語反応の系、「～ナイ」反応の系および、無答反応の系の各反応率を一覧表で示したものである。

4-1-8表 対語テストにおける系反応率

対語			系			
			○ ₁ —○ ₁	(○ ₁ , ○ ₂ )—(○ ₁ , ○ ₂ )	×—×	N—N
大	小	1×1'	108 55.6	152 78.3	2 1.0	6 3.0
多	少	2×2'	85 43.8	→	4 2.0	21 10.8
太	細	3×3'	54 27.8	→	13 6.7	19 9.7
最	大・小	4×4'	19 9.7	24 12.3	0	49 25.2
濃	淡	5×5'	23 11.8	→	11 5.6	56 28.8
高	安	6×6'	30 15.4	→	14 7.2	34 17.5
いちばん	多・少	7×7'	43 22.1	→	0	40 20.6
厚	薄	8×8'	11 5.6	→	19 9.7	58 29.8
広	狭	9×9'	47 24.2	→	26 13.4	25 12.8
高	低	10×10'	66 34.0	→	17 8.7	17 8.7
暑	寒	11×11'	71 36.5	74 38.1	20 10.3	4 2.0
長	短	12×12'	54 27.8	55 28.3	21 10.8	9 4.6
深	浅	13×13'	32 16.4	33 17.0	24 12.3	45 23.1

4-1-9表 対語テストにおける系反応の有意差検定 ( $\chi^2$ )

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
1 大		5.440 [*]	14.190 ^{**}	18.341 ^{**}	30.907 ^{**}	30.907 ^{**}	39.852 ^{**}	64.430 ^{**}	68.321 ^{**}	83.231 ^{**}	113.975 ^{**}
2 多	5.440 [*]		2.075 [*]	3.906 [*]	10.763 ^{**}	10.763 ^{**}	16.554 ^{**}	34.270 ^{**}	37.314 ^{**}	49.203 ^{**}	75.770 ^{**}
3 暑	14.190 ^{**}	2.075 [*]		0.262 [*]	3.381 ^{**}	3.381 ^{**}	6.985 ^{**}	20.050 ^{**}	22.433 ^{**}	32.300 ^{**}	73.613 ^{**}
4 高	18.341 ^{**}	3.906 [*]	0.262 [*]		2.762 [*]	2.762 [*]	4.461 [*]	15.732 ^{**}	17.882 ^{**}	40.426 ^{**}	48.967 ^{**}
5 太	30.907 ^{**}	10.763 ^{**}	3.381 ^{**}	2.762 [*]		0	0.622 [*]	7.187 ^{**}	8.717 ^{**}	15.511 ^{**}	34.200 ^{**}
6 長	30.707 ^{**}	10.763 ^{**}	3.381 ^{**}	2.762 [*]	0		0.622 [*]	7.187 ^{**}	8.717 ^{**}	15.511 ^{**}	34.200 ^{**}
7 広	39.852 ^{**}	16.554 ^{**}	6.985 ^{**}	4.461 [*]	0.622 [*]	0.622 [*]		3.511 ^{**}	4.898 [*]	10.004 ^{**}	26.173 ^{**}
8 深	64.430 ^{**}	34.270 ^{**}	20.050 ^{**}	15.732 ^{**}	7.187 ^{**}	7.187 ^{**}	3.511 ^{**}		0	1.642 [*]	11.458 ^{**}
9 高	68.321 ^{**}	37.314 ^{**}	22.433 ^{**}	17.882 ^{**}	8.717 ^{**}	8.717 ^{**}	4.898 [*]	0		0	26.173 ^{**}
10 濃	83.231 ^{**}	49.203 ^{**}	32.300 ^{**}	40.426 ^{**}	15.511 ^{**}	15.511 ^{**}	10.004 ^{**}	1.642 [*]	0		4.625 [*]
11 厚	113.975 ^{**}	75.770 ^{**}	73.613 ^{**}	48.967 ^{**}	34.200 ^{**}	34.200 ^{**}	26.173 ^{**}	11.458 ^{**}	26.173 ^{**}	4.625 [*]	

* P&lt;0.05 ** P&lt;0.01

4-1-8 表により、(O₁-O₁) 系反応率の高い順に性状語をあげれば、

大小>多少>暑寒>高低>長短・太細>広狭>深淺>高安>濃淡>厚薄

となり、これに

最大最小・いちばん多少

が加わることになる。また、(O₁O₂-O₁O₂)として幼児音による基準語反応を含めるならば、わずかに、長短・太細関係に差が認められ、

長短>太細

となるが、全体の順位には変化がない。そうして、これらの系反応率の順位は、本テストで調べた26語の基準反応率について見た順位とも傾向的には変わらず、したがって、基準反応率の高い語は系反応率においても高いことを示している。

一方、(X-X)系反応率では、

広狭>深淺>長短>暑寒>厚薄

が高く、逆に(O₁-O₁)系反応率の高かった<大小><多少>を表す対語の、(X-X)反応はきわめて低い。

(N-N)反応率では、

厚薄>濃淡>深淺>高安

の順に高く、

暑寒<大小<長短

が低い反応率を示している。

4-1-9 表は、11 対語について、(O₁, O₂-O₁, O₂)系反応率に関する有意差をx²検定によって分析した結果である(最も大きい/最も小さい、いちばん多い/いちばん少ない、は除外)。

これにより、系反応率の高低を有意差の認められた群ごとに類別すると、次の表ができる。

これによれば、大きさを表す性状語が最も系反応率が高く、厚さを表す性状語が最も系反応率が低いことになる。

大 小	多 少 (暑 寒)	高 低 太 細 長 短	広 狭 深 淺	(高 安) (濃 淡)	厚 薄
-----	--------------	-------------------	------------	----------------	-----

( ) 内は形状語以外の語

*▼欄が系の成立を示す項である。

4-1-10表 対語テストにおける系の成立

	合計	1 大きい	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
(1)															
小さい・大きい															
01 小さい	121 100.0	▼ 108 89.3	▼ 6 5.0		1 .8				2 1.7	3 2.5				1 .8	
02	45 100.0	▼ 25 55.6	▼ 13 28.9		2 4.4				2 4.4	2 4.4				1 2.2	
08	4 100.0	2 50.0							▼ 2 50.0						
09	2 100.0	2 100.0													
11	1 100.0		▼ 1 100.0												
13	20 100.0	5 25.0	2 10.0							4 20.0		3 15.0		▼ 6 30.0	
14	1 100.0														1 100.0
合計	194 100.0	142 73.2	22 11.3		3 1.5				6 3.1	9 4.6		3 1.5		8 4.1	1 .5
(2)															
少ない・多い		多い													
01 少ない	105 100.0	▼ 85 81.0			9 8.6				4 3.8	4 3.8				3 2.9	
02	1 100.0								1 100.0						
04	13 100.0	7 53.8			2 15.4					1 7.7				3 23.1	
08	11 100.0	3 27.3			1 9.1				▼ 4 36.4	2 18.2				1 9.1	
09	17 100.0	8 47.1			1 5.9					6 35.3				2 11.8	

10	1	100.0	1	100.0																
11	1	100.0																		1 100.0
13	44	100.0	10	22.7	7	15.9								1	2.3	5	11.4			21 47.7
14	1	100.0																		1 100.0
合 計			114	58.8	20	10.3								10	5.2	18	9.3			30 15.5
(3) 細い・太い	194	100.0	太い																	
01	82	100.0	54	65.9										2	2.4	20	24.4			6 7.3
04	6	100.0	2	33.3												3	50.0			1 16.7
05	5	100.0	1	20.0												3	60.0			
06	5	100.0	1	20.0										1	20.0	2	40.0			
08	17	100.0	3	17.6																
09	40	100.0	10	25.0												4	18	45.0		6 15.0
13	38	100.0	2	5.3																
14	1	100.0														3	11	28.9		19 50.0
合 計	194	100.0	73	37.6										23	11.9	57	29.4			32 16.5
			3	1.5										1	.5	1	1.5			3 1.5
			1	.5																1 100.0

(4) 最も小さい・最も大きい										
01	最も小さい	24 100.0	▲19 79.2	▲1 4.2	▲1 4.2				1 4.2	
02		6 100.0	3 50.0	▲1 16.7					2 33.3	
04		2 100.0	1 50.0					1 50.0		
09		82 100.0	10 12.2	1 1.2	2 2.4	1 1.2	59 72.0	2 2.4	7 8.5	
11		3 100.0						1 33.3	2 66.7	
13		76 100.0	3 3.9	1 1.3		1 1.3	18 23.7	3 3.9	▲49 64.5	1 1.3
14		1 100.0								1 100.0
合計		194 100.0	36 18.6	4 2.1	3 1.5	2 1.0	79 40.7	7 3.6	61 31.4	2 1.0
(5) 淡い・濃い										
01	淡い	28 100.0	▲23 82.1						3 10.7	2 7.1
03		1 100.0								1 100.0
04		1 100.0	1 100.0							
08		13 100.0	1 7.7			▲11 84.6			1 7.7	
09		17 100.0	4 23.5			3 17.6	4 23.5		5 29.4	1 5.9

10		4	1						1										2	
		100.0	25.0						25.0										50.0	
11		8	3						1										2	
		100.0	37.5						12.5										25.0	
12		2							1										1	
		100.0							50.0										50.0	
13		118	21						18										1	
		100.0	17.8						15.3										47.5	
14		2																	1	
		100.0																	50.0	
	合 計	194	54						35										70	
		100.0	27.8						18.0										36.1	
									24										4	
									12.4										2.1	
	(6) 安い・高い		高い																	
01	安	37	30						3										2	
		100.0	81.1						8.1										2.7	
03		10	8						1										1	
		100.0	80.0						10.0										10.0	
08		18	2						14										2	
		100.0	11.1						77.8										11.1	
09		38	23						6										3	
		100.0	60.5						15.8										7.9	
10		2							1										1	
		100.0							50.0										50.0	
11		8	2						1										3	
		100.0	25.0						12.5										37.5	
13		80	43						1										34	
		100.0	53.8						1.3										42.5	
14		1																	1	
		100.0																	100.0	

合計	194 100.0	108 55.7								27 13.9	8 4.1	5 2.6	45 23.2	1 .5
(7) いちばん少・多		いちばん 多い												
01 いちばん 少ない	58 100.0	43 74.1	3 5.2						2 3.4	7 12.1			3 5.2	
08	3 100.0									1 33.3			2 66.7	
09	67 100.0	11 16.4	1 1.5						3 4.5	43 64.2	2 3.0		6 9.0	
11	2 100.0												2 100.0	
13	63 100.0	3 4.8	1 1.6							17 27.0	2 3.2		40 63.5	
14	1 100.0													1 100.0
合計	194 100.0	57 29.4	5 2.6						5 2.6	68 35.1	4 2.1		53 27.3	1 .5
(8) 薄い・厚い		厚い												
01 薄 い	17 100.0	11 64.7	2 11.8							1 5.9			3 17.6	
03	11 100.0	1 9.1	3 27.3						2 18.2	1 9.1			4 36.4	
06	1 100.0		1 100.0											
08	30 100.0	3 10.0							19 63.3	3 10.0			5 16.7	
09	17 100.0	3 17.6							1 5.9	9 52.9			4 23.5	

10		1 100.0								1 100.0									
11		2 100.0									1 50.0	1 50.0							
13		114 100.0	16 14.0			12 10.5	9 7.9	17 14.9			2 1.8		58 50.9						
14		1 100.0																1 100.0	
合計		194 100.0	34 17.5		19 9.8		31 16.0	32 16.5		3 1.5		74 38.1						1 .5	
(9) 狭い・広い																			
01 狭い		58 100.0	47 81.0	広い			2 3.4	6 10.3					3 5.2						
05		2 100.0	2 100.0																
08		47 100.0	18 38.3						26 55.3	2 4.3			1 2.1						
09		31 100.0	10 32.3				2 6.5	16 51.6		1 3.2			1 3.2						
11		3 100.0									2 66.7		1 33.3						
12		1 1000						1 100.0											
13		51 100.0	16 31.4				5 9.8	3 5.9		1 2.0			25 49.0		1 2.0			1 2.0	
14		1 100.0																1 100.0	
合計		194 100.0	93 47.9				35 18.0	28 14.4		4 2.1		31 16.0						2 1.0	



11		3	100.0														2	66.7		1	33.3			
12		1	100.0																					
13		18	100.0	6	33.3															4	22.2			
14		1	100.0																				1	100.0
合計		194	100.0	100	51.5	2	40	1.0	20.6	1	5	1.0	2	30	15.5	4	4	2.1	10	5.2			1	.5
短い・長い (12)																								
01	短い	66	100.0	54	81.8																		3	4.5
02		2	100.0	1	50.0																			
08		26	100.0	3	11.5																		1	3.8
09		67	100.0	31	46.3																		7	10.4
11		5	100.0	1	20.0																		1	20.0
13		27	100.0	10	37.0																		1	33.3
14		1	100.0																				1	100.0
合計		194	100.0	100	51.5	2	40	1.0	20.6	1	5	1.0	2	25	12.9	43	3	1.5	21	10.8			1	.5
浅い・深い (13)																								
	浅い・深い																							

01	浅	40 100.0	32 80.0																8 20.0
02		1 100.0	1 100.0																
05		2 100.0	1 50.0																1 50.0
08		49 100.0	3 6.1						24 49.0	4 8.2								1 2.0	17 34.7
09		32 100.0	5 15.6						1 3.1	10 31.3								1 3.1	15 46.9
11		5 100.0								1 20.0									4 80.0
13		64 100.0	13 20.3						1 1.6	5 7.8									45 70.3
14		1 100.0																	1 100.0
	合 計	194 100.0	55 28.4						26 13.4	20 10.3								1 .5	90 46.4
																			.5

## 2 発語テスト

発語テストは対義関係を示す絵を呈示し、各対の性状語は何かをたずね、被験者に単語・事物水準での理解および系の成立程度を明らかにすることが目的である。

発語テストの刺激絵図は16対32絵図が用意されている。そして、(1~16)には、〈大きい〉〈多い〉などの基準語反応(正反応)を期待する〈大きい〉〈多い〉などを表す内容が刺激絵図として登録された。また、(1'~16')には、それらとは対義的に〈小さい〉〈少ない〉などの基準語反応を期待する〈小さい〉〈少ない〉などを表す内容が刺激絵図として登録された。そして、「A図はB図とくらべて、A図はB図よりどうですか? B図はA図よりどうですか?」という問いかけで順次反応が求められた。その後、被験者の全反応は13判定基準およびテストもれ(N T)の項目を加えて14項目(104ページ参照)に分類された。

4-1-11表 発語テストの絵図*

1 大きい犬	1' 小さい犬(大きさ一体積)
2 多いりんご	2' 少ないりんご(多さ一数)
3 太い竹	3' 細い竹(太さ)
4 最も大きい犬	4' 最も小さい犬(大きさ一体積)
5 濃い色板	5' 薄い色板(濃さ一色)
6 高い果物	6' 安い果物(高さ一値段)
7 いちばん多いりんご	7' いちばん少ないりんご(多さ一数)
8 厚い本	8' 薄い本(厚さ)
9 広い池	9' 狭い池(広さ一面積)
10 大きい丸	10' 小さい丸(大きさ一面積)
11 高い煙突	11' 低い煙突(高さ)
12 水が多いコップ	12' 水が少ないコップ(多さ一容積)
13 暑いので扇風機	13' 寒いので電熱機(暑さ一温度)
14 長い鉛筆	14' 短い鉛筆(長さ)
15 深いプール	15' 浅いプール(深さ)
16 広い道	16' 狭い道(広さ一幅)

* この絵図は発語テストのほか、誘導発語および認知テストにも使用された。それらの絵図は415~425ページ参照のこと。

4-1-12A表は、(1~16) (1'~16')の反応語のうち、 $\bigcirc_1$  (基準語反応) および、 $\bigcirc_2$  (基準語を幼児音で反応)の合計だけについて、それらの反応率を示したものである。基準反応率でみると、

〈大小〉〈暑寒〉〈多少〉〈高安〉〈太細〉関係を表す語が高い。それに対して、

〈広狭〉〈厚薄〉〈高低〉が低い。最上の特徴を表すのに用いられる〈最も大きい、最も小さい〉は正答率が最も低い。そして、一方、〈大小〉〈多少〉関係のように、対語間の基準反応率が比較的同程度のもと、〈濃淡〉関係のように、対語間の正答率に比較的差がいちじるしいものとする。

そこで、各対語間の基準反応率の有意差の検定を試みたのが4-1-12B表である。これによれば、性状を表す16対32語の中で、有意な差が認められた対語は、

濃い<薄い、長い>短いである。そして、傾向的に差が現れたのは、

高い>安い、暑い<寒いであった。これらを発語テストにおける結果と比較するならば、濃淡、長短を表す性状語の対語は有意差の認められたものであるし、傾向的に差の生じた高安を表す性状語の対語は統計的には有意差の認められたものであった。しかし、明確な差異として生じたのは、〈濃淡〉は対語テストでは〈濃い〉が〈薄い〉より正答率が高かったのに、発語テストではその関係が逆になっていること。また、対

4-1-12A表 発語テストの反応語の基準反応率( $\bigcirc_1$ ,  $\bigcirc_2$ )

1	大	き	い	95.9	1'	小	さ	い	93.4							
2	多		い	68.6	2'	少	な	い	75.8							
3	太		い	59.8	3'	細		い	52.1							
4	最	も	大	き	い	0	4'	最	も	小	さ	い	0.5			
5	濃		い	36.6	5'	淡		い	61.9							
6	高		い	59.8	6'	安		い	51.0							
7	い	ち	ば	ん	多	い	29.9	7'	い	ち	ば	ん	少	な	い	35.1
8	厚		い	16.0	8'	薄		い	12.4							
9	広		い	11.9	9'	狭		い	9.8							
10	大	き	い	94.8	10'	小	さ	い	96.4							
11	高		い	11.3	11'	低		い	13.4							
12	多		い	71.1	12'	少	な	い	76.8							
13	暑		い	79.4	13'	寒		い	87.1							
14	長		い	47.9	14'	短		い	25.8							
15	深		い	21.1	15'	浅		い	14.9							
16	広		い	9.3	16'	狭		い	10.8							

4-1-12B表 発語テスト各対の  $\chi^2$  による有意差検定

対	語	$\chi^2$	P	df
1	大 > 1' 小	0	—	1
2	多 < 2' 少	2.485	0.20	1
3	太 > 3' 細	2.349	0.20	1
4	最 大 < 4' 最小	0	—	1
5	濃 < 5' 淡	24.720	0.01**	1
6	高 > 6' 安	3.030	0.10	1
7	い ち ば ん 多 > 7' 少	1.185	0.30	1
8	厚 > 8' 薄	0.985	0.50	1
9	広 > 9' 狭	0.414	0.70	1
10	大 > 10' 小	0.108	0.80	1
11	高 < 11' 低	0.368	0.70	1
12	多 < 12' 少	1.879	0.20	1

語テストで有意な差が認められた〈広狭〉〈厚薄〉には発語テストでは差が出ず、また発語テストで傾向的に差の出た〈暑寒〉は対語テストでは差は認められなかった。	13	暑	<	13'	寒	3.702	0.10	1
	14	長	>	14'	短	19.431	0.01**	1
	15	深	>	15'	浅	2.501	0.20	1
	16	広	<	16'	狭	0.221	0.70	1

以上の矛盾はどのように解釈できるか。〈濃淡〉の関係は対語テストでは、濃い>薄い関係になったが、発語テストでは、〈濃い〉に対する色名呼称が多く、そのために、濃いく淡いという関係になったと考えられるが、さらにこれはテストⅢで改めて検討される。

〈広狭〉〈厚薄〉が発語テストで差が生じなかったが、それらの反応をみると、〈広狭〉〈厚薄〉では共に項目3および9に対する反応が目立って多い。すなわち、

		3	9			3	9
8	厚い	36.6%	41.2%	8'	薄い	30.9%	42.8%
9	広い	51.0%	12.4%	9'	狭い	51.0%	14.4%
16	広い	70.7%	8.2%	16'	狭い	62.4%	10.8%

となり、両項目で全反応の大部分を占めている。このうち、項目3は「異なる文脈での○反応」であり、大部分が「大きい、小さい」に関する語反応であり、日常生活という文脈上では、厚い本は大きい本ともいい、広い池、広い道は大きい池、大きい道といわれるためであり、それが形状を〈大きい、小さい〉ですます幼児の反応傾向に加わって反応率を高めている。対語テストでは発語テストと違って絵図という事物対応がないから、項目3の反応は少ない。なお、項目9は次元の異なる語反応という意味の違いであるが、極性を異にする反応はきわめて少ない（下表参照）。

#### 発語テストの基準外反応数 4歳児クラス (117名)

2 多	イッパイ27, オオキイ6, タクサン2, ヨット2, オークナイ1, イイ1	2' 少	スコシ7, チイサイ7, フタツ4, オ ークナイ2, チット2, ペッコ1, オ オイ1, タリナイ1
3 太	オオキイ43, フットイ4, デッカイ2, デブチン1, チイサイ1, ヒクイ1, イ イ1, ヤセテル1	3' 細	チイサイ40, フトクナイ5, ホソカイ 4, ヤセッポ3, ミジカイ2, オオキ イ1, ヤセテル1, ナガクナイ1, コ ノグライ1, ヤセテナイ1, オオキイ1
4 濃	アカイ10, ウスクナイ10, オーイ7, チガウ5, アツイ4, イッパイ3 (以下略)	4' 淡	スクナイ6, ピンク5, チガウ4, チ ョット2, アサイ2, モモイロ2
6 広	オオキイ76, フトイ8, デッカイ2, イ ッパイ3, フカイ1, イイ1	6' 狭	チイサイ78, ホソイ5, スクナイ5, アサイ2, チョットハイル1

性状語テストII(1~16) 発語テストの結果

	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1 大きい	194 100.0	140 72.2	46 23.7		5 2.6					2 1.0				1 .5	
2 多い	194 100.0	133 68.6		1 .5	41 21.1					9 4.6		3 1.5		7 3.6	
3 太い	194 100.0	116 59.8			3 1.5	4 2.1	2 1.0			64 33.0		1 .5		4 2.1	
4 最も大きい	194 100.0				73 37.6					113 58.2		3 1.5		5 2.6	
5 濃い	194 100.0	71 36.6		15 7.7		1 .5	2 1.0		14 7.2	35 18.0		27 13.9	3 1.5	26 13.4	
6 高い	194 100.0	116 59.8							1 .5	63 32.5				14 7.2	
7 いちばん多い	194 100.0	58 29.9			9 4.6					106 54.6		7 3.6		14 7.2	
8 厚い	194 100.0	31 16.0		71 36.6			3 1.5			80 41.2	1 .5	3 1.5		4 2.1	1 .5
9 広い	194 100.0	23 11.9		99 51.0		40 20.6	3 1.5			24 12.4		3 1.5		2 1.0	
10 大きい	194 100.0	143 73.7	41 21.1	1 .5	3 1.5					4 2.1		1 .5		1 .5	
11 高い	194 100.0	22 11.3		155 79.9			1 .5			9 4.6		1 .5		5 2.6	1 .5
12 多い	194 100.0	138 71.1		2 1.0	38 19.6	1 .5				13 6.7		1 .5		1 .5	
13 替い	194 100.0	154 79.4	1 .5	23 11.9			1 .5			7 3.6			1 .5	6 3.1	1 .5

14	長	い	194 100.0	93 47.9	90 46.4	1 .5						9 4.6				1 .5
15	深	い	194 100.0	41 21.1	81 41.8			24 12.4				40 20.6	2 1.0			6 3.1
16	広	い	194 100.0	18 9.3	137 70.7			1 .5	6 3.1			16 8.2	2 1.0	3 1.5	11 5.7	

*各欄の上段の数字は反応人数，下段の数字は全被験者に対するパーセント。

反応語	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1' 小さい	194 100.0	131 67.5	56 28.9						1 .5	2 1.0		1 .5		3 1.5	
2' 少ない	194 100.0	147 75.8			13 6.7	2 1.0			7 3.6	11 5.7		5 2.6		8 4.1	1 .5
3' 細かい	194 100.0	101 52.1			8 4.1	6 3.1	2 1.0		8 4.1	57 29.4		1 .5		10 5.2	1 .5
4' 最も小さい	194 100.0	1 .5			79 40.7	1 .5				104 53.6		4 2.1		5 2.6	
5' 淡い	194 100.0	120 61.9						1 .5	3 1.5	26 13.4		20 10.3	1 .5	22 11.3	1 .5
6' 安い	194 100.0	99 51.0							9 4.6	58 29.9		4 2.1	1 .5	23 11.9	
7' いちばん少ない	194 100.0	68 35.1			2 1.0					91 46.9		16 8.2		16 8.2	1 .5
8' 薄い	194 100.0	24 12.4		60 30.9	1 5	1 .5	2 1.0	1 .5	3 1.5	83 42.8	1 .5	7 3.6		10 5.2	1 .5
9' 狭い	194 100.0	19 9.8		99 51.0		40 20.6		2 1.0	2 1.0	28 14.4		1 .5		3 1.5	



## 2-1 系の成立

テストⅡは対絵テストの中の発語テストと称し、「絵Aと絵Bとは、どこが違うか。絵Aは絵Bより？ また絵Bは絵Aより？」という質問形式で対話の反応を求め、単語・事物（絵）の系の成立の程度を明らかにすることを目的にしたものである。そこで、テストⅡで実施した対話について、発語の反応の項目を交差させることによって、系の成立程度を調べることにした。そして、系は次の4項目に限って分析することにし、4-1-16表の系の交差部分は（▶）で示すことにした。

○₁—○₁ 基準語反応の系

(○₁, ○₂)—(○₁, ○₂) 幼児音反応を含む基準語反応の系

×—× 「～ナイ」反応の系

N—N 無答反応の系

4-1-13表は、それらの系の各反応率を一覧表で示したものである。

4-1-13表 発語テストにおける系反応率

絵 図	性 状 語	○ ₁ —○ ₁		(○ ₁ , ○ ₂ )(○ ₁ , ○ ₂ )		×—×		N—N	
			%		%		%		%
犬	1 大 小	112	57.7	181	93.2	0		1	0.5
	りんご	2 多 少	118	60.8	→		0		6 3.0
竹	3 太 細	88	45.3	→		0		4 2.0	
	犬	4 最大 最小	1	0.5	→		0		5 2.5
色	5 濃 淡	66	34.0	→		0		15 7.7	
	果 物	6 高 安	93	47.9	→		0		13 6.7
りんご	7 多 ^{いちばん} 少	53	27.3	→		0		10 5.1	
本	8 厚 薄	19	9.7	→		0		3 1.5	
池	9 広 狭	17	8.7	→		0		2 1.0	
	丸	10 大 小	125	64.4	180	92.7	0		1 0.5
煙 突	11 高 低	16	8.2	→		0		5 2.5	
コ ッ プ	12 多 少	120	61.8	→		0		1 0.5	
冷暖房具	13 暑 寒	145	74.7	146	75.2	0		4 2.0	
鉛 筆	14 長 短	46	23.7	→		0		1 0.5	
プ ール	15 深 浅	25	12.8	→		0		4 2.0	
	道	16 広 狭	12	6.1	→		0		10 5.1

4-1-13表により、(O₁-O₁)系反応率の高い順に性状語をあげれば、

暑寒>大小(丸)>多少(コップ)>多少(りんご)>大小(犬)>高安>太細>濃淡>長短>深浅>厚薄>広狭(池)>高低>広狭

となり、これに、

最も大きい、最も小さい、いちばん多い、いちばん少ない

が加わることになる。また、これに(O₁, O₂)-(O₁, O₂)として幼児音による基準語反応を含めるならば、<大小>を表す犬の体積、丸の面積を示したく大きい、小さい>がきわめて高い反応率で第1位に位置することになる。(X-X)系反応率は16対語内ではまったく現れず、対語テストとは対立した結果になっているが、発語テストでは絵によって対立的な性状が示されているので、その反応は「～ナイ」でなく、特定の性状語でするか、無答あるいは「知らない」(N)反応で答えることになる。

しかし、(N-N)系反応率は対語テストに比較して、いちじるしく少なくなっている。これは絵カードによって対象が明示されていて、単語・事物系反応を容易にさせているためであるが、その中でも濃淡、高安

は比較的(N-N)系反応率が高く、その結果は対語テストでも比較的高い(N-N)系反応率として現れている。ではなぜそのような事実が生じるのか。これは改めて考察することになるが、発語テストとしては両性状を表す絵カードが他に比較して直接的に性状を必ずしも明示していないという問題点があること。また、そのため、意味の異なる反応(項目9)を多くひきだしている。

4-1-14表 発語テストにおける系反応の有意差検定(χ²)

*<0.05 **<0.01

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
1	暑 寒(冷暖房)		*	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**
2	大 小(丸)	*					**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**
3	多 少(コップ)	**					**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**
4	多 少(りんご)	**			*	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**
5	大 小(犬)	**	**	**				*	**	**	**	**	**	**	**	**	**
6	高 安(果物)	**	**	**	*				**	**	**	**	**	**	**	**	**
7	太 細(竹)	**	**	**	**	*			*	**	**	**	**	**	**	**	**
8	濃 淡(色)	**	**	**	**	**	**	*		*	**	**	**	**	**	**	**
9	いちばん多. 少(りんご)	**	**	**	**	**	**	**			**	**	**	**	**	**	**
10	長 短(鉛筆)	**	**	**	**	**	**	**	*		**	**	**	**	**	**	**
11	深 浅(プール)	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**					*	**
12	厚 薄(本)	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**					**
13	広 狭(池)	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**					**
14	高 低(煙突)	**					*	**	**	**	**	**					**
15	広 狭(道)	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	*					**
16	最大・最小(犬)	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**

次に(O₁, -O₁)系反応について、反応率の有意差を検定して、有意差の認められた所在を示すと4-1-14表のようになる。

これによれば、〈暑寒〉の系反応率は他のすべての性状語より有意に高く、〈最も大きい・最も小さい〉の系反応率は他のすべての性状語より有意に低い。

次に、16対32語につき、有意差の有無に従ってグループ分けをすると4-1-15表のようになり、5グループに大別される。これによれば、第2グループでは、〈大きい・小さい〉〈多い・少ない〉〈太い・細い〉のほか、値段の高さを表す〈高い・安い〉がある、第3グループには色の濃さを表す〈濃い・薄い〉〈いちばん多い・いちばん少ない〉、それに長さを表す〈長い・短い〉がある。そして第4グループには、〈深い・浅い〉〈厚い・薄い〉〈広い・狭い〉〈高い・低い〉がある。この中で、同じ長さを表す語でありながら、深さや高さ、そして幅の長さを表す語が特殊な次元を限定して用いられるために系の成立を低めている。

4-1-15表

I	1	暑	寒 (冷暖房)
	2	大	小 (丸)
II	3	多	少 (コップ)
	4	多	少 (りんご)
	5	大	小 (犬)
III	6	高	安 (果物)
	7	太	細 (竹)
	8	濃	淡 (色)
	9	いちばん多	少 (りんご)
IV	10	長	短 (鉛筆)
	11	深	浅 (プール)
	12	厚	薄 (本)
	13	広	狭 (池)
	14	高	低 (煙突)
V	15	広	狭 (道)
	16	最大・最小	(犬)

もっとも、この5グループの中で、(O₁, O₂) 反応にしたがえば、大きさを表す〈大きい・小さい〉は系反応率が最も高くなり、他のすべての性状語より有意に高くなる。

次に対語テストの結果と比較してみると、物の大きさを表す〈大きい・小さい〉の系反応率が最も高いことは共通しており、すべてのものの大きさを表す共通的な語として大きい・小さいがあることを示し、そのために、特定の次元の幅の広さや高さ、厚さ、深さを表す語もこれによって使われるために、それらの反応率が相対的に低められることになる。その点では、大小よりもやや限定された用法を示す長さを表す〈長い・短い〉が、深さや高さ、広さのグループより一段高いグループに位置することの必然性がみられる。暑さを表す〈暑い・寒い〉と多さを表す〈多い・少ない〉は対語テストでは同じグループに含まれていたが、発語テストでは分かれている。

発語テストでは長さを表す〈長い・短い〉、高さを表す〈高い・低い〉が、太さを表す〈太い・細い〉に比較して低いのが注目される。

また、値段の高さを表す〈高い・安い〉、色の濃さを表す〈濃い・薄い〉が対語テストでは低い。これは対語テストでは、〈高い・安い〉が空間的な高さを表す〈高い・低い〉の系に誘引されたのであるし、〈濃い〉はその語単独では必ずしもただちに対象を想起させるだけの対語的性格を持ちにくいことであることはすでに指摘した(131ページ)。そして、その点では対語テストの厚さを表す〈厚い・薄い〉も同様であるとみられる。

4-1-16表 発語リストにおける系の成立

	合計	1 小さい	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
(1)															
大きい・小さい															
01 大きい	140 100.0	112 80.0	24 17.1							2 1.4		1 .7		1 .7	
02	46 100.0	16 34.8	29 63.0											1 2.2	
04	5 100.0	3 60.0	2 40.0												
09	2 100.0		1 50.0						1 50.0						
13	1 100.0													1 100.0	
合計	194 100.0	131 67.5	56 28.9						1 .5	2 1.0		1 .5		3 1.5	
(2)															
多い・少ない															
01 多い	133 100.0	118 88.7			3 2.3				6 4.5	3 2.3		1 .8		1 .8	
03	1 100.0	1 100.0													
04	41 100.0	25 61.0			10 24.4	2 4.9				1 2.4		2 4.9		1 2.4	
09	9 100.0	1 11.1							1 11.1	7 77.8					
11	3 100.0	1 33.3										2 66.7			
13	7 100.0	1 14.3												6 85.7	

合計	194 100.0	147 75.8			13 6.7	2 1.0			7 3.6	11 5.7	5 2.6	8 4.1	1 .5
----	--------------	-------------	--	--	-----------	----------	--	--	----------	-----------	----------	----------	---------

* ▽欄が系の成立を示す項である。

(3)													
木	い	細	い										
01	太	い	116 100.0	▽ 88 75.9		5 4.3	4 3.4		6 5.2	7 6.0			1 4.3
04			3 100.0	1 33.3		2 66.7							
05			4 100.0					1 25.0	1 25.0	2 50.0			
06			2 100.0	1 50.0				1 50.0					
09			64 100.0	11 17.2		1 1.6	2 3.1		1 1.6	48 75.0			1 1.6
11			1 100.0								1 100.0		
13			4 100.0									▽ 4 100.0	
合計			194 100.0	101 52.1		8 4.1	6 3.1	2 1.0	8 4.1	57 29.4	1 .5		1 5.2
(4)													
最も大きい		最も小さい											
04	最も大きい		73 100.0	1 1.4		63 86.3	1 1.4			8 11.0			
09			113 100.0			16 14.2				96 85.0	1 .9		
11			3 100.0								3 100.0		
13			5 100.0									▽ 5 100.0	

合 計	194 100.0	1 .5					79 40.7	1 .5					104 53.6	4 2.1	5 2.6		
(5) 濃い・淡い		淡い															
01 濃い	71 100.0	66 93.0										2 2.8	3 4.2				
03	15 100.0	14 93.3							1 6.7								
05	1 100.0	1 100.0															
06	2 100.0	2 100.0															
08	14 100.0	14 100.0															
09	35 100.0	9 25.7										1 2.9	17 48.6	4 11.4	4 11.4		
11	27 100.0	7 25.9												14 51.9	2 7.4	1 3.7	
12	3 100.0	1 33.3													1 33.3		
13	26 100.0	6 23.1											3 11.5	2 7.7	15 57.7		
合 計	194 100.0	120 61.9							1 .5			3 1.5	26 13.4	20 10.3	1 .5	22 11.3	1 .5
(6) 高い・安い		安い															
01 高い	116 100.0	93 80.2										9 7.8	7 6.0	2 1.7	1 .9	4 3.4	
08	1 100.0	1 100.0															

09		63 100.0	4 6.3							51 81.0		2 3.2	6 9.5	
13		14 100.0	1 7.1										13 92.9	
合計		194 100.0	99 51.0						9 4.6	58 29.9		4 2.1	1 .5	23 11.9
(7)														
いちばん多いいちばん少ない														
01	いちばん多い	58 100.0	53 91.4					1 1.7		4 6.9				
04	いちばん少ない	9 100.0	4 44.4					1 11.1		2 22.2		1 11.1	1 11.1	
09		106 100.0	11 10.4							79 74.5		10 9.4	5 4.7	1 .9
11		7 100.0								4 57.1		3 42.9		
13		14 100.0								2 14.3		2 14.3	10 71.4	
合計		194 100.0	68 35.1					2 1.0		91 46.9		16 8.2	16 8.2	1 .5
(8)														
厚い・薄い														
01	厚い	31 100.0	19 61.3							4 12.9		1 3.2	4 12.9	
03	薄い	71 100.0	2 2.8							9 12.7			2 2.8	1 1.4
06		3 100.0												
09		80 100.0	3 3.8					2 2.5	1 1.3	69 86.3		1 2.5	1 1.3	1 1.3

10		1 100.0														1 100.0											
11		3 100.0															1 33.3				2 66.7						
13		4 100.0															1 25.0				3 75.0						
14		1 100.0																			1 100.0						
合計		194 100.0	24 12.4														60 30.9	1 .5	1 .5	2 1.0	1 .5	83 42.8	1 .5	7 3.6	10 5.2	1 .5	
広 い・狭 い ⁽⁹⁾			狭い																								
01 広 い		23 100.0	17 73.9														1 4.3	2 8.7				1 4.3	2 8.7				
03		1 100.0															1 100.0										
04		98 100.0	1 1.0																								
05		40 100.0	1 2.5																								
06		3 100.0																									
09		24 100.0																									
11		3 100.0																									
13		2 100.0																									
合計		194 100.0	19 9.8														2 1.0	97 50.0	40 20.6	2 1.0	2 1.0	28 14.4	2 1.0	1 .5	3 1.5		

(10) 大きい・小さい		小さい																
01	大きい	143 100.0	125 87.4	17 11.9						1 .7								
02		41 100.0	8 19.5	30 73.2						1 2.4	1 2.4							
03		1 100.0	1 100.0															
04		3 100.0	2 66.7	1 33.3														
09		4 100.0	1 25.0	1 25.0														
11		1 100.0	1 100.0															
13		1 100.0																1 100.0
合計		194 100.0	138 71.1	49 25.3						2 1.0	1 .5	3 1.5						1 .5
(11) 高い・低い			低い															
01	高い	22 100.0	16 72.7															1 4.5
03		155 100.0	10 6.5								1 .6	3 1.9						9 5.8
06		1 100.0																
09		9 100.0																3 33.3
11		1 100.0																1 100.0

13		5 100.0																5 100.0
14		1 100.0						1 100.0										
合計		194 100.0	26 13.4					142 73.2						1 .5	3 1.5	13 6.7	1 .5	8 4.1
(12)	多い・少ない		少ない															
01	多い	138 100.0	120 87.0		1 .7			6 4.3		3 2.2					2 1.4	4 2.9		2 1.4
03		2 100.0	2 100.0															
04		38 100.0	24 63.2					10 26.3		1 2.6				1 2.6	2 5.3			
05		1 100.0								1 100.0								
09		13 100.0	2 15.4					1 7.7						1 7.7	8 61.5			1 7.7
11		1 100.0	1 100.0															
13		1 100.0																1 100.0
合計		194 100.0	149 76.8		1 .5			17 8.8	5 2.6					4 2.1	14 7.2			4 2.1
(13)	暑い・寒い		暑い															
01	暑い	154 100.0	145 94.2					5 3.2		2 1.3				1 .6	1 .6			
02		1 100.0	1 100.0															
03		23 100.0	16 69.6					4 17.4							1 4.3		2 8.7	

06	1	100.0	1	100.0																														
09	7	100.0	3	42.9	1	14.3													3	42.9														
12	1	100.0	1	100.0																														
13	6	100.0	1	16.7															1	16.7	4	66.7												
14	1	100.0	1	100.0																														
合計	194	100.0	169	87.1	10	5.2					2	1.0							1	.5	6	3.1	2	1.0	4	2.1								
長い・短い (14)																																		
01	93	100.0	46	49.5	1	26	1	28.0												1	18	19.4					1	1.1						
03	90	100.0	3	3.3																1							5	5.6						
04	1	100.0																																
09	9	100.0	1	11.1																							5	55.6						
13	1	100.0																									1	100.0						
合計	194	100.0	50	25.8	1	111	5	57.2												1	.5	28	14.4				2	1.0						
深い・浅い (15)																																		
01	41	100.0	25	61.0	3	7.3																					6	14.6	5	12.2	1	2.4		
03	81	100.0	1	1.2																							1	1.2	4	4.9	1	1.2	3	3.7



### 3 性状語テスト基準反応率・系反応率一覧表

4-1-17表 性状語テスト基準反応率一覧表（あいうえお順）

語	対語	対 絵			語	対語	対 絵		
		発語	誘発	認知			発語	誘発	認知
あつい(厚) (194)	17.5	16.0	59.3	97.4	うすい(薄) (194)	8.8	12.4	59.8	97.9
あつい(暑) (194)	51.5	79.4	94.3	98.5	さむい(寒) (194)	53.6	87.1	96.9	100.0
あさい(浅) (194)	20.6	14.9	70.1	94.8	ふかい(深) (194)	28.4	21.1	70.6	96.9
いちばんおい (多) (194)	29.4	29.9	51.0	95.9	いちばんすくない (少) (194)	29.9	35.1	54.6	97.9
いちばんすくない (少) (194)	29.9	35.1	54.6	97.9	いちばんおい (多) (194)	29.4	29.9	51.0	95.9
うすい(薄) (194)	8.8	12.4	59.8	97.9	あつい(厚) (194)	17.5	16.0	59.3	97.4
うすい(淡) (194)	14.4	61.9	74.2	93.3	こい(濃) (194)	27.8	36.6	51.0	85.6
おおい(多) (コップ)(194)	58.8	71.1	80.4	96.9	すくない(少) (194)	54.1	76.8	87.6	98.5
おおい(多) (りんご)(194)	58.8	68.6	82.0	96.9	すくない(少) (194)	54.1	75.8	88.7	97.9
おおきい(大) (犬)(194)	73.2	72.2	98.5	100.0	ちいさい(小) (194)	62.4	67.5	97.9	99.5
おおきい(大) (丸)(194)	73.2	73.7	97.4	100.0	ちいさい(小) (194)	62.4	71.1	97.9	99.5
こい(濃) (194)	27.8	36.6	51.0	85.6	うすい(薄) (194)	14.4	61.9	74.2	93.3
さむい(寒) (194)	53.6	87.1	96.9	100.0	あつい(暑) (194)	51.5	79.4	94.3	98.5
すくない(少) (194)	54.1	75.8	88.7	97.9	おおい(多) (194)	58.8	68.6	82.0	96.9
すくない(少) (コップ)(194)	54.1	76.8	87.6	98.5	おおい(多) (194)	58.8	71.1	80.4	96.9

せまい (狭) (池) (194)	29.9	9.8	45.4	69.9	ひろい (広) (194)	47.9	11.9	43.8	95.9
せまい (狭) (道) (194)	29.9	10.8	43.8	96.9	ひろい (広) (194)	47.9	9.3	56.7	98.5
たかい (高) (194)	47.9	11.3	96.4	100.0	ひくい (低) (194)	45.9	13.4	91.8	99.5
たかい (高) (194)	55.7	59.8	78.4	97.9	やすい (安) (194)	19.1	51.0	74.2	91.8
ちいさい (小) (犬) (194)	62.4	67.5	97.9	99.5	おおきい (大) (194)	73.2	72.2	98.5	100.0
ちいさい (小) (丸) (194)	62.4	71.1	97.9	99.5	おおきい (大) (194)	73.2	73.7	97.4	100.0
ながい (長) (194)	51.5	47.9	95.9	100.0	みじかい (短) (194)	34.0	25.8	87.1	100.0
ひくい (低) (194)	45.9	13.4	91.8	99.5	たかい (高) (194)	47.9	11.3	96.4	100.0
ひろい (広) (池) (194)	47.9	11.9	43.8	95.9	せまい (狭) (194)	29.9	9.8	45.4	96.9
ひろい (広) (道) (194)	47.9	9.3	56.7	98.5	せまい (狭) (194)	29.9	10.8	43.8	96.9
ふかい (深) (194)	28.4	21.1	70.6	96.9	あさい (浅) (194)	20.6	14.9	70.1	94.8
ふとい (太) (194)	37.6	59.8	71.1	95.4	ほそい (細) (194)	42.3	52.1	66.5	98.5
ほそい (細) (194)	42.3	52.1	66.5	98.5	ふとい (太) (194)	37.6	59.8	71.1	95.4
みじかい (短) (194)	34.0	25.8	87.1	100.0	ながい (長) (194)	51.5	47.9	95.9	100.0
もっともおおきい (最大) (194)	18.6	0	21.6	99.0	もっともちいさい (最小) (194)	12.4	0.5	26.3	97.4
もっともちいさい (最小) (194)	12.4	0.5	26.3	97.4	もっともおおきい (最大) (194)	18.6	0	21.6	99.0
やすい (安) (194)	19.1	51.0	74.2	91.8	たかい (高) (194)	55.7	59.8	78.4	97.9

4-1-18表 性状語の系反応率一覧表

語	対語	対 絵			
		発語	誘発	認知	
あつい(厚) うすい(薄)	11 5.7	19 9.8	90 46.4	186 95.9	
あつい(暑) さむい(寒)	71 36.6	145 74.7	179 92.3	191 98.5	
あさい(浅) ふかい(深)	32 16.5	25 12.9	114 58.8	182 93.8	
いちばんおいしい (多)	43	53	90	184	
いちばんすくない (少)	22.2	27.3	46.4	94.8	
うすい(薄) あつい(厚)	11 5.7	19 9.8	90 46.4	186 95.9	
こい(濃) うすい(淡)	23 11.9	66 34.0	89 45.9	160 82.5	
おいしい(多) すくない(少)	85 43.8	118 60.8	149 76.8	185 95.4	(りんご)
おいしい(多) すくない(少)	85 43.8	120 61.8	146 75.3	186 95.9	(コップ)
おおきい(大) ちいさい(小)	108 55.7	112 57.7	188 96.9	193 99.5	(犬)
おおきい(大) ちいさい(小)	108 55.7	125 64.4	187 96.4	193 99.5	(丸)
うすい(淡) こい(濃)	23 11.9	66 34.0	89 45.9	160 82.5	
さむい(寒) あつい(暑)	71 36.6	145 74.7	179 92.3	191 98.5	
すくない(少) おいしい(多)	85 43.8	118 60.8	149 76.8	185 95.4	(りんご)
すくない(少) おいしい(多)	85 43.8	120 61.9	146 75.3	186 95.9	(コップ)

せまい(狭) ひろい(広)	47 24.2	17 8.8	62 32.0	185 95.4	(池)
せまい(狭) ひろい(広)	47 24.2	12 6.2	61 31.4	187 96.4	(道)
たかい(高) ひくい(低)	66 34.0	16 8.2	176 90.7	193 99.5	
たかい(高) やすい(安)	30 15.5	93 47.9	135 69.6	177 91.2	
ちいさい(小) おおきい(大)	108 55.7	112 57.7	188 96.9	193 99.5	(犬)
ちいさい(小) おおきい(大)	108 55.7	125 64.4	187 96.4	193 99.5	(丸)
ながい(長) みじかい(短)	54 27.8	46 23.7	166 85.6	194 100	
ひくい(低) たかい(高)	66 34.0	16 8.2	176 90.7	193 99.5	
ひろい(広) せまい(狭)	47 24.2	17 8.8	62 32.0	185 95.4	(池)
ひろい(広) せまい(狭)	47 24.2	12 6.2	61 31.4	187 96.4	(道)
ふかい(深) あさい(浅)	32 16.5	25 12.9	114 58.8	182 93.8	
ふとい(太) ほそい(細)	54 27.8	88 45.4	113 58.2	183 94.3	
みじかい(短) ながい(長)	54 27.8	46 23.7	166 85.6	194 100	
もっともおおきい (最大)	19	1	33	187	
もっともちいさい (最小)	9.8	0.5	17.0	96.4	
やすい(安) たかい(高)	30 15.5	93 47.9	135 69.6	177 91.2	

*上段の数値は反応数, 下段の数値は反応率(%)。

なお、同じ性状語間では、丸を絵刺激にした面積を表す〈大きい・小さい〉は犬を絵刺激にした体積を表す〈大きい・小さい〉より高く、面積を表す〈広い・狭い〉は幅を表す〈広い・狭い〉より高い。しかし、容積を表す〈多い・少ない〉と数を表す〈多い・少ない〉とは差が認められなかった。もっとも、犬を絵刺激にした場合、その反応は体積としての大きさへの反応か、単なる面積としての大きさへの反応かは決められない。

#### 4 パラメーターの分離テスト

周囲にあるさまざまな事物は、一つ一つがいくつかの複合した属性を持っていて、たとえば、長くて太いホースや厚くて大きい手帳とか、長くて広いリボンなどがある。そこで、幼児が正しく、ある性状を表す語を理解し、使用できるためには、事物の複合した属性から、必要外のパラメーターを分離することができなくてはいけない。そこで、事物・事物の水準でその系の成立する程度を調べるテストの一つとして、パラメーター分離テストを取りあげた。

テストには、被験者に刺激材料として、次のものが使用された。

ビニール・ホース 長・太  
手帳 厚・大  
リボン 長・広  
ブロック・積み木 高・大

それぞれのパラメーターに3段階を設けたので、各材料に9種のものが用意され、被験者に、A、Bの標準刺激を見せて、たとえば「これと同じ長さのものはどれですか？」とたずねて回答を求めた。この場合、実際に材料にさわって比較することは任意である。

そこで、全16問について、正反応率間の有意差の有無を $\chi^2$ 検定によってみると、

$$\chi^2=663.044 \quad df=15 \quad P<0.01^{**}$$

となり、有意な差が認められた。また、前問と後問との正反応率間の有意差の有無を $\chi^2$ 検定によってみると、

$$\chi^2=2.989 \quad df=1 \quad P<0.10$$

となり、傾向的な差はあるが有意差は認められなかった。したがって、前問の4-1-19表に示す正反応率に限って、各問題間の有意差を調べることにした。

4-1-19表 パラメーター分離テストの正反応率

1 長 (太)	142 73.1%	1' 太 (長)	138 71.1%
2 厚 (大)	61 31.4	2' 大 (厚)	141 72.6
3 長 (広)	116 59.7	3' 広 (長)	135 69.5
4 高 (大)	141 72.6	4' 大 (高)	7 3.6

* ( ) 内は分離されるパラメーター

8問の正反応率は問題によって差が大きく、同じパラメーターでは複合するパラメーターによって変化がみられるが、4-1-20表は、8問間の正反応率の有意差検定( $\chi^2$ )によって調べた結果である。この結果から、正反応率の高低を類別して示すと、4-1-21表になる。

4-1-20表 パラメーター8問間の正反応率の有意差検定

	1	2	3	4	1'	2'	3'	4'
1		67.640 ^{**}	7.795 ^{**}	—	0.149	—	0.586	198.213 ^{**}
2	67.640 ^{**}		31.434 ^{**}	65.960 ^{**}	61.120 ^{**}	65.960 ^{**}	56.440 ^{**}	51.963 ^{**}
3	7.795 ^{**}	31.434 ^{**}		7.196 ^{**}	5.525 ^{**}	7.196 ^{**}	4.064 [*]	141.158 ^{**}
4	—	65.960 ^{**}	7.196 ^{**}		0.049	—	0.438	195.722 ^{**}
1'	0.149	61.120 ^{**}	5.525 ^{**}	0.049		0.049	0.095	188.862 ^{**}
2'	—	65.960 ^{**}	7.196 ^{**}	—	0.049		0.438	195.722 ^{**}
3'	0.586	56.440 ^{**}	4.064 [*]	0.438	0.095	0.438		181.589 ^{**}
4'	198.213 ^{**}	51.963 ^{**}	141.158 ^{**}	195.722 ^{**}	188.862 ^{**}	195.722 ^{**}	181.589 ^{**}	

この結果、同じパラメーターを持ちながら正反応率群に差が生じたものに次のものがある。

1 長さ(太) > 3 長さ(広)

2' 大きさ(厚) > 4' 大きさ(高)

このうち、2'の大きさは手帳の表面の面積に依存し、4'の大きさはブロック・積み木の容積に依存していることに差が生じたと考えられる。1の長さはホースの長さ、3の長さはリボンの長さであるが、長さ自体に質的な相違は認められないから、むしろ、複合する対のパラメーターに分離を困難にさせる要因が求められる。すなわち、1の長さは対のパラメーターに太さを持つのに対して、3の長さは対のパラメーターに幅の広さを持つが、すでに163ページで認められるように、太さは幅の広さに比較して、理解が容易である。このことが1の長さの方が3の長さより容易になっている。なお、地域差は、以下のようになぜとも認められなかった。

1 長さA  $\chi^2=1.269$  df=2 P<0.70

B  $\chi^2=2.004$  df=2 P<0.50

2 厚さA  $\chi^2=0.231$  df=2 P<0.90

B  $\chi^2=3.311$  df=2 P<0.20

3 長さA  $\chi^2=0.124$  df=2 P<0.95

B  $\chi^2=0.490$  df=2 P<0.80

4 高さA  $\chi^2=2.414$  df=2 P<0.30

B  $\chi^2=1.448$  df=2 P<0.50

1' 太さA  $\chi^2=0.779$  df=2 P<0.70

4-1-21表

1 長さ(太)

4 高さ(大)

1' 太さ(長)

2' 大きさ(厚)

3' 広さ(長)

3 長さ(広)

2 厚さ(大)

4' 大きさ(高)

$$B \quad x^2=2.616 \quad df=2 \quad P<0.70$$

$$2' \text{ 大きさA} \quad x^2=0.402 \quad df=2 \quad P<0.90$$

$$B \quad x^2=3.753 \quad df=2 \quad P<0.20$$

$$3' \text{ 広 さA} \quad x^2=3.776 \quad df=2 \quad P<0.20$$

$$B \quad x^2=0.361 \quad df=2 \quad P<0.90$$

$$4' \text{ 大きさA} \quad x^2=3.162 \quad df=2 \quad P<0.30$$

$$B \quad x^2=1.427 \quad df=2 \quad P<0.50$$

しかし、4'の大きさに関して、正反応に1部正反応を含ませると、

$$4' \text{ 大きさA} \quad x^2=7.714 \quad df=2 \quad P<0.01^{**}$$

$$B \quad x^2=5.837 \quad df=2 \quad P<0.10$$

と差が生じ、岩手が他より正（準正を含む）反応率が有意に、また傾向的に低いことが認められた。しかし、大きさの認知は2'でもテストされ、ここでは差が生じなかったから、方言的要因とは認められず、容積の大きさというパラメーターの困難な理解による差と考えられる。

4-1-22表 パラメータ分離テストの反応および発語テスト反応との交差

1 B長い (太)

	合計	1	2	3	4	5	合計	1	2	3	4	5
		○	○	×	N	NT						
1 岩手	72 100.0	56 77.8	10 13.9	4 5.6	2 2.8		72 100.0	38 52.8	26 36.1	6 8.3	2 2.8	
2 仙台	70 100.0	49 70.0	14 20.0	4 5.7	3 4.3		70 100.0	45 64.3	19 27.1	6 8.6		
3 東京	52 100.0	37 71.2	13 25.0	1 1.9	1 1.9		52 100.0	29 55.8	19 36.5	3 5.8	1 1.9	
合計	194 100.0	142 73.2	37 19.1	9 4.6	6 3.1		194 100.0	112 57.7	64 33.0	15 7.7	3 1.5	
テスト 2 (14)												
01	93 100.0	79 84.9	10 10.8	1 1.1	3 3.2		93 100.0	65 69.9	25 26.9	3 3.2		
03	90 100.0	57 63.3	23 25.6	7 7.8	3 3.3		90 100.0	38 42.2	38 42.2	11 12.2	3 3.3	
04	1 100.0	1 100.0					1 100.0	1 100.0				
09	9 100.0	5 55.6	3 33.3	1 11.1			9 100.0	7 77.8	1 11.1	1 11.1		
13	1 100.0		1 100.0				1 100.0	1 100.0				
合計	194 100.0	142 73.2	37 19.1	9 4.6	6 3.1		194 100.0	112 57.7	64 33.0	15 7.7	3 1.5	

## 2 A厚い (大)

## 2 B厚い (大)

	2 A厚い (大)					2 B厚い (大)						
	合計	1	2	3	4	5	合計	1	2	3	4	5
1 岩手	72 100.0	24 33.3	8 11.1	39 54.2	1 1.4		72 100.0	31 43.1	9 12.5	31 43.1	1 1.4	
2 仙台	70 100.0	22 31.4	11 15.7	33 47.1	4 5.7		70 100.0	26 37.1	11 15.7	30 42.9	3 4.3	
3 東京	52 100.0	15 28.8	11 21.2	25 48.1	1 1.9		52 100.0	14 26.9	9 17.3	28 53.8	1 1.9	
合計	194 100.0	61 31.4	30 15.5	97 50.0	6 3.1		194 100.0	71 36.6	29 14.9	89 45.9	5 2.6	
テスト 2 (B)												
01	31 100.0	17 54.8	7 22.6	7 22.6			31 100.0	22 71.0	4 12.9	5 16.1		
03	71 100.0	11 15.5	11 15.5	45 63.4	4 5.6		71 100.0	16 22.5	13 18.3	38 53.5	4 5.6	
06	3 100.0	1 33.3		2 66.7			3 100.0	1 33.3		2 66.7		
09	80 100.0	29 36.3	10 12.5	39 48.8	2 2.5		80 100.0	29 36.3	9 11.3	41 51.3	1 1.3	
10	1 100.0			1 100.0			1 100.0			1 100.0		
11	3 100.0	2 66.7	1 33.3				3 100.0	1 33.3	2 66.7			
13	4 100.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0			4 100.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0		
14	1 100.0			1 100.0			1 100.0			1 100.0		
合計	194 100.0	61 31.4	30 15.5	97 50.0	6 3.1		194 100.0	71 36.6	29 14.9	89 45.9	5 2.6	

## 3 A長い (広)

	合計	3 B長い (広)				
		1	2	3	4	5
1 岩手	72 100.0	43 59.7	26 36.1	3 4.2		
2 仙台	70 100.0	43 61.4	23 32.9	3 4.3	1 1.4	
3 東京	52 100.0	30 57.7	22 42.3			
合計	194 100.0	116 59.8	71 36.6	6 3.1	1 .5	
	合計	1	2	3	4	5
		42 58.3	24 33.3	4 5.6	2 2.8	
		42 60.0	23 32.9	4 5.7	1 1.4	
		28 53.8	21 40.4	3 5.8		
		112 57.7	68 35.1	11 5.7	3 1.5	

## 4 A高い (大)

	合計	4 B高い (大)				
		1	2	3	4	5
1 岩手	72 100.0	51 70.8	12 16.7	9 12.5		
2 仙台	70 100.0	48 68.6	18 25.7	3 4.3	1 1.4	
3 東京	52 100.0	42 80.8	8 15.4	1 1.9		
合計	194 100.0	141 72.7	38 19.6	13 6.7	1 .5	
テスト 2 (6)						
01	116 100.0	95 81.9	15 12.9	6 5.2		
08	1 100.0	1 100.0				
	合計	1	2	3	4	5
		43 59.7	17 23.6	11 15.3		
		42 60.0	21 30.0	6 8.6		
		36 69.2	10 19.2	5 9.6		
		121 62.4	48 24.7	22 11.3		
		81 69.8	24 20.7	10 8.6		
		1 100.0	1 100.0			

09	63 100.0	38 60.3	20 31.7	5 7.9		09	63 100.0	32 50.8	21 33.3	10 15.9
13	14 100.0	7 50.0	3 21.4	2 14.3	1 7.1	13	14 100.0	7 50.0	3 21.4	2 14.3
合計	194 100.0	141 72.7	38 19.6	13 6.7	1 .5	合計	194 100.0	121 62.4	48 24.7	22 11.3

1'A太い (長)

1'B太い (長)

	合計						合計				
	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5
1 岩手	72 100.0	53 73.6	16 22.2	2 2.8	1 1.4	1 岩手	72 100.0	54 75.0	9 12.5	9 12.5	
2 仙台	70 100.0	47 67.1	12 17.1	6 8.6	5 7.1	2 仙台	70 100.0	44 62.9	9 12.9	14 20.0	3 4.3
3 東京	52 100.0	38 73.1	10 19.2	4 7.7		3 東京	52 100.0	34 65.4	5 9.6	12 23.1	1 1.9
合計	194 100.0	138 71.1	38 19.6	12 6.2	6 3.1	合計	194 100.0	132 68.0	23 11.9	35 18.0	4 2.1
テスト 2 (3)						テスト 2 (3)					
01	116 100.0	99 85.3	15 12.9	1 .9	1 .9	01	116 100.0	98 84.5	7 6.0	9 7.8	2 1.7
04	3 100.0	3 100.0				04	3 100.0	3 100.0			
05	4 100.0	2 50.0	2 50.0			05	4 100.0	3 75.0	1 25.0		
06	2 100.0		1 50.0		1 50.0	06	2 100.0		1 50.0		1 50.0
09	64 100.0	31 48.4	18 28.1	11 17.2	4 6.3	09	64 100.0	25 39.1	13 20.3	25 39.1	1 1.6

11	1 100.0	1 100.0					11	1 100.0	1 100.0	
13	4 100.0	3 75.0	1 25.0				13	4 100.0	3 75.0	1 25.0
合計	194 100.0	138 71.1	38 19.6	12 6.2	6 3.1		合計	194 100.0	132 68.0	23 11.9

## 2'A大きい(厚)

## 2'B大きい(厚)

	合計					合計				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1 岩手	72 100.0	53 73.6	7 9.7	12 16.7		72 100.0	57 79.2	4 5.6	11 15.3	
2 仙台	70 100.0	52 74.3	10 14.3	6 8.6	2 2.9	70 100.0	48 68.6	11 15.7	9 12.9	2 2.9
3 東京	52 100.0	36 69.2	11 21.2	5 9.6		52 100.0	43 82.7	5 9.6	4 7.7	
合計	194 100.0	141 72.7	28 14.4	23 11.9	2 1.0	194 100.0	148 76.3	20 10.3	24 12.4	2 1.0

## 3'A広い(長)

## 3'B広い(長)

	合計					合計				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1 岩手	72 100.0	55 76.4	8 11.1	9 12.5		72 100.0	50 69.4	14 19.4	8 11.1	
2 仙台	70 100.0	43 61.4	13 18.6	11 15.7	3 4.3	70 100.0	45 64.3	12 17.0	10 14.3	3 4.3
3 東京	52 100.0	37 71.2	10 19.2	4 7.7	1 1.9	52 100.0	35 67.3	15 28.8	1 1.9	1 1.9
合計	194 100.0	135 69.6	31 16.0	24 12.4	3 1.5	194 100.0	130 67.0	41 21.1	19 9.8	3 1.5

## 4'A大きい (高)

## 4'B大きい (高)

	4'A大きい (高)					4'B大きい (高)				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1 岩手	72 100.0	2 2.8	18 25.0	52 72.2		72 100.0	4 5.6	18 25.0	50 69.4	
2 仙台	70 100.0	1 1.4	29 41.4	39 55.7	1 1.4	70 100.0	1 1.4	29 41.4	39 55.7	1 1.4
3 東京	52 100.0	4 7.7	23 44.2	24 46.2	1 1.9	52 100.0	2 3.8	25 48.1	24 46.2	1 1.9
合計	194 100.0	7 3.6	70 36.1	115 59.3	1 .5	194 100.0	7 3.6	72 37.1	113 58.2	1 .5

## 5 系列化テスト

物の属性を表す大きさ、広さ、また多さには、さまざまな大きさ、広さ、また多さがあり、それぞれが相対的な大きさ、広さ、また多さから、〈大きい・小さい〉〈広い・狭い〉〈多い・少ない〉の性状語が与えられる。そこでこれらの性状語が正しく事物に個々に与えられるためには、事物の大きさ、広さ、また多さに関する事物・事物の系列化が必要である。そこで本テストでは、いくつかの事物について、それらの大きさ、広さ、多さを変化させた絵図を呈示し、その系列化能力を調べた。テストに使ったカードは次のものである。

- |       |    |       |    |
|-------|----|-------|----|
| 1 丸   | 大小 | 4 りんご | 多少 |
| 2 コップ | 多少 | 5 犬   | 大小 |
| 3 池   | 広狭 | 6 道   | 広狭 |

いずれも刺激カードは5枚からなる(417~431ページ参照)。そして1種5枚のカードをランダムに並べ、たとえば「犬を大きい順に並べてください」「犬を小さい順に並べてください」とたずねて、反応を求めた。

そこで、全12課題(+→-, -→+)についての正反応率、また両方向試行による系反応率を4-1-26表に従ってあげれば、4-1-23表のようになる。

4-1-23表 系列化テストの正反応率		系		+→-*		-→+	
1	大 小 (面積)	163	84.02%	171	88.1%	166	85.6%
2	多 少 (量)	141	72.68	151	77.8	155	79.9
3	広 狭 (面積)	151	77.83	161	83.0	164	84.5
4	多 少 (数)	161	82.98	167	86.1	170	87.6
5	大 小 (容積)	163	84.02	172	88.7	166	85.6
6	広 狭 (長さ)	103	53.09	117	60.3	127	65.5

4-1-23表によれば、系列化テストの正反応率は、6 広狭をのぞけば80%~90%の高い反応率で、系の成立程度も概して正反応率に近くなっている。6 広狭はそれらに比較して低く、正反応率で60~65%、系反応率は53%となっている。

次に前問(+→-*)と後問(-→+)との正答率に関する有意差を求めると、

$$\chi^2=0.260 \quad df=1 \quad P<0.70$$

となり、有意差は認められなかった。したがって、前問、後問のいずれをか一方を基準にして考察することが許容されるので、前問の正反応率間の有意差を $\chi^2$ 検定によってみると、

$$\chi^2=71.599 \quad df=5 \quad P<0.01^{**}$$

* (+, -)は意味素性仮説のいう両極性を意味する。

となり、1%以下の危険率で、有意差が6課題間に認められた。このため、各課題ごとの有意差をみると4-1-24表の通りである。

4-1-24表により、正反応率の有意差の有無によって、難易を群化すると右下表のようになる。

4-1-24表 系列化テストの正反応の有意差検定 ( $\chi^2$ )

大	小 (丸)		7.292 ^{**}	2.265	0.267	0	39.202 ^{**}
多	少 (コップ)	7.292 ^{**}		1.648	4.461 [*]	8.173 ^{**}	13.946 ^{**}
広	狭 (池)	2.265	1.648		0.687	2.545	24.550 ^{**}
多	少 (リンゴ)	0.267	4.461 [*]	0.687		0.543	32.779 ^{**}
大	小 (犬)	0	8.173 ^{**}	2.545			40.975 ^{**}
広	狭 (道)	39.202 ^{**}	13.946 ^{**}	24.550 ^{**}	32.779 ^{**}	40.975 ^{**}	

これに従えば、大きさを表す大小は面積，容積共に量を表す多少，幅の長さを表す広狭より容易である。しかし，数を表す多少とは差は認めにくい。そして，数を表す多少は量を表す多少より容易であり，面積を表す広狭は幅の長さを表す広狭より容易である。次に，系反応率間の有意差の有無を  $\chi^2$  検定によってみると，4-1-25表の通りであり，それに基づいて反応率の難易を群化すると，やはり正反応率の場合と同様に右表の通りになる。

なお，地域差は，前問については以下の通りである。

1  $\chi^2=1.147$        $df=2$   $P<0.70$

2  $\chi^2=3.821$        $df=2$   $P<0.20$

3  $\chi^2=1.274$   
 $df=2$   $P<0.70$

4  $\chi^2=1.501$   
 $df=2$   $P<0.50$

5  $\chi^2=0.795$   
 $df=2$   $P<0.70$

6  $\chi^2=5.170$   
 $df=2$   $P<0.10$

後問についても同じ傾向で，有意差は認められなかった。

大	小 (面積)
大	小 (容積)
多	少 (数)
広	狭 (面積)
多	少 (量)
広	狭 (長さ)

4-1-25表 系列化の系反応率の有意差検定 ( $\chi^2$ )

	1	2	3	4	5	6
1		7.185 ^{**}	2.264	0	0	42.827 ^{**}
2	7.185 ^{**}		1.342	5.905 [*]	7.185 ^{**}	15.878 ^{**}
3	2.264	1.342		1.648	2.264	26.254 ^{**}
4	0	5.905 [*]	1.648		0	39.795 ^{**}
5	0	7.185 ^{**}	2.264	0		42.827 ^{**}
6	42.827 ^{**}	15.878 ^{**}	26.254 ^{**}	39.795 ^{**}	42.827 ^{**}	

4-1-26表 系列化テストの反応及び系の成立

1 大→小

	合計	1 2 3 4			
		○	×	N	NT
1 岩手	72 100.0	63 87.5	9 12.5		
2 仙台	70 100.0	60 85.7	10 14.3		
3 東京	52 100.0	48 92.3	3 5.8		1 1.9
合計	194 100.0	171 88.1	22 11.3		1 .5

1' 小→大

	合計	1 2 3 4			
		○	×	N	NT
1 岩手	72 100.0	60 83.3	12 16.7		
2 仙台	70 100.0	61 87.1	9 12.9		
3 東京	52 100.0	45 86.5	6 11.5		1 1.9
合計	194 100.0	166 85.6	27 13.9		1 .5
系					
1 ○	171 100.0	163 95.3	8 4.7		
2 ×	22 100.0	3 13.6	19 86.4		
4 NT	1 100.0				1 100.0
合計	194 100.0	166 85.6	27 13.9		1 .5

2 多→少

	合計	1 2 3 4			
		○	×	N	NT
1 岩手	72 100.0	53 73.6	18 25.0	1 1.4	

2' 少→多

	合計	1 2 3 4			
		○	×	N	NT
1 岩手	72 100.0	58 80.6	14 19.4		

2 仙 台	70 100.0	60 85.7	10 14.3	
3 東 京	52 100.0	38 73.1	13 25.0	1 1.9
合 計	194 100.0	151 77.8	41 21.1	1 .5

2 仙 台	70 100.0	58 82.9	12 17.1	
3 東 京	52 100.0	39 75.0	11 21.2	1 1.9
合 計	194 100.0	155 79.9	37 19.1	1 .5
系				
1 O	151 100.0	141 93.4	9 6.0	1 .7
2 X	41 100.0	14 34.1	27 65.9	
3 N	1 100.0		1 100.0	
4 NT	1 100.0			1 100.0
合 計	194 100.0	155 79.9	37 19.1	1 .5

3 広→狭

	合 計		1	2	3	4
		O	×	N	NT	
1 岩 手	72 100.0	58 80.6	13 18.1	1 1.4		
2 仙 台	70 100.0	61 87.1	9 12.9			
3 東 京	52 100.0	42 80.8	9 17.3		1 1.9	
合 計	194 100.0	161 83.0	31 16.0	1 .5	1 .5	

3' 狭→広

	合 計		1	2	3	4
		O	×	N	NT	
1 岩 手	72 100.0	59 81.9	11 15.3	2 2.8		
2 仙 台	70 100.0	62 88.6	7 10.0	1 1.4		
3 東 京	52 100.0	43 82.7	8 15.4		1 1.9	
合 計	194 100.0	164 84.5	26 13.4	3 1.5	1 1.5	5

系						
1	○	161 100.0	151 93.8	10 6.2		
2	×	31 100.0	13 41.9	16 51.6	2 6.5	
3	N	1 100.0			1 100.0	
4	NT	1 100.0				1 100.0
合計		194 100.0	164 84.5	26 13.4	3 1.5	1 .5

4' 少→多

	合計	系				
		1	2	3	4	
1	岩手	72 100.0	59 81.9	11 15.3	2 2.8	
2	仙台	70 100.0	65 92.9	5 7.1		
3	東京	52 100.0	46 88.5	5 9.6		1 1.9
合計		194 100.0	170 87.6	21 10.8	2 1.0	1 .5
系						
1	○	167 100.0	161 96.4	6 3.6		
2	×	25 100.0	9 36.0	14 56.0	2 8.0	

4 多→少

	合計	系				
		1	2	3	4	
1	岩手	72 100.0	60 83.3	12 16.7		
2	仙台	70 100.0	63 90.0	7 10.1		
3	東京	52 100.0	44 84.6	6 11.5	1 1.9	1 1.9
合計		149 100.0	167 86.1	25 12.9	1 .5	1 .5

3	N	1 100.0	1 100.0	1 100.0		
4	NT	1 100.0				1 100.0
合 計		194 100.0	170 87.6	21 10.8	2 1.0	1 .5

5 大→小

	合計	1			
		○	×	N	NT
1 岩手	72 100.0	63 87.5	9 12.5		
2 仙台	70 100.0	61 87.1	8 11.4	1 1.4	
3 東京	52 100.0	48 92.3	3 5.8		1 1.9
合 計	194 100.0	172 88.7	20 10.3	1 .5	1 .5

5' 小→大

	合計	1			
		○	×	N	NT
1 岩手	72 100.0	59 81.9	12 16.7	1 1.4	
2 仙台	70 100.0	61 87.1	8 11.4	1 1.4	
3 東京	52 100.0	46 88.5	4 7.7	1 1.9	1 1.9
合 計	194 100.0	166 85.6	24 12.4	3 1.5	1 .5
系					
1 ○	172 100.0	163 94.8	8 4.7	1 .6	
2 ×	20 100.0	3 15.0	16 80.0	1 5.0	
3 N	1 100.0			1 100.0	
4 NT	1 100.0				1 100.0
合 計	194 100.0	166 85.6	24 12.4	3 1.5	1 .5

6 広→狹

	合計	1				2				3				4			
		○				×				N				NT			
1 岩手	72 100.0	42 58.3			27 37.5				3 4.2								
2 仙台	70 100.0	49 70.0			21 30.0												
3 東京	52 100.0	26 50.0			24 46.2				1 1.9								
合計	194 100.0	117 60.3			72 37.1				4 2.1								

6' 狹→広

	合計	1				2				3				4			
		○				×				N				NT			
1 岩手	72 100.0	51 70.8			19 26.4				2 2.8								
2 仙台	70 100.0	54 77.1			16 22.9												
3 東京	52 100.0	22 42.3			28 53.8				1 1.9								
合計	194 100.0	127 65.5			63 32.5				3 1.5								
系																	
1 ○	117 100.0	103 88.0			14 12.0												
2 ×	72 100.0	23 31.9			48 66.7				1 1.4								
3 N	4 100.0	1 25.0			1 25.0				2 50.0								
4 NT	1 100.0																
合計	194 100.0	127 65.5			63 32.5				3 1.5								

## 6 結果に対する考察

性状語テストでは、主に形状を表す語を中心に13対26語について、単語・単語の水準のテストとして対語テスト、単語・事物の水準のテストとして発語、誘導発語、語認知の各テスト、事物・事物の水準としてパラメーターの分離、系列化のテストを実施し、各水準での理解および系の成立程度を明らかにしてきた。そこで本項では、それらの諸結果に対して、各水準テスト間の結果の差異に視点を合わせて考察する。

第1に、われわれ4、5歳児クラスの就学前児童はどのような性状語をどの水準で、どの程度の理解および系の成立を得ているかを明らかにしようとしたので、これを各テストごとに性状語およびその極性間の有意差の有無に示せば次のようになる。

性状語		極性	
対語	大小 > 多少 (暑寒) > 高低 > 太細 > 広狭 (高安) > 厚薄 > 長短 > 深淺 (濃淡)	—	— 広>狭 (高>安) 厚>薄
		—	— (濃>淡)
		—	長>短
発語	大小 (丸) > (暑寒) > 多少 (水) > (高安) > (濃淡) > 深淺 > 厚薄 > 広狭 (道)	—	— (濃<淡) —
	大小 (犬) > (りんご) > 多少 > 太細 > 長短 > 広狭 (池)	—	— —
		—	— 長>短 —
			高低 —

* —印は左表の同位置の性状語の極性間に有意差の認められない対語

(1) 性状語の理解について考えれば、〈大小〉性状語が最も理解が容易であり、最も難解なものは対語テストでは〈厚薄〉、発語テストでは道幅の〈広狭〉である。これについての大まかな難易の順序としては、最も一般的かつ普遍的な意味を持つ〈大小〉が最も容易であり、次第に特殊かつ限られた意味を持つ性状語ほど難解になっていく傾向が認められる。たとえば、煙突の〈高低〉は〈長短〉とも〈大小〉ともいうことができるが、最も限られた意味では、地上から上に立つ場合として〈高低〉が用いられ、それが地に横倒しになれば〈長短〉が用いられるのが一般的である。同様に、対語テストの〈厚薄〉は物の厚みだけに限られた意味を持つが、一般には厚みの長さであり、最も普遍的には〈大小〉の意味に含まれる。同様に、発語テストの道幅の〈広狭〉は道幅だけに限られた意味を持たせてあるが、一般には道幅の長さであり、最も普遍的には、〈大小〉の意味に含まれ、道幅の狭い道は〈細道〉とも〈小道〉ともいい、〈太道〉とはいわないが〈大道〉ともいう用法がある。

(2) ところで、発語テストは単語・事物の水準でのテストであるが、このほかに、誘導発語および語認知テストも実施しているので、その結果との対応を系反応率によってみれば次ページの表の通りになる。これによれば、発語・誘導発語・認知テストと移行するにつれ、理解度は高まり、認

	100%	90%	70%	60%	40%	20%	0%
発語	大小(丸) 大小(犬)	(暑寒)	多少(水) 多少 (りんご)	(高安) 太細	(濃淡) 長短	深淺 厚薄 広狭 (道) (池) 高低	

	100%	90%	80%	70%	60%	50%	40%	30%
誘導発語	大小(丸) 大小(犬) 暑寒 高低	長短	多少(水) 多少 (りんご)	(高安)	太細 深淺	(濃淡) 厚薄	広狭 広狭	

	100%	90%	80%	70%
認知	大小(丸) 大小(犬) (暑寒) 長短	多少(水) 多少(りんご) (高安)	深淺 厚薄 広狭(池) 高低 広狭(道)	(濃淡) 太細

知テストでは大部分の性状語が90%台に達していることを示している。そして、特に、発語テストから誘導発語テストの移行時に、〈高低〉〈長短〉のように急激に理解率を高めるものがあるが、この両対語は、発語テストでは普遍的な〈大小〉で命名していたものが、誘導発語テストで、片方の特定の限定された語を与えられたため、特定の語で反応した結果によるためであり、それらの反応の難易関係は対語テストのそれと類似した順序になっている。

すなわち、発語テストでは〈大小〉といった一般的・普遍的な次元かつ用法を持った語で答えて基準語反応率を低めたり、絵に規定されて誤反応をしたものが誘導発語テストで、より限定された意味用法が意識されていくという特徴である。この点では、認知テストはもはや就学前期の幼児に対する性状語テスト法としては理解の弁別性を持つことができない。

一方、対語テストでは誘導発語テストに似て、片方の語が呈示されて、もう片方の語を想起する点では共通しているが、誘導発語テストと違って、絵(事物)が呈示されないから、純粋にことば

の水準でことばの系を結合させなければならない。このため、より一般的普遍的な対語は想起しやすく、系の成立を容易にさせ、特殊かつ限定させたものは普遍性に乏しいために想起が困難であり、系の成立が得られぬままに、「～ナイ」反応で系の成立を試みることになる。また、特殊かつ限定されたもので、さらに一般的普遍的な対語のいずれかと同音の場合には系の成立を低めることになり、厚薄(=暑寒)(=濃淡)、高安(=高低)がその例である。しかし、発語テスト、誘導発語また認知テストと違って絵(事物)という現況に影響されることがないから、日常慣用的な語使用で反応することは少ないという特徴が指摘される。

(3) 次に、各極性間の理解率の高低を考えるならば、第1に、極性間に理解率の有意差が認められる対語は系反応率の高い語には現れないということが指摘され、また、発語テストの結果によれば、系反応率20%以下の対語にも有意差が認められていない。しかしこの傾向は誘導発語、語認知テストをみれば、

	濃い	薄い	(系)	長い	短い	(系)
誘発	51.0%	74.2%	45.9%	95.9%	87.1%	85.6%
	P<0.01			P<0.01		
認知	85.6	93.3	82.5	100.0	100.0	100.0
	P<0.01					

となり、〈濃淡〉は認知テストでも有意差が認められるが、〈長短〉では誘発テストには有意差は認められるものの、認知テストでは共に100%の理解率に達している。すなわち、このことから、〈濃淡〉〈長短〉のように、系反応率がかなり高くなっても有意差の認められるものがあるが、それはあくまで、その性状語の特性による極性特徴なのか、絵(事物)という現況に依存してのことかは判定しにくい。

しかし、対語テストの結果をみると、有意差のあった対語の系反応率は5.7~27.8%、有意差の認められなかった対語の系反応率は64.4~12.9%だから、統計的に差が出やすい、出にくいというものではない。したがって、有意差の認められた性状語は本質的に低い理解率の段階から、有意差を持って系の成立が行われていると考えられる。ただし、それは単語・単語の水準での系の成立であって、単語・事物の水準での系は慣用的なものに規定され、必ずしもその特徴を顕在化させていないと考えることが適当である。

さて、第2の特徴として、いずれの極性の理解が高いかという点では、1対語〈濃淡〉をのぞいては、量の多さを示す(+)極性を表す語の方である。ただし、〈濃淡〉では、発語テストでは、(濃い<薄い)という結果が得られている。ではこの矛盾をどのように考えるか。この点では、先に、それは色名という反応が多いためである点を指摘しておいたが、これに関連して、発語・誘発テストでは、〈濃い〉に、色名反応(項目3)および「～ナイ」反応が多いことが共通している。すなわち、〈濃淡〉の反応をみると、

〈濃い〉	1	3	5	6	7	8	9	11	12	13	14
発語	36.6	7.7	0.5	1.0	0	7.2	18.0	13.9	1.5	13.4	0
誘発	44.8	7.7	0.5	0.5	0	13.4	8.8	8.8	0.5	14.4	0.5
〈薄い〉											
発語	61.9				0.5	1.5	13.4	10.3	0.5	11.2	0.5
誘発	74.2					5.2	7.7	3.1		8.8	1.0

のように、〈濃い〉では、反応項目3および8が比較的に多い。このことは、幼児は〈濃い〉絵図の印象が著しく強いために、色名〈ピンク〉で答えたり、厚く彩った色という意味で〈あつい〉と答えたり、またそれらに誘因されて、くうすくない反応を導いたと考えられる。しかも〈濃い〉の「～ナイ」反応ほど、他の性状語に比較し、高い割合を占めるものがないことは、この事実を証明するものである。したがって、極性では、量の多さを示す、プラスの積極的極性の方が理解が容易であることは認めてよいことになる。

(4) ところで、われわれは異なる次元ながら同じ性状語で呼ぶものについての理解の難易について、必ずしも明確な結果を得ていない。そこで改めて、パラメーターの分離および系列化テストから考察してみよう。

まず、パラメーターの分離テストの結果では、4-1-21表によれば、

長さ 太さ 広さ  
高さ 大きさ  
                    >長さ >厚さ >大きさ

で、特に二つ以上の次元を持つものは〈大きさ〉と〈長さ〉である。〈大きさ〉は面積>容積が示され、発語テストでの結果はさらに、物・物の水準で難易が明らかになっている。〈長さ〉はそれ自体の次元は変化しないので共在するパラメーターの難易に規制され、この場合、太さ>広さによるもので、この点是对語・発語テストが差を明白に示していることと対応する。〈厚さ〉が困難であることは、すべてテスト水準で確認されていることである。

次に系列化テストでは、

大小 (面積) >広狭 (面積) > 多少 (量)  
大小 (容積) > 広狭 (長さ)  
多少 (数)

であり、〈多少〉では、数>量、〈広狭〉では、面積>幅の長さという理解の高低を事物・事物の水準で明確にし、発語テスト水準での難易をいっそう明確にさせている。

## 第2節 時間・空間語テスト

### 1 対語テスト

対語テストは対義関係にある2語の対および対の複数としての系列(サークル・シリーズ)の時間・空間語は何かをたずね、被験者に単語・単語水準での理解および系の成立程度を明らかにすることが目的である。

対語テストの刺激語は、テスト1 aでは主に空間を表す語10対20語、テスト1 bでは特に対の複数としての系列関係にある時間語7対26語^{*}が用意されている。そして、テスト1 aでは、たとえば〈前の反対は何ですか?〉〈先の反対は何ですか?〉という問いかけで順次反応が求められた。またテスト1 bでは、〈朝の次は何ですか?〉〈ではその次は何ですか?〉という問いかけで反応が求められた。その際、刺激語および反応語の位置を決めるために、色板(2cm方形)を等間隔に並べて、色板を指示しながら、「ここが〈きょう〉だから、〈きょう〉の次は?」という形式ですすめた。

その後、被験者の全反応は13判定基準およびテストもれ(N T)の項目を加えて14項目(104ページ参照)に分類された。

4-2-1 表 対語テストの反応語の基準反応率 (○₁, ○₂)

テスト1a

	N	%		N	%
1. うしろ(後)	200	87.7	1' まえ(前)	187	82.0
2. あと(後)	47	20.6	2' さき(先)	69	30.3
3. した(下)	199	87.2	3' うえ(上)	186	81.6
4. (略) ^{**}					
5. よこ(横)	71	31.1	5' たて(縦)	25	11.0
6. なか(中)	104	45.6	6' そと(外)	152	66.7
7. ばん(晩)	77	33.8	7' あさ(朝)	127	55.7
8. ひる(昼)	10	4.4	8' よる(夜)	29	12.7
9. ひだり(左)	195	85.5	9' みぎ(右)	189	82.9
10. あと(後)	5	2.2	10' まえ(前)	38	16.7

* 日、曜日、年に関する時間語はシリーズの関係で成立しているため、厳密には26語に限定されるものではない。

** 項目4は〈ななめ〉を刺激語として、反応を求めたが、その基準となる対語反応は存在しないので、本表には除外した。

テスト1b

		N	%			N	%
1.	あ さ(朝)→ひ る(昼)	41	18.0	1'	あさ(朝)→よ る(夜)	32	14.0
2.	に ち(日)→げ つ(月)	104	45.6	2'	にち(日)→ ど (土)	65	28.5
3.	は る(春)→な つ(夏)	48	21.1	3'	はる(春)→ ふ ゆ(冬)	33	14.5
4.	きょう(今日)→あした(明日)	93	40.8	4'	あさって→あした(明日)	40	17.5
5.	きょう(今日)→きのう(昨日)	32	14.0	5'	おととい→きのう(昨日)	12	5.3
6.	ことし(今年)→らいねん(来年)	9	3.9	6'	さらいねん→らいねん(来年)	5	2.2
7.	ことし(今年)→きょねん(去年)	1	0.4	7'	おととし→きょねん(去年)	1	0.4

4-2-1表は、テスト1aおよび1bの反応のうち、 $\bigcirc_1$  (基準語反応)および $\bigcirc_2$  (基準語を幼児音で反応)の合計だけについて、それらの反応率を示したものである。反応率でみると、テスト1aでは、

〈前後ろ〉〈上下〉〈左右〉 関係を表す語 4-2-2 表 対語テスト各対の  $\chi^2$  による有意差検定

が高い。それに対して

〈夜昼〉〈前後〉

は反応率が低い。なお対語テスト1aには、〈ななめ〉の反対を表す語をたずねる問題が含まれている。もともと、〈ななめ〉には反対語は存在しないと考えられたが、空間を表す語の中で、どんな反対語で反応されるかを見ようとした。それについては、490ページ参照。

次に、各対語内の基準反応率の有意差の検定を試みたのが4-2-2表である。これによれば、9対18語の中で、有意な差が認められた対語は、

先>後 横>縦 外>中

朝>晩 夜>昼 前>後

傾向的に差が現れたのは、後ろ>前であった。

これに対して、有意差の認められなかった語は、

〈上下〉〈左右〉

		$\chi^2$	df	p
1	1'	2.800	2	0.10
2	2'	5.586	2	0.05*
3	3'	2.331	2	0.20
5	5'	27.826	2	0.01**
6	6'	20.503	2	0.01**
7	7'	22.139	2	0.01**
8	8'	9.968	2	0.01**
9	9'	0.601	2	0.50
10	10'	27.846	2	0.01**

テスト1b

		$\chi^2$	df	p
1	1'	1.337	2	0.30
2	2'	14.252	2	0.01**
3	3'	3.351	2	0.10
4	4'	29.766	2	0.01**
5	5'	10.093	2	0.01**
6	6'	0.100	2	0.80
7	7'	0	2	—

であり、共通して、それらの対語は基準反応率の高い群の語である。したがって、有意差の認められる対語は基準反応率の低い群の語であるが、必ずしも  $\chi^2$  値の高いものほど基準反応率が低いということはない。しかしながら、上記のことから、基準反応率の低い、習得困難な対語は、まず、いずれかの語が先に学習され、残る語が後続して習得されるという過程が解釈される。そうして、幼児に容易な対語となれば理解に有意差は認められなくなる。

次に、有意差の認められた対語内では、いずれが理解が容易かを、たとえば、複合語の構成部分の前後関係でみれば、空間を表す語では縦<横、中<外のように、前部にあるものが基準反応率が低く、時間を表す語では朝>晩、夜>昼、前>後のように、前部を表すものが基準反応率が高くなっている。しかし、夜昼は昼夜（チュウヤ）ともいうし、後先は空間・時間の両方の意味を持つので、理解の難易と複合語の構成部分との対応関係は偶然的な結果か否か、この問題はあらためて検討される。

一方、テスト1 bの系列を表す対語関係で、基準反応率をみると、順系列の

曜日(日→月…)            日(きょう→あした…)

が高く逆に基準反応率で低いのは、

年(ことし→きょねん…)            年(おとし→きょねん…)

であり、

年(さらいねん→らいねん…)            年(ことし→らいねん…)

もそれらに続いて低く、年を表す系列語が習得困難である。そして、きょうを中心に過去を表す系列語が、また、ことし<今年>を中心に過去の年を表す系列語が、それぞれ未来を表す系列語より習得困難であるという特徴が明確に示されている。

各系列語間の基準反応率の有意差の検定を試みたのが4-2-2表である。これによれば、7対26語の中で、有意な差が認められた対語は、

曜日 日→月>日→土

日 きょう→あした>あさって→あした

日 きょう→きのう>おととい→きのう

である。そしてこれらはいずれも、時間認知的推移を示す順系列の方が逆系列の方より先行して習得されることを示している。しかしながら、テスト1 aと比較すると、有意差と基準反応との関係では、有意差の認められない対語は基準反応率の低い場合にも存在する点が違っている。この点では、このような対語あるいは系列語の学習は、次の3段階があると考えられる。

第1段階 有意差の認められぬ低い反応率の段階

第2段階 有意差の認められる中間的な反応率の段階

第3段階 有意差の認められぬ高い反応率の段階

4-2-3表 時間・空間語テスト1a (1~10) 対語テストの反応

	合計		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
			O ₁	O ₂	□	○ ₁	○ ₂	□	⊗	×	× ₁	× ₂	× ₃	× ₄	N	NT
1 うしろ(後)	228 100.0	200 87.7									3 1.3	2 .9	4 1.8	19 8.3		
2 あと(後)	228 100.0	47 20.6				16 7.0					14 6.1	12 5.3	7 3.1	132 57.9		
3 した(下)	228 100.0	198 86.8		1 .4							3 1.3	5 2.2	3 1.3	17 7.5	1 .4	
4 <省略>																
5 よこ(横)	228 100.0	71 31.1					1 .4				31 13.6	12 5.3	9 3.9	103 45.2	1 .4	
6 なか(中)	228 100.0	104 45.6				30 13.2					11 4.8	28 12.3	4 1.8	50 21.9	1 .4	
7 ばん(晩)	228 100.0	77 33.8				20 8.8	1 .4				2 .9	8 3.5	2 .9	27 11.8		
8 ひる(昼)	228 100.0	10 4.4									12 5.3	9 3.9	2 .9	39 17.1	1 .4	
9 ひだり(左)	228 100.0	194 85.1		1 .4							8 3.5		3 1.3	21 9.2	1 .4	
10 あと(後)	228 100.0	5 2.2									24 10.5	1 .4	5 2.2	191 83.8	2 .9	

* 各欄の上段の数字は反応人数、下段の数字は全被験者に対するパーセント。

4-2-4表 時間・空間語テスト1a (1'~10') 対語テストの反応

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
合計														
1' ま え(前)	228 100.0	187 82.0							5 2.2		4 1.8	1 .4	30 13.2	1 .4
2' さ き(先)	228 100.0	69 30.3		8 3.5					13 5.7		8 3.5	2 .9	127 55.7	1 .4
3' う え(上)	228 100.0	186 81.6							5 2.2		5 2.2	2 .9	29 12.7	1 .4
4' <省 略>														
5' た て(縦)	228 100.0	25 11.0							58 25.4		2 .9	3 1.3	139 61.0	1 .4
6' そ と(外)	228 100.0	152 66.7		5 2.2					11 4.8		4 1.8	5 2.2	50 21.9	1 .4
7' あ さ(朝)	228 100.0	127 55.7							9 3.9		6 2.6	6 2.6	66 28.9	1 .4
8' よ る(夜)	228 100.0	29 12.7							1 .4		12 5.3	5 2.2	70 30.7	1 .4
9' み き(右)	228 100.0	188 82.5							5 2.2		2 .9	2 .9	29 12.7	1 .4
10' ま え(前)	228 100.0	38 16.7							6 2.6		7 3.1	3 1.3	170 74.6	4 1.8

4-2-5表 時間・空間語1b (1~7) 対語テストの反応

	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
		1 あさ(朝)→ひる(昼)	228 100.0	41 18.0			57 25.0		70 30.7		53 23.2		4 1.8	3 1.3
2 にち(日)→げつ(月)	228 100.0	104 45.6						1 .4	72 31.6		4 1.8	2 .9	44 19.3	1 .4
3 はる(春)→なつ(夏)	228 100.0	48 21.1					2 .9	9 3.9	125 54.8		2 .9	3 1.3	38 16.7	1 .4
4 きょう(今日)→あした(明日)	228 100.0	93 40.8							47 20.6	2 .9	25 11.0	2 .9	57 25.0	2 .9
5 きょう(今日)→きのう(昨日)	228 100.0	32 14.0							58 25.4	4 1.8	26 11.4	6 2.6	100 43.9	2 .9
6 ことし(今年)→らいねん(来年)	228 100.0	9 3.9							18 7.9	3 1.3	15 6.6	18 7.9	160 70.2	5 2.2
7 ことし(今年)→きょねん(去年)	228 100.0	1 .4					1 .4		25 11.0	3 1.3	11 4.8	14 6.1	168 73.7	5 2.2

4-2-6 表時間・空間語テスト1b (1'~7') 対語テストの反応

	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
		1' あさ(朝)→よる(夜)	228 100.0	32 14.0			30 13.2		43 18.9	10 4.4	68 29.8		7 3.1	2 .9

2' にち(日)→ど (土)	228 100.0	65 28.5							3 1.3	57 25.0	2 .9	1 .4	50 21.9
3' はる(春)→ふゆ(冬)	228 100.0	33 14.5						1 .4	13 5.7	67 29.4	1 .4	1 .4	54 23.7
4' あさ→あした(明日)	228 100.0	40 17.5							1 .4	28 12.3	3 1.3		37 16.2
5' おととい→きのう(昨日)	228 100.0	12 5.3								5 2.2	2 .9		24 10.5
6' さいねん→らいねん(来年)	228 100.0	5 2.2								4 1.8			6 2.6
7' おととし→きょねん(去年)	228 100.0	1 .4								1 .4			7 3.1
													219 96.1

### 1-1 対語テストと地域差

性状語テストで地域差を問題にした(143ページ参照)が、時間・空間語テストでも問題にされる必要がある。それは性状語テスト同様、ここにあげた基準語としてあげた語は共通語形をあげているから、地域によって、その共通語形よりもその地域の方言形の方が優位に使用されていれば、それだけ共通語形反応を低めていることがある。したがって、その場合の反応率の高さは必ずしも語理解の難易に直接に結びつくとはいえないのである。そしてまた、特定の時間・空間を表す意味の方言形にはどんなものがあるかを確かめる必要がある。

4-2-7表は、テスト1 a, 1 bにおける基準反応率の高低に関する地域差を $\chi^2$ 検定によって調べた結果である。それによれば、地域差の認められた語は、テスト1 aでは、

6. 中 7. 晩 1' 前 3' 上 5' 縦 6' 外 7' 朝 8' 夜

4-2-7 表 対語テストにおける地域差

(テスト1 a)

	$\chi^2$	df	p		$\chi^2$	df	p
1	3.526	2	0.20	1'	12.000	2	0.01**
2	4.582	2	0.20	2'	4.218	2	0.20
3	1.080	2	0.70	3'	12.036	2	0.01**
5	4.939	2	0.10	5'	11.014	2	0.01**
6	14.749	2	0.01**	6'	6.055	2	0.05**
7	52.969	2	0.01**	7'	50.422	2	0.01**
8	3.576	2	0.20	8'	13.770	2	0.01**
9	2.259	2	0.50	9'	4.371	2	0.20
10	0.466	2	0.80	10'	0.432	2	0.90

(テスト1b)

1	13.221	2	0.01**	1'	7.286	2	0.05**
2	4.433	2	0.20	2'	10.290	2	0.01**
3	5.108	2	0.10	3'	2.421	2	0.30
4	0.386	2	0.90	4'	1.243	2	0.70
5	—	2	—	5'	0.200	2	0.95
6	0.527	2	0.80	6'	1.864	2	0.50
7	2.290	2	0.80	7'	2.290	2	0.50

であり、傾向的に差が生じたのは、〈横〉であった。それらの基準反応率は次の通りである。

4-2-8 表 地域差の認められた語の基準反応の割合

地域 語	和歌山 77	京都 78	東京 73
なか(中)	48 62.3#	25 32.1	31 42.5
ばん(晩)	33 42.9	43 55.1	1 1.4##
まえ(前)	65 84.4	55 70.5##	67 91.8
うえ(上)	67 87.0	54 69.2##	65 89.0
たて(縦)	4 5.2	5 6.4	16 21.9#
そと(外)	56 72.7	43 55.1##	53 72.6
あさ(朝)	58 75.3	53 67.9	16 21.9##
よる(夜)	5 6.5	6 7.7	18 24.7#

また、有意差の認められた語ごとに3地域間の有意差の有無をみると次の通りである。

なか(中)

和歌山×京都  $x^2=14.235$  df=1 p<0.01**

和歌山×東京  $x^2=5.934$  df=1 p<0.05*

京都×東京  $x^2=1.754$  df=1 p<0.20

ばん(晩)

和歌山×京都  $x^2=2.400$  df=1 p<0.20

和歌山×東京  $x^2=36.765$  df=1 p<0.01**

京都×東京  $x^2=52.707$  df=1 p<0.01**

まえ(前)

和歌山×京都  $x^2=4.290$  df=1 p<0.05

和歌山×東京  $x^2=1.892$  df=1 p<0.20

京 都×東京	$x^2=11.012$	df=1	p<0.01**
うえ(上)			
和歌山×京都	$x^2=7.112$	df=1	p<0.01**
和歌山×東京	$x^2=0$	df=1	—
京 都×東京	$x^2=8.790$	df=1	p<0.01**
たて(縦)			
和歌山×京都	$x^2=0$	df=1	—
和歌山×東京	$x^2=8.996$	df=1	p<0.01**
京 都×東京	$x^2=7.515$	df=1	p<0.01**
そと(外)			
和歌山×京都	$x^2=5.152$	df=1	p<0.05*
和歌山×東京	$x^2=0$	df=1	—
京 都×東京	$x^2=4.913$	df=1	p<0.01**
あさ(朝)			
和歌山×京都	$x^2=0.982$	df=1	p<0.50
和歌山×東京	$x^2=42.720$	df=1	p<0.01**
京 都×東京	$x^2=32.119$	df=1	p<0.01**
よる(夜)			
和歌山×京都	$x^2=0$	df=1	—
和歌山×東京	$x^2=8.610$	df=1	p<0.01*
京 都×東京	$x^2=8.078$	df=1	p<0.01*

4-2-8表中、#印は他の2地域に比較して、有意差に基準反応率の高かったもの、##印は有意に基準反応率の低かったものを示してある。これによれば、和歌山は〈なか(中)〉で有意に高く、京都は〈まえ(前)〉、〈うえ(上)〉、〈そと(外)〉で有意に低く、東京は〈ばん(晩)〉、〈あさ(朝)〉で有意に低く、〈たて(縦)〉、〈よる(夜)〉で有意に高い。

では、これらの差はどのような地域的特性に基づくのか。このためには、 $O_1$ 、 $O_2$ 、反応以外の諸反応にしたがって、有意に基準反応率が低いのはどのような他の反応が高いかを検討していけばよい。それによれば、〈なか(中)〉は〈そと(外)〉と対語関係にある語なので、それを〈うち・そと〉という対語関係でとらえていけば、当然〈なか・そと〉反応は低くなり、209ページの結果は、京都・東京ともに $\bigcirc$ 反応(うち)が高いことで知られる。これに関連して、〈そと(外)〉反応は〈なか〉の反対は何かを問われているのだから、〈うち・そと〉という対語関係でとらえている被験者にはその反応を困難にする。〈そと〉で京都は32.1% (211ページ)のN反応を示しているのはそのためである。また、京都に関しては〈うち〉に対する対義反応として事物連想反応(21.8%)が多いの

も特徴的である。これは〈うち〉が空間的な内外関係のほかに〈家〉というものを結びつけて理解している傾向を示唆している。

〈ばん(晩)〉は〈あさ(朝)〉と対語関係を持つが、東京が低いのは別に〈あさ・よる〉という対語関係でとらえられているためであり、東京は84.9% (209 ページ)がQ₁〈よる〉反応を示している。したがって、〈ばん〉を刺激語とする〈あさ〉反応は低く、57.5%がN反応を示している (212 ページ)。

〈まえ(前)〉は京都がN反応に23.1%を示している (210 ページ)が、〈まえ・あと〉の対語で〈まえ・うしろ〉の関係をとらえているためとも解釈できなくもないが、〈まえ・あと〉の項の基準反応率は必ずしも高くないからその解釈は必ずしも適用できない。

〈うえ(上)〉は京都が23.1%とN反応が高いのは〈まえ・うしろ〉関係語と同様に、〈うえ(かみ)・しも〉という対語で上下関係がとらえられているのに、〈した〉の反対はと問われたためと考えることができる。

〈たて(縦)〉に関しては、なぜ東京が高く、和歌山、京都が低いのかの説明はつかないが、他の空間語に比較して最も習得が困難な語であることが注目される。

そこで、以上の結果から、地域差を生じさせる主要因は基準語にあてた対語以外に、他の対語関係を表す対語がある地域では、その対語のために基準的対語反応を弱めること。また、異なる対語の片語を刺激語として対語関係を問われたときには無反応が多く生ずる傾向が認められる。

4-2-9表 時間・空間テスト1a (1~10') 対話テストの反応の地域差

(1) うしろ (後)

地域別	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1 和歌山	77 100.0	64 83.1								2 2.6			4 5.2	7 9.1	
2 京都	78 100.0	68 87.2								1 1.3		2 2.6		7 9.0	
3 東京	73 100.0	68 93.2												5 6.8	

(2) あと (後)

1 和歌山	77 100.0	22 28.6			3 3.9					4 5.2		6 7.8	3 3.9	39 50.6	
2 京都	78 100.0	12 15.4			10 12.8					3 3.8		5 6.4	2 2.6	46 59.0	
3 東京	73 100.0	13 17.8			3 4.1					7 9.6		1 1.4	2 2.7	47 64.4	

(3) した (下)

1 和歌山	77 100.0	66 85.7										2 2.6	1 1.3	7 9.1	
2 京都	78 100.0	66 84.6								2 2.6		2 2.6	1 1.3	6 7.7	1 1.3
3 東京	73 100.0	66 90.4								1 1.4		1 1.4	1 1.4	4 5.5	

(4) 省略

(5) よこ (横)

1	和歌山	77	20							10	6	5	36
		100.0	26.0							13.0	7.8	6.5	46.8
2	京都	78	21			1				12	2	3	38
		100.0	26.9			1.3				15.4	2.6	3.8	48.7
3	東京	73	30							9	4	1	29
		100.0	41.1							12.3	5.5	1.4	39.7

(6) なか (中)

1	和歌山	77	48			3				1	6	2	17
		100.0	62.3			3.9				1.3	7.8	2.6	22.1
2	京都	78	25			13				6	17	1	15
		100.0	32.1			16.7				7.7	21.8	1.3	19.2
3	東京	73	31			14				4	5	1	18
		100.0	42.5			19.2				5.5	6.8	1.4	24.7

(7) ばん (晩)

1	和歌山	77	33			9	15			1	2		17
		100.0	42.9			11.7	19.5			1.3	2.6		22.1
2	京都	78	43			9	14		1	1	3		7
		100.0	55.1			11.5	17.9		1.3	1.3	3.8		9.0
3	東京	73	1			2	62				3	2	3
		100.0	1.4			2.7	84.9				4.1	2.7	4.1

(8) ひる (昼)

1	和歌山	77	3			49				3	3		19
		100.0	3.9			63.6				3.9	3.9		24.7
2	京都	78	6			45				8	4		14
		100.0	7.7			57.7				10.3	5.1		17.9
3	東京	73	1			61				1	2	2	6
		100.0	1.4			83.6				1.4	2.7	2.7	8.2

(9) ひだり (左)

1	和歌山	77 100.0	61 79.2	1 1.3						4 5.2		3 3.9	8 10.4
2	京都	78 100.0	69 88.5							2 3.8			5 6.4
3	東京	73 100.0	64 87.7							1 1.4			8 11.0

(10) あと (後)

1	和歌山	77 100.0	1 1.3							4 5.2	1 1.3	4 5.2	67 87.0
2	京都	78 100.0	2 2.6							13 16.7		1 1.3	61 78.2
3	東京	73 100.0	2 2.7							7 9.6			63 86.3

(11) まえ (前)

1	和歌山	77 100.0	65 84.4							3 3.9	2 2.6	1 1.3	6 7.8
2	京都	78 100.0	55 70.5							2 2.6	2 2.6		18 23.1
3	東京	73 100.0	67 91.8										6 8.2

(12) さき (先)

1	和歌山	77 100.0	30 39.0							2 2.6	5 6.5	2 2.6	36 46.8
2	京都	78 100.0	19 24.4							4 5.1	2 2.6		46 59.0
3	東京	73 100.0	20 27.4							2 2.7	1 1.4		45 61.6

(3) うえ (上)

1	和歌山	77 100.0	67 87.0									2 2.6	1 1.3	7 9.1
2	京都	78 100.0	54 69.2						3 3.8			2 2.6		18 23.1
3	東京	73 100.0	65 89.0						2 2.7			1 1.4	4 1.4	5.5

(4) <省略>

(5) たて (縦)

1	和歌山	77 100.0	4 5.2											21 27.3	2 2.6	50 64.9
2	京都	78 100.0	5 6.4											21 26.9	2 2.6	49 62.8
3	東京	73 100.0	16 21.9											16 21.9	1 1.4	40 54.8

(6) そと (外)

1	和歌山	77 100.0	56 72.7							2 2.6				3 3.9	1 1.3	12 15.6
2	京都	78 100.0	43 55.1							2 2.6				5 6.4	1 1.3	25 32.1
3	東京	73 100.0	53 72.6							1 1.4				3 4.1	3 4.1	13 17.8

(7) あき (朝)

1	和歌山	77 100.0	12 15.6											1 1.3	5 6.5	2 2.6	57 74.0
---	-----	-------------	------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----------	----------	----------	------------

2	京 都	78 100.0	53 67.9		4 5.1				4 2.6		2 2.6	1 1.3	13 16.7
3	東 京	73	16 21.9		7 9.6				1 1.4	3 1.4	1 1.4	3 4.1	42 57.5

## (8) よる (夜)

1	和 歌 山	77 100.0	5 6.5		17 22.1	26 33.8					3 3.9	3 3.9	23 29.9
2	京 都	78 100.0	6 7.7		16 20.5	27 34.6			1 1.3		3 3.8	1 1.3	23 29.5
3	東 京	73 100.0	18 24.7		15 20.5	9 12.3					6 8.2	1 1.4	24 32.9

## (9) みぎ (右)

1	和 歌 山	77 100.0	66 85.7								1 1.3	2 2.6	7 9.1
2	京 都	78 100.0	58 74.4	1 1.3					2 2.6		1 1.3		15 19.2
3	東 京	73 100.0	64 87.7						2 2.7				7 9.6

## (10) まえ (前)

1	和 歌 山	77 100.0	12 15.6								5 6.5	2 2.6	57 74.0
2	京 都	78 100.0	12 15.4						4 5.1		1 1.3	1 1.3	59 75.6
3	東 京	73 100.0	14 19.2						1 1.4		1 1.4		54 74.0

4-2-10表 時間・空間語テスト1b (1~7) 対語テストの反応の地域差

1. あさ(朝)→ひる(昼) ...

地域別	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1 和歌山	77 100.0	9 11.7			32 41.6		21 27.3		12 15.6		1 1.3	2 2.6		
2 京都	78 100.0	9 11.5			23 29.5		23 29.5		21 26.9		1 1.3	1 1.3		
3 東京	73 100.0	23 31.5			2 2.7		26 35.6		20 27.4		2 2.7			

2. にち(日)→げつ(月) ...

1 和歌山	77 100.0	29 37.7							29 37.7		1 1.3	1 1.3	17 22.1	
2 京都	78 100.0	35 44.9							24 30.8		3 3.8	1 1.3	14 17.9	1 1.3
3 東京	73 100.0	40 54.8							1 1.4	19 26.0			13 17.8	

3. はる(春)→なつ(夏) ...

1 和歌山	77 100.0	18 23.4					1 1.3	5 6.5	38 49.4			1 1.3	14 18.2	
2 京都	78 100.0	10 12.8					1 1.3		52 66.7		1 1.3	1 1.3	12 15.4	1 1.3
3 東京	73 100.0	20 27.4						4 5.5	35 47.9		1 1.4	1 1.4	12 16.4	

4. きょう(今日)→あした(明日) ...

1 和歌山	77 100.0	31 40.3							17 22.1	1 1.3	9 11.7	1 1.3	18 23.4	
-------	-------------	------------	--	--	--	--	--	--	------------	----------	-----------	----------	------------	--

2	京 都	78 100.0	35 44.9						8 10.3	1 1.3	9 11.5	1 1.3	22 28.2	2 2.6
3	東 京	73 100.0	27 37.0						22 30.1		7 9.6		17 23.3	

5. きょう (今日) → きのう (昨日) ...

1	和 歌 山	77 100.0	10 13.0						22 28.6	1 1.3	7 9.1	2 2.6	35 45.5	
2	京 都	78 100.0	11 14.1						16 20.5	1 1.3	11 14.1	3 3.8	34 43.6	2 2.6
3	東 京	73 100.0	11 15.1						20 27.4	2 2.7	8 11.0	1 1.4	31 42.5	

6. ことし (今年) → らいねん (来年) ...

1	和 歌 山	77 100.0	3 3.9						7 9.1	1 1.3	1 1.3	10 13.0	54 70.1	1 1.3
2	京 都	78 100.0	2 2.6						5 6.4	2 2.6	6 7.7	8 10.3	52 66.7	3 3.8
3	東 京	73 100.0	4 5.5						6 8.2		8 11.0		54 74.0	1 1.4

7. ことし (今年) → きよねん (去年) ...

1	和 歌 山	77 100.0						1 1.3	10 13.0			6 7.8	59 76.6	1 1.3
2	京 都	78 100.0	1 1.4						9 11.5	3 3.8	3 3.8	7 9.0	52 66.7	3 3.8
3	東 京	73 100.0							6 8.2		8 11.0	1 1.4	57 78.1	1 1.4

7. あさ (朝) → よる (夜) ...

1	和歌山	77 100.0	5 6.5	14 18.2	14 18.2	5 6.5	20 26.0	3 3.9	1 1.3	11 14.3	4 5.2
2	京都	78 100.0	11 14.1	15 19.2	7 9.0	3 3.8	27 34.6			9 11.5	6 7.7
3	東京	73 100.0	16 21.9	1 1.4	22 30.1	2 2.7	21 28.8	4 5.5	1 1.4	5 6.8	1 1.4

2. にち(日)→ど(土)...

1	和歌山	77 100.0	16 20.8			1 1.3	21 27.3			18 23.4	21 27.3
2	京都	78 100.0	18 23.1			1 1.3	19 24.4	1 1.3		23 29.5	16 20.5
3	東京	73 100.0	31 42.5			1 1.4	17 23.3	1 1.4	1 1.4	9 12.3	13 17.8

3. はる(春)→ふゆ(冬)...

1	和歌山	77 100.0	11 14.3			5 6.5	24 31.2			16 20.8	21 27.3
2	京都	78 100.0	8 10.3			1 1.3	22 28.2			22 28.2	23 29.5
3	東京	73 100.0	14 19.2			6 8.2	21 28.8	1 1.4	1 1.4	16 21.9	14 19.2

4. あさって→あした(明日)...

1	和歌山	77 100.0	16 20.8				9 11.7			11 14.3	41 53.2
2	京都	78 100.0	14 17.9			1 1.3	9 11.5			13 16.7	41 52.6
3	東京	73 100.0	10 13.7				10 13.7	3 4.1		13 17.8	37 50.7

5. おととい→きのう (昨日) ...

1	和歌山	77 100.0	5 6.5								3 3.9	6 7.8	63 81.8
2	京都	78 100.0	3 3.8								1 1.3	6 7.7	68 87.2
3	東京	73 100.0	4 5.5								1 1.4	12 16.4	54 74.0

6. さいねん→らいねん (来年) ...

1	和歌山	77 100.0	1 1.3								2 2.6	1 1.3	73 94.8
2	京都	78 100.0	1 1.3									1 1.3	76 97.4
3	東京	73 100.0	3 4.1								2 2.7	4 5.5	64 87.7

7. おとし→きょねん (去年) ...

1	和歌山	77 100.0										1 1.3	76 98.7
2	京都	78 100.0	1 1.3								1 1.4	1 1.3	76 97.4
3	東京	73 100.0										5 6.8	67 91.8

次にテスト1 bの地域差の有無を考えてみる。4-2-7表は、テスト1 bにおける基準反応率の高低に関する地域差を $\chi^2$ 検定によって調べた結果である。それによれば、地域差の認められた反応は、

	和歌山	京都	東京
1. あさ(朝)→ひる(昼)→	9 11.7	9 11.5	23 31.5
1' あさ(朝)→よる(夜)→	5 6.5	11 14.1	16 21.9
2' にち(日)→ど(土)→	16 20.8	18 23.1	31 42.5

であり、傾向的に差が生じたのは、3春→夏の季節を表す系列語であった。

上記によれば、1日の時間の経過を表す〈あさ・ひる・よる〉は東京が高く、和歌山・京都が低いが、これは和歌山、京都が〈あさ・ひる・よる〉の基準的系列語関係に対して、〈あさ・ひる・ばん〉の系列語で答えているためであり、その系列語は西日本地域がもつ時間系列語だからであり、テスト1 aにおける〈朝・晩〉〈昼・夜〉の反応における地域差の結果と符合する。

曜日については、東京が、和歌山、京都に比較して高く、この傾向は曜日を順方向での反応を求めた項目2でも現れているが、特に地域の言語的特性と関連する事実は認められない。

## 1-2 系の成立

テスト1 aは対語テストと称し、「前の反対は何?」という質問形式で反応を求め、テスト1 bは系列語テストと称し、「日曜日の次は何曜日?」という質問形式で反応を求め、単語・単語の系の成立の程度を明らかにすることを目的にしたものであり、その系の成立は語理解の基底にあると考えた。そこで、テスト1 aで実施した9項目18語(斜めを除外)、テスト1 bで実施した7項目26語について、対語および系列語の14反応項目を交差させることによって、系の成立程度を調べることとした。

そして、系は次の4項目について分析することにし、4-2-15表の系の交差部分は(▼)で示すこととした。

○₁-○₁ 基準語反応の系

(○₁+○₂)-(○₁+○₂) 幼児音反応を含む基準語反応の系

×-× 「～ナイ」反応の系

N-N 無答反応の系

そこで、テスト1 aについて、○₁-○₁系反応率の高かった順に、時間・空間語をあげ、かつN-N系反応率を示せば4-2-11表のようになる。4-2-11表により、(○₁-○₁)系反応率の高い順に対語をあげれば、空間語は、

前・後ろ、> 右・左> 上・下> 中・外> 縦・横

時間語は、

4-2-11 表 対語テスト1aにおける系反応率

	O ₁ -O ₁		N-N	
	N	%	N	%
1. ま え・う し ろ	180	78.9	11	4.8
2. み ぎ・ひ だ り	177	76.7	12	5.2
3. う え・し た	175	76.7	8	3.5
4. な か・そ と	86	37.7	20	8.7
5. あ さ・ば ん	65	28.5	11	4.8
6. あ と・さ き	34	14.9	103	45.1
7. た て・よ こ	22	9.6	79	34.6
8. ひ る・よ る	4	1.7	23	10.0
9. ま え・あ と	2	0.8	146	64.0

4-2-12 表 対語テスト1aにおける系反応の有意差検定 ( $\alpha^2$ )

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1		0.289	0.402	79.610 ^{**}	116.580 ^{**}	187.460 ^{**}	221.697 ^{**}	281.909 ^{**}	288.995 ^{**}
2	0.289		—	70.869 ^{**}	106.425 ^{**}	175.272 ^{**}	208.953 ^{**}	268.870 ^{**}	276.302 ^{**}
3	0.402	—		69.293 ^{**}	104.200 ^{**}	173.209 ^{**}	217.331 ^{**}	266.154 ^{**}	273.102 ^{**}
4	79.610 ^{**}	70.869 ^{**}	69.293 ^{**}		4.329 [*]	30.539 ^{**}	49.659 ^{**}	93.009 ^{**}	99.253 ^{**}
5	116.580 ^{**}	106.425 ^{**}	104.200 ^{**}	4.329 [*]		12.406 ^{**}	26.268 ^{**}	63.484 ^{**}	69.339 ^{**}
6	187.460 ^{**}	175.272 ^{**}	173.209 ^{**}	30.539 ^{**}	12.406 ^{**}		2.969	25.918 ^{**}	30.800 ^{**}
7	221.697 ^{**}	208.953 ^{**}	217.331 ^{**}	49.659 ^{**}	20.268 ^{**}	2.969		13.198 ^{**}	17.443 ^{**}
8	281.909 ^{**}	268.870 ^{**}	266.154 ^{**}	93.009 ^{**}	63.484 ^{**}	25.918 ^{**}	13.198 ^{**}		0.770
9	288.995 ^{**}	276.302 ^{**}	273.102 ^{**}	99.253 ^{**}	69.339 ^{**}	30.800 ^{**}	17.443 ^{**}	0.770	

朝・晩〉後・先〉夜・昼〉前・後

となる。ただし、〈後・先〉〈前・後〉は空間的な位置を表す際に使われることもある。

4-2-12表により、系反応の高低を有意差の有無に基づいて類別すれば、次の通りになる。

1. まえ・うしろ			6. あと・さき	8. ひる・よる
2. みぎ・ひだり	4. なか・そと	5. あさ・ぼん	7. たて・よこ	9. まえ・あと
3. うえ・した				

これによれば、〈前・後ろ〉、〈右・左〉、〈上・下〉という空間語が最も反応率が高く、〈昼・夜〉〈前・後〉という時間語が最も反応率が低い群に属する。

以上のことから次の2点を指摘することができる。第1は、空間語と時間語と分けると、空間語の方が系反応率が時間語より高い。ただし、〈縦・横〉は時間を表す〈朝・晩〉より系反応率が低く、習得の困難さを示している。そして第2は、空間語の中では、〈前・後ろ〉、〈右・左〉〈上・下〉が最も高い反応率が高く、したがって習得が容易であることを示している。ただし、〈上・下〉〈中・外〉には基準語の対語関係のほかに、地域で異なる対語を持つのでそのための影響も考える必要がある。

N-N系反応の中では、〈前・後〉、〈後・先〉〈縦・横〉にいちじるしく多いのが注目されるが、〈昼・夜〉をのぞけば概してO₁-O₁系反応の低い群にN-N系反応が多いことが指摘できる。

テスト1bについて、O₁-O₁系反応率の高かった順に、時間語を示せば、次の通りである。

4-2-13 表 対語テスト1bにおける系反応率

	O ₁ -O ₁		N-N	
	%			
1. 曜日	64	28.0	1	0.4
2. 日(未来)	39	17.1	2	0.8
3. 季節	31	13.5	0	0
4. 一日	20	8.7	0	0
5. 日(過去)	11	4.8	2	0.8
6. 年(未来)	5	2.1	5	2.1
7. 年(過去)	1	0.4	5	2.1

4-2-14 表 対語テスト1bにおける系反応の有意差検定 (α²)

	1	2	3	4	5	6	7
1		7.822 ^{**}	14.422 ^{**}	28.196 ^{**}	44.783 ^{**}	59.283 ^{**}	71.166 ^{**}
2	7.822 ^{**}		1.076	6.975 ^{**}	17.612 ^{**}	29.019 ^{**}	39.583 ^{**}
3	14.422 ^{**}	1.076		2.615	10.516 ^{**}	20.212 ^{**}	30.180 ^{**}
4	28.198 ^{**}	6.975 ^{**}	2.615		2.840	9.259 ^{**}	17.980 ^{**}
5	24.783 ^{**}	17.612 ^{**}	10.516 ^{**}	2.840		2.067	8.584 ^{**}
6	59.283 ^{**}	29.019 ^{**}	20.212 ^{**}	9.259 ^{**}	2.067		2.310
7	71.166 ^{**}	39.593 ^{**}	30.180 ^{**}	17.980 ^{**}	8.584 ^{**}	2.310	

4-2-13表により、系反応の高低を有意差の有無に基づいて類別すれば、次の通りになる。

1. 曜日	2. 日(未来)	4. 一日	6. 年(未来)
	3. 季節	5. 日(過去)	7. 年(過去)

すなわち、曜日が他の時間系列語より有意に  $O_1-O_1$  系反応率が高く、年を表す時間語が他の系列語より有意に  $O_1-O_1$  系反応率が低い。これから次のことを指摘することができる。第1は曜日は他の時間系列語より最も習得が容易である。第2は、日および年は未来を表す系列語の方が過去を表す系列語より容易である。(ただし、年における未来・過去の系列語の系反応率の差は20%以下の危険率をもつ)

4-2-15表 対語テストにおける系の成立 ㊦欄が系の成立を示す項である。

前・後ろ (1)	合計	1・前	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
01 後ろ	200 100.0	㊦ 180 90.0								3 1.5				17 8.5	
09	3 100.0	1 33.3												2 66.7	
11	2 100.0	1 50.0										1 50.0			
12	4 100.0	2 50.0										1 25.0	1 25.0		
13	19 100.0	3 15.8								2 10.5		2 10.5		11 57.9	1 5.3
合計	228 100.0	187 82.0								5 2.2		4 1.8	1 .4	30 13.2	1 .4

後・先 (2)		先													
01 後	47 100.0	㊦ 34 72.3	1 2.1							3 6.4		1 2.1		8 17.0	
04	16 100.0	5 31.3	2 12.5							2 12.5		1 6.3		6 37.5	
09	14 100.0	3 21.4								4 28.6		2 14.3		5 35.7	
11	12 100.0	3 25.0	1 8.3									3 25.0	1 8.3	4 33.3	
12	7 100.0	2 28.6	1 14.3							1 14.3		1 14.3	1 14.3	1 14.3	
13	132 100.0	22 16.7	3 2.3							3 2.3				103 78.0	1 .8
合計	228 100.0	69 30.3	8 3.5							13 5.7		8 3.5	2 .9	127 55.7	1 .4

上・下 (3)	上															
01 下	198 100.0	174 87.9									3 1.5			2 1.0	1 .5	18 9.1
02	1 100.0	1 100.0														
09	3 100.0	2 66.7									1 33.3					
11	5 100.0												2 40.0			3 60.0
12	3 100.0	3 100.0														
13	17 100.0	6 35.3									1 5.9		1 5.9	1 5.9	8 47.1	
14	1 100.0															1 100.0
合計	228 100.0	186 81.6									5 2.2		5 2.2	2 .9	29 12.7	1 .4

縦・横 (5)	縦														
01 横	71 100.0	22 31.0									13 18.3				36 50.7
05	1 100.0														1 100.0
09	31 100.0	2 6.5									12 38.7		2 6.5		15 48.4
11	12 100.0										8 66.7			1 8.3	3 25.0
12	9 100.0										3 33.3			1 11.1	5 55.6

13		103 100.0	1 1.0								22 21.4		1 1.0	79 76.7	1 100.0
14		1 100.0													1 100.0
合計		228 100.0	25 11.0								58 25.4		3 1.3	139 61.0	1 .4

中・外 (6)			外													
01 中	104 100.0	86 82.7		2 1.9							2 1.9			14 13.5		
04	30 100.0	22 73.3									2 6.7			6 20.0		
09	11 100.0	5 45.5		2 18.2							1 9.1		1 9.1	2 18.2		
11	28 100.0	19 67.9									1 3.6		2 7.1	5 17.9		
12	4 100.0												1 25.0	3 75.0		
13	50 100.0	20 40.0		1 2.0							5 10.0		2 4.0	20 40.0		
14	1 100.0														1 100.0	
合計	228 100.0	152 66.7		5 2.2							11 4.8		4 1.8	50 21.9	1 .4	

朝・晩 (7)			朝													
01 晩	77 100.0	65 84.4		3 3.9							2 2.6			6 7.8		



14	1 100.0																				1 100.0
合 計	228 100.0	29 12.7	48 21.1	62 27.2	1 .4	12 5.3	5 2.2	70 30.7	1 .4												1 100.0

左・右 (9)		右																					
01	194 100.0	175 90.2	1 .5	3 1.5																	15 7.7		
02	1 100.0	1 100.0																					
09	8 100.0	4 50.0		2 25.0																	1 12.5		
12	3 100.0																				2 66.7	1 33.3	
13	21 100.0	8 38.1																			1 4.8	12 57.1	
14	1 100.0																					1 100.0	
合 計	228 100.0	188 82.5	1 .4	5 2.2																	2 .9	29 12.7	1 .4

前・後 (10)		前																					
01	5 100.0	2 40.0																				3 60.0	
09	24 100.0	3 12.5																			2 8.3	1 4.2	18 75.0
11	1 100.0																				1 100.0		

12		5															2	3	
13		191	33 17.3									6 3.1	4 2.1					146 76.4	2 1.0
14		2																	2 100.0
合計		228	38 16.7									6 2.6	7 3.1				3 1.3	170 74.6	4 1.8

テスト1b 系の成立

朝・昼・夜 (1)			1 朝・夜	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
01 朝・昼・夜	41 100.0	20 48.8				3 7.3		7 17.1	1 2.4	6 14.6		1 2.4		3 7.3		
04	57 100.0	5 8.8				23 40.4		4 7.0	5 8.8	12 21.1		1 1.8		5 8.8	2 3.5	
06	70 100.0	6 8.6				3 4.3		29 41.4	3 4.3	19 27.1			2 2.9	8 11.4		
08	53 100.0	1 1.9				1 1.9		3 5.7	1 1.9	30 56.6		3 5.7		9 17.0	5 9.4	
10	4 100.0									1 25.0		2 50.0			1 25.0	
11	3 100.0														3 100.0	
合計	228 100.0	32 14.0				30 13.2		43 18.9	10 4.4	68 29.8		7 3.1	2 .9	25 11.0	11 4.8	

日・月・→ (2)			日・土													
01 日・月・→	104 100.0	64 61.5							2 1.9	28 26.9				10 9.6		





09		4																4	100.0
10		26																26	100.0
11		6																6	100.0
12		100	1															4	95
			1.0															4.0	95.0
13		2																2	100.0
合計		228	12															24	185
			5.3															10.5	81.1

ことし・らいねん→ (6)			ざいねん らいねん																
01 ことし・らいねん→	9	5																1	
	100.0	55.6																11.1	
08	18																	18	
	100.0																	100.0	
09	3																	3	
	100.0																	100.0	
10	15																	1	13
	100.0																	6.7	86.7
11	18																	18	
	100.0																	100.0	
12	160																	4	156
	100.0																	2.5	97.5
13	5																	5	
	100.0																	100.0	
合計	228	5																6	213
	100.0	2.2																2.6	93.4

ことし・ ぎよねん・→ (7)		おとし																		
01	ことし・ ぎよねん・→	1 100.0	1 100.0																	
06		1 100.0																		1 100.0
08		25 100.0									1 4.0									1 4.0
09		3 100.0																		3 100.0
10		11 100.0																		1 9.1
11		14 100.0																		14 100.0
12		168 100.0																		5 3.0
13		5 100.0																		5 100.0
合 計		228 100.0									1 .4									7 3.1
																				219 96.1

## 2 発語テスト

発語テストは対義および系列関係を示す絵図を呈示し、各対、系列の時間・空間語は何かをたずね、被験者に単語・事物水準での理解および系の成立程度を明らかにすることが目的である。

発語テストの刺激絵図は4対4絵図、系列テストの刺激絵図は6系列11絵図が用意されている。そしてそれぞれに、〈自動車はトラックのどちらにあるか〉、〈トラックは自動車のどちらにあるか〉などの問いかけ(48ページ参照)で順次反応が求められた。その後、被験者の全反応は13判定基準およびテストもれ(N T)の項目を加えて14項目(113ページ参照)に分類された。

4-2-16表は、発語テストの結果であり、空間語では〈中〉、〈下〉、〈上〉、〈後ろ〉、〈前〉の基準反応率が比較的高く、時間語では、曜日、一日を表す系列語の基準反応率が高い。

4-2-16表 時間・空間語テスト2 発語テストの反応

	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
A 1 前	228 100.0	118 51.8								60 26.3	2 .9	1 .4	1 47 20.6	
B 2 上	228 100.0	136 59.6								62 27.2	2 .9	1 .4	27 11.8	
C 3 外	228 100.0	107 46.9			7 3.1					88 38.6	1 .4	2 .9	23 10.1	
D 4 右	228 100.0	57 25.0			1 .4					130 57.0	5 2.2	1 .4	33 14.5	1 .4
E 5 縦/横/斜	228 100.0	21 9.2			2 .9				136 59.6	14 6.1	27 11.8	1 .4	24 10.5	3 1.3
F 6 朝・昼・夜	228 100.0	76 33.3	1 .4		78 34.2		1 .4		37 16.2	2 .9	5 2.2	3 1.3	20 8.8	5 2.2
G 7 春………冬	228 100.0	61 26.8						4 1.8	92 40.4	2 .9	16 7.0	6 2.6	38 16.7	9 3.9
H 8 昨日—今日—明日	228 100.0	17 7.5	1 .4					1 .4	9 3.9	2 .9	6 2.6	7 3.1	169 74.1	16 7.0
I 9 日………土	228 100.0	77 33.8			1 .4		1 .4		34 14.9	1 .4		1 .4	105 46.1	8 3.5
J 10 去年—今年—来年	228 100.0	4 1.8						1 .4	6 2.6	2 .9	7 3.1	11 4.8	179 78.5	18 7.9
A 1' 後ろ	228 100.0	122 53.5	1 .4							48 21.1			45 19.7	12 5.3
B 2' 下	228 100.0	137 60.1			1 .4					50 21.9	3 1.3		26 11.4	11 4.8
C 3' 中	228 100.0	159 69.7			7 3.1					29 12.7	2 .9	1 .4	18 7.9	12 5.3
D 4' 左	228 100.0	56 24.6								118 51.8	2 .9	1 .4	39 17.1	12 5.3

4-2-17 表 テスト2(発語)各対の $\chi^2$ による有意差検定

	$\chi^2$	p	df
1 1'	1.604	0.30	1
2 2'	—	—	1
3 3'	24.372	0.01**	1
4 4'	—	—	1

そこで、対語関係についてみると、〈なか・そと〉以外は各対内には有意差は認められなかった。そして、〈なか・そと〉の間では、〈なか〉に対する基準反応率が高い。対語テストでは〈なか〉の基準反応率が〈そと〉より有意に低かったが、テスト2の自発テストでは逆の結果が生じている。この差に関して反応傾向をみると、対語テストでは、〈なか〉に対する同義反応〈うち〉が全体の13.2%を占め、そのために、そと〉なかの関係を生じさせていた。ところが、テスト2の絵図では、この場合、〈うち〉ということではなく、事実その反応も少ない(3.1%)から、〈なか〉の基準反応を高めさせた。もう1つは、この絵図では、外側にある黒点を〈左〉〈横〉などの反応を誘いやすく、そのための異なる意味反応が全体の38.6%という高い割合を示し、こうして、なか〉そと関係を生じさせたとみることができる。

4-2-18 表 テスト2  
発語テストの○—○系反応率

	N	%
1. うえ・した	128	56.1
2. まえ・うしろ	112	49.1
3. なか・そと	102	44.7
4. みぎ・ひだり	51	22.3

4-2-19 表 テスト2発語テスト  
における系反応の有意差検定( $\chi^2$ )

	1	2	3	4
1		2.205	5.920*	54.428**
2	2.205		0.882	35.452**
3	5.920	0.882		25.536**
4	54.428	35.452	25.536	

テスト2の発語テストについて、○—○の系反応率を見たのが4-2-18表であり、各系反応の有意差検定を試みたのが4-2-19表である。これによれば、上・下〉前・後ろ〉中・外〉右・左の順で基準反応率が低くなっている。そのほかに空間語では、〈縦・横・斜め〉があるが、〈縦・横〉の困難さに加えて、〈斜め〉が下例の通り、基準反応率をさらに低めている。テスト1と比較すると、〈なか・そと〉を除いて、他の3対語はいずれもテスト1より系反応率が低く、単語・単語の水準での系の成立より、単語・事物の水準での系の成立のほうが空間認知要因が加わって困難にさせている。特に〈みぎ・ひだり〉において顕著である。

東京地区における〈縦・横・斜め〉反応

	4歳児(37名)	5歳児(36名)
縦	タテ16, マッスグ10, ウエ2, N2, マエ1, 以下略	タテ21, マッスグ11, ウエ1, 以下略
横	ヨコ23, N4, シカク1, ネテル1, 以下略	ヨコ28, N3, タオレテル2, タテ1, 以下略
斜め	ナナメ2, N14, ヨコニタッテル5, サカ3, 以下略	ナナメ13, N13, ヨコ4, サンカク2, 以下略

4-2-20表 テスト2 発語テストにおける系の成立 〇が系の成立を示す項である。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	合計	〇 ₁ 後ろ											
テスト 2 (A)													
01	118 100.0	112 94.9	1 .8						2 1.7				3 2.5
09	60 100.0	6 10.0							43 71.7			7 11.7	4 6.7
10	2 100.0											1 50.0	1 50.0
11	1 100.0								1 100.0				
12	47 100.0	4 8.5							2 4.3			37 78.7	4 8.5
合計	228 100.0	122 53.5	1 .4						48 21.1			45 19.7	12 5.3

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	合計	〇 ₁ 下											
テスト 2 (B)													
01	136 100.0	128 94.1							1 .7			1 .7	6 4.4
09	62 100.0	9 14.5		1 1.6					45 72.6			4 6.5	3 4.8
10	2 100.0									1 50.0		1 50.0	
11	1 100.0											1 100.0	
12	27 100.0								4 14.8	2 7.4		19 70.4	2 7.4

合計	228 100.0	137 60.1						1 .4					50 21.9	3 1.3	26 11.4	11 4.8	
テスト 2 (C)		O ₁ 下															
01 O ₁ 外	107 100.0	102 95.3											1 .9			4 3.7	
04	7 100.0	6 85.7						1 14.3									
09	88 100.0	46 52.3						5 5.7					25 28.4		5 5.7	7 8.0	
10	1 100.0												1 100.0				
11	2 100.0												1 50.0				
12	23 100.0	5 21.7						1 4.3					2 8.7	1 4.3	13 56.5	1 4.3	
合計	228 100.0	159 69.7						7 3.1					29 12.7	2 .9	1 .4	18 7.9	12 5.3
テスト 2 (D)		O ₁ 左															
01 O ₁ 右	57 100.0	51 89.5											1 1.8		1 1.8	4 7.0	
04	1 100.0	1 100.0															
09	130 100.0	3 2.3											116 89.2		9 6.9	2 1.5	
10	5 100.0												2 40.0		1 20.0	2 40.0	

11		1 100.0											1 100.0								
12		33 100.0											1 3.0					28 84.8		4 12.1	
13		1 100.0										1 100.0									
	合 計	228 100.0										56 24.6		118 51.8				2 .9		39 17.1	12 5.3

次に系列関係で成立する時間語では、一日(あさ・ひる・よる)、季節(はる・なつ・あき・ふゆ)、日(きのう・きょう・あした)、曜日(にち・げつ・か・すい・もく・きん・ど)および年(きょねん・ことし・らいねん)があげられている。これを基準反応率の高い順にあげれば、4-2-21表のようになっている。一日は別に〈あさ・ひる・ばん〉という同義語反応(項目4)が34.2%も占めており、これを基準語反応に加えれば、その反応率は67.5%になり、最も反応率が高くなる。次にこれらの有意差検定を $\chi^2$ で調べた結果が4-2-22表である。

4-2-21 表 テスト2  
発語テストにおける基準反応率

	N	%
1 曜日	77	33.8
2 一日	76	33.3
3 季節	61	26.8
4 日	17	7.5
5 年	4	1.8

4-2-22表 テスト2 発語テストの基準反応率の有意差検定( $\chi^2$ )

	1	2	3	4	5
1		—	2.648	48.207**	79.959**
2	—		2.327	64.855**	78.566**
3	2.648	2.327		29.892**	58.323**
4	48.207**	64.855**	29.892**		8.421**
5	79.959**	98.566**	58.323**	8.421**	

そして、これらの時間語の基準語反応の高低を有意差の有無から群化すれば、

曜日・一日・季節	日	年
----------	---	---

となる。これによれば、曜日、一日、季節は系列関係の中でも循環関係(サークル)にあるというところが特徴であり、日および年はそれと違って直線的な系列である。すなわち、4-2-21表によれば、時間語のうち、循環関係にある曜日、一日、季節を表す語は、系列関係(シリーズ)にある日、年を表す語より理解が容易である。ではなぜ、循環関係にある時間語より直線的な系列関係にある時間語の方が習得が困難なのか。この点について、日および年の時間語は、時間の経過にしたがって、事象と単語との関係が、相対的に変化することが困難点にあげられる。そしてこの点は空間語における〈左・右〉の概念と同じである。そしてもう1つは、循環関係にある時間語がより充足的な系をつくりやすく、系列関係にある時間語は無制限的な系列のために充足的な系をつくりにくいことが指摘される。

### 3 基準反応率・系反応率一覧表

4-2-23表 時間・空間語テスト対語基準反応率および系反応率一覧表 (あいうえお順)

語 (N)	反応率	語 (N)	反応率	語	系
あさ (朝) (228)	55.7	ばん (晩) (228)	33.7	あさ (朝) ばん (晩)	<u>65</u> 28.5
あさ→ひる (朝→昼) (228)	18.0	あさ→よる (朝→夜) (228)	14.0	あさ→ひる (朝→昼) あさ→よる (朝→夜)	<u>20</u> 8.8
あさ→よる (朝→夜) (228)	14.0	あさ→ひる (朝→昼) (228)	18.0	あさ→ひる (朝→昼) あさ→よる (朝→夜)	<u>20</u> 8.8
あさって→あした (明 後日→明日) (228)	17.5	きょう→あした (今日 →明日) (228)	40.8	きょう→あした (今日 →明日) あさって→あした (明 後日→明日)	<u>39</u> 17.1
あと (後) (228)	20.6	さき (先) (228)	30.3	さき (先) あと (後)	<u>34</u> 14.9
あと (後) (228)	2.2	まえ (前) (時間) (228)	16.7	まえ (前) あと (後)	<u>2</u> 0.9
うえ (上) (228)	81.6	した (下) (228)	86.8	うえ (上) した (下)	<u>174</u> 76.3
うしろ (後) (228)	87.7	まえ (前) (空間) (228)	82.0	まえ (前) うしろ (後)	<u>180</u> 78.9
おととい→きのう (一 昨日→昨日) (228)	5.3	きょう→きのう (今日 →昨日) (228)	14.0	きょう→きのう (今日 →昨日) おととい→きのう (一 昨日→昨日)	<u>11</u> 4.8
おとし→きょねん (一 昨年→去年) (228)	0.4	ことし→きょねん (今 年→去年) (228)	0.4	ことし→きょねん (今 年→去年) おとし→きょねん (一 昨年→去年)	<u>1</u> 0.4
きょう→あした (今日 →明日) (228)	40.8	あさって→あした (明 後日→明日) (228)	17.5	きょう→あした (今日 →明日) あさって→あした (明 後日→明日)	<u>39</u> 17.1
きょう→きのう (今日 →昨日) (228)	14.0	おととい→きのう (一 昨日→昨日) (228)	5.3	きょう→きのう (今日 →昨日) おととい→きのう (一 昨日→昨日)	<u>11</u> 4.8
ことし→きょねん (今 年→去年) (228)	0.4	おとし→きょねん (一 昨年→去年) (228)	0.4	ことし→きょねん (今 年→去年) おとし→きょねん (一 昨年→去年)	<u>1</u> 0.4

系の項目の上段の数値は反応数，下段は%を示す。

ことし→らいねん (今年→来年) (228)	3.9	さらいねん→らいねん (再来年→来年) (228)	2.2	ことし→らいねん (今年→来年) さらいねん→らいねん (再来年→来年)	<u>5</u> 2.2
さき (先) (228)	30.3	あと (後) (228)	20.6	さき (先) あと (後)	<u>34</u> 14.9
さらいねん→らいねん (再来年→来年) (228)	2.2	ことし→らいねん (今年→来年) (228)	3.9	ことし→らいねん (今年→来年) さらいねん→らいねん (再来年→来年)	<u>5</u> 2.2
した (下) (228)	86.8	うえ (上) (228)	81.6	うえ (上) した (下)	<u>174</u> 76.3
そと (外) (228)	65.7	なか (中) (228)	45.6	そと (外) なか (中)	<u>86</u> 37.7
たて (縦) (228)	11.0	よこ (横) (228)	31.1	たて (縦) よこ (横)	<u>22</u> 9.6
なか (中) (228)	45.6	そと (外) (228)	65.7	そと (外) なか (中)	<u>86</u> 37.7
にち→げつ (日→月) (228)	45.6	にち→ど (日→土) (228)	28.5	にち→げつ (日→月) にち→ど (日→土)	<u>64</u> 28.1
はる→なつ (春→夏) (228)	21.1	はる→ふゆ (春→冬) (228)	14.5	はる→なつ (春→夏) はる→ふゆ (春→冬)	<u>31</u> 13.6
ばん (晩) (228)	33.7	あさ (朝) (228)	55.7	あさ (朝) ばん (晩)	<u>65</u> 28.5
ひだり (左) (228)	85.1	みぎ (右) (228)	82.5	みぎ (右) ひだり (左)	<u>175</u> 76.8
ひる (昼) (228)	4.4	よる (夜) (228)	12.7	よる (夜) ひる (昼)	<u>4</u> 1.8
まえ (前) (時間) (228)	16.7	あと (後) (228)	2.2	まえ (前) あと (後)	<u>2</u> 0.9
まえ (前) (空間) (228)	82.0	うしろ (後) (228)	87.7	まえ (前) うしろ (後)	<u>180</u> 78.9
みぎ (右) (228)	82.5	ひだり (左) (228)	85.1	みぎ (右) ひだり (左)	<u>175</u> 76.8
よこ (横) (228)	31.1	たて (縦) (228)	11.0	たて (縦) よこ (横)	<u>22</u> 9.6
よる (夜) (228)	12.7	ひる (昼) (228)	4.4	よる (夜) ひる (昼)	<u>4</u> 1.8

#### 4 位置変換（前・後ろ）テスト

空間的な位置を表す〈前・後ろ〉の語の理解については、テスト1aでは単語・単語の系の成立程度を確かめ、テスト2～4では単語・事物の系の各水準で確かめてきたので、事物・事物の系の水準で、理解の程度を確かめるのがテスト5の目的である。

すなわち、事物・事物の系の水準で、〈前・後ろ〉の語の理解を確かめるには、2つの条件が課題として与えられる必要がある。第1は事物・事物関係が一定の変化を条件に与えたとき、どのように〈前・後ろ〉の認知に変化を与えるのか。そして第2は認知の表現としての言語形式（主語＋述語）に一定の変化を条件に与えたとき、どのように〈前・後ろ〉の認知に変化を与えるのかということである。

刺激材料には玩具のレーシング・カーとパトロール・カーを1台ずつ用意して、位置の前・後ろの組み合わせ変数を4種、発問の変数をA、Bの2種にしてテストした。その結果これらを位置関係別、発問別に分けると4-2-24表のように類型化される。

この場合、レーシング・カーと、パトロール・カーの空間的な左右の位置は変わらず、レーシング・

4-2-24 表

位 置	A (レ→パ)	B (パ→レ)
前・前	a ₁	a ₂
後ろ・前	b ₃	b ₄
後ろ・後ろ	c ₅	c ₆
前・後ろ	d ₇	d ₈

4-2-25 表 位置および発問別に見た正反応率の有意差

課題	N	%	課題	N	%
a 1	203	89.0	a 2	207	90.8
b 3	119	52.2	b 4	122	53.5
c 5	212	93.0	c 6	201	88.2
d 7	102	44.7	d 8	150	65.8
計	636	69.7	計	670	73.4

全 体	$\chi^2=314.948$	df=7	p<0.01**
発 問	$\chi^2= 3.098$	df=1	p<0.10
位 置	$\chi^2=297.126$	df=1	p<0.01**
順位置	$\chi^2= 3.406$	df=3	p<0.50
逆位置	$\chi^2= 21.448$	df=3	p<0.01**

カー左、パトロール・カー右。また発問A Bの順序も変わらず、Aが先、Bが後である。この類型化によって、位置および発問別に正反応率を見たのが4-2-25表である。4-2-25表によれば、c5、後ろ・後ろ発問Aが最も正反応率が高く、d7、前・後ろ発問Aが最も正反応率が低い。

そこで、全体、A Bの発問別、位置別、順位別、逆位置別に有意差を $\chi^2$ によってみると上表のように、全体、位置別、逆位置別に有意な差が認められる。すなわち、全体として有意差が認められたから、それぞれについてみると、A Bの発問形式では傾向的に差が生じる程度であるが、自動車の位置によって正反応率に有意な差が認められている。すなわち、2台の車が前向きどうしあるいは後ろ向きどうしに位置する同一方向性の方が一方が前向きで一方が後ろ向きという異方向性よ

り有意に正反応率が高いことを示している。

次に、同一方向性内では特に有意差は認められず、異方向性の中に差が生じている。異方向性の中では問題7は問題8より正反応率が低い ( $\chi^2=20.402$   $df=1$   $p<0.01^{**}$ )。すなわち、〈前・後ろ〉に関する事物と事物の系では、同一方向性の事物間の前後ろの系は成立しやすく異方向性の事物間の前後ろの系は成立しにくく、かつ、それに発問の主述に関する構文形式の違いでも差が生じる。同一方向性であれば、「㊸は」の㊸の車の持つ前後ろ関係がそのまま「㊹の」の㊹の車との関係に対応するから容易である。ところが異方向性であれば、本質的には「㊹の」の位置で決定されるにもかかわらず、それが「㊸は」の㊸の車の持つ前後ろ関係と対立するから理解が困難である。

4-2-26 表 テスト5の地域差

	$\chi^2$	df	p
a 1	.819	2	.70
a 2	.956	2	.70
b 3	6.865	2	.05*
b 4	.025	2	.90
c 5	.367	2	.80
c 6	1.580	2	.50
d 7	1.241	2	.70
d 8	1.643	2	.50

なお、4-2-27表にしたがって、地域差の有無を $\chi^2$ によって調べたのが4-2-26表である。4-2-26表によれば、問題b3にだけ、5%以下の危険率で、地域差が認められた。すなわち、和歌山は他の2地域に比較して低いが、それが偶然的な要因によるものか、地域的特性によるものかの判断はできない。

4-2-27表 位置変換テストと地域差

a(1)

	合 計	1	2	3	4
		○	×	N	NT
1 和 歌 山	77 100.0	67 87.0	9 11.7	1 1.3	
2 京 都	78 100.0	69 88.5	8 10.3	1 1.3	
3 東 京	73 100.0	67 91.8	3 4.1	2 2.7	1 1.4
合 計	228 100.0	203 89.0	20 8.8	4 1.8	1 .4

a(2)

1 和歌山	77 100.0	70 90.9	7 9.1		
2 京都	78 100.0	69 88.5	7 9.0	2 2.6	
3 東京	73 100.0	68 93.2	2 2.7	2 2.7	1 1.4
合計	228 100.0	207 90.8	16 7.0	4 1.8	1 .4

b(3)

	合計	1	2	3	4
		○	×	N	NT
1 和歌山	77 100.0	31 40.3	27 35.1	19 24.7	
2 京都	78 100.0	44 56.4	21 26.9	13 16.7	
3 東京	73 100.0	44 60.3	16 21.9	12 16.4	1 1.4
合計	228 100.0	119 52.2	64 28.1	44 19.3	1 .4

b(4)

1 和歌山	77 100.0	43 55.8	23 29.9	11 14.3	
2 京都	78 100.0	41 52.6	26 33.3	11 14.1	
3 東京	73 100.0	38 52.1	24 32.9	10 13.7	1 1.4
合計	228 100.0	122 53.5	73 32.0	32 14.0	1 .4

## C(5)

	合 計	1	2	3	4
		○	×	N	NT
1 和 歌 山	77 100.0	71 92.2	5 6.5	1 1.3	
2 京 都	78 100.0	72 92.3	5 6.4	1 1.3	
3 東 京	73 100.0	69 94.5	1 1.4	2 2.7	1 1.4
合 計	228 100.0	212 93.0	11 4.8	4 1.8	1 .4

## C(6)

1 和 歌 山	77 100.0	65 84.4	10 13.0	2 2.6	
2 京 都	78 100.0	70 89.7	7 9.0	1 1.3	
3 東 京	73 100.0	66 90.4	4 5.5	2 2.7	1 1.4
合 計	228 100.0	201 88.2	21 9.2	5 2.2	1 .4

## d(7)

	合 計	1	2	3	4
		○	×	N	NT
1 和 歌 山	77 100.0	31 40.3	39 50.6	7 9.1	
2 京 都	78 100.0	35 44.9	32 41.0	11 14.1	

3 東 京	73 100.0	36 49.3	25 34.2	11 15.1	1 1.4
合 計	228 100.0	102 44.7	96 42.1	29 12.7	1 .4

d(8)

1 和 歌 山	77 100.0	55 71.4	14 18.2	8 10.4	
2 京 都	78 100.0	49 62.8	18 23.1	11 14.1	
3 東 京	73 100.0	46 63.0	16 21.9	10 13.7	1 1.4
合 計	228 100.0	150 65.8	48 21.1	29 12.7	1 .4

## 5 時間判断(前・過ぎ)テスト

テスト6 aは時間判断のうち、特に時計の時間の読みから、〈前・過ぎ〉の語の理解の程度を確かめようとするものが目的である。

テストには、玩具の時計が用意されたが、これは長針・短針が自由に手で操作できるしくみになり、12、1、2、3の数字を含む区分が明示されている。そして、これにしたがって、「いま、何時？」と問う発語テスト、「～にしてください」と指示する指示テスト、「○時になっている？ なっていない？」と問う判断テストに分かれている。

まず、発語テスト、指示テスト、判断テストの正反応率を4-2-32表から34表について求めれば4-2-28表のようにまとめられる。

4-2-28 表 発語・指示・判断テストの正反応率

	発 語		指 示		判 断	
	N	%	N	%	N	%
6:15 前	3	1.3	29	9.2	132	57.9
3:05 過	23	10.1	38	16.7	136	59.6
6:30	37	16.2	47	20.6	130	57.0
3:05 前	5	2.2	26	11.4	138	60.5
6:15 過	18	7.9	24	10.5	126	55.3

4-2-28表によれば、正反応率は発語、指示、判断の順に次第に高くなっており、判断テストでの正答率は55.3~60.5%の間にあり、各問題間には有意な差は認められない( $\chi^2=0.159$   $df=4$   $p<0.70$ )。すなわち、発語、指示テストで正反応率間に差はあっても、正〇時(たとえば、6時)を過ぎているか、いないかの判断は5、6割の理解に達することを示している。

しかしながら、発語、指示テストでの正反応率は低く、発語テストでは1.3~16.2% 指示テストでは9.2~20.6%にとどまり、時計の時間の読みの習得の困難さを示している。

次に発語、指示、判断の各テストごとに考察すると、発語テストでの正反応率の有意差は、

$$\chi^2=28.365 \quad df=4 \quad p<0.01^{**}$$

1%以下の危険率で認められた。そこで各問題間の有意差の有無を調べると、6時30分への反応(問3)が最も高く、(~前)反応(問1, 4)は(~過ぎ)反応(問2, 5)より正答率が低い。4-2-29表は、各問題間の有意差を $\chi^2$ 検定で調べたものであるが、その事実を明示している。

4-2-29 表 発語テストの正反応率の有意差検定( $\chi^2$ )

問題	1	2	3	4	5
1	—	16.173 ^{**}	31.599 ^{**}	0	11.152 ^{**}
2	16.173 ^{**}	—	3.762	12.318 ^{**}	0.733
3	31.599 ^{**}	3.762	—	26.768 ^{**}	7.444 ^{**}
4	0	12.318 ^{**}	26.768 ^{**}	—	7.513 ^{**}
5	11.152 ^{**}	0.733	7.444 ^{**}	7.513 ^{**}	—

4-2-30 表 発語テストの正反応率の有意差検定( $\chi^2$ )

問題	1	2	3	4	5
1	—	7.890 ^{**}	20.681 ^{**}	0.953	4.089 [*]
2	7.890 ^{**}	—	3.702	9.111 ^{**}	0.733
3	20.681 ^{**}	3.762	—	14.275 ^{**}	7.441 ^{**}
4	0.953	9.111 ^{**}	14.275 ^{**}	—	5.015 [*]
5	4.089 [*]	0.733	7.441 ^{**}	5.015 ^{**}	—

また、4-2-30表のように、「前」とはいわずに正しく6時15分、2時55分と答えた者を加えても、その関係は変わらない。すなわち、時間判断の「前・過ぎ」は「過ぎ」の方が正しく発語でき、「過ぎ」と言わずに正しく発語できた者を含めてもその関係は変わらない。時計の時間判断は正〇時を起点にし、右回りで時間が起算されていくから、55分、45分というのは困難であるし、また、減算的な作業を必要とする「~前」の学習を困難にさせていると考えられる。

発語テストでは、正反応について5問題の地域差をみると、いずれも有意な差は認められなかった。

- 問1  $\chi^2=1.47$   $df=2$   $p<0.50$   
 問2  $\chi^2=1.76$   $df=2$   $p<0.50$   
 問3  $\chi^2=2.57$   $df=2$   $p<0.30$   
 問4  $\chi^2=1.60$   $df=2$   $p<0.50$   
 問5  $\chi^2=0.96$   $df=1$   $p<0.70$

無反応は発語テストでは47.8~68.0%に達している。また、時刻認知の誤りは6時15分過ぎを6時3時、6時15分を6時9時といった長針と短針による指示時間単位の複合の誤りが多い(19.7~36.0%)。

指示テストでの正答率の有意差は、

$$\chi^2=15.910 \quad df=4 \quad p<0.01^{**}$$

1%以下の危険率で認められた。そこで各問題間の有意差の有無を調べると、6時30分は発語テスト同様に他の4問より高い。そして(~前)反応(問1, 4)と(~過ぎ)反応(問2, 5)とでは、差がなくなり、5分を指示させる方が15分と指示させるより容易であることが示された。(4-2-31表)。

4-2-31 表 指示テストの正答率の有意差検定( $\chi^2$ )

	1	2	3	4	5
1	—	4.900*	10.580**	0.717	—
2	4.900*	—	1.120	1.694	3.659
3	10.580**	1.120	—	5.670*	8.740**
4	0.717	1.694	5.670*	—	0.296
5	—	3.659	8.740**	0.296	—

すなわち、「前・過ぎ」の認知の差はなく、5分、15分など時間認知に差が認められた。そして地域差は全問に認められなかった。

- 問1  $\chi^2=0.229$                       問2  $\chi^2=4.154$   
 問3  $\chi^2=0.792$                       問4  $\chi^2=3.800$   
 問5  $\chi^2=0.960$                       (df=2)

無反応は69.7~76.3%に達している。また、誤り反応は7.9~12.3とほぼ全体の1割程度であるが、時計の正しい読み方を知らないためである。また、「前・過ぎ」の逆判断は1~2%にとどまっている。

判断テストでの正答率は4-2-28表のように各問とも正答率は55.3~60.5%にあり、有意差は認められなかった。(  $\chi^2=0.159$   $df=4$  )。

また、○時になっているか、いないかの判断に対する地域差は問3に認められた。

- 問1  $\chi^2=4.387$                       問4  $\chi^2=4.430$

問2  $\chi^2=0.788$       問5  $\chi^2=0.159$

問3  $\chi^2=6.405^*$       (df=2)

すなわち、問3は6時30分は6時になっているかいないかをたずねたもので、東京は和歌山、京都に比較して有意に正反応率が低い。東京の反応をみると、他の地域に比較して、6時30分をまだ6時前だと反応する誤反応も多く、また無反応も多い。そして発語・指示テストでも正反応率は京都・和歌山に比較して低いという一貫性がある。しかし、それが地域的特性に依存する理由によるものかどうかの判断はできない。

以上、時計に基づいた「前・過ぎ」の時間判断テストでは、55～60%の4、5歳児のクラスの幼児は、〇時〇分前あるいは過ぎと言われた場合、〇時になっている、いないの判断は可能になっている。しかし、いま何時と言われて正しく答えられた幼児は、6時30分は比較的容易で16%、また指示でも20%に達するが、15分前・過ぎになると正答率はさらに低下するし、特に「前」の方が困難であるが、その理由には「前・過ぎ」の時間語の理解に先だって時計の時間読みの困難さがある。そしてそれに「前」、「過ぎ」の使用が日常、幼児の生活で行われていないことがある。

4-2-32表 発語テストの反応

テスト 6A-1 (1) (6:15分前)

	合計	1	2	3	4	5	6	7	8
		○ ₁ 基準語	○ ₂ 基準語 と同義	○ ₃ 基準語 と類義	× ₁ 前・過 ぎの使 い誤り	× ₂ 時刻認 知の誤 り	× 事物連 想	× ₅ 雑	N
1 和歌山	77 100.0	3 3.9	1 1.3	1 1.3	2 2.6	25 32.5		1 1.3	44 57.1
2 京都	78 100.0		1 1.3	5 6.4		26 33.3		1 1.3	45 57.6
3 東京	73 100.0		3 4.1		1 1.4	32 43.8			37 50.6
合計	228 100.0	3 1.3	5 2.2	6 2.6	3 1.3	83 36.4		2 .9	126 55.3

テスト 6A-1 (2) (3:5分過ぎ)

1 和歌山	77 100.0	10 13.0		3 3.9	1 1.3	28 36.4		1 1.3	34 44.2
2 京都	78 100.0	5 6.4		3 3.8		24 30.8		1 1.3	45 57.7
3 東京	73 100.0	8 11.0		3 4.1	1 1.4	30 41.1	1 1.4		30 41.1
合計	228 100.0	23 10.1		9 3.9	2 .9	82 36.0	1 .4	2 .9	109 47.8

テスト 6A-1 (3) (6:30分)

	合計	1	2	3	4	5	6	7	8
1 和歌山	77 100.0	16 20.8				26 33.8		1 1.3	34 44.2
2 京都	78 100.0	13 16.7		1 1.3		20 25.6		2 2.6	42 53.8
3 東京	73 100.0	8 11.0		1 1.4		17 23.3			7 64.3
合計	228 100.0	37 16.2		2 .9		63 27.6		3 1.3	123 53.9

テスト 6A-1 (4) (3:5分前)

	合計	1	2	3	4	5	6	7	8
1 和歌山	77 100.0	2 2.6	3 3.9	2 2.6	5 6.5	17 22.1			48 62.3
2 京都	78 100.0	1 1.3	1 1.3	3 3.8	1 1.3	13 16.7		1 1.3	58 74.3
3 東京	73 100.0	2 2.7	3 4.1	4 5.5		15 20.5			49 67.1
合計	228 100.0	5 2.2	7 3.1	9 3.9	6 2.6	45 19.7		1 .4	155 68.0

テスト 6A-1 (5) (6:15分過ぎ)

	合計	1	2	3	4	5	6	7	8
1 和歌山	77 100.0	8 10.4		1 1.3		19 24.7			49 63.7
2 京都	78 100.0	5 6.4		2 2.6		12 15.4		1 1.3	58 74.4
3 東京	73 100.0	5 6.8		1 1.4		21 28.8			46 63.0
合計	228 100.0	18 7.9		4 1.8		52 22.8		1 .4	152 67.1

## 4-2-33表 指示テストの反応

## テスト 6A-2 (1) (6:15分)

	合計	1	2	3	4	5	6	7	8
1 和歌山	77 100.0	7 9.1	1 1.3	4 5.2	1 1.3	14 18.2			50 64.9
2 京都	78 100.0	8 10.3			3 3.8	7 9.0			60 76.9
3 東京	73 100.0	6 8.2		2 2.7	2 2.7	5 6.8			58 79.4
合計	128 100.0	21 9.2	1 .4	6 2.6	6 2.6	26 11.4			168 73.7

## テスト 6A-2 (2) (3:05過ぎ)

	合計	1	2	3	4	5	6	7	8
1 和歌山	77 100.0	15 19.5		1 1.3		17 22.1			44 57.1
2 京都	78 100.0	11 14.1				7 9.0			60 76.9
3 東京	73 100.0	12 16.4		2 2.7		4 5.5			55 65.4
合計	228 100.0	38 16.7		3 1.3		28 12.3			159 69.7

## テスト 6A-2 (3) (6:30分)

	合計	1	2	3	4	5	6	7	8
1 和歌山	77 100.0	21 27.3		1 1.3		9 11.7			46 59.7
2 京都	78 100.0	16 20.5				4 5.1			58 74.4
3 東京	73 100.0	10 13.7				5 6.8			58 79.4
合計	228 100.0	47 20.6		1 .4		18 7.9			162 71.1

## テスト 6A-2 (4) (3:5分前)

	合計	1	2	3	4	5	6	7	8
1 和歌山	77 100.0	10 13.0	2 2.6		1 1.3	15 19.5			49 63.6
2 京都	78 100.0	5 6.4		1 1.3	2 2.6	8 10.3			62 79.5
3 東京	73 100.0	11 15.1		1 1.4	1 1.4	1 1.4			59 80.9
合計	228 100.0	26 11.4	2 .9	2 .9	4 1.8	24 10.5			170 74.6

テスト 6A-2 (5) (6:15分過ぎ)

	合 計	1	2	3	4	5	6	7	8
1 和歌山	77 100.0	9 11.7		3 3.9		16 20.8			49 63.6
2 京都	78 100.0	9 11.5			2 2.6	5 6.4			62 79.5
3 東京	73 100.0	6 8.2			1 1.4	3 4.1			63 86.3
合 計	228 100.0	24 10.5		3 1.3	3 1.3	24 10.5			174 76.3

4-2-34表 判断テストの反応

テスト 6A-3 (1) (6:15分前)

	合 計	1	2	3	4
1 和歌山	77 100.0	50 64.9	22 28.6	5 6.5	
2 京都	78 100.0	38 48.7	31 39.7	8 10.3	1 1.3
3 東京	73 100.0	44 60.3	23 31.5	6 8.2	
合 計	228 100.0	132 57.9	76 33.3	19 8.3	1 .4

テスト 6A-3 (2) (3:05分過ぎ)

	合 計	1	2	3	4
1 和歌山	77 100.0	43 55.8	33 42.9	1 1.3	
2 京都	78 100.0	47 60.3	25 32.1	6 7.7	
3 東京	73 100.0	46 63.0	21 28.8	6 8.2	
合 計	228 100.0	136 59.6	79 34.6	13 5.7	

テスト 6A-3 (3) (6:30分)

	合 計	1	2	3	4
1 和歌山	77 100.0	50 64.9	26 33.8	1 1.3	
2 京都	78 100.0	47 60.3	23 29.5	6 7.7	2 2.6
3 東京	73 100.0	33 45.2	31 42.5	9 12.3	

合 計	228 100.0	130 57.0	80 35.1	16 7.0	2 .9
-----	--------------	-------------	------------	-----------	---------

テスト 6 A-3 (4) (3:05分前)

	合 計	1	2	3	4
1 和歌山	77 100.0	49 63.6	27 35.1		1 1.3
2 京 都	78 100.0	40 51.3	27 34.6	5 6.4	6 7.7
3 東 京	73 100.0	49 67.1	17 23.3	7 9.6	
合 計	228 100.0	138 60.5	71 31.1	12 5.3	7 3.1

テスト 6 A-3 (5) (6:15分過ぎ)

	合 計	1	2	3	4
1 和歌山	77 100.0	42 54.5	33 42.9		2 2.6
2 京 都	78 100.0	40 51.3	27 34.6	5 6.4	6 7.7
3 東 京	73 100.0	44 60.3	22 30.1	7 9.6	
合 計	228 100.0	126 55.3	82 36.0	12 5.3	8 3.5

6 時間判断 (けさ・ゆうべ・こんや) テスト

テスト6 bは時間判断のうち、特に、きのう・きょう・あしたと、朝・昼・夜のいずれかの意味を複合させた〈けさ・ゆうべ・こんや〉の語の理解の程度を確かめようとするのが目的である。そしてテストは、たとえば、「けさって、いつのこと？」とたずねる説明テストと「けさって、きのうのこと？ それから朝のこと？」とたずねる認知テスト、そして、「ゆうべって、過ぎたこと？ 過ぎないこと？」とたずねる判断テストとに分かれている。

まず、説明テスト、認知テスト、判断テストの正反応率を4-2-36表から38表について求めれば4-2-35表のようにまとめられる。

4-2-35 表 けさ・ゆうべ・こんやの正反応率

テスト 語	説 明	認 知	判 断
け さ	9 3.9%	140 48.7%	—
ゆう べ	12 11.8%	166 62.3%	213 93.4%
こん や	38 16.6%	134 47.4%	199 87.3%

これによれば、〈けさ・ゆうべ・こんや〉を正しく説明できるのは3.9~16.6%であるが、それはきのうのことか、そして夜のことかなどたずねられれば約47~62%の幼児は正しく答えられ、〈ゆうべ、こんや〉は過ぎた時間を表す語かどうかはだいたい理解できていることを示す。

そこで、各テスト別に考察すると、説明テストでの正反応率の有意差は、

$$x^2=19.373 \quad df=2 \quad p < 0.01^{**}$$

1%以下の危険率で認められた。そこで各問題間の有意差の有無を調べると、

$$\text{けさ} \times \text{ゆうべ} \quad x^2=9.625 \quad df=1 \quad p < 0.01^{**}$$

$$\text{けさ} \times \text{こんや} \quad x^2=18.890 \quad df=1 \quad p < 0.01^{**}$$

$$\text{ゆうべ} \times \text{こんや} \quad x^2=2.126 \quad df=1 \quad p < 0.20$$

で、〈けさ〉が有意に〈ゆうべ〉〈こんや〉より正答率が低い。そして誤りでは目を抜かした割合が、時間を抜かず割合より〈けさ〉〈ゆうべ〉では高いが、〈こんや〉ではほぼ同じ割合である。

また、地域差は、

$$\text{けさ} \quad x^2=0.290 \quad df=2 \quad p < 0.90$$

$$\text{ゆうべ} \quad x^2=3.253 \quad df=2 \quad p < 0.20$$

$$\text{こんや} \quad x^2=6.696 \quad df=2 \quad p < 0.05^*$$

〈こんや〉について、東京は和歌山、京都と比較して正答率が高い。これについて、京都、和歌山には〈こんや〉の代わりに〈こんばん〉があり、そのために〈こんや〉の正答率を低めていると考えられる。

認知テストでの正反応率の有意差は、

$$x^2=12.390 \quad df=2 \quad p < 0.01^{**}$$

1%以下の危険率で認められた。そこで各問題間の有意差の有無を調べると、

$$\text{けさ} \times \text{ゆうべ} \quad x^2=8.443 \quad df=1 \quad p < 0.01^{**}$$

$$\text{けさ} \times \text{こんや} \quad x^2=0.040 \quad df=1 \quad p < 0.95$$

$$\text{こんや} \times \text{ゆうべ} \quad x^2=10.155 \quad df=1 \quad p < 0.01^{**}$$

で、〈ゆうべ〉が有意に〈けさ〉〈こんや〉より正反応率が高い。

また、地域差は、

$$\text{けさ} \quad x^2=5.560 \quad df=2 \quad p < 0.10$$

$$\text{ゆうべ} \quad x^2=0.212 \quad df=2 \quad p < 0.90$$

$$\text{こんや} \quad x^2=0.481 \quad df=2 \quad p < 0.80$$

で有意差は認められなかった。

判断テストでの正反応率の有意差は、

$$x^2=4.817 \quad df=1 \quad p < 0.05^*$$

5%以下の危険率で認められた。すなわち、〈ゆうべ〉の方が〈こんや〉より正反応率が有意に高いことを示している。

また、地域差は、

$$\text{ゆうべ} \quad x^2=8.785 \quad df=2 \quad p < 0.05^*$$

$$\text{こんや} \quad x^2=0.090 \quad df=2 \quad p < 0.98$$

で、〈ゆうべ〉に地域差が認められた。すなわち、東京が他の2地域に比較して、〈ゆうべ〉に対して、もう過ぎている時間語であると判断することが低いことを示しているが、それは東京の場合、「夕方」の意味の混同かどうか。もしそうならば、説明テストでも正答率は低くなると考えられるが、実際は他の2地域より高い。しかし、認知テストでは正反応率が低く一貫性が見られない。

以上の点からみると、本テストで明らかにされたことは、第1に、〈けさ〉は〈ゆうべ〉〈こんや〉といった夜の時間を表す語より困難であること。このことは、朝・昼・夜の中では夜が朝より理解が容易であることと符合する。第2に、〈ゆうべ〉は〈こんや〉より容易であること。そして、第3に、地域差が生じる場合は、基準反応とは別に体系を持った反応体系が干渉することが示唆された。

4-2-36表 説明テストにおける反応

テスト 6B-1 (1)

け さ	合 計	1	2	3	4	5	6	7	8
		○ ₁	○ ₂	× ₁	× ₂	× ₃	× ₄	N	NT
1 和歌山	77 100.0	3 3.9		24 31.2	17 22.1	10 13.0	3 3.9	20 26.0	
2 京 都	78 100.0	1 1.3		19 24.4	7 9.0	10 12.8	2 2.6	37 47.4	2 2.6
3 東 京	73 100.0	3 4.1	2 2.7	23 31.5	7 9.6	4 5.5	7 9.6	26 35.6	1 1.4
合 計	228 100.0	7 3.1	2 .9	66 28.9	31 13.6	24 10.5	12 5.3	83 36.4	3 1.3

ゆ う べ									
1 和歌山	77 100.0	2 2.6	8 9.1	33 42.9	15 19.5	6 7.8	1 1.3	13 16.9	
2 京 都	78 100.0		5 6.4	31 39.7	13 16.7	8 10.3	3 3.8	16 20.5	2 2.6
3 東 京	73 100.0	10 13.7	3 4.1	26 35.6	6 8.2	2 2.7	4 5.5	20 27.4	2 2.7
合 計	228 100.0	12 5.3	15 6.6	90 39.5	34 14.9	16 7.0	8 3.5	49 21.5	4 1.8

こ ん や									
1 和歌山	77 100.0		10 13.0	10 13.0	15 19.5	11 14.3	4 5.2	27 35.1	
2 京 都	78 100.0	2 2.6	7 9.0	15 19.2	15 19.2	12 15.4	2 2.6	23 29.5	2 2.6
3 東 京	73 100.0	17 23.3	2 2.7	12 16.4	9 12.3	4 5.5	1 1.4	27 37.0	1 1.4
合 計	228 100.0	19 8.3	19 8.3	37 16.2	39 17.1	27 11.8	7 3.1	77 33.8	3 1.3

4-2-37表 認知テストにおける反応

テスト 6B-2 (1)

け さ	合 計	1	2	3	4	5	6
		○	× ₁	× ₂	× ₃	N	NT
1 和 歌 山	77 100.0	44 57.1	4 5.2	12 15.6	17 22.1		
2 京 都	78 100.0	30 38.5	16 20.5	11 14.1	17 21.8	3 3.8	1 1.3
3 東 京	73 100.0	37 50.7	9 12.3	10 13.7	10 13.7	6 8.2	1 1.4
合 計	228 100.0	111 48.7	29 12.7	33 14.5	44 19.3	9 3.9	2 .9

ゆ う べ							
1 和 歌 山	77 100.0	49 63.6	8 10.4	8 10.4	10 13.0	2 2.6	
2 京 都	78 100.0	49 62.8	12 15.4	9 11.5	7 9.0	1 1.3	
3 東 京	73 100.0	44 60.3	4 5.5	7 9.6	11 15.1	7 9.6	
合 計	228 100.0	142 62.3	24 10.5	24 10.5	28 12.3	10 4.4	

こ ん や							
1 和 歌 山	77 100.0	34 44.2	8 10.4	14 18.2	19 24.7	1 1.3	1 1.3
2 京 都	78 100.0	38 48.7	13 16.7	9 11.5	13 16.7	5 6.4	
3 東 京	73 100.0	36 49.3	5 6.8	11 15.1	16 21.9	5 6.8	
合 計	228 100.0	108 47.4	26 11.4	34 14.9	48 21.1	11 4.8	1 .4

4-2-38表 判断テストにおける反応

テスト 6B-3 (2)

	合 計	1	2	3	4
1 和 歌 山	77 100.0	74 96.1	2 2.6	1 1.3	

2 京 都	78 100.0	76 97.4		1 1.3	1 1.3
3 東 京	73 100.0	63 86.3	6 8.2	4 5.5	
合 計	228 100.0	213 93.4	8 3.5	6 2.6	1 .4

テスト 6B-3 (3)

	合 計	1	2	3	4
1 和 歌 山	77 100.0	68 88.3	7 9.1	1 1.3	1 1.3
2 京 都	78 100.0	68 87.2	4 5.1	6 7.7	
3 東 京	73 100.0	63 86.3	7 9.6	3 4.1	
合 計	228 100.0	199 87.3	18 7.9	10 4.4	1 .4

7 時間判断 (過去・未来) テスト

テスト6cは、時間判断のうち、特に日の経過および年の経過を示す、あした・おととい・あさって・きのう、また、らいねん・おとし・きょねん・さらいねんの語について、いずれが「過ぎたこと」を表す語か、いずれが「過ぎない(これから)こと」を表す語かの理解の程度を確かめようとするのが目的である。そしてテストは、たとえば「きょうからみて、あしたは過ぎた日のこと?」、「ことしからみて、らいねんは過ぎた年のこと?」とたずねて回答を求めることにした。

まず、正反応率を4-2-42表から43表について求めれば、4-2-39表のようにまとめられる。

4-2-39 表 日・年の過去・未来判断の正反応率

	N	%		N	%
あした	169	74.1	らいねん	164	71.9
おととい	155	68.0	おとし	105	46.1
きのう	194	85.1	きょねん	156	68.4
あさって	152	66.7	さらいねん	134	58.8

4-2-39表によれば、日および年について、それが過去を表すか、未来を表すかの判断は、日で66~85%、年で46~71%となり、日および年の各経過単位についてみると、日の経過を表す語(たとえば、あした/らいねん、おととい/おとし)の方が年の経過を表す語より正反応率が高い。

次に、日の経過を表す語に限って考察すると、各語の正反応率の有意差は、

$$\chi^2=24.678 \quad df=3 \quad p < 0.01^{**}$$

1%以下の危険率で認められた。そこで各語間の有意差の有無を調べると、4-2-40表のように、〈きのう〉は他のどれとも有意に正反応率が高く、他の3語間には有意差は認められなかった。

4-2-40 表 日を表す語反応の有意差検定( $\chi^2$ )

日	あした	きのう	あさって	おととい
あした	—	3.425 ^{**}	3.017	2.041
きのう	8.425 ^{**}	—	21.130 ^{**}	18.570 ^{**}
あさって	3.017	21.130 ^{**}	—	0.045
おととい	2.041	18.570 ^{**}	0.045	—

また、地域差は、

$$\text{あした} \quad \chi^2=3.386 \quad df=2 \quad p < 0.20$$

$$\text{おととい} \quad \chi^2=2.708 \quad df=2 \quad p < 0.30$$

$$\text{あさって} \quad \chi^2=0.090 \quad df=2 \quad p < 0.98$$

$$\text{きのう} \quad \chi^2=0.157 \quad df=2 \quad p < 0.950$$

となり、いずれにも認められなかった。

次に、年の経過を表す語について考察すると、各語の正反応率の有意差は、

$$\chi^2=38.563 \quad pf=3 \quad p < 0.01^{**}$$

1%以下の危険率で認められた。そこで各語間の有意差の有無を調べると、4-2-41表のように、〈おとし〉は他のどれとも有意に正反応率が低く、かつ、過去を表す語相互(きょねん/おとし)、未来を表す語相互(らいねん/さらいねん)に有意差が認められている。

4-2-41 表 年を表す語反応の有意差検定( $\chi^2$ )

年	らいねん	さらいねん	きょねん	おとし
らいねん	—	8.687 ^{**}	0.620	31.511 ^{**}
さらいねん	8.687 ^{**}	—	4.568 [*]	7.360 ^{**}
きょねん	0.620	4.568 [*]	—	23.256 ^{**}
おとし	31.511 ^{**}	7.360 ^{**}	23.256 ^{**}	—

また、地域差は、

$$\text{らいねん} \quad \chi^2=3.109 \quad df=2 \quad p < 0.30$$

$$\text{おとし} \quad \chi^2=0.040 \quad df=2 \quad p < 0.98$$

$$\text{きょねん} \quad \chi^2=0.462 \quad df=2 \quad p < 0.80$$

$$\text{さらいねん} \quad \chi^2=1.112 \quad df=2 \quad p < 0.70$$

となり、いずれにも認められなかった。

以上のことから、日および年の経過を表す語の過去・未来の判断を求めたテストでは、日の経過では「きのう」が有意に高く、年の経過では「おとし」が有意に低かった。そして第2の点は日の経過では過去・未来に関する反応率の差は認められないが、年の経過では、〈ことし〉を基点にして、未来を表す語が同じ経過でも過去を表す語より高いことが示されている（ただし、らいねん／きょねんには有意差なし）。また、同じ未来どうし、過去どうしに有意差が現れていて、このことは日の経過を表す語にも差が現れ、時間の経過と共に、理解の低下が生じることを示している。

4-2-42表 日および年の時間判断テストの反応

(1) あした

	合 計	1	2	3	4
		○	×	N	NT
1 和 歌 山	77 100.0	52 67.5	22 28.6	3 3.9	
2 京 都	78 100.0	58 74.4	16 20.5	4 5.1	
3 東 京	73 100.0	59 80.8	11 15.1	3 4.1	
合 計	228 100.0	169 74.1	49 21.5	10 4.4	

(2) おととい

	合 計	1	2	3	4
		○	×	N	NT
1 和 歌 山	77 100.0	47 61.0	21 27.3	9 11.7	
2 京 都	78 100.0	57 73.1	12 15.4	9 11.5	
3 東 京	73 100.0	51 69.9	14 19.2	8 11.0	
合 計	228 100.0	155 68.0	47 20.6	26 11.4	

## (3) あさって

	合 計	1	2	3	4
		○	×	N	NT
1 和歌山	77 100.0	51 66.2	20 26.0	6 7.8	
2 京 都	78 100.0	51 65.4	17 21.8	10 12.8	
3 東 京	73 100.0	50 68.5	15 20.5	8 11.0	
合 計	228 100.0	152 66.7	52 22.8	24 10.5	

## (4) きノウ

	合 計	1	2	3	4
		○	×	N	NT
1 和歌山	77 100.0	66 85.7	11 14.3		
2 京 都	78 100.0	67 85.9	10 12.8	1 1.3	
3 東 京	73 100.0	61 83.6	9 12.3	3 4.1	
合 計	228 100.0	194 85.1	30 13.2	4 1.8	

## (1) らいねん

	合 計	1	2	3	4
		○	×	N	NT

1 和歌山	77 100.0	52 67.5	22 28.6	3 3.9
2 京都	78 100.0	54 69.2	16 20.5	8 10.3
3 東京	73 100.0	58 79.5	13 17.8	2 2.7
合計	228 100.0	164 71.9	51 22.4	13 5.7

(2) おとし

	合計	1	2	3	4
		○	×	N	NT
1 和歌山	77 100.0	36 46.8	25 32.5	16 20.8	
2 京都	78 100.0	35 44.9	23 29.5	20 25.6	
3 東京	73 100.0	34 46.6	19 26.0	20 27.4	
合計	228 100.0	105 46.1	67 29.4	56 24.6	

(3) きよねん

	合計	1	2	3	4
		○	×	N	NT
1 和歌山	77 100.0	55 71.4	19 24.7	2 2.6	1 1.3
2 京都	78 100.0	52 66.7	17 21.8	9 11.5	

3 東 京	73 100.0	49 67.1	17 23.3	7 9.6	
合 計	228 100.0	156 68.4	53 23.2	18 7.9	1 .4

(4) さらいねん

	合 計	1	2	3	4
		○	×	N	NT
1 和 歌 山	77 100.0	47 61.0	21 27.3	9 11.7	
2 京 都	78 100.0	42 53.8	22 28.2	14 17.9	
3 東 京	73 100.0	45 61.6	18 24.7	10 13.7	
合 計	228 100.0	134 58.8	61 26.8	33 14.5	

8 時間判断 (遠・近) テスト

テスト6cでは、時間の経過を示す日および年に関することばについて、それらは過去あるいは未来(過ぎた・過ぎない)を表すかをたずねたが、本項では、さらに過去あるいは未来を表すことば内では、どちらが時間的に遠いか、近いかの時間判断をさせ、事物・事物の系の理解の程度を明らかにしようとするのが目的である。そしてテストは、たとえば、「きょうからみて、あしたとあさってではどちらが遠い?」、「ことしからみて、さ来年と来年とではどちらが遠い?」とたずねて回答を求めることにした。

まず、正反応率を4-2-44表から求めれば、4-2-43表のようにまとめられる。

4-2-43 表 日・年の遠近判断の正答率

日	N %		年	N %	
	N	%		N	%
あした/あさって	180	78.9	さらいねん/らいねん	142	62.3
きのう/おととい	149	65.4	きょねん/おとし	100	43.9

4-2-43表によれば、日と年では、きょうおよびことしからの経過単位ごとと比較すると、いずれも日の経過を表す語の方が年の経過を表す語よりも正答率が高く、また、未来を表す語の方が過去を表す語よりも正答率が高い。そこで各組み合わせごとに有意差の有無を調べると、以下のよう

あした・あさって／きのう・おととい	$x^2=10.437$	df=1	p < 0.01**
さらいねん・らいねん／きょねん・おとし	$x^2=15.478$	df=1	p < 0.01**
あした・あさって／さらいねん・らいねん	$x^2=15.199$	df=1	p < 0.01**
きのう・おととい／きょねん・おとし	$x^2=21.197$	df=1	p < 0.01**

また、地域差は、以下のようになにも認められなかった。

あした・あさって	$x^2=0.841$	df=2	p < 0.70
おととい・きのう	$x^2=3.572$	df=2	p < 0.20
さらいねん・らいねん	$x^2=0.042$	df=2	p < 0.98
きょねん・おとし	$x^2=2.395$	df=2	p < 0.50

以上のように、遠近関係の時間判断では、未来を表す語が日・年ともに正答率が高く、かつ日は年よりも正反応率が高いことが示された。

4-2-44表 日および年の遠近判断テストの反応

あした・あさって

	合 計	1	2	3	4
		○	×	N	NT
1 和 歌 山	77 100.0	58 75.3	9 11.7	10 13.0	
2 京 都	78 100.0	63 80.8	12 15.4	3 3.8	
3 東 京	73 100.0	59 80.8	6 8.2	8 11.0	
合 計	228 100.0	180 78.9	27 11.8	21 9.2	

おととい・きのう

	合 計	1	2	3	4
		○	×	N	NT

1 和歌山	77 100.0	48 62.3	11 14.3	18 23.4
2 京都	78 100.0	47 60.3	17 21.8	14 17.9
3 東京	73 100.0	54 74.0	7 9.6	12 16.4
合計	228 100.0	149 65.4	35 15.4	44 19.3

さらいねん・らいねん

	合計	1	2	3	4
		○	×	N	NT
1 和歌山	77 100.0	47 61.0	17 22.1	12 15.6	1 1.3
2 京都	78 100.0	49 62.8	18 23.1	11 14.1	
3 東京	73 100.0	46 63.0	10 13.7	17 23.3	
合計	228 100.0	142 62.3	45 19.7	40 17.5	1 .4

きよねん・おとし

	合計	1	2	3	4
		○	×	N	NT
1 和歌山	77 100.0	39 50.6	23 29.9	15 19.5	
2 京都	78 100.0	33 42.3	26 33.3	19 24.4	
3 東京	73 100.0	28 38.4	29 39.7	16 21.9	
合計	228 100.0	100 43.9	78 34.2	50 21.9	

## 9 結果に対する考案

時間・空間語テストでは、時間・空間を表す語(時間7対26語, 空間10対20語)について、単語・単語の水準のテストとして対語テスト, 単語・事物の水準のテストとして、発語, 誘導発語, 語認知の各テスト, 事物・事物の水準のテストとして位置変換, 時間判断テストを実施し, 各水準での理解および系の成立程度を明らかにしてきた。

そこで本項では、それらの諸結果に対して、各水準のテスト間の結果の異同に視点を合わせて考察しようとする。

第1に、われわれは就学前児童はどのような時間・空間語をどの水準で、どの程度の理解および系の成立を得ているかを明らかにしようとしたので、これを各テストごとに、各対語の有意差にしたがって示せば、次のようになる。

(時間・空間語)	(対語内)
<p style="text-align: center;">前後ろ</p> <p>対語 右 左&gt;中 外&gt;朝 晩&gt; 上 下</p> <p style="text-align: right; margin-right: 20px;">後 先 昼 夜 縦 横 &gt; 前 後</p>	<p>_____</p> <p>_____ 外&gt;中 朝&gt;晩 先&gt;後 夜&gt;昼</p> <p>_____ 横&gt;縦 前&gt;後</p>
<p>発語 上 下</p> <p>(空間) 前後ろ &gt;中 外&gt;右 左</p>	<p>_____</p> <p>_____ 中&gt;外 _____</p>

—印は対語内に有意差の認められないもの

(1) 対語間の理解について考えれば、まず、1対1の対義関係にある対語だけに限るならば、空間語が時間語より系の成立が高く、したがって、理解が容易であることが示された。すなわち、〈前・後ろ〉, 〈右・左〉, 〈上・下〉〈中・外〉の各対語は有意に〈朝・晩〉, 〈昼・夜〉より理解が容易である。しかし、一部に〈朝・晩〉は〈縦・横〉より容易であるし、〈前・後〉, 〈後・先〉は空間的な位置や時間的な位置をも表す語であるから、区別できない点もあるが、大まかには、空間語>時間語という傾向は指摘できると考えられる。

なお、対語テストと同じ語について、発語, 誘導発語, 語認知の各テスト水準で検討することが可能であるが、空間的な〈後・先〉, 〈前・後〉は〈前・後ろ〉で代表させることができるにせよ、〈朝・晩〉, 〈縦・横〉はそれぞれ、〈朝・昼・晩〉, 〈縦・横・斜め〉という系列語関係で実施したので厳密な比較は不可能になっている。

(2) 次に、時間語より相対的に理解が容易であった4対の対義関係にある空間語について、理解の容易さを比較すれば、対語テストでは、

前・後ろ, 右・左, 上・下>中・外

となり、発語テストでは〈右・左〉の空間語だけが、4対語の間では理解度が最も低くなっている。これらについて、さらに他のテスト水準での結果をみると、

	対語	発語	誘発	認知
上	81.6	59.6	92.5	98.7
	86.8	60.1	91.2	93.9
前	82.0	51.8	89.9	98.2
	87.7	53.5	87.3	92.5
中	45.6	69.7	88.6	92.1
	65.7	46.9	76.8	97.4
右	82.5	25.0	85.1	92.1
	85.1	24.6	82.9	89.9

となる。これによって2つの点が指摘できる。すなわち、第1は空間語は対語テストより発語テストの結果のほうが基準反応率が低いこと、第2は、〈右・左〉が最も発語テストで急激な低下を示す。

本来、本調査が実施した各水準テストは単語・単語の水準から、単語・事物の水準へと移行するにつれて、基準反応率が向上すると考えられたが、空間語の場合は対語テストと発語テスト間に大きな段差が生じているのが特徴であり、空間的な概念は主体がどこにあるかによって位置関係を表す語が変わってくることを示す。したがって単語・単語の水準で系を成立させることができても、単語・事物の水準で正確に表現することは、事物・事物系の認知が可能なきにだけ限られることになり、その点で〈左・右〉のことは理解できても、左右概念が発達しなければ発語テストの水準で基準反応率を低めることになるのである。

(3) 次に、時間的な位置や経過を表す語について特に複数の対語すなわち、系列（シリーズ）や循環（サークル）の関係を持つ対語について基準反応率の有意差をみると、

(対語)	曜日	日(未来)	一日	年(未来)
	>	季節	>	日(過去)
			>	年(過去)
(発語)	曜日	一日	季節	>
				日
				>
	33.8	33.3	26.8	7.5
				1.8
(誘発)	46.1	45.6	38.6	28.5
				3.1
(認知)	71.5	82.0	71.5	68.9
				31.6

数字は基準語反応のパーセント

となる。この結果によれば、次の3点を指摘することができる。第1は、発語、誘発、認知の単語・事物の水準では、サークル関係を示す時間語の方が、シリーズ関係を示す時間語より理解率が高い。もっとも、対語テストでは1日の経過を表す〈朝・昼・晩〉は未来に向けた日の経過を示す語より低くなっているが、別に〈朝・昼・夜〉という語をあてる地域の〈朝・昼・夜〉反応は除かれているから、これも含めれば、系の成立は8.7～22.3%となり、1日の系の成立17.4%を凌ぐことになる。参考までに、発語、誘発テストでの〈朝・昼・夜〉反応を加えれば、1日の経過を示す時

〈朝・昼・晩〉					〈朝・昼・晩〉+〈朝・昼・夜〉			
対語	曜日	日	季節	一日	曜日	一日	日	季節
	28.1	17.1	13.6	8.7	28.1	22.3	17.1	13.6
発語	33.8	33.3	26.8	7.5	33.8	67.9	33.3	26.8
誘発	46.1	45.6	38.6	28.5	46.1	70.6	45.6	38.6

問語は、33.3~67.9%（発語）、28.5~70.6%（誘発）に達することになる。

このことから、1日の経過を示す〈朝・昼・晩〉は〈朝・昼・夜〉を加えれば、サークル関係の時間語はシリーズ関係を表す時間語より理解が容易で、かつ、サークル関係の時間語では、1日〉曜日〉季節という短い時間経過から長い時間経過を示すにつれて理解率が低くなること。同様に、シリーズ関係の時間語もまた短い時間経過を表す〈日〉は長い時間経過を表す〈年〉より理解率が高いことが明確に示された。そしてさらに、日の経過では未来を表す時間語は過去を表す時間語より理解率が高いこともまた示された。

(4) 次に時間・空間語について各対語内の理解率の高低を考えるならば、第1に、各対語内に有意差が認められた対語は系反応率の高い語には現れないということが指摘され、また発語テストの結果によれば、系反応率22.4%の〈右・左〉にも差が出ない。しかし対語テストでは、系反応率のそれ以下である〈縦・横〉〈先・後〉〈夜・昼、前・後〉には有意差が出ているし、〈前・後ろ〉〈上・下〉にしても頭うちといわれるほどの高率ではないから、すでに性状語の項で指摘したように、習得のきわめて初期のときから、特定の時間・空間語に限っては有意差があると考えられる。そして、〈中・外〉のような語は以下に示す誘発および認知テストにおいても有意差が認められる。

	中	外	
対語	45.6	< 65.7	p < 0.01**
発語	69.7	> 46.9	p < 0.01**
誘発	88.6	> 76.8	p < 0.01**
認知	92.1	< 97.4	p < 0.05*

しかしながら、上にあげたように、〈中・外〉のいずれかがより優位にあるかはきめがたい。ただ、発語、誘発テストでは、絵図(事物)に誘引されて、〈外〉というべきところを左右の位置関係で答えるなどの反応を生じやすく、対語テストでは〈そと・うち〉という対語関係をつくる幼児には〈そと・なか〉反応を低めるという点では共通性がある。

ところで、性状語テストで明らかにされた量的多さを示す極性の語のほうが理解が容易であるという説明はここでは導入できない。しかし複合語を構成する前部分と後部分、たとえば、〈前+後〉、〈上+下〉のいずれかが優位であると仮定するならば、

空間語 外>中または中>外, 横>縦

時間語 朝>晩, 先>後, 夜>昼, 前>後

となり, 時間語の方に関して, 複合語の前部分の優位を示唆する結果が出ている。すなわち, 朝晩, 夜昼, 前後は性状語の大小, 高低の複合語構成のそれに対応していると考えられることもできなくはない。そしてその複合語を形成する複合概念には, 事物・事物の水準において何らかの優位に立つべき概念が複合語の形成において前部に来るという仮定であるが, それにしても先>後の結果は後先の複合語構成と矛盾するし, 夜昼は昼夜ともいうし, 複合語成立に関する十分な資料が得られないのでこれ以上討論することはさしひかえ, 今後の課題とする。

(5) さて, われわれはテスト5およびテスト6で事物・事物の水準に直接あるいは間接的に関与すると考えられた問題をとりあげた。そして, テスト5の〈前・後ろ〉に関する位置変換では, 同一方向性の事物・事物関係の方が異方向性の事物・事物関係より理解が容易であることが確かめられた。また, 時計を材料にした時間の〈前・過ぎ〉判断では, 〈前・過ぎ〉の語理解が時刻の右回りの認知態勢によって規定されていることを認めた。

さらに, きょうおよびことしを中心にして, 未来への経過を表す日および年, 過去への経過を表す日および年についての, 「過ぎたか, 過ぎないか」の過去・未来および遠近判断を調べた結果では,

日>年

あした・おととい      らいねん      さらいねん  
きのう>                      ぎょねん      おとし

あした・あさって>      きのう・おととい      さらいねん・らいねん>      きょねん・おとし

となり, 日の経過を表す語は年の経過を表す語より理解が容易であり, 未来への経過を表す語は過去への経過を表す語より理解容易であるという事物・事物の水準の系の成立が明らかにされた。

### 第3節 動詞テスト

#### 1 対語テスト

対語テストは、主として対義関係^{*}にある各対の動詞は何かをたずね、被験者に単語・単語の水準での理解および系の成立程度を明らかにすることが目的である。

動詞は語彙力調査に必要な語数として17ページにみるように、450語を数えたが、本テスト方式に可能なテスト語数として最終的には220語になった。これについて、全語を同一被験者に課することは量的に不可能であったので、A、B、C、Dテストに4分割した。本項ではこれらのすべてにわたって分析することは試みず、テストAを動詞テストの代表として扱うことにした。なお、全テストの基準および系反応率は313ページ参照のこと。

対語テストAの刺激語は動作、行為および現象を表し、かつ対義的な意味をもつ動詞を中心に9対18語が用意されている。そして、(1~9)には、〈消える〉〈下げる〉などの基準語反応を期待する〈つく〉〈上げる〉などが刺激語として登録され、また(1'~9')にはそれらとは逆に、〈つく〉〈上げる〉などの基準語反応を期待する〈消える〉〈下げる〉などが刺激語として登録された。そして、「つくの反対は何ですか?」〈上げるの反対は何ですか?〉という問いかけで反応が求められた。その後、被験者の全反応は14判定基準およびテストもれ(NT)の項目を加えて15項目(103ページ参照^{**})に分類された。

4-3-1表は、(1~9)(1'~9')の反応語のうち、○₁(基準語反応)および○₂(基準語を幼児音で

* 動詞の対義関係は性状語、時間・空間語ほど明確でなく、複数の対義関係をもつことが多い。本項では、上げる(一下げる・下ろす)に対して、関連させて、上げる(一もらう)などもとりあげた。

** 性状語、時間・空間語の判定基準のほかに加えられた項目は、(8)絵図からの規定、(3)自動詞・他動詞の混同である。

4-3-1表 動詞A 対語テストの反応語の基準反応率

語	N	%	語	N	%
1 つく	29	15.8	1' 消える	8	4.3
2 上げる	56	30.4	2' 下げる	25	13.6
3 上げる	40	21.7	3' 下ろす	13	7.1
4 上げる	19	10.3	4' もらう	3	1.6
5 降りる	30	16.3	5' 乗る	15	8.2
6 降りる	27	14.7	6' 上がる	43	23.4
7 脱ぐ	24	13.0	7' はく	19	10.3
8 脱ぐ	34	18.5	8' 着る	49	26.6
9 脱ぐ	20	10.9	9' かぶる	1	0.5

4-3-2表 対語テスト各対の  $\chi^2$  による有意差検定

対	語	$\chi^2$	df	P
1.	つく > 消える	13.149	1	0.01**
2.	上げる > 下げる	15.190	1	0.01**
3.	上げる > 下ろす	15.976	1	0.01**
4.	上げる > もらう	12.275	1	0.01**
5.	乗る < 降りる	5.679	1	0.05*
6.	上がる > 降りる	4.478	1	0.05*
7.	はく < 脱ぐ	0.678	1	0.50
8.	着る < 脱ぐ	3.432	1	0.10
9.	かぶる < 脱ぐ	18.208	1	0.01**

反応) だけについて、それらの反応率を示したものである。基準反応率でみると、全体的には必ずしも高い割合を占めていないが、比較的基準反応率が高いのは、

上げる (下げる)*、着る (脱ぐ)  
 上がる (降りる)

* ( ) 中は刺激語であり、以下同様にして示す。

それに対して、基準反応率が低いのは、

もらう (上げる)、かぶる (脱ぐ)

である。

そこで、各対語内の基準反応率の有意差の検定を試みたのが4-3-2表である。これによれば、動作、行為、現象を表す動詞の9対18語の中で、有意な差が認められた対語は、次の通りである。

つく > 消える、上げる > 下げる、上げる > 下ろす、上げる > もらう、乗る < 降りる、上がる > 降りる、かぶる < 脱ぐ

また、傾向的には、着る < 脱ぐの結果が認められた。

そこで、これらの対語の基準反応率の不釣合について、どのように考えることができるか。第1は、動作、行為、現象における時間的、因果的継起にしたがって、時間的に先立ち、かつ、後の動作、行為、現象の因となることを表す語に基準反応率が高い事例がある。たとえば、

つく > 消える、上げる > 下げる、上げる > 下ろす、上げる > もらう、上がる > 降りる

である。しかし、

乗る < 降りる、かぶる < 脱ぐ

はその基準とは矛盾する。

動作、行為、現象における時間的、因果的継起の順に、それを表す語が学習される基礎には、動作、行為、現象の系というべきものがあり、それが言語系の中の「事物・事物の系」で認知され、

さらに「単語・事物の系」を通じて、「単語・単語の系」の上で、対語の反応率の不釣合現象として示されるという解釈ができる。とりわけ、「単語・単語の系」では、動作、行為、現象の系を複合語として構成されることばがある。

つく・消える=点減

上げる・下げる=上下, 上げ下げ

上げる・下ろす=上下, 上げ下ろし

上げる・もらう=やりもらい

上がる・降りる=上がり降り

したがって、これらの複合語のある動作、行為、現象語は「単語・単語の系」ではそれらの習得を強化することになると考えられるが、これらの複合語は「事物・事物の系」における動作、行為、現象を表す概念としての役割を果たし、クラークのいう無標語としての役割に通ずるものがある。

第2は、対語の片方が多義的な意味をもつ場合には、片方の語は特殊な場合にだけの適用部分を持たぬため、基準反応率の差に開きが生じ、したがって対語内に有意差を示すことになる。

かぶる<脱ぐ

がその例である。<脱ぐ>の最も一般的な対語は、脱ぐ・着るであろう。乗る<降りるも、この例に該当するとみれば、<降りる—上がる>がより一般的な対義関係語であり、したがって、<乗る・降りる>は車などの乗降という特殊な限られた場面での使用ともみることができるが、上述の不釣合現象に関する考察は、なお項をあらためて検討する。

第3は、刺激語の提出順の問題がある。すなわち、対語の片方ずつから反対語をたずねていく形式であるから、後の順序に位置する刺激語に対する反応は容易であるし、すでに先のテストで刺激

4-3-3表 動詞A 対語テストにおける地域差

	語	$\chi^2$	df	P		語	$\chi^2$	df	P
1	つ く	9.605	4	0.05*	1'	消 え る	5.048	4	0.30
2	上 げ る	8.165	4	0.10	2'	下 げ る	8.510	4	0.10
3	上 げ る	1.584	4	0.90	3'	下 ろ す	6.088	4	0.20
4	上 げ る	10.977	4	0.05*	4'	も ら う	0	4	—
5	降 り る	6.368	4	0.20	5'	乗 る	3.965	4	0.50
6	降 り る	12.049	4	0.01**	6'	上 が る	6.221	4	0.20
7	脱 ぐ	9.956	4	0.05*	7'	は く	3.992	4	0.50
8	脱 ぐ	3.447	4	0.50	8'	着 る	9.591	4	0.20
9	脱 ぐ	4.850	4	0.50	9'	か ぶ る	0	4	—

語として提示されているからである。この順序効果にしたがえば、乗る<降りる、かぶる<脱ぐはもちろんのこと、降りる<上がるの1例を除けば、他はすべて順序に対応していることになる。しかし、これに関しては、別に順序効果テストをして、順序を逆にした場合との比較では、特定のものを除けば、両順序間に有意差は認められていない(307~309ページ参照)が、なお、項をあらためて検討することにする。

#### (1) 対語テストと地域差

性状語テスト、時間・空間語テストで、地域差を問題にしたので、動詞Aテストにおいても地域差を問題にする。4-3-3表は、対語テストにおける諸反応を地域ごとに整理したものであり、地域は、岩手、仙台、東京、京都、和歌山の5地域になっていて、性状語テストおよび時間・空間語テストが対象にした全地域を含んでいる。

4-3-3表は、対語テストにおける基準反応率の高低に関する地域差を $\chi^2$ 検定によって調べた結果である。そこで、4-3-4表によれば、地域差の認められた各地域での基準反応率は、

	岩手	仙台	東京	京都	和歌山
1 つく	9.1%	7.7%	22.9%	25.0%	13.5%
4 上げる	0	17.9	14.3	12.5	5.4
6 降りる	9.1	5.1	31.4	17.5	10.8
7 脱ぐ	15.2	2.6	28.6	12.5	8.1

であり、傾向的に差の現れたのは、

2 上げる 2' 下げる

である。

4-3-4表によれば、1 <つく>は、岩手、仙台が低く、それらの地域では無反応(岩手 51.5%、仙台 30.8%)と、「~ナイ」反応(岩手 27.3%、仙台 43.6%)が多い。4 <上げる>は岩手、和歌山が低く、岩手では「~ナイ」反応(45.5%)、和歌山では無反応(45.9%)が多い。6 <降りる>は東京、京都が比較的高く、他の地域は低い。そして、「~ナイ」反応、無反応のほか、「さがる」といった基準語と同義反応(平均17.4%)が目立っている。7 <脱ぐ>は仙台、和歌山が低く、「~ナイ」反応(仙台 61.5%、和歌山48.6%)が多い。

4-3-4 表 動詞A 対語テストの反応  
1. つく(消える)*

地域	反応															
	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1 岩手	33 100.0	3 9.1	1 3.0				9 27.3		1 3.0	1 3.0		1 3.0			17 51.5	
2 仙台	39 100.0	3 7.7					17 43.6		1 2.6	3 7.7		2 5.1			12 30.8	1 2.6
3 東京	35 100.0	8 22.9	2 5.7	1 2.9			9 25.7			1 2.9		2 5.7	1 2.9	1 2.9	10 28.6	
4 京都	40 100.0	10 25.0	2 5.0				7 17.5	10 25.0		2 5.0					9 22.5	
5 和歌山	37 100.0	5 13.5	1 2.7				5 13.5	8 21.6				2 5.4	1 2.7		15 40.5	
合計	184 100.0	29 15.8	6 3.3	1 .5			47 25.5	18 9.8	2 1.1	7 3.8		7 3.8	2 1.1	1 .5	63 34.2	1 .5

2 上げる(下げる)

地域	反応															
	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1 岩手	33 100.0	10 30.3					8 24.2					2 6.1			13 39.4	
2 仙台	39 100.0	18 46.2					7 17.9					1 2.6			12 30.8	1 2.6
3 東京	35 100.0	11 31.4					6 17.1			5 14.3			1 2.9		12 34.3	

4 京 都	40 100.0	11 27.5						8 20.0	6 15.0	1 2.5		1 2.5	1 2.5	12 30.0
5 和 歌 山	37 100.0	6 16.2					2 5.4	4 10.8	4 10.8	1 2.7	1 2.7	1 2.7	2 5.4	17 45.9
合 計	184 100.0	56 30.4					31 16.8	10 5.4	10 5.4	5 2.7	2 1.1	3 1.6	66 35.9	1 .5

3, 上げる(下ろす)

地域	合 計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1 岩 手	33 100.0	7 21.2		1 3.0			5 15.2			1 3.0		2 6.1			16 48.5	1 3.0
2 仙 台	39 100.0	8 20.5					12 30.8			3 7.7					14 35.9	2 5.1
3 東 京	35 100.0	10 28.6					4 11.4			5 14.3		1 2.9			13 37.1	1 2.9
4 京 都	40 100.0	9 22.5					6 15.0	7 17.5		1 2.5			1 2.9		16 40.0	1 2.5
5 和 歌 山	37 100.0	6 16.2		1 2.7			2 5.4	4 10.8		1 2.7		2 5.4		1 2.7	20 54.1	
合 計	184 100.0	40 21.7		2 1.1			29 15.8	11 6.0		11 6.0		5 2.7	1 .5	1 .5	79 42.9	5 2.7

4, 上げる(もろう)

地域	反応	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1 岩手	合計 33 100.0			1 3.0		15 45.5				1 3.0		5 15.2			11 33.3	
2 仙台	39 100.0	7 17.9	2 5.1			17 43.6									11 28.2	2 5.1
3 東京	35 100.0	5 14.3				15 42.9				1 2.9		2 5.7	1 2.9		8 22.9	3 8.6
4 京都	40 100.0	5 12.5				10 25.0	13 32.5			1 2.5		1 2.5			10 25.0	
5 和歌山	37 100.0	2 5.4				2 5.4	9 24.3					6 16.2	1 2.7		17 45.9	
合計	184 100.0	19 10.3	2 1.1	1 .5		59 32.1	22 12.0			3 1.6		14 7.6	2 1.1		57 31.0	5 2.7

5, 降りる(乗る)

地域	反応	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1 岩手	合計 33 100.0	7 21.2					14 42.4	1 3.0		2 6.1					8 24.2	1 3.0
2 仙台	39 100.0	2 5.1		1 2.6			21 53.8	1 2.6							12 30.8	2 5.1
3 東京	35 100.0	9 25.7					17 48.6			2 5.7			1 2.9		6 17.1	

4 京 都	40 100.0	6 15.0																		9 22.5	
5 和 歌 山	37 100.0	6 16.2													1 2.7					13 35.1	
合 計	184 100.0	30 16.3	1 .5												5 2.7					48 26.1	3 1.6

6. 降りる(上がる)

<del>地域</del>	反 応																			
	合 計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15				
1 岩 手	33 100.0	3 9.1		8 24.2	1 3.0		4 12.1	3 9.1		1 3.0		2 6.1		1 3.0	10 30.3					
2 仙 台	39 100.0	2 5.1		6 15.4			9 23.1	8 20.5		1 2.6				2 5.1	9 23.1	2 5.1				
3 東 京	35 100.0	11 31.4		7 20.0			5 14.3	2 5.7		1 2.9			1 2.9	2 5.7	5 14.3	1 2.9				
4 京 都	40 100.0	7 17.5		6 15.0			9 22.5	9 22.5						1 2.5	7 17.5					
5 和 歌 山	37 100.0	4 10.8		5 13.5			4 10.8	6 16.2		2 5.4			1 2.7	1 2.7	12 32.4					
合 計	184 100.0	27 14.7		32 17.4	1 .5		31 16.8	28 15.2		5 2.7			5 2.7	1.1 3.8	7 23.4	3 1.6				

7, 脱ぐ(はく)

地域	反応		合計														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
1 岩手	33 100.0	5 15.2				18 54.5								10 30.3			
2 仙台	39 100.0	1 2.6				24 61.5								11 28.2	2 5.1		
3 東京	35 100.0	10 28.6				14 40.0			1 2.9			1 2.9		9 25.7			
4 京都	40 100.0	5 12.5				10 25.0	11 27.5							14 35.0			
5 和歌山	37 100.0	3 8.1				6 16.2	12 32.4		1 2.7		2 5.4			13 35.1			
合計	184 100.0	24 13.0	1 .5			72 39.1	23 12.5		2 1.1		2 1.1	1 .5		57 31.0	2 1.1		

8, 脱ぐ(着る)

地域	反応		合計														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
1 岩手	33 100.0	5 15.2				18 54.5	1 3.0							9 27.3			
2 仙台	39 100.0	4 10.3				20 51.3	2 5.1				1 2.6			10 25.6	2 5.1		
3 東京	35 100.0	11 31.4				12 34.3	1 2.9					1 2.9		9 25.7	1 2.9		

4	京 都	40 100.0	7 17.5							10 25.0	14 35.0					9 22.5	
5	和 歌 山	37 100.0	7 18.9							2 5.4	10 27.0	1 2.7	1 2.7			6 43.2	
	合 計	184 100.0	34 18.5							62 33.7	28 15.2	1 .5	2 1.1	1 .5		53 28.8	3 1.6

9、脱ぐ(かぶる)

地域	反 応	合 計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1	岩 手	33 100.0	5 15.2					13 39.4	4 12.1							10 30.3	1 3.0
2	仙 台	39 100.0	3 7.7					10 25.6	12 30.8		1 2.6					11 28.2	2 5.1
3	東 京	35 100.0	6 17.1					8 22.9	6 17.1		2 5.7			1 2.9		11 31.4	1 2.9
4	京 都	40 100.0	5 12.5		1 2.5			9 22.5	13 32.5							12 30.0	
5	和 歌 山	37 100.0	1 2.7					4 10.8	13 35.1		2 5.4		1 2.7	1 2.7		15 40.5	
	合 計	184 100.0	20 10.9		1 .5			44 23.9	48 26.1		5 2.7		1 .5	2 1.1		59 32.1	4 2.2

1, 消える(点く)

地域	反応	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1 岩手		33 100.0						11 33.3	1 3.0		1 3.0		1 3.0			19 57.6	1 2.6
2 仙台		39 100.0	1 2.6				18 46.2				2 5.1		1 2.6			16 41.0	
3 東京		25 100.0	2 5.7				13 37.1				1 2.9		1 2.9	1 2.9		17 48.6	
4 京都		40 100.0	4 10.0				8 20.0		9 22.5		1 2.5					18 45.0	
5 和歌山		27 100.0	1 2.7				5 13.5		9 24.3					1 2.7		21 56.8	
合計		184 100.0	8 4.3				55 29.9		19 10.3		5 2.7		3 1.6	2 1.1		91 49.5	1 .5

2', 下げる(上げる)

地域	反応	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1 岩手		33 100.0	7 21.2					10 30.3	1 3.0				2 6.1			13 39.4	
2 仙台		39 100.0	7 17.9				14 35.9				1 2.6		1 2.6			15 38.5	1 2.6
3 東京		35 100.0	7 20.0				8 22.9				4 11.4		1 2.9	1 2.9	2 5.7	12 34.3	

4	京都	40 100.0	1 2.5		1 2.5													18 45.0
5	和歌山	37 100.0	3 8.1							1 2.7				1 2.7				25 67.6
	合計	184 100.0	25 13.6		1 .5					6 3.3				5 2.7	2 1.1	2 1.1		83 45.1 .5

3'、下ろす(上げる)

	地域	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1	岩手	33 100.0	3 9.1		1 3.0			9 27.3	1 3.0				1 3.0			18 54.5	
2	仙台	39 100.0	3 7.7					14 35.9								21 53.8	1 2.6
3	東京	35 100.0	2 5.7		1 2.9			9 25.7			2 5.7					21 60.0	
4	京都	40 100.0	2 5.0		1 2.5			10 25.0	9 22.5							18 45.0	
5	和歌山	37 100.0	3 8.1					1 2.7	6 16.2							27 73.0	
	合計	184 100.0	13 7.1		3 1.6			43 23.4	16 8.7		2 1.1					105 57.1 .5	1 .5

4'、もろう(上げる)

地域	反底															
	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1 岩手	33 100.0					10 30.3	1 3.0								22 66.7	
2 仙台	39 100.0					14 35.9									24 61.5	1 2.6
3 東京	35 100.0	1 2.9				9 25.7				1 2.9					24 68.6	
4 京都	40 100.0	2 5.0				10 25.0	9 22.5								19 47.5	
5 和歌山	37 100.0					1 2.7	6 16.2						1 2.7		29 78.4	
合計	184 100.0	3 1.6				44 23.9	16 8.7			1 .5			1 .5		118 64.1	1 .5

5'、乗る(降りる)

地域	反底															
	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1 岩手	33 100.0	6 18.2			1 3.0		7 21.2								19 57.6	
2 仙台	39 100.0	2 5.1	1 2.6			13 33.3				1 2.6					21 53.8	1 2.6
3 東京	35 100.0	2 5.7	2 5.7			7 20.0							1 2.9		23 65.7	



## 7', はく(脱ぐ)

地域	反応														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1 岩手	33	5				11								17	
	100.0	15.2				33.3								51.5	
2 仙台	39	3				14			1					20	1
	100.0	7.7				35.9			2.6					51.3	2.6
3 東京	35	5				8			2			1		19	
	100.0	14.3				22.9			5.7			2.9		54.3	
4 京都	40	5				10	8							17	
	100.0	12.5				25.0	20.0							42.5	
5 和歌山	37	1				3	7		1		1			24	
	100.0	2.7				8.1	18.9		2.7		2.7			64.9	
合計	184	19				46	15		4		1	1		97	1
	100.0	10.3				25.0	8.2		2.2		.5	.5		52.7	.5

## 8', 着る(脱ぐ)

地域	反応														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1 岩手	33	8				11								14	
	100.0	24.2				33.3								42.4	
2 仙台	39	8				14			1					15	1
	100.0	20.5				35.9			2.6					38.5	2.6
3 東京	35	15				7			1					12	
	100.0	42.9				20.0			2.9					30.8	

	40	11									7					11	1
4 京 都	100.0	27.5									17.5					27.5	1
5 和 歌 山	100.0	18.9									16.2	1				19	
合 計	184	49									13	3				71	2
	100.0	26.6									7.1	1.6				38.6	1.1

9'、かぶる(脱ぐ)

地域	反 応	合 計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1 岩 手	33	100.0						11								22	
								33.3								66.7	
2 仙 台	39	100.0						14			1					23	1
								35.9			2.6					59.0	2.6
3 東 京	35	100.0	1					7			1					26	
			2.9					20.0			2.9					74.3	
4 京 都	40	100.0						11	7							22	
								27.5	17.5							55.0	
5 和 歌 山	37	100.0						4	6		1					26	
								10.8	16.2		2.7					70.3	
合 計	184	1						47	13		3					119	1
	100.0	.5						25.5	7.1		1.6					64.7	.5

## (2) 系の成立

テスト1は対語テストと称し、「つくの反対は何?」、「消えるの反対は何?」という質問形式で対語の反応を求め、単語・単語の系の成立程度を明らかにすることを目的にしたものであり、その系の成立は語理解の基底にある意味の構造化の成立を意味するとみた。そこでテスト1で実施した9対18語について、系の成立程度を調べることにした。

なお、系とはすでに述べたように、(A↔B)のA・Bが対義的な関係語として、対語を求められた際に互いにAおよびBが認定された場合をいう。したがって、AおよびBは基準語であってもなくてもかまわない。そして、○系(基準語反応)、「～ナイ」系(「ナイ」をつけた語反応)、N系(互いに知らないと答えた反応)などを扱う。しかし一般に系の成立と総称する場合は基準語反応による系の成立を意味することになる。

4-3-5表により、対語テストの系反応率をみれば、それらは9.7%~13.0%に位置し、比較的系反  
4-3-5表 動詞A 対語テストにおける系反応率      4-3-7表 動詞A 対語テストにおける系反応率の類型

順位	対語	N	%
6.	つく・消える	6	3.2
2.	上げる・下げる	18	9.7
5.	上げる・下ろす	7	3.8
8.	上げる・もろう	2	1.0
4.	乗る・降りる	9	4.8
3.	上がる・降りる	12	6.5
7.	はく・脱ぐ	6	3.2
1.	着る・脱ぐ	24	13.0
9.	かぶる・脱ぐ	0	0

着る・脱ぐ
上げる・下げる
上がる・降りる
乗る・降りる
上げる・下ろす
つく・消える
はく・脱ぐ
上げる・もろう
かぶる・脱ぐ

4-3-6表 動詞A 対語テストにおける系反応の有意差検定 ( $\chi^2$ )

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1		—	*	**	**	**	**	**	**
2	—		—	*	*	*	*	**	**
3	*	—		—	—	—	—	**	**
4	**	—	—		—	—	—	*	**
5	**	*	—	—		—	—	—	**
6	**	*	—	—	—		—	—	*
7	**	*	—	—	—	—		—	*
8	**	**	**	*	—	—	—	—	—
9	**	**	**	**	**	*	*	—	—

—差が認められない。*P<0.05 **P<0.01

応率の高い対語は、

〈着る・脱ぐ〉, 〈上げる・下げる〉

であり、比較的系反応率の低い対語は、

〈かぶる・脱ぐ〉, 〈上げる・もらう〉

である。そこで、対語テストにおける系反応率の高低に関する有意差検定の結果を示したのが4-3-6表である。そして系反応率の有意差の有無によって、反応率の高低を群ごとに類別すると、4-3-7表の通りになる。これによれば、着脱の関係を表す対語関係では、

着る・脱ぐ>はく・脱ぐ>かぶる・脱ぐ

の不等式関係が成立し、上げ下げの関係を表す対語関係では、

上げる・下げる>上げる・下ろす>上げる・もらう

の不等式関係が成立し、上がり降（下）りの関係を表す対語関係では差は認められない。そして以上のことから、多義語の基本的な対義関係を表す対語が上位を占め、特殊な対義関係を表す対語は下位を占めることが認められる。すなわち、〈脱ぐ〉は動詞テストAに関する限りでいえば、〈着る・はく・かぶる〉を対義的な関係語にしているが、この3語の中では、〈着る〉が最も一般的、普遍的な意味をもつから、系反応率が最も高くなるとみるのである。同様な意味で、〈上げる〉は〈下げる・下ろす・もらう〉を対義関係を表す語にしているが、これらの3語の中では、〈下げる〉が最も一般的、普遍的な意味をもつから、系反応率が最も高くなるとみることができる。

4-3-8 表 対語テストにおける系の成立

1, つく / 消える

つく / 消える	○系、△系、N系の成立部分を示す															
	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1	8 100.0	6 75.0				1 12.5				1 12.5						
6	55 100.0	13 23.6		1 1.8		24 43.6	2 3.6	1 1.8	2 3.6			1 1.8			11 20.0	
7	19 100.0	3 15.8				1 5.3	13 68.4		1 5.3						1 5.3	
9	5 100.0		2 40.0			2 40.0			1 20.0							
11	3 100.0					2 66.7						1 33.3				
12	2 100.0					1 50.0							1 50.0			
14	91 100.0	7 7.7	4 4.4			16 17.6	3 3.3	1 1.1	2 2.2			4 4.4	1 1.1	1 1.1	51 56.0	1 1.1
15	1 100.0											1 100.0				
合計	184 100.0	29 15.8	6 3.3	1 .5		47 25.5	18 9.8	2 1.1	7 3.8			7 3.8	2 1.1	1 .5	63 34.2	1. .5

2, 上げる/下げる

	合計		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	上げる	下げる															
01	25 100.0	18 72.0	3 12.0								2 8.0				1 4.0	1 4.0	
03	1 100.0	1 100.0															
06	43 100.0	12 27.9	22 51.2					1 2.3								8 18.6	
07	16 100.0	4 25.0						7 43.8			2 12.5					3 18.8	
09	6 100.0	1 16.7	1 16.7								2 33.3				1 16.7	1 16.7	
11	5 100.0	2 40.0														3 60.0	
12	2 100.0													2 100.0			
13	2 100.0	1 50.0														1 50.0	
14	83 100.0	17 20.5	5 6.0					2 2.4			4 4.8		4 4.8		1 1.2	49 59.0	1 1.2
15	1 100.0												1 100.0				
合計	184 100.0	56 30.4	31 16.8					31 5.4			10 5.4		5 2.7	2 1.1	3 1.6	66 35.9	1 .5

3. 上げる/下ろす

	上げる	下ろす	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
01		13 100.0	7 53.8							1 7.7		2 15.4					3 23.1	
03		3 100.0	2 66.7														1 33.3	
06		43 100.0	7 16.3						23 53.5			4 9.3		1 2.3			7 16.3	1 2.3
07		16 100.0	4 25.0			1 6.3				7 43.8							4 25.0	
09		2 100.0	1 50.0									1 50.0						
11		1 100.0												1 100.0			64 61.0	
14		105 100.0	19 18.1			1 1.0			6 5.7	3 2.9		4 3.7		3 2.9	1 1.0	1 1.0	64 61.0	3 2.9
15		1 100.0																1 100.0
合計		184 100.0	40 21.7			2 1.1			29 15.8	11 6.0		11 6.0		5 2.7	1 .5	1 .5	79 42.9	5 2.7

4. 上げる／もらう

	上げる	もらう	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
01	3 100.0	2 66.7															1 33.3	
06	44 100.0	2 4.5		34 77.3	1 2.3					3 6.8							4 9.1	
07	16 100.0	2 12.5		2 12.5	8 50.0					3 18.8							1 6.3	
09	1 100.0			1 100.0														
12	1 100.0																1 100.0	
14	118 100.0	13 11.0		22 18.6	13 11.0	1 0.8				8 6.8	2 1.7	3 2.5					50 42.4	4 3.4
15	1 100.0																	1 100.0
合計	184 100.0	19 10.3		59 32.1	22 12.0	1 .5				14 7.6	2 1.1	3 1.6					57 31.0	5 2.7

5, 降りる / 乗る

降りる / 乗る	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
01	15 100.0	9 60.0				4 26.7				1 6.7					1 6.7	
02	3 100.0	1 33.3				1 33.3				1 33.3						
04	1 100.0	1 100.0														
06	37 100.0	1 2.7		1 2.7		31 83.8	1 2.7								3 8.1	
07	16 100.0					3 18.8	11 68.8								2 12.5	
09	1 100.0														1 100.0	
12	1 100.0												1 100.0			
14	109 100.0	18 16.5				31 28.4	13 11.9			3 2.8		1 .9			41 37.6	2 1.8
15	1 100.0															1 100.0
合計	184 100.0	30 16.3		1 .5		70 38.0	25 13.6			5 2.7		1 .5	1 .5		48 26.1	3 1.6

6, 降りる/上がる

降りる 上がる	合計														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
01	43 100.0	12 27.9	16 37.2	1 2.3		3 7.0	4 9.3		1 2.3				1 2.3	5 11.6	
02	9 100.0	6 66.7	1 11.1				2 22.2								
03	1 100.0						10 26.3								
06	38 100.0		1 2.6			17 44.7	10 26.3		3 7.9		1 2.6		2 5.3	4 10.5	
07	16 100.0		2 12.5			3 18.8	10 26.5							1 6.3	
11	2 100.0										2 100.0				
13	3 100.0	2 66.7								1 33.3					
14	71 100.0	7 9.9	12 16.9			6 8.5	2 2.8		1 1.4		2 2.8	2 2.8	4 5.6	33 46.5	2 2.8
15	1 100.0														1 100.0
合計	184 100.0	27 14.7	32 17.4	1 .5		31 16.8	28 15.2		5 2.7		5 2.7	2 1.1	7 3.8	43 23.4	1 1.6

7, 脱ぐ/はく

脱ぐ	はく	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
01		19 100.0	6 31.6					7 36.8	2 10.5							4 21.1	
06		46 100.0	1 2.2					38 82.6	1 2.2							6 13.0	
07		15 100.0						1 6.7	11 73.3							3 20.0	
09		4 100.0	1 25.0								1 25.0					2 50.0	
11		1 100.0											1 100.0				
12		1 100.0		1 1.0										1 100.0			
14		97 100.0	16 16.5					26 26.8	9 9.3		1 1.0		1 1.0		42 43.3	1 1.0	
15		1 100.0															1 100.0
合計		184 100.0	24 13.0	1 .5				72 39.1	23 12.5		2 1.1		2 1.1	1 .5		57 31.0	2 1.1

8, 脱ぐ/着る

脱ぐ/着る	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
01	49 100.0	24 49.0					13 26.5	4 8.2		1 2.0					6 12.2	1 2.0
06	46 100.0	2 4.3				33 71.7	7 15.2								4 8.7	
07	13 100.0						11 84.6				1 7.7				1 7.7	
09	3 100.0														3 100.0	
14	71 100.0	8 11.3				16 22.5	6 8.5				1 1.4	1 1.4			38 53.5	1 1.4
15	2 100.0														1 50.0	1 50.0
合計	184 100.0	34 18.5				62 33.7	28 15.2			1 .5		2 1.1	1 .5		53 28.8	3 1.6

9, 脱ぐ/かぶる

脱ぐ	かぶる	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
01		1 100.0									1 2.1					1 100.0	
06		47 100.0	1 2.1					23 48.9	17 36.2							5 10.6	
07		13 100.0							10 76.9		1 33.3					3 23.1	
09		3 100.0	1 33.3								3 2.5					1 33.3	
14		119 100.0	18 15.1		1 .8			21 17.6	21 17.6				1 .8	2 1.7		49 41.2	3 2.5
15		1 100.0															1 100.0
合計		184 100.0	20 10.9		1 .5			44 23.9	48 26.1		5 2.7		1 .5	2 1.1		59 32.1	4 2.2

## 2 対文テスト

対文テストは、対語テストに使った対語動詞を含む対義的な文を構成し、被験者に一定の文脈を背景にした単語・単語水準での理解および系の成立程度を明らかにすることが目的である。

とりわけ、動詞テストで対文テストが用意されたのは、性状語、時間・空間語に比較して、反意的な関係が薄く、かつ複数の対語関係を結ぶものが目立っている。このため、一定の文脈を設けることが必要であった。そしてこのことは、対語テストの項で問題にした第2の点、すなわち対語の片方が多義的な意味をもつものは基準反応率に差を増大させることが対文テストでは統制されることになるはずである。

動詞A対文テストの刺激語は対語テストの場合と同じ9対18語で、配列順も同じで、その点の条件は変わらない。

4-3-9表は、(1~9) (1'~9') の反応語のうち、○₁ (基準語反応) および○₂ (基準語を幼児音で反応) だけについて、それらの反応率を示したものである。基準反応率でみると、17.4%~67.9%になり、対語テストより著しく高い。その中で基準反応率が高いのは、

上げる(下げる), 降りる(乗る)

それに対して、基準反応率が低いのは、

上がる(降りる), 降りる(上がる)

である。そして対語テストにおける基準反応率の高低との相関を求めたところ、順位相関係数は0.84である(スピアマンの列位差法による)。そこで、各対語内の基準反応率の有意差の検定を試みたのが4-3-10表である。これによれば、有意な差が認められた対語は、次の通りである。

つく>消える

上げる>下げる

かぶる>脱ぐ

4-3-9表 動詞A 対文テスト基準反応率

語	N	%	語	N	%
1 つく	97	52.7	1' 消える	57	31.0
2 上げる	125	67.9	2' 下げる	56	30.4
3 上げる	58	31.5	3' 下ろす	58	31.5
4 上げる	70	38.0	4' もらう	65	35.3
5 降りる	111	60.3	5' 乗る	101	54.9
6 降りる	44	23.9	6' 上がる	32	17.4
7 脱ぐ	74	40.2	7' はく	88	47.8
8 脱ぐ	77	41.8	8' 着る	89	48.4
9 脱ぐ	62	33.7	9' かぶる	85	46.2

4-3-10表 対文テスト各対の  $\chi^2$  による有意差検定

対 語	$\chi^2$	df	P
1 つく>消える	17.794	1	0.01**
2 上げる>下げる	51.720	1	0.01**
3 上げる=下ろす	—	1	—
4 上げる>もらう	0.301	1	0.70
5 乗る<降りる	1.104	1	0.30
6 上がる<降りる	2.379	1	0.20
7 はく>脱ぐ	2.146	1	0.20
8 着る>脱ぐ	1.531	1	0.20
9 かぶる>脱ぐ	5.948	1	0.05*

の3対語である。対語テストで危険率のより少なかったものが対文テストで差が認められている。多義的な語は対文テストでも多義である。

そして、対語テストで、系の成立程度が高かったものは対文テストでは対語間に有意な差が認められず、系の成立程度が低かったものに差が認められている。ただし、〈上げる・もらう〉は対語テストでは比較的系の成立程度が低かった対語であるが、対文テストでは文脈が与えられているため、対義関係が明確になり、〈上げる〉に対する〈もらう〉の基準反応率が高められて有意差をなくしている。また、つく>消える、上げる>下げるの関係は対語テストの結果と同じであるが、かぶる>脱ぐの関係は対語テストの結果と逆の関係を示している。

### 3 対絵テスト

対絵テストは発語、誘導発語および認知の3段階のテストからなる。いずれも同一の対義関係を中心に、動作、行為や現象の系を示す絵を呈示し、各対の動詞は何かをたずね、被験者に単語・事物という系の水準での理解および系の成立程度を明らかにすることが目的である。

動詞A対絵テストの刺激語は動作、行為、現象を表し、特に対義的・因果的な意味をもつ動詞を中心に、35対70語が用意されている。しかし、本項では、そのうち、直接に対語・対文テストと同一の刺激語5対10語に限って考察することにとどめ、その他の語の基準反応率に関しては、313ページ参照。

動詞A発語テストのうち、対語テストと同一刺激対語は5対10語である。これらの反応語のうち、 $O_1$  (基準語反応) および、 $O_2$  (基準語を幼児音で反応) の合計だけについて、それらの反応率を示したのが4-3-11表である。これにつき、基準反応率の高低でみると、

降りる (乗る), 乗る (降りる)

が高く、それに対して、

下げる (上げる), 消える (つく)

が低い。

そこで、各対語間の基準反応率の有意差の検定を試みたのが4-3-12表である。これによれば、動作、行為、現象を表す5対10語の中で、有意な差が認められた対語は、

つ く>消える

上げる>下げる

は く<脱 ぐ

である。

同様な手順で、動詞A誘発テストの基準反応率をみると、各反応率は49.5%~98.4%となり、発語テストの37.5%~94.0%より高まっている。そして基準反応率でみると、

降りる (乗る), 乗る (降りる)

が高く、それに対して、

下げる (上げる), 消える (つく)

が低い。また、対語間で有意差が認められたのは、発語テストと同様に次の3対語である。

つ く>消える

上げる>下げる

は く<脱 ぐ

認知テストで、上述の処理手順にしたがえば、各反応率は、92.4%~99.5%に達し、各正答率でみると、

4-3-11表 動詞A 発語テストの基準反応率

語	N	%	語	N	%
1 つ く	149	81.0	1' 消える	83	45.1
2 上げる	152	82.6	2' 下げる	69	37.5
3 上げる	149	81.0	3' もらう	140	76.1
4 降りる	173	94.0	4' 乗る	166	90.2
5 脱 ぐ	114	62.0	5' は く	155	84.2

4-3-12表 発語テスト各対の  $\chi^2$  による有意差検定

対語	$\chi^2$	df	P
1 つ く>消える	49.321	1	0.11**
2 上げる>下げる	77.833	1	0.01**
3 上げる>もらう	1.304	1	0.30
4 乗る<降りる	1.790	1	0.20
5 は く>脱 ぐ	23.215	1	0.01**

4-3-13表 動詞A 誘発テストの基準反応率

語	N	%	語	N	%
1 つく	173	94.0	1' 消える	126	68.5
2 上げる	173	94.0	2' 下げる	91	49.5
3 上げる	164	89.1	3' もらう	152	82.6
4 降りる	181	98.4	4' 乗る	179	97.3
5 脱ぐ	157	85.3	5' はく	178	96.7

4-3-14表 誘発テスト各対の  $\chi^2$  による有意差検定

対	語	$\chi^2$	df	P
1	つく > 消える	39.360	1	0.01**
2	上げる > 下げる	90.021	1	0.01**
3	上げる > もらう	3.213	1	0.10
4	乗る < 降りる	—	1	—
5	はく > 脱ぐ	14.700	1	0.01**

4-3-15表 動詞A 認知テストの基準反応率

語	N	%	語	N	%
1 つく	177	96.2	1' 消える	174	94.6
2 上げる	183	99.5	2' 下げる	170	92.4
3 上げる	180	97.8	3' もらう	174	95.1
4 降りる	183	99.5	4' 乗る	181	98.4
5 脱ぐ	179	97.3	5' はく	183	99.5

4-3-16表 認知テスト各対の  $\chi^2$  による有意差検定

対	語	$\chi^2$	df	P
1	つく > 消える	0.453	1	0.80
2	上げる > 下げる	11.506	1	0.01**
3	上げる > もらう	2.458	1	0.20
4	乗る < 降りる	—	1	—
5	はく > 脱ぐ	2.493	1	0.20

降りる（乗る）、上げる（下げる）

が多く、下げる（上げる）、消える（つく）が低い。そして各対語内で有意差の認められたのは、上げる＞下げるの1対語にとどまる。このことは各対語の基準反応率がいずれも100%に接近し、頭うちになった結果である。

以上の結果から、有意差の認められたのは、対語テストで系成立程度が低かったものに現れることが明白であり、理解が容易なものは、動作、行為、現象の時間的、因果的に先行するものであり、複合語が構成される際、前部を占めるものが多いことが認められた。このことは考察の項でさらに検討される。

### (3) 発語テストと地域差

4-3-17表 動詞A 発語テストにおける地域差

語	$\chi^2$	df	P	語	$\chi^2$	df	P
1 つく	1.233	4	0.90	1' 消える	14.749	4	0.01**
2 上げる	7.308	4	0.20	2' 下げる	18.957	4	0.01**
3 上げる	8.112	4	0.10	3' もらう	2.799	4	0.70
4 降りる	1.601	4	0.90	4' 乗る	5.325	4	0.30
5 脱ぐ	5.342	4	0.30	5' はく	2.033	4	0.80

対語テストと同じ手順で、発語テストにおいても地域差を問題にする。4-3-17表は、発語テストにおける諸反応を地域ごとに整理したものである。ただし、発語テストのうち、対語テストと共通した5対語だけに限ることにした。

4-3-17表は、発語テストにおける正答率の高低に関する地域差を $\chi^2$ 検定によって調べた結果である。それによれば、地域差の認められた基準反応率は、

	岩手	仙台	東京	京都	和歌山
1' 消える	21.2%	41.0%	51.4%	65.0%	43.2%
2' 下げる	42.4	64.1	31.4	30.0	18.9

で、傾向的に差の現れたのは、3〈上げる〉である。

1'〈消える〉は、岩手が最も低く、「～ナイ」反応が全体の57.6%を占めているためである。2'〈下げる〉は和歌山が最も低く、基準語と同義の〈下ろす〉反応が全体の40.5%を占めているためである。

4-3-18 表 動詞A 発語テストの反応  
1, つく(消える)*

地域	反応															
	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1 岩手	33 100.0	27 81.8			1 3.0		1 3.0				1 3.0	3 9.1				
2 仙台	39 100.0	32 82.1				2 5.1				1 2.6				2 5.1	2 5.1	
3 東京	35 100.0	26 74.3								3 8.6		3 8.6			3 8.6	
4 京都	40 100.0	33 82.5										3 7.5			4 10.0	
5 和歌山	37 100.0	31 83.8					2 5.4					1 2.7		1 2.7	2 5.4	
合計	184 100.0	149 81.0			1 .5		5 2.7					10 5.4		3 1.6	11 6.0	

1', 消える(つく)

地域	反応															
	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1 岩手	33 100.0	7 21.2					19 57.6			2 6.1		4 12.1			1 3.0	
2 仙台	39 100.0	16 41.0					18 46.2			2 5.1		2 5.1			1 2.6	
3 東京	35 100.0	18 51.4					6 17.1			1 2.9		6 17.1		2 5.7	2 5.7	

	40	26	4	1							4	5
	100.0	65.0	10.0	2.5							10.0	12.5
1 京 都	37	16	10	2							3	3
	100.0	43.2	27.0	5.4							8.1	8.1
2 和 歌 山	184	83	57	3							19	12
	100.0	45.1	31.0	1.6							10.3	6.5
合 計												

## 2, 上げる(下げる)

地 域	反 応															
	合 計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1 岩 手	33	29							1	1		1			1	
	100.0	87.9							3.0	3.0		3.0			3.0	
2 仙 台	39	34							3	1		1				
	100.0	87.2							7.7	2.6		2.6				
3 東 京	35	27							3	3		1			1	
	100.0	77.1							8.6	8.6		2.9			2.9	
4 京 都	40	36							2	2						
	100.0	90.0							5.0	5.0						
5 和 歌 山	37	26							4	2				1	4	
	100.0	70.3							10.8	5.4				2.7	10.8	
合 計	184	152							13	9		3		1	6	
	100.0	82.6							7.1	4.9		1.6		.5	3.3	

2'、下げる(上げる)

地域	反応		合計														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
1 岩手	33 100.0	14 42.4	11 33.3			4 12.1			1 3.0		1 3.0			2 6.1			
2 仙台	39 100.0	25 64.1	6 15.4			2 5.1		1 2.6	5 12.8								
3 東京都	35 100.0	11 31.4	13 37.1			3 8.6			7 20.0					1 2.9			
4 京都	40 100.0	12 30.0	17 42.5			2 5.0		1 2.5	5 12.5					3 7.5			
5 和歌山	37 100.0	7 18.9	15 40.5			2 5.4	2 5.4	1 2.7	5 13.5		2 5.4			3 8.1			
合計	184 100.0	69 37.5	62 33.7			13 7.1	2 1.1	3 1.6	23 12.5		3 1.6			9 4.9			

3、上げる(もろう)

地域	反応		合計														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
1 岩手	33 100.0	24 72.7						6 18.2	1 3.0					2 6.1			
2 仙台	39 100.0	32 82.1						3 7.7	1 2.6					3 7.7			
3 東京都	35 100.0	30 85.7							4 11.4					1 2.9			

4 京 都	40 100.0	37 92.5													1 2.5	2 5.0
5 和 歌 山	37 100.0	26 70.3	1 2.7					1 2.7	2 5.4	5 13.5						1 2.7
合 計	184 100.0	149 81.0	1 .5					1 .5	11 6.0	11 6.0					1 .5	9 4.9

3'. 上げる(もらう)

地域	反 応	合 計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1 岩 手	33 100.0	26 78.8								1 3.0	2 6.1		2 6.1			2 6.1	
2 仙 台	39 100.0	26 66.7	1 2.6							1 2.6	4 10.3					7 17.9	
3 東 京	35 100.0	29 82.9									4 11.4		1 2.9			1 2.9	
4 京 都	40 100.0	31 77.5									3 7.5					6 15.0	
5 和 歌 山	37 100.0	28 75.7	1 2.7					1 2.7			3 8.1		1 2.7			3 8.1	
合 計	184 100.0	140 76.1	2 1.1					1 .5		2 1.1	16 8.7		4 2.2			19 10.3	

4, 降りる(乗る)

地域	反席	合計														
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1	岩手	33 100.0	30 90.9		3 9.1											
2	仙台	39 100.0	38 97.4						1 2.6							
3	東京	35 100.0	32 91.4											3 8.6		
4	京都	40 100.0	38 95.0						1 2.5						1 2.5	
5	和歌山	37 100.0	35 94.6		1 2.7				1 2.7							
	合計	184 100.0	173 94.0		4 2.2				3 1.6					4 2.2		

4', 乗る(降りる)

地域	反席	合計														
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1	岩手	33 100.0	32 97.0		1 3.0											
2	仙台	39 100.0	37 94.9						2 5.1							
3	東京	35 100.0	31 88.6											4 11.4		



5'はく(脱ぐ)

地域	反	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	合 計	33 100.0					2 6.1			3 9.1				1 3.0	1 3.0	
1 岩手		34 100.0				2 5.1				1 2.6					2 5.1	
2 仙台		35 100.0								2 5.7					2 5.7	
3 東京		40 100.0						1 2.5		3 7.5					4 10.0	
4 京都		37 100.0					1 2.7			3 8.1					1 2.7	
5 和歌山		184 100.0					5 2.7	1 .5		12 6.5				1 .5	10 5.4	
合 計																

* ( )内の動詞は刺殺村を示す。

(1) 系の成立

4-3-19表により、発語テストで実施したもののうち、対語テストと対応する5対語の系反応率をみれば、それらは35.8%~87.0%に位置し、比較的系反応率の高い対語は、

乗る・降りる

であり、比較的系反応率の低い対語は、

上げる・下げる

である。そこで各系反応率の有意差の有無を検定したのが4-3-20表であり、それによって反応率の高低を群ごとに類別すると、4-3-19表のように3群になる。

同様の処理手順で、誘発テストで実施したのが4-3-21表で、5対語の系反応率をみれば、それらは48.4%~95.7%に位置し、比較的系反応率の高い対語は、

乗る・降りる

であり、系反応率の低い対語は、

上げる・下げる

である。そこで各系反応率の有意差の有無を検定したのが4-3-22表であり、それによって反応率の高低を群ごとに類別すると、4-3-21表のように4群になる。

さらに同様の処理手順で、認知テストで実施した5対語の系反応率をみれば、4-3-23表のように、それらは91.3%~97.8%に位置し、比較的系反応率の高い対語、低い対語は上述の発語、誘発テストと変わらない。また各反応率の有意差の有無を検定したのが4-3-24表であり、それによって反応率の高低を群ごとに類別すると、4-3-23表のようになり、系反応率の頭うち状態が現れ、わずかに2群に分けるにとどめている。

4-3-19表 動詞A 発語テストにおける系反応率

	N	%
1 乗る・降りる	160	87.0
2 上げる・もろう	117	63.6
3 脱ぐ・はく	106	57.6
4 つく・消える	78	42.4
5 上げる・下げる	66	35.8

4-3-20表 発語テストにおける系反応の有意差検定

	1	2	3	4	5
1		**	**	**	**
2	**		—	**	**
3	**	—		**	**
4	**	**	**		—
5	**	**	**	—	

4-3-21表 動詞A 誘発テストにおける系反応率

	N	%
1 乗る・降りる	176	95.7
2 脱ぐ・はく	153	83.2
3 上げる・もらう	140	76.1
4 つく・消える	121	65.8
5 上げる・下げる	89	48.4

4-3-22表 誘発テストにおける系反応の有意差検定

	1	2	3	4	5
1		**	**	**	**
2	**		—	**	**
3	**	—		*	**
4	**	**	*		**
5	**	**	**	**	

4-3-23表 動詞A 認知テストにおける系反応率

	N	%
1 乗る・降りる	180	97.8
2 脱ぐ・はく	178	96.7
3 上げる・下げる	169	91.8
4 つく・消える	168	91.3
5 上げる・もらう	170	92.2

4-3-24表 認知テストにおける系反応の有意差検定

	1	2	3	4	5
1		—	*	**	
2	—		*	*	
3	*	*		—	
4	**	*	—		
5					

#### 4 テストの順序効果

対語テストおよび対文テストは単語・単語の系の成立の程度を確かめることを目的にするため、対語あるいは対文の片方を刺激語あるいは刺激文として口頭で提示し、反応を求めていくが、そこに必然的に提示順序が存在する。そのため、対語、対文関係の間で、先に反応を求められる語は後に反応を求められる語より基準反応率に差が生じるか否かの順序効果の検討が必要である。

もっとも、順序効果の有無を問わず、順序を一定の手順によって被験者ごとにランダムに構成することも試みられることがあるが、本調査のように大人数を被験者とし、かつ大人数の調査員によるテストの場合には繁雑すぎて実現は困難である。そこで本調査では動詞テストに限って、一定の正規の順序のほかに、逆の順序によって反応を求めた群があるので、それらの差を対語、対文および対絵テストの各々についてみた結果は次の通りである。

4-3-25表によれば、各テストで有意差の認められた語は、

	対語	対文	発語	誘発	認知
上げる(下げる)	*	—	—	—	—
上げる(降ろす)	**	—	—	—	—
降ろす(上げる)	—	*	—	—	—
もらう(上げる)	—	—	**	—	—

である。したがって、対語テストでは、9対18語のうち、有意差の認められたのは〈上げる〉の延べ2語であり、対文テストでは、9対18語のうち、有意差の認められたのは〈降ろす〉の1語にとどまる。そして、〈上げる〉に順序効果が認められたのは、多義的意味をもつ故に、特殊な意味をもつ単語からの対義関係の成立は容易であり、したがって、基準反応率が高く、かつ習得率の低い片方の語との関係の場合にだけ順序効果、すなわち、逆行順序の効果が強く現れることを示しており、

4-3-25表 動詞テストの順序効果に関する有意差検定 ( $x^2$ )

語	対語	対文	語	対語	対文
	$x^2$	$x^2$		$x^2$	$x^2$
1 つく	1.807	1.082	1' 消える	0.961	1.634
2 上げる	4.295**	2.937	2' 下げる	0	1.652
3 上げる	8.049**	3.426	3' 降ろす	1.065	4.676*
4 上げる	1.618	0	4' もらう	0	0.087
5 降りる	2.635	0.166	5' 乗る	0.267	0.040
6 降りる	0.159	2.305	6' 上がる	0.279	0.769
7 脱ぐ	3.259	0.332	7' はく	1.402	1.080
8 脱ぐ	0	0.861	8' 着る	0.050	1.560
9 脱ぐ	0.412	0.849	9' かぶる	0	2.756

4-3-26表

語	発語	誘発	語	発語	誘発
	$x^2$	$x^2$		$x^2$	$x^2$
1 つく	0.778	0	1' 消える	1.531	1.342
2 上げる	0.208	0	2' 下げる	0.127	0.520
3 上げる	0	0	3' もらう	8.180**	2.436
4 降りる	0.177	0	4' 乗る	2.266	0
5 脱ぐ	0	2.872	5' はく	0.527	0

全体的には特に順序効果を考慮する必要はないと判断される。

なお、認知テストでは、いずれにも有意差は認められなかった。

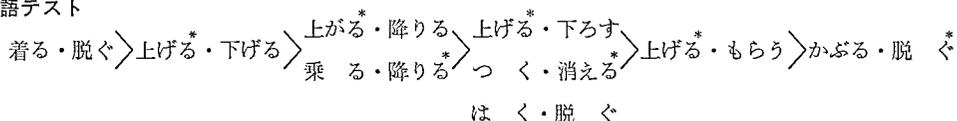
### 5 結果に対する考察

動詞テストでは、主として対義関係にある動詞 220 語について、単語・単語の水準のテストとして対語、対文テストを実施した。また、単語・事物の水準のテストとして、発語・誘導発語・語認知の各テストを実施し、各水準での理解および系の成立程度を明らかにしてきた。そこで本項ではそれらの諸結果に対して、動詞テスト A を中心に各水準間のテストの結果の異同に視点を合わせて考察することにする。

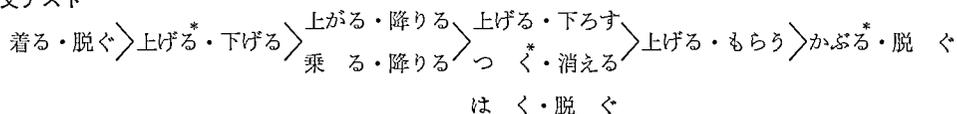
まず、われわれは就学前児童はどのような動詞をどの水準で、どの程度の理解および系の成立を得ているかを明らかにしようとしたので、まず、動詞テスト A の対語テストにあげた動詞に限って、テストにおける対語および各対内の有意差の所在を示せば次のようになる。

4-3-27表

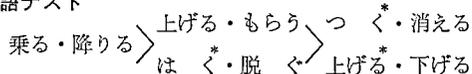
#### 対語テスト



#### 対文テスト

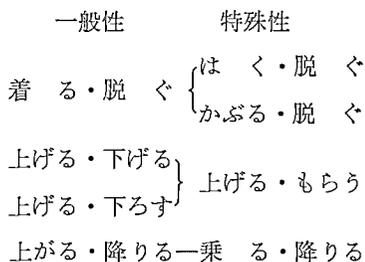


#### 発語テスト



* 対の語内で有意に基準反応が高かったもの。

(1) 動詞の各対語について考えれば、系の成立の難易という点では、性状語および時間・空間語で指摘した対語の一般性・普遍性に対する特殊性・限定性という観点で整理すると、



という関係が成立する。〈はく・脱ぐ〉ははき物の着脱、〈かぶる・脱ぐ〉は頭にかぶる物の着脱と

いう特定の事物に対する対語であり、〈着る・脱ぐ〉は最も一般性をもった対語である。同様に、〈乗る・降りる〉は乗り物という特定の事物に対する対語であると考えられるし、〈上げる・もらう〉は特定の授受行為であるのに、〈上げる・下げる〉、〈上げる・下ろす〉はより一般性をもったものと考えれば、一般性をもった対語は理解が容易であり、特殊性の意味をもつ語は理解がおくれ、習得が困難であるということができ、対語テストの一連の結果はその事実と対応している。ただし、〈上がる・降りる〉が〈乗る・降りる〉に対して、より一般性をもつかに対しては必ずしも明確でないし、また、〈上げる・下げる〉、〈上げる・下ろす〉に関して、いずれがより一般性をもつかに対しては必ずしも積極的に説明できるとは限らない。

ところで、対語テストで提出された対語動詞のうち、テストAの対絵テストにも提出された対語動詞は5対10語である。その結果に従えば、一般性－特殊性の関係で成立するものはわずかに〈上げる・もらう〉、〈上げる・下げる〉だけであるが、その理解の高低は対語テストの場合と逆になり、一般性>特殊性という関係と矛盾した結果になっている。この点はどのように考えるべきか。そこで対絵テストにおける誘発、認知テストの結果を参考にあげれば次のようになる。

4-3-28表 〈上げる・もらう〉〈上げる・下げる〉の基準反応率、系反応率

	対 語		対 文		発 語		誘 発		認 知	
	基準	系	基準	系	基準	系	基準	系	基準	系
{ 上 げ る も ら う           }	10.3	1.0	38.0	26.1	81.0	63.6	89.1	76.1	97.8	92.9
	1.6		35.3		76.1		82.6		95.1	
{ 上 げ る 下 げ る           }	30.4	9.7	67.9	27.2	82.6	35.8	94.0	48.4	99.5	91.8
	13.6		30.4		37.5		49.5		92.4	

この結果によれば、〈上げる・もらう〉では、対語テストでは〈もらう〉のほうの基準反応率が〈上げる〉に対して著しく低いのに、対文テストや発語、誘発、認知の各テストでは両語の基準反応率には差がみられない。これは、単語・単語の水準では〈上げる・もらう〉の対語関係では授受という、一般性の少ない特殊な動作を表すのに、対文テストでは文脈によって規定されるので、その文脈では〈やる・もらう〉と共により一般的な関係をもつようになったと考えられる。これに対して〈上げる・下げる〉の対語関係では上下の運動行為という点で、比較的一般的な関係をもっていたが、対絵の発語テストでは〈下げる〉に対し、〈下ろす〉反応（項目3、基準語と同義）が33.7%（301ページ参照）もあり、そのために〈下げる〉反応が低くなっていると考えられる。

そこで、以上のことを、〈やる・もらう〉、〈上げる・下ろす〉の基準反応率および系反応率と比較してさらに検討する。

4-3-29表 &lt;やる・もらう&gt;&lt;上げる・下ろす&gt;の基準反応率, 系反応率

	対 語		対 文		発 語		誘 導		認 知	
	基準	系	基準	系	基準	系	基準	系	基準	系
{ や る も ら う	—	—	—	—	44.9	25.7	55.1	37.4	91.4	84.5
	—	—	—	—	54.0	—	67.9	—	91.4	—
{ 上 げ る 下 ろ す	—	3.8	—	15.2	19.4	6.5	59.0	17.1	80.0	35.1
	—	—	—	—	15.3	—	37.6	—	93.5	—

4-3-28表の結果と4-3-29表の結果と比較すると、<上げる・もらう>は<やる・もらう>に比較して基準反応率が高く、<上げる・下げる>は<上げる・下ろす>に比較して基準反応率が高い。この点では、<上げる・下げる>より<上げる・下ろす>の方がより一般的だということは適当な解釈とはいえない。しかし、<上げる・もらう>の方が<やる・もらう>よりより一般的であるということには矛盾がなく、したがって、単語・単語の水準での<上げる・もらう>は授受という特殊な動作を表すのに、単語・事物の水準ではその動作を表すのにより一般的な対語であることを意味し、それが系反応率の上で、

上げる・もらう>上げる・下げる

が対文、発語、誘発、認知テストの上に現れたと解釈するのが適当である。

(2) 各対語内での理解の高低を問題にすると、2つの特徴をあげることができる。第1は、上げる>下げる、上がる>降りる、上げる>下ろす、上げる<もらう、つく>消える、はく>脱ぐのように、動作・行為・現象について時間的に先立ち、次の動作・行為・現象の因となるものが理解度が高いことが指摘される。そして第2は、特に対語テストにおいて、乗る<降りる、かぶる<脱ぐのように、第1にあげた理由とは逆の関係で成立しているものは、より特殊な場面での動作・行為・現象を表し、それがより一般的な場面での動作・行為・現象を表す対語反応を引きおこし、そのために、(乗る)、(かぶる)の反応率を低めていることが指摘される。この視点でみれば、対文テストで、かぶる>脱ぐの関係が対語テストと逆の関係で成立するのは、「帽子を( )」という文脈が提出されているために、他のはく/脱ぐ、着る/脱ぐという対語と干渉し合うことがないためとみることができる。

なお、参考までに、動詞Bの対語テストおよび対文テストでの基準反応率をみると、対語テストでは6対語いずれにも有意差は認められず、対文テストでは、刺す>抜くに有意差が認められ、行為の先行し、後の抜くの因となる(刺す)語の方が基準反応率が高い。

4-3-30表 動詞B 対語テスト基準反応率

	N	%		N	%
1 動 く	32	18.8	1' 止 ま る	41	24.1
2 落 と す	9	5.3	2' 拾 う	7	4.1
3 刺 す	8	4.7	3' 抜 く	7	4.1
4 差 す	1	0.6	4' すぼめる	0	0
5 開 ける	57	23.5	5' し め る	51	30.0
6 明 ける	2	1.2	6' 暮 れ る	0	0

4-3-31表 動詞B 対語テスト基準反応の有意差検定

	$\chi^2$	df	P
1 動 く < 止 ま る	1.363	1	0.30
2 落 と す > 拾 う	0.100	1	0.80
3 拾 う < 落 と す	0	1	—
4 刺 す > 抜 く	0	1	—
5 差 す > すぼめる	0	1	—
6 開 ける > し め る	0.507	1	0.50

4-3-32表 動詞B 対文テスト基準反応率

	N	%		N	%
1 動 く	53	31.2	1' 止 ま る	43	25.3
2 落 と す	18	10.6	2' 拾 う	20	11.8
3 刺 す	44	25.9	3' 抜 く	19	11.2
4 差 す	37	21.8	4' すぼめる	31	18.2
5 開 ける	78	45.9	5' し め る	65	38.2
6 明 ける	65	38.2	6' 暮 れ る	53	31.2

4-3-33表 動詞B 対文テスト基準反応の有意差検定

	$\chi^2$	df	P
1 動 く > 止まる	1.429	1	0.30
2 拾 う > 落とす	0.100	1	0.80
3 刺 す > 抜く	12.114	1	0.01**
4 差 す > すぼめる	0.625	1	0.50
5 開ける > しめる	2.009	1	0.20
6 明ける > 暮れる	1.852	1	0.20

## 6 基準反応率・系反応率一覧表

(あいうえお順)

本項は「動詞」220語についての基準反応率および系反応率をそれぞれ正規順序および逆順序別に結果を分けて示したものである。

性状語および時間・空間語の基準反応率および系反応率に関しては4-1-17~18表および4-2-23表で明らかにされている。ただし、いずれも4, 5歳児クラスを含む集計結果である。

## 表の見方

## 1. 基準反応率表の例

語	対語	対文	対絵
	$\frac{\text{アト}}{\text{サキ}}(\quad)$	$\frac{\text{アト}}{\text{サキ}}(\quad)$	発語
あう a(会)b	f	f	
$\frac{103^c}{67^d}(170)^e$			$\frac{11.9^g}{7.8^h}(9.4)^i$

a…見出し語

b…見出し語の漢字

c…正順での被験者数

d…逆順での被験者数

e…全体の被験者数

f…テストしない項目

g…逆順テストによる基準反応率

h…正順テストによる基準反応率

i…全体の基準反応率

## 2. 系反応率表の例

語	対 語	対 文	対 絵
	$\frac{\text{アト}}{\text{サキ}}$ ( )	$\frac{\text{アト}}{\text{サキ}}$ ( )	発 語
$\frac{\text{あう}^{\text{a}} (\text{会})^{\text{b}}}{\text{わかる}^{\text{c}} (\text{別})}$	d	d	$\frac{0^{\text{e}}}{1.0^{\text{f}}} (0.6)^{\text{g}}$

a…見出し語

b…見出し語の漢字

c…逆順で後からテストされる語(再呈示の場合は見出し語が逆になる。例 B23→B23')

d…テストしない項目

e…逆順テストによる系反応率

f…正順テストによる系反応率

g…全体の系反応率

3. 基準反応率表, 系反応率表とも対語の形で示してあるので, 例えば, 〈あう・わかる〉は〈あう〉および〈わかる〉のそれぞれの項で示される。

4. 動詞テストの被験者の構成は次の通りである。

		A	B	C	D	計
地	域	184	170	187	179	720
岩	手	33	31	33	33	155
仙	台	39	34	37	38	175
東	京	35	33	37	37	168
京	都	40	39	39	36	176
和	歌 山	37	33	41	35	168
年	齢					
4	歳 児	87	84	96	85	352
5	歳 児	97	86	91	94	368
	性					
	男	89	86	92	89	356
	女	85	84	95	90	364

全被験者 720 名は上記の通りの属性を持ち, A~Dの配分はすべて無作為に決定された。

4-3-34 表 動詞テスト 基準反応率表(あいいうえお順)

( )内は全体の%。

テスト	語	対語 アト( ) サキ( )	対文			テスト	語	対語 アト( ) サキ( )	対絵			対文	対絵		
			発語	誘発	認知				発語	誘発	認知		発語	誘発	認知
B 23	あ 103 67 う(会)		11.9 7.8	38.8 21.4	85.1 75.7	B 23'	わかれる(別)				0 3.9	4.5 35.9	74.6 90.3	(84.1)	
A 3-2	あ 122 62 がる(上)	22.1 25.8				A 3'-2	おりる(降)	15.6 12.9	14.7	20.5 30.6					
B 62	あ 103 67 がる(上)		44.8 54.4	65.7 68.0	89.6 91.3	B 62'	おりる(降)				29.9 43.7	44.8 11.2	94.0 94.2	(94.1)	
C 23	あ 112 75 がる(上)	20.5 25.3				C 23'	おりる(降)	16.1 25.3	19.8	39.3 54.7	90.7 92.0	93.3 94.6	100.0 98.2	(98.9)	
C 4'-2	あ 112 75 がる(上)	25.0 25.3				C 4-2	さがる(下)	19.6 13.3	17.1	26.8 33.3					
B 4'-2	あ 103 67 ける(明)	1.9 0				B 4-2	くれる(降)	0 0	(0)	26.2 38.8					
B 31	あ 109 70 ける(明)		44.3 35.8	71.4 59.6	80.0 79.8	D 31	くれる(降)				17.1 20.2	42.9 49.5	72.9 72.5	(72.6)	

B 11	あける(開) $\frac{122}{62}$ (184)	$\frac{32.0}{35.8}$ (33.5)	$\frac{43.7}{49.3}$ (45.9)	$\frac{91.0}{93.2}$ (92.4)	$\frac{98.5}{99.0}$ (98.8)	$\frac{100.0}{99.0}$ (99.4)	B 11'	しめる(閉) $\frac{103}{67}$ (170)	$\frac{27.2}{34.3}$ (30.0)	$\frac{34.0}{44.8}$ (38.2)	$\frac{79.1}{86.4}$ (83.5)	$\frac{95.5}{93.2}$ (94.1)	$\frac{100.0}{100.0}$ (100.0)
C 42'	あける(開) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{30.7}{27.7}$ (28.9)	$\frac{37.3}{34.8}$ (35.8)	$\frac{92.0}{91.1}$ (91.4)	C 42	つつむ(包) $\frac{112}{75}$ (187)			$\frac{50.7}{53.6}$ (52.4)	$\frac{69.3}{66.1}$ (67.4)	$\frac{100.0}{96.4}$ (97.9)
A 33'	あける(明) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{72.6}{71.3}$ (71.7)	$\frac{83.9}{79.5}$ (81.0)	$\frac{88.7}{86.9}$ (87.5)	A 33'	つぶる(眠) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{77.0}{73.0}$ (75.0)	$\frac{88.7}{83.6}$ (85.3)	$\frac{96.8}{96.7}$ (96.7)
D 21	あける(開) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{71.4}{77.1}$ (74.9)	$\frac{74.3}{76.1}$ (75.4)	$\frac{90.0}{88.1}$ (88.8)	D 21'	とじる(閉) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{32.9}{28.4}$ (30.2)	$\frac{44.3}{31.2}$ (36.3)	$\frac{74.3}{71.6}$ (72.6)
A 2'-2	あげる(上) $\frac{122}{62}$ (184)	$\frac{15.6}{33.9}$ (21.7)	$\frac{36.1}{22.6}$ (31.5)				A 2-2	おろす(下) $\frac{122}{62}$ (184)	$\frac{5.7}{9.7}$ (7.1)	$\frac{26.2}{41.9}$ (31.5)			
B 52	あげる(上) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{17.9}{20.4}$ (19.4)	$\frac{40.3}{31.1}$ (34.7)	$\frac{86.6}{75.7}$ (80.0)	B 52'	おろす(下) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{9.0}{19.4}$ (15.3)	$\frac{26.9}{44.7}$ (37.6)	$\frac{92.5}{94.2}$ (93.5)
A 13	あげる(上) $\frac{122}{62}$ (184)	$\frac{25.4}{40.3}$ (30.4)	$\frac{72.1}{59.7}$ (67.9)	$\frac{80.6}{83.6}$ (82.6)	$\frac{93.5}{94.3}$ (94.0)	$\frac{100.0}{99.2}$ (99.5)	A 13'	さげる(下) $\frac{122}{62}$ (184)	$\frac{13.1}{14.5}$ (13.6)	$\frac{33.6}{24.2}$ (30.4)	$\frac{35.5}{38.5}$ (37.5)	$\frac{53.2}{47.5}$ (49.5)	$\frac{93.5}{91.8}$ (92.4)
A 65	あげる(上) $\frac{122}{62}$ (184)	$\frac{8.2}{14.5}$ (10.3)	$\frac{37.7}{38.7}$ (38.0)	$\frac{80.6}{81.1}$ (81.0)	$\frac{90.3}{88.5}$ (89.1)	$\frac{98.4}{97.5}$ (97.8)	A 65'	もらう(貰) $\frac{122}{62}$ (184)	$\frac{1.6}{1.6}$ (1.6)	$\frac{34.4}{37.1}$ (35.3)	$\frac{88.7}{69.7}$ (76.1)	$\frac{88.7}{79.5}$ (82.6)	$\frac{96.8}{94.3}$ (95.1)
D 64'	あげる(揚) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{20.0}{10.1}$ (14.0)	$\frac{22.9}{13.8}$ (17.3)	$\frac{60.0}{51.4}$ (54.7)	D 64	やく(焼) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{94.3}{91.7}$ (92.7)	$\frac{94.3}{98.2}$ (96.6)	$\frac{98.6}{100.0}$ (99.4)

D 44	あずける(預) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{7.1}{11.9}$ (10.1)	$\frac{32.9}{19.3}$ (24.6)	$\frac{71.4}{77.1}$ (74.9)	D 44'	$\frac{109}{70}$ (179)	うけとる(受)			$\frac{0}{0}$ (0)	$\frac{1.4}{7.3}$ (5.0)	$\frac{48.6}{42.2}$ (44.7)
A 32	あたえる(与) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{3.2}{0.8}$ (1.6)	$\frac{9.7}{6.6}$ (7.6)	$\frac{50.0}{45.9}$ (47.3)	A 32'	$\frac{122}{62}$ (184)	うばう(奪)			$\frac{0}{0}$ (0)	$\frac{3.2}{4.9}$ (4.3)	$\frac{82.3}{80.3}$ (81.0)
D 22	あたためる(暖) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{55.7}{56.0}$ (55.9)	$\frac{65.7}{69.7}$ (68.2)	$\frac{98.6}{97.2}$ (97.8)	D 22'	$\frac{109}{70}$ (179)	ひやす(冷)			$\frac{74.3}{67.9}$ (70.4)	$\frac{85.7}{84.4}$ (84.9)	$\frac{98.6}{97.2}$ (97.8)
A 41	あたる(当) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{14.5}{13.1}$ (13.6)	$\frac{33.9}{26.2}$ (28.8)	$\frac{88.7}{77.0}$ (81.0)	A 41	$\frac{122}{62}$ (184)	はずれる(外)			$\frac{9.7}{8.2}$ (8.7)	$\frac{16.1}{22.1}$ (20.1)	$\frac{88.7}{88.5}$ (88.6)
B 32	あつめる(集) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{22.4}{18.4}$ (20.0)	$\frac{52.2}{29.1}$ (38.2)	$\frac{97.0}{96.1}$ (96.5)	B 32'	$\frac{103}{67}$ (170)	ちらかす(散)			$\frac{10.4}{12.6}$ (11.8)	$\frac{19.4}{49.5}$ (37.6)	$\frac{95.5}{94.2}$ (94.7)
C 32	あまる(余) $\frac{112}{75}$ (187)			$\frac{22.7}{16.1}$ (18.7)	$\frac{49.3}{29.5}$ (37.4)	$\frac{92.0}{89.3}$ (90.4)	C 32'	$\frac{112}{75}$ (187)	(たりない)(足)			$\frac{13.3}{18.8}$ (16.6)	$\frac{22.7}{34.8}$ (29.9)	$\frac{81.3}{76.8}$ (78.6)
D 65	あむ(編) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{48.6}{55.0}$ (52.5)	$\frac{65.7}{65.1}$ (65.4)	$\frac{94.3}{95.4}$ (95.0)	D 65'	$\frac{109}{70}$ (179)	かける(掛)			$\frac{68.6}{65.1}$ (66.5)	$\frac{74.3}{75.2}$ (74.9)	$\frac{82.9}{85.3}$ (84.4)
C 74'	あやまる(謝) $\frac{112}{75}$ (187)			$\frac{18.7}{32.1}$ (26.7)	$\frac{48.0}{55.4}$ (52.4)	$\frac{100.0}{98.2}$ (98.9)	C 74	$\frac{112}{75}$ (187)	しかる(叱)			$\frac{25.3}{33.9}$ (30.5)	$\frac{44.0}{40.2}$ (41.7)	$\frac{96.0}{95.5}$ (95.7)
D 61	あらう(洗) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{87.1}{74.3}$ (79.3)	$\frac{95.7}{90.8}$ (92.7)	$\frac{100.0}{99.1}$ (99.4)	D 61'	$\frac{109}{70}$ (179)	しぼる(絞)			$\frac{42.9}{67.0}$ (57.5)	$\frac{67.1}{83.5}$ (77.1)	$\frac{91.4}{94.5}$ (93.3)

A 35'	あるく(歩) $\frac{122}{62}$ (184)				$\frac{32.3}{32.8}$ (32.6)	$\frac{46.8}{69.7}$ (62.0)	$\frac{93.5}{91.8}$ (92.4)	A 35	かける(駆) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{3.2}{4.1}$ (3.8)	$\frac{11.3}{10.7}$ (10.9)	$\frac{62.9}{73.0}$ (69.6)
D 32'	あるく(歩) $\frac{109}{70}$ (179)				$\frac{70.0}{81.7}$ (77.1)	$\frac{91.4}{91.7}$ (91.6)	$\frac{98.6}{98.2}$ (98.3)	D 32	はしる(走) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{77.1}{69.7}$ (72.6)	$\frac{85.7}{82.6}$ (83.3)	$\frac{98.6}{99.1}$ (98.9)
A 23	いく(行) $\frac{122}{62}$ (184)				$\frac{62.9}{58.2}$ (59.8)	$\frac{75.8}{73.8}$ (74.5)	$\frac{88.7}{85.2}$ (86.4)	A 23'	かえる(帰) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{83.9}{84.4}$ (84.2)	$\frac{93.5}{92.6}$ (92.9)	$\frac{96.8}{97.5}$ (97.3)
D 4'-2	いく(行) $\frac{109}{70}$ (179)	$\frac{15.6}{8.6}$ (12.8)	$\frac{47.7}{34.3}$ (42.5)					D 4-2	かえる(帰) $\frac{109}{70}$ (179)	$\frac{11.9}{2.9}$ (8.4)	$\frac{43.1}{37.1}$ (40.8)			
D 42	いく(行) $\frac{109}{70}$ (179)	$\frac{12.8}{5.7}$ (10.1)	$\frac{35.8}{42.9}$ (38.5)		$\frac{60.0}{68.8}$ (65.4)	$\frac{88.6}{87.2}$ (87.7)	$\frac{94.3}{89.9}$ (91.6)	D 42'	く(来) $\frac{109}{70}$ (179)	$\frac{3.7}{1.4}$ (2.8)	$\frac{23.9}{31.4}$ (26.8)		$\frac{44.3}{41.3}$ (42.5)	$\frac{67.1}{71.6}$ (69.8)
D 15	いじめる(苛) $\frac{109}{70}$ (179)				$\frac{21.4}{22.9}$ (22.3)	$\frac{51.4}{36.7}$ (42.5)	$\frac{98.6}{100.0}$ (99.4)	D 15'	かわかがる(可変) $\frac{109}{70}$ (179)				$\frac{62.9}{65.1}$ (64.2)	$\frac{98.6}{99.1}$ (98.9)
C 2'-1	いれる(入) $\frac{112}{75}$ (187)	$\frac{19.6}{8.0}$ (15.0)	$\frac{50.9}{49.3}$ (50.3)					C 2-1	だす(出) $\frac{112}{75}$ (187)	$\frac{12.5}{20.0}$ (15.5)	$\frac{57.1}{56.0}$ (56.7)			
D 14	いれる(入) $\frac{109}{70}$ (179)				$\frac{68.6}{67.0}$ (67.6)	$\frac{77.1}{73.4}$ (74.9)	$\frac{97.1}{94.5}$ (95.5)	D 14'	だす(出) $\frac{109}{70}$ (179)				$\frac{51.4}{47.7}$ (49.2)	$\frac{85.7}{85.3}$ (85.5)
C 13	うかぶ(浮) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{53.3}{48.2}$ (50.3)	$\frac{68.8}{74.7}$ (71.1)	$\frac{93.3}{90.2}$ (91.4)	C 13'	しずむ(沈) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{61.3}{70.5}$ (66.8)	$\frac{98.7}{92.0}$ (94.7)

D 44'	うけとる(受) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{0}{0}$ (0)	$\frac{1.4}{7.3}$ (5.0)	$\frac{48.6}{42.2}$ (44.7)	D 44	あずける(預) $\frac{109}{70}$ (179)		$\frac{7.1}{11.9}$ (10.1)	$\frac{32.9}{19.3}$ (24.6)	$\frac{71.4}{77.1}$ (74.9)
D 45	うけとる(受) $\frac{109}{70}$ (179)	$\frac{4.6}{1.4}$ (3.4)	$\frac{5.5}{11.4}$ (7.8)	$\frac{51.4}{44.0}$ (47.5)	$\frac{70.0}{60.6}$ (64.2)	$\frac{88.6}{85.3}$ (86.6)	D 45'	なげる(投) $\frac{109}{70}$ (179)	$\frac{7.3}{2.9}$ (5.6)	$\frac{88.5}{84.4}$ (86.0)	$\frac{95.7}{89.9}$ (92.2)	$\frac{100.0}{98.2}$ (98.9)
B 33	うごかず(動)			$\frac{52.2}{68.9}$ (62.4)	$\frac{64.2}{81.6}$ (74.7)	$\frac{95.5}{99.0}$ (97.6)	B 33'	とめる(止)		$\frac{17.9}{24.3}$ (24.7)	$\frac{29.9}{38.8}$ (35.3)	$\frac{56.7}{66.0}$ (12.4)
B 1'-1	うごく(動) $\frac{103}{67}$ (170)	$\frac{20.4}{16.4}$ (18.8)	$\frac{31.1}{31.3}$ (31.2)				B 1-1	とまる(止) $\frac{103}{67}$ (170)	$\frac{24.3}{23.9}$ (24.1)	$\frac{21.4}{31.3}$ (25.3)		
D 73	うたう(歌) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{94.3}{100.0}$ (97.8)	$\frac{98.5}{100.0}$ (99.4)	$\frac{98.6}{100.0}$ (99.4)	D 73'	おどる(踊) $\frac{109}{70}$ (179)		$\frac{45.7}{59.6}$ (54.2)	$\frac{52.9}{67.9}$ (62.0)	$\frac{94.3}{100.0}$ (97.8)
A 54	うつ(打) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{46.8}{39.3}$ (41.8)	$\frac{51.6}{44.3}$ (46.7)	$\frac{88.7}{94.3}$ (92.4)	A 54'	ぬく(放) $\frac{122}{62}$ (184)		$\frac{22.5}{27.0}$ (25.5)	$\frac{32.3}{36.1}$ (34.8)	$\frac{91.9}{86.1}$ (88.0)
C 75'	うつ(撃) $\frac{112}{75}$ (187)			$\frac{69.3}{81.3}$ (76.5)	$\frac{84.0}{92.0}$ (88.8)	$\frac{100.0}{97.3}$ (98.4)	C 75	なげる(投) $\frac{112}{75}$ (187)		$\frac{56.0}{71.4}$ (65.2)	$\frac{69.3}{78.6}$ (74.9)	$\frac{86.7}{93.8}$ (90.9)
A 32'	うばう(奪) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{0}{0}$ (0)	$\frac{3.2}{4.9}$ (4.3)	$\frac{82.3}{80.3}$ (81.0)	A 32	あたえる(与) $\frac{122}{62}$ (184)		$\frac{3.2}{0.8}$ (1.6)	$\frac{9.7}{6.6}$ (7.6)	$\frac{50.0}{45.9}$ (47.3)
A 51	うまれる(生) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{43.5}{55.7}$ (51.6)	$\frac{72.6}{68.9}$ (70.1)	$\frac{98.4}{95.9}$ (96.7)	A 51'	しぬ(死) $\frac{122}{62}$ (184)		$\frac{27.4}{39.3}$ (35.3)	$\frac{38.7}{69.7}$ (59.2)	$\frac{98.4}{95.9}$ (96.7)

A 31'	うめる(埋) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{29.0}{37.7}$ (34.8)	$\frac{50.0}{52.5}$ (51.6)	$\frac{93.5}{93.4}$ (93.5)	A 31	ほる(掘) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{79.0}{80.3}$ (79.0)	$\frac{88.7}{86.1}$ (87.0)	$\frac{98.4}{97.5}$ (97.8)
B 51	うる(売) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{10.4}{15.5}$ (13.5)	$\frac{29.9}{28.2}$ (28.8)	$\frac{94.0}{89.3}$ (91.2)	B 51'	かう(買) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{65.7}{25.2}$ (41.2)	$\frac{73.1}{48.5}$ (58.2)	$\frac{97.0}{96.1}$ (96.5)
B 55'	おう(送) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{47.8}{44.7}$ (45.9)	$\frac{55.2}{57.3}$ (56.5)	$\frac{80.6}{81.6}$ (81.2)	B 55	にげる(逃) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{59.7}{49.5}$ (53.5)	$\frac{77.6}{70.9}$ (73.5)	$\frac{100.0}{97.1}$ (98.2)
B 12	おきる(起) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{94.0}{80.6}$ (85.9)	$\frac{100.0}{95.1}$ (97.1)	$\frac{100.0}{100.0}$ (100.0)	B 12'	ねる(寝) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{98.5}{97.1}$ (97.6)	$\frac{100.0}{99.0}$ (99.4)	$\frac{100.0}{100.0}$ (100.0)
C 33	おく(置) $\frac{112}{75}$ (187)			$\frac{61.3}{62.5}$ (62.0)	$\frac{74.7}{73.2}$ (73.8)	$\frac{97.3}{96.4}$ (96.8)	C 33'	とる(取) $\frac{112}{75}$ (187)			$\frac{34.7}{37.5}$ (36.4)	$\frac{44.0}{49.1}$ (47.1)	$\frac{81.3}{81.3}$ (81.3)
D 33	おくる(送) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{24.3}{14.7}$ (18.4)	$\frac{47.1}{27.5}$ (35.2)	$\frac{78.6}{83.5}$ (81.6)	D 33'	むかえる(迎) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{40.0}{22.9}$ (29.6)	$\frac{50.0}{46.8}$ (48.0)	$\frac{82.9}{78.0}$ (79.9)
A 34	おくれる(遅) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{4.8}{11.5}$ (9.2)	$\frac{35.5}{34.4}$ (34.8)	$\frac{75.8}{71.3}$ (72.8)	A 34'	すすむ(進) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{6.5}{9.8}$ (8.7)	$\frac{21.0}{36.9}$ (31.5)	$\frac{66.1}{59.8}$ (62.5)
D 55'	おこす(起) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{12.9}{15.6}$ (14.5)	$\frac{20.0}{27.5}$ (24.6)	$\frac{88.6}{89.9}$ (89.4)	D 55	たおす(倒) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{55.7}{64.2}$ (60.9)	$\frac{71.4}{69.7}$ (70.4)	$\frac{91.4}{96.3}$ (94.4)
D 3'-1	おこす(起) $\frac{109}{70}$ (179)	$\frac{9.2}{5.7}$ (7.8)	$\frac{21.1}{5.7}$ (15.1)				D 3-1	ねかす(殺) $\frac{109}{70}$ (179)	$\frac{2.8}{1.4}$ (2.2)	$\frac{11.0}{15.7}$ (12.8)			
		$\frac{15.6}{11.4}$ (14.0)	$\frac{33.0}{14.3}$ (25.7)						$\frac{3.7}{8.6}$ (5.6)	$\frac{22.9}{18.6}$ (21.2)			

A 74'	おこす(起) $\frac{122}{62}(184)$				$\frac{14.5}{27.9}(23.4)$	$\frac{41.9}{52.5}(48.9)$	$\frac{91.9}{91.8}(91.8)$	A 74	ねかす(寝) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{58.1}{59.0}(58.7)$	$\frac{79.0}{73.8}(75.5)$	$\frac{98.4}{98.4}(98.4)$
D 51	おこる(怒) $\frac{109}{70}(179)$				$\frac{84.3}{85.3}(84.9)$	$\frac{94.3}{91.7}(92.7)$	$\frac{100.0}{99.1}(99.4)$	D 51'	わらう(笑) $\frac{109}{70}(179)$			$\frac{84.3}{78.0}(80.4)$	$\frac{94.3}{89.0}(91.1)$	$\frac{100.0}{98.2}(98.9)$
B 34	おさえる(押) $\frac{103}{67}(170)$				$\frac{34.3}{35.9}(35.3)$	$\frac{53.7}{50.5}(51.8)$	$\frac{88.1}{86.4}(87.6)$	B 34'	はなす(雑) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{25.4}{33.0}(30.0)$	$\frac{34.3}{51.5}(45.9)$	$\frac{74.6}{88.3}(82.9)$
A 52	おしえる(教) $\frac{122}{62}(184)$				$\frac{82.3}{86.1}(84.8)$	$\frac{95.2}{93.4}(94.0)$	$\frac{100.0}{99.2}(99.5)$	A 52'	ならう(習) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{4.8}{2.5}(3.3)$	$\frac{6.5}{5.7}(6.0)$	$\frac{88.7}{76.7}(90.2)$
B 75	おしえる(教) $\frac{103}{67}(170)$				$\frac{76.1}{71.8}(73.5)$	$\frac{86.6}{82.5}(84.1)$	$\frac{97.0}{97.1}(97.1)$	B 75'	たずねる(尋) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{3.0}{0}(1.2)$	$\frac{4.5}{6.8}(5.9)$	$\frac{74.6}{76.7}(75.9)$
D 12'	おす(押) $\frac{109}{70}(179)$				$\frac{40.0}{33.0}(35.8)$	$\frac{52.9}{50.5}(51.4)$	$\frac{87.1}{81.7}(83.8)$	D 12	ひく(引) $\frac{109}{70}(179)$			$\frac{20.0}{26.6}(24.0)$	$\frac{45.7}{41.3}(43.0)$	$\frac{84.3}{72.5}(77.1)$
C 72	おちる(落) $\frac{112}{75}(187)$				$\frac{80.0}{81.3}(80.7)$	$\frac{85.3}{89.3}(87.7)$	$\frac{100.0}{99.1}(99.5)$	C 72'	のる(乗) $\frac{112}{75}(187)$			$\frac{96.0}{95.5}(95.7)$	$\frac{97.3}{97.3}(97.3)$	$\frac{100.0}{99.1}(99.5)$
B 13	おとす(落) $\frac{103}{67}(170)$	$\frac{6.8}{3.0}(5.3)$	$\frac{13.6}{6.0}(10.6)$		$\frac{82.1}{83.5}(82.9)$	$\frac{92.5}{92.2}(92.4)$	$\frac{95.5}{99.0}(97.6)$	B 13'	ひろう(拾) $\frac{103}{67}(170)$	$\frac{2.9}{6.0}(4.1)$	$\frac{6.8}{19.4}(11.8)$	$\frac{53.7}{61.2}(58.2)$	$\frac{70.1}{76.7}(74.1)$	$\frac{92.5}{97.1}(95.3)$
D 73'	おどる(踊) $\frac{109}{70}(179)$				$\frac{45.7}{59.6}(54.2)$	$\frac{52.9}{67.9}(62.0)$	$\frac{94.3}{100.0}(97.8)$	D 73	うたう(歌) $\frac{109}{70}(179)$			$\frac{94.3}{100.0}(97.8)$	$\frac{98.6}{100.0}(99.4)$	$\frac{98.6}{100.0}(99.4)$

B 54'	(おなじ)(同) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{19.4}{35.9}$ (29.4)	$\frac{47.8}{71.8}$ (62.4)	$\frac{74.6}{88.3}$ (82.9)	B 54	ちかう(進) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{28.4}{34.0}$ (31.8)	$\frac{61.2}{54.4}$ (57.1)	$\frac{85.1}{83.5}$ (84.1)	
B 64	おぼれる(溺) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{20.9}{25.2}$ (23.5)	$\frac{37.9}{35.8}$ (37.1)	$\frac{86.6}{89.3}$ (88.2)	B 64'	たすかる(助) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{62.7}{59.2}$ (60.6)	$\frac{77.6}{75.7}$ (76.5)	$\frac{100.0}{95.1}$ (97.1)	
A 3'-2	おりる(降) $\frac{122}{62}$ (184)	$\frac{15.6}{12.9}$ (14.7)	$\frac{20.5}{30.6}$ (23.9)				A 3-2	あがる(上) $\frac{122}{62}$ (184)	$\frac{22.1}{25.8}$ (23.4)	$\frac{15.6}{21.0}$ (17.4)				
B 62'	おりる(降) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{29.9}{43.7}$ (38.2)	$\frac{44.8}{61.2}$ (54.7)	$\frac{94.0}{94.2}$ (94.1)	B 62	あがる(上) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{44.8}{54.4}$ (50.6)	$\frac{65.7}{68.0}$ (67.1)	$\frac{89.6}{91.3}$ (90.6)	
C 23'	おりる(降) $\frac{112}{75}$ (187)	$\frac{16.1}{25.3}$ (19.8)	$\frac{39.3}{54.7}$ (45.5)	$\frac{90.7}{92.0}$ (91.4)	$\frac{93.3}{94.6}$ (94.1)	$\frac{100.0}{98.2}$ (98.9)	C 23	あがる(上) $\frac{112}{75}$ (187)	$\frac{20.5}{25.3}$ (22.5)	$\frac{36.6}{52.0}$ (42.8)		$\frac{65.3}{61.6}$ (63.1)	$\frac{73.3}{75.0}$ (74.3)	$\frac{98.7}{100.0}$ (99.5)
A 11'	おりる(降) $\frac{122}{62}$ (184)	$\frac{13.1}{22.6}$ (16.3)	$\frac{61.5}{58.1}$ (60.3)	$\frac{95.2}{93.4}$ (94.0)	$\frac{100.0}{97.5}$ (98.4)	$\frac{100.0}{99.2}$ (99.5)	A 11	のる(乗) $\frac{122}{62}$ (184)	$\frac{7.4}{9.7}$ (8.2)		$\frac{54.1}{56.5}$ (54.9)	$\frac{85.5}{92.6}$ (90.2)	$\frac{98.4}{96.7}$ (97.3)	$\frac{98.4}{98.4}$ (98.4)
B 31'	おりる(降) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{40.3}{57.3}$ (50.6)	$\frac{64.2}{72.8}$ (69.4)	$\frac{88.1}{98.1}$ (94.1)	B 31	のぼる(登) $\frac{103}{67}$ (170)				$\frac{91.0}{90.3}$ (90.6)	$\frac{98.5}{99.0}$ (98.8)	$\frac{100.0}{99.0}$ (99.4)
C 34	おる(折) $\frac{112}{75}$ (187)			$\frac{72.0}{75.0}$ (73.8)	$\frac{88.0}{85.7}$ (86.6)	$\frac{100.0}{98.2}$ (98.9)	C 34'	つなぐ(繋) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{4.0}{0.9}$ (2.1)	$\frac{9.3}{6.3}$ (7.5)	$\frac{90.7}{80.4}$ (84.5)
A 2-2	おろす(下) $\frac{122}{62}$ (184)	$\frac{5.7}{9.7}$ (7.1)	$\frac{26.2}{41.9}$ (31.5)				A 2'-2	あげる(上) $\frac{122}{62}$ (184)	$\frac{15.6}{33.9}$ (21.7)	$\frac{36.1}{22.6}$ (31.5)				

B 52'	おろす(下) $\frac{103}{67}$ (170)				$\frac{9.0}{19.4}$ (15.3)	$\frac{26.9}{44.7}$ (37.6)	$\frac{92.5}{94.2}$ (93.5)	B 52	あげる(上) $\frac{103}{67}$ (170)		$\frac{17.9}{20.4}$ (19.4)	$\frac{40.3}{31.1}$ (34.7)	$\frac{86.6}{75.7}$ (80.0)
B 71'	おろす(下) $\frac{103}{67}$ (170)				$\frac{56.7}{60.2}$ (58.8)	$\frac{70.1}{81.6}$ (77.1)	$\frac{98.5}{95.1}$ (96.5)	B 71	かつく(扭) $\frac{103}{67}$ (170)		$\frac{13.4}{11.7}$ (12.4)	$\frac{17.9}{13.6}$ (15.3)	$\frac{98.5}{94.2}$ (95.9)
C 61'	おろす(下) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{28.0}{47.3}$ (39.6)	$\frac{48.0}{76.8}$ (65.2)	$\frac{90.7}{92.0}$ (91.4)	C 61	せおう(背) $\frac{112}{75}$ (187)		$\frac{1.3}{1.8}$ (1.6)	$\frac{10.7}{5.4}$ (7.5)	$\frac{69.3}{59.8}$ (63.6)
C 55'	おろす(下) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{49.3}{63.4}$ (57.8)	$\frac{68.0}{73.2}$ (71.1)	$\frac{94.7}{95.5}$ (95.2)	C 55	つむ(積) $\frac{112}{75}$ (187)		$\frac{24.0}{21.4}$ (22.5)	$\frac{34.7}{32.1}$ (33.2)	$\frac{100.0}{98.2}$ (98.9)
A 21	おろす(降) $\frac{122}{62}$ (184)				$\frac{43.5}{36.9}$ (39.1)	$\frac{53.2}{42.6}$ (46.2)	$\frac{82.3}{82.8}$ (82.6)	A 21'	のせる(乗) $\frac{122}{62}$ (184)		$\frac{54.8}{47.5}$ (50.0)	$\frac{62.9}{55.7}$ (58.2)	$\frac{91.9}{84.4}$ (87.0)
C 3'-2	おろす(降) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{13.4}{12.0}$ (12.8)	$\frac{41.1}{45.3}$ (42.8)		C 3-2	のせる(乗) $\frac{112}{75}$ (187)				
B 21'	おわる(終) $\frac{103}{67}$ (170)				$\frac{38.8}{55.3}$ (48.8)	$\frac{64.2}{80.6}$ (74.1)	$\frac{89.6}{98.1}$ (94.7)	B 21	はじまる(始) $\frac{103}{67}$ (170)		$\frac{49.3}{43.7}$ (45.9)	$\frac{79.1}{74.8}$ (76.5)	$\frac{95.5}{96.1}$ (95.9)
B 51'	かう(買) $\frac{103}{67}$ (170)				$\frac{65.7}{23.2}$ (41.2)	$\frac{73.1}{48.5}$ (58.2)	$\frac{97.0}{96.1}$ (96.5)	B 51	うる(売) $\frac{103}{67}$ (170)		$\frac{10.4}{15.5}$ (13.5)	$\frac{29.9}{28.2}$ (28.8)	$\frac{94.0}{89.3}$ (91.2)
D 4-2	かえる(帰) $\frac{109}{70}$ (179)				$\frac{11.9}{2.9}$ (8.4)	$\frac{43.1}{37.1}$ (40.8)		D 4'-2	いく(行) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{15.6}{8.6}$ (12.8)	$\frac{47.7}{34.3}$ (42.5)

A 23'	かえる(帰) $\frac{122}{62}(184)$	$\frac{83.9}{84.4}(84.2)$	$\frac{93.5}{92.6}(92.9)$	$\frac{96.8}{97.5}(97.3)$	A 23	い $\frac{122}{62}(184)$		$\frac{62.9}{58.2}(59.8)$	$\frac{75.8}{73.8}(74.5)$	$\frac{88.7}{85.2}(86.4)$
D 34	かかる(罹) $\frac{109}{70}(179)$	$\frac{8.6}{6.4}(7.3)$	$\frac{18.6}{25.7}(22.9)$	$\frac{57.1}{57.8}(57.5)$	D 34'	なおる(直) $\frac{109}{70}(179)$		$\frac{87.1}{92.7}(90.5)$	$\frac{97.1}{98.2}(97.8)$	$\frac{98.6}{99.1}(98.9)$
C 65	か $\frac{112}{75}(187)$	$\frac{100.0}{99.1}(99.5)$	$\frac{100.0}{99.1}(99.5)$	$\frac{100.0}{99.1}(99.5)$	C 65'	けす(消) $\frac{112}{75}(187)$		$\frac{96.0}{99.1}(97.9)$	$\frac{97.3}{99.1}(98.4)$	$\frac{98.7}{99.1}(98.9)$
C 73	か $\frac{112}{75}(187)$	$\frac{98.7}{98.2}(98.4)$	$\frac{98.7}{98.2}(98.4)$	$\frac{98.7}{98.2}(98.4)$	C 73'	ぬる(塗) $\frac{112}{75}(187)$		$\frac{82.7}{92.0}(88.2)$	$\frac{89.3}{95.5}(93.0)$	$\frac{98.7}{99.1}(98.9)$
D 52	か $\frac{109}{70}(179)$	$\frac{94.3}{95.4}(95.0)$	$\frac{100.0}{97.2}(98.3)$	$\frac{100.0}{100.0}(100.0)$	D 52'	よむ(読) $\frac{109}{70}(179)$		$\frac{51.4}{60.6}(57.0)$	$\frac{70.0}{70.6}(70.4)$	$\frac{91.4}{97.2}(95.0)$
B 45'	かくれる(隠) $\frac{103}{67}(170)$	$\frac{34.3}{39.8}(37.6)$	$\frac{49.3}{57.3}(54.1)$	$\frac{97.0}{96.1}(96.5)$	B 45	みえる(見) $\frac{103}{67}(170)$		$\frac{7.5}{1.9}(4.1)$	$\frac{10.4}{8.7}(9.4)$	$\frac{86.6}{86.4}(86.5)$
D 65'	かける(掛) $\frac{109}{70}(179)$	$\frac{68.6}{65.1}(66.5)$	$\frac{74.3}{75.2}(74.9)$	$\frac{82.9}{85.3}(84.4)$	D 65	あむ(編) $\frac{109}{70}(179)$		$\frac{48.6}{55.0}(52.5)$	$\frac{65.7}{65.1}(65.4)$	$\frac{94.3}{95.4}(95.0)$
A 35	かける(駆) $\frac{122}{62}(184)$	$\frac{3.2}{4.1}(3.8)$	$\frac{11.3}{10.7}(10.9)$	$\frac{62.9}{73.0}(69.6)$	A 35'	ある $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{46.8}{69.7}(62.0)$	$\frac{93.5}{91.8}(92.4)$
A 53	かける(掛) $\frac{122}{62}(184)$	$\frac{29.0}{30.3}(29.9)$	$\frac{45.2}{45.9}(45.7)$	$\frac{90.3}{87.7}(88.6)$	A 53'	はずす(外) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{11.3}{7.4}(8.7)$	$\frac{19.4}{16.4}(17.4)$

C 62	かける(掛) $\frac{122}{75}(187)$		$\frac{65.3}{68.8}(67.4)$	$\frac{73.3}{77.7}(75.9)$	$\frac{88.0}{86.6}(87.2)$	C 62'	ふく(貳) $\frac{112}{75}(187)$		$\frac{94.7}{92.0}(93.0)$	$\frac{97.3}{94.6}(95.7)$	$\frac{98.7}{97.3}(97.9)$
C 53	かたまる(固) $\frac{112}{75}(187)$		$\frac{10.7}{14.3}(12.6)$	$\frac{25.3}{21.4}(23.0)$	$\frac{92.0}{87.5}(89.3)$	C 53'	とける(溶) $\frac{112}{75}(187)$		$\frac{85.3}{80.4}(82.4)$	$\frac{89.3}{92.9}(91.4)$	$\frac{100.0}{97.3}(98.4)$
C 12	かつ(勝) $\frac{112}{75}(187)$		$\frac{52.0}{43.8}(47.1)$	$\frac{93.3}{92.9}(93.0)$	$\frac{97.3}{98.2}(97.9)$	C 12'	まける(負) $\frac{112}{75}(187)$		$\frac{49.3}{42.9}(45.5)$	$\frac{94.7}{95.5}(95.2)$	$\frac{98.7}{99.1}(98.9)$
B 71	かつぐ(担) $\frac{103}{67}(170)$		$\frac{13.4}{11.7}(12.4)$	$\frac{17.9}{13.6}(15.3)$	$\frac{98.5}{94.2}(95.9)$	B 71'	おろす(下) $\frac{103}{67}(170)$		$\frac{56.7}{60.2}(58.8)$	$\frac{70.1}{81.6}(77.1)$	$\frac{98.5}{95.1}(96.5)$
D 43'	かなしむ(悲) $\frac{109}{70}(179)$		$\frac{0}{1.8}(1.1)$	$\frac{2.9}{14.7}(10.1)$	$\frac{97.1}{96.3}(96.6)$	D 43	よろこぶ(喜) $\frac{109}{70}(179)$		$\frac{22.9}{11.9}(16.2)$	$\frac{57.1}{36.7}(44.7)$	$\frac{98.6}{99.1}(98.9)$
A 4-3	かぶる(被) $\frac{122}{62}(184)$	$\frac{0.8}{0}(0.5)$		$\frac{43.4}{51.6}(46.2)$		A 4'-3	ぬぐ(脱) $\frac{122}{62}(184)$	$\frac{9.8}{12.9}(10.9)$			
B 35	かぶる(被) $\frac{103}{67}(170)$		$\frac{89.6}{93.2}(91.8)$	$\frac{98.5}{98.1}(98.2)$	$\frac{100.0}{100.0}(100.0)$	B 35'	ぬぐ(脱) $\frac{103}{67}(170)$		$\frac{32.8}{41.7}(38.2)$	$\frac{43.3}{52.4}(48.8)$	$\frac{85.1}{92.2}(89.4)$
C 51	かれる(枯) $\frac{112}{75}(187)$		$\frac{30.7}{43.8}(38.5)$	$\frac{76.0}{57.1}(64.7)$	$\frac{93.3}{96.4}(95.2)$	C 51'	しげる(茂) $\frac{112}{75}(187)$		$\frac{0}{1.8}(1.1)$	$\frac{0}{2.7}(1.6)$	$\frac{40.0}{25.0}(31.0)$
D 15'	かわがる(可愛) $\frac{109}{70}(179)$		$\frac{44.3}{36.7}(39.7)$	$\frac{62.9}{65.1}(64.2)$	$\frac{98.6}{99.1}(98.9)$	D 15	いじめる(苛) $\frac{109}{70}(179)$		$\frac{21.4}{22.9}(22.3)$	$\frac{51.4}{36.7}(42.5)$	$\frac{98.6}{100.0}(99.4)$

B 14	かわく(乾) $\frac{103}{67}(170)$				$\frac{50.7}{48.5}(49.4)$	$\frac{79.1}{74.8}(76.5)$	$\frac{88.5}{99.0}(88.8)$	B 14'	ぬれる(濡) $\frac{103}{67}(170)$				$\frac{32.8}{37.9}(35.9)$	$\frac{46.3}{57.3}(52.9)$	$\frac{100.0}{99.0}(99.4)$
A 14'	きえる(消) $\frac{122}{62}(184)$	$\frac{3.3}{6.5}(4.3)$		$\frac{27.9}{37.1}(31.0)$	$\frac{38.7}{48.4}(45.1)$	$\frac{62.9}{71.3}(68.5)$	$\frac{95.2}{94.3}(94.6)$	A 14	つく(点) $\frac{122}{62}(184)$		$\frac{13.1}{21.0}(15.8)$	$\frac{50.0}{58.1}(52.7)$	$\frac{77.4}{82.8}(81.0)$	$\frac{93.5}{94.3}(94.0)$	$\frac{95.2}{96.7}(96.2)$
D 53	きく(聞) $\frac{109}{70}(179)$				$\frac{87.1}{83.5}(84.9)$	$\frac{92.9}{89.0}(90.5)$	$\frac{94.3}{98.2}(96.6)$	D 53'	はなす(話) $\frac{109}{70}(179)$				$\frac{60.0}{50.5}(54.2)$	$\frac{67.1}{62.4}(64.2)$	$\frac{91.4}{88.1}(89.4)$
A 1-2	きる(着) $\frac{122}{62}(184)$	$\frac{76.2}{27.4}(26.6)$		$\frac{45.1}{54.8}(48.4)$				A 4'-2	ぬく(脱) $\frac{122}{62}(184)$		$\frac{18.0}{19.4}(18.5)$	$\frac{44.3}{37.1}(41.8)$			
D 72'	きる(着) $\frac{109}{70}(179)$				$\frac{88.6}{85.3}(86.6)$	$\frac{95.7}{95.4}(95.5)$	$\frac{98.6}{100.0}(99.4)$	D 11	ぬく(脱) $\frac{109}{70}(179)$				$\frac{87.1}{90.8}(89.4)$	$\frac{97.1}{98.2}(97.8)$	$\frac{98.6}{100.0}(99.4)$
C 35	きる(切) $\frac{112}{75}(187)$				$\frac{98.7}{97.3}(97.9)$	$\frac{98.7}{98.2}(98.4)$	$\frac{98.7}{98.2}(98.4)$	C 35'	はる(張) $\frac{112}{75}(187)$				$\frac{80.0}{73.9}(77.5)$	$\frac{85.3}{83.9}(84.5)$	$\frac{100.0}{98.2}(98.9)$
A	きれになる(綺麗) $\frac{122}{62}(184)$				$\frac{77.4}{78.7}(78.3)$	$\frac{82.3}{83.6}(83.2)$	$\frac{96.8}{99.2}(98.4)$	A 72	よこれる(汚) $\frac{122}{62}(184)$				$\frac{17.7}{18.9}(18.5)$	$\frac{32.3}{22.1}(25.5)$	$\frac{98.4}{93.4}(95.1)$
D 35	きれ(切) $\frac{109}{70}(179)$				$\frac{14.3}{20.2}(17.9)$	$\frac{45.7}{37.6}(40.8)$	$\frac{97.1}{93.6}(95.0)$	D 35'	つながる(繋) $\frac{109}{70}(179)$				$\frac{4.3}{3.7}(3.9)$	$\frac{8.6}{18.3}(14.5)$	$\frac{88.6}{94.5}(92.2)$
D 42'	くる(来) $\frac{109}{70}(179)$	$\frac{3.7}{1.4}(2.8)$		$\frac{23.9}{31.4}(26.8)$	$\frac{22.9}{24.8}(24.0)$	$\frac{44.3}{41.3}(42.5)$	$\frac{67.1}{71.6}(69.8)$	D 42	いく(行) $\frac{109}{70}(179)$		$\frac{12.8}{5.7}(10.1)$	$\frac{35.8}{42.9}(38.5)$	$\frac{60.0}{65.8}(65.4)$	$\frac{88.6}{87.2}(87.7)$	$\frac{94.3}{89.9}(91.6)$

B 4-2	くれる(華) $\frac{103}{67}(170)$	$\frac{0}{0}(0)$	$\frac{26.2}{38.8}(31.2)$							$\frac{103}{67}$	あける(明) $\frac{103}{67}$	$\frac{1.9}{0}(1.2)$	$\frac{39.3}{35.8}(38.2)$				
D 31'	くれる(華) $\frac{109}{70}(179)$	$\frac{17.1}{20.2}(17.9)$	$\frac{42.9}{49.5}(46.9)$	$\frac{72.9}{72.5}(72.6)$						D 31	あける(明) $\frac{109}{70}$		$\frac{44.3}{35.8}(39.1)$	$\frac{71.4}{59.6}(64.2)$	$\frac{80.0}{79.8}(79.9)$		
A 45	くわえる(加) $\frac{122}{62}(184)$	$\frac{0}{0}(0)$	$\frac{3.2}{2.5}(2.7)$	$\frac{32.3}{37.7}(35.9)$						A 45'	へらす(減) $\frac{122}{62}$		$\frac{0}{0}(0)$	$\frac{0}{19.7}(13.0)$	$\frac{75.8}{85.2}(82.1)$		
C 65'	けす(消) $\frac{112}{75}(187)$	$\frac{96.0}{99.1}(97.9)$	$\frac{97.3}{99.1}(98.4)$	$\frac{98.7}{99.1}(98.9)$						C 65	かく(晝) $\frac{112}{75}$		$\frac{100.0}{99.1}(99.5)$	$\frac{100.0}{99.1}(99.5)$	$\frac{100.0}{99.1}(99.5)$		
D 13'	けす(消) $\frac{109}{70}(179)$	$\frac{66.7}{72.3}(81.0)$	$\frac{84.0}{87.5}(88.8)$	$\frac{97.3}{98.2}(99.4)$						D 13	つける(点) $\frac{109}{70}$		$\frac{53.3}{50.9}(94.4)$	$\frac{58.7}{98.5}(97.2)$	$\frac{98.6}{100.0}(99.4)$		
C 22'	けす(消) $\frac{112}{75}(187)$	$\frac{66.7}{72.3}(70.1)$	$\frac{84.0}{87.5}(86.1)$	$\frac{97.3}{98.2}(97.9)$						C 22	もす(燃) $\frac{112}{75}$		$\frac{53.3}{50.9}(51.9)$	$\frac{58.7}{98.5}(62.0)$	$\frac{94.7}{99.8}(94.1)$		
B 41'	こたえる(答) $\frac{103}{67}(170)$	$\frac{9.0}{10.7}(10.0)$	$\frac{13.4}{27.2}(21.8)$	$\frac{77.6}{75.7}(76.5)$						B 41	たずねる(尋) $\frac{103}{67}$		$\frac{0}{1.0}(0.6)$	$\frac{6.0}{4.9}(5.3)$	$\frac{47.8}{56.3}(52.9)$		
A 15	こむ(込) $\frac{122}{62}(184)$	$\frac{12.9}{20.5}(17.9)$	$\frac{40.3}{38.5}(39.1)$	$\frac{90.3}{91.0}(90.8)$						A 15	すく(透) $\frac{122}{62}$		$\frac{24.2}{27.9}(26.6)$	$\frac{45.2}{53.3}(50.5)$	$\frac{80.6}{82.0}(81.5)$		
C 31'	ころす(殺) $\frac{112}{75}(187)$	$\frac{22.7}{20.5}(21.4)$	$\frac{26.7}{38.4}(33.7)$	$\frac{96.0}{98.2}(97.3)$						C 31	にかす(逃) $\frac{112}{75}$		$\frac{32.0}{27.7}(29.4)$	$\frac{62.7}{43.8}(51.3)$	$\frac{100.0}{97.3}(98.4)$		

D 75'	$\frac{109}{70}$ (179)	ころぶ(転)				$\frac{15.7}{23.9}$ (20.7)	$\frac{24.3}{55.0}$ (43.0)	$\frac{91.4}{98.2}$ (95.5)	D 75	とぶ(飛)		$\frac{37.1}{37.6}$ (37.4)	$\frac{65.7}{51.4}$ (57.0)	$\frac{91.4}{84.4}$ (87.2)
D 23	$\frac{109}{70}$ (179)	こわす(壊)				$\frac{45.7}{48.6}$ (47.9)	$\frac{57.1}{68.8}$ (64.2)	$\frac{94.3}{99.1}$ (97.2)	D 23'	なおす(直)		$\frac{68.6}{67.9}$ (68.2)	$\frac{78.6}{83.5}$ (81.6)	$\frac{94.3}{99.1}$ (97.2)
C 4-2	$\frac{112}{75}$ (187)	さがる(下)	$\frac{19.6}{13.3}$ (17.1)	$\frac{26.8}{33.3}$ (29.4)					C 4'-2	あがる(上)	$\frac{25.0}{25.3}$ (25.1)	$\frac{49.1}{52.0}$ (50.3)		
C 71	$\frac{112}{75}$ (187)	さく(咲)				$\frac{89.3}{83.0}$ (85.6)	$\frac{92.0}{89.3}$ (90.4)	$\frac{100.0}{97.3}$ (98.4)	C 71'	しほむ(萎)		$\frac{12.0}{31.3}$ (23.5)	$\frac{24.0}{42.9}$ (35.3)	$\frac{88.0}{87.5}$ (87.7)
A 24	$\frac{122}{62}$ (184)	さく(咲)				$\frac{62.9}{77.0}$ (72.3)	$\frac{82.3}{82.0}$ (82.1)	$\frac{100.0}{99.2}$ (99.5)	A 24'	ちる(散)		$\frac{21.0}{24.6}$ (23.4)	$\frac{24.2}{32.8}$ (29.9)	$\frac{85.5}{86.9}$ (86.4)
A 13'	$\frac{122}{62}$ (184)	さげる(下)	$\frac{13.1}{14.5}$ (13.6)	$\frac{33.6}{24.2}$ (30.4)		$\frac{35.5}{38.5}$ (37.5)	$\frac{53.2}{47.5}$ (49.5)	$\frac{93.5}{91.8}$ (92.4)	A 13	あげる(上)	$\frac{25.4}{40.3}$ (30.4)	$\frac{72.1}{59.7}$ (67.9)	$\frac{80.6}{83.6}$ (82.6)	$\frac{100.0}{99.2}$ (99.5)
B 3'-2	$\frac{103}{67}$ (170)	さす(差)	$\frac{1.0}{0}$ (0.6)	$\frac{26.2}{14.9}$ (21.8)					B 3-2	すぼめる(窄)	$\frac{0}{0}$ (0)	$\frac{15.5}{22.4}$ (18.2)		
C 41	$\frac{112}{75}$ (187)	さす(差)				$\frac{70.7}{59.8}$ (64.2)	$\frac{80.0}{70.5}$ (74.3)	$\frac{100.0}{97.3}$ (98.4)	C 41'	すぼめる(窄)		$\frac{26.7}{30.4}$ (28.9)	$\frac{42.7}{47.3}$ (45.5)	$\frac{85.3}{80.4}$ (82.4)
B 25	$\frac{103}{67}$ (170)	さす(削)	$\frac{3.9}{6.0}$ (4.7)	$\frac{28.2}{22.4}$ (25.9)		$\frac{61.2}{73.8}$ (68.8)	$\frac{86.6}{86.4}$ (86.5)	$\frac{91.0}{93.2}$ (92.4)	B 25'	ぬく(抜)	$\frac{2.9}{6.0}$ (4.1)	$\frac{9.7}{13.4}$ (11.2)	$\frac{37.3}{43.7}$ (41.2)	$\frac{71.6}{83.5}$ (78.8)

B 74	さわぐ(騒) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{4.5}{13.6}(10.0)$	$\frac{47.8}{31.1}(36.5)$	$\frac{98.5}{96.1}(97.1)$	B 74'	$\frac{103}{67}(170)$ (しずかにする)(静)			$\frac{7.5}{14.6}(11.8)$	$\frac{17.9}{51.5}(38.2)$	$\frac{98.5}{98.1}(98.2)$	
B 53	しかる(叱) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{10.4}{14.6}(12.9)$	$\frac{34.3}{29.1}(31.2)$	$\frac{88.1}{95.1}(92.4)$	B 53'	ほめる(誉) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{4.5}{9.7}(7.6)$	$\frac{11.9}{31.1}(23.5)$	$\frac{92.5}{95.1}(94.1)$	
C 74	しかる(叱) $\frac{112}{75}(187)$			$\frac{25.3}{33.9}(30.5)$	$\frac{44.0}{40.2}(41.7)$	$\frac{96.0}{95.5}(95.7)$	C 74'	あやまる(謝) $\frac{112}{75}(187)$			$\frac{18.7}{32.1}(26.7)$	$\frac{48.0}{55.4}(52.4)$	$\frac{100.0}{98.2}(98.9)$	
A 45	しづめる(黙) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{38.7}{45.1}(42.9)$	$\frac{58.1}{62.3}(60.9)$	$\frac{93.5}{86.9}(89.1)$	A 42'	たたむ(畳) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{64.5}{56.6}(69.2)$	$\frac{71.0}{75.4}(73.9)$	$\frac{96.8}{96.7}(96.7)$	
C 51'	しづめる(黙) $\frac{112}{75}(187)$			$\frac{0}{1.8}(1.1)$	$\frac{0}{2.7}(1.6)$	$\frac{40.0}{25.0}(31.0)$	C 51	かれる(枯) $\frac{112}{75}(187)$			$\frac{30.7}{43.8}(38.5)$	$\frac{76.0}{57.1}(64.7)$	$\frac{93.3}{96.4}(95.2)$	
B 74'	(しずかにする)(静) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{7.5}{14.6}(11.8)$	$\frac{17.9}{51.5}(38.2)$	$\frac{98.5}{98.1}(98.2)$	B 74	さわぐ(騒) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{4.5}{13.6}(10.0)$	$\frac{47.8}{31.1}(36.5)$	$\frac{98.5}{96.1}(97.1)$	
C 13'	しずむ(沈) $\frac{112}{75}(187)$			$\frac{34.7}{43.8}(40.1)$	$\frac{61.3}{70.5}(66.8)$	$\frac{98.7}{92.0}(94.7)$	C 13	うかぶ(浮) $\frac{112}{75}(187)$				$\frac{53.2}{48.2}(50.3)$	$\frac{68.8}{74.7}(71.1)$	$\frac{99.3}{90.2}(91.4)$
A 51'	しぬ(死) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{27.4}{39.3}(35.3)$	$\frac{38.7}{69.7}(59.2)$	$\frac{98.4}{95.9}(96.7)$	A 51	うまれる(生) $\frac{122}{62}(184)$				$\frac{43.5}{55.7}(51.6)$	$\frac{72.6}{68.9}(70.1)$	$\frac{98.4}{95.7}(96.7)$
C 54	しばる(縛) $\frac{112}{75}(187)$	$\frac{9.8}{8.0}(9.1)$	$\frac{17.0}{9.3}(13.9)$	$\frac{14.7}{24.1}(20.3)$	$\frac{25.3}{28.6}(27.3)$	$\frac{98.7}{97.3}(97.9)$	C 54'	ほどく(解) $\frac{112}{75}(187)$	$\frac{8.9}{21.3}(13.9)$	$\frac{16.1}{41.3}(26.2)$	$\frac{52.0}{55.4}(54.0)$	$\frac{58.7}{67.9}(64.2)$	$\frac{98.7}{99.1}(98.9)$	

C	71'	しほむ(婆)	$\frac{112}{75}$ (187)	$\frac{12.0}{31.3}$ (23.5)	$\frac{24.0}{42.9}$ (35.3)	$\frac{88.0}{87.5}$ (87.7)	C	$\frac{112}{75}$ (187)	$\frac{89.3}{83.0}$ (85.6)	$\frac{92.0}{89.3}$ (90.4)	$\frac{100.0}{97.3}$ (98.4)
A	63'	しほむ(婆)	$\frac{122}{62}$ (184)	$\frac{16.1}{9.0}$ (11.4)	$\frac{30.6}{23.0}$ (25.5)	$\frac{88.7}{88.5}$ (88.6)	A	ふくらむ(張)	$\frac{48.4}{55.7}$ (53.3)	$\frac{83.9}{81.1}$ (82.1)	$\frac{78.4}{86.4}$ (88.4)
D	61'	しほむ(婆)	$\frac{109}{70}$ (179)	$\frac{42.9}{67.0}$ (57.5)	$\frac{67.1}{83.5}$ (77.1)	$\frac{91.4}{94.5}$ (93.3)	D	あらう(洗)	$\frac{87.1}{74.3}$ (79.3)	$\frac{95.7}{90.8}$ (92.7)	$\frac{100.0}{99.1}$ (99.4)
C	45'	しまう(仕舞)	$\frac{112}{75}$ (187)	$\frac{12.0}{24.1}$ (19.3)	$\frac{22.7}{36.6}$ (31.0)	$\frac{72.0}{78.6}$ (75.9)	C	だす(出)	$\frac{73.3}{82.1}$ (78.6)	$\frac{82.7}{95.5}$ (90.4)	$\frac{93.3}{97.3}$ (95.7)
C	64'	しまう(仕舞)	$\frac{112}{75}$ (187)	$\frac{12.0}{24.1}$ (19.3)	$\frac{16.0}{42.0}$ (31.6)	$\frac{84.0}{86.6}$ (85.6)	C	ならべる(並)	$\frac{24.0}{18.8}$ (20.9)	$\frac{53.3}{31.3}$ (40.1)	$\frac{89.3}{88.4}$ (88.8)
B	11'	しめる(閉)	$\frac{103}{67}$ (170)	$\frac{27.2}{34.3}$ (30.0)	$\frac{34.0}{44.8}$ (38.2)	$\frac{100.0}{100.0}$ (100.0)	B	あける(開)	$\frac{91.0}{93.2}$ (92.4)	$\frac{98.5}{99.0}$ (98.8)	$\frac{100.0}{99.0}$ (99.4)
D	41	しめる(閉)	$\frac{109}{70}$ (179)	$\frac{21.4}{37.6}$ (31.3)	$\frac{60.0}{46.8}$ (62.0)	$\frac{88.6}{90.8}$ (98.3)	D	はずす(外)	$\frac{18.6}{33.9}$ (27.9)	$\frac{27.1}{42.2}$ (36.3)	$\frac{90.0}{91.7}$ (91.1)
A	25	しる(知)	$\frac{122}{62}$ (184)	$\frac{9.7}{10.7}$ (10.3)	$\frac{50.0}{37.7}$ (41.8)	$\frac{90.3}{79.5}$ (83.2)	A	わすれる(忘)	$\frac{11.3}{4.9}$ (7.1)	$\frac{16.1}{27.9}$ (23.9)	$\frac{74.2}{77.0}$ (76.1)
D	54	すう(吸)	$\frac{109}{70}$ (179)	$\frac{82.9}{84.4}$ (83.8)	$\frac{85.7}{90.8}$ (92.7)	$\frac{98.6}{98.2}$ (98.3)	D	はく(吐)	$\frac{22.9}{27.5}$ (25.7)	$\frac{35.7}{36.7}$ (36.3)	$\frac{80.0}{73.4}$ (76.0)

A 15'	すく(透) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{24.2}{27.9}$ (26.6)	$\frac{45.2}{53.3}$ (50.5)	$\frac{80.6}{82.0}$ (81.5)	A 15	こむ(込) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{12.9}{20.5}$ (17.9)	$\frac{40.3}{38.5}$ (39.1)	$\frac{90.3}{91.0}$ (90.8)
A 34'	すすむ(進)			$\frac{6.5}{9.8}$ (8.7)	$\frac{21.0}{36.9}$ (31.5)	$\frac{66.1}{59.8}$ (62.0)	A 34	おくれる(遅) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{4.8}{11.5}$ (9.2)	$\frac{35.5}{34.4}$ (34.8)	$\frac{75.8}{71.3}$ (72.8)
C 24'	すてる(捨)			$\frac{36.0}{38.4}$ (37.4)	$\frac{54.7}{52.7}$ (53.5)	$\frac{90.7}{93.8}$ (92.5)	C 24	ひろう(拾)			$\frac{53.3}{57.1}$ (55.6)	$\frac{78.7}{67.0}$ (71.7)	$\frac{94.7}{96.4}$ (95.7)
B 3-2	すぼめる(窄) $\frac{103}{67}$ (170)	$\frac{0}{0}$ (0)	$\frac{15.5}{22.4}$ (18.2)				B 3'-2	さす(差) $\frac{103}{67}$ (170)	$\frac{1.0}{0}$ (0.6)	$\frac{26.2}{14.3}$ (21.8)			
C 41'	つぼめる(窄)			$\frac{26.7}{30.4}$ (28.9)	$\frac{42.7}{47.3}$ (45.5)	$\frac{85.3}{80.4}$ (82.4)	C 41	さす(差) $\frac{112}{75}$ (187)			$\frac{70.7}{59.8}$ (64.2)	$\frac{80.0}{70.5}$ (74.3)	$\frac{100.0}{97.3}$ (98.4)
B 15	すわる(座) $\frac{102}{67}$ (170)			$\frac{92.5}{92.2}$ (92.4)	$\frac{100.0}{100.0}$ (100.0)	$\frac{100.0}{100.0}$ (100.0)	B 15'	たつ(立) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{73.1}{85.4}$ (80.6)	$\frac{89.6}{95.1}$ (92.9)	$\frac{97.0}{99.0}$ (98.2)
C 61	せおう(背)			$\frac{1.3}{1.8}$ (1.6)	$\frac{10.7}{5.4}$ (7.5)	$\frac{69.3}{59.8}$ (63.6)	C 61'	おろす(下) $\frac{112}{75}$ (187)			$\frac{28.0}{47.3}$ (39.6)	$\frac{48.0}{76.8}$ (65.2)	$\frac{90.7}{92.0}$ (91.4)
A 71'	せばまる(狭) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{3.2}{4.1}$ (3.8)	$\frac{11.3}{10.7}$ (10.9)	$\frac{61.3}{51.6}$ (54.9)	A 71	ひろがる(広) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{8.1}{4.1}$ (5.4)	$\frac{37.1}{16.4}$ (23.4)	$\frac{71.0}{61.5}$ (64.7)
A 55'	せめる(功) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{0}{0.8}$ (0.5)	$\frac{0}{4.1}$ (2.7)	$\frac{51.6}{60.7}$ (57.6)	A 55	まもる(守) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{12.9}{6.6}$ (8.7)	$\frac{37.1}{18.9}$ (25.0)	$\frac{74.2}{71.3}$ (72.3)

D 74	そらす(反) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{0}{2.9}$ (1.1)	$\frac{4.3}{0.9}$ (2.2)	$\frac{31.4}{49.5}$ (42.5)	D 74'	$\frac{109}{70}$ (179)	まげる(出)			$\frac{17.1}{16.5}$ (16.8)	$\frac{24.3}{33.9}$ (30.2)	$\frac{85.7}{80.7}$ (82.7)
D 55	たおす(倒)	$\frac{2.8}{1.4}$ (2.2)	$\frac{11.0}{15.7}$ (12.8)	$\frac{55.7}{64.2}$ (60.9)	$\frac{71.4}{69.7}$ (70.4)	$\frac{91.4}{96.3}$ (94.4)	D 55'	$\frac{109}{70}$ (179)	おこす(起)	$\frac{9.2}{5.7}$ (7.8)	$\frac{21.2}{5.7}$ (15.1)	$\frac{12.9}{15.6}$ (14.5)	$\frac{20.0}{27.5}$ (24.6)	$\frac{88.6}{89.9}$ (89.4)
C 2-1	だす(出)	$\frac{12.5}{20.0}$ (15.5)	$\frac{57.1}{56.0}$ (56.7)				C 2'-1	$\frac{112}{75}$ (187)	いれる(入)	$\frac{19.6}{8.0}$ (15.0)	$\frac{50.9}{49.3}$ (50.3)			
D 14'	だす(出)			$\frac{31.4}{34.9}$ (33.5)	$\frac{51.4}{47.7}$ (49.2)	$\frac{85.7}{85.3}$ (85.5)	D 14	$\frac{109}{70}$ (179)	いれる(入)			$\frac{68.6}{67.0}$ (67.6)	$\frac{77.1}{73.4}$ (74.9)	$\frac{97.1}{94.5}$ (95.5)
C 45	だす(出)			$\frac{73.3}{82.1}$ (78.6)	$\frac{82.7}{95.5}$ (90.4)	$\frac{93.3}{97.3}$ (95.7)	C 45'	$\frac{112}{75}$ (187)	しまう(仕舞)			$\frac{12.0}{24.1}$ (19.3)	$\frac{22.7}{36.6}$ (31.0)	$\frac{72.0}{78.6}$ (75.9)
B 64'	たすかる(助)			$\frac{62.7}{59.2}$ (60.6)	$\frac{77.6}{75.7}$ (76.5)	$\frac{100.0}{95.1}$ (97.1)	B 64	$\frac{103}{67}$ (170)	おぼれる(溺)			$\frac{20.9}{25.2}$ (23.5)	$\frac{37.9}{35.8}$ (37.1)	$\frac{86.6}{89.3}$ (88.2)
B 75	たすねる(尋)			$\frac{3.0}{0}$ (1.2)	$\frac{4.5}{6.8}$ (5.9)	$\frac{74.6}{76.7}$ (75.9)	B 75'	$\frac{103}{67}$ (170)	おしえる(教)			$\frac{76.1}{71.8}$ (73.5)	$\frac{86.6}{82.5}$ (84.1)	$\frac{97.0}{97.1}$ (97.1)
B 41	たすねる(尋)			$\frac{0}{1.0}$ (0.6)	$\frac{6.0}{4.9}$ (5.3)	$\frac{47.8}{56.3}$ (52.9)	B 41'	$\frac{103}{67}$ (170)	こたえる(答)			$\frac{9.0}{10.7}$ (10.0)	$\frac{13.4}{27.2}$ (21.8)	$\frac{77.6}{75.7}$ (76.5)
C 21	たたたく(叩)			$\frac{88.0}{84.8}$ (86.1)	$\frac{93.3}{88.4}$ (90.4)	$\frac{100.0}{97.3}$ (98.4)	C 21'	$\frac{112}{75}$ (187)	なでる(撫)			$\frac{78.7}{75.0}$ (76.5)	$\frac{84.0}{80.4}$ (81.8)	$\frac{96.0}{95.5}$ (95.7)

D 71'	たたく(甲) $\frac{109}{70}$					$\frac{80.0}{74.3}$ (76.5)	$\frac{85.7}{85.3}$ (85.5)	$\frac{100.0}{99.1}$ (99.4)	D 71	$\frac{109}{70}$ (179)				$\frac{91.4}{95.4}$ (93.9)	$\frac{95.7}{96.3}$ (96.1)	$\frac{100.0}{98.2}$ (98.9)
A 42'	たたむ(置) $\frac{122}{62}$					$\frac{64.5}{56.6}$ (59.2)	$\frac{71.0}{75.4}$ (73.9)	$\frac{96.8}{96.7}$ (96.7)	A 42	し $\frac{122}{62}$ (184)				$\frac{38.7}{45.1}$ (42.9)	$\frac{58.1}{62.3}$ (60.9)	$\frac{93.5}{86.9}$ (89.1)
B 42	たたむ(置) $\frac{103}{67}$					$\frac{65.7}{76.7}$ (72.4)	$\frac{88.1}{89.3}$ (88.8)	$\frac{98.5}{100.0}$ (99.4)	B 42'	ひろげる(広) $\frac{103}{67}$ (170)				$\frac{32.8}{42.7}$ (38.8)	$\frac{43.3}{55.3}$ (50.6)	$\frac{97.0}{97.1}$ (97.1)
D 62'	たたむ(置) $\frac{109}{70}$					$\frac{72.9}{86.2}$ (81.0)	$\frac{80.0}{90.8}$ (86.6)	$\frac{98.6}{99.1}$ (98.9)	D 62	ほす(干) $\frac{109}{70}$ (179)				$\frac{78.6}{81.7}$ (80.4)	$\frac{88.6}{83.5}$ (85.5)	$\frac{98.6}{100.0}$ (99.4)
B 15'	たつ(立) $\frac{103}{67}$					$\frac{73.1}{85.4}$ (80.6)	$\frac{89.6}{95.1}$ (92.9)	$\frac{97.0}{99.0}$ (98.2)	B 15	すわる(座) $\frac{103}{67}$ (170)				$\frac{92.5}{92.2}$ (92.4)	$\frac{100.0}{100.0}$ (100.0)	$\frac{100.0}{100.0}$ (100.0)
C 63'	たべる(食) $\frac{112}{75}$					$\frac{98.7}{97.3}$ (97.9)	$\frac{98.7}{99.1}$ (98.9)	$\frac{98.7}{98.2}$ (98.4)	C 63	なめる(嘗) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{65.3}{80.4}$ (74.3)	$\frac{76.0}{86.6}$ (82.4)	$\frac{98.7}{99.1}$ (98.9)
C 32'	(たりにい)(足) $\frac{112}{75}$					$\frac{13.3}{18.8}$ (16.6)	$\frac{22.7}{34.8}$ (29.9)	$\frac{81.3}{76.8}$ (78.6)	C 32	あまる(余) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{22.7}{16.1}$ (18.7)	$\frac{49.3}{29.5}$ (37.4)	$\frac{92.0}{89.3}$ (90.4)
B 54	ちがう(違) $\frac{103}{67}$					$\frac{28.4}{34.0}$ (31.8)	$\frac{61.2}{54.4}$ (57.1)	$\frac{85.1}{83.5}$ (84.1)	B 54'	(おなじ)(同) $\frac{103}{67}$ (170)				$\frac{19.4}{35.9}$ (29.4)	$\frac{47.8}{71.8}$ (62.4)	$\frac{74.6}{88.3}$ (82.9)
B 73'	ちぢめる(縮) $\frac{103}{67}$					$\frac{11.9}{6.8}$ (8.8)	$\frac{23.9}{31.1}$ (28.2)	$\frac{94.0}{91.3}$ (92.4)	B 73	のぼす(伸) $\frac{103}{67}$ (170)				$\frac{3.0}{9.7}$ (7.1)	$\frac{35.8}{29.1}$ (31.8)	$\frac{94.0}{95.1}$ (94.7)

B 32'	ちらかす(散) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{10.4}{12.6}(11.8)$	$\frac{19.4}{49.5}(37.6)$	$\frac{95.5}{94.2}(94.7)$	B 32	あつめる(集) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{22.4}{18.4}(20.0)$	$\frac{52.2}{29.1}(38.2)$	$\frac{97.0}{96.1}(96.5)$
A 24'	ちる(散) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{21.0}{24.6}(23.4)$	$\frac{24.2}{32.8}(29.9)$	$\frac{85.5}{86.9}(86.4)$	A 24	さく(咲) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{62.9}{77.0}(72.3)$	$\frac{82.3}{82.0}(82.1)$	$\frac{100.0}{99.2}(99.5)$
D 24	つかまえる(掴) $\frac{109}{70}(179)$	$\frac{9.2}{8.6}(8.9)$	$\frac{25.7}{22.9}(24.6)$	$\frac{54.3}{63.3}(59.8)$	$\frac{80.0}{82.6}(81.6)$	$\frac{95.7}{99.1}(97.8)$	D 24'	にがす(逃) $\frac{109}{70}(179)$	$\frac{7.3}{7.1}(7.3)$	$\frac{28.4}{15.7}(23.5)$	$\frac{52.9}{51.4}(52.0)$	$\frac{67.1}{70.6}(69.3)$	$\frac{95.7}{95.4}(95.5)$
A 14	つく(点) $\frac{122}{62}(184)$	$\frac{13.1}{21.0}(15.8)$	$\frac{50.0}{58.1}(52.7)$	$\frac{77.4}{82.8}(81.0)$	$\frac{93.5}{94.3}(94.0)$	$\frac{95.2}{96.7}(96.2)$	A 14'	きえる(消) $\frac{122}{62}(184)$	$\frac{3.3}{6.5}(4.3)$	$\frac{27.9}{37.1}(31.0)$	$\frac{38.7}{48.4}(45.1)$	$\frac{62.9}{71.3}(68.5)$	$\frac{95.2}{94.3}(94.6)$
A 73'	つく(付) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{11.3}{13.9}(13.0)$	$\frac{27.4}{30.3}(29.3)$	$\frac{85.5}{78.7}(81.0)$	A 73	はなれる(離) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{56.5}{38.5}(44.6)$	$\frac{79.0}{77.0}(77.7)$	$\frac{93.5}{93.4}(93.5)$
B 61	つく(付) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{13.4}{23.3}(19.4)$	$\frac{49.3}{37.9}(42.4)$	$\frac{77.6}{72.8}(74.7)$	B 61'	はなれる(離) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{6.0}{20.4}(14.7)$	$\frac{19.4}{41.7}(32.9)$	$\frac{71.6}{80.6}(77.1)$
D 13	つける(点) $\frac{109}{70}(179)$			$\frac{92.9}{95.4}(94.4)$	$\frac{95.7}{98.2}(97.2)$	$\frac{98.6}{100.0}(99.4)$	D 13'	けす(消) $\frac{109}{70}(179)$			$\frac{78.6}{82.6}(81.0)$	$\frac{87.1}{89.9}(88.8)$	$\frac{100.0}{99.1}(99.4)$
C 42	つむ(包) $\frac{112}{75}(187)$			$\frac{50.7}{53.6}(52.4)$	$\frac{69.3}{66.1}(67.4)$	$\frac{100.0}{96.4}(97.9)$	C 42'	あける(開) $\frac{112}{75}(187)$			$\frac{30.7}{27.7}(28.9)$	$\frac{37.3}{34.8}(35.8)$	$\frac{92.0}{91.1}(91.4)$
B 65'	つづく(続) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{7.5}{2.9}(4.7)$	$\frac{10.4}{8.7}(9.4)$	$\frac{77.6}{76.7}(77.1)$	B 65	わかれる(分) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{43.3}{49.5}(47.1)$	$\frac{67.2}{62.1}(64.1)$	$\frac{80.6}{83.5}(82.4)$

D 35'	つながる(繋) $\frac{109}{70}$ (179)				$\frac{4.3}{3.7}$ (3.9)	$\frac{8.6}{18.3}$ (14.5)	$\frac{88.6}{94.5}$ (92.2)	D 35	きれる(切) $\frac{109}{70}$ (179)				$\frac{14.3}{20.2}$ (17.9)	$\frac{45.7}{37.6}$ (40.8)	$\frac{97.1}{93.6}$ (95.0)
C 34'	つなぐ(繋) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{4.0}{0.9}$ (2.1)	$\frac{9.3}{6.3}$ (7.5)	$\frac{90.7}{80.4}$ (84.5)	C 34	お る(折) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{72.0}{75.0}$ (73.8)	$\frac{88.0}{85.7}$ (86.6)	$\frac{100.0}{98.2}$ (98.9)
C 25	つなぐ(繋) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{33.3}{44.6}$ (40.1)	$\frac{48.0}{53.6}$ (51.3)	$\frac{98.7}{97.3}$ (97.9)	C 25'	はな す(離) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{38.7}{33.0}$ (35.3)	$\frac{52.0}{49.1}$ (50.3)	$\frac{90.7}{97.3}$ (94.7)
A 33	つぶる(戻) $\frac{122}{62}$ (184)				$\frac{79.0}{73.0}$ (75.0)	$\frac{88.7}{83.6}$ (85.3)	$\frac{96.8}{96.7}$ (96.7)	A 33'	あけ る(明) $\frac{122}{62}$ (184)				$\frac{72.6}{71.3}$ (71.7)	$\frac{83.9}{79.5}$ (81.0)	$\frac{88.7}{86.9}$ (87.5)
C 55	つむ(結) $\frac{112}{75}$ (187)	0.9 1.3(1.1)	0.8 16.0(11.2)	24.0 21.4(22.5)	$\frac{24.0}{21.4}$ (22.5)	$\frac{34.7}{32.1}$ (33.2)	$\frac{100.0}{98.2}$ (98.9)	C 55'	おろ す(下) $\frac{112}{75}$ (187)	6.3 8.0(7.0)	28.6 32.0(29.9)		$\frac{49.3}{63.4}$ (57.8)	$\frac{68.0}{73.2}$ (71.1)	$\frac{94.7}{95.5}$ (95.2)
C 52	でかける(出) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{6.7}{8.9}$ (8.0)	$\frac{29.3}{15.2}$ (20.9)	$\frac{100.0}{97.3}$ (98.4)	C 52'	もど る(戻) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{2.7}{5.4}$ (4.3)	$\frac{9.3}{12.5}$ (11.2)	$\frac{84.0}{91.1}$ (88.2)
A 43'	でる(出) $\frac{122}{62}$ (184)				$\frac{41.9}{45.1}$ (44.0)	$\frac{54.8}{54.1}$ (54.3)	$\frac{90.3}{88.5}$ (89.1)	A 43	はい る(入) $\frac{112}{62}$ (184)				$\frac{96.8}{95.9}$ (96.2)	$\frac{98.4}{99.2}$ (98.9)	$\frac{100.0}{99.2}$ (99.5)
A 61'	とく(解) $\frac{122}{62}$ (184)				$\frac{11.3}{13.1}$ (12.5)	$\frac{17.7}{18.9}$ (18.5)	$\frac{74.2}{73.8}$ (73.9)	A 61	ま く(巻) $\frac{122}{62}$ (184)				$\frac{71.0}{76.2}$ (74.5)	$\frac{83.9}{82.8}$ (83.2)	$\frac{98.4}{97.5}$ (97.8)
B 63'	とく(解) $\frac{103}{67}$ (170)				$\frac{17.9}{13.6}$ (15.3)	$\frac{26.9}{22.3}$ (24.1)	$\frac{76.1}{70.9}$ (72.9)	B 63	むす ぶ(結) $\frac{103}{67}$ (170)				$\frac{58.2}{62.1}$ (60.6)	$\frac{76.1}{75.7}$ (74.7)	$\frac{97.0}{96.1}$ (96.5)

C 53'	とける(溶) $\frac{112}{75}(187)$				$\frac{85.3}{80.4}(82.4)$	$\frac{89.3}{92.9}(91.4)$	$\frac{100.0}{97.3}(98.4)$	C 53	かたまる(固) $\frac{112}{75}(187)$				$\frac{10.7}{14.3}(12.8)$	$\frac{25.3}{21.4}(23.0)$	$\frac{92.0}{87.5}(89.8)$
D 21'	とじる(閉) $\frac{109}{70}(179)$				$\frac{32.9}{28.4}(30.2)$	$\frac{44.3}{31.2}(36.3)$	$\frac{74.3}{71.6}(72.6)$	D 21	あける(開) $\frac{109}{70}(179)$				$\frac{71.4}{77.1}(74.9)$	$\frac{74.3}{76.1}(75.4)$	$\frac{90.0}{88.1}(88.8)$
A 22'	とどける(届) $\frac{122}{62}(184)$				$\frac{6.5}{2.5}(3.8)$	$\frac{8.1}{8.2}(8.2)$	$\frac{51.6}{60.7}(57.6)$	A 22	もらう(貰) $\frac{122}{62}(184)$				$\frac{82.3}{79.5}(80.4)$	$\frac{91.9}{88.5}(89.7)$	$\frac{100.0}{98.4}(98.9)$
D 75'	とぶ(飛) $\frac{109}{70}(179)$				$\frac{37.1}{37.6}(37.4)$	$\frac{65.7}{51.4}(57.0)$	$\frac{91.4}{84.4}(87.2)$	D 75'	ころぶ(転) $\frac{109}{70}(179)$				$\frac{15.7}{23.9}(20.7)$	$\frac{24.3}{55.0}(43.0)$	$\frac{91.4}{98.2}(95.5)$
B 22	とぶ(飛) $\frac{103}{67}(170)$				$\frac{92.5}{98.1}(95.9)$	$\frac{98.5}{100.0}(99.4)$	$\frac{100.0}{100.0}(100.0)$	B 22'	とまる(止) $\frac{103}{67}(170)$				$\frac{59.7}{71.8}(67.1)$	$\frac{73.1}{79.6}(77.1)$	$\frac{94.0}{96.1}(95.3)$
B 1-1	とまる(止) $\frac{103}{67}(170)$	$\frac{24.3}{23.9}(24.1)$	$\frac{21.4}{31.3}(25.3)$					B 1'-1	うごく(動) $\frac{103}{67}(170)$	$\frac{20.4}{16.4}(18.8)$	$\frac{31.1}{31.3}(31.2)$				
B 22'	とまる(止) $\frac{103}{67}(170)$				$\frac{59.7}{71.8}(67.1)$	$\frac{73.1}{79.6}(77.1)$	$\frac{94.0}{96.1}(95.3)$	B 22	とぶ(飛) $\frac{103}{67}(170)$				$\frac{92.5}{98.1}(95.9)$	$\frac{98.5}{100.0}(99.4)$	$\frac{100.0}{100.0}(100.0)$
B 33'	とめる(止) $\frac{103}{67}(170)$				$\frac{17.9}{24.3}(24.7)$	$\frac{29.9}{38.8}(35.3)$	$\frac{56.7}{66.0}(12.4)$	B 33	うごかす(動) $\frac{103}{67}(170)$				$\frac{52.2}{68.9}(62.4)$	$\frac{64.2}{81.6}(74.7)$	$\frac{95.5}{99.0}(97.6)$
C 33'	とる(収) $\frac{112}{75}(187)$				$\frac{34.7}{37.5}(36.4)$	$\frac{44.0}{49.1}(47.1)$	$\frac{81.3}{81.3}(81.3)$	C 33	おく(置) $\frac{112}{75}(187)$				$\frac{61.3}{62.5}(62.0)$	$\frac{74.7}{73.2}(73.8)$	$\frac{97.3}{96.4}(96.8)$

B 72'	(な い)(無) $\frac{103}{67}$ (170)				$\frac{88.1}{93.2}$ (91.2)	$\frac{100.0}{95.1}$ (97.1)	$\frac{100.0}{97.1}$ (98.2)	B 72	あ $\frac{103}{67}$ (170)					$\frac{86.6}{88.3}$ (87.6)	$\frac{98.5}{96.1}$ (97.1)	$\frac{100.0}{97.1}$ (98.2)
D 23'	な お す(直) $\frac{109}{70}$ (179)				$\frac{68.6}{67.9}$ (68.2)	$\frac{78.6}{83.5}$ (81.6)	$\frac{94.3}{99.1}$ (97.2)	D 23	こ わ す(壊) $\frac{109}{70}$ (179)					$\frac{45.7}{48.6}$ (47.9)	$\frac{57.1}{68.8}$ (64.2)	$\frac{94.3}{99.1}$ (97.2)
D 34'	な お る(直) $\frac{109}{70}$ (179)				$\frac{87.1}{92.7}$ (90.5)	$\frac{97.1}{98.2}$ (97.8)	$\frac{98.6}{99.1}$ (98.9)	D 34	か か る(権) $\frac{109}{70}$ (179)					$\frac{8.6}{6.4}$ (7.3)	$\frac{18.6}{25.7}$ (22.9)	$\frac{57.1}{57.8}$ (57.5)
C 11	な く(泣) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{100.0}{99.1}$ (99.5)	$\frac{100.0}{100.0}$ (100.0)	$\frac{100.0}{100.0}$ (100.0)	C 11'	わ ら う(笑) $\frac{112}{75}$ (187)					$\frac{80.0}{92.0}$ (87.2)	$\frac{90.7}{98.2}$ (95.2)	$\frac{97.3}{100.0}$ (98.9)
B 43	な ぐ る(殴) $\frac{103}{67}$ (170)				$\frac{11.9}{8.7}$ (10.0)	$\frac{29.9}{20.4}$ (24.1)	$\frac{95.5}{96.1}$ (95.9)	B 43'	な で る(撫) $\frac{103}{67}$ (170)					$\frac{73.1}{79.6}$ (77.1)	$\frac{85.1}{87.4}$ (86.5)	$\frac{95.5}{98.1}$ (97.1)
D 45'	な げ る(投) $\frac{109}{70}$ (179)				$\frac{7.3}{2.9}$ (5.6)	$\frac{18.3}{8.6}$ (14.5)	$\frac{100.0}{98.2}$ (98.9)	D 45	う け と る(受) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{4.6}{1.4}$ (3.4)	$\frac{5.5}{11.4}$ (7.8)	$\frac{51.4}{44.0}$ (47.5)	$\frac{70.0}{60.6}$ (64.2)	$\frac{88.6}{85.3}$ (86.6)
C 75	な げ る(投) $\frac{112}{75}$ (187)						$\frac{86.7}{93.8}$ (91.9)	C 75'	う つ(殴) $\frac{112}{75}$ (187)					$\frac{69.3}{81.3}$ (76.5)	$\frac{84.0}{92.0}$ (88.8)	$\frac{100.0}{97.3}$ (98.4)
C 21'	な で る(撫) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{78.7}{75.0}$ (76.5)	$\frac{84.0}{80.4}$ (81.8)	$\frac{96.0}{95.5}$ (95.7)	C 21	た た く(叩) $\frac{112}{75}$ (187)					$\frac{88.0}{84.8}$ (86.1)	$\frac{93.3}{88.4}$ (90.4)	$\frac{100.0}{97.3}$ (98.4)
B 43'	な で る(撫) $\frac{103}{67}$ (170)						$\frac{95.5}{98.1}$ (97.1)	B 43	な ぐ る(殴) $\frac{103}{67}$ (170)					$\frac{11.9}{8.7}$ (10.0)	$\frac{29.9}{20.4}$ (24.1)	$\frac{95.5}{96.1}$ (95.9)

C 63	なめる(嘗) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{65.3}{80.4}$ (74.3)	$\frac{76.0}{86.6}$ (82.4)	$\frac{98.7}{99.1}$ (98.9)	C 63'	たべる(食) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{98.7}{97.3}$ (97.9)	$\frac{98.7}{99.1}$ (98.9)	$\frac{98.7}{99.2}$ (98.4)
A 52'	ならう(習) $\frac{122}{62}$ (184)				$\frac{4.8}{2.5}$ (3.3)	$\frac{6.5}{5.7}$ (6.0)	$\frac{88.7}{91.0}$ (90.2)	A 52	おしえる(教) $\frac{122}{62}$ (184)				$\frac{82.3}{86.1}$ (84.8)	$\frac{95.2}{93.4}$ (94.0)	$\frac{100.0}{99.2}$ (99.5)
C 64	ならべる(並) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{24.0}{18.8}$ (20.9)	$\frac{53.3}{31.3}$ (40.1)	$\frac{89.3}{88.4}$ (88.8)	C 64'	しまう(仕舞) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{12.0}{24.1}$ (19.3)	$\frac{16.0}{42.0}$ (31.6)	$\frac{84.0}{86.6}$ (85.6)
D 72'	ならす(鳴) $\frac{109}{70}$ (179)				$\frac{87.1}{91.7}$ (89.9)	$\frac{94.3}{94.5}$ (94.4)	$\frac{100.0}{96.3}$ (97.8)	D 72	ふく(吹) $\frac{109}{70}$ (179)				$\frac{77.1}{81.7}$ (79.9)	$\frac{90.0}{89.9}$ (89.9)	$\frac{100.0}{100.0}$ (100.0)
C 31	にがす(逃) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{32.0}{27.7}$ (29.4)	$\frac{62.7}{43.8}$ (51.3)	$\frac{100.0}{97.3}$ (98.4)	C 31'	ころす(殺) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{22.7}{20.5}$ (21.4)	$\frac{26.7}{38.4}$ (33.7)	$\frac{96.0}{98.2}$ (97.3)
D 24'	にがす(逃) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{7.3}{7.1}$ (7.3)	$\frac{28.4}{15.7}$ (23.5)	$\frac{67.1}{70.6}$ (69.3)	$\frac{95.7}{95.4}$ (95.5)	D 24	つかまえる(摺) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{25.7}{22.9}$ (24.6)	$\frac{54.3}{63.3}$ (59.8)	$\frac{80.0}{82.6}$ (81.6)	$\frac{95.7}{99.1}$ (97.8)
C 43	にぎる(握) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{21.3}{28.6}$ (25.7)	$\frac{54.7}{40.2}$ (46.0)	$\frac{89.2}{93.8}$ (92.0)	C 43'	はなす(放) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{56.0}{62.5}$ (59.9)	$\frac{80.0}{81.3}$ (80.7)	$\frac{97.3}{92.9}$ (94.7)
B 55	にげる(逃) $\frac{103}{67}$ (170)				$\frac{59.7}{49.5}$ (53.5)	$\frac{77.6}{70.9}$ (73.5)	$\frac{100.0}{97.1}$ (98.2)	B 55'	おもう(追) $\frac{103}{67}$ (170)				$\frac{47.8}{44.7}$ (45.9)	$\frac{55.2}{57.3}$ (56.5)	$\frac{80.6}{81.6}$ (81.2)
D 63	にる(氣) $\frac{109}{70}$ (179)				$\frac{25.7}{26.6}$ (26.3)	$\frac{34.3}{33.9}$ (34.1)	$\frac{68.6}{74.3}$ (72.1)	D 63'	わかす(沸) $\frac{109}{70}$ (179)				$\frac{48.6}{43.1}$ (45.3)	$\frac{60.0}{54.1}$ (58.4)	$\frac{90.0}{92.7}$ (91.6)

A 54'	ぬ <(抜)> $\frac{122}{62}$ (184)				$\frac{22.6}{27.0}$ (25.5)	$\frac{32.3}{36.1}$ (34.8)	$\frac{91.9}{86.1}$ (88.0)	A 54	う つ(打) $\frac{122}{62}$ (184)		$\frac{46.8}{39.3}$ (41.8)	$\frac{51.6}{44.3}$ (46.7)	$\frac{88.7}{94.3}$ (92.4)	
B 25'	ぬ <(抜)> $\frac{103}{67}$ (170)	$\frac{2.9}{6.0}$ (4.1)	$\frac{9.7}{13.4}$ (11.2)	$\frac{19.4}{28.2}$ (24.7)	$\frac{37.3}{43.7}$ (41.2)	$\frac{71.6}{83.5}$ (78.8)	B 25	さ す(刺) $\frac{103}{67}$ (170)		$\frac{3.9}{6.0}$ (4.7)	$\frac{61.2}{73.8}$ (68.8)	$\frac{86.6}{86.4}$ (86.5)	$\frac{91.0}{93.2}$ (92.4)	
A 4'-3	ぬ <(脱)> $\frac{122}{62}$ (184)	$\frac{9.8}{12.9}$ (10.9)	$\frac{36.1}{29.0}$ (33.7)				A 4-3	かぶる(被) $\frac{122}{62}$ (184)		$\frac{0.8}{0}$ (0.5)	$\frac{43.4}{51.6}$ (46.2)			
B 35'	ぬ <(脱)> $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{32.8}{41.7}$ (38.2)	$\frac{43.3}{52.4}$ (48.8)	$\frac{85.1}{92.2}$ (89.4)	B 35	かぶる(被) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{89.6}{93.2}$ (91.8)	$\frac{98.5}{98.1}$ (98.2)	$\frac{100.0}{100.0}$ (100.0)	
A 4'-2	ぬ <(脱)> $\frac{122}{62}$ (184)	$\frac{18.0}{19.4}$ (18.5)	$\frac{44.3}{37.1}$ (41.8)				A 4-2	きる(着) $\frac{122}{62}$ (184)		$\frac{26.2}{27.4}$ (26.6)	$\frac{45.1}{54.8}$ (48.4)			
D 11	ぬ <(脱)> $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{87.1}{90.8}$ (89.4)	$\frac{97.1}{98.2}$ (97.8)	$\frac{98.6}{100.0}$ (99.4)	D 11'	きる(着) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{88.6}{85.3}$ (86.6)	$\frac{95.7}{95.4}$ (95.5)	$\frac{98.6}{100.0}$ (99.4)	
A 12'	ぬ <(脱)> $\frac{122}{62}$ (184)	$\frac{9.8}{19.4}$ (13.0)	$\frac{41.8}{37.1}$ (40.2)		$\frac{61.3}{62.3}$ (62.0)	$\frac{79.0}{88.5}$ (85.3)	A 12	はく(履) $\frac{122}{62}$ (184)		$\frac{12.3}{6.5}$ (10.3)	$\frac{45.1}{53.2}$ (47.8)	$\frac{87.1}{82.8}$ (84.2)	$\frac{96.8}{96.7}$ (96.7)	$\frac{98.4}{100.0}$ (99.5)
C 73'	ぬ <(塗)> $\frac{112}{75}$ (187)			$\frac{82.7}{92.0}$ (88.2)	$\frac{89.3}{95.5}$ (93.0)	$\frac{98.7}{99.1}$ (98.9)	C 73	か <(書)> $\frac{112}{75}$ (187)			$\frac{98.7}{98.2}$ (98.4)	$\frac{98.7}{98.2}$ (98.4)	$\frac{98.7}{98.2}$ (98.4)	$\frac{98.7}{98.2}$ (98.4)
B 14'	ぬ <(ぬ)> $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{32.8}{37.9}$ (35.9)	$\frac{46.3}{57.3}$ (52.9)	$\frac{100.0}{99.0}$ (99.4)	B 14	かわく(乾) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{50.7}{48.5}$ (49.4)	$\frac{79.1}{74.8}$ (76.5)	$\frac{98.5}{99.0}$ (98.8)	$\frac{98.5}{99.0}$ (98.8)

A 74	ねかす(寝) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{58.1}{59.0}(58.7)$	$\frac{79.0}{73.8}(75.5)$	$\frac{98.4}{98.4}(98.4)$	A 74' 3'-1	おこす(起) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{14.5}{27.9}(23.4)$	$\frac{41.9}{52.5}(48.9)$	$\frac{91.9}{91.8}(91.8)$
D 3-1	ねかす(寝) $\frac{109}{70}(179)$	$\frac{3.7}{8.6}(5.6)$	$\frac{22.9}{18.6}(21.2)$				D 3'-1	おこす(起) $\frac{109}{76}(179)$	$\frac{15.6}{11.4}(14.0)$	$\frac{33.0}{14.3}(25.7)$			
B 12'	ねる(寝) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{98.5}{97.1}(97.6)$	$\frac{100.0}{99.0}(99.4)$	$\frac{100.0}{100.0}(100.0)$	B 12	おきる(起) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{94.0}{80.6}(85.9)$	$\frac{100.0}{95.1}(97.1)$	$\frac{100.0}{100.0}(100.0)$
A 21'	のせる(乗) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{54.8}{47.5}(50.0)$	$\frac{62.9}{55.7}(58.2)$	$\frac{91.9}{84.4}(87.0)$	A 21	おろす(降) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{43.5}{36.9}(39.1)$	$\frac{53.2}{42.6}(46.2)$	$\frac{82.3}{82.8}(82.6)$
C 3-2	のせる(乗) $\frac{112}{75}(187)$	$\frac{1.8}{4.0}(2.7)$	$\frac{36.6}{44.0}(39.6)$				C 3'-2	おろす(降) $\frac{112}{75}(187)$	$\frac{13.4}{12.0}(12.8)$	$\frac{41.1}{45.3}(42.8)$			
B 73	のぼす(伸) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{3.0}{9.7}(7.1)$	$\frac{35.8}{29.1}(31.8)$	$\frac{94.0}{95.1}(94.7)$	B 73'	ちぢめる(縮) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{11.9}{6.8}(8.8)$	$\frac{23.9}{31.1}(28.2)$	$\frac{94.0}{91.3}(92.4)$
A 64	のぼす(伸) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{29.0}{29.5}(29.3)$	$\frac{64.5}{55.7}(58.7)$	$\frac{90.3}{84.4}(86.4)$	A 64'	まげる(曲) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{9.7}{9.0}(9.2)$	$\frac{22.6}{30.0}(27.7)$	$\frac{82.3}{81.1}(81.5)$
B 31	のぼる(登) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{91.0}{90.3}(90.6)$	$\frac{98.5}{99.0}(98.8)$	$\frac{100.0}{99.0}(99.4)$	B 31'	おひる(降) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{40.3}{57.3}(50.6)$	$\frac{64.2}{72.8}(69.4)$	$\frac{88.1}{98.1}(94.1)$
C 72'	のる(乗) $\frac{112}{75}(187)$			$\frac{96.0}{95.5}(95.7)$	$\frac{97.3}{97.3}(97.3)$	$\frac{100.0}{99.1}(99.5)$	C 72	おちる(落) $\frac{112}{75}(187)$			$\frac{80.0}{81.3}(80.7)$	$\frac{85.3}{89.3}(87.7)$	$\frac{100.0}{99.1}(99.5)$

A 11	の る(乗) $\frac{122}{62}$ (184)	$\frac{7.4}{9.7}$ (8.2)	$\frac{54.1}{56.5}$ (54.9)	$\frac{85.5}{92.6}$ (90.2)	$\frac{98.4}{96.7}$ (97.3)	$\frac{98.4}{99.4}$ (98.4)	A 11'	お り る(降) $\frac{122}{62}$ (184)	$\frac{13.1}{22.6}$ (16.3)	$\frac{61.5}{58.1}$ (60.3)	$\frac{95.2}{93.4}$ (94.0)	$\frac{100.0}{97.5}$ (98.4)	$\frac{100.0}{99.2}$ (99.5)	
A 43	は い る(入) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{96.8}{95.9}$ (96.2)	$\frac{98.4}{99.2}$ (98.9)	$\frac{100.0}{99.2}$ (99.5)	A 43'	で る(出) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{41.9}{45.1}$ (44.0)	$\frac{54.8}{54.1}$ (54.3)	$\frac{90.3}{88.5}$ (89.1)	
D 54'	は く(吐) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{22.9}{27.5}$ (25.7)	$\frac{35.7}{36.7}$ (36.3)	$\frac{80.0}{73.4}$ (76.0)	D 54	す う(吸) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{82.9}{84.4}$ (83.8)	$\frac{95.7}{70.8}$ (92.7)	$\frac{98.6}{98.2}$ (98.3)	
A 12	は く(履) $\frac{122}{62}$ (184)	$\frac{12.3}{6.5}$ (10.3)	$\frac{45.1}{53.2}$ (47.8)	$\frac{87.1}{82.8}$ (84.2)	$\frac{96.8}{96.7}$ (96.7)	$\frac{98.4}{100.0}$ (99.5)	A 12'	ぬ く(脱) $\frac{122}{62}$ (184)	$\frac{9.8}{19.4}$ (13.0)	$\frac{41.8}{37.1}$ (40.2)	$\frac{61.3}{62.3}$ (62.0)	$\frac{79.0}{88.5}$ (85.3)	$\frac{98.4}{96.7}$ (97.3)	
B 21	は じ ま る(始) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{49.3}{43.7}$ (45.9)	$\frac{79.1}{74.8}$ (76.5)	$\frac{95.5}{96.1}$ (95.9)	B 21'	お わ る(終) $\frac{103}{67}$ (170)				$\frac{38.8}{55.3}$ (48.8)	$\frac{64.2}{80.6}$ (74.1)	$\frac{89.6}{98.1}$ (94.7)
D 32	は し る(走) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{77.1}{69.7}$ (72.6)	$\frac{85.7}{82.6}$ (83.8)	$\frac{98.6}{99.1}$ (98.9)	D 32'	あ る(歩) $\frac{109}{70}$ (179)				$\frac{70.0}{81.7}$ (77.1)	$\frac{91.4}{91.7}$ (91.6)	$\frac{98.6}{98.2}$ (98.3)
A 53'	は ず す(外) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{11.3}{7.4}$ (8.7)	$\frac{19.4}{16.4}$ (17.4)	$\frac{72.6}{70.5}$ (71.2)	A 53	か け る(掛) $\frac{122}{62}$ (184)				$\frac{29.0}{30.3}$ (29.9)	$\frac{45.2}{45.9}$ (45.7)	$\frac{90.3}{87.7}$ (88.6)
D 41'	は ず す(外) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{18.6}{33.9}$ (27.9)	$\frac{27.1}{42.2}$ (36.3)	$\frac{90.0}{91.7}$ (91.1)	D 41	し め る(締) $\frac{109}{70}$ (179)				$\frac{21.4}{37.6}$ (31.3)	$\frac{60.0}{46.8}$ (52.0)	$\frac{88.6}{90.8}$ (89.9)
B 24'	は ず す(外) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{10.4}{13.6}$ (12.4)	$\frac{13.4}{23.3}$ (19.4)	$\frac{71.6}{85.4}$ (80.0)	B 24	は め る(頻) $\frac{103}{67}$ (170)				$\frac{44.8}{39.8}$ (41.8)	$\frac{58.2}{50.5}$ (53.5)	$\frac{85.1}{86.4}$ (85.9)

A 41'	はずれる(外) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{9.7}{8.2}(8.7)$	$\frac{16.1}{22.1}(20.1)$	$\frac{88.7}{88.5}(88.6)$	A 41	あたる(当) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{14.5}{13.1}(13.6)$	$\frac{33.9}{26.2}(28.8)$	$\frac{88.7}{77.0}(81.0)$	
B 34'	はなす(離) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{25.4}{33.0}(30.0)$	$\frac{34.3}{51.5}(45.9)$	$\frac{74.6}{88.3}(82.9)$	B 34	おさえる(押) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{34.3}{35.9}(35.3)$	$\frac{53.7}{50.5}(51.8)$	$\frac{88.1}{86.4}(87.6)$	
D 53'	はなす(話) $\frac{109}{70}(179)$			$\frac{60.0}{50.5}(54.2)$	$\frac{67.1}{62.4}(64.2)$	$\frac{91.4}{88.1}(89.4)$	D 53	きく(聞) $\frac{109}{70}(179)$			$\frac{87.1}{83.5}(84.9)$	$\frac{92.9}{89.0}(90.5)$	$\frac{94.3}{98.2}(96.6)$	
C 25'	はなす(離) $\frac{112}{75}(187)$			$\frac{38.7}{33.0}(35.3)$	$\frac{52.0}{49.1}(50.3)$	$\frac{90.7}{97.3}(94.7)$	C 25	つなぐ(繋) $\frac{112}{75}(187)$			$\frac{33.3}{44.6}(40.1)$	$\frac{48.0}{53.6}(51.3)$	$\frac{98.7}{97.3}(97.9)$	
C 43'	はなす(放) $\frac{112}{75}(187)$			$\frac{56.0}{62.5}(59.9)$	$\frac{80.0}{81.3}(80.7)$	$\frac{97.3}{92.9}(94.7)$	C 43	にぎる(握) $\frac{112}{75}(187)$			$\frac{21.3}{28.6}(25.7)$	$\frac{54.7}{40.2}(46.0)$	$\frac{89.3}{93.8}(92.0)$	
A 62'	はなす(離) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{8.1}{11.5}(10.3)$	$\frac{17.7}{30.3}(26.1)$	$\frac{62.9}{69.7}(67.4)$	A 62	よせる(寄) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{3.2}{0.8}(1.6)$	$\frac{11.3}{7.4}(8.7)$	$\frac{61.3}{57.4}(58.7)$	
A 73	はなれる(離) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{56.5}{38.5}(44.6)$	$\frac{79.0}{77.0}(77.7)$	$\frac{93.5}{93.4}(93.5)$	A 73'	つく(付) $\frac{122}{62}(184)$				$\frac{11.3}{13.9}(13.0)$	$\frac{27.4}{30.0}(29.3)$	$\frac{85.5}{78.7}(81.0)$
B 61'	はなれる(離) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{6.0}{20.4}(14.7)$	$\frac{19.4}{41.7}(32.9)$	$\frac{71.6}{80.6}(77.1)$	B 61	つく(付) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{13.4}{23.3}(19.4)$	$\frac{49.3}{37.9}(42.4)$	$\frac{77.6}{72.8}(74.7)$	
A 44	はらう(払) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{9.7}{5.7}(7.1)$	$\frac{19.4}{10.7}(13.6)$	$\frac{82.3}{72.1}(75.5)$	A 44'	もらう(貰) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{69.4}{69.7}(69.6)$	$\frac{80.6}{80.3}(80.4)$	$\frac{83.9}{89.3}(87.5)$	

C 35'	は $\frac{112}{75}$ (187)					$\frac{80.0}{75.9}$ (77.5)	$\frac{85.3}{83.9}$ (84.5)	$\frac{100.0}{98.2}$ (98.9)	C 35	き $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{98.7}{97.3}$ (97.9)	$\frac{98.7}{98.2}$ (98.4)	$\frac{98.7}{98.2}$ (98.4)
C 15'	は $\frac{112}{75}$ (187)					$\frac{77.3}{75.9}$ (76.5)	$\frac{86.7}{85.7}$ (86.1)	$\frac{96.0}{100.0}$ (98.4)	C 15	やぶる(破)				$\frac{69.3}{62.5}$ (65.2)	$\frac{84.0}{74.1}$ (78.1)	$\frac{97.3}{100.0}$ (98.9)
B 24	はめる(壞)					$\frac{44.8}{39.8}$ (41.8)	$\frac{58.2}{50.5}$ (53.5)	$\frac{85.1}{86.4}$ (85.9)	B 24'	はずす(外)				$\frac{10.4}{13.6}$ (12.4)	$\frac{13.4}{23.3}$ (19.4)	$\frac{71.6}{85.4}$ (80.0)
D 12	ひく(引)					$\frac{20.0}{26.6}$ (24.0)	$\frac{45.7}{41.3}$ (43.0)	$\frac{84.3}{72.5}$ (77.1)	D 12'	おす(押)				$\frac{40.0}{33.0}$ (35.8)	$\frac{52.9}{50.5}$ (51.4)	$\frac{87.1}{81.7}$ (83.8)
D 71	ひく(引)					$\frac{91.4}{95.4}$ (93.9)	$\frac{95.7}{96.3}$ (96.1)	$\frac{100.0}{98.2}$ (98.9)	D 71'	たたたく(叩)				$\frac{80.0}{74.3}$ (76.5)	$\frac{85.7}{85.3}$ (85.5)	$\frac{100.0}{99.1}$ (99.4)
D 22'	ひやす(冷)					$\frac{74.3}{67.9}$ (70.4)	$\frac{85.7}{84.4}$ (84.9)	$\frac{98.6}{97.2}$ (97.8)	D 22	あたためる(暖)				$\frac{55.7}{56.0}$ (55.9)	$\frac{65.7}{69.7}$ (68.2)	$\frac{98.6}{97.2}$ (97.8)
B 13'	ひろう(拾)					$\frac{53.7}{61.2}$ (58.2)	$\frac{70.1}{76.7}$ (74.1)	$\frac{92.5}{97.1}$ (95.3)	B 13	おとす(落)			$\frac{13.6}{6.0}$ (10.6)	$\frac{82.1}{83.5}$ (82.9)	$\frac{92.5}{92.2}$ (92.4)	$\frac{95.5}{99.0}$ (97.6)
C 24	ひろう(拾)					$\frac{53.3}{57.1}$ (55.6)	$\frac{78.7}{67.0}$ (71.7)	$\frac{94.7}{96.4}$ (95.7)	C 24'	すてる(捨)				$\frac{36.0}{38.4}$ (37.4)	$\frac{54.7}{52.7}$ (53.5)	$\frac{90.7}{93.8}$ (92.5)
A 71	ひろがる(広)					$\frac{8.1}{4.1}$ (5.4)	$\frac{37.1}{16.4}$ (23.4)	$\frac{71.0}{61.5}$ (64.7)	A 71'	せばまる(狭)				$\frac{3.2}{4.1}$ (3.8)	$\frac{11.3}{10.7}$ (10.9)	$\frac{61.3}{51.6}$ (54.9)

B 42'	ひろげる(広) $\frac{103}{67}$ (170)				$\frac{32.8}{42.7}$ (38.8)	$\frac{43.3}{55.3}$ (50.6)	$\frac{97.0}{97.1}$ (97.1)	B 42	たたむ(畳) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{65.7}{76.7}$ (72.4)	$\frac{88.1}{89.3}$ (88.8)	$\frac{98.5}{100.0}$ (99.4)
C 62'	ふく(拭) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{94.7}{92.0}$ (93.0)	$\frac{97.3}{94.6}$ (95.7)	$\frac{98.7}{97.3}$ (97.9)	C 62	かける(掛) $\frac{112}{75}$ (187)			$\frac{65.3}{68.8}$ (67.4)	$\frac{73.3}{77.7}$ (75.9)	$\frac{88.0}{86.6}$ (87.2)
D 72	ふく(拭) $\frac{109}{70}$ (179)				$\frac{77.1}{81.7}$ (79.9)	$\frac{90.0}{89.9}$ (89.9)	$\frac{100.0}{100.0}$ (100.0)	D 72'	ならす(鳴) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{87.1}{91.7}$ (89.9)	$\frac{94.3}{94.5}$ (94.4)	$\frac{100.0}{96.3}$ (97.8)
A 63	ふくらむ(脹) $\frac{122}{62}$ (184)				$\frac{48.4}{55.7}$ (53.3)	$\frac{83.9}{81.1}$ (82.1)	$\frac{98.4}{98.4}$ (98.4)	A 63'	しほむ(萎) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{16.1}{9.0}$ (11.4)	$\frac{30.6}{23.0}$ (25.5)	$\frac{88.7}{88.5}$ (88.6)
C 14	ふとる(太) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{44.0}{45.5}$ (44.9)	$\frac{78.7}{74.1}$ (75.9)	$\frac{96.0}{94.6}$ (95.2)	C 14'	やせる(瘦) $\frac{112}{75}$ (187)			$\frac{38.7}{43.8}$ (41.7)	$\frac{53.3}{72.3}$ (64.7)	$\frac{97.3}{94.6}$ (95.7)
B 44	ふやす(増) $\frac{103}{67}$ (170)				$\frac{0}{1.0}$ (0.6)	$\frac{31.3}{13.6}$ (20.6)	$\frac{76.1}{82.5}$ (80.0)	B 44'	へらす(減) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{0}{1.9}$ (1.2)	$\frac{1.5}{27.2}$ (17.1)	$\frac{82.1}{82.5}$ (82.4)
D 25	ふる(降) $\frac{109}{70}$ (179)				$\frac{95.7}{91.7}$ (83.3)	$\frac{100.0}{99.1}$ (99.4)	$\frac{100.0}{100.0}$ (100.0)	D 25'	やむ(止) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{42.9}{53.2}$ (49.2)	$\frac{65.7}{67.9}$ (67.0)	$\frac{95.7}{94.5}$ (95.0)
A 45'	へらす(減) $\frac{122}{62}$ (184)				$\frac{0}{0}$ (0)	$\frac{0}{19.7}$ (13.0)	$\frac{75.8}{85.2}$ (82.1)	A 45	くわえる(加) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{0}{0}$ (0)	$\frac{3.2}{2.5}$ (2.7)	$\frac{32.3}{37.7}$ (35.9)
B 44'	へらす(減) $\frac{103}{67}$ (170)				$\frac{0}{1.9}$ (1.2)	$\frac{1.5}{27.2}$ (17.1)	$\frac{82.1}{82.5}$ (82.4)	B 44	ふやす(増) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{0}{1.0}$ (0.6)	$\frac{31.3}{13.6}$ (20.6)	$\frac{76.1}{82.5}$ (80.0)

D 62	ほ す(干) $\frac{109}{70}$ (179)				$\frac{78.6}{81.7}$ (80.4)	$\frac{88.6}{83.5}$ (85.5)	$\frac{98.6}{100.0}$ (99.4)	D 62'	た たむ(盪) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{72.9}{86.2}$ (81.0)	$\frac{80.0}{90.8}$ (86.6)	$\frac{98.6}{99.1}$ (98.9)
C 54'	ほ どく(解) $\frac{112}{75}$ (187)	$\frac{8.9}{21.3}$ (13.9)	$\frac{16.1}{41.3}$ (26.2)		$\frac{52.0}{55.4}$ (54.0)	$\frac{58.7}{67.9}$ (64.2)	$\frac{98.7}{99.1}$ (98.9)	C 54	し ばる(織) $\frac{112}{75}$ (187)	$\frac{9.8}{8.0}$ (9.1)	$\frac{17.0}{9.3}$ (13.9)	$\frac{14.7}{24.1}$ (20.3)	$\frac{25.3}{28.6}$ (27.3)	$\frac{98.7}{97.3}$ (97.9)
B 53'	ほ める(誉) $\frac{103}{67}$ (170)				$\frac{4.5}{9.7}$ (7.6)	$\frac{11.9}{31.1}$ (23.5)	$\frac{92.5}{95.1}$ (94.1)	B 53	し かる(叱) $\frac{103}{67}$ (170)			$\frac{10.4}{14.6}$ (12.9)	$\frac{34.3}{29.1}$ (31.2)	$\frac{88.1}{95.1}$ (92.4)
A 31	ほ る(掘) $\frac{122}{62}$ (184)				$\frac{79.0}{80.3}$ (79.9)	$\frac{88.7}{86.1}$ (87.0)	$\frac{98.4}{97.5}$ (97.8)	A 31'	う める(埋) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{29.0}{37.7}$ (34.8)	$\frac{50.0}{52.5}$ (51.6)	$\frac{93.5}{93.4}$ (93.5)
A 61	ま く(巻) $\frac{122}{62}$ (184)				$\frac{71.0}{76.2}$ (74.5)	$\frac{83.9}{82.8}$ (83.2)	$\frac{98.4}{97.5}$ (97.8)	A 61'	と く(解) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{11.3}{13.1}$ (12.5)	$\frac{17.7}{18.9}$ (18.5)	$\frac{74.2}{73.8}$ (73.9)
C 12'	ま ける(敗) $\frac{112}{75}$ (187)				$\frac{49.3}{42.9}$ (45.5)	$\frac{94.7}{95.5}$ (95.2)	$\frac{98.7}{99.1}$ (98.9)	C 12	か つ(勝) $\frac{112}{75}$ (187)			$\frac{52.0}{43.8}$ (47.1)	$\frac{93.3}{92.9}$ (93.0)	$\frac{97.3}{98.2}$ (97.9)
D 74'	ま げる(曲) $\frac{109}{70}$ (179)				$\frac{17.1}{16.5}$ (16.8)	$\frac{24.3}{33.9}$ (30.2)	$\frac{85.7}{80.7}$ (82.7)	D 74	そ らす(反) $\frac{109}{70}$ (179)			$\frac{0}{2.9}$ (1.1)	$\frac{4.3}{0.9}$ (2.2)	$\frac{31.4}{49.5}$ (42.5)
A 64'	ま げる(曲) $\frac{122}{62}$ (184)				$\frac{9.7}{9.0}$ (9.2)	$\frac{22.6}{30.3}$ (27.7)	$\frac{82.3}{81.1}$ (81.5)	A 64	の ぼす(伸) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{29.0}{29.5}$ (29.3)	$\frac{64.5}{55.7}$ (58.7)	$\frac{90.3}{84.4}$ (86.4)
A 75	ま ぜる(混) $\frac{122}{62}$ (184)				$\frac{40.3}{40.2}$ (40.2)	$\frac{64.5}{59.8}$ (61.4)	$\frac{96.8}{92.6}$ (94.0)	A 75'	わ ける(分) $\frac{122}{62}$ (184)			$\frac{35.5}{29.5}$ (31.5)	$\frac{53.2}{47.5}$ (49.5)	$\frac{88.7}{87.7}$ (88.0)

A 55	まもる(守) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{12.9}{6.6}(8.7)$	$\frac{37.1}{18.9}(25.0)$	$\frac{74.2}{71.3}(72.3)$	A 55'	せめる(攻) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{0}{0.8}(0.5)$	$\frac{0}{4.1}(2.7)$	$\frac{51.6}{60.7}(57.6)$
B 45	みえる(見) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{7.5}{1.9}(4.1)$	$\frac{10.4}{8.7}(9.4)$	$\frac{86.5}{86.4}(86.5)$	B 45'	かくれる(隠) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{34.3}{39.8}(37.6)$	$\frac{49.3}{57.3}(54.1)$	$\frac{97.0}{96.1}(96.5)$
D 33'	むかえる(迎) $\frac{109}{70}(179)$			$\frac{40.0}{22.9}(29.6)$	$\frac{50.0}{46.8}(48.0)$	$\frac{82.9}{78.0}(79.9)$	D 33	おくる(送) $\frac{109}{70}(179)$			$\frac{24.3}{14.7}(18.4)$	$\frac{47.1}{27.5}(35.2)$	$\frac{78.6}{83.5}(81.6)$
B 63	むすぶ(結) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{58.2}{62.1}(60.6)$	$\frac{76.1}{75.7}(74.7)$	$\frac{97.0}{96.1}(96.5)$	B 63'	とく(解) $\frac{103}{67}(170)$			$\frac{17.9}{13.6}(15.3)$	$\frac{26.9}{22.3}(24.1)$	$\frac{76.1}{70.9}(72.9)$
C 22	もす(燃) $\frac{112}{75}(187)$			$\frac{53.3}{50.9}(51.9)$	$\frac{58.7}{64.3}(62.0)$	$\frac{94.7}{93.8}(94.1)$	C 22'	けす(消) $\frac{112}{75}(187)$			$\frac{66.7}{72.3}(70.1)$	$\frac{84.0}{87.5}(86.1)$	$\frac{97.3}{98.2}(97.9)$
C 52'	もどる(戻) $\frac{112}{75}(187)$			$\frac{2.7}{5.4}(4.3)$	$\frac{9.3}{12.5}(11.2)$	$\frac{84.0}{91.1}(88.2)$	C 52	でかける(出) $\frac{112}{75}(187)$			$\frac{6.7}{8.9}(8.0)$	$\frac{29.3}{15.2}(20.9)$	$\frac{100.0}{97.3}(98.4)$
A 65'	もらう(貰) $\frac{122}{62}(184)$	$\frac{34.4}{37.1}(35.3)$	$\frac{1.6}{1.6}(1.6)$	$\frac{88.7}{96.7}(76.1)$	$\frac{88.7}{79.5}(82.6)$	$\frac{96.8}{94.3}(95.1)$	A 65	あげる(上) $\frac{122}{62}(184)$	$\frac{8.2}{14.5}(10.3)$	$\frac{37.7}{38.7}(38.0)$	$\frac{80.6}{81.1}(81.0)$	$\frac{90.3}{88.5}(89.1)$	$\frac{98.4}{97.5}(97.8)$
A 22	もらう(貰) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{82.3}{79.5}(80.4)$	$\frac{91.9}{88.5}(89.7)$	$\frac{100.0}{98.4}(98.9)$	A 22'	とどける(届) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{6.5}{2.5}(3.8)$	$\frac{8.1}{8.2}(8.2)$	$\frac{51.6}{60.7}(57.6)$
A 44'	もらう(貰) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{69.4}{69.7}(69.6)$	$\frac{80.6}{80.3}(80.4)$	$\frac{83.9}{89.3}(87.5)$	A 44	はらう(払) $\frac{122}{62}(184)$			$\frac{9.7}{5.7}(7.1)$	$\frac{19.4}{10.7}(13.6)$	$\frac{82.3}{72.1}(75.5)$

C 44'	もちう(賈) $\frac{112}{75}$ (187)					$\frac{60.0}{50.0}$ (54.0)	$\frac{73.3}{64.3}$ (67.9)	$\frac{96.0}{88.4}$ (91.4)	C 44	や $\frac{112}{75}$ (187)					$\frac{42.7}{46.4}$ (44.9)	$\frac{53.3}{56.3}$ (55.1)	$\frac{90.7}{92.0}$ (91.4)
D 64	やく(絨) $\frac{109}{70}$ (179)					$\frac{94.3}{91.7}$ (92.7)	$\frac{94.3}{98.2}$ (96.6)	$\frac{98.6}{100.0}$ (99.4)	D 64'	あける(物) $\frac{109}{70}$ (179)					$\frac{20.0}{10.1}$ (14.0)	$\frac{22.9}{13.8}$ (17.3)	$\frac{60.0}{51.4}$ (54.7)
C 14'	やせる(瘦) $\frac{112}{75}$ (187)					$\frac{38.7}{43.8}$ (41.7)	$\frac{53.3}{72.3}$ (64.7)	$\frac{97.3}{94.6}$ (95.7)	C 14	ふとる(太) $\frac{112}{75}$ (187)					$\frac{44.0}{45.5}$ (44.9)	$\frac{78.7}{74.1}$ (75.9)	$\frac{96.0}{94.6}$ (95.2)
C 15	やぶる(破) $\frac{112}{75}$ (187)					$\frac{69.3}{62.5}$ (65.2)	$\frac{84.0}{74.1}$ (78.1)	$\frac{97.3}{100.0}$ (98.9)	C 15'	はる(張) $\frac{112}{75}$ (187)					$\frac{77.3}{75.9}$ (76.5)	$\frac{86.7}{85.7}$ (86.1)	$\frac{96.0}{100.0}$ (98.4)
D 25'	やむ(止) $\frac{109}{70}$ (179)					$\frac{42.9}{53.2}$ (49.2)	$\frac{65.7}{67.9}$ (67.0)	$\frac{95.7}{94.5}$ (95.0)	D 25	ふる(降) $\frac{109}{70}$ (179)					$\frac{95.7}{91.7}$ (93.3)	$\frac{100.0}{99.1}$ (99.4)	$\frac{100.0}{99.0}$ (100.0)
C 44	やる(遣) $\frac{112}{75}$ (187)					$\frac{42.7}{46.4}$ (44.9)	$\frac{53.3}{56.3}$ (55.1)	$\frac{90.7}{92.0}$ (91.4)	C 44'	もちう(賈) $\frac{112}{75}$ (187)					$\frac{60.0}{50.0}$ (54.0)	$\frac{73.3}{64.3}$ (67.9)	$\frac{96.0}{88.4}$ (91.4)
A 72	よごれる(汚) $\frac{122}{62}$ (184)					$\frac{17.7}{18.9}$ (18.5)	$\frac{32.3}{22.1}$ (25.5)	$\frac{98.4}{93.4}$ (95.1)	A 72'	きれいになる(綺麗) $\frac{122}{62}$ (184)					$\frac{77.4}{78.7}$ (78.3)	$\frac{82.3}{83.6}$ (83.2)	$\frac{96.8}{99.2}$ (98.4)
D 43	よろこぶ(喜) $\frac{109}{70}$ (179)					$\frac{22.9}{11.9}$ (16.2)	$\frac{57.1}{36.7}$ (44.7)	$\frac{98.6}{99.1}$ (98.9)	D 43'	かなしむ(悲) $\frac{109}{70}$ (179)					$\frac{0}{1.8}$ (-1.1)	$\frac{2.9}{14.7}$ (10.1)	$\frac{97.1}{96.3}$ (96.6)
A 62	よせる(寄) $\frac{122}{62}$ (184)					$\frac{3.2}{0.8}$ (1.6)	$\frac{11.3}{7.4}$ (8.7)	$\frac{61.3}{57.4}$ (58.7)	A 62'	はなす(離) $\frac{122}{62}$ (184)					$\frac{8.1}{11.5}$ (10.3)	$\frac{17.7}{30.3}$ (26.1)	$\frac{62.9}{69.7}$ (67.4)



4-3-35 表 動詞テスト系反応率表

テスト組	語	対 アト( ) サキ	対 アト( ) サキ	対 絵		
				発 語	誘 発	認 知
B 23	あ <u>う</u> (会) わかれ <u>る</u> (別)			$\frac{0}{1.0}$ (0.6)	$\frac{4.5}{11.7}$ (8.8)	$\frac{70.1}{71.8}$ (71.2)
A 3-2	あ <u>が</u> る(上) お <u>り</u> る(降)	$\frac{8.9}{13.3}$ (10.7)	$\frac{19.6}{37.3}$ (26.7)			
B 62	あ <u>が</u> る(上) お <u>り</u> る(降)			$\frac{23.9}{33.0}$ (29.4)	$\frac{38.8}{48.5}$ (44.7)	$\frac{85.1}{89.3}$ (87.6)
C 23	あ <u>が</u> る(上) お <u>り</u> る(降)	$\frac{8.9}{13.3}$ (10.7)	$\frac{19.6}{37.3}$ (26.7)	$\frac{57.3}{55.4}$ (56.1)	$\frac{68.0}{70.5}$ (69.5)	$\frac{98.7}{98.2}$ (98.4)
C 4'-2	あ <u>が</u> る(上) さ <u>が</u> る(下)	$\frac{9.8}{10.7}$ (10.2)	$\frac{24.1}{29.3}$ (26.2)			
B 4'-2	あ <u>け</u> る(明) く <u>れ</u> る(暮)	$\frac{0}{0}$ (0)	$\frac{17.5}{23.9}$ (20.0)			
D 31'	あ <u>け</u> る(明) く <u>れ</u> る(暮)			$\frac{12.9}{13.4}$ (13.4)	$\frac{37.1}{32.1}$ (34.6)	$\frac{62.9}{58.0}$ (60.9)
B 11	あ <u>け</u> る(開) し <u>め</u> る(閉)	$\frac{21.4}{26.9}$ (23.5)	$\frac{30.1}{35.8}$ (32.4)	$\frac{79.1}{84.5}$ (82.4)	$\frac{94.0}{92.2}$ (92.9)	$\frac{100.0}{99.0}$ (99.4)
C 42'	あ <u>け</u> る(開) つ <u>つ</u> む(包)			$\frac{14.7}{15.2}$ (15.0)	$\frac{25.3}{22.3}$ (23.5)	$\frac{92.0}{89.3}$ (90.4)
A 33'	あ <u>け</u> る(明) つ <u>ぶ</u> る(暝)			$\frac{58.1}{54.1}$ (55.4)	$\frac{74.2}{66.4}$ (69.0)	$\frac{87.1}{84.4}$ (56.0)
D 21	あ <u>け</u> る(開) と <u>じ</u> る(閉)			$\frac{12.9}{10.1}$ (11.2)	$\frac{18.6}{10.1}$ (13.4)	$\frac{64.3}{62.4}$ (63.1)
A 2'-2	あ <u>げ</u> る(上) お <u>ろ</u> す(下)	$\frac{2.4}{6.4}$ (3.8)	$\frac{14.8}{16.1}$ (15.2)			

B 52	あ げ る(上) お ろ す(下)			$\frac{3.0}{8.7}$ (6.5)	$\frac{10.4}{21.4}$ (17.1)	$\frac{83.6}{72.8}$ (77.1)
A 13	あ げ る(上) さ げ る(下)	$\frac{8.1}{12.9}$ (9.7)	$\frac{29.5}{22.6}$ (27.2)	$\frac{35.5}{36.1}$ (35.8)	$\frac{51.6}{46.7}$ (48.4)	$\frac{93.5}{91.0}$ (91.8)
A 65	あ げ る(上) も ら う(貰)	$\frac{0.8}{1.6}$ (1.0)	$\frac{25.4}{27.4}$ (26.1)	$\frac{72.6}{59.0}$ (63.6)	$\frac{80.6}{73.8}$ (76.1)	$\frac{95.2}{91.8}$ (92.9)
D 64'	あ げ る(揚) や く(焼)			$\frac{18.6}{10.1}$ (13.4)	$\frac{21.4}{12.8}$ (16.2)	$\frac{58.6}{51.4}$ (54.2)
D 44	あ ず け る(預) う け と る(受)			$\frac{0}{0}$ (0)	$\frac{0}{0}$ (0)	$\frac{40.0}{39.4}$ (39.7)
A 32	あ た え る(与) う ば う(奪)			$\frac{0}{0}$ (0)	$\frac{3.2}{0.8}$ (1.6)	$\frac{45.2}{42.6}$ (43.5)
D 22	あ た た め る(暖) ひ や す(冷)			$\frac{45.7}{42.2}$ (43.6)	$\frac{57.1}{61.5}$ (59.8)	$\frac{97.1}{94.5}$ (95.5)
A 41	あ た る(当) は ず れ る(外)			$\frac{3.2}{3.3}$ (3.3)	$\frac{9.7}{8.2}$ (8.7)	$\frac{79.0}{70.5}$ (73.4)
B 32	あ つ め る(集) ち ら か す(散)			$\frac{0}{0}$ (0)	$\frac{4.5}{8.7}$ (7.1)	$\frac{94.0}{92.2}$ (92.9)
C 32	あ ま る(余) た り な い(足)			$\frac{5.3}{4.5}$ (4.8)	$\frac{16.0}{16.1}$ (16.0)	$\frac{77.3}{73.2}$ (74.9)
D 65	あ む(編) か け る(掛)			$\frac{34.3}{37.6}$ (36.3)	$\frac{51.4}{45.0}$ (47.5)	$\frac{77.1}{82.6}$ (80.4)
C 74'	あ や ま る(謝) し か る(叱)			$\frac{5.3}{11.6}$ (9.1)	$\frac{22.7}{20.5}$ (21.4)	$\frac{96.0}{96.4}$ (96.3)
D 61	あ ら う(洗) し ぼ る(絞)			$\frac{40.0}{53.2}$ (48.0)	$\frac{64.3}{74.3}$ (70.4)	$\frac{91.4}{93.6}$ (92.7)

B 72	$\frac{\text{あ}\quad\text{る(在)}}{\text{(な}\quad\text{い)(無)}}$			$\frac{83.6}{87.4}(85.9)$	$\frac{98.5}{94.2}(95.9)$	$\frac{100.0}{97.1}(98.2)$
A 35'	$\frac{\text{あ}\quad\text{る}\quad\text{く(歩)}}{\text{か}\quad\text{け}\quad\text{る(駆)}}$			$\frac{1.6}{2.5}(2.2)$	$\frac{8.1}{4.9}(6.0)$	$\frac{61.3}{68.9}(66.3)$
D 32'	$\frac{\text{あ}\quad\text{る}\quad\text{く(歩)}}{\text{は}\quad\text{し}\quad\text{る(走)}}$			$\frac{58.6}{65.1}(62.6)$	$\frac{78.6}{76.1}(77.1)$	$\frac{97.1}{97.2}(97.2)$
A 23	$\frac{\text{い}\quad\text{く(行)}}{\text{か}\quad\text{え}\quad\text{る(帰)}}$			$\frac{62.9}{52.5}(56.0)$	$\frac{74.2}{71.3}(72.3)$	$\frac{87.1}{84.4}(85.3)$
D 4'-2	$\frac{\text{い}\quad\text{く(行)}}{\text{か}\quad\text{え}\quad\text{る(帰)}}$	$\frac{8.3}{2.9}(6.1)$	$\frac{33.9}{24.3}(30.2)$			
D 42	$\frac{\text{い}\quad\text{く(行)}}{\text{く}\quad\text{る(来)}}$	$\frac{2.8}{1.4}(2.2)$	$\frac{19.3}{30.0}(23.5)$	$\frac{21.4}{22.0}(21.8)$	$\frac{42.9}{37.6}(39.7)$	$\frac{65.7}{69.7}(68.2)$
D 15	$\frac{\text{い}\quad\text{じ}\quad\text{める(背)}}{\text{か}\quad\text{わ}\quad\text{い}\quad\text{が}\quad\text{る(可愛)}}$			$\frac{18.6}{16.5}(17.3)$	$\frac{37.1}{24.8}(29.6)$	$\frac{97.1}{99.1}(98.3)$
C 2'-1	$\frac{\text{い}\quad\text{れ}\quad\text{る(入)}}{\text{だ}\quad\text{す(出)}}$	$\frac{10.7}{5.3}(8.6)$	$\frac{37.5}{36.0}(36.9)$			
D 14	$\frac{\text{い}\quad\text{れ}\quad\text{る(入)}}{\text{だ}\quad\text{す(出)}}$			$\frac{22.9}{25.7}(24.6)$	$\frac{37.1}{34.9}(35.8)$	$\frac{84.3}{83.5}(83.8)$
C 13	$\frac{\text{う}\quad\text{か}\quad\text{ぶ(浮)}}{\text{し}\quad\text{ず}\quad\text{む(沈)}}$			$\frac{24.0}{30.4}(27.8)$	$\frac{46.7}{50.9}(49.2)$	$\frac{92.0}{83.9}(87.2)$
D 44'	$\frac{\text{う}\quad\text{け}\quad\text{と}\quad\text{る(受)}}{\text{あ}\quad\text{ず}\quad\text{け}\quad\text{る(預)}}$			$\frac{6}{0}(0)$	$\frac{0}{0}(0)$	$\frac{40.0}{39.4}(39.7)$
D 45	$\frac{\text{う}\quad\text{け}\quad\text{と}\quad\text{る(受)}}{\text{な}\quad\text{げ}\quad\text{る(投)}}$	$\frac{2.8}{1.4}(2.2)$	$\frac{3.7}{4.3}(3.9)$	$\frac{42.9}{31.2}(35.8)$	$\frac{65.7}{52.9}(57.5)$	$\frac{88.6}{83.5}(85.5)$
D 33	$\frac{\text{う}\quad\text{ご}\quad\text{か}\quad\text{す(動)}}{\text{と}\quad\text{め}\quad\text{る(止)}}$			$\frac{17.5}{7.5}(13.5)$	$\frac{14.9}{31.1}(24.7)$	$\frac{53.7}{65.0}(60.6)$

B 1'-1	うごく(動) とまる(止)	$\frac{8.7}{9.0}$ (8.8)	$\frac{12.6}{16.4}$ (14.1)			
D 73	うたう(歌) おどる(踊)			$\frac{44.3}{59.6}$ (53.6)	$\frac{51.4}{67.9}$ (61.5)	$\frac{94.3}{99.1}$ (97.2)
A 54	うつ(打) ぬく(抜)			$\frac{16.1}{14.8}$ (15.2)	$\frac{24.2}{21.3}$ (22.3)	$\frac{82.3}{82.0}$ (82.1)
C 75'	うつ(撃) なげる(投)			$\frac{46.7}{60.7}$ (55.1)	$\frac{60.0}{74.1}$ (68.4)	$\frac{88.0}{92.0}$ (89.8)
A 32'	うばう(奪) あたえる(与)			$\frac{0}{0}$ (0)	$\frac{3.2}{0.8}$ (1.6)	$\frac{45.2}{42.6}$ (43.5)
A 51	うまれる(生) しぬ(死)			$\frac{21.0}{27.9}$ (25.5)	$\frac{32.3}{45.9}$ (41.3)	$\frac{96.8}{94.3}$ (95.1)
A 31'	うめる(埋) ほる(掘)			$\frac{25.8}{33.6}$ (31.0)	$\frac{43.5}{45.9}$ (45.1)	$\frac{91.9}{91.0}$ (91.3)
B 51	うる(売) かう(買)			$\frac{10.4}{8.7}$ (9.4)	$\frac{26.9}{17.5}$ (21.2)	$\frac{92.5}{88.3}$ (90.0)
B 55'	おう(道) にげる(逃)			$\frac{34.3}{26.2}$ (29.4)	$\frac{47.8}{45.6}$ (46.5)	$\frac{80.6}{80.6}$ (80.6)
B 12	おきる(起) ねる(寝)			$\frac{94.0}{78.6}$ (84.7)	$\frac{100.0}{94.2}$ (96.5)	$\frac{100.0}{100.0}$ (100.0)
C 33	おく(置) とる(取)			$\frac{18.7}{27.7}$ (24.1)	$\frac{30.7}{40.2}$ (36.4)	$\frac{78.7}{79.5}$ (79.1)
D 33	おく(送) むかえる(迎)			$\frac{20.0}{11.0}$ (14.5)	$\frac{28.6}{17.4}$ (21.8)	$\frac{68.6}{65.1}$ (66.5)
A 34	おくれる(遅) すすむ(進)			$\frac{3.2}{6.6}$ (5.4)	$\frac{11.3}{21.3}$ (17.9)	$\frac{59.7}{54.1}$ (56.0)

D 55'	おこす(起) た おす(倒)	$\frac{0}{0}$ (0)	$\frac{7.3}{2.9}$ (5.6)	$\frac{12.9}{11.9}$ (12.3)	$\frac{17.1}{21.1}$ (19.6)	$\frac{81.4}{86.2}$ (84.4)
D 3'-1	おこす(起) ね かす(寝)	$\frac{2.8}{7.1}$ (4.5)	$\frac{14.7}{5.7}$ (11.2)			
A 74'	おこす(起) ね かす(寝)			$\frac{12.9}{22.0}$ (19.0)	$\frac{35.5}{40.2}$ (38.6)	$\frac{91.9}{91.0}$ (91.3)
D 51	おこる(怒) わらう(笑)			$\frac{74.3}{68.8}$ (90.9)	$\frac{90.0}{81.7}$ (84.9)	$\frac{100.0}{98.2}$ (98.9)
B 34	おさえる(押) はなす(離)			$\frac{7.5}{20.4}$ (15.3)	$\frac{23.9}{30.1}$ (27.6)	$\frac{71.6}{79.6}$ (76.5)
A 52	おしえる(教) ならう(習)			$\frac{3.2}{2.5}$ (2.7)	$\frac{6.5}{5.7}$ (6.0)	$\frac{88.7}{91.0}$ (90.2)
B 75	おしえる(教) たずねる(尋)			$\frac{3.0}{0}$ (1.2)	$\frac{4.5}{6.8}$ (5.9)	$\frac{74.6}{76.7}$ (75.9)
D 12'	おす(押) ひく(引)			$\frac{15.7}{12.8}$ (14.0)	$\frac{30.0}{24.8}$ (26.8)	$\frac{77.1}{59.6}$ (66.5)
C 72	おちる(落) のる(乗)			$\frac{78.7}{78.6}$ (78.6)	$\frac{82.7}{87.5}$ (85.6)	$\frac{100.0}{99.1}$ (99.5)
B 13	おとす(落) ひろう(拾)	$\frac{1.9}{3.0}$ (2.4)	$\frac{2.9}{1.5}$ (2.4)	$\frac{50.7}{55.3}$ (53.5)	$\frac{67.2}{72.8}$ (70.6)	$\frac{89.6}{96.1}$ (93.5)
D 73'	おどる(踊) うたう(歌)			$\frac{44.3}{59.6}$ (53.6)	$\frac{51.4}{67.9}$ (61.5)	$\frac{94.3}{99.1}$ (97.2)
B 54'	(おなじ)(同) ちがう(違)			$\frac{10.4}{25.2}$ (19.4)	$\frac{35.8}{42.7}$ (40.0)	$\frac{70.1}{80.6}$ (76.5)
B 64	おぼれる(溺) たすかる(助)			$\frac{20.9}{20.4}$ (20.6)	$\frac{32.8}{30.1}$ (31.2)	$\frac{88.1}{87.4}$ (87.6)

A 3'-2	おりる(降) あがる(上)	$\frac{8.9}{13.3}$ (10.7)	$\frac{19.6}{37.3}$ (26.7)			
B 62'	おりる(降) あがる(上)			$\frac{23.9}{33.0}$ (29.4)	$\frac{38.8}{48.5}$ (44.7)	$\frac{85.1}{89.3}$ (87.6)
C 23'	おりる(降) あがる(上)	$\frac{8.9}{13.3}$ (10.7)	$\frac{19.6}{37.3}$ (26.7)	$\frac{57.3}{55.4}$ (56.1)	$\frac{68.0}{70.5}$ (69.5)	$\frac{98.7}{98.2}$ (98.4)
A 11'	おりる(降) のる(乗)	$\frac{3.2}{8.0}$ (4.8)		$\frac{85.5}{87.7}$ (87.0)	$\frac{98.4}{94.3}$ (95.7)	$\frac{98.4}{95.5}$ (97.8)
B 31'	おりる(降) のぼる(登)			$\frac{40.3}{53.4}$ (48.2)	$\frac{64.2}{71.8}$ (68.8)	$\frac{88.1}{97.1}$ (93.5)
C 34	おる(折) つなぐ(繋)			$\frac{2.7}{0.9}$ (1.6)	$\frac{9.3}{5.4}$ (7.0)	$\frac{90.7}{80.4}$ (84.5)
A 2-2	おろす(下) あげる(上)	$\frac{2.4}{6.4}$ (3.8)	$\frac{14.8}{16.1}$ (15.2)			
B 52'	おろす(下) あげる(上)			$\frac{3.0}{8.7}$ (6.5)	$\frac{10.4}{21.4}$ (17.1)	$\frac{83.6}{72.8}$ (77.1)
B 71'	おろす(下) かつぐ(担)			$\frac{13.4}{9.7}$ (11.2)	$\frac{14.9}{12.6}$ (13.5)	$\frac{98.5}{92.2}$ (94.7)
C 61'	おろす(下) せおう(背負)			$\frac{0}{0.9}$ (0.5)	$\frac{2.7}{2.7}$ (2.7)	$\frac{64.0}{55.4}$ (58.8)
C 55'	おろす(下) つむ(積)	$\frac{0}{0}$ (0)	$\frac{5.4}{10.7}$ (7.5)	$\frac{9.3}{18.8}$ (15.0)	$\frac{22.7}{26.8}$ (25.1)	$\frac{97.3}{97.3}$ (97.3)
A 21	おろす(降) のせる(乗)			$\frac{24.2}{16.4}$ (19.0)	$\frac{35.5}{23.0}$ (27.2)	$\frac{74.2}{73.0}$ (73.4)
C 3'-2	おろす(降) のせる(乗)	$\frac{1.8}{2.7}$ (2.1)	$\frac{23.2}{3.2}$ (12.8)			

B 21'	おわる(終) はじまる(始)			$\frac{29.9}{35.0}$ (32.9)	$\frac{53.7}{66.0}$ (61.2)	$\frac{89.6}{94.2}$ (92.4)
B 51'	かう(買) うる(売)			$\frac{10.4}{8.7}$ (9.4)	$\frac{26.9}{17.5}$ (21.2)	$\frac{92.5}{88.3}$ (90.0)
D 4-2	かえる(帰) いく(行)	$\frac{8.3}{2.9}$ (6.1)	$\frac{33.9}{24.3}$ (30.2)			
A 23'	かえる(帰) いく(行)			$\frac{62.9}{52.5}$ (56.0)	$\frac{74.2}{71.3}$ (72.3)	$\frac{87.1}{84.4}$ (85.3)
D 34	かか(糶) なお(直)			$\frac{8.6}{5.5}$ (6.7)	$\frac{18.6}{24.8}$ (22.3)	$\frac{57.1}{56.9}$ (57.0)
C 65	かく(書) けす(消)			$\frac{96.0}{99.1}$ (97.9)	$\frac{97.3}{99.1}$ (98.4)	$\frac{100.0}{99.1}$ (99.5)
C 73	かく(書) ぬ(塗)			$\frac{82.7}{91.1}$ (87.7)	$\frac{89.3}{94.6}$ (92.5)	$\frac{98.7}{98.2}$ (98.4)
D 52	かく(書) よむ(読)			$\frac{50.0}{59.6}$ (55.9)	$\frac{70.0}{69.7}$ (69.8)	$\frac{91.4}{97.2}$ (95.0)
B 45'	かくれる(隠) みえる(見)			$\frac{4.5}{1.9}$ (2.9)	$\frac{7.5}{5.8}$ (6.5)	$\frac{83.6}{85.4}$ (84.7)
D 65'	かける(掛) あむ(編)			$\frac{34.3}{37.6}$ (36.3)	$\frac{51.4}{45.0}$ (47.5)	$\frac{77.1}{82.6}$ (80.4)
A 35	かける(駆) あ(歩)			$\frac{1.6}{2.5}$ (2.2)	$\frac{8.1}{4.9}$ (6.0)	$\frac{61.3}{68.9}$ (66.3)
A 53	かける(掛) はず(外)			$\frac{3.2}{4.9}$ (4.3)	$\frac{8.1}{11.5}$ (10.3)	$\frac{64.5}{68.0}$ (66.8)
C 62	かける(掛) ふ(拭)			$\frac{61.3}{65.2}$ (63.6)	$\frac{74.7}{75.0}$ (73.3)	$\frac{86.7}{84.8}$ (85.6)

C 53	かたまる(固) とける(溶)			$\frac{10.7}{12.5}$ (11.8)	$\frac{22.7}{19.6}$ (20.9)	$\frac{92.0}{87.5}$ (89.3)
C 12	か　　つ(勝) まける(負)			$\frac{49.3}{42.0}$ (44.9)	$\frac{92.0}{90.2}$ (90.9)	$\frac{97.3}{97.3}$ (97.3)
B 71	か　　つ(担) おろす(下)			$\frac{13.4}{9.7}$ (11.2)	$\frac{14.9}{12.6}$ (13.5)	$\frac{98.5}{92.2}$ (94.7)
D 43'	かなしむ(悲) よろこぶ(喜)			$\frac{0}{1.8}$ (1.1)	$\frac{0}{8.3}$ (5.0)	$\frac{95.7}{95.4}$ (95.5)
A 4-3	かぶる(被) ぬ　　ぐ(脱)	$\frac{0}{0}$ (0)	$\frac{25.4}{21.0}$ (23.9)			
B 35	かぶる(被) ぬ　　ぐ(脱)			$\frac{29.9}{41.7}$ (37.1)	$\frac{43.3}{52.4}$ (48.8)	$\frac{85.1}{92.2}$ (89.4)
C 51	かれる(枯) しげる(茂)			$\frac{0}{1.8}$ (1.1)	$\frac{0}{2.7}$ (1.6)	$\frac{38.7}{25.0}$ (30.5)
D 15'	かわいがる(可愛) いじめる(苛)			$\frac{18.6}{16.5}$ (17.3)	$\frac{37.1}{24.8}$ (29.6)	$\frac{97.1}{99.1}$ (98.3)
B 14	かわく(乾) ぬれる(濡)			$\frac{22.3}{20.9}$ (21.8)	$\frac{37.3}{48.5}$ (44.1)	$\frac{98.5}{98.1}$ (98.2)
A 14'	きえる(消) つ　　く(点)	$\frac{1.6}{6.4}$ (3.2)	$\frac{17.2}{29.0}$ (21.2)	$\frac{37.1}{45.1}$ (42.4)	$\frac{59.7}{68.9}$ (65.8)	$\frac{90.3}{91.8}$ (91.3)
D 53	き　　く(聞) は　　なす(話)			$\frac{57.1}{46.8}$ (50.8)	$\frac{62.9}{57.8}$ (59.8)	$\frac{87.1}{88.1}$ (87.7)
A 4-2	き　　る(着) ぬ　　ぐ(脱)	$\frac{12.2}{14.5}$ (13.0)	$\frac{33.6}{32.3}$ (33.2)			
D 11	き　　る(着) ぬ　　ぐ(脱)			$\frac{77.1}{80.7}$ (79.3)	$\frac{92.9}{93.6}$ (93.3)	$\frac{97.1}{100}$ (98.9)

C 35	きる(切) はる(張)			$\frac{80.0}{75.0}$ (77.0)	$\frac{84.0}{83.0}$ (83.4)	$\frac{98.7}{97.3}$ (97.9)
A 72'	きれいになる(綺麗) よごれる(汚)			$\frac{9.7}{12.3}$ (11.4)	$\frac{22.6}{19.7}$ (20.7)	$\frac{96.8}{93.4}$ (94.6)
D 35	きる(切) つながる(繋)			$\frac{2.9}{1.8}$ (2.2)	$\frac{2.9}{6.4}$ (5.0)	$\frac{85.7}{90.8}$ (88.8)
D 42'	くる(来) いく(行)	$\frac{2.8}{1.4}$ (2.2)	$\frac{19.3}{30.0}$ (23.5)	$\frac{21.4}{22.0}$ (21.8)	$\frac{42.9}{37.6}$ (39.7)	$\frac{65.7}{69.7}$ (68.2)
B 4-2	くれる(暮) あける(明)	$\frac{0}{0}$ (0)	$\frac{17.5}{23.9}$ (20.0)			
D 31'	くれる(暮) あける(明)			$\frac{12.9}{13.4}$ (13.4)	$\frac{37.1}{32.1}$ (34.6)	$\frac{62.9}{58.0}$ (60.9)
A 45	くわえる(加) へらす(減)			$\frac{0}{0}$ (0)	$\frac{0}{0.8}$ (0.5)	$\frac{24.2}{36.1}$ (32.1)
C 65'	けす(消) かく(書)			$\frac{96.0}{99.1}$ (97.9)	$\frac{97.3}{99.1}$ (98.4)	$\frac{100.0}{99.1}$ (99.5)
D 13'	けす(消) つけ(点)			$\frac{74.3}{81.7}$ (78.8)	$\frac{82.9}{89.0}$ (86.6)	$\frac{98.6}{99.1}$ (98.9)
C 22'	けす(消) もす(燃)			$\frac{37.3}{39.3}$ (38.5)	$\frac{52.0}{57.1}$ (55.1)	$\frac{92.0}{92.9}$ (92.5)
B 41'	こたえる(答) たずねる(尋)			$\frac{0}{1.0}$ (0.6)	$\frac{1.5}{2.9}$ (2.4)	$\frac{40.3}{46.6}$ (44.1)
A 15	こむ(込) すく(透)			$\frac{9.7}{11.5}$ (10.9)	$\frac{25.8}{27.0}$ (26.6)	$\frac{75.8}{78.7}$ (77.7)
C 31'	ころす(殺) にがす(逃)			$\frac{12.0}{8.0}$ (9.6)	$\frac{17.3}{14.3}$ (15.5)	$\frac{96.0}{96.4}$ (96.3)

D 75'	$\frac{\text{ころぶ(転)}}{\text{とぶ(飛)}}$			$\frac{12.9}{4.6}(7.8)$	$\frac{41.4}{10.1}(22.3)$	$\frac{84.3}{83.5}(83.8)$
D 23	$\frac{\text{こわす(壊)}}{\text{なおす(直)}}$			$\frac{34.3}{37.6}(36.3)$	$\frac{48.6}{56.9}(53.6)$	$\frac{91.4}{98.2}(95.5)$
C 4-2	$\frac{\text{さがる(下)}}{\text{あがる(上)}}$	$\frac{9.8}{10.7}(10.2)$	$\frac{24.1}{29.3}(26.2)$			
C 71	$\frac{\text{さく(咲)}}{\text{しぼむ(萎)}}$			$\frac{9.3}{25.0}(18.7)$	$\frac{20.0}{37.5}(31.5)$	$\frac{88.0}{86.6}(87.2)$
A 24	$\frac{\text{さく(咲)}}{\text{ちる(散)}}$			$\frac{19.4}{22.1}(21.2)$	$\frac{24.2}{27.0}(26.1)$	$\frac{85.5}{86.9}(86.4)$
A 13'	$\frac{\text{さげる(下)}}{\text{あげる(上)}}$	$\frac{8.1}{12.9}(9.7)$	$\frac{29.5}{22.6}(27.2)$	$\frac{35.5}{36.1}(35.8)$	$\frac{51.6}{46.7}(48.4)$	$\frac{93.5}{91.0}(91.8)$
B 3-2	$\frac{\text{さす(差)}}{\text{すぼめる(窄)}}$	$\frac{0}{0}(0)$	$\frac{4.9}{4.5}(4.7)$			
C 41	$\frac{\text{さす(差)}}{\text{つぼめる(窄)}}$			$\frac{20.0}{17.9}(18.7)$	$\frac{36.0}{33.0}(34.2)$	$\frac{85.3}{78.6}(81.3)$
B 25	$\frac{\text{さす(差)}}{\text{ぬく(抜)}}$	$\frac{1.0}{1.5}(1.8)$	$\frac{6.8}{9.0}(7.6)$	$\frac{14.9}{23.3}(20.0)$	$\frac{32.8}{37.9}(35.9)$	$\frac{62.7}{80.6}(73.5)$
B 74	$\frac{\text{さわぐ(騒)}}{\text{(しずかにする)(静)}}$			$\frac{3.0}{6.8}(5.3)$	$\frac{7.5}{16.5}(12.9)$	$\frac{97.0}{96.1}(96.5)$
B 53	$\frac{\text{しかる(叱)}}{\text{ほめる(誉)}}$			$\frac{0}{4.9}(2.9)$	$\frac{4.5}{8.7}(7.1)$	$\frac{86.6}{92.2}(90.0)$
C 74	$\frac{\text{しかる(叱)}}{\text{あやまる(謝)}}$			$\frac{5.3}{11.6}(9.1)$	$\frac{22.7}{20.5}(21.4)$	$\frac{96.0}{96.4}(96.3)$
A 42	$\frac{\text{しやく(敷)}}{\text{たたむ(畳)}}$			$\frac{30.6}{32.8}(32.1)$	$\frac{45.2}{49.2}(47.8)$	$\frac{70.3}{84.4}(86.4)$

C 51'	しげる(茂) かれる(枯)			$\frac{0}{1.8}$ (1.1)	$\frac{0}{2.7}$ (1.6)	$\frac{38.7}{25.0}$ (30.5)
B 74'	(しずかにする)(静) さわぐ(騒)			$\frac{3.0}{6.8}$ (5.3)	$\frac{7.5}{16.5}$ (12.9)	$\frac{97.0}{96.1}$ (96.5)
C 13'	しずむ(沈) うかぶ(浮)			$\frac{24.0}{30.4}$ (27.8)	$\frac{46.7}{50.9}$ (49.2)	$\frac{92.0}{83.9}$ (87.2)
A 51'	しぬ(死) うまれる(生)			$\frac{21.0}{27.9}$ (25.5)	$\frac{32.3}{45.9}$ (41.3)	$\frac{96.8}{94.3}$ (95.1)
C 54	しばる(縛) ほどく(解)	$\frac{2.7}{6.7}$ (4.3)	$\frac{3.6}{2.7}$ (3.2)	$\frac{10.7}{15.2}$ (13.4)	$\frac{14.7}{17.9}$ (16.6)	$\frac{97.3}{97.3}$ (97.3)
C 71'	しばむ(姿) さく(咲)			$\frac{9.3}{25.0}$ (18.7)	$\frac{20.0}{37.5}$ (31.5)	$\frac{88.0}{86.6}$ (87.2)
A 63'	しばむ(姿) ふくらむ(脹)			$\frac{14.5}{6.6}$ (9.2)	$\frac{25.8}{19.7}$ (21.7)	$\frac{87.1}{86.1}$ (86.4)
D 61'	しばる(絞) あらう(洗)			$\frac{40.0}{53.2}$ (48.0)	$\frac{64.3}{74.3}$ (70.4)	$\frac{91.4}{93.6}$ (92.7)
C 45'	しまう(仕舞) だす(出)			$\frac{9.3}{22.3}$ (17.1)	$\frac{21.3}{35.7}$ (29.9)	$\frac{68.0}{77.7}$ (73.8)
C 64'	しまう(仕舞) ならべる(並)			$\frac{2.7}{5.4}$ (4.3)	$\frac{9.3}{11.6}$ (10.7)	$\frac{73.3}{77.7}$ (75.9)
B 11'	しめる(閉) あける(開)	$\frac{21.4}{26.9}$ (23.5)	$\frac{30.1}{35.8}$ (32.4)	$\frac{79.1}{84.5}$ (82.4)	$\frac{94.0}{92.2}$ (92.9)	$\frac{100.0}{99.0}$ (99.4)
D 41	しめる(縮) はずす(外)			$\frac{10.0}{16.5}$ (14.0)	$\frac{21.4}{23.9}$ (22.9)	$\frac{81.4}{85.3}$ (83.8)
A 25	しる(知) わすれる(忘)			$\frac{1.6}{1.0}$ (0.5)	$\frac{3.2}{9.8}$ (7.6)	$\frac{72.6}{68.9}$ (70.1)

D 54	す　　う(吸) は　　く(吐)			$\frac{22.9}{26.6}(25.1)$	$\frac{35.7}{33.4}(34.6)$	$\frac{73.3}{77.7}(75.9)$
A 15'	す　　く(透) こ　　む(込)			$\frac{9.7}{11.5}(10.9)$	$\frac{25.8}{27.0}(26.6)$	$\frac{75.8}{78.7}(77.7)$
A 34'	すすむ(進) おくれる(遅)			$\frac{3.2}{6.6}(5.4)$	$\frac{11.3}{21.3}(17.9)$	$\frac{59.7}{54.1}(56.0)$
C 24'	す　て　る(拾) ひ　ろ　う(拾)			$\frac{26.7}{21.4}(23.5)$	$\frac{41.3}{36.6}(38.5)$	$\frac{85.3}{90.2}(88.2)$
B 3-2	すぼめる(窄) さ　　す(差)	$\frac{0}{0}(0)$	$\frac{4.9}{4.5}(4.7)$			
C 41'	すぼめる(窄) さ　　す(差)			$\frac{20.0}{17.9}(18.7)$	$\frac{36.0}{33.0}(34.2)$	$\frac{85.3}{78.6}(81.3)$
B 15	す　わ　る(座) た　　つ(立)			$\frac{73.1}{82.5}(78.0)$	$\frac{89.6}{95.1}(92.9)$	$\frac{97.0}{99.0}(98.2)$
C 61	せ　お　う(背負) お　ろ　す(下)			$\frac{0}{1.9}(0.5)$	$\frac{2.7}{2.7}(2.7)$	$\frac{64.0}{55.4}(58.8)$
A 71'	せばまる(狭) ひろがる(広)			$\frac{3.2}{1.6}(2.2)$	$\frac{9.7}{3.3}(5.4)$	$\frac{53.2}{44.3}(47.3)$
A 55'	せ　め　る(攻) ま　も　る(守)			$\frac{0}{0.8}(0.5)$	$\frac{0}{1.6}(1.0)$	$\frac{48.4}{54.9}(52.7)$
D 74	そ　ら　す(反) ま　げ　る(曲)			$\frac{1.4}{0}(0.6)$	$\frac{1.4}{0.9}(1.1)$	$\frac{28.6}{40.4}(35.8)$
D 55	た　お　す(倒) お　こ　す(起)	$\frac{0}{0}(0)$	$\frac{7.3}{2.9}(5.6)$	$\frac{12.9}{11.9}(12.3)$	$\frac{17.1}{21.1}(19.6)$	$\frac{81.4}{86.2}(84.4)$
C 2-1	だ　　す(出) い　れ　る(入)	$\frac{10.7}{5.3}(8.6)$	$\frac{37.5}{36.0}(36.9)$			

D 14'	だす(出) いれる(入)			$\frac{22.9}{25.7}$ (24.6)	$\frac{37.1}{34.9}$ (35.8)	$\frac{84.3}{83.5}$ (83.8)
C 45	だす(出) しまう(仕舞)			$\frac{9.3}{22.3}$ (17.1)	$\frac{21.3}{35.7}$ (29.9)	$\frac{68.0}{77.7}$ (73.8)
B 64'	たすかる(助) おぼれる(溺)			$\frac{20.9}{20.4}$ (20.6)	$\frac{32.8}{30.1}$ (31.2)	$\frac{88.1}{87.4}$ (87.6)
B 75	たずねる(尋) おしえる(教)			$\frac{3.0}{0}$ (1.2)	$\frac{4.5}{6.8}$ (5.9)	$\frac{74.6}{76.7}$ (75.9)
B 41	たずねる(尋) こたえる(答)			$\frac{0}{1.0}$ (0.6)	$\frac{1.5}{2.9}$ (2.4)	$\frac{40.3}{46.6}$ (44.1)
C 21	たたく(叩) なでる(撫)			$\frac{70.7}{67.9}$ (69.0)	$\frac{78.7}{73.2}$ (75.4)	$\frac{96.0}{93.8}$ (94.7)
D 71'	たたく(叩) ひく(弾)			$\frac{74.3}{71.6}$ (72.6)	$\frac{81.4}{81.7}$ (81.6)	$\frac{100.0}{97.2}$ (98.3)
A 42'	たたむ(畳) しく(敷)			$\frac{30.6}{32.8}$ (32.1)	$\frac{45.2}{49.2}$ (47.8)	$\frac{70.3}{84.4}$ (86.4)
B 42	たたむ(畳) ひろげる(広)			$\frac{25.4}{37.9}$ (32.9)	$\frac{38.8}{50.5}$ (45.9)	$\frac{95.5}{97.1}$ (96.5)
D 62'	たたむ(畳) ほす(干)			$\frac{60.0}{70.6}$ (66.5)	$\frac{70.0}{77.1}$ (74.3)	$\frac{98.6}{99.1}$ (98.9)
B 15'	たつ(立) すわる(座)			$\frac{73.1}{82.5}$ (78.8)	$\frac{89.6}{95.1}$ (92.9)	$\frac{97.0}{99.0}$ (98.2)
C 63'	たべる(食) なめる(嘗)			$\frac{64.0}{78.6}$ (72.7)	$\frac{74.7}{86.6}$ (81.8)	$\frac{98.7}{98.2}$ (98.4)
C 32'	たらない(足) あまる(余)			$\frac{5.3}{4.5}$ (4.8)	$\frac{16.0}{16.1}$ (16.0)	$\frac{77.3}{73.2}$ (74.9)

B 54	ちがう(違) おなじ(同)			$\frac{10.4}{25.2}$ (19.4)	$\frac{35.8}{42.7}$ (40.0)	$\frac{70.1}{80.6}$ (76.5)
B 73'	ちぢめる(縮) のばす(伸)			$\frac{3.0}{2.9}$ (2.9)	$\frac{10.4}{10.7}$ (10.6)	$\frac{89.6}{88.3}$ (88.8)
B 32'	ちらかす(散) あつめる(集)			$\frac{0}{0}$ (0)	$\frac{4.5}{8.7}$ (7.1)	$\frac{94.0}{92.2}$ (92.9)
A 24'	ちる(散) さく(咲)			$\frac{19.4}{22.1}$ (21.2)	$\frac{24.2}{27.0}$ (26.1)	$\frac{85.5}{86.9}$ (86.4)
D 24	つかまえる(掴) にがす(逃)	$\frac{3.7}{5.7}$ (4.5)	$\frac{12.8}{11.4}$ (12.3)	$\frac{30.0}{37.6}$ (34.6)	$\frac{55.7}{61.5}$ (59.2)	$\frac{92.9}{94.5}$ (93.9)
A 14	つく(点) きえる(消)	$\frac{1.6}{6.4}$ (3.2)	$\frac{17.2}{29.0}$ (21.2)	$\frac{37.1}{45.1}$ (42.4)	$\frac{59.7}{68.9}$ (65.8)	$\frac{90.3}{91.8}$ (91.3)
A 73'	つく(付) はなれる(離)			$\frac{8.1}{9.8}$ (9.2)	$\frac{27.4}{23.0}$ (24.5)	$\frac{82.3}{77.0}$ (78.8)
B 61	つく(付) はなれる(離)			$\frac{0}{2.9}$ (1.8)	$\frac{7.5}{12.6}$ (10.6)	$\frac{59.7}{65.0}$ (62.9)
D 13	つける(点) けす(消)			$\frac{74.3}{81.7}$ (78.8)	$\frac{82.9}{89.0}$ (86.6)	$\frac{98.6}{99.1}$ (98.9)
C 42	つつむ(包) あける(開)			$\frac{14.7}{15.2}$ (15.0)	$\frac{25.3}{22.3}$ (23.5)	$\frac{92.0}{89.3}$ (90.4)
B 65'	つづく(続) わかれる(分)			$\frac{7.5}{1.9}$ (4.1)	$\frac{9.0}{8.7}$ (8.8)	$\frac{68.7}{72.8}$ (71.2)
D 35'	つながる(繋) きれる(切)			$\frac{2.9}{1.8}$ (2.2)	$\frac{2.9}{6.4}$ (5.0)	$\frac{85.7}{90.8}$ (88.8)
C 34'	つなぐ(繋) おる(折)			$\frac{2.7}{0.9}$ (1.6)	$\frac{9.3}{5.4}$ (7.0)	$\frac{90.7}{80.4}$ (84.5)

C 25	つなぐ(繋) はなす(離)			$\frac{18.7}{17.0}$ (17.6)	$\frac{28.0}{26.8}$ (27.3)	$\frac{90.7}{95.5}$ (93.6)
A 33	つぶる(暝) あける(明)			$\frac{58.1}{54.1}$ (55.4)	$\frac{74.2}{66.4}$ (69.0)	$\frac{87.1}{84.4}$ (56.0)
C 55	つむ(積) おろす(下)	$\frac{0}{0}$ (0)	$\frac{5.4}{10.7}$ (7.5)	$\frac{9.3}{18.8}$ (15.0)	$\frac{22.7}{26.8}$ (25.1)	$\frac{97.3}{97.3}$ (97.3)
C 52	でかける(出) もどる(戻)			$\frac{1.3}{1.0}$ (0.5)	$\frac{6.7}{0.9}$ (3.7)	$\frac{84.0}{89.3}$ (87.2)
A 43'	でる(出) はいる(入)			$\frac{41.9}{45.1}$ (44.0)	$\frac{53.2}{54.1}$ (53.8)	$\frac{90.3}{87.7}$ (88.6)
A 61'	とく(解) まく(巻)			$\frac{8.1}{11.2}$ (10.3)	$\frac{17.7}{18.9}$ (18.5)	$\frac{71.0}{74.6}$ (73.4)
B 63'	とく(解) むすぶ(結)			$\frac{16.4}{11.7}$ (13.5)	$\frac{25.4}{19.4}$ (21.8)	$\frac{74.6}{68.0}$ (71.2)
C 53'	とける(溶) かたまる(固)			$\frac{10.7}{12.5}$ (11.8)	$\frac{22.7}{19.6}$ (20.9)	$\frac{92.0}{87.5}$ (89.3)
D 21'	とじる(閉) あける(開)			$\frac{12.9}{10.1}$ (11.2)	$\frac{18.6}{10.1}$ (13.4)	$\frac{64.3}{62.4}$ (63.1)
A 22'	とどける(届) もろう(貫)			$\frac{4.8}{2.5}$ (3.3)	$\frac{8.1}{6.6}$ (7.1)	$\frac{51.6}{59.8}$ (57.1)
D 75	とぶ(飛) ころぶ(転)			$\frac{12.9}{4.6}$ (7.8)	$\frac{41.4}{10.1}$ (22.3)	$\frac{84.3}{83.5}$ (83.8)
B 22	とぶ(飛) とまる(止)			$\frac{56.7}{70.9}$ (65.3)	$\frac{73.1}{79.6}$ (77.1)	$\frac{94.0}{96.1}$ (95.3)
B 1-1	とまる(止) うごく(動)	$\frac{8.7}{9.0}$ (8.8)	$\frac{12.6}{16.4}$ (14.1)			

B 22'	とま _る (止) とぶ _る (飛)			$\frac{56.7}{70.9}$ (65.3)	$\frac{73.1}{79.6}$ (77.7)	$\frac{94.0}{96.1}$ (95.3)
B 33'	とめ _る (止) うごか _す (動)			$\frac{17.5}{7.5}$ (13.5)	$\frac{14.9}{31.1}$ (24.7)	$\frac{53.7}{65.0}$ (60.6)
C 33'	と _る (取) お _く (置)			$\frac{18.7}{27.7}$ (24.1)	$\frac{30.7}{40.2}$ (36.4)	$\frac{78.7}{79.5}$ (79.1)
B 72'	(な _い ) _る (無) あ _る (在)			$\frac{83.6}{87.4}$ (85.9)	$\frac{98.5}{94.2}$ (95.9)	$\frac{100.0}{97.1}$ (98.2)
D 23'	こわ _す (壊) なお _す (直)			$\frac{34.3}{37.6}$ (36.3)	$\frac{48.6}{56.9}$ (53.6)	$\frac{91.4}{98.2}$ (95.5)
D 34'	な _{おる} (直) か _か る(罹)			$\frac{8.6}{5.5}$ (6.7)	$\frac{18.6}{24.8}$ (22.3)	$\frac{57.1}{56.9}$ (57.0)
C 11	な _く (泣) わ _ら う(笑)			$\frac{80.0}{91.1}$ (86.6)	$\frac{98.2}{90.7}$ (95.2)	$\frac{97.3}{100}$ (98.9)
B 43	な _{ぐる} (殴) な _で る(撫)			$\frac{10.4}{8.7}$ (9.4)	$\frac{23.9}{18.4}$ (20.6)	$\frac{92.5}{95.1}$ (94.1)
D 45'	な _{げる} (投) う _け とる(受)	$\frac{2.8}{1.4}$ (2.2)	$\frac{3.7}{4.3}$ (3.9)	$\frac{42.9}{31.2}$ (35.8)	$\frac{65.7}{52.9}$ (57.5)	$\frac{88.6}{83.5}$ (85.5)
C 75	な _{げる} (投) う _つ (撃)			$\frac{46.7}{60.7}$ (55.1)	$\frac{60.0}{74.1}$ (68.4)	$\frac{88.0}{92.2}$ (89.8)
C 21'	な _で る(撫) た _た く(叩)			$\frac{70.7}{67.9}$ (69.0)	$\frac{78.7}{73.2}$ (75.4)	$\frac{96.0}{93.8}$ (94.7)
B 43	な _で る(撫) な _{ぐる} (殴)			$\frac{10.4}{8.7}$ (9.4)	$\frac{23.9}{18.4}$ (20.6)	$\frac{92.5}{95.1}$ (94.1)
C 63	な _め る(嘗) た _べ る(食)			$\frac{64.0}{78.6}$ (72.7)	$\frac{74.7}{86.6}$ (81.8)	$\frac{98.7}{98.2}$ (98.4)

A 52'	ならう(習) おしえる(教)			$\frac{3.2}{2.5}$ (2.7)	$\frac{6.5}{5.7}$ (6.0)	$\frac{88.7}{91.0}$ (90.2)
C 64	ならべる(並) しまう(仕舞)			$\frac{2.7}{5.4}$ (4.3)	$\frac{9.3}{11.6}$ (10.7)	$\frac{73.3}{77.7}$ (75.9)
D 72'	ならす(鳴) ふく(吹)			$\frac{67.1}{74.3}$ (71.5)	$\frac{84.3}{84.4}$ (84.4)	$\frac{100.0}{97.2}$ (98.3)
C 31	にがす(逃) ころす(殺)			$\frac{12.0}{8.0}$ (9.6)	$\frac{17.3}{14.3}$ (15.5)	$\frac{96.0}{96.4}$ (96.3)
D 24'	にがす(逃) つかまえる(掴)	$\frac{3.7}{5.7}$ (4.5)	$\frac{12.8}{11.4}$ (12.3)	$\frac{30.0}{37.6}$ (34.6)	$\frac{55.7}{61.5}$ (59.2)	$\frac{92.9}{94.5}$ (93.9)
C 43	にぎる(握) はなす(放)			$\frac{17.3}{22.3}$ (20.3)	$\frac{42.7}{33.9}$ (37.4)	$\frac{86.7}{87.5}$ (87.2)
B 55	にげる(逃) おう(追)			$\frac{34.3}{26.2}$ (29.4)	$\frac{47.8}{45.6}$ (46.5)	$\frac{80.6}{80.6}$ (80.6)
D 63	にる(煮) わかす(沸)			$\frac{17.1}{15.6}$ (16.2)	$\frac{25.7}{21.1}$ (22.9)	$\frac{65.7}{69.7}$ (68.2)
A 54'	ぬく(抜) うつ(打)			$\frac{16.1}{14.8}$ (15.2)	$\frac{24.2}{21.3}$ (22.3)	$\frac{82.3}{82.0}$ (82.1)
B 25'	ぬく(抜) さす(差)	$\frac{1.0}{1.5}$ (1.8)	$\frac{6.8}{9.0}$ (7.6)	$\frac{14.9}{23.3}$ (20.0)	$\frac{32.8}{37.9}$ (35.9)	$\frac{62.7}{80.6}$ (73.5)
B 35'	ぬぐ(脱) かぶる(被)			$\frac{29.9}{41.7}$ (37.1)	$\frac{43.3}{52.4}$ (48.8)	$\frac{85.1}{92.2}$ (89.4)
A 4'-3	(ぬぐ)(脱) かぶる(被)	$\frac{0}{0}$ (0)	$\frac{25.4}{21.0}$ (23.9)			
A 4'-2	ぬぐ(脱) きる(着)	$\frac{12.2}{14.5}$ (13.0)	$\frac{33.6}{32.3}$ (33.2)			

D 11	ぬぐ(脱) きる(着)			$\frac{77.1}{80.7}$ (79.3)	$\frac{92.9}{93.6}$ (93.3)	$\frac{97.1}{100}$ (98.9)
A 12'	ぬぐ(脱) はく(履)	$\frac{3.2}{3.2}$ (3.2)	$\frac{31.1}{32.3}$ (31.5)	$\frac{58.1}{57.4}$ (57.6)	$\frac{79.0}{86.1}$ (83.2)	$\frac{96.8}{96.7}$ (96.7)
C 73'	ぬる(塗) かく(書)			$\frac{82.7}{91.1}$ (87.7)	$\frac{89.3}{94.6}$ (92.5)	$\frac{98.7}{98.2}$ (98.4)
B 14'	ぬれる(濡) かわく(乾)			$\frac{22.3}{20.9}$ (21.8)	$\frac{37.3}{48.5}$ (44.1)	$\frac{98.5}{98.1}$ (98.2)
A 74	ねかす(寝) おこす(起)			$\frac{12.9}{22.0}$ (19.0)	$\frac{35.5}{40.2}$ (38.6)	$\frac{91.9}{91.0}$ (91.3)
D 3-1	ねかす(寝) おこす(起)	$\frac{2.8}{7.1}$ (4.5)	$\frac{14.7}{5.7}$ (11.2)			
B 12'	ねる(寝) おきる(起)			$\frac{94.0}{78.6}$ (84.7)	$\frac{100.0}{94.2}$ (96.5)	$\frac{100.0}{100.0}$ (100.0)
A 21'	のせる(乗) おろす(降)			$\frac{24.2}{16.4}$ (19.0)	$\frac{35.5}{23.0}$ (27.2)	$\frac{74.2}{73.0}$ (73.4)
C 3-2	のせる(乗) おろす(降)	$\frac{1.8}{2.7}$ (2.1)	$\frac{23.2}{3.2}$ (12.8)			
B 73	のばす(伸) ちぢめる(縮)			$\frac{3.0}{2.9}$ (2.9)	$\frac{10.4}{10.7}$ (10.6)	$\frac{89.6}{88.3}$ (88.8)
A 64	のばす(伸) まげる(曲)			$\frac{9.7}{5.7}$ (7.1)	$\frac{19.4}{15.6}$ (16.8)	$\frac{74.2}{74.6}$ (74.5)
B 31	のぼる(登) おりる(降)			$\frac{40.3}{53.4}$ (48.2)	$\frac{64.2}{71.8}$ (68.8)	$\frac{88.1}{97.1}$ (93.5)
C 72'	のる(乗) おちる(落)			$\frac{78.7}{78.6}$ (78.6)	$\frac{82.7}{87.5}$ (85.6)	$\frac{100.0}{99.1}$ (99.5)

A 11	の　　る(乗) お　り　る(降)	$\frac{3.2}{8.0}$ (4.8)	$\frac{41.0}{45.2}$ (42.4)	$\frac{85.5}{87.7}$ (87.0)	$\frac{98.4}{94.3}$ (95.7)	$\frac{98.4}{95.5}$ (97.8)
A 43	は　い　る(入) で　　　る(出)			$\frac{41.9}{45.1}$ (44.0)	$\frac{53.2}{54.1}$ (53.8)	$\frac{90.3}{87.7}$ (88.6)
D 54'	は　　　く(吐) す　　　う(吸)			$\frac{22.9}{26.6}$ (25.1)	$\frac{35.7}{33.4}$ (34.6)	$\frac{78.6}{72.5}$ (74.9)
A 12	は　　　く(履) ぬ　　　ぐ(脱)	$\frac{3.2}{3.2}$ (3.2)	$\frac{31.1}{32.3}$ (31.5)	$\frac{58.1}{57.4}$ (57.6)	$\frac{79.0}{86.1}$ (83.2)	$\frac{96.8}{96.7}$ (96.7)
B 21	は　じ　ま　る(始) お　わ　　る(終)			$\frac{29.9}{35.0}$ (32.9)	$\frac{53.7}{66.0}$ (61.2)	$\frac{89.6}{94.2}$ (92.4)
D 32	は　し　　る(走) あ　　　るく(歩)			$\frac{58.6}{65.1}$ (62.6)	$\frac{78.6}{76.1}$ (77.1)	$\frac{97.1}{97.2}$ (97.2)
A 53'	は　　ず　　す(外) か　　け　　る(掛)			$\frac{3.2}{4.9}$ (4.3)	$\frac{8.1}{11.5}$ (10.3)	$\frac{64.5}{68.0}$ (66.8)
D 41'	は　　ず　　す(外) し　　め　　る(締)			$\frac{10.0}{16.5}$ (14.0)	$\frac{21.4}{23.9}$ (22.9)	$\frac{81.4}{85.3}$ (83.8)
B 24'	は　　ず　　す(外) は　　め　　る(填)			$\frac{6.6}{4.9}$ (5.3)	$\frac{10.4}{10.7}$ (10.6)	$\frac{64.2}{75.7}$ (71.2)
A 41'	は　　ず　　れる(外) あ　　た　　る(当)			$\frac{3.2}{3.3}$ (3.3)	$\frac{9.7}{8.2}$ (8.7)	$\frac{79.0}{70.5}$ (73.4)
B 34'	は　　な　　す(離) お　　さ　　える(押)			$\frac{7.5}{20.4}$ (15.3)	$\frac{23.9}{30.1}$ (27.6)	$\frac{71.6}{79.6}$ (76.5)
D 33'	は　　な　　す(話) き　　　　く(聞)			$\frac{57.1}{46.8}$ (50.8)	$\frac{62.9}{57.8}$ (59.8)	$\frac{87.1}{88.1}$ (87.7)
C 25'	つ　　な　　ぐ(繋) は　　な　　す(離)			$\frac{18.7}{17.0}$ (17.6)	$\frac{28.0}{26.8}$ (27.3)	$\frac{90.7}{95.5}$ (93.6)

C 43'	にぎる(握) はなす(放)			$\frac{17.3}{22.3}$ (20.3)	$\frac{42.7}{33.9}$ (37.4)	$\frac{86.7}{87.5}$ (87.2)
A 62'	はなす(離) よせる(寄)			$\frac{1.6}{0}$ (0.5)	$\frac{3.2}{3.3}$ (3.3)	$\frac{43.5}{49.2}$ (47.3)
A 73	はなれる(離) つく(付)			$\frac{8.1}{9.8}$ (9.2)	$\frac{27.4}{23.0}$ (24.5)	$\frac{82.3}{77.0}$ (78.8)
B 61'	はなれる(離) つく(付)			$\frac{0}{2.9}$ (1.8)	$\frac{7.5}{12.6}$ (10.6)	$\frac{59.7}{65.0}$ (62.9)
A 44	はらう(払) もらう(貰)			$\frac{8.1}{4.9}$ (6.0)	$\frac{17.7}{10.7}$ (13.0)	$\frac{69.4}{67.2}$ (67.9)
C 35'	はる(張) きる(切)			$\frac{80.0}{75.0}$ (77.0)	$\frac{84.0}{83.0}$ (83.4)	$\frac{98.7}{97.3}$ (97.9)
C 15'	はる(張) やぶる(破)			$\frac{57.3}{46.4}$ (50.8)	$\frac{73.3}{61.6}$ (66.3)	$\frac{93.3}{100}$ (97.3)
B 24	はめる(填) はずす(外)			$\frac{6.6}{4.9}$ (5.3)	$\frac{10.4}{10.7}$ (10.6)	$\frac{64.2}{75.7}$ (71.2)
D 12	ひく(引) おす(押)			$\frac{15.7}{12.8}$ (14.0)	$\frac{30.0}{24.8}$ (26.8)	$\frac{77.1}{59.6}$ (66.5)
D 71	ひく(弾) たたく(叩)			$\frac{74.3}{71.6}$ (72.6)	$\frac{81.4}{81.7}$ (81.6)	$\frac{100.0}{97.2}$ (98.3)
D 22'	ひやす(冷) あたためる(暖)			$\frac{45.7}{42.2}$ (43.6)	$\frac{57.1}{61.5}$ (59.8)	$\frac{97.1}{94.5}$ (95.5)
B 13'	ひろう(拾) おとす(落)	$\frac{1.9}{3.0}$ (2.4)	$\frac{2.9}{1.5}$ (2.4)	$\frac{50.7}{55.3}$ (53.5)	$\frac{67.2}{72.8}$ (70.6)	$\frac{89.6}{96.1}$ (93.5)
C 24	ひろう(拾) すてる(捨)			$\frac{26.7}{21.4}$ (23.5)	$\frac{41.3}{36.6}$ (38.5)	$\frac{85.3}{90.2}$ (88.2)

A 71	ひろがる(広) せばまる(狭)			$\frac{3.2}{1.6}$ (2.2)	$\frac{9.7}{3.3}$ (5.4)	$\frac{53.2}{44.3}$ (47.3)
B 42'	ひろげる(広) たたむ(畳)			$\frac{25.4}{37.9}$ (32.9)	$\frac{38.8}{50.5}$ (45.9)	$\frac{95.5}{97.1}$ (96.5)
C 62'	ふく(拭) かける(掛)			$\frac{61.3}{65.2}$ (63.6)	$\frac{74.7}{75.0}$ (73.3)	$\frac{86.7}{84.8}$ (85.6)
D 72	ふく(吹) ならす(鳴)			$\frac{67.1}{74.3}$ (71.5)	$\frac{84.3}{84.4}$ (84.4)	$\frac{100.0}{97.2}$ (98.3)
A 63	ふくらむ(脹) しぼむ(萎)			$\frac{14.5}{6.6}$ (9.2)	$\frac{25.8}{19.7}$ (21.7)	$\frac{87.1}{86.1}$ (86.4)
C 14'	ふとる(太) やせる(瘦)			$\frac{26.7}{33.0}$ (30.5)	$\frac{42.7}{55.4}$ (50.3)	$\frac{94.7}{90.2}$ (92.0)
B 44	へらす(減) ふやす(増)			$\frac{0}{1.0}$ (0.6)	$\frac{1.5}{9.7}$ (6.5)	$\frac{65.7}{73.8}$ (70.6)
D 25	ふる(降) やむ(止)			$\frac{41.4}{48.6}$ (45.8)	$\frac{65.7}{67.0}$ (66.5)	$\frac{95.7}{94.5}$ (95.0)
A 45'	へらす(減) くわえる(加)			$\frac{0}{0}$ (0)	$\frac{0}{0.8}$ (0.5)	$\frac{24.2}{36.1}$ (32.1)
B 44'	ふやす(増) へらす(減)			$\frac{0}{1.0}$ (0.6)	$\frac{1.5}{9.7}$ (6.5)	$\frac{65.7}{73.8}$ (70.6)
D 62	ほす(干) たたむ(畳)			$\frac{60.0}{70.6}$ (66.5)	$\frac{70.0}{77.1}$ (74.3)	$\frac{98.6}{99.1}$ (98.9)
C 54'	ほどく(解) しぼる(縛)	$\frac{2.7}{6.7}$ (4.3)	$\frac{3.6}{2.7}$ (3.2)	$\frac{10.7}{15.2}$ (13.4)	$\frac{14.7}{17.9}$ (16.6)	$\frac{97.3}{97.3}$ (97.3)
B 53'	ほめる(誉) しかる(叱)			$\frac{0}{4.9}$ (2.9)	$\frac{4.5}{8.7}$ (7.1)	$\frac{86.6}{92.2}$ (90.0)

A 31	ほ る(掘) う め る(埋)			$\frac{25.8}{33.6}$ (31.0)	$\frac{43.5}{45.9}$ (45.1)	$\frac{91.9}{91.0}$ (91.3)
A 61	ま く(巻) と く(解)			$\frac{8.1}{11.2}$ (10.3)	$\frac{17.7}{18.9}$ (18.5)	$\frac{71.0}{74.6}$ (73.4)
C 12'	ま け る(負) か つ(勝)			$\frac{49.3}{42.0}$ (44.9)	$\frac{92.0}{90.2}$ (90.9)	$\frac{97.3}{97.3}$ (97.3)
D 74'	ま げ る(曲) そ ら す(反)			$\frac{1.4}{0}$ (0.6)	$\frac{1.4}{0.9}$ (1.1)	$\frac{28.6}{40.4}$ (35.8)
A 64'	ま げ る(曲) の ぼ す(伸)			$\frac{9.7}{5.7}$ (7.1)	$\frac{19.4}{15.6}$ (16.8)	$\frac{74.2}{74.6}$ (74.5)
A 75	ま ぜ る(混) わ け る(分)			$\frac{17.7}{18.0}$ (17.9)	$\frac{35.5}{27.9}$ (30.4)	$\frac{87.1}{83.6}$ (84.2)
A 55	ま も る(守) せ め る(攻)			$\frac{0}{0.8}$ (0.5)	$\frac{0}{1.6}$ (1.0)	$\frac{48.4}{54.9}$ (52.7)
B 45	み え る(見) か くれ る(隠)			$\frac{4.5}{1.9}$ (2.9)	$\frac{7.5}{5.8}$ (6.5)	$\frac{83.6}{85.4}$ (84.7)
D 33'	む か え る(迎) お く る(送)			$\frac{20.0}{11.0}$ (14.5)	$\frac{28.6}{17.4}$ (21.8)	$\frac{68.6}{65.1}$ (66.5)
B 63	む す ぶ(結) と く(解)			$\frac{16.4}{11.7}$ (13.5)	$\frac{25.4}{19.4}$ (21.8)	$\frac{74.6}{68.0}$ (71.2)
C 22	も す(燃) け す(消)			$\frac{37.3}{39.3}$ (38.5)	$\frac{52.0}{57.1}$ (55.1)	$\frac{92.0}{92.9}$ (92.5)
C 52'	も ど る(戻) で かけ る(出)			$\frac{1.3}{0}$ (0.5)	$\frac{6.7}{0.9}$ (3.7)	$\frac{84.0}{89.3}$ (87.2)
A 65'	も ら う(貰) あ げ る(上)	$\frac{0.8}{1.6}$ (1.0)	$\frac{25.4}{27.4}$ (26.1)	$\frac{72.6}{59.0}$ (63.6)	$\frac{80.6}{73.8}$ (76.1)	$\frac{95.2}{91.8}$ (92.9)

A 22	もらう(貰) とどける(届)			$\frac{4.8}{2.5}$ (3.3)	$\frac{8.1}{6.6}$ (7.1)	$\frac{51.6}{59.8}$ (57.1)
A 44'	もらう(貰) はらう(払)			$\frac{8.1}{4.9}$ (6.0)	$\frac{17.7}{10.7}$ (13.0)	$\frac{69.4}{67.2}$ (67.9)
C 44'	もらう(貰) やる(遣)			$\frac{26.7}{25.0}$ (25.7)	$\frac{42.7}{33.9}$ (37.4)	$\frac{88.0}{82.1}$ (84.5)
D 64	や　　く(焼) あげる(揚)			$\frac{18.6}{10.1}$ (13.4)	$\frac{21.4}{12.8}$ (16.2)	$\frac{58.6}{51.4}$ (54.2)
C 14'	やせる(瘦) ふとる(太)			$\frac{26.7}{33.0}$ (30.5)	$\frac{42.7}{55.4}$ (50.3)	$\frac{94.7}{90.2}$ (92.0)
C 15	やぶる(破) は　　る(張)			$\frac{57.3}{46.4}$ (50.8)	$\frac{73.3}{61.6}$ (66.3)	$\frac{93.3}{100}$ (97.3)
D 25'	や　　む(止) ふ　　る(降)			$\frac{41.4}{48.6}$ (45.8)	$\frac{65.7}{67.0}$ (66.5)	$\frac{95.7}{94.5}$ (95.0)
C 44	や　　る(遣) もらう(貰)			$\frac{26.7}{25.0}$ (25.7)	$\frac{42.7}{33.9}$ (37.1)	$\frac{88.0}{82.1}$ (84.5)
A 72	よごれる(汚) きれいになる(綺麗)			$\frac{9.7}{12.3}$ (11.4)	$\frac{22.6}{19.7}$ (20.7)	$\frac{96.8}{93.4}$ (94.6)
D 45	よろこぶ(喜) かなしむ(悲)			$\frac{0}{1.8}$ (1.1)	$\frac{0}{8.3}$ (5.0)	$\frac{95.7}{95.4}$ (95.5)
A 62	よせる(寄) はなす(離)			$\frac{1.6}{0}$ (0.5)	$\frac{3.2}{3.3}$ (3.3)	$\frac{43.5}{49.2}$ (47.3)
D 52'	か　　く(書) よ　　む(読)			$\frac{50.0}{59.6}$ (55.9)	$\frac{70.0}{69.7}$ (69.8)	$\frac{91.4}{97.2}$ (95.0)
D 63'	わかす(沸) に　　る(煮)			$\frac{17.1}{15.6}$ (16.2)	$\frac{25.7}{21.1}$ (22.9)	$\frac{65.7}{69.7}$ (68.2)

B 23'	わかれる(別) あ　　う(会)			$\frac{0}{1.0}(0.6)$	$\frac{4.5}{11.7}(8.8)$	$\frac{70.1}{71.8}(71.2)$
B 65'	わかれる(分) つ　　く(織)			$\frac{7.5}{1.9}(4.1)$	$\frac{9.0}{8.7}(8.8)$	$\frac{68.7}{72.8}(71.2)$
A 75'	わ　　ける(分) ま　　ぜ　　る(混)			$\frac{17.7}{18.0}(17.9)$	$\frac{35.5}{27.9}(30.4)$	$\frac{87.1}{83.6}(84.2)$
A 25'	わすれる(忘) し　　　　る(知)			$\frac{1.6}{1.0}(0.5)$	$\frac{3.2}{9.8}(7.6)$	$\frac{72.6}{68.9}(70.1)$
D 51'	わ　　ら　　う(笑) お　　こ　　る(怒)			$\frac{74.3}{68.8}(90.9)$	$\frac{90.0}{81.7}(84.9)$	$\frac{100.0}{98.2}(98.9)$
C 11'	わ　　ら　　う(笑) な　　　　く(泣)			$\frac{80.0}{91.1}(86.6)$	$\frac{98.2}{90.7}(95.2)$	$\frac{97.3}{100}(98.9)$

# 第5章 語彙能力と諸要因との関係

5-1-1表 性状語、時間・空間語テスト得点と諸要因間の有意差検定 ( $\chi^2$ )

要 因	性 状 語			時 間・空間語			要 因	性 状 語			時 間・空間語		
	$\chi^2$	df	P	$\chi^2$	df	P		$\chi^2$	df	P	$\chi^2$	df	P
1. 地 区 別	0	2	—	1.088	2	0.70	45. 本	4.755	1	0.05*	0.848	1	0.50
2. 性 別	0	1	—	0.725	1	0.50	46. 文字への関心	0.282	1	0.70	0.403	1	0.70
3. 年 齢	51.418	3	0.01**	35.141	4	0.01**	47. 駅 名	2.268	1	0.20	0.483	1	0.50
4. 保 育 年	14.588	2	0.01**	19.344	2	0.01**	48. しりとり遊び	2.331	1	0.20	2.279	1	0.20
8. 家 族 数	5.239	2	0.10	3.425	2	0.20	49. 簡 単 な 話	13.453	1	0.01**	7.716	1	0.01**
9. 兄 弟 数	4.686	2	0.10	2.256	2	0.50	50. かたかな漢字	12.564	1	0.01**	13.137	1	0.01**
15. 父 の 年 齢	7.254	2	0.05*	6.190	2	0.05*	51. 絵 本	2.538	1	0.20	0.525	1	0.50
16. 母 の 年 齢	7.756	2	0.05*	4.904	2	0.10**	52. 黙 読	0	1	—	7.735	1	0.01**
17. 面倒を見る人	2.302	2	0.50	2.146	1	0.20	53. 家族の名前	10.357	1	0.01**	6.206	1	0.05**
18. すぐ上の兄姉	0.086	1	0.80	0	1	—	54. 好みの番組名	7.231	1	0.01**	7.294	1	0.01**
20. 新 聞	0.403	1	0.70	6.070	2	0.05*	55. 字に対する関心	5.615	1	0.05*	0.362	1	0.70
22. 子どもの本	0.924	3	0.90	2.579	3	0.20	56. 本	10.637	1	0.01**	0.924	1	0.50
27. テレビを見る時間	0.282	2	0.90	2.706	3	0.10*	57. 自然に覚える	0.525	1	0.50	0.926	1	0.50
28. 絵 本・漫 画	0.040	1	0.90	0.040	1	0.90	58. 絵本をいっしょに見る	0.444	1	0.70	1.289	1	0.30
33. 物 語	2.060	1	0.20	7.338	1	0.01**	60. 童 話	0.525	1	0.50	0.850	1	0.50
34. お け い こ	0.403	1	0.70	4.565	1	0.05*	61. 悪いことば	2.015	1	0.20	0.028	1	0.90
36. 電 話	0	1	—	0.962	1	0.50	62. 朝のあいさつ	0.767	1	0.50	—	1	—
37. なぞなぞ遊び	10.651	1	0.01**	17.245	1	0.01**	64. 夜のあいさつ	0	1	—	3.788	1	0.10
38. 幼 児 音	2.538	1	0.20	4.502	1	0.05*	65. 外でのあいさつ	0	1	—	1.336	1	0.30
39. おしゃべり	0.040	1	0.90	0	1	—	66. テ レ ビ	5.494	1	0.05*	0.604	1	0.50
40. 外 遊 び	1.608	1	0.30	2.090	1	0.20	67. テレビと食事	0.852	1	0.50	0.160	1	0.70
41. 字の読み方	2.538	1	0.20	2.337	1	0.20	68. 食事の習慣	0.081	1	0.80	0.040	1	0.90
42. ひらがなの読み	5.803	1	0.05**	9.274	1	0.01**	69. むずかしい質問	0	1	—	2.170	1	0.20
43. 名 前 の 字	0	1	—	7.209	1	0.01**	70. なぞなぞ遊び	1.579	1	0.30	4.502	1	0.05*

## 第1節 性状語能力と諸要因

就学前の児童の語彙能力は、どのような要因によって、その発達がうながされるか。また、語彙能力は具体的にどのような言語生活の特徴となって示されるかが明らかにされる必要がある。そこで、本節では性状語テスト総得点と、言語生活アンケート調査の結果とを交差させて考察することにした。ここでいう性状語テスト総得点とは、テスト1～6までの正反応の総合計点であり、基準反応以外の○、○を含めて正反応として総合計点に計算してある。

5-1-2表 テスト合計点（性状語）の得点分布

段 階	～60	～70	～80	～90	～100	～110	～120	～130	～140	～150
割 合										
N	1	3	6	19	16	30	46	29	37	7
%	0.5	1.5	3.1	9.8	8.2	15.5	23.7	14.9	19.1	3.6

この分布は検定の結果、正規分布をえがいていない ( $\chi^2=50.08$ ,  $df=9$ ,  $P<0.01^{**}$ )。このため、被験者の属性的条件や言語生活に関する諸特性など要因についての有意差を明らかにするには  $\chi^2$  検定が有効である。そこで、テスト合計の平均点を求めると、113.5であるので、合計得点114点以下を下位群、115点以上を上位群とし、下位群、上位群に含まれる被験者の属性・特性間の有意差検定を試みた。

その結果は5-1-1表性状語欄の通りである。すなわち、3.年齢、4.保育年数、15.父の年齢、16.母の年齢、37.なぞなぞ遊び、42.ひらがなの読み、45.本の読み、49.簡単な話、50.かたかな、53.家族の名前、54.好みの番組名、55.字に対する関心、56.本、66.テレビの各属性・特性で有意差が認められた。また、家族数、兄弟数の属性に傾向的にはあるが差が認められた。

そこで有意差の認められたものについて、各属性・特性の性状語テスト得点の下位・上位群に含まれる人数も含めて、検定結果をまとめてあげれば、次のようになる。

	属性・特性	下	上	$\chi^2$	df	P
3 年 齢	1. ～5歳	41	7	51.418	3	** 0.01
	2. ～5.6歳	20	26			
	3. ～6歳	16	39			
	4. ～6.6歳	7	34			
4 保 育 年	1. 1年	73	62	14.588	1	** 0.01
	2. 2年～	13	42			

	属性・特性	下	上	$\chi^2$	df	P
15 父の 年齢	1. ~35歳	46	37	7.254	2	0.05*
	2. ~40歳	32	46			
	3. 41歳~	9	22			
16 母の 年齢	1. ~30歳	33	25	7.756	2	0.05*
	2. ~35歳	43	54			
	3. 36歳~	11	28			
37 なぞ なぞ 遊び	1. ハイ	61	95	10.651	1	0.01**
	2. イイエ	22	9			
42 ひの ちが 質問 な	1. ハイ	53	46	5.803	1	0.05*
	2. イイエ	28	51			
45 本の 読求	1. ハイ	63	61	4.755	1	0.05*
	2. イイエ	21	41			
49 話を 書く 手紙	1. ハイ	29	64	13.453	1	0.01**
	2. イイエ	57	42			
50 かな た漢 か字	1. ハイ	40	76	12.564	1	0.01**
	2. イイエ	46	30			
53 家名 族前 の	1. ハイ	54	87	10.357	1	0.01**
	2. イイエ	32	17			
54 好み 組名 の	1. ハイ	21	46	7.231	1	0.01**
	2. イイエ	64	60			
55 字関 への 心	1. ハイ	50	78	5.615	1	0.05**
	2. イイエ	35	26			
56 自読 分書 で	1. ハイ	42	78	10.637	1	0.01**
	2. イイエ	41	28			
66 テレ ビ	1. ハイ	74	77	5.494	1	0.05*
	2. イイエ	12	30			

以上の結果によれば、テストの得点に最も有意な差が認められたのは、被験者の年齢であり、年齢が上になるにつれてテスト得点は上がる。次に保育年数があり、1年保育より2年保育以上のほうがテスト合計点が高い。しかし、これはテスト時点で4歳児クラスか、5歳児クラスにあるかは問題にしていないから、保育年数だけの要因とみることはできない。

父の年齢、母の年齢は共に5%以下の危険率で有意差が認められた。この限りでは、年齢の高い親を持つ被験者は年齢の低い親を持つ被験者よりテスト合計点が高い。

次に、被験者の言語生活上の特性では、なぞなぞ遊び、文字の読み書き、読書をよくする者は、なぞなぞ遊びや文字の読み書きや読書をしない者よりテスト合計点が高い。そうして最後に家庭でのしつけに関する特性では、テレビは好きなものを見せると答えた家庭の幼児は、イエエと答えた家庭の幼児よりテスト合計点が低いことを示している。

そこで、有意な差が認められたものについてさらに検討を加えていく。まず、年齢属性に関して、各年齢間の有意差をみると、5-1-3表となる。

5-1-3表 年齢別にみたテスト合計点の有意差検定 ( $\chi^2$ ) (* $P < 0.05$ , ** $P < 0.01$ )

	1	2	3	4
1. ~5歳		18.089 ^{**}	32.845 [*]	41.526 ^{**}
2. ~5.6歳	18.089 ^{**}		2.218	7.051 ^{**}
3. ~6.0歳	32.845 ^{**}	2.218		1.808
4. ~6.6歳	41.526 ^{**}	7.051 ^{**}	1.808	

5歳未満の被験者は他の全ての段階の被験者と比較し、合計得点が有意に低い。また、父母の年齢属性に関して、各年齢間の有意差をみると、

5-1-4表 親の年齢別にみたテスト合計点の有意差検定 ( $\chi^2$ )

		1	2	3			1	2	3
(父)	1. ~35歳		3.320	6.280 [*]	(母)	1. ~30歳		2.280	7.737 ^{**}
	2. ~40歳	3.320		1.320		2. ~35歳	2.280		3.002
	3. 41歳~	6.280 [*]	1.320			3. 36歳~	7.737 ^{**}	3.002	

となり、父の年齢のほうは、35歳未満の父と41歳以上の父を持つ幼児間の合計得点に差があり、母の年齢のほうは、30歳未満の母と36歳以上の母を持つ幼児間の合計得点間に差がある。いずれも親の年齢は年齢層が上の親を持つ幼児の方が得点が高いことを示している。

以上の結果から、性状語の理解能力と要因との関係で次の特徴を指摘することができる。第1はテスト合計点について地域差が認められていない点があげられる。本テストの地域にあげた東京は

大都市、仙台は地方都市、岩手は郡部であり、それは都市部と郡部の幼児間に差が認められないことを示している。第2はテスト合計点について性差が認められていない点があげられる。従来の言語能力諸調査では女兒の能力が高いことが指摘され、たとえば、昭和42年に実施した国立国語研究所の文字力調査では女兒が有意に男児より高い^{*}が、本調査では性差が認められず、地域差と共に性差が何故に生じないかは、項を改めて考察する。

第3は、合計点と被験者の年齢間に有意差が認められ、特に5歳以前と5歳以後に差が認められた点があげられる。しかも、それが最も有意な差を示していることは性状語理解に関する発達の質的転換を示唆するものと考えられる。

第4は合計点と両親の年齢間に有意差が認められた点があげられる。もっとも、両親の年齢という属性の中には、第1子か第1子以外かの属性もあり、また、子どもに対するしつけのしかたの特徴も関与することも想定されるし、そのためには諸属性の交差分析が必要になるが、ここではこれ以上の分析は行わない。

第5は日常の言語生活の面で、特に文字生活に関して、積極的な活動をする被験者はテスト合計点が高いことがあげられる。そして最後は、家庭のしつけ面では、テレビの見せ方のほかは特に有意な差が認められないことがあげられる。

* 国立国語研究所「幼児の読み書き能力」86ページ

## 第2節 時間・空間語能力と諸要因

就学前の児童の語彙能力は、どのような要因によって、その発達がうながされるか。また、語彙能力は具体的にどのような言語生活の特徴となって示されているかが明らかにされる必要がある。そこで本節では、時間・空間語テスト総得点と、言語生活アンケート調査の結果とを交差させて考察することにした。ここでいう時間・空間語総得点とは、テスト1～6までの正反応の総合計点であり、基準反応以外の□, ○を含めて計算してある。

5-2-1表 テスト合計点（時間・空間語）の得点分布

段階	～20	～30	～40	～50	～60	～70	～80	～90	～100
割合									
N	1	10	25	56	50	50	21	12	3
%	0.4	4.4	11.0	24.6	21.9	21.9	9.2	5.3	1.3

$$\chi^2=16.1 \quad df=8 \quad P<0.05^*$$

5-2-1表は、時間・空間語テスト合計点の得点分布を示したものである。この分布が正規分布をえがいているか否かを検定した結果では、正規分布をえがいていない。このため、被験者の属性的条件や言語生活に関する諸特性についての有意差を明らかにするには  $\chi^2$  検定が有効である。そこでテスト合計の平均点を求めると、55.7であるので、合計得点56点以下を下位群、57点以上を上位群とし、下位群、上位群に含まれる被験者の属性・特性間の有意差検定を試みた。

その結果は5-1-1表時間・空間語欄の通りである。すなわち、3.年齢、4.保育年数、15.父の年齢、33.物語、34.おけいこ、37.なぞなぞ遊び、38.幼児音、42.ひらがなの読み、43.名前の字、49.簡単な話、50.かたかな・漢字、52.黙読、53.家族の名前、54.好みの番組名、70.なぞなぞ遊びの各属性で有意な差が認められた。また、16.母の年齢、27.テレビを見る時間、64.夜のあいさつで傾向的にはあるが差が認められた。

そこで有意差の認められたものについて、各属性・特性の時間・空間語得点の下位・上位群に含まれる人数も含めて、検定結果をまとめてあげれば次のようになる。

	属性・特性	下	上	$\chi^2$	df	P
3 年 齢	1. ～5.0歳	16	3	35.141	4	0.01**
	2. ～5.6歳	35	11			
	3. ～6.0歳	41	26			
	4. ～6.6歳	22	36			

	属性・特性	下	上	$\chi^2$	df	P
	5. 6.6歳～	10	28			
4 保 育 年	1. 1 年	80	37	19.344	2	0.01**
	2. 2 年	31	51			
	3. 3 年	13	16			
15 父 の 年 齢	1. ～35歳	54	29	6.190	2	0.05*
	2. ～40歳	46	50			
	3. 41歳～	21	23			
33 物 語	1. ハ イ	50	61	7.338	1	0.01**
	2. イ イ エ	46	24			
34 お け い こ	1. ハ イ	35	42	4.565	1	0.05*
	2. イ イ エ	82	53			
37 な ぞ 遊 び	1. ハ イ	90	98	17.245	1	0.01**
	2. イ イ エ	28	4			
38 幼 児 音	1. ハ イ	16	5	4.502	1	0.05*
	2. イ イ エ	104	96			
42 ひ ら が 聞 な	1. ハ イ	75	40	9.274	1	0.01*
	2. イ イ エ	44	55			
43 名 前 の	1. ハ イ	88	53	7.209	1	0.01**
	2. イ イ エ	34	44			
49 話 を 書 く 手 紙	1. ハ イ	56	64	7.716	1	0.01*
	2. イ イ エ	66	35			
50 か た 漢 字 か な	1. ハ イ	69	80	13.137	1	0.01**
	2. イ イ エ	52	20			
52 黙 読	1. ハ イ	25	36	7.735	1	0.01**
	2. イ イ エ	90	55			

	属性・特性	上	下	$\chi^2$	df	P
53 家名 族前 の	1. ハ イ	88	86	6.206	1	0.05*
	2. イ イ エ	34	14			
54 好番 組名 の	1. ハ イ	42	53	7.294	1	0.01**
	2. イ イ エ	77	46			
70 なぞ なぞ 遊び	1. ハ イ	100	95	4.502	1	0.05*
	2. イ イ エ	21	8			

以上の結果によれば、テストの得点に最も有意な差が認められたのは、被験者の年齢であり、年齢が上になるにつれてテスト得点は上がる。次に保育年数があり、1年保育より2年保育以上のほうがテスト合計点が高い。しかし、これはテスト時点で何歳児クラスにあるかは問題にしていなから、保育年数だけの要因とみることはできない。

父の年齢は5%以下の危険率で有意差が認められた。すなわち、この限りでは、年齢の高い親を持つ被験者は年齢の低い親を持つ被験者よりテスト合計点が高い。しかし、母の年齢要因は傾向的に差が生じることを示すにとどまっているが、年齢の高い親の子どものほうがテスト得点が高いことは変わらない。

次に、被験者の言語生活上の特性では、物語の本をよく読む、おけいこに通う、なぞなぞ遊びをする、簡単な話や手紙を書く、かたかな・漢字の質問をする、黙読をする、家族の名前を書く、好みの番組名をさがすなどをする者はそういう生活をする者がいない者よりテスト合計点が高い。これらは主に幼児には少し高度と思われる読み書きの生活を指し、テスト合計点が高い者はそうした知的活動を積極的に行っていることを示しているが、興味あることは、42. ひらがなの質問をするとか、43. 名前の字を見つけて喜ぶなどは、この4、5歳児クラスの幼児には知的活動とは無関係あるいは逆にその乏しさを示すもので、その項目に否定反応した者のほうがテスト合計点が高い。幼児音はまだ残る幼児はテスト合計点が低いという事実も納得がいく。

幼児に対するしつけの程度に関する項目では、わずかに、70. なぞなぞ遊びの相手をするがそうでない場合と有意差を示している。

さらに、年齢属性に関して、各年齢間の有意差をみると、5-2-2表となる。

5-2-2表 年齢別にみたテスト合計点の有意差検定 ( $\chi^2$ )

	1	2	3	4	5
1. ~ 5.0 歳		0.531	3.486	12.240 ^{**}	17.127 ^{**}
2. ~ 5.6 歳	0.531		2.724	16.031 ^{**}	20.743 ^{**}
3. ~ 6.0 歳	3.486	2.724		6.680 ^{**}	11.760 ^{**}
4. ~ 6.6 歳	12.240 ^{**}	16.031 ^{**}	6.680 ^{**}		1.390
5. 6.6 歳 ~	17.127 ^{**}	20.743 ^{**}	11.761 ^{**}	1.395	

すなわち、5-2-2表によれば、6歳未満児は6歳以上の幼児に比較し、合計点が有意に低い。

また、保育年数の属性に関して、各年齢間の有意性をみると、

$$1\text{年} \times 2\text{年} \quad \chi^2=18.225 \quad \text{df}=1 \quad P<0.01^{**}$$

$$1\text{年} \times 3\text{年} \quad \chi^2= 5.572 \quad \text{df}=1 \quad P<0.05^*$$

$$2\text{年} \times 3\text{年} \quad \chi^2= 0.375 \quad \text{df}=1 \quad P<0.70$$

となり、1年保育児は2、3年保育児に比較して、合計点が有意に低い。

さらに、父の年齢属性に関して、各年齢間の有意差をみると、35歳未満の父を持つ幼児の合計点は、41歳以上の父を持つ幼児のそれより有意かまたは傾向的に差が認められている。

$$\sim 35\text{歳} \times \sim 40\text{歳} \quad \chi^2=5.305 \quad \text{df}=1 \quad P<0.05^*$$

$$\sim 35\text{歳} \times 41\text{歳} \sim \quad \chi^2=3.551 \quad \text{df}=1 \quad P<0.10$$

$$\sim 40\text{歳} \times 41\text{歳} \sim \quad \chi^2=0 \quad \text{df}=1 \quad \text{—}$$

以上の結果から、時間・空間語の理解能力と要因との関係を、性状語のそれと対照させて特徴を指摘すれば次の諸点があげられる。

第1はテスト合計点について、性状語の場合と同様に、地域及び性差が認められていないことがあげられる。もちろん、両テストの被験者は同一でない。第2は被験者の年齢および保育年数間には高い有意差が認められたことも性状語の場合と同様である。しかし、被験者の年齢に関しては、6歳以前と6歳以後に差が認められており、性状語の場合はそれより1年早い5歳前後に発達の質的転換を示唆する結果が出ているので、その相違は性状語はものともとの関係概念を表すのに対し、時間・空間語はこととこととの関係概念を表す抽象性の違いによることが考えられる。

第3は両親の年齢とテスト合計点間に、父親の場合は有意に、母親の場合は傾向的に差が認められ、それは若い親を持つ幼児のテスト合計点が低いという点があげられ、性状語の場合と傾向的に共通性を持つと考えてよい。

第4は日常の言語生活の面でも、有意差が認められた項目は性状語の場合にも有意差が認められている共通性があげられる。すなわち、37. なぞなぞ遊びをする、42. ひらがなの読み、49. 簡単な話、50. かたかな・漢字、53. 家族の名前、54. 好みの番組名である。しかし、最後の家庭のしつけ

面では、なぞなぞ遊びの相手をするほかは有意な差が認められず、性状語の場合に有意差が認められたテレビ視聴で自由に見せるか否かの項には有意差は認められない。

### 第3節 動詞能力と諸要因

就学前の児童の語彙能力は、どのような要因によって、その発達がうながされるか。また、語彙能力は具体的にどのような言語生活の特徴となって示されるかを性状語および時間・空間語と同様に動詞についても考察する必要がある。しかし、次の2点で、性状語及び時間・空間語の場合とは異なっている。第1は、性状語および時間・空間語の場合はテスト合計点をもって語彙能力の水準とみたが、動詞の場合は特に系の成立得点に従い、かつ、○系、×系、N系、非系得点と細分し、テストも対語、対文、発語、誘発、認知の各段階に細分した。第2は、性状語及び時間・空間語の場合は、被験者の属性的条件および言語生活に関する諸特性と交差させたが、動詞の場合は、第1にあげた能力の細分化のために、考察する要因を、被験者の属性的条件だけに限ることとした。

そこで、動詞テストの対象をA、B、C、D群のうち、A群だけに限って、対語、対文、発語、誘導発語、語認知の各テストにおける○系、×系、N系、非系得点の要因間の有意差検定を実施し、あわせて系得点のほか対語、対文、発語総得点と要因間の有意差検定を実施した結果は5-3-1表の通りである。

5-3-1表 動詞テストのテスト系別・総得点別諸要因間の有意差検定 (x²)

テスト	属性	系			系			系			非系 (左記以外)		
		x ²	○系	○-○	x ²	×系	×-×	x ²	N系	N-N	x ²	P	df
対語	地域	7.084	.20	4	2.517	.70	4	5.547	.30	4	1.278	.90	4
	クラス年齢	14.927	.01	1	20.300	.01	1	23.316	.01	1	29.572	.01	1
	性	3.137	.10	1	0	—	1	1.728	.20	1	0	—	1
	生活年齢	16.008	.01	4									
	保育年数	16.071	.01	2									
対文	地域	12.498	.05	4	5.836	.30	4	6.922	.20	4	2.887	.70	4
	クラス年齢	26.292	.01	1	6.740	.01	1	47.329	.01	1	7.057	.01	1
	性	0.083	.80	1	0.328	.70	1	0.667	.50	1	1.042	.50	1
	生活年齢	27.086	.01	4									
	保育年数	39.406	.01	2									
発語	地域	10.200	.05	4				17.253	.01	4	26.994	.01	4
	クラス年齢	20.880	.01	1				16.929	.01	1	3.149	.10	1
	性	0.440	.70	1				3.604	.10	1	3.926	.05	1
	生活年齢	28.360	.01	4									
	保育年数	16.204	.01	2									

		○ 系			× 系			N 系			非 系		
		x ²	P	df									
誘 導 発 語	地 域	12.540	.05*	4	3.203	.70	4	12.126	.05*	4	22.290	.01**	4
	クラス年齢	30.639	.01**	1	0.300	.70	1	10.387	.01**	1	26.871	.01**	1
	性	0.083	.80	1	0	—	1	0.141	.80	1	1.717	.20	1
	生活年齢	35.486	.01**	4									
	保育年数												
語 認 知	地 域	11.652	.05*	4				7.736	.20	4	15.688	.01**	4
	クラス年齢	56.393	.01**	1				30.333	.01**	1	55.542	.01**	1
	性	0	—	1				0.306	.70	1	0	—	1
	生活年齢	68.126	.01**	4									
	保育年数												
		対語総得点			対文総得点			発語総得点			(注) * P<0.05		
地 域	地 域	8.755	.10	4	14.941	.01**	4	3.609	.50	4	** P<0.01		
	クラス年齢	23.358	.01**	1	25.868	.01**	1	32.601	.01**	1			
	性	6.320	.05*	1	2.185	.20	1	0.040	.90	1			

なお、5-3-1表の中で、各系得点は○—○、×—×、N—Nの成立をもって各1点として、非系とあるのは、○系、×系、N系以外の、○—×、○—Nにおける正反応(○)の合計点を意味する。そして、対語、対文、発語の各総得点とは系という対でなく、個々の正反応の総合計点を意味している。さらに、表中の空欄は生活年齢、保育年数欄にあり、両要因の分析は○系だけで扱い、それ以外の項目では省略したものである。また、発語、語認知欄の×系は検定に必要な反応数を得なかった。以下、地域、年齢、性のほか、○系では生活年齢、保育年数の項目について、有意差検定の結果を述べていく。

## 第1項 地 域

最初に、○系反応について地域差を見るために試みた x² 検定の結果を示せば、

		x ²	P
対	語	7.084	.20
対	文	12.498	.05*
発	語	10.200	.05*
誘	発	12.540	.05*
認	知	11.652	.05*

となり、対語テストをのぞいては、他の4テストにはすべて5%以下の危険率で地域間に有意な差が認められた。

そこで次に、○系以外の×系、N系及び非系反応について地域差の有無を見るために試みた  $\chi^2$  検定の結果を○系の結果に加えれば、次の通りである。

		○系 $\chi^2$ P	×系 $\chi^2$ P	N系 $\chi^2$ P	非系 $\chi^2$ P
対語		7.084 .20	2.517 .70	5.547 .30	1.278 .90
対文		12.498 .05*	5.836 .30	6.922 .20	2.887 .70
発語		10.250 .05*		17.253 .01**	26.994 .01**
誘発		12.540 .05*	3.203 .70	12.126 .05*	22.290 .01**
認知		11.652 .05*		7.736 .20	15.688 .01**

これによれば、×系にはどの水準テストにも有意差は認められず、N系では発語および誘導発語テストで、また非系では発語、誘導発語及び認知テストで有意差が認められた。これを各水準テスト別に整理すれば、対語テストではどの系および非系にも地域差が認められず、かつ  $\chi^2$  値が他のすべての水準テストに比較して低いことを示している。

対文テストでは、○系反応に5%以下の危険率で有意差が認められるほかは有意差は認められなかった。しかし、×系反応に有意差は認められなかったにもかかわらず、 $\chi^2$  値が他の水準テストに比較して高いのは、対文テストにのみありがちな、〈動く—動かない〉といった動作・行為・現象とその停止を意味する×反応が多く、それが○系反応と逆相関的な働きを示している。

発語テストおよび誘導発語テストでは、共に○系で有意差が認められ、かつN系、非系にも有意差が認められ、それらの  $\chi^2$  値は他のどの水準テストよりも高く現れて、○系反応と逆相関を示している。また、認知テストでは○系に有意差が認められ、それに非系反応が逆相関的に現れて有意差を示している。

以上のことから、われわれは次の2点の特徴をあげることができる。すなわち、その  $\chi^2$  値の相対的な高低関係から、第1点は対語テストでは他のどの水準テストに比較して地域差が認められず、かつどの系および非系反応における  $\chi^2$  値が低いこと。そして第2点は、発語および誘導発語テストではN系および非系における  $\chi^2$  値が他の水準テストにくらべて高いことである。

次に、具体的に地域差が認められた項についてどの地域とどの地域とに有意差が認められたかを調べることにする。最初に、○系反応に限ってあげるならば、次の5-3-2表の通りである。

5-3-2表 対文テストの○系反応と地域差

	1	2	3	4	5
1. 岩手		0.245	2.424	1.720	1.656
2. 仙台	0.245		4.579 [*]	3.671	0.603
3. 東京	2.424	4.579 [*]		0.045	8.549 ^{**}
4. 京都	1.720	3.671	0.045		7.410 ^{**}
5. 和歌山	1.656	0.603	8.549 ^{**}	7.410 ^{**}	

上表から2点を指摘することができる。その第1点は和歌山は東京・京都と有意な差が認められたこと、第2点は仙台が東京と有意差および京都とは傾向的に差が認められたこと。これにより、○系反応の得点の高低に関し、東京・京都は都会的地域としての共通性を持つことを意味している。これに対して、仙台は郡部地域としての岩手および和歌山の結果に近く位置している。

岩手・和歌山は対語テストでは東京、京都と有意な差は認められなかったのに、対文テストでは有意な差が認められたが、それはなぜかは他の水準での結果と関連させて考えてみる。

5-3-3表 発語テストの○系反応と地域差

	1	2	3	4	5
1. 岩手		1.022	4.502 [*]	8.360 ^{**}	0.981
2. 仙台	1.022		1.360	3.800	0
3. 東京	4.502 [*]	1.360		0.523	1.360
4. 京都	8.360 ^{**}	3.800	0.523		3.760
5. 和歌山	0.981	0	1.360	3.760	

5-3-3表は発語テストの○系反応の地域差をみたものであり、東京、京都グループと岩手、仙台、和歌山グループとに分かれる。

5-3-4表 誘導発語テストの○系反応と地域差

	1	2	3	4	5
1. 岩手		1.422	9.350 ^{**}	7.421 ^{**}	6.076 [*]
2. 仙台	1.422		3.850 [*]	2.543	1.641
3. 東京	9.350 ^{**}	3.850 [*]		0.120	0.445
4. 京都	7.421 ^{**}	2.543	0.120		0.040
5. 和歌山	6.076 [*]	1.641	0.445	0.040	

5-3-4表は誘導発語テストの○系反応の地域差をみたものであり、岩手は東京、京都および和歌

山と有意差が認められた。すなわち、岩手が最も○系が少ないことを示している。

5-3-5表 語認知テストの○系反応と地域差

	1	2	3	4	5
1. 岩手		11.571 ^{**}	4.060 [*]	3.199	2.544
2. 仙台	11.571 ^{**}		1.960	2.880	3.440
3. 東京	4.060 [*]	1.960		0.040	0.162
4. 京都	3.199	2.880	0.040		0
5. 和歌山	2.544	3.440	0.162	0	

5-3-5表は語認知テストの○系反応の地域差をみたものであり、岩手は仙台、東京と有意差があるほかは、どの場合にも有意差は認められない。

なお、地域差は○系反応とは別に、対語、対文および発語テスト水準での正反応の総得点についての有意差を検定している。それによれば、有意差が認められたのは対文テストの場合である。そのため、対文テストの正反応（総得点）の地域差をみたのが5-3-6表である。

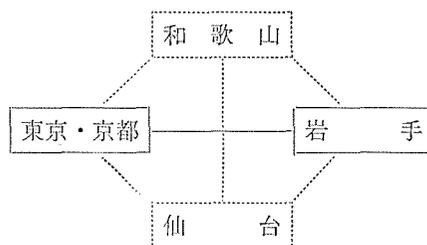
5-3-6表 対文テスト総得点と地域差

	1	2	3	4	5
1. 岩手		0.438	2.987	4.355 [*]	3.395
2. 仙台	0.478		6.199 [*]	8.127 ^{**}	—
3. 東京	2.987	6.199 [*]		0.123	5.785 [*]
4. 京都	4.355 [*]	8.127 ^{**}	0.123		7.778
5. 和歌山	3.395	—	5.785 [*]	7.778 ^{**}	

5-3-6表によれば、京都、東京が上位群を形成し、仙台、和歌山また岩手の各地域と有意差および傾向的な差が認められている。

さて、以上の各表に従えば、有意差及び $\chi^2$ 値からみて、対文テストでは、上位群は東京、京都、下位群は和歌山、仙台、そして岩手は相対的に下位群に近い。発語テストでは上位群は東京、京都、下位群は岩手を中心に仙台、和歌山が形成する。誘導発語テストでは、上位群は東京、京都、下位群は岩手、仙台が形成し、和歌山は相対的に上位群に近い。そして認知テストでは、やはり東京、京都は上位群にあり、岩手は下位群にあるが、いっぽう仙台は上位群の中心を占めていることが特徴である。この点から大まかに右のように図示することができるであろう。

仙台、和歌山はあるテスト水準では東京・京都群に近



く、あるテスト水準では岩手に近かったりする。

次には、○系反応に対して、有意差の認められたN系および非系反応について、地域差の対応関係をみてみよう。

5-3-7表 発語テストのN系反応と地域差

	1	2	3	4	5
1. 岩手		0.160	0.320	9.455 ^{**}	—
2. 仙台	0.160		1.080	7.643 ^{**}	0.200
3. 東京	0.320	1.080		14.193 ^{**}	0.320
4. 京都	9.455 ^{**}	7.643 ^{**}	14.193 ^{**}		10.314 ^{**}
5. 和歌山	—	0.200	0.320	10.314 ^{**}	

5-3-7表によれば、京都だけが他のすべての地域と有意な差が認められた。すなわち、京都はN系反応が他のすべての地域に比較して多いことを示している。これに対して、東京は最もN系反応が少ないが、京都以外とは有意差は認められていない。

5-3-8表 誘導発語テストのN系反応と地域差

	1	2	3	4	5
1. 岩手		4.468 [*]	0.489	9.681 ^{**}	2.158
2. 仙台	4.468 [*]		2.046	1.118	0.459
3. 東京	0.489	2.046		6.136 [*]	0.592
4. 京都	9.681 ^{**}	1.118	6.136 [*]		2.941
5. 和歌山	2.158	0.459	0.592	2.941	

誘導発語テストでは、京都がN系反応が最も多く、岩手および東京と有意な差が認められた。

以上の結果に従えば、N系反応の地域差で特徴的なことは、京都が最もN系反応が多く、有意差のみられた発語、誘導発語テストにおいて共通していたことが指摘される。

5-3-9表 発語テストの非系反応と地域差

	1	2	3	4	5
1. 岩手		2.080	3.720	25.456 ^{**}	4.560 [*]
2. 仙台	2.080		0.241	13.856 ^{**}	0.444
3. 東京	3.720	0.241		10.210 ^{**}	0.040
4. 京都	25.456 ^{**}	13.856 ^{**}	10.210 ^{**}		8.989 ^{**}
5. 和歌山	4.560 [*]	0.444	0.040	8.989 ^{**}	

5-3-9表によれば、京都は他のすべての地域と有意な差が認められた。すなわち、京都は非系反応がどの地域の非系反応よりも有意に少ない。また、岩手は京都、和歌山に比べて有意に非系反応が多く、東京と比較しても傾向的に非系反応が多いことが示されている。

以上のことから、京都は○系反応が最も高かったが、その事実にはN系が多く、非系反応が少ないという事実と対応していることを示している。

5-3-10表 誘導発語テストの非系反応と地域差

	1	2	3	4	5
1. 岩手		1.283	8.260 ^{**}	17.950 ^{**}	8.060 ^{**}
2. 仙台	1.283		3.280	10.316 ^{**}	3.118
3. 東京	8.260 ^{**}	3.280		1.848	0
4. 京都	17.952 ^{**}	10.316 ^{**}	1.848		2.019
5. 和歌山	8.060 ^{**}	3.118	0	2.019	

5-3-10表によれば、岩手は仙台をのぞく他の3地域と有意差が認められた、非系反応が多い、そして京都は非系反応が最も少ない。仙台も、東京、和歌山と傾向的に差があり、京都とは有意差が認められている。したがって、岩手、仙台は共に他の3地域と比較し、非系反応が多いことが認められる。

東京での非系反応が少ないのは、東京地域での使用語形が本テスト刺激語および基準反応語形と近いことがあり、京都のそれは必ずしも本テストの刺激語および基準反応語形と異なるが、高い○系反応が相対的に非系反応を少なくしている。

5-3-11表 語認知テストの非系反応と地域差

	1	2	3	4	5
1. 岩手		6.678 ^{**}	10.186 ^{**}	8.712 ^{**}	0.933
2. 仙台	6.678 ^{**}		0.380	0.140	2.715
3. 東京	10.186 ^{**}	0.380		0.097	5.247 [*]
4. 京都	8.712 ^{**}	0.140	0.097		4.107 [*]
5. 和歌山	0.933	2.715	5.247 [*]	4.107 [*]	

5-3-11表によれば、東京、京都は岩手および和歌山地区に比較して、非系反応が少なく、したがって、○系反応の多いことと対応している。そして、仙台の非系反応が少ないことも○系反応の多いことと対応している。

以上、各系反応と地域に関する示差特性をあげれば、次の5-3-12表で示される。

5-3-12表 各系反応と地域的示差特徴

	○系	×系	N系	非系
1. 岩手	≡		-	++
2. 仙台	+			+
3. 東京	++		-	-
4. 京都	++		++	=
5. 和歌山	±			±

(注) (+)=系が多い, (-)=系が少ない。(+)(-)の数は差の認められた回数。

5-3-12表によれば, ○系反応の多いのは, 東京, 京都である。そして両者は非系が少ないことも共通しているが, N系は東京が少なく, 京都は著しく多い。いっぽう, 岩手は○系反応が少なく, N系も少ないが, 非系が著しく多いという示差特徴が指摘される。×系については, どの場合にも地域差は認められない。

なお, 最後に, 各テスト水準別に見て, 対語テスト水準では○系のほか, 総得点上にも地域差が認められなかったことも特徴としてあげておく。

## 第2項 クラス年齢

○系, ×系, N系および非系反応について, クラス年齢差の有無を見るために試みた  $\chi^2$  検定の結果をあげれば, 次の通りである。

	○系		×系		N系		非系	
	$\chi^2$	P	$\chi^2$	P	$\chi^2$	P	$\chi^2$	P
対語	14.927	** .01	20.300	** .01	23.316	** .01	29.572	** .01
対文	26.292	** .01	6.740	** .01	47.329	** .01	7.057	** .01
発語	20.880	** .01	—		16.929	** .01	3.149	.10
誘発	30.639	** .01	0.300	.70	10.387	** .01	26.871	** .01
認知	56.393	** .01	—		30.333	** .01	55.542	** .01

これによれば, ○系反応はすべてのテスト水準において有意差が認められ, 4歳児クラスは5歳児クラスの幼児に比較して○系反応が少ない。しかも  $\chi^2$  値を各テスト水準でみると, 対語テストが最も低く, 対文・発語テストから誘導発語さらに認知テストに移行するにつれて高くなっていく傾向が認められている。すなわちクラス年齢差はどの水準でも認められ, かつ, 対語水準から認知水準に移るに従ってその差が顕著に見られてくる。

次に○系反応に対する×系, N系及び非系反応についてみると, ×系では対語, 対文テストで年

年齢差が認められた。そして他のテスト水準では有意差が認められなかったか、ほとんど×系反応が認められなかった。このことから×系反応について3点を指摘することができる。第1点は×系反応は特に有意差が年齢的要因に現れること。第2点は、基底水準である対語テストに顕著に現れ、認知テスト水準に移るにしたがって急速に  $\chi^2$  値は減少するか、×系反応数も減少すること。第3点は絵図を呈示し、その発語を要求するテストでは×反応はほとんど出ないが、誘導発語を要求するテストでは約1割の×系反応が生じることが特徴として指摘される。

N系反応では、すべての水準テストで有意差が認められている。すなわち、4歳児クラスはすべてのテスト水準で有意にN系反応が、5歳児クラスに比較して多いことが認められた。

非系反応では、発語テストをのぞく他の4テスト水準で有意差が認められており、発語テストにおいても、傾向的に差が現れている。しかし、非系反応の有意差は対語、対文テストでは5歳児クラスが多いにもかかわらず、誘導および認知テストでは4歳児クラスが多いという相反関係を示している。そしてその傾向は、基底にある対語テストの  $\chi^2$  値から対文テストに移ると  $\chi^2$  値は減少し、誘導テストから認知テストに移ると、再び増加している事実と対応することが注目される。

これらは○系反応における年齢差と矛盾するように見られるが、対語、対文テストでは4歳児クラスは×およびN系反応が多く、誘導発語および認知テストでは○系反応以外の反応は非系反応に移行する結果であることを示している。すなわち、年齢差は大部分のテスト水準の各系に認められ、年齢的発達の顕著さを示すことと、各系の中では×系がとりわけ4歳児クラスの対語テストにおける反応特徴であることが認められた。

### 第3項 性

○系、×系、N系及び非系反応について、性差の有無を見るために試みた  $\chi^2$  検定の結果をあげれば、次の通りである。

		○系		×系		N系		非系	
		$\chi^2$	P	$\chi^2$	P	$\chi^2$	P	$\chi^2$	P
対	語	3.137	.10	0	—	1.728	.20	0	—
対	文	0.083	.80	0.328	.70	0.667	.50	1.040	.50
発	語	0.440	.70	—	—	3.604	.10	3.926	.05*
誘	発	0.083	.80	0	—	0.141	.80	1.717	.20
認	知	—	—	—	—	0.305	.70	—	—

これによれば、○系反応には有意差が見られず、わずかに傾向的に対語テストにおいて、男児は女児に比較して○系反応が多いことが認められている。そして、N系及び非系反応では、発語テストのN系および非系反応に傾向的な差および有意差が認められているほかは性差は認められず、か

ついずれの  $\chi^2$  値もいちじるしく低い。

そこで有意差の認められた発語テストの非系反応を見ると、男児のほうが女児より非系反応が多い。また、傾向的に差の認められた発語テストのN系反応を見ると、女児のほうが男児よりN系反応が多く、両反応が発語テストのO系反応以外の諸反応の均衡的な対応関係を形成している。

なお、対語、対文、発語総得点に関する性差は対語テストに認められており、男児のほうが女児より対語総得点が高い。このことは、性差は対語テスト以外の水準では認められないが、最も基底にある対語テストで男児の優位を示す結果が得られたことを示していることに注目する必要がある。

#### 第4項 生活年齢

生活年齢差を見るための  $\chi^2$  検定はO系反応についてだけ試みた。生活年齢はクラス年齢をさらに細かい段階に区切ったものであり、クラス年齢の項で、 $\times$ 系、N系および非系の  $\chi^2$  検定を試み、その傾向の概要を把握してあるので特にここで $\times$ 系、N系および非系に関する分析は行わない。

そこで、O系反応に関する  $\chi^2$  検定の結果を示せば、

	$\chi^2$	P
対語	16.008	0.01**
対文	27.086	0.01**
発語	28.360	0.01**
誘発	35.486	0.01**
認知	68.126	0.01**

となり、すべての水準の各テストで顕著な有意差が認められ、 $\chi^2$  値は基底水準の対語テストから語認知テストに移行するにしたがって高くなっている。すなわち、年齢が上になるにつれて、生活年齢属性が要因として有意になってくることを示すものである。

そこで、さらに詳細に生活年齢間の有意差について調べると5-3-13表のようになる。

5-3-13表 対語テストのO系反応と生活年齢差

	1	2	3	4	5
1. ~5.0歳		0.524	4.940*	8.680**	7.459**
2. ~5.6歳	0.524		3.787	8.398**	6.600*
3. ~6.0歳	4.940*	3.787		0.833	0.468
4. ~6.6歳	8.680**	8.398**	0.833		0
5. 6.6歳~	7.459**	6.600*	0.468	0	

5-3-13表によれば、5歳未満児は5歳半以上の幼児よりも有意にO系得点が低く、6歳半以上の

幼児は5歳半以下の幼児よりも有意に○系得点が高い。

5-3-14表 対文テストの○系反応と生活年齢

	1	2	3	4	5
1. ~5.0歳		0.560	7.896 ^{**}	16.549 ^{**}	9.202 ^{**}
2. ~5.6歳	0.560		6.145 [*]	16.382 ^{**}	7.692 ^{**}
3. ~6.0歳	7.896 ^{**}	0.145 [*]		2.325	0.262
4. ~6.6歳	16.349 ^{**}	16.382 ^{**}	2.325		0.753
5. 6.6歳~	9.202 ^{**}	7.672 ^{**}	0.202	0.753	

5-3-14表によれば、生活年齢に関する○系反応の有意差の関係は、次の通りである。

~5.0	~5.6	~6.0	~6.6	6.6~

すなわち、~5.6歳までと~6.0歳以上に明確な差がある。このことは、一定の構文に基づいた○系の成立はその年齢段階で有意な差が生じることを意味し、その後にもまた差のないことは、対文テストの水準で動詞の意味が構造化されるのは、5歳6か月以後であることを示唆する。

5-3-15表 発語テストの○系反応と生活年齢差

	1	2	3	4	5
1. ~5.0歳		3.965 [*]	11.546 ^{**}	22.080 ^{**}	14.448 ^{**}
2. ~5.6歳	3.965 [*]		4.030 [*]	11.680 ^{**}	5.587 [*]
3. ~6.0歳	11.546 ^{**}	4.030 [*]		2.498	0.520
4. ~6.6歳	22.080 ^{**}	11.680 ^{**}	2.498		0.448
5. 6.6歳~	14.448 ^{**}	5.587 [*]	0.520	0.448	

5-3-15表によれば、5歳以下と5歳以上の幼児は他の年齢児との間に有意差が認められ、5歳半以上の幼児間には有意な差は認められなかった。

5-3-16表 誘導発語テストの○系反応と生活年齢差

	1	2	3	4	5
1. ~5.0歳		2.520	8.659 ^{**}	24.458 ^{**}	15.472 ^{**}
2. ~5.6歳	2.520		3.087	18.782 ^{**}	9.265 ^{**}
3. ~6.0歳	8.659 ^{**}	3.087		6.432 [*]	1.999
4. ~6.6歳	24.458 ^{**}	18.782 ^{**}	6.432 [*]		0.760
5. 6.6歳~	15.472 ^{**}	9.265 ^{**}	1.999	0.760	

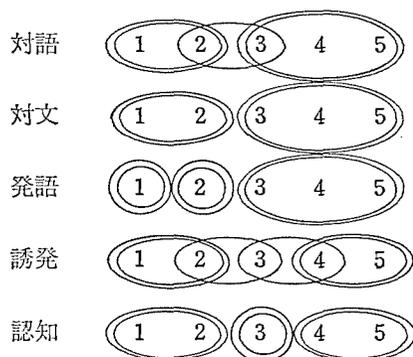
5-3-16表によれば、発語テストの結果に比較して有意差に細分化の傾向が出てきている。すなわち、5歳未満の幼児は、5歳半以上の幼児との間に差があり、5歳半未満の幼児は6歳以上の幼児との間に差がある。

5-3-17表 語認知テストの○系反応と生活年齢差

	1	2	3	4	5
1. ~5.0歳		3.257	11.596 ^{**}	31.630 ^{**}	42.250 ^{**}
2. ~5.6歳	3.257		4.403 [*]	24.582 ^{**}	35.754 ^{**}
3. ~6.0歳	11.596 ^{**}	4.403 [*]		8.000 ^{**}	16.560 ^{**}
4. ~6.6歳	31.630 ^{**}	24.582 ^{**}	8.000 ^{**}		2.460
5. ~6.6歳	42.250 ^{**}	35.754 ^{**}	16.560 ^{**}	2.460	

5-3-17表によれば、5歳半未満の幼児は5歳半以上の幼児の間に差があり、有意に○系点が低いことを示しているとともに、誘導発語テストよりさらに細分化の傾向を示している。

以上の諸表から、 $x^2$  値に見る有意差及び傾向的な差の存在から、○系反応を類別して示せば次のようになる。数字は年齢区分記号。



これに従えば、○系反応は1, 2グループと3, 4, 5グループとに分かれる。もっとも第3グループは対語テストでは第2グループと有意差なく ( $x^2=3.787$ )、発語テストでは第2グループと第1グループとは有意差は認められるものの  $x^2$  値は必ずしも高くなく ( $x^2=3.965$ ) また、誘発テストでは、

$$2 \times 3 \quad x^2=3.087$$

$$3 \times 5 \quad x^2=1.999$$

で第3グループは4, 5グループに近いから、

大まかに発達段階を考えれば、2. (~5.6歳) と3. (~6.0歳) の間に設定することができる。

そこで、これらの諸結果から、生活年齢差は次の点を指摘することができる。それは、○系反応の高低の類別をすれば、1, 2グループすなわち、5歳半以下の幼児群と5歳半以上の幼児群とに分かれる。そして、テスト水準別にみれば、対語、対文、発語テスト水準では5歳半以上は1群を形成するが、誘導発語および認知テストの水準では6歳以上が1群を形成するという傾向がみられる。このようにみれば、大まかに動詞理解力は5歳半までと6歳以上との間に発達的に質的な転換をもたらすという示唆が得られる。

## 第4節 結果に対する考察

本章では、性状語、時間・空間語および動詞の各語彙能力と諸要因との関係を扱った。ここでいう語彙能力とは、性状語、時間・空間語の場合は、各テストにおける正反応の合計点をさし、動詞の場合は、性状語、時間・空間語の結果をうけて、正反応の合計点のほかに、対語、対文、発語、誘発、認知の各テストにおける○系反応を加えて、各段階における語彙能力を扱った。一方、諸要因とは被験者の属性及び言語生活上の特徴をさしておりこれらはすべて被験者の家族に対するアンケート調査の回答によっている。

さて、性状語、時間・空間語および動詞の各語彙能力と諸要因との結果はすでに個別に述べてきたが、それらの共通した結果と差違のあった結果とを明らかにし、その問題点を考察するのが本項の目的である。

まず、地域差をみると、性状語および時間・空間語に関する語彙能力では差は認められず、動詞の語彙能力でも対語テストの系得点および総得点では差は認められなかったが、他のテストの系得点および総得点では差が認められている。性差では、性状語および時間・空間語の各語彙能力、また動詞の場合には対語の総得点をのぞく他のすべての系得点および総得点には差が認められなかった。さらに、年齢差をみると、これを4歳児、5歳児というクラス年齢に2分した場合は本テストのすべての語彙能力に差が認められた。そして、これを半年ごとに分けた生活年齢区分に従えば、本テストのすべての語彙能力に関し、特定の年齢間に差が認められている。被験者の言語生活上の特徴に関しては主として文字の読み書き活動が性状語、時間・空間語の語彙能力との対応が明らかにされた。さらに、被験者の両親の年齢と被験者の語彙能力との対応が認められたが、ただし、被験者の言語生活および両親の年齢と語彙能力との関係づけは性状語、時間・空間語の場合に限り、動詞に関する語彙能力との関係づけは扱わなかった。

地域差に関しては、性状語、時間・空間語の語彙能力に差がなく、動詞では系の成立という語彙能力からみると、対語テストの結果に差がなく、他の水準のテストでは差が出ていることが指摘された。特に動詞の場合、最も基底にある対語テストに差がなかった点に注目するならば、最も基底にある単語・単語の水準の系は、いわばラングの言語系であるとみることができれば、仮説的にここには方言系と干渉しあうことがない。それが対文、発語テストという各段階になると、特定の文脈や事物に対する方言系の干渉が強くなるために地域差が生じていくと考えられる。方言系の介入が対語テストより対文、発語などの各テストに目立つことはすでに指摘した通りである。

そこで、この仮説が認められるならば、性状語、時間・空間語の場合にも方言系介入の問題が適用されなくてはいけないが、対語および発語テストにおける地域差を  $x^2$  値で求めていくと、必ずしも対語テストのほうが発語テストより  $x^2$  値が低くなる事実は認めがたい。

	対 語		発 語		
性 状 語	$\chi^2=1.280$	$P<0.70$	$\chi^2=0.282$	$P<0.90$	$df=2$
時間・空間語	A $\chi^2=4.164$	$P<0.20$	$\chi^2=1.443$	$P<0.50$	$df=2$
	B $\chi^2=0.504$	$P<0.80$			

このため、動詞に対する地域差の有無に関する上述の仮説は認めるまでにいたらない。

性差に関しては、動詞の対語テストにおける得点計に関して有意差が認められたほかはすべての語彙能力間に性差は認められず、しかも差が認められた対語テストの得点計では、男児が女児より有意に高かったことが注目される。すなわち、従来の言語発達に関する諸調査では女児の優位性を示唆する結果が多かったのに対して、本調査ではそれを支持せず、むしろ、基底にある対語水準では得点計においてむしろ男児の優位性を統計的に認める結果を得た。そこで、われわれは次の2点に言及する必要があるだろう。第1点は、地域差の項では対文、発語、誘発、認知の各テストに差が生じたのに、性差はそれらのどのテストにも差が生じなかったのは、地域差の項で問題にした方言系の干渉が地域差にあるとすれば性差を扱う場合には、特にある水準テストに有意に働くということが考えられないので、それ故に性差は認められないこと。そして第2点は、性差を認めた従来の諸調査が対象にした言語能力に比較して、本調査は単語・単語の系、単語・事物の系、そして事物・事物の系という、対義的な意味の構造化すなわち対義的な系の成立ということを言語能力とした。このことが特定の文脈や場面での発語行為を調査し、そこに性差を認めた従来の結果と基本的に異なるためと考えられる。

年齢差に関しては、性状語では満5歳以前と満5歳以後、時間・空間語では満6歳以前と満6歳以後、そして動詞では各段階のテストによって若干異なるが、満5歳以前もしくは5歳半以前と満5歳以後もしくは満5歳半以後の間に差が認められている。このため必ずしも単一に発達の質的転換期を画することはできないが、おおむね、満5歳もしくは6歳前後に言語能力の上で質的転換があることを示唆していると考えてよく、その質的転換とは何かといえば、上述の地域差ならびに性差で考察した方向で考えれば、それぞれの水準での系の成立という、語の意味の構造化に対して、いっそう自覚的、意識化の段階に入ったことを示唆すると考えられる。

最後に、被験者の語彙能力と両親の年齢間に一定の対応関係が認められたことについては2つの面からの考察が必要である。第1は両親の年齢が若い場合には被験者が第1子であることが多いから、第1子であるか否かと語彙能力との対応を見る必要があり、その結果は次のように認められた。

性 状 語	$\chi^2=6.584$	$P<0.05^*$	$df=1$
時間・空間語	$\chi^2=7.777$	$P<0.01^*$	$df=1$

すなわち、いずれも第1子のほうが他の被験者より語彙能力の低い者が多かった。

第2は、巷間に話題となる最近の若い親のわが子に対するしつけの変容であるが、本報告ではその結果を具体的に特定の項目に対する反応の違いから明らかにするまでには至らなかった。

## 第6章 ま と め

1. 本報告は、国立国語研究所が昭和42年度から3か年計画で実施した特別研究「就学前児童の言語能力に関する全国調査」の一部であり、すでに公刊された『幼児の読み書き能力』『幼児の文法能力』に加えて、「就学前児童の語彙力調査」の主な部分の結果をまとめたものである。

就学前児童の語彙力調査では、4, 5歳児クラスの幼児が語彙に関してどのような理解の水準に達しているかを明らかにすることを目的とした。このため、理解の水準として、単語・単語の水準、単語・事物の水準、そして事物・事物の水準を設け、それぞれに系の構造を内包させて考えた。すなわち、語彙は一定の意味の体系を持っているから、その体系をつくっている語と語との意味関係を正しく理解する水準が単語・単語の水準であり、その単語が一定の事物と結びついた使用を理解する水準が単語・事物の水準であり、さらに事物間に一定の意味的結びつきを理解する水準が事物・事物の水準である。そうして各水準では一定の系のもとに意味の構造化が成立すると考え、特に本調査では対義という系に注目し、対義の意味の关系的理解をもって「系の成立」とした。そこで、テストに当たっては、下記の5段階を設定した。

対語テスト 単語と単語との対関係の理解を調べる単語・単語水準でのテスト。

対文テスト 簡単な文脈の中で、単語と単語との対関係の理解を調べる単語・単語水準でのテスト。

発語テスト 簡単な事物(絵)を呈示し、単語と事物の関係を調べる単語・事物水準でのテスト。

誘発テスト 簡単な事物(絵)と、対語の一方を呈示し、残る一方を誘発して事物関係との理解を調べる単語・事物水準でのテスト。

認知テスト 対語の一方を呈示し、それが意味する事物(絵)の理解を調べる単語・事物水準でのテスト。

また、これらに加えて、事物と事物の意味関係を調べる事物水準でのテストが一部に用意された。これを従来の語彙テストと比較すれば、たとえば表現語彙テストとして実施されてきたものは発語テストに対応するものであり、理解語彙テストとして実施されてきたものは認知テストに対応する。

また、従来の表現語彙、理解語彙テストはともに、具体的な場面状況の中での言語と事物との対応を求めるテストに限られていたし、表現語彙テストと理解語彙テストとの関連は必ずしも十分ではなかった。本報告で試みた内容は各段階が相互に関連づけられ、しかも対義的な意味関係に注目することによって、表現語彙テストと理解語彙テストとの中間段階として誘発テストが設定できたこともテスト法の特徴にあげられよう。

なお、ここにあげた対語テストの方式を、クラーク^{*}は単語ゲームとして反対語調査の中で採用し

ているが、前述のような各段階調査の1つとして位置づけてはいない。

2. 調査語彙は性状語、時間・空間語および動詞とした。これらとは別に、語彙力調査では、範疇語、動詞分化テストも実施したが、本報告での調査語彙は主に対義的な意味関係によって系の成立を求められるものに限ってある。こうして性状語、時間・空間語および動詞の基本的な語が選ばれた。性状語は形状を表すものを中心に13対26語、時間・空間語では10対20語が空間を表す語、7対26語が時間を表す語、さらに動詞では220語が選ばれた。これにより、性状語、時間・空間語また動詞の中で基本的な語に関しての理解の水準が明らかにされることになったが、ただし制約条件としては、すべてが対義語および複数の対義関係を持つ循環語か系列語であることと、それらの対語は単語・事物水準でのテストでは、絵図として具体的事物に代わって視覚化できるものでなければならなかった。

こうして、東京、岩手、仙台(宮城)、京都、和歌山の幼稚園児を対象にして、1語につき、約200名の結果が得られるように配慮した。地域の選定では、岩手、和歌山は特に郡部地区を選定し、都市部と郡部の比較を試み、また各地域での基準反応に対する方言的反応の比較を試みることにした。そうして被験者は無作為に決定されたが、その被験者にはすべて97ページの「お子さんの言語生活アンケート」を被験者の家族によって記入され、それをもって被験者の属性上の特質としたが、性状語テスト、時間・空間語テストおよび動詞テスト間には、年齢、保育年数、病気の経験、母の年齢、兄弟の有無、本、文字の7項に差があったことをのぞけば、他の項目には差は認められなかった。こうして、全被験者に対して、それぞれの地区の調査員によって、個別テストの形でテストが実施された。テストの種類によって、絵カードや玩具また実物がテスト材料として用意された。

3. 性状語、時間・空間語および動詞テストには、被験者の反応に対して共通した判定基準が用意された。そして、対語テスト、発語テスト、誘発テスト、また、対文テストでは、第一次的には判定基準段階を5段階に分類しておいたが、テスト結果の諸反応は更に詳細に分類する必要が生じたので、最終的には14段階(動詞は15段階)に分類された。すなわち、諸反応を正反応と誤反応、無反応とに大別した上で、正反応は基準語による反応、基準語の幼児音による反応、異なる文脈であれば基準反応、基準語と同義語反応、方言・幼児語反応等に分け、誤反応は「～ナイ」反応、意味の異なる語反応、事物連想反応等に分けた。動詞テストでは、誤反応の中に、絵図に誘引された誤反応および自動詞、他動詞の混同が目立ったのでこれを独立させた。

こうして、すべての反応が分類されたが、本報告での主な整理作業の過程では、基準語による反応および基準語の幼児音による反応を一括して基準反応として、その理解および系の成立を問題にし、他の諸反応は必要に応じてとりあげた。

4. 性状語テストは形状を表す語を中心に13対26語について実施したが、各対語の対語、発語、誘

* E. V. Clark: On the child's acquisition of antonyms in two semantic fields. *J. of Verbal learning and Verbal Behavior*. 11. 750-758(1972)

発、認知テストでの理解および系の成立程度は4-1-17~18表に五十音順に整理して示した。そして、発語、誘発、認知テストに移行するにつれて理解度は高まり、認知テストの段階では大部分の性状語が90%台に達している。そして〈高低〉〈長短〉の対語のように、発語テスト水準段階では普遍的な〈大小〉の対語で命名したものが誘発テスト段階で片方の特定の限定された語が与えられるために急激に理解度を高めるものもある。

語の難易に関しては普遍的な意味を持つ〈大小〉が最も理解度が高く、特定の限定された意味を持つ〈厚薄〉〈広狭〉の理解が低く、クラークの意味素性仮説を認める結果が傾向的に得られている。そして同じ性状語でも、大きさ、多さ、広さでは、

大きさ 面積>容積 多さ 数>量  
広さ 面積>幅

が認められた。すなわち、大きさでは容積の大きさより面積の大きさが、多さでは、量の多さより数の多さが、また、広さでは幅の広さより面積の広さがいずれも理解度が高かった。

対語内の理解の高低に関しては、

長い>短い 広い>狭い 高い>安い 厚い>薄い

の通り、積極的極性(+)が消極的極性(-)より理解度が高く、ここにおいてもクラークの意味素性仮説を認める結果が得られている。もっとも、日本の語構成からみると、対義的な意味を持つ2語が結合して複合語を構成する場合、長短(長い短い)、広狭(広い狭い)等の命名傾向に注目すれば、複合語の前部の理解が先行するという特徴が指摘される。

5. 時間・空間語テストは主に空間を表す語10対20語、また時間を表す語7対26語について実施したが、各対語の対語テストでの理解および系の成立程度は4-2-23表に五十音順に整理して示した。そして発語、誘発、認知テストに移行するにつれて理解程度は高まるが、対語テストと、発語テストとの間では、〈上下〉、〈前後ろ〉、〈中外〉、〈左右〉の各項目で、〈中〉をのぞく他の項目では、発語テストのほうが対語テストより理解度が低いという特徴が指摘される。もっとも、〈中〉にしても〈なか・うち〉を含めれば、対語テストの結果のほうが高くなるので、空間を表す語は対語テストではたとえば〈左右〉の対語のように単語・単語の水準では意味の理解および系の成立は容易でも、発語テストという単語・事物の水準では空間的な位置を示す概念を事物関係で把握しなければならぬために意味の理解および系の成立を困難にする。

時間・空間を表す語の難易に関しては、時間を表す語よりも空間を表す語のほうが理解が容易である。そして、時間的な位置や経過を表す語に系列(シリーズ)、循環(サークル)の関係を持つものがあるが、系列関係の語より循環関係の語のほうが系の意味の充足性が強いために理解の程度が高く、また、時間の経過を表す語のうち、より短い経過を表す語(一日)からより長い経過を表す語(年)に進むにつれて理解の程度が低くなること。さらには、日の経過では未来を表す語の方が過去を表す語よりも理解度が高いことが指摘された。

6. 動詞テストは主として対義や因果関係にある動詞 220 語について実施したが、各対語の対語、対文、発語、誘発、認知テストでの理解及び系の成立程度は表に五十音順に整理して示した。そして、特に動詞テストAに限って各対語の理解の高低を分析した結果では、対語間の一般性・普遍性に対する特殊性、限定性という観点で分けたとき、より一般性・普遍性を持つ語のほうが理解が高いことが指摘された。また、各対語内での理解の高低に関しては、

上げる>下げる      上がる>降りる      上げる>下ろす  
上げる>もろう  
点く>消える      履く>脱ぐ

のように、動作・行為・現象について時間的に先立ち、次の動作・行為・現象の因となるものが理解度が高いこと。いっぽう、特に対語テストにおいて、

乗る<降りる      かぶる<脱ぐ

の場合には、より特殊な場面での動作・現象を表し、それがより一般的な場面での動作・行為・現象を表す対語反応をひきおこし、その干渉によって〈乗る〉〈かぶる〉反応を低めていることがあるが、このことを考慮した上で一般的には動作・行為・現象について時間的に先行し、次の動作・行為・現象の因となるもののほうが理解度が高いことが認められるし、それは参考までに見た動詞Bテストの対語・対文テストにおいても、刺す〉抜くの不等関係で認められている。そしてさらにわれわれは日本語の動詞の対義的な語による複合語構成を見ると、多くが時間的に先行し、次の動作・行為・現象の因となるものが複合語の前部を構成する傾向に注目するならば、動詞の対語で理解度が高いものは複合語構成上、前部を構成するものと対応するという仮説を性状語の場合と同様に用意することができるが、動詞テスト 220 語に関しては、必ずしもその仮説を認めるまでにはいられない。

7. ところで、性状語テスト、時間・空間語テストおよび動詞テストを通じて、われわれは、種々の意味を表す対語関係語では、性状語ではより一般性・普遍性を持った意味で使われる〈大きい・小さい〉が〈厚い・薄い〉という特殊性・限定性を持った意味で使われるものより理解度が高いという事実は、動詞では同様に、種々の意味を表す対語関係で使われる〈着る・脱ぐ〉はより特殊的・部分的限定性を持った〈脱ぐ・履く〉より理解度が高いことと符合する。この点、時間・空間語の場合には、前二者のように一般性・普遍性対特殊性・限定性で解釈するのが最適であるか否かは速断できにくい。しかしながら、この線に沿って考えるならば、時間語テストで指摘されたように、時間経過がより短いことを示す語のほうがより長いことを示す語より理解度が高いことは、たとえば朝昼夜などは去年、今年といった時間より、幼児にとっては一般性があり、具体性がある親近性がある。また、空間語では、前後ろ、上下、左右などの語は幼児自身を座標軸にして位置の認知が決定されるという自己中心的認知態度に依存するから、位置の決定には縦横に比較して普遍性があり、幼児には特に親近性があるといえるかどうか。そして、それらを一括して、一般性・普遍性

対特殊性・限定性の特性で処理するのが最適か否かはやはり決めにくい。

もう一つの各対語内関係では、性状語は量的に多さ(+)を示す積極的極性のほうが、量的に少ない(-)ことを示す消極的極性のほうより理解度が高いことを指摘した。このことは、動詞の場合は、動作・行為・現象が時間的に先行し、後の動作・現象の因となる意味を表す動詞のほうが動作・行為・現象が時間的に後続し、前の動作・現象の因となる意味を表す動詞より理解度が高いことを指摘したが、両者の解釈には直接的な対応関係は見出せない。

しかし、動詞テストA～Dの中では、情緒的に快(+)の意を示す語は情緒的に不快(-)の意を示す語より理解度が高い事例が多く見られる。すなわち、きれいになる>よごれている、なおる>かかる、咲く>散る、なでる>なぐる、助かる>溺れる、喜ぶ>悲しむ、生まれる>死ぬなどがある。この点で(+) (-) 関係とは対応するとみてよい。また、幼児の認知特性からすれば、量的な多さを示す積極的極性をより優位に認知すると同様に、時間的に先行し、後の結果を導く因をもつ動作・行為・現象のほうをより優位に認知する、いわば「認知傾向」あるいは「認知的嗜好性」という点では共通点を見出せるであろう。それはまた時間・空間語のうち、未来への経過を表す時間語が同じ時間経過でも過去への経過を表す時間語より理解度が高いが、ここにも幼児の「認知傾向」あるいは「認知的嗜好性」があるとみることができる。

なお、意味素性仮説では、形状形容詞について、無標(大きさ・大きい)、有標(小さい)の区分をして、有標より無標のほうが習得順序が早いことを説明するが、この点では日本語の語彙には対義的な意味の語で構成された複合語が(例、大きい小さい、大小)存在し、それが無標語的機能を果たしている。そこで特に性状語の複合語に注目するとき、複合語の前部を構成する語の意味の理解度が高いことを指摘しておく必要がある。では、どのような経緯で、性状語の複合語の前部後部の位置づけが決定されたのかについては、われわれの知るところではないし、その考察は本報告の目的外のことがらである。しかし、本テストの理解の各テスト水準の構成からみれば、事物・事物の水準で何らかの認知的傾向、あるいは認知的嗜好性が機能し、具体的な単語・事物の水準で複合語構成が行われたという仮定もできるが、あくまで推察の域を出るものではなく、今後の課題とする。

もっとも、本報告で明らかにされた性状語、時間・空間語および動詞の対語間の理解度の高低や対語内の理解の高低は幼児の日常の語彙使用と対応し、また、成人の日常の語彙使用とも対応するならば、その対応は事物・事物水準での認知的傾向あるいは認知的嗜好性に依存するという解釈も試みられてよい。

そこで、本報告の結果に対する比較資料として、幼児の日常の語彙使用例を岩淵・村石「用例集 幼児の用語」^{*} また、成人の日常の語彙使用例を国立国語研究所「電子計算機による新聞の語彙調査」^{**} の使用頻度に求めれば、その順位相関係数および対語内の理解の高低と語彙使用数の多少関係の合

* 岩淵悦太郎・村石昭三「用例集 幼児の用語」日本放送出版協会 昭和51年

** 国立国語研究所「電子計算機による新聞の語彙調査」(報告37) 昭和45年

致度(%)は次の通りである。

	幼 児 の 用 語		新 聞 の 語 彙		
性 状 語	(r) 0.67	64%	(r) 0.48	91%	(注)比較の対象にした語はすべて対語テストの刺激語である。
時間・空間語	(r) 0.26	67%	(r) 0.10	78%	
動 詞 A	(r) 0.32	50%	(r) 0.07	38%	

したがって、このことから、本報告で、理解度の高い語、特に性状語は「幼児の用語」「新聞の語彙」調査でも高い頻度で使用されていることを示すとともに、幼児と成人における語彙使用の普遍性が示唆される。

8. 本テストでは、すでに述べたように、単語・単語の水準、単語・事物の水準、事物・事物の3水準を設け、これに単語・単語の水準では対語・対文(動詞だけ)テスト、単語・事物の水準では発語、誘発、認知テスト、そして、事物・事物の水準では、一部のテストに系列化や事物変換テストなどを実施した。そしてこれらの各段階での基準反応率を見ると、単語・単語の水準から、単語・事物の水準へ移行し、しかも発語、誘発、認知テストに移行するだけ理解度が高まることが予測されたが、この予測は大筋では認められ、語の理解は理解度が高い認知テストの段階から誘発テストの段階、発語の段階へ、さらに対語テストの段階である単語・単語の水準へと進んでいくことが示唆された。このことは従来の言語教育では、表現語彙テスト、理解語彙テストが示すように、単語・事物の水準でのテストが試みられ、指導が心がけられてきたが、ただ、特定の場面で発語し、理解できるほかに、単語・単語の水準でいかに正しく単語の系を組織づけていくかの指導が必要であり、それが言語能力の発達を促すことになると考えられる。そこでこのためには、幼児期から単に話したり、聞いたりする言語活動の指導のほかに、言語の系を組織づけていく指導、すなわち、音のしくみを気づかせ、意味のしくみを気づかせ、言語形式を気づかせていくことを目的とした「ことば遊び」の指導が重視されなくてはならない。

一方、「左右」の空間語のように、単語・単語の水準では比較的理解が容易であるのに、単語・事物の水準では、具体的な場面での左右概念が必要とされるために著しく理解度を低める一連の対語がある。これらは、事物の水準での概念の発達を必要かつ前提にすることを示唆しており、言語教育は性状・空間・時間概念の発達を促す概念形成の指導にも重要性を置くべきであって、単なる言語水準だけの指導にかたよれば、いわゆる「言語主義」に陥ることになるだろう。

なお、本報告では、性状語26語、時間・空間語46語そして動詞220語に関するすべての語の各水準での理解度はそれぞれ4-1-1A表、4-2-1表、4-3-1表に示してあり、それぞれ、五十音順に示してある。これらの語はいずれもその領域での基本的な語を網羅してあるから、それらの基本語のうち、どの語から指導をしていくかの具体的な語選択の資料として有効であろう。

9. 本報告では、諸テストのほかに、被験者の家庭環境を含む言語生活の特性をアンケートによっ

て把握し、これらと語彙能力との関係を考察した。性状語、時間・空間語はテスト得点をもって語彙能力と規定し、アンケート反応との交差分析をしたが、幼児の年齢、クラス年齢、保育年数、両親の年齢、また文字を中心にした言語活動に有意な関係を認めた。しかも、性状語テストと時間・空間語両テスト間に有意な関係を共通した項目に認められたことが注目される。特に、文字を中心にした言語活動に有意な関係を認めたことは、文字という中の特に知的活動の側面と、語の理解の水準というテストの性格が言語の認知的側面を強調した調査という点で対応関係を持っていることを示唆している。

一方、性状語、時間・空間語テストで、有意差が認められなかったものに、地域差と性差がある。従来の言語能力諸テストでは地域差(都市部>郡部)、性差(男<女)という不等関係が得られてきたにもかかわらず、本報告ではそれが認められなかったことに注目する。もちろん、たとえば時間語テストでは、〈朝昼夜〉〈朝昼晩〉といった地域別言語使用上の特性が認められ、それが基準反応率を低める干渉的現象は事例的に認められたものの、基本的には、本報告であげた語彙理解には地域差が生じなかったということに注目するのである。性差に関しても、言語の認知的側面を強調した本テストでは差が出ず、したがって、もし、比較的差が現れるとすれば、具体的な生活場面での言語表現行為の次元であろうと推察される。

この点に関し、動詞テストでは語彙能力を対語、対文、発語、誘発、認知の各段階ごとに、かつ○(正反応)系、×(～ナイ)系、N(無答)系、非(左記以外の反応)系に細分化した上で、地域、クラス年齢、性、生活年齢、保育年数に関して交差分析した。それによれば、クラス年齢、生活年齢、保育年数が○系に差を認めたことは、性状語、時間・空間語テストの場合と同様であるが、最も基底にあると考えられた対語テスト、すなわち単語・単語の水準においては、地域差および性差が認められなかったことも、前二者のテストと符合する。この点からすれば、言語の認知的側面を強調した言語教育、とりわけ語彙教育をそれぞれの地域、男女の幼児に与え、差の生ずると想定される言語の具体的場面での発語行為の問題点を解決していくための指導内容の確立が必要である。

言語能力に関して、上に述べてきた特徴が地域差として生じるのは、具体的な事物に対する名づけのような方言的な体系の干渉があり、しかも日常的な言語生活場面では必ずしも発語行為を必要としない習慣にも影響されて、いわゆる話すことに積極的な都会型、話すことに消極的な郡部型を印象づけ、それがひいてはあたかも語彙の豊かさや語彙能力に影響されているかのごとく考えられがちであるが、この解釈は妥当ではない。言語能力に関する性差の問題もすでに指摘したように、従来の言語テストに示された性差は主として具体的な生活面での言語表現行為の次元であったから、地域差で考察したように発語行為における積極性・消極性を誘因する生活態度的な面が影響すると考えられるが、本調査のように、系の成立という意味の構造化を対象にすれば、本質的に性差は存在しないという解釈も試みられてよいであろう。そしてこの系の成立という意味の構造化のいっそうの意識化・自覚化が満5歳あるいは満6歳前後における生活年齢差という発達の質的転換期を画

することになると解釈される。

10. 最後に、われわれは本調査の問題点、ならびに将来の関連調査のために、3点を提案しておく。第1点は被験者の年齢である。本調査は4歳児および5歳児クラス児を対象にしたが、系の成立という意味の構造化、意識化の過程を語彙能力の発達と考えたとき、系の成立の端緒はいつか、かつ、系の成立の完成はいつかを明らかにする必要がある。そしてそのためには、被験者は発語行為の一応の基礎が形成される3歳期から、言語系の完成と見られる小学中学年までを対象にした調査が必要である。第2点は方言による意味の系の成立である。本調査は共通語による系の成立を基準とし、このために、教示も共通語により系反応が得られるようにしたが、方言系と共通語系の相互交渉を明らかにするためには、方言系の成立過程も別途に明らかにされねばならず、方言系を確めるための調査が必要である。

そして第3点は刺激絵図を用意して、実際の事物に対する言語反応を求めたが、その絵図が本質的に実際の事物に対する言語反応を導くのに最も一般的であるか否かの確認は得られないし、事実、とりわけ動詞テストでは絵図の誘引による誤反応が目立っている。もっとも、幼児の認知過程から見れば、端的に絵図から必要な動詞反応が期待できない(たとえば、混む、空くなどの動詞絵図295ページ参照)ものは、実際の日常生活でも、単語・事物の対応が困難であるという対応関係が認められる。それにしても、絵図の適否によって正答率にゆれが生じることも十分に考えられるし、カレー(S. Carey)のいう、特定場面における認知の非一貫性を説明する「素性脱落・変異反応理論」も提出にされていることであるから、刺激絵図の統制の問題はあらためて検討されなければならない。

* S. Carey: The child's as word learner. In the M. Halle, J. Bresnar & G. A. Miller (Eds). *Linguistic theory and psychological reality*. 264-293.

# 付 録 資 料

1. 性状語テスト《手びき》 406
2. 性状語テスト《絵図・用具》 415
3. 時間・空間語テスト《絵図・用具》 432
4. 動詞テスト《絵図》 437
5. 被験者の特性《アンケート調査》 452
6. 系の成立《図表》 475

'68 調査手びき 1

就学前児童の言語能力に関する全国調査

幼児の語彙力調査

〈性状語テスト手びき〉

国立国語研究所

1968

1. 調査の概要

この調査は、東北（宮城・岩手）、東京、近畿（京都・和歌山）の各地域の幼稚園から抽出した約900名（30園）の就学前児童（4歳～5歳児）を対象に、基本的な語の理解の特徴をテスト法によって明らかにします。一方、幼稚園・家庭を対象にしたアンケート調査から、幼児の言語生活に関する実態をさぐります。

2. 本テストの構成

本年度に行うテスト・バッテリーは次の4領域から構成されています。調査地域と被調査者の人数配分は次の通りです。

地域	テスト	A	B	D	D
		範疇化	性状語	時間・空間語	意味分化
東京		75	75	75	75

東北	宮城	75	75		
	岩手	75	75		
近畿	京都			75	75
	和歌山			75	75

ここで説明する内容は、上記のなかのB性状語テストです。

### 3. 性状語テストの構成

性状語のうち、視知覚の可能な対象について、その対象の大きさ、高さなどを比較形容する形容詞から構成されています。

- |                     |           |          |
|---------------------|-----------|----------|
| 1. 大きい・小さい          | 2. 多い・少ない | 3. 太い・細い |
| 4. 濃い・薄い            | 5. 厚い・うすい | 6. 広い・狭い |
| 7. 高い・低い            | 8. 長い・短い  | 9. 深い・浅い |
| 10. 高い・安い           | 11. 暑い・寒い |          |
| 12. 最も大きい・最も小さい     |           |          |
| 13. いちばん大きい・いちばん小さい |           |          |

* 10, 11および4はそれぞれ、10-7, 11-5, 4-5の異なる文脈での反対語関係をもつ形容詞としてあげました。また、12, 13は最上級を表す表現形式としてとりあげました。

上記の各性状語を次の6側面からテストして、理解の特徴を明らかにし、就学前段階での理解水準を問題にします。

テストⅠ 単語・単語の系(反対語) 全語(13対・26語)について行う。

テストⅠ-補 テストⅠで○, ×, ×反応の語は補充欄にその語を登録し、新しい語形式反応が出なくなるまでテストをくりかえす。

テストⅡ 発語 全語(16対語)について行う。

テストⅢ 誘導発語 テストⅡのうち、基準反応(○)をのぞく全語について行う。

テストⅣ 認知 テストⅢのうち、基準反応(○)をのぞく全語について行う。

テストⅤ パラメーターの分難 4材料について行う。

テストⅥ 系列化 6種のカードについて行う。

#### 4. テストの方法

- ① 個別テスト：所定のテスト用具（テストⅡ～Ⅳ，Ⅵではカード，テストⅤではホース，手帳，リボン，ブロック・積み木）を使い，幼児にひとりずつ個別にテストをします。
- ② 所要時間：時間制限はありませんが，大体，テストⅠ～Ⅵ全体に要する時間は40～50分です。4歳児のほうが，5歳児より，また誤反応の多いものは若干，時間がかかります。幼児がテストを放棄しないよう，適宜，気分転換を工夫してください。

#### 5. 正誤の判定基準と記録のとり方

##### 判定基準

記号 テスト	○	○	⊗	×	N
Ⅰ	当該の基準的な語形式による反応（幼児音を含む）	当該の基準的な語形式以外の慣用的反応（幼児語・方言を含む）	意味の上では正しいが「～+ナイ」形式による反応	意味に誤りのある反応	無答（知らないを含む）
Ⅱ	上に同じ	上に同じ	上に同じ	上に同じ	上に同じ
Ⅲ	上に同じ	上に同じ	上に同じ	上に同じ	上に同じ
Ⅳ	正しい指摘			誤った指摘	上に同じ
Ⅴ	正しい抽出	不完全な抽出*		誤った抽出	上に同じ
Ⅵ	正しい配列			誤った配列	上に同じ

* 2～3個の抽出が可能なのに，1個の抽出しか行わなかった場合，誤った抽出が混合した場合は×となる。

● 幼児の反応に対する一応の判定基準を示したものです。テストⅠに関しては，具体例でもって後述してあります。

##### ■ 記録のとりかた

(1) 調査員は幼児に問いかけながら，次のことを記録しておいてください。

1. 幼児の反応を→反応欄に記入
2. その反応の正誤を→記号で正誤欄に記入

ただし，2についてはその最終的な判定は国立国語研究所が行いますから，判定に迷う場合に

は記入しなくても結構です。ただし、幼児の反応だけは忠実に記録しておいてください。

- (2) 幼児の反応はすべてのテストの場合、反応欄に正確に片カナで記入していただきますが、幼児音で反応した場合（大きい→オーチイ）は、その幼児音のまま片カナ表記をしてください。そして正誤の判定が明白な場合には正誤欄に記号を書きいれてください。

ただし、反応が正反応（基準的な語形式による反応）であれば、正誤欄に○と書くのみで、必ずしも反応欄に記入する必要はありません。

■記録用紙

記録票 2枚

テストの前後に、2枚の記録票について、園名、幼児名、調査日、調査者氏名をお忘れなく記入してください。

その他の事項はテストが終了後に園側の協力を得て記録票を完成してください。

6. 各テストの実施要領

テストI 言語・言語の系（反対語）

刺激語および反応語に対する正誤判定

刺激語	正 誤					N	正 誤	
	○	○	×	×	刺激語		略	
1. 大きい	チ イ サ イ チ ッ サ イ チ ッ チャ イ	チ ン コ イ	オ オ キ ク ナ イ	ス ク ナ イ	(省)	1'. 小さい	(省)	
2. 多い	ス ク ナ イ	ス コ ッ シ ト	オ オ ク ナ イ	タ ク サ ン		2'. 少ない		
3. 太い	ホ ソ イ	ホ ソ コ ッ ポ イ ホ ソ ッ ポ イ	フ ト ク ナ イ	ホ ソ ナ ガ ッ ポ イ		3'. 細い		
4. 最も大きい	モ ッ ト モ チ イ サ イ	イ チ バ ン チ イ サ イ	モ ッ ト モ オ オ キ ク ナ イ	モ ッ ト モ タ カ イ		4'. 最も小さい		
5. 濃い	ウ ス イ	ウ ス ッ ポ イ	コ ク ナ イ	ヨ ワ イ		5'. 薄い		
6. 高い	(省 略)	ヤ ス ッ ポ イ	タ カ ク ナ イ	ヒ ク イ		6'. 安い		
7. いちばん多い	(省 略)	イ チ バ ン ス コ シ	イ チ バ ン オ オ ク ナ イ	ス ク ナ イ		7'. いちばん少ない		
8. 厚い	(省 略)	ウ ス ッ ペ ラ ウ ス ッ ポ イ	ア ツ ク ナ イ	サ ム イ		8'. 薄い		
9. 広い	(省 略)	(省 略)	ヒ ロ ク ナ イ	セ マ ッ ク ル シ イ フ ロ シ イ		9'. 狭い		
10. 高い	(省 略)	(省 略)	タ カ ク ナ イ	ヤ イ ス		10'. 低い		
11. 暑い	(省 略)	(省 略)	(省 略)	ウ ス イ		11'. 寒い		
12. 長い	(省 略)	(省 略)	(省 略)	(省 略)		12'. 短い		
13. 深い	(省 略)	(省 略)	(省 略)	(省 略)		13'. 浅い		

* 後記、記録例の注参照のこと。

## ■教示と実施手順

(1) 教示：テスト導入のために、現物の石とボールを持たせて、「これは石、これはボールです、さわってごらんください。どっちがかたいでしょうか。(答を待つ。かならずしも口答で答えなくてもよいが) 石のほうがかたいね。では、こっちのボールはどうなんでしょう。(答を待つ)。ボールはやわらかいね。だから、かたいの反対は？(答を待つ)。そう、かたいの反対はやわらかいですね。また、やわらかいの反対はかたいですね。では、これから先生がいろんなことばを言いますから、反対のことばを言ってください」

「はい、では、オーキイの反対は？(答を待つ)。では次に進みます。多いの反対は？……(以下同じ)」

(2) 呈示順序：前頁一覧表参照

1. 大きい→13. 深い→1'. 小さい→13'. 浅い→(補充語)

(3) 教示上の注意

① タカイ(6, 10)の反対に、ヒクイ、ヤスイのいずれかがでたら「もっとほかにタカイの反対になることばがあったら言ってください」とたずねる。

② 幼児語、方言で答えた場合も「もっとほかに……」の質問を行う。

③ オオキイをイーキオと答えた場合は導入法の不備だから練習をくりかえす。

また、「～の反対」ということばが納得できない幼児がいたり、導入に使った「石」「ボール」から離れて反対語を考えることのできぬ幼児がいたりする。このような場合には、実物を隠して、「先生がかたいと言ったら？(答を待つ) やわらかいでしょう。では先生がやわらかいと言ったら？」(答を待つ)の導入を行う。

④ 知らないと答えたり、誤答した児童に対して、正答をひきだすために無理があってはならない。

たとえば、「大きいの反対は？」という問いかけを「大きい帽子の反対は？」という問いかけに変更したりすることはいけなない。

## 補充テストについて

幼児の反対語の○、×および×については、それらを補充テスト刺激語として記録用紙の空欄に記録し、上記のテスト手順をくりかえしてください。

## ■記録の例

刺激語	反応	正誤
1. 大きい	チッサイ	○
2. 多い	チット	○
3. 太い	ホシヨッポシヨイ	
4. 最も大きい		○
5. 濃い	N	N

- * 3は正誤の判定保留の例
- 4は基準的な語形式による反応のため、反応記入を省略した例
- 5は反応・正誤欄の両方にN、Nを書くべき例
- ** 8〈厚い〉の刺激語に対して、「サムイ」の反応が出たならば、それは11の問題として扱い、11欄に記録すること。そして、再び〈厚い〉の刺激語を呈示すること。他の問題もこれに準ずる（問題6、10、11、5'、8'）

## テストII 発語

### 刺激カード

- |                   |
|-------------------|
| 1. 犬（大小）容積        |
| 2. りんご（多小）非連続     |
| 3. 竹（太細）          |
| 4. 犬（最大・最小）—5枚    |
| 5. 色（濃淡）          |
| 6. 果物類（高安）        |
| 7. りんご（いちばん多少）—5枚 |
| 8. 木（厚薄）          |

- |               |
|---------------|
| 9. 池（広狭）面積    |
| 10. 丸（大小）面積   |
| 11. 煙突（高低）    |
| 12. コップ（多少）連続 |
| 13. 冷暖房具（暑寒）  |
| 14. 鉛筆（長短）    |
| 15. プール（深浅）   |
| 16. 道（広狭）幅    |

### ■反応語に対する正誤判定

テストIの正誤判定表に準じます。ただし次の例は慣用反応（○）とみなします。

9. 池    11. 煙突    14. 鉛筆=大小  
15. プール=多少    16. 道=細（太をのぞく）

もっとも、なお、若干の問題点があるので今後の討議により変更がありうると考えてください。

### ■教示と実施手順

[練習] 石とボール（現物）を呈示して、「石はボールとくらべて固かったね。ではボールは石にくらべてどうでしょう。（答を待つ）そう、ボールの方が石よりもやわらかいですね。いまから、同じようなものを出しますから、ふたつをくらべて、どちらの方がほかのものよりもどうなのか、答えてください」

- [1. 犬] 「犬が2匹いますね。形は似ていますが、この犬とこの犬とくらべて、どんなふうにちがうのでしょうか。この犬は、この犬よりも？^{*} ではこの犬はこの犬よりも？^{**}」  
* 大きな犬、** 小さな犬のこと、以下、各対の呈出順はこれに準ずる。
- [2. りんご] 「リンゴがお皿のっていますね。ふたつのお皿のリンゴをくらべて、どんなふうにちがうのでしょうか。こっちのお皿のリンゴは、こっちのお皿のリンゴよりも？（くりかえし）」
- [3. 竹] 上に準ず。
- [4. 犬—5枚] 「(大きい順に配列し) 犬から5匹並んでいますね。この犬はここにいる全部の犬とくらべてどんなふうにちがうのでしょうか。この犬はここにいる全部の犬の中で？（くりかえし）」

- [5. 色] 「両方のカードに色がぬってありますね。この色はこの色とくらべてどんなふうにかがうでしょうか。この色のほうがこの色よりも？(くりかえし)」
- [6. 果物類] 「パイナップル、リンゴがあります。パイナップルは500円で、リンゴは50円だそうです。パイナップルのほうがリンゴよりも？(くりかえし)」
- [7. リンゴ—5枚] 「リンゴが五つのお皿にのってますね。これらのお皿のリンゴは、ここにある全部のお皿のリンゴとくらべてどんなふうにかがうでしょうか。こっちのお皿のリンゴはここにある全部のお皿の中で？(くりかえし)」
- [8. 本] 2に準ず。
- [9. 池] 2に準ず。
- [10. 丸] 「マルがふたつありますね。このマルとこのマルとくらべてどんなふうにかがうでしょうか。この丸のほうがこのマルよりも？(くりかえし)」
- [11. 煙突] 「エントツが2本ありますね。このエントツとこのエントツとくらべてどんなふうにかがうでしょうか。このエントツのほうがこのエントツよりも？(くりかえし)」
- [12. コップ] 「ふたつのコップに水が入っていますね。こっちのコップの水とこっちのコップの水とくらべてどんなふうにかがうでしょうか。こっちのコップの水のほうが、こっちのコップの水よりも？(くりかえし)」
- [13. 冷暖房具] 「ふたりの女の人が扇風機とストーブにあたっています。この女の人はなぜ扇風機にあたっているのでしょうか。ではこの女の人はなぜ、ストーブにあたっているのでしょうか」
- [14. 鉛筆] 「鉛筆が2本ありますね。この鉛筆とこの本の鉛筆とくらべてどんなふうにかがうでしょうか。この鉛筆のほうがこの鉛筆よりも？(くりかえし)」
- [15. プール] 「男の子がプールの中で立っていますね。こっちのプールとくらべてどんなふうにかがうでしょうか。こっちのプールのほうが、こっちのプールのよりも？(くりかえし)」
- [16. 道] 上に準ず。

■呈示順序

1. 犬(大小) → 16. 道(広狭)

記録例

カード	語	反応	正誤	語	反応	正誤
1. 犬	大きい	スクナイ	×	1'. 小さい	オオクナイ	×
2. リンゴ	多い	タクシャン		2'. 少ない	スケナイ	
9. 池	広い	オオキイ	○	9'. 狭い	チイサイ	○

- * 2は正誤の判定保留の例
- * 9は反応が慣用による反応とその正誤例

■テストⅢに移行させるもの

基準反応(○)以外の問題はすべてテストⅢに移行させてテストを行います。

テストⅢ 誘導発語

テストⅡにおいて基準反対(○)以外のもののみを扱います。反対語のふたつともが基準反応以外の場合は一通り全部の片方がすんだ後にあらためて行います。

■刺激カード テストⅡに準ずる。

■教示 練習なし。

- [1. 犬]——(オオキイが無答であった場合)「犬が2匹いますね。この犬とこの犬とくらべてどんなふうにちがいますか、この犬のほうがこの犬よりチイサイです。ではこの犬のほうがこの犬よりも？」

[2.~16.] 上に同じ。

■呈示順序 } テストⅡに準ずる。  
 ■記録例 }

テストⅣ 認知

テストⅢにおいて基準反応(○)以外のもののみを扱います。反対語のふたつともが基準反応(○)以外であった場合は一通り全部の片方がすんだ後にあらためて行います。

■刺激カード テストⅡに準ずる。

■教示 練習など。

- [1. 犬]——(オオキイが答であった場合), オオキイの犬のほうを指でさしなさい。

[2.~16.] 上に同じ。

■呈示順序 テストⅡに準ずる。

■記録例

カード	語	反応	正誤	語	反応	正誤
1. 犬	大きい		○	1'. 小さい	小をさす	×
2. 犬(5枚)	最も大きい	C ₃	×	2'. 最も小さい	C ₄	×

* 4の反応はカード番号で示した例

テストⅤ パラメーターの分離

■刺激材料(426ページ参照)

見本記号

1. ホース (長さ×太さ) ⊕ 見本A 見本B ⊕ 見本A 見本B

2. 手帳 (厚さ×大きさ) ㊸見本A 見本B ㊹見本A 見本B  
 3. リボン (長さ×広さ) ㊺見本A 見本B ㊻見本A 見本B  
 4. ブロック・積み木 (高さ×大きさ) ㊼見本A 見本B ㊽見本A 見本B

■教示

〔練習〕 ブロックを使って、適当に（色×形）→4種とする。

「いろいろな色や形のブロックがありますね。これと同じイロのブロックをふたつちょうだい（まちがったらくりかえす）」

〔1. ホース〕 「いろいろなホースがありますね。これと同じナガサのホースをとってちょうだい」

（もとへホースをもどす） 「はい、今度はこれと同じフトサのホースをとってちょうだい」

* 幼児が1本だけとって満足していたら、「もうそれだけでよいか」とたずね、「ない」と答えるまで探させます。

〔2.～4.〕 上に準ず。

■材料の配置

全部の材料をバラバラに配置する。ただし、材料が重なり合ったり、また同じパラメーターの材料が一箇所に集中することがないようにしてください。

■呈示順序

1.→2.→3.→4. (計16試行)

記録例

材 料	語	反 応	正誤	語	反 応	正誤
1. ホース	長	㊸ 5	×	太	3	○
			○		N	N

* ㊸は正反応を示す

テストⅥ 系列化

■ 刺激カード 使用カードは各5枚

1. 丸 (大小)
2. コップ (多少)
3. 池 (広狭)
4. リンゴ (多少)
5. 犬 (大小)
6. 道 (広狭)

■教示

〔練習〕 など

[1] (丸のカードをランダムに並べて)「丸が大きいや小さいや、いろいろありますね。丸を大きい順に並べてください」

(注意) 1. 「～の順」という指示のことばが納得できないように思われたら、「大きいほうから小さいほうへ順番に(順々に)並べるのですよ」といいかえてもよい。

2. 配列の順は左から並べようが右から並べようがさしつかえない。

[2.～6.] 上に準ずる。

■呈示順序 1. 丸(大→小) → 6. 道(広→狭)

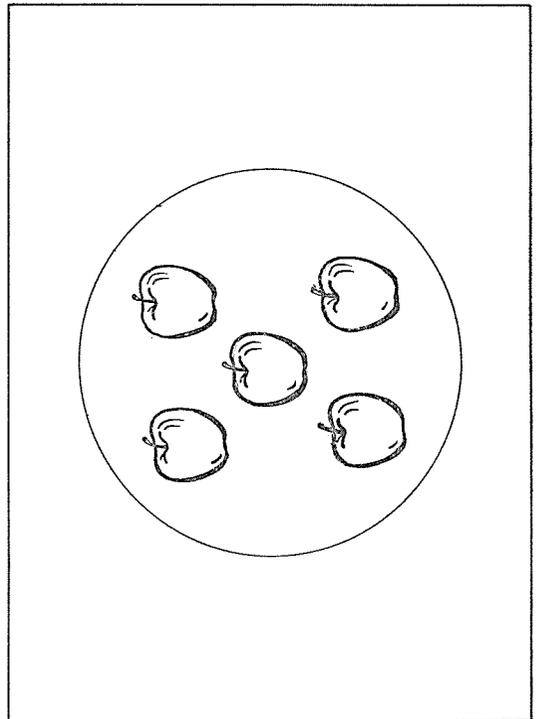
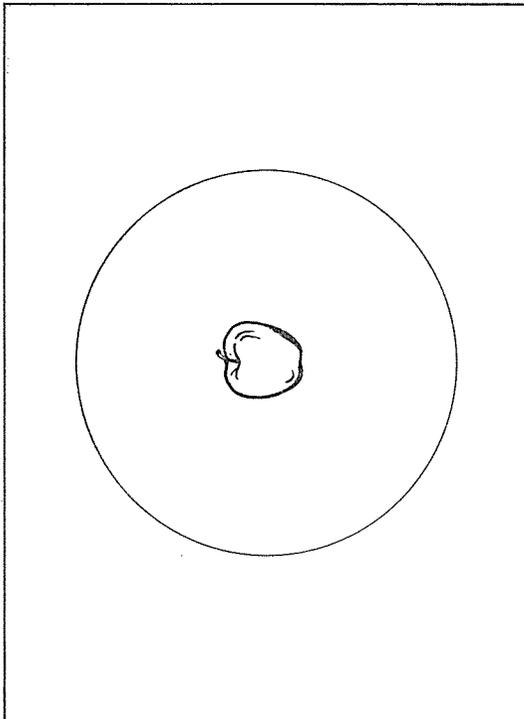
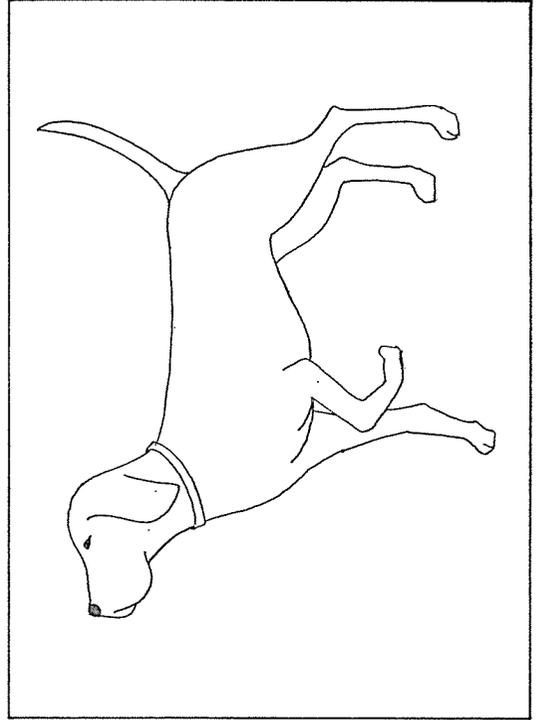
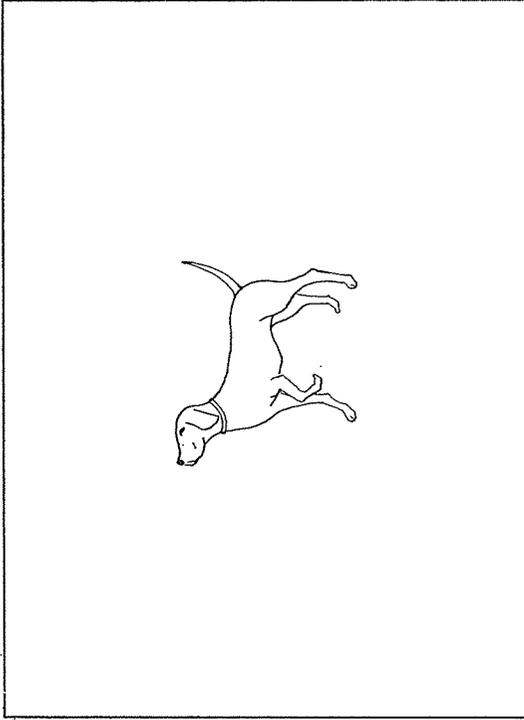
■記録例

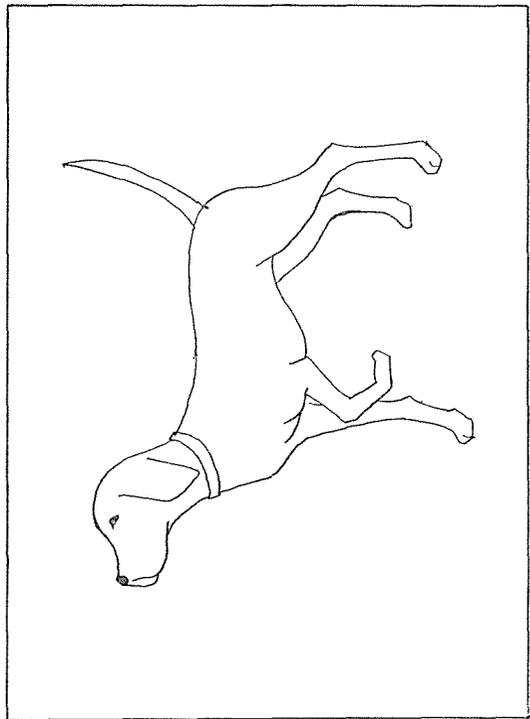
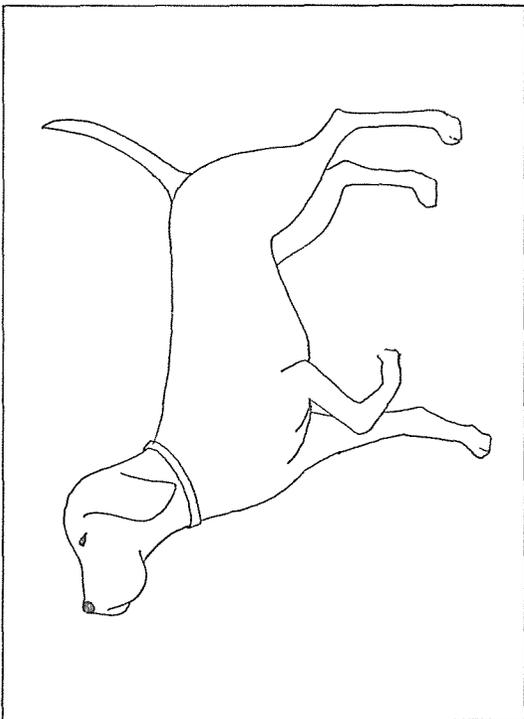
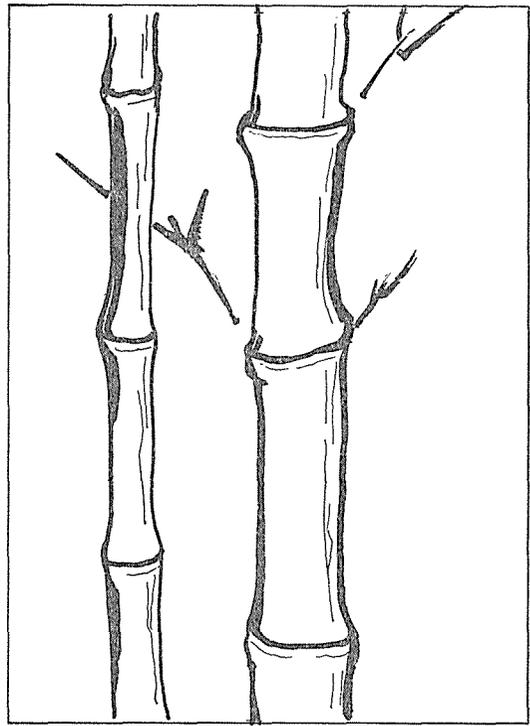
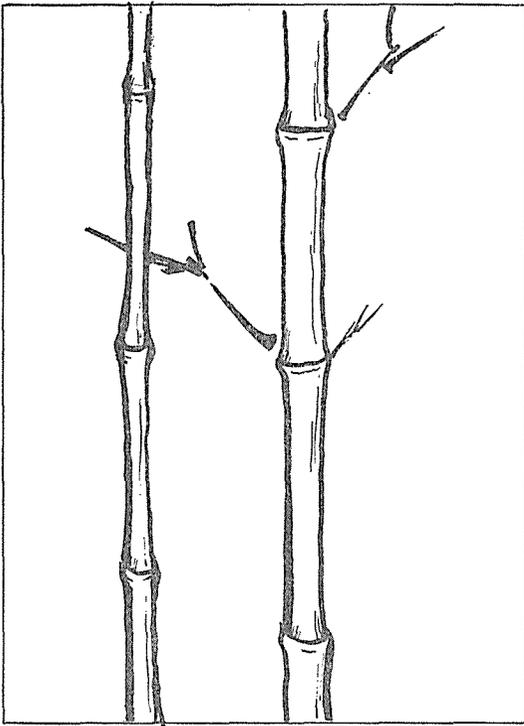
カード	語	> > >	正誤
1. 丸	大小	○ ○ ○ ○ ○	○
2. コップ	多少	① ③ ② ④ ⑤	×

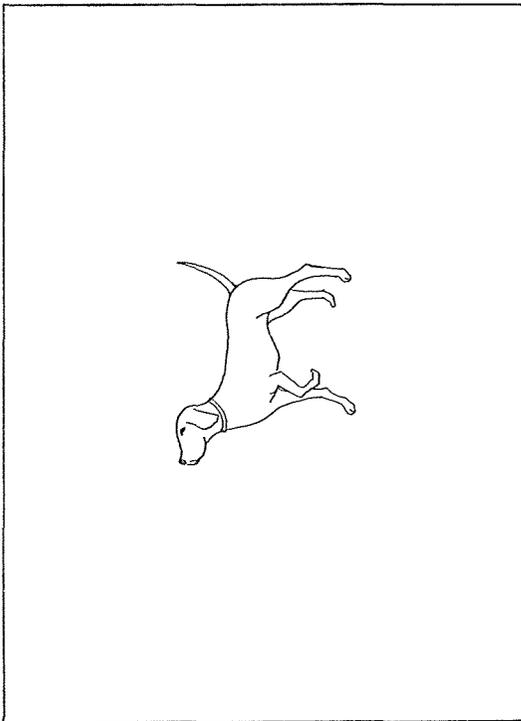
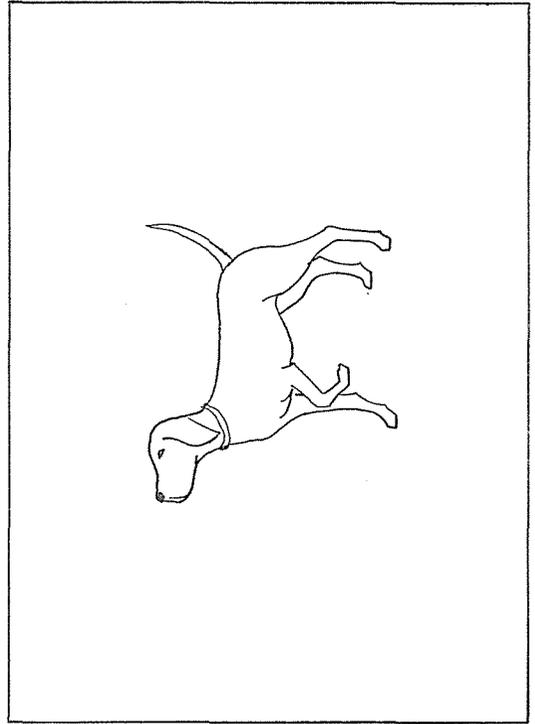
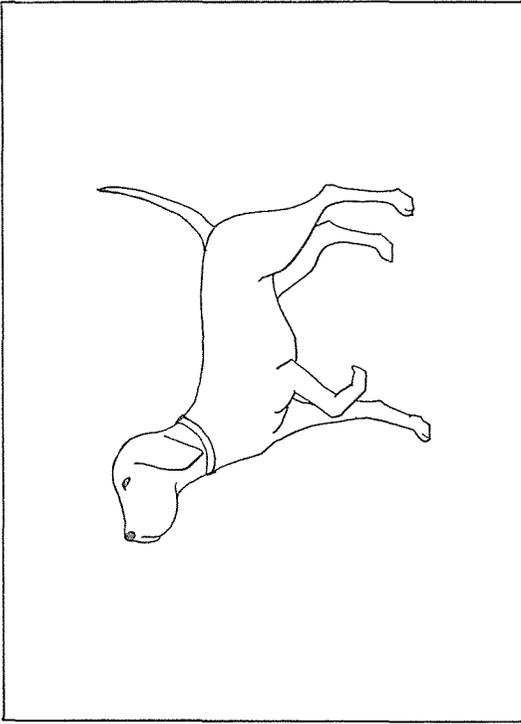
* 1は正反応例 2は誤反応例

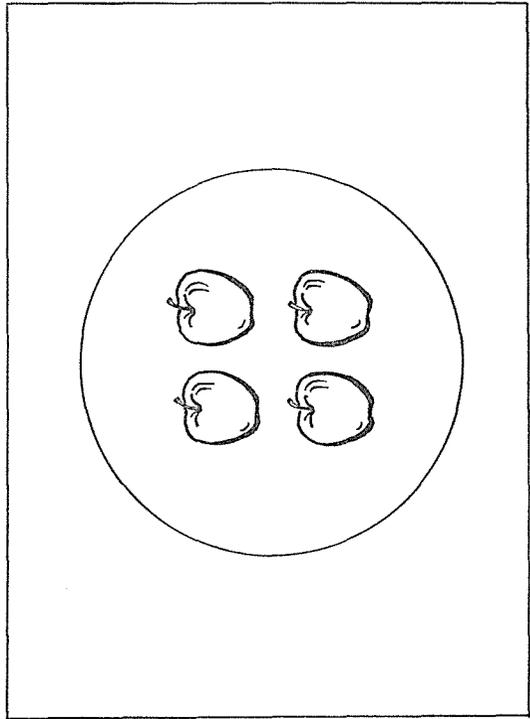
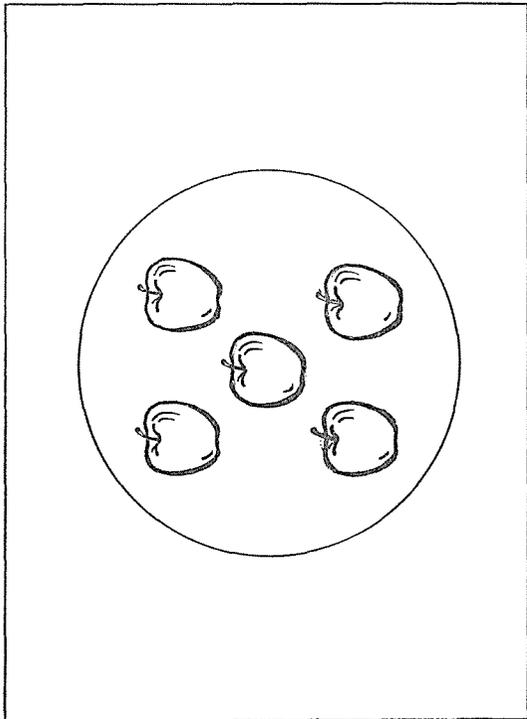
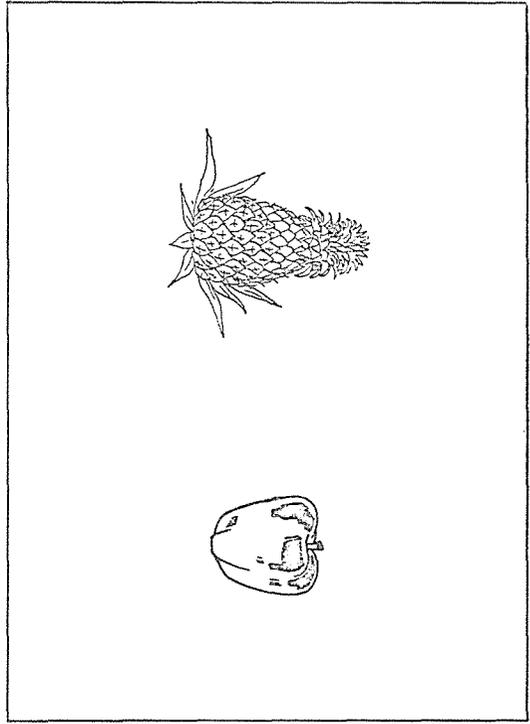
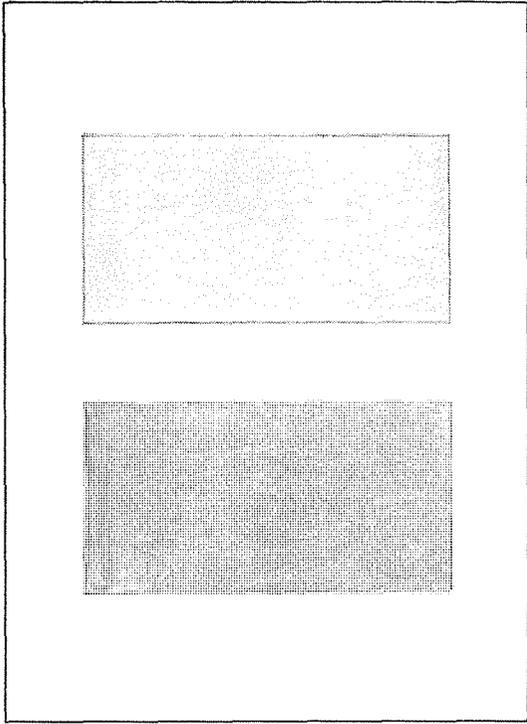
## [付録資料2 性状語テスト《絵図・用具》]

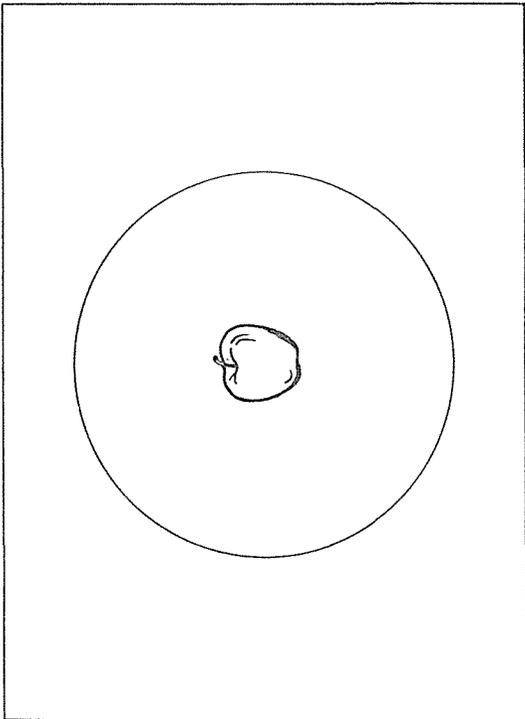
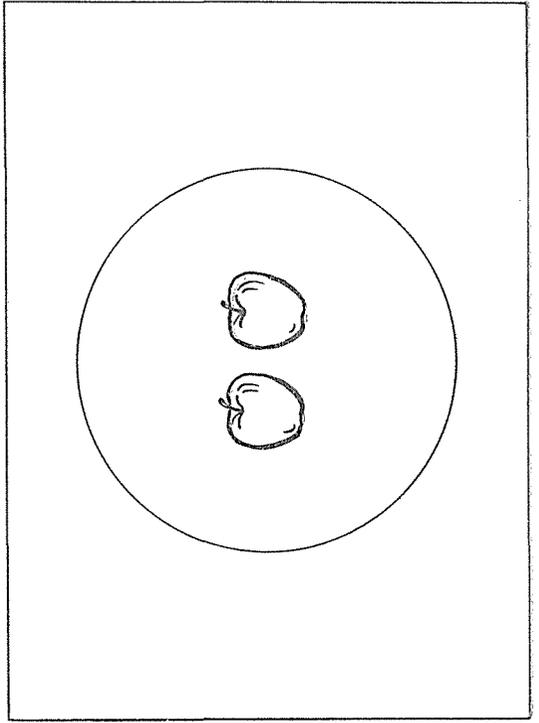
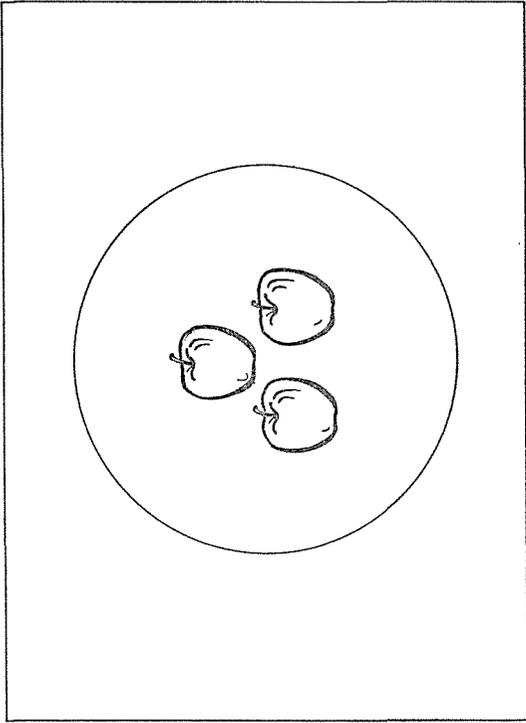
次ページより掲載した絵図・用具は、テストⅡ～Ⅳ、ⅤおよびⅥに使用したものである。なお、テストⅥの問題4りんごおよび問題5犬の刺激絵図はそれぞれテストⅡ～Ⅳに使用した問題7および問題4の絵図と同一のものである。

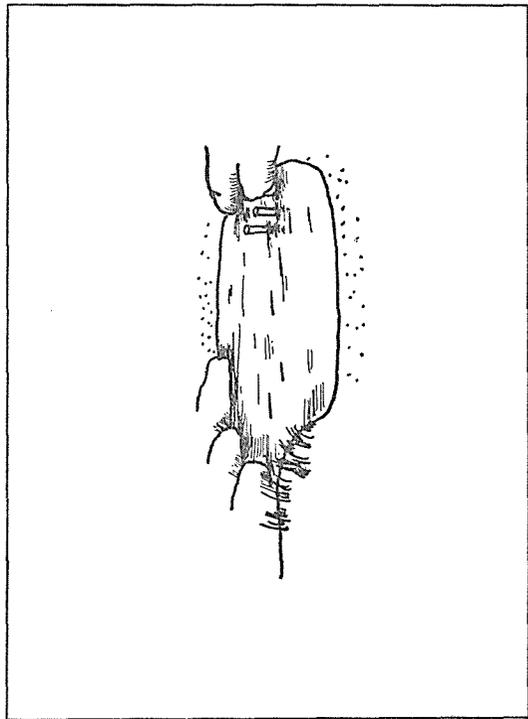
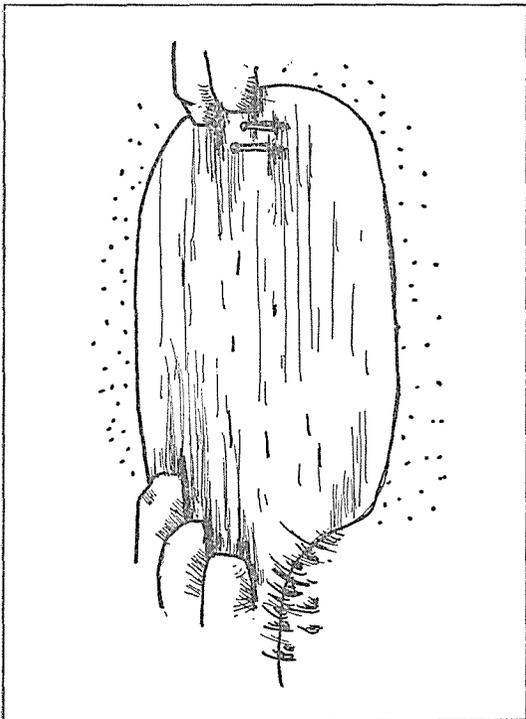
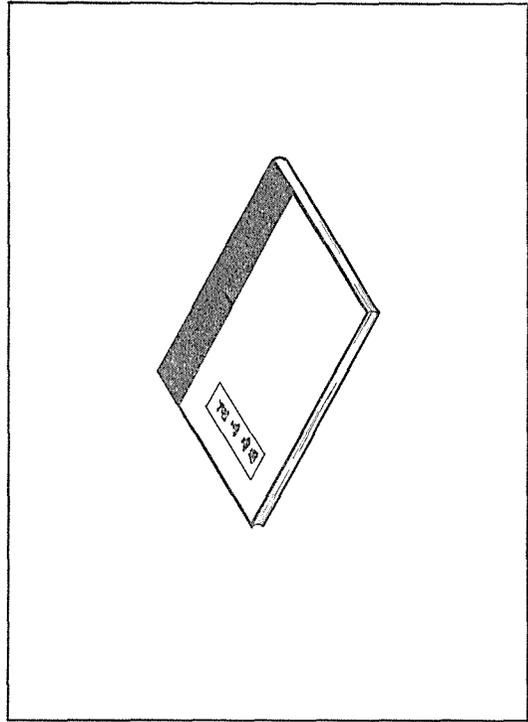
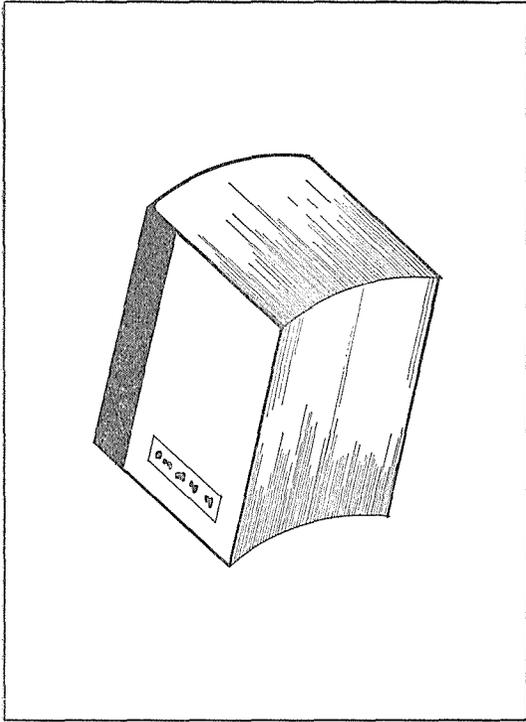


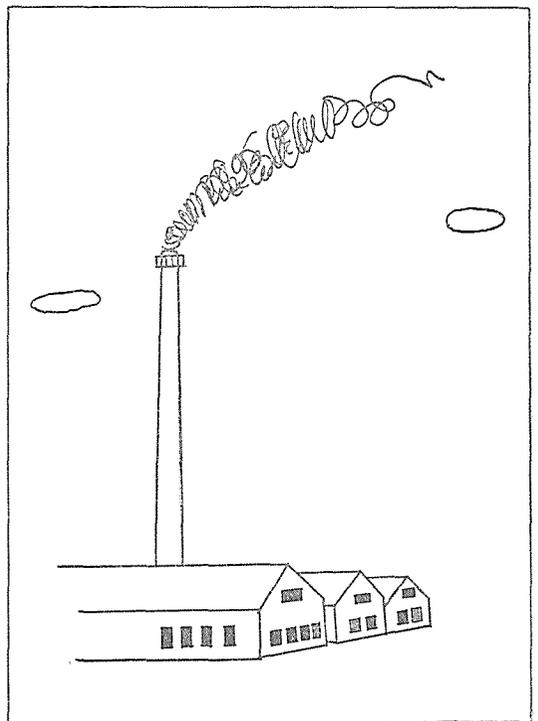
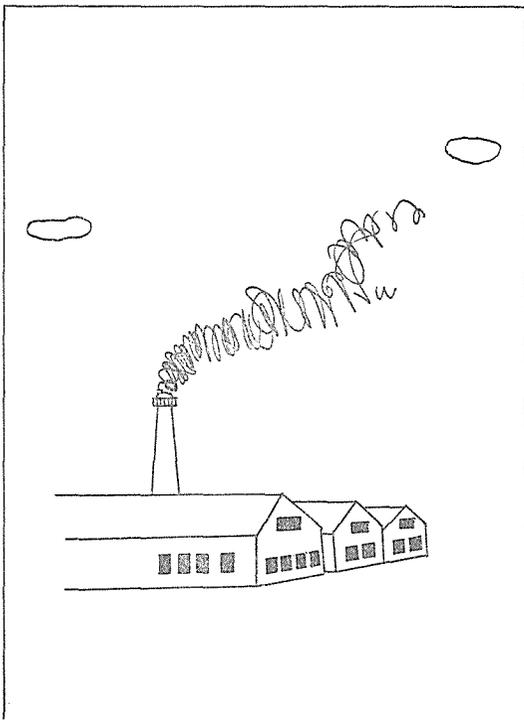
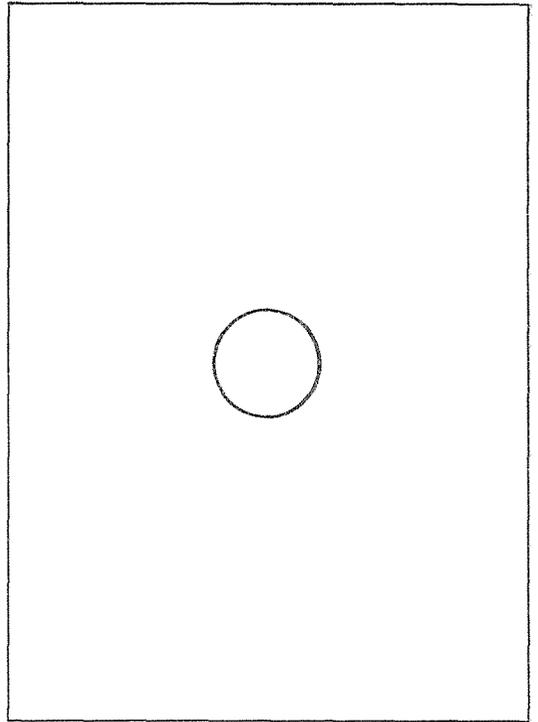
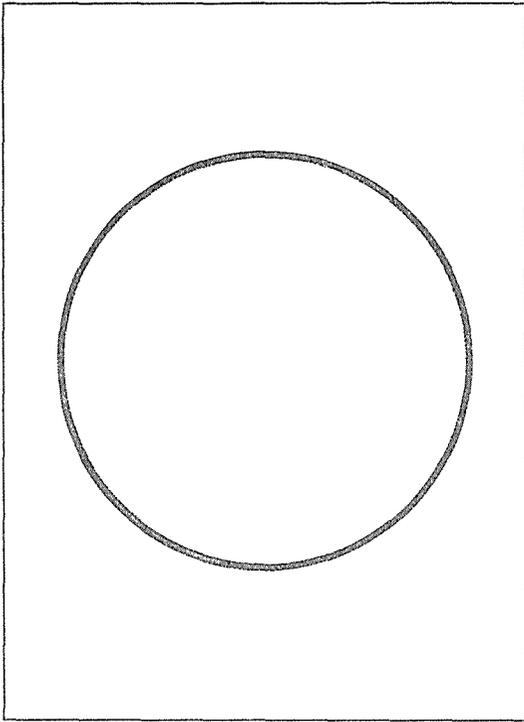


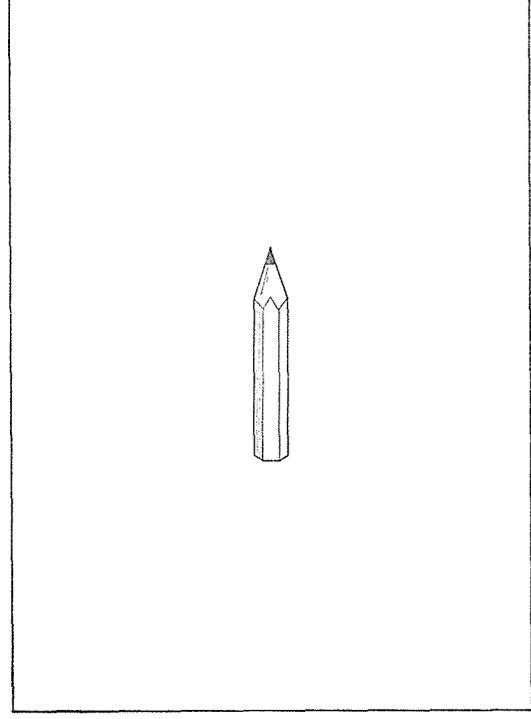
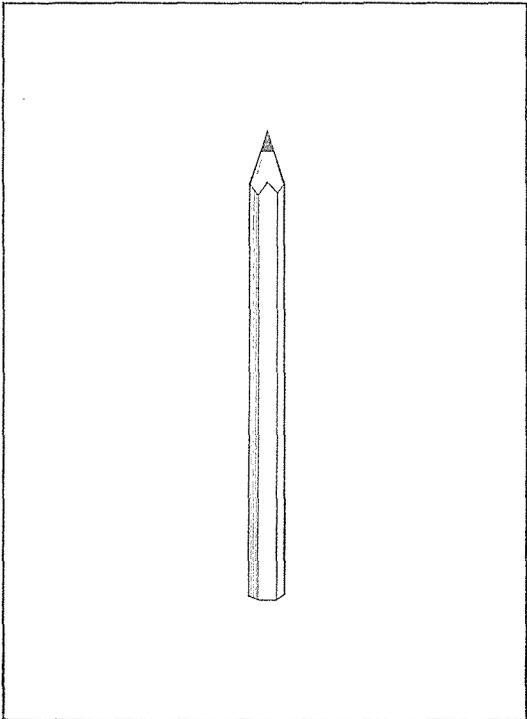
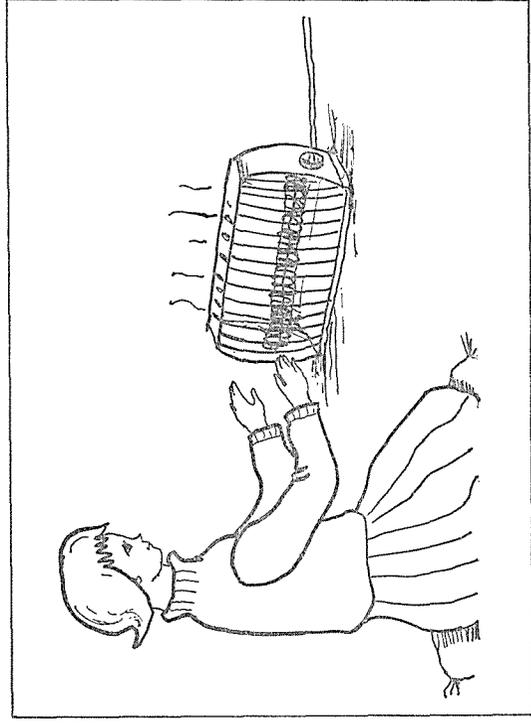
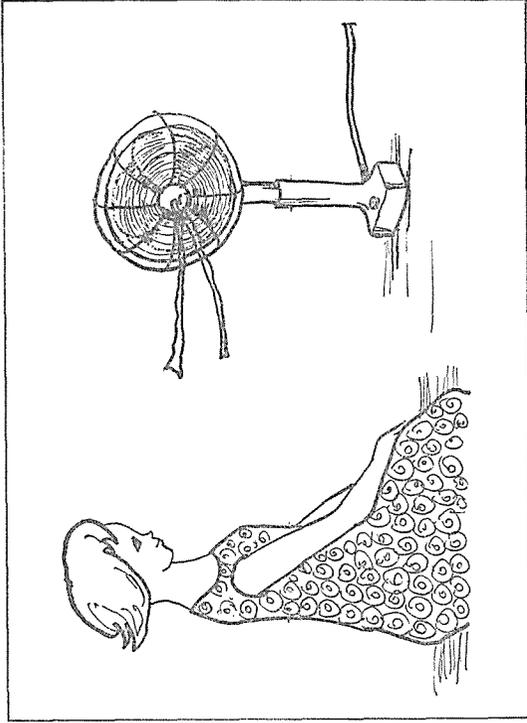


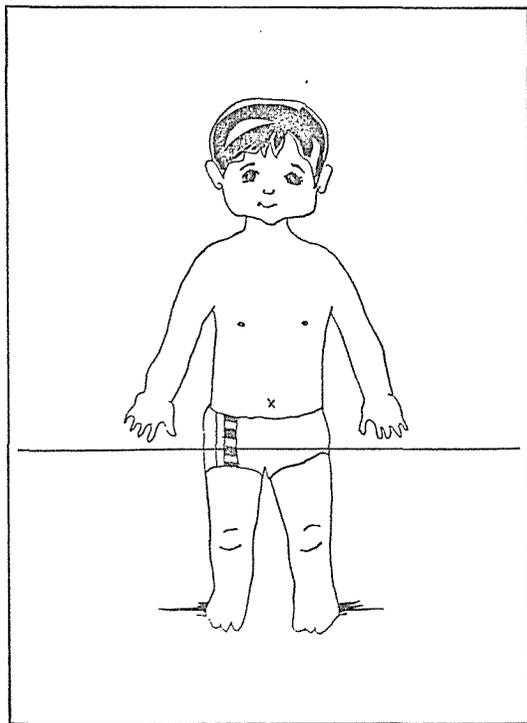
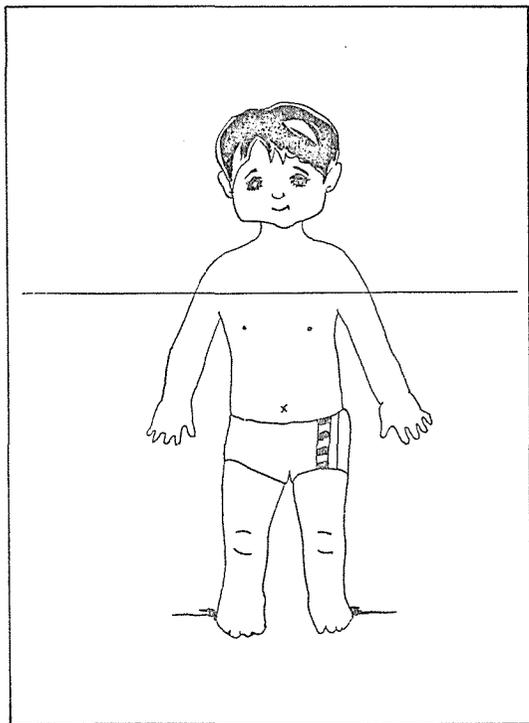


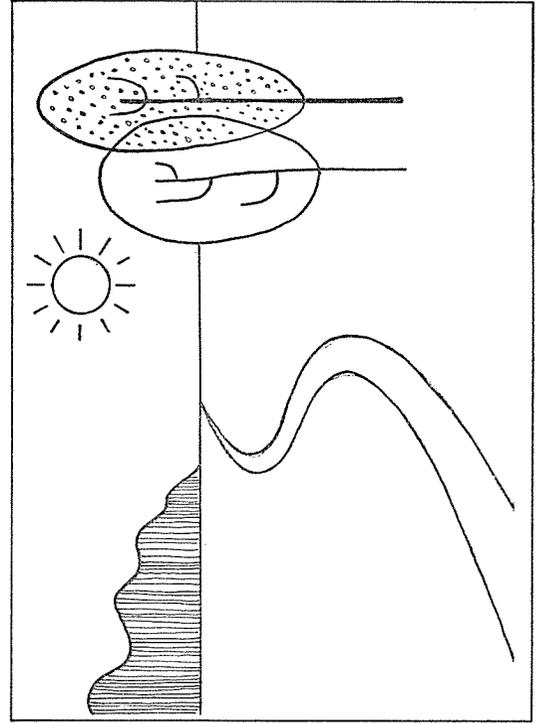
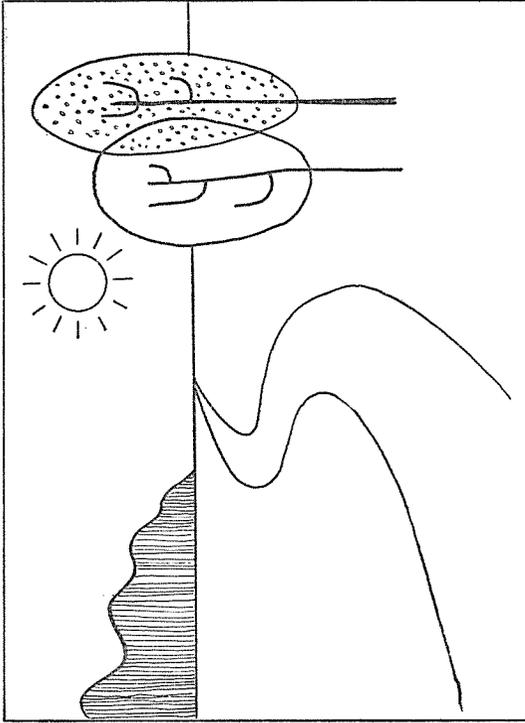




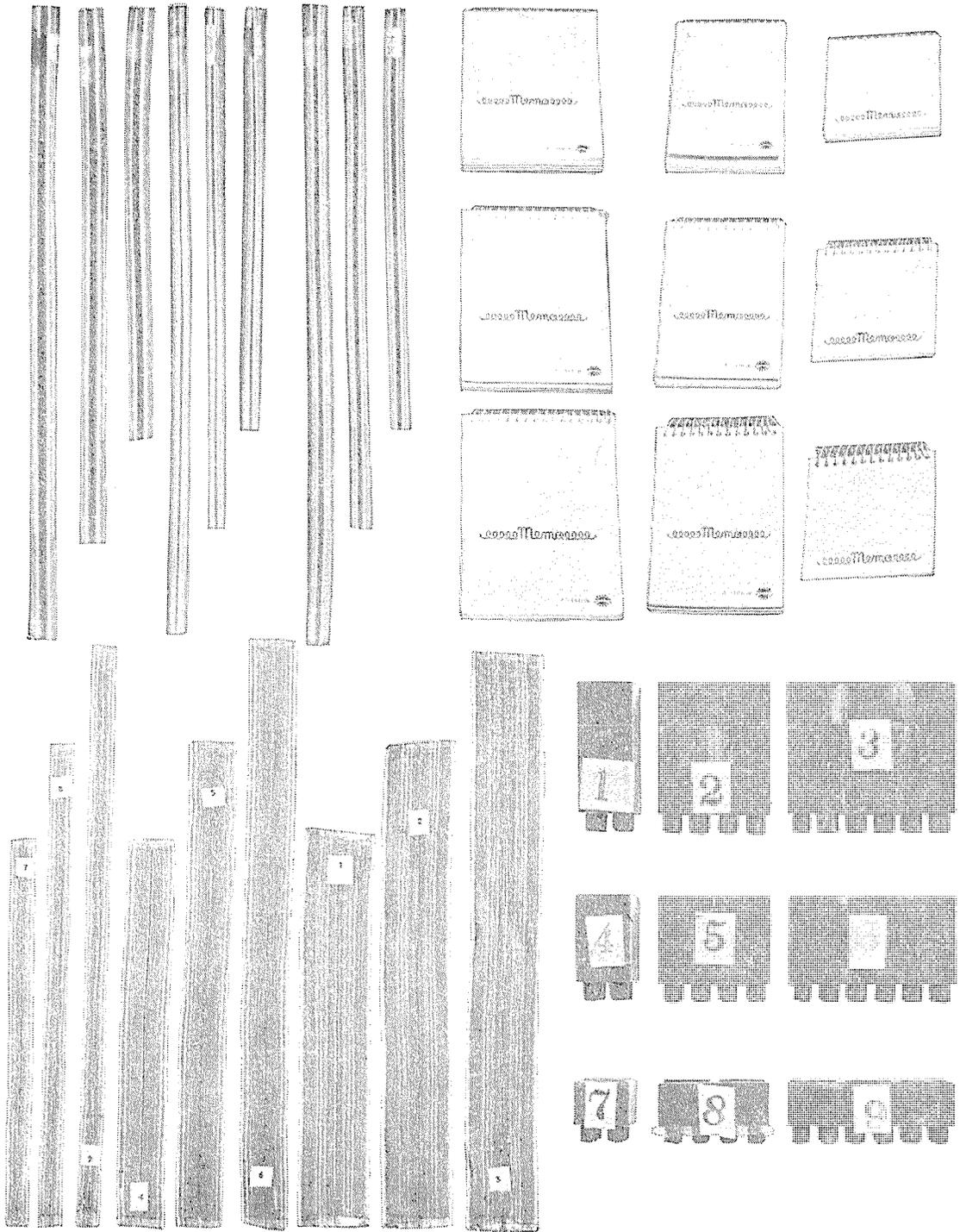


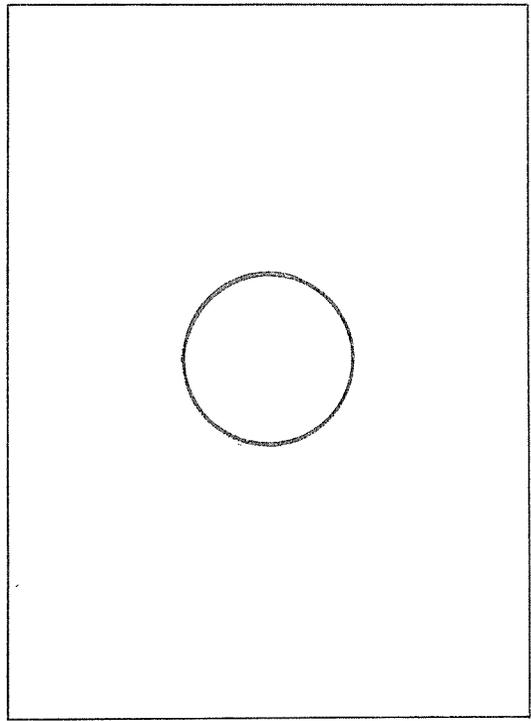
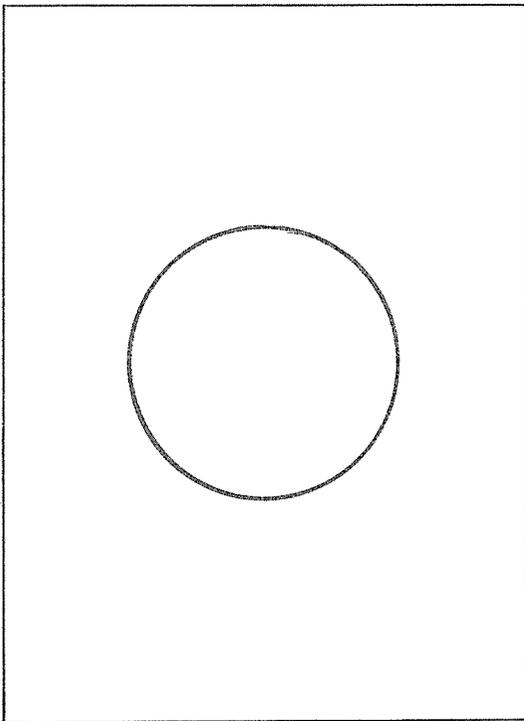
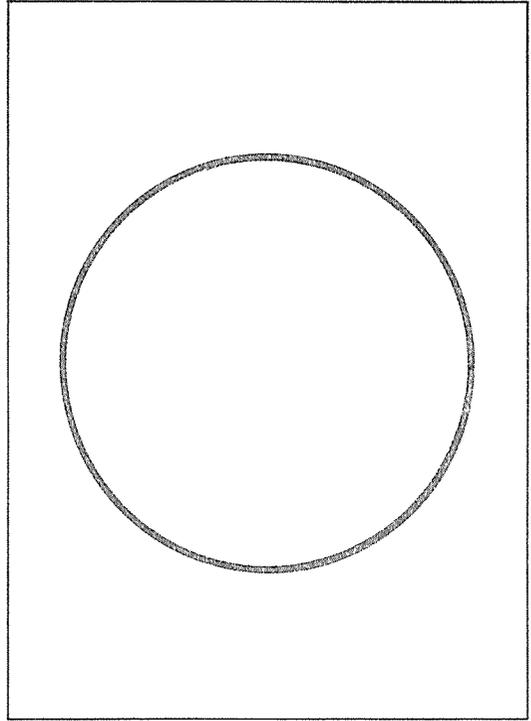
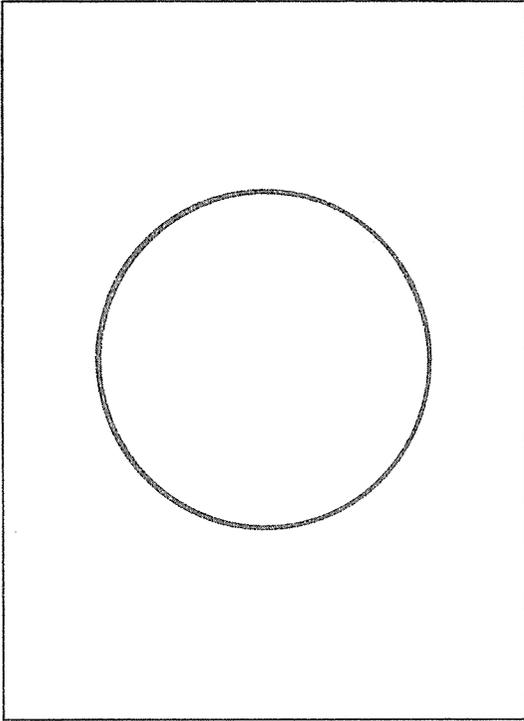


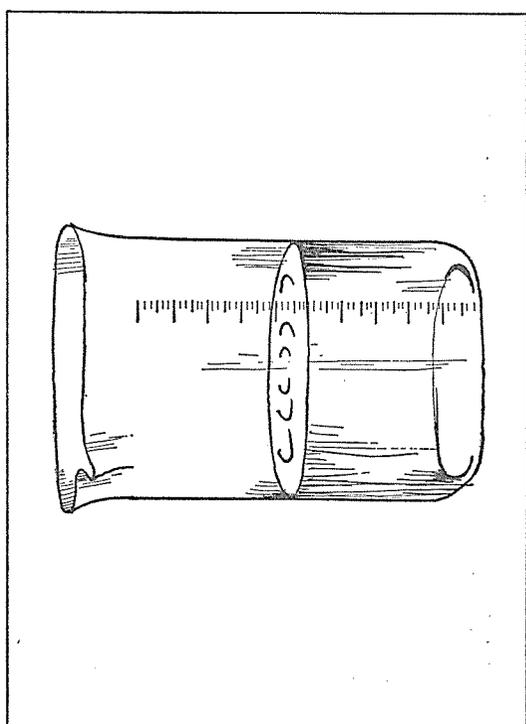
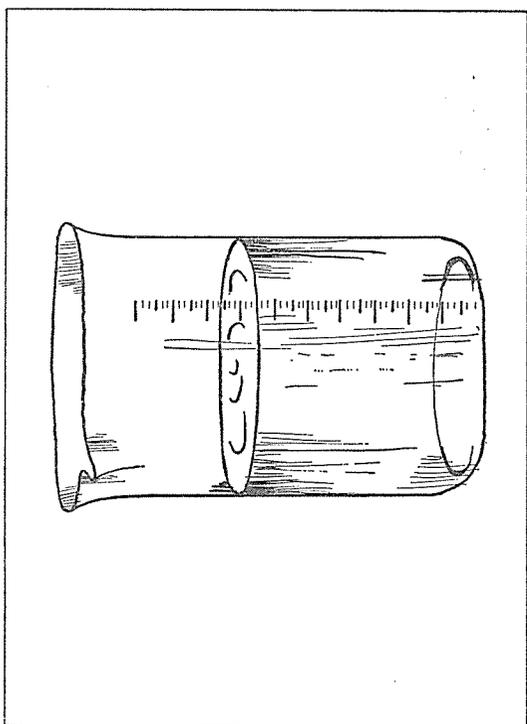
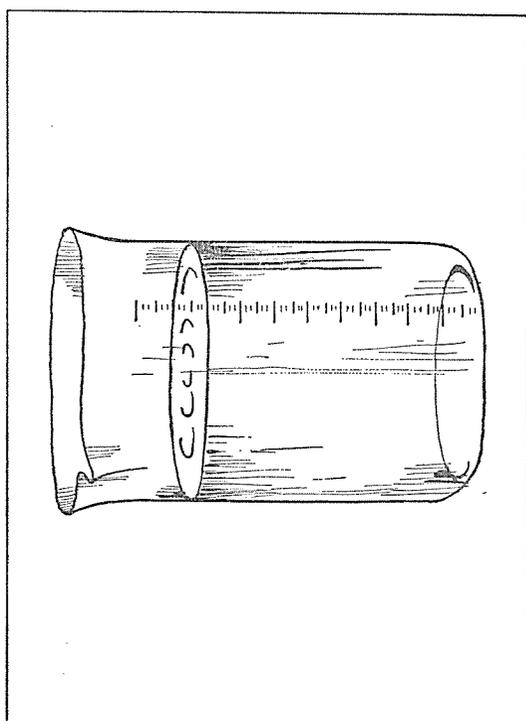
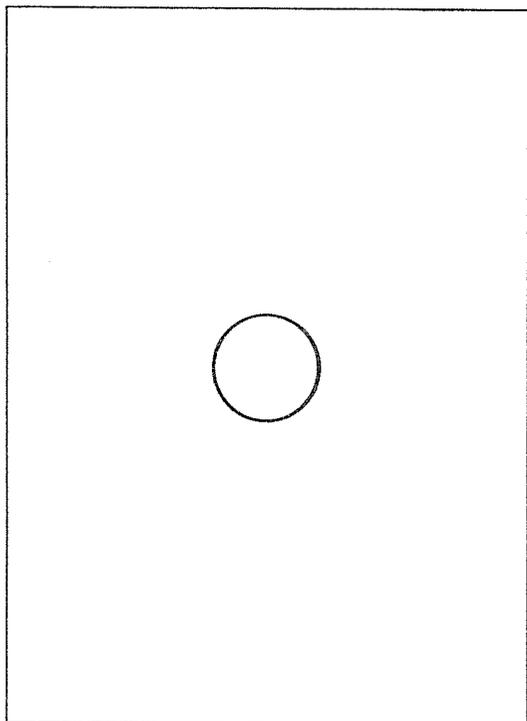


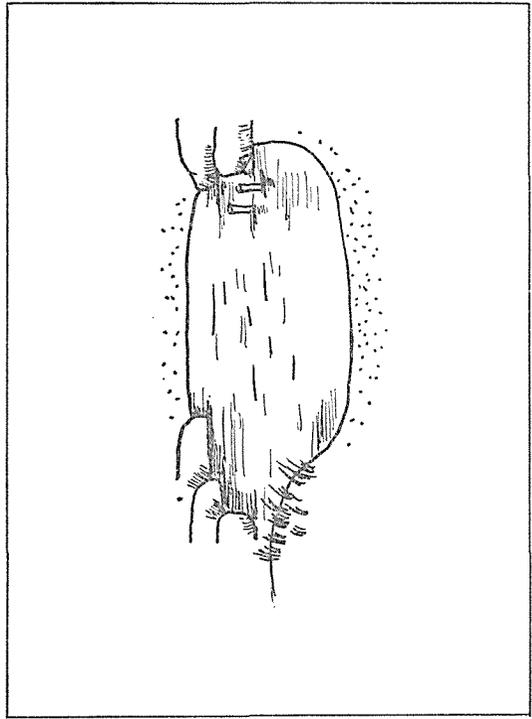
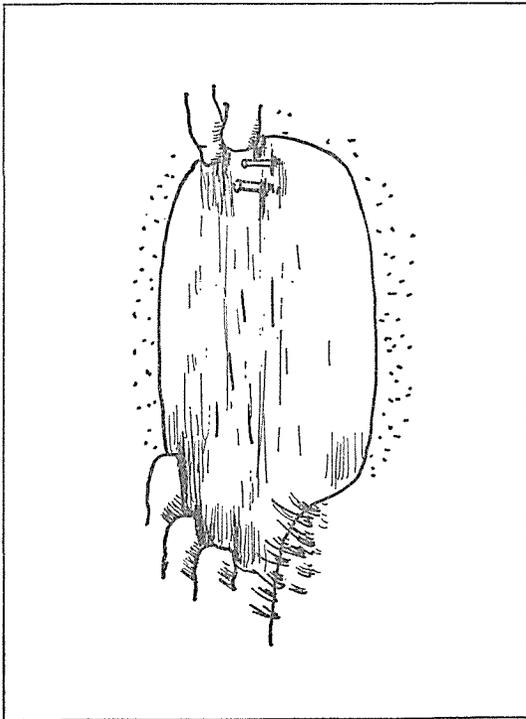
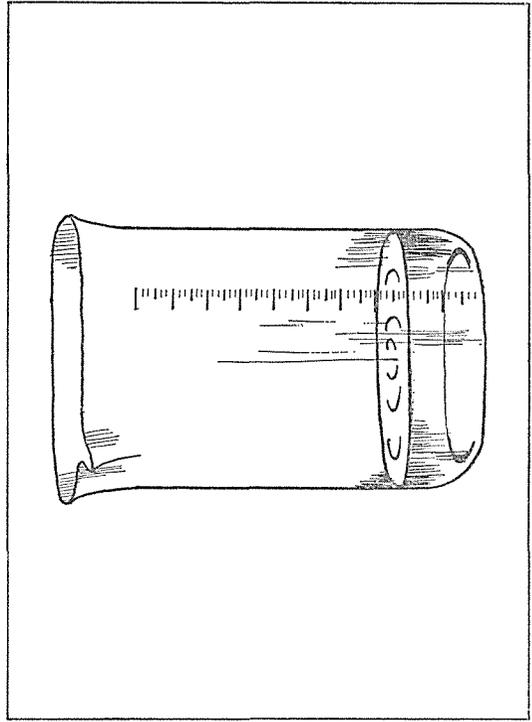
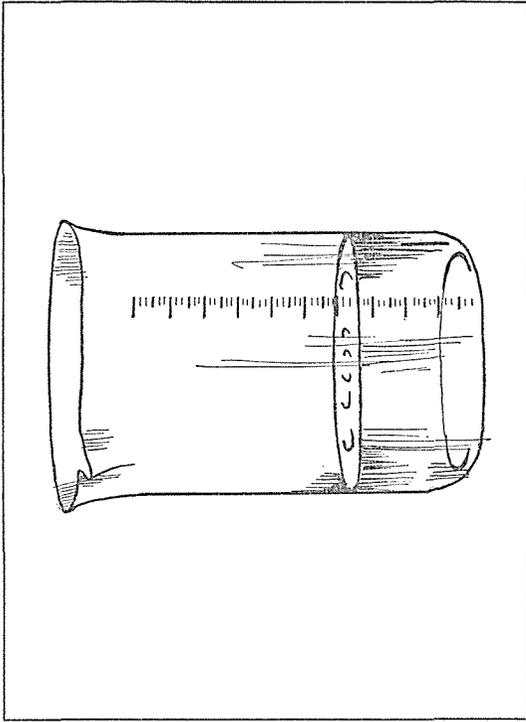


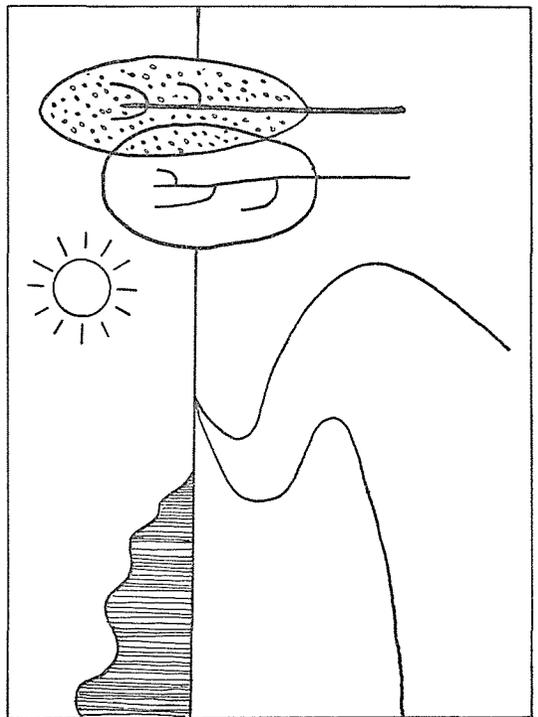
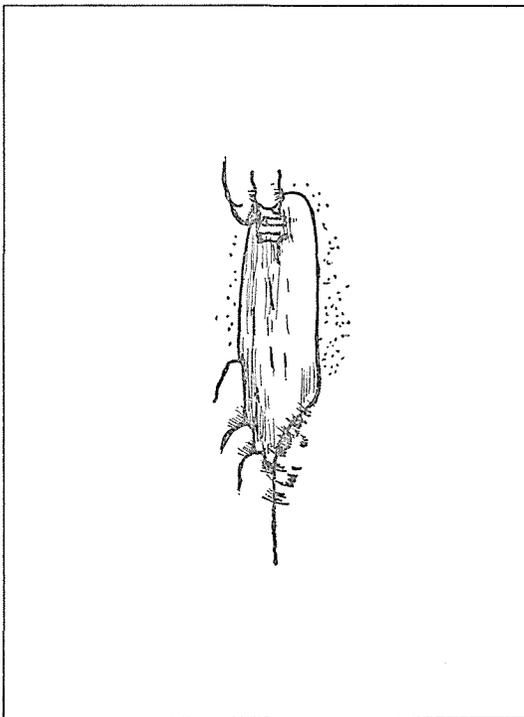
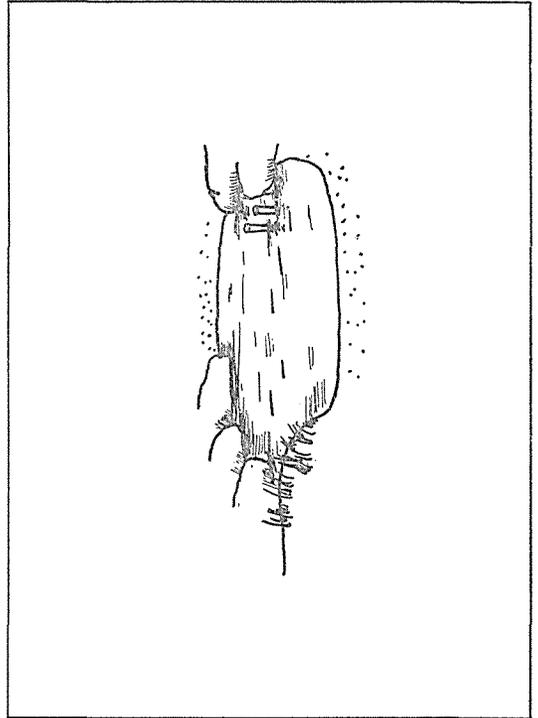
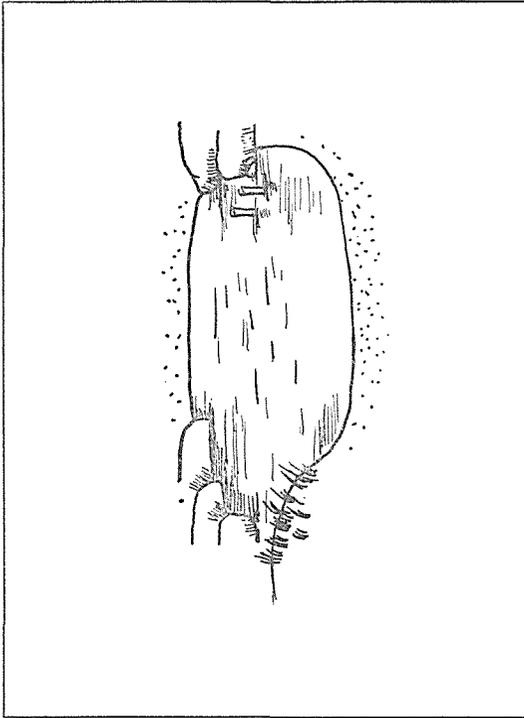
テストV パラメーターの分離 (刺激材料)

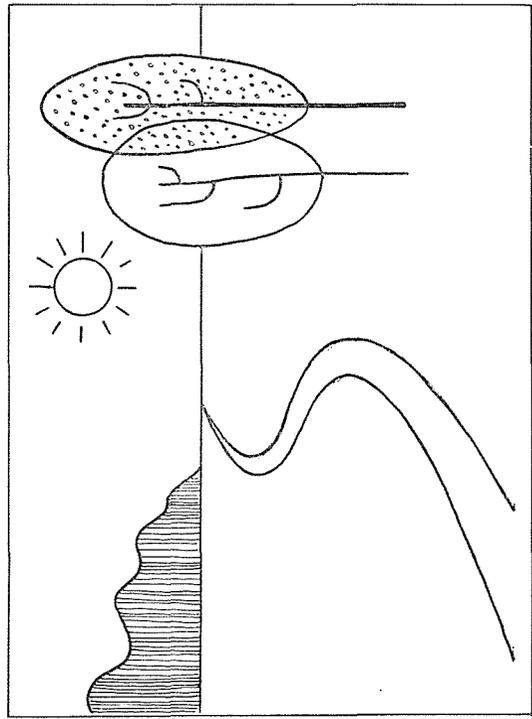
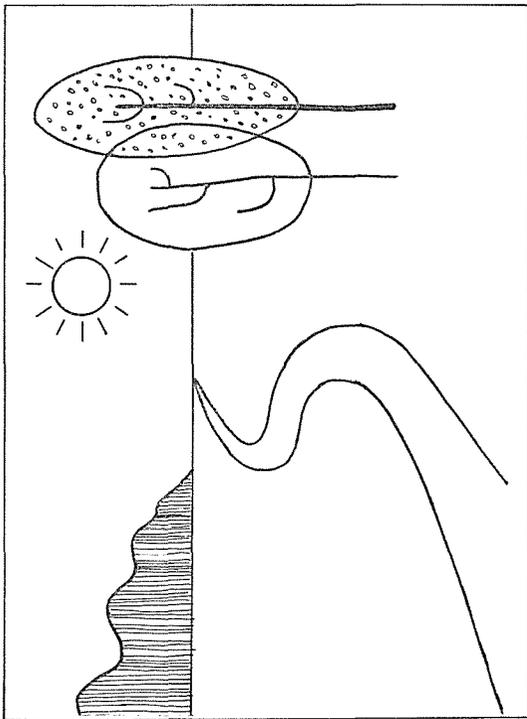
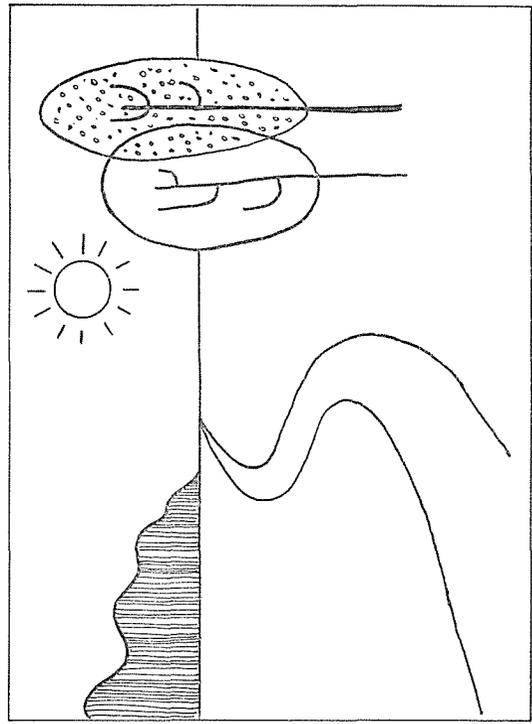
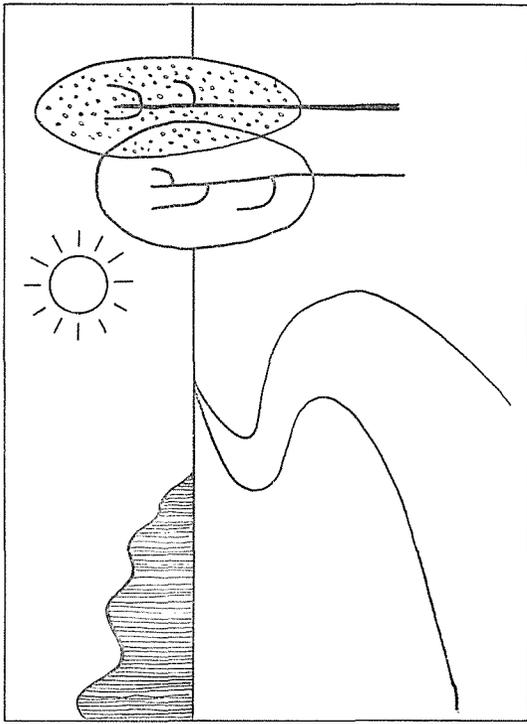






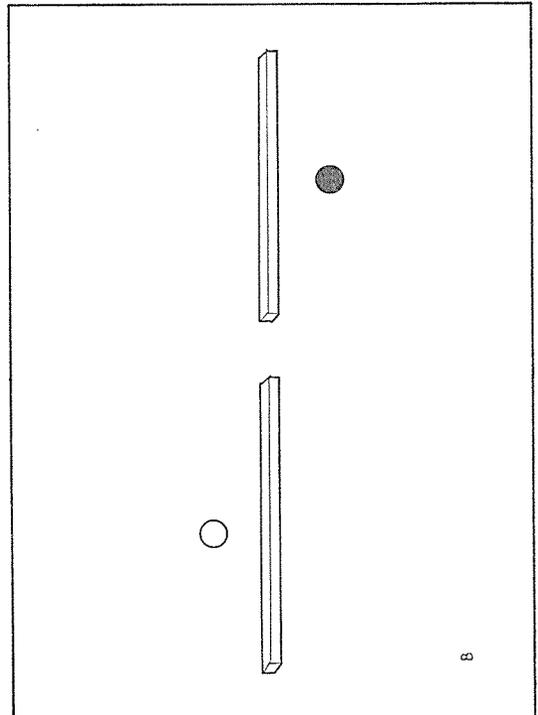
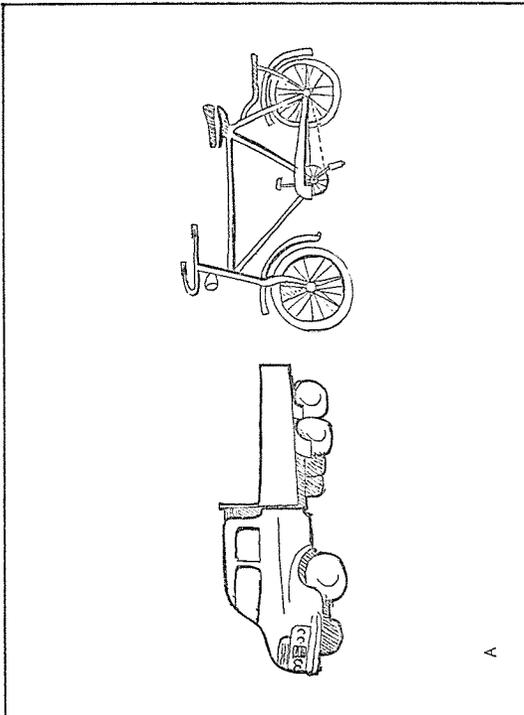


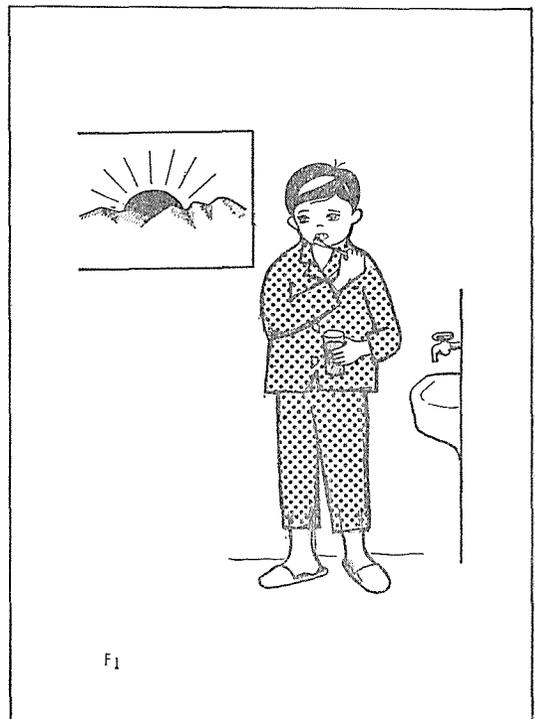
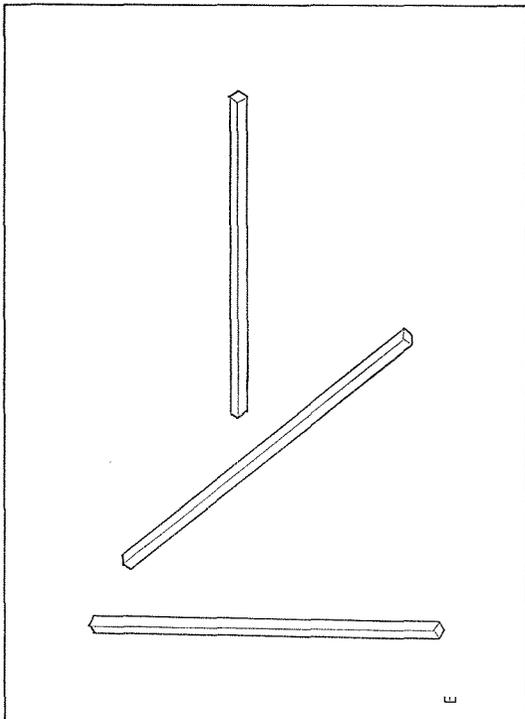
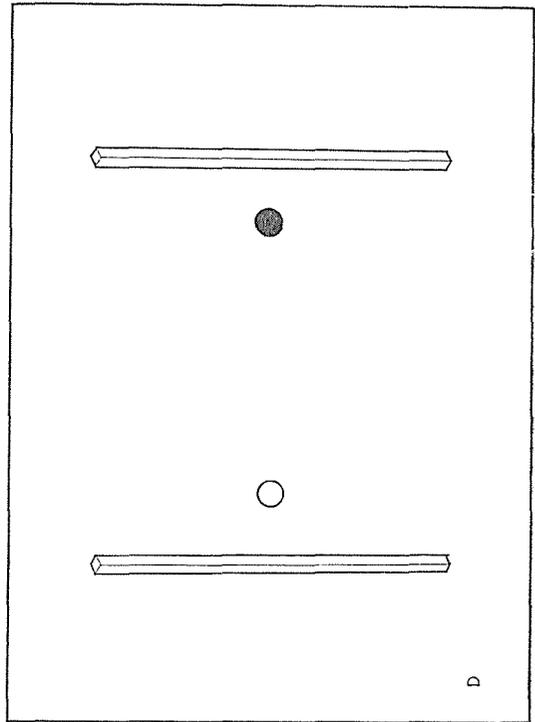
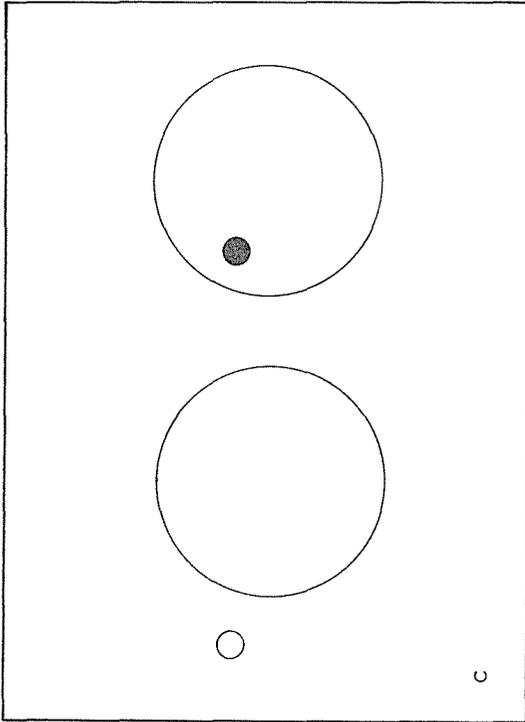


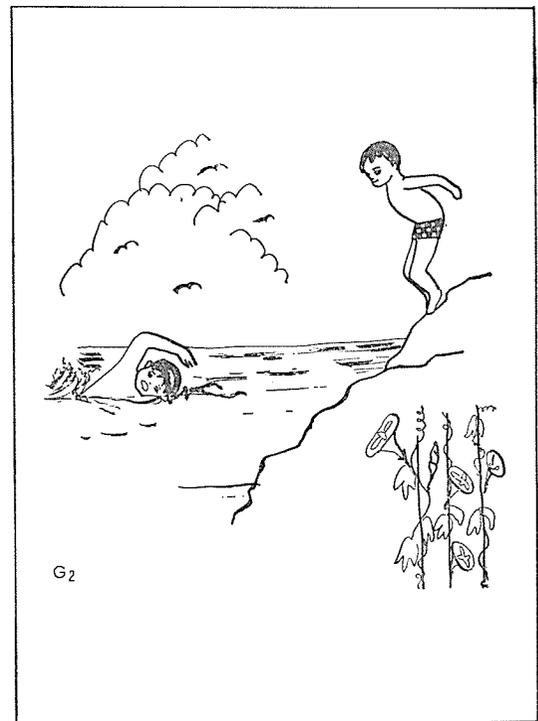
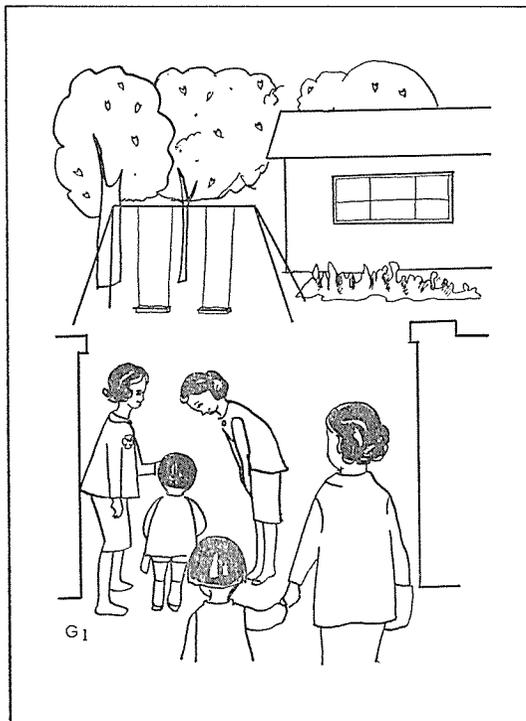
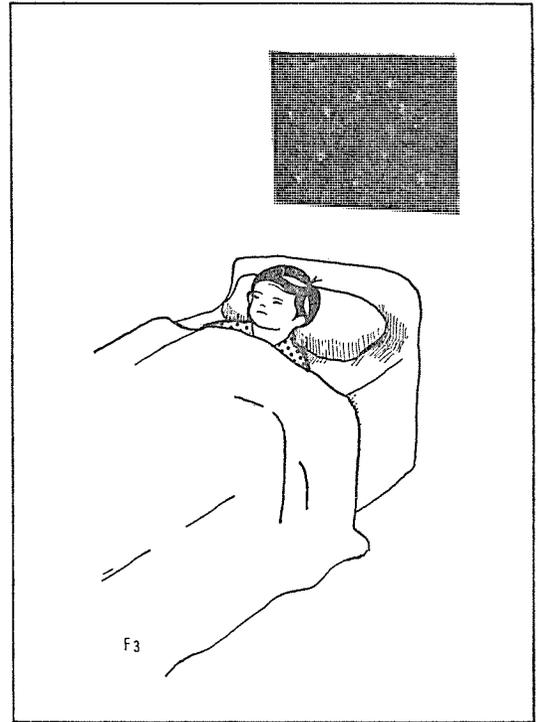
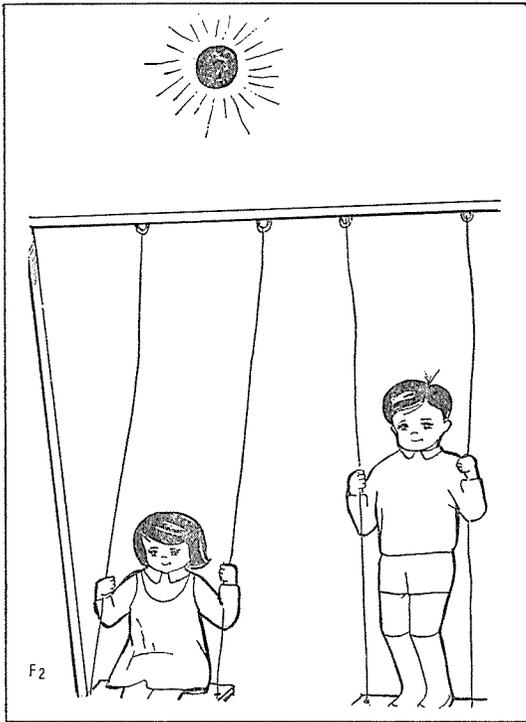


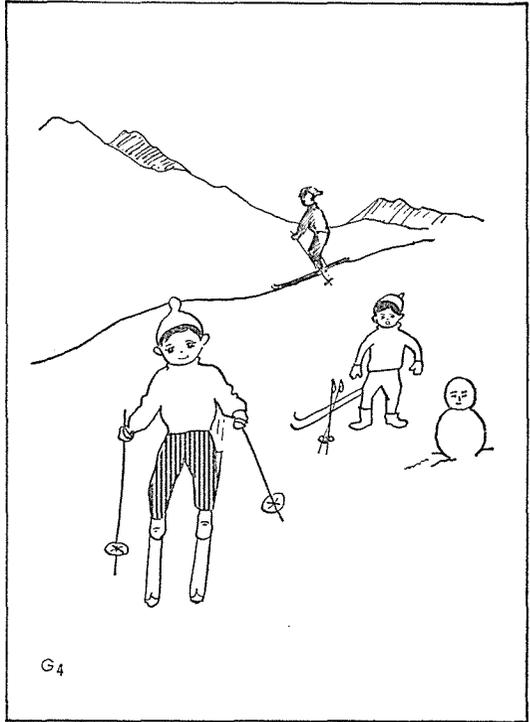
〔付録資料3 時間・空間語テスト《絵図・用具》〕

ここに掲載した絵図・用具は、テストⅡ～Ⅳ、ⅤおよびⅥに使用したものである。なお別に、テストⅠでは、一連の単語系の位置を示すために3～8枚の色板を使用した。



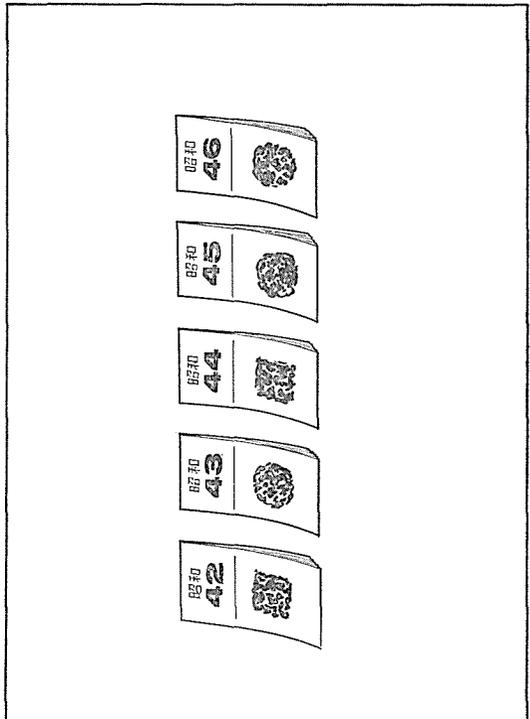




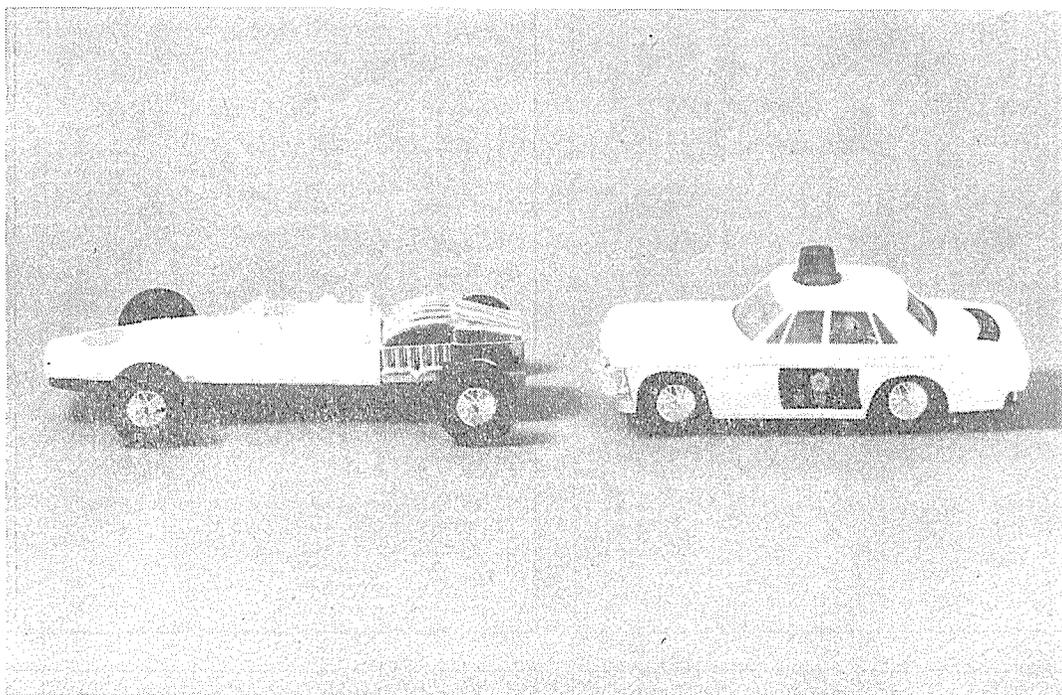


SAN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

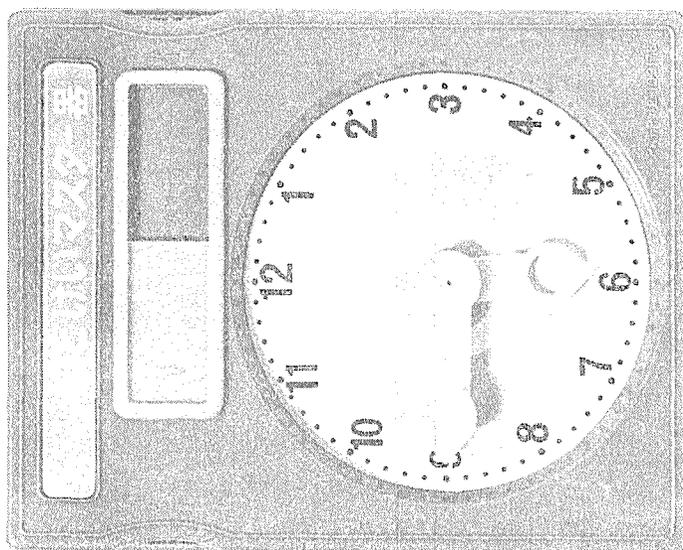
H・I



テスト V 位置変換一前・後ろ

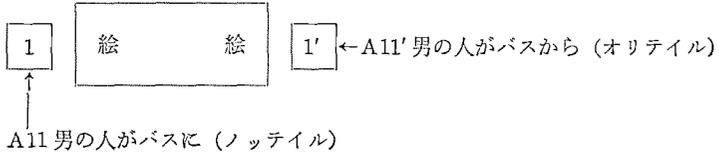


テスト VIa 時間判断一前・過ぎ

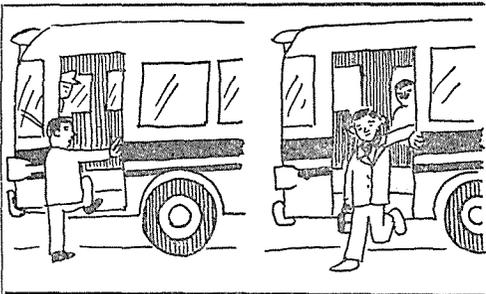


〔付録資料 4 動詞テスト《絵図》〕

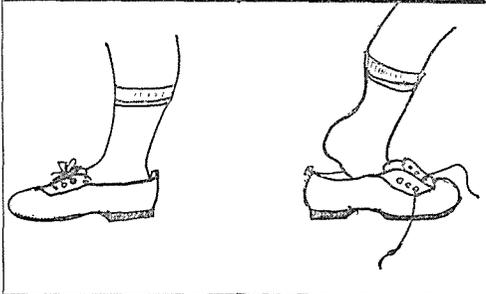
ここに掲載した絵図は、対絵テストに使用したものである。記録票の問題番号と絵図とは次のように対応させてある。



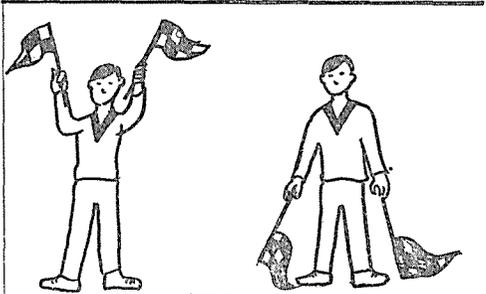
1



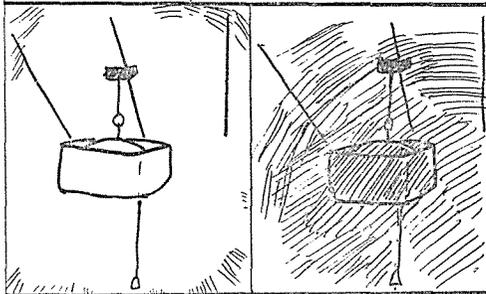
2



3



4



5

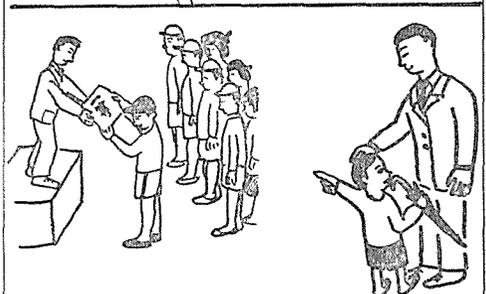


1



1

2



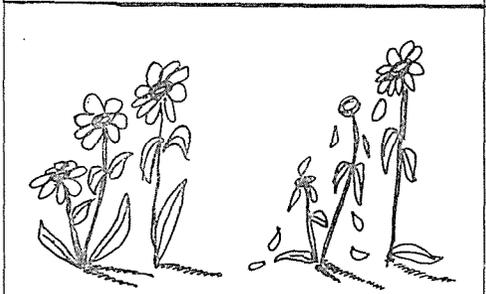
2

3



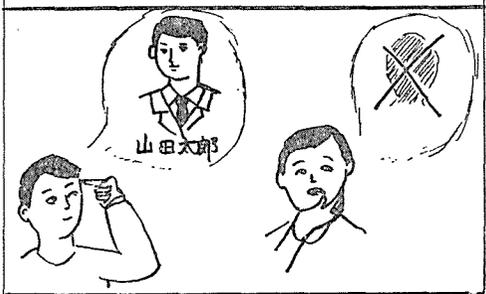
3

4



4

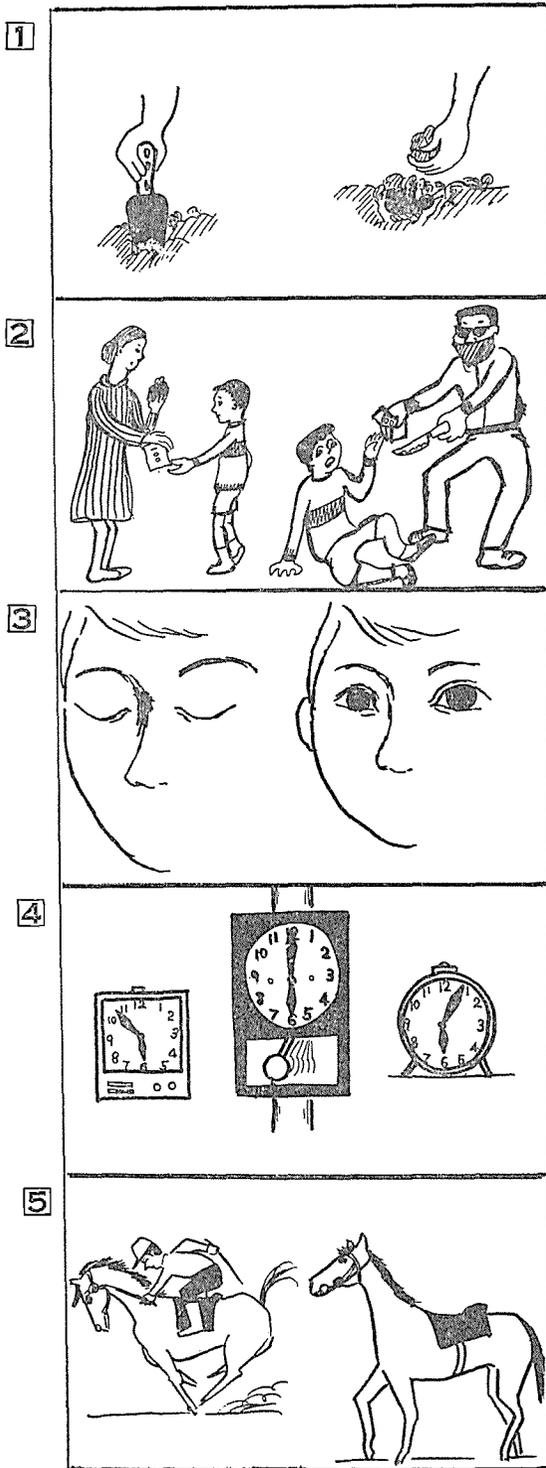
5



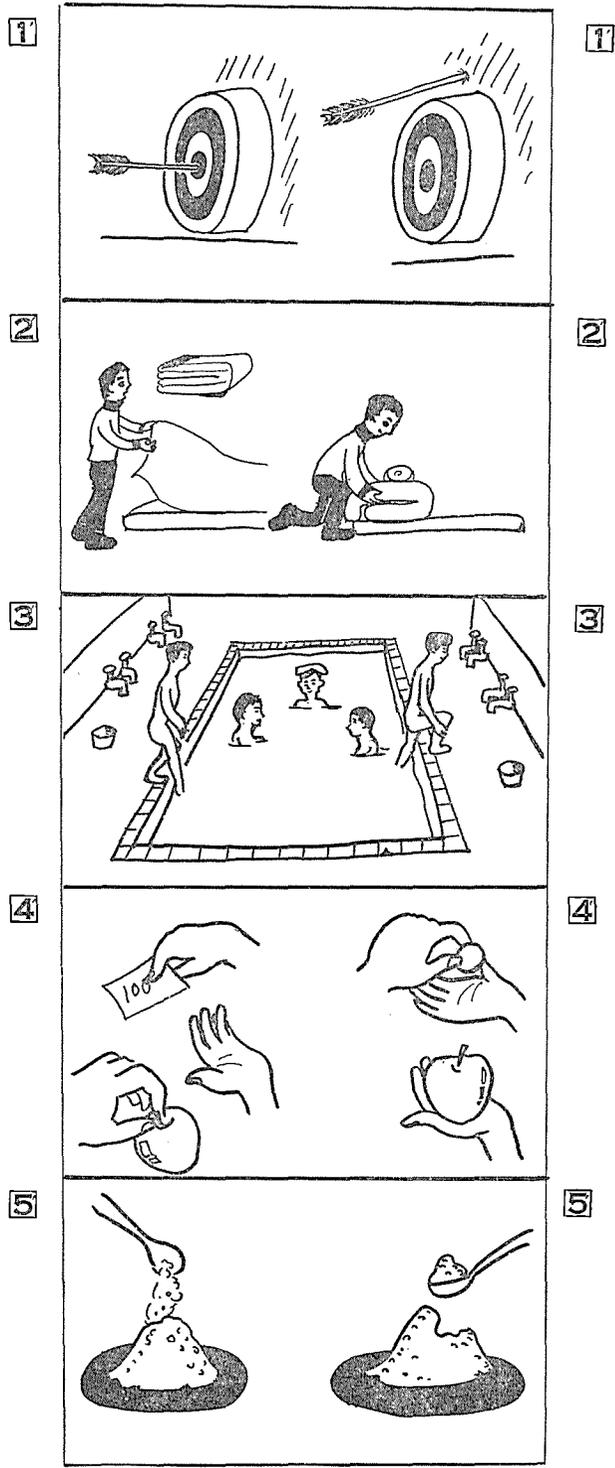
5

A 1  
付録資料

A 2

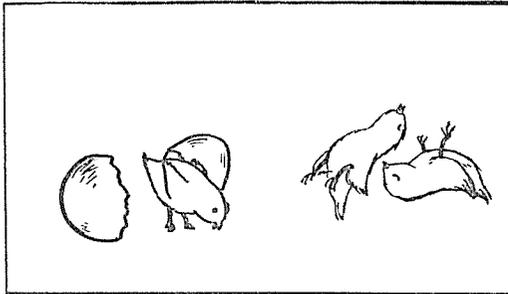


A 3



A 4

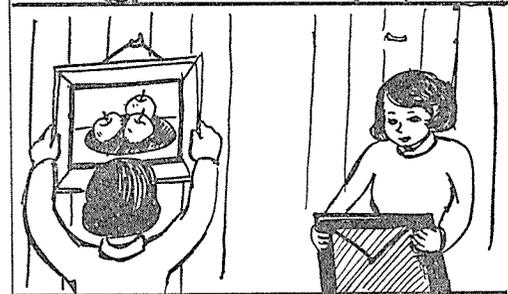
1



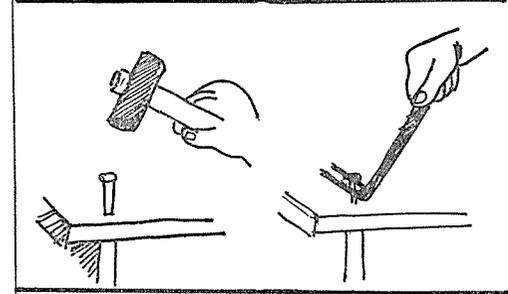
2



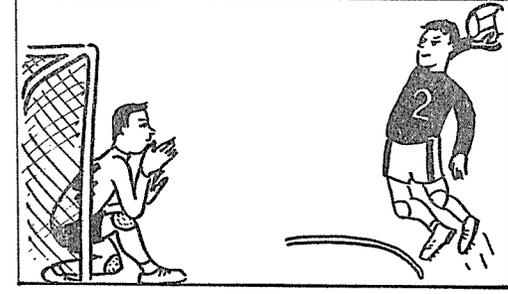
3



4

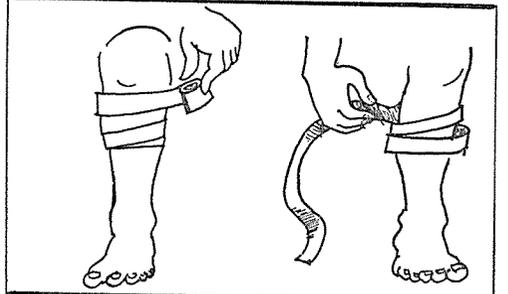


5

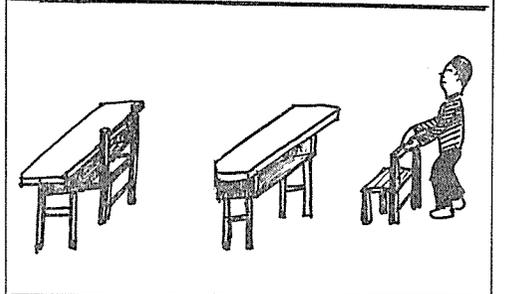


A 5  
付録資料

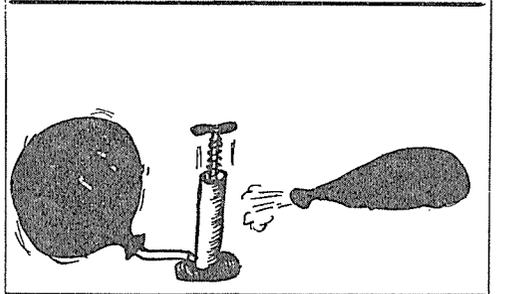
1



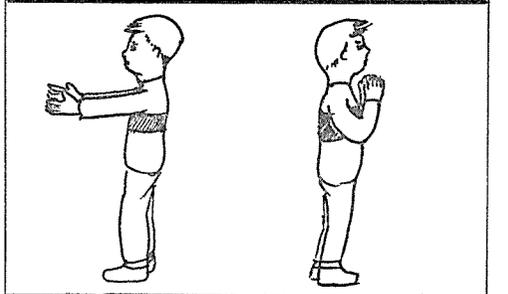
2



3



4



5



A 6

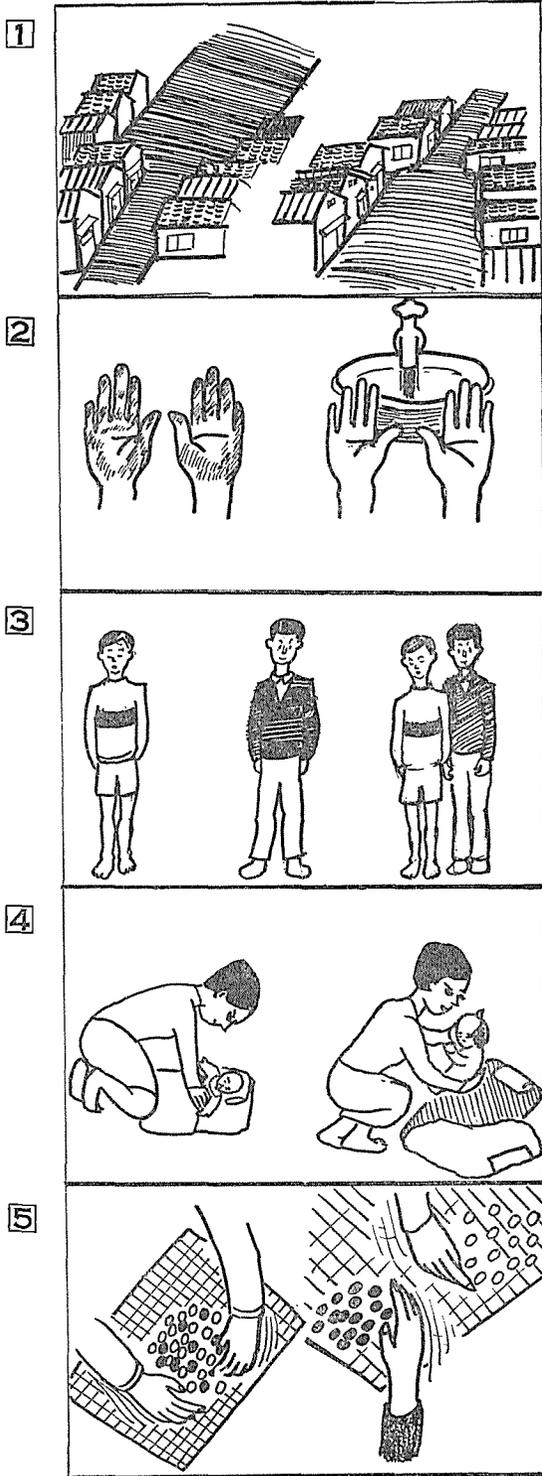
1

2

3

4

5

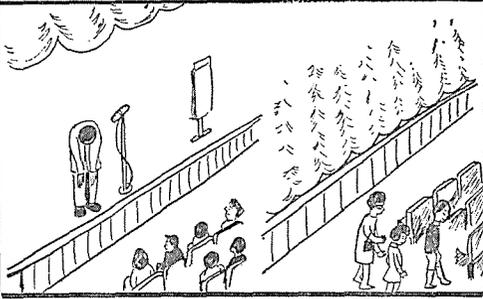


A 7

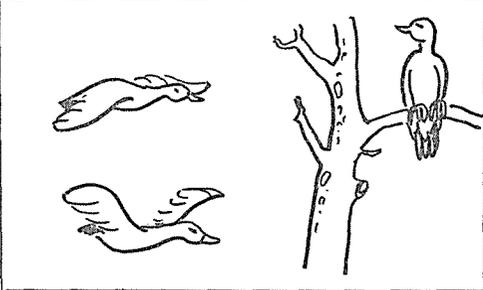


B 1

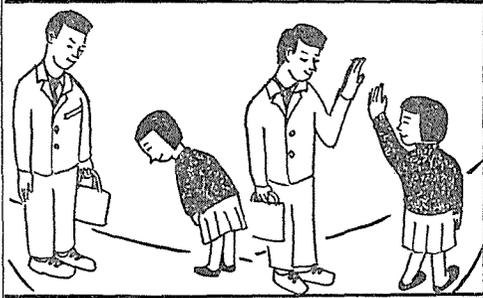
1



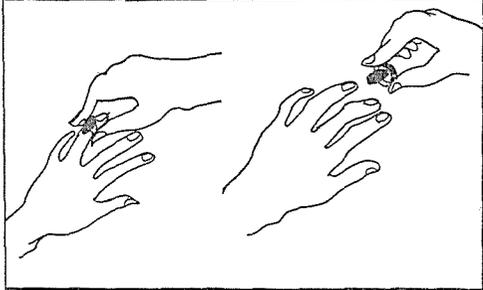
2



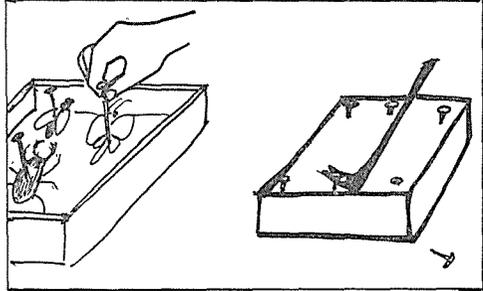
3



4

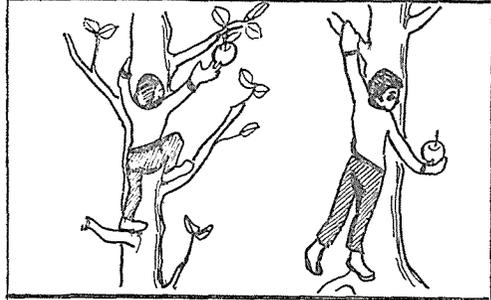


5

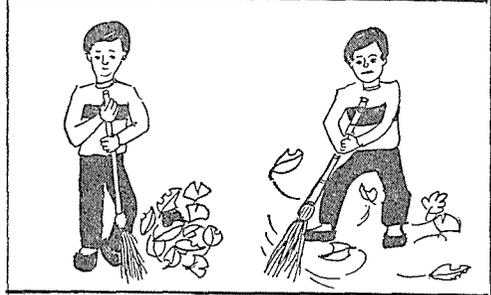


B 2  
付録資料

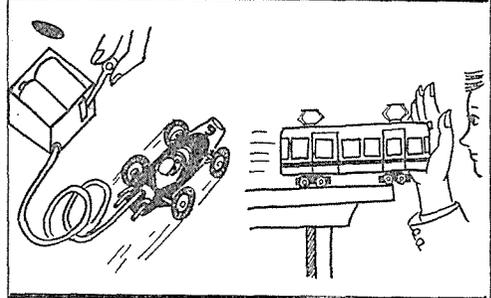
1



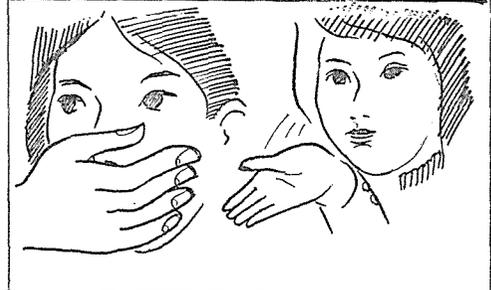
2



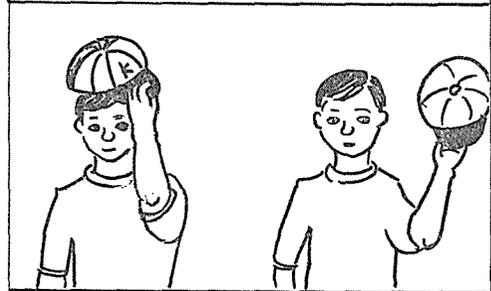
3



4



5



B 3

1

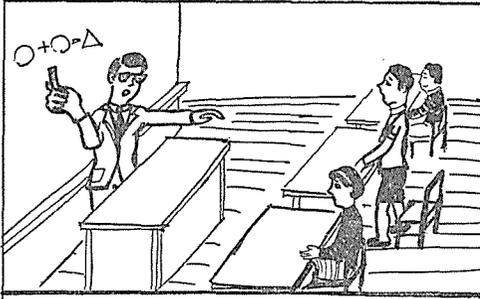
2

3

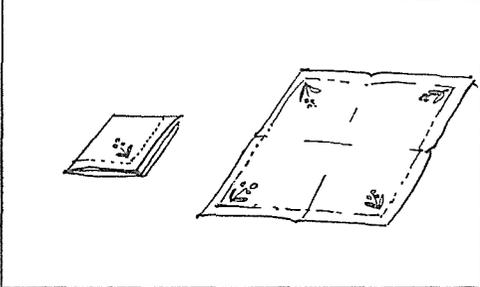
4

5

1



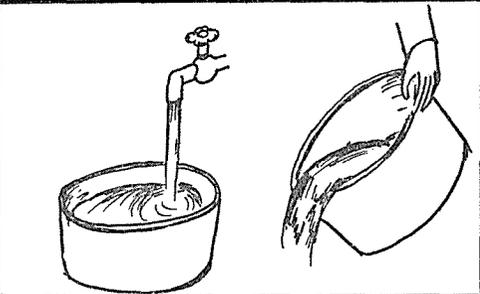
2



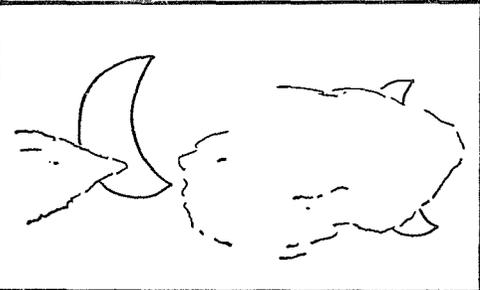
3



4



5



B 4

1



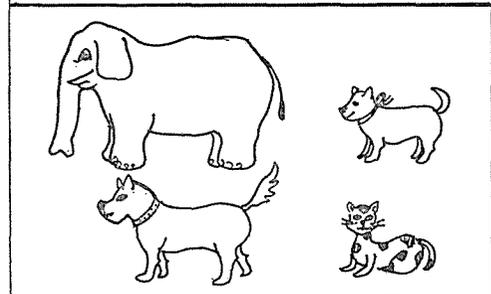
2



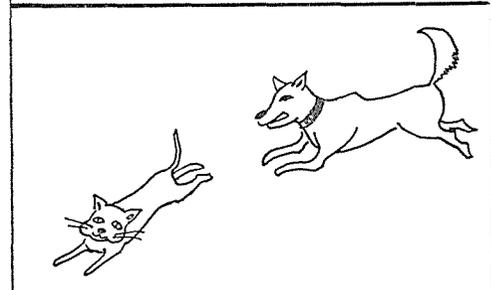
3



4



5



B 5

1

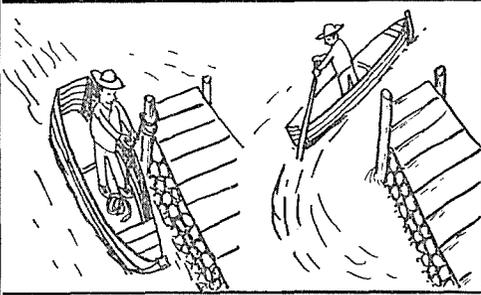
2

3

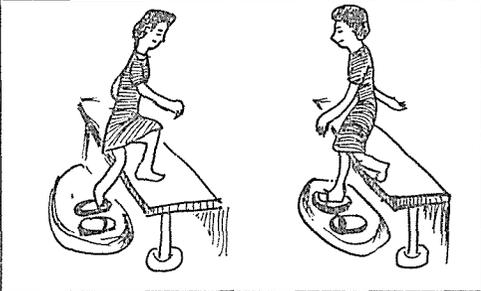
4

5

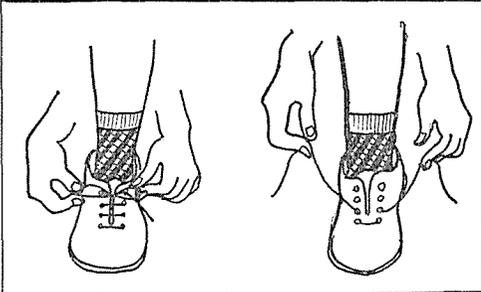
1



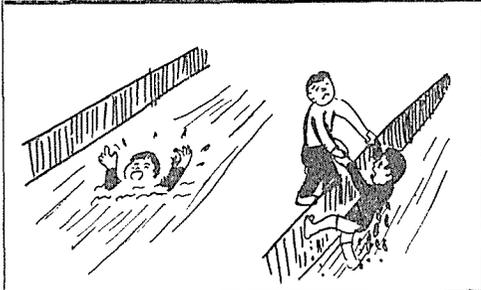
2



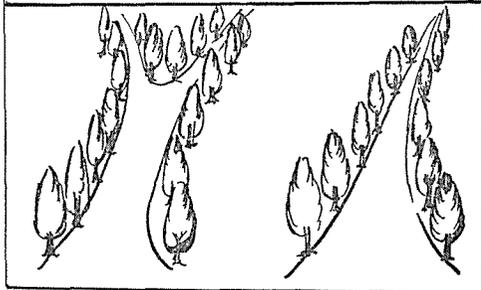
3



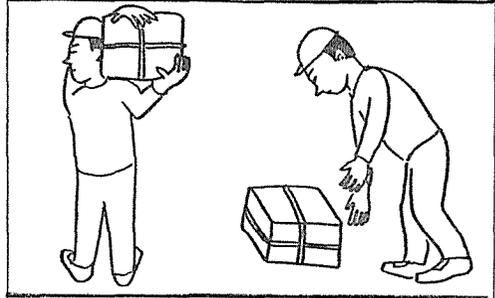
4



5

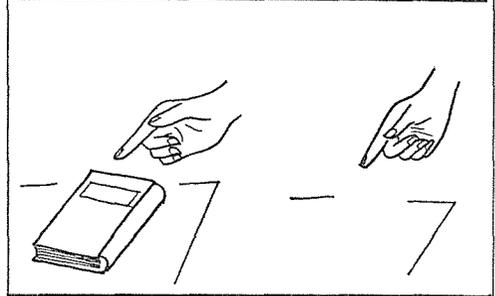


1



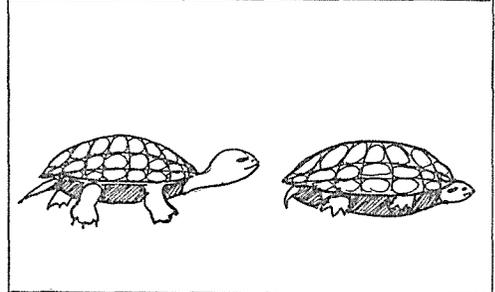
1

2



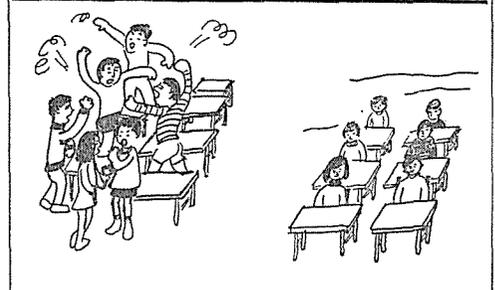
2

3



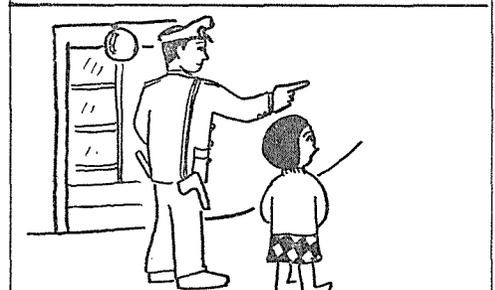
3

4



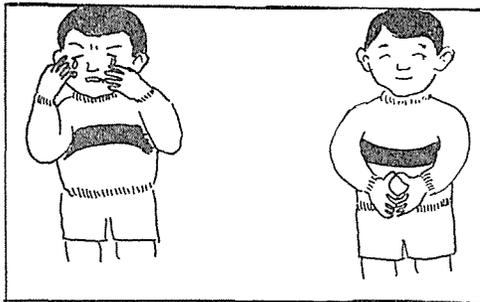
4

5

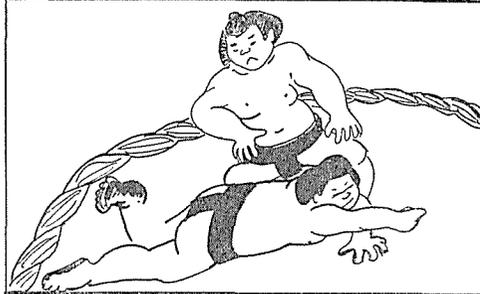


5

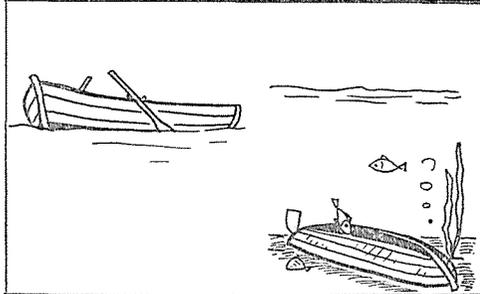
1



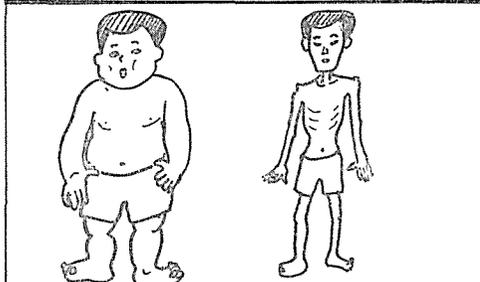
2



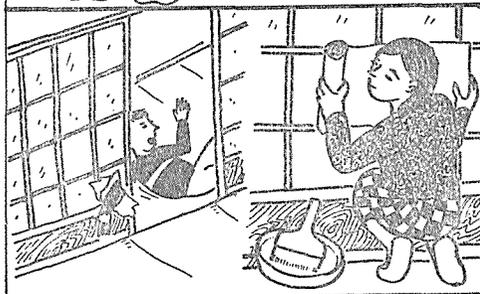
3



4

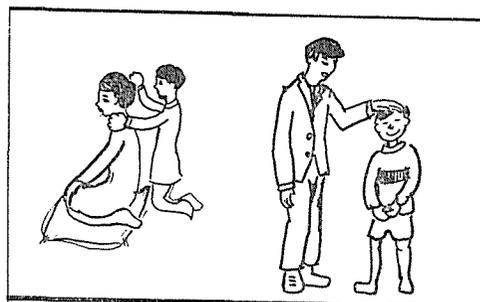


5

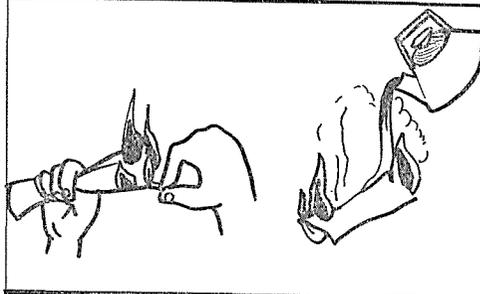


C 1

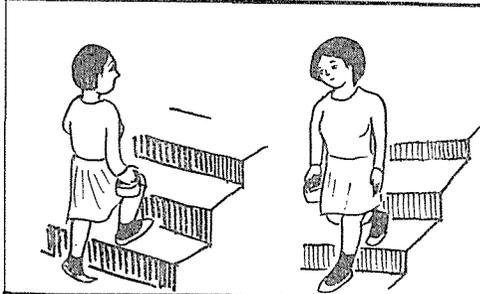
1



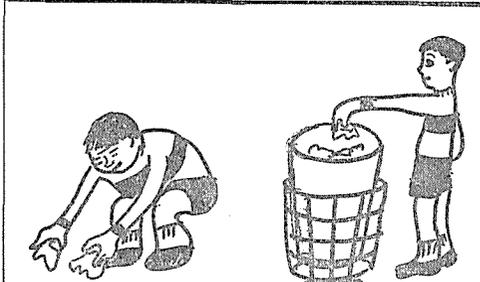
2



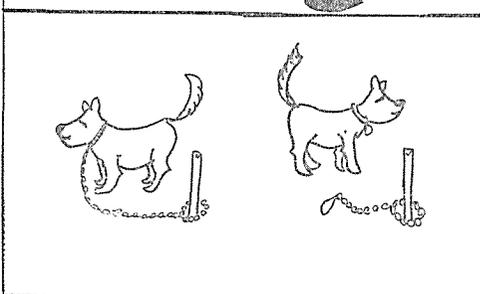
3



4



5



C 2

1

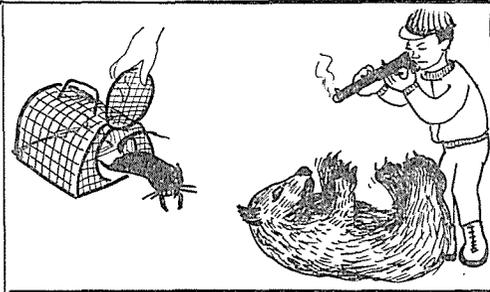
2

3

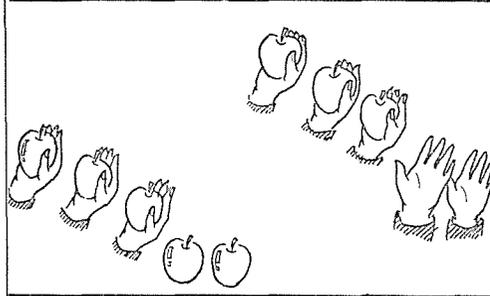
4

5

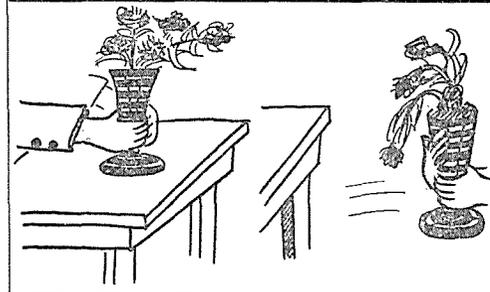
1



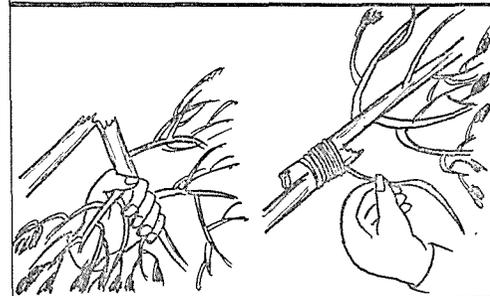
2



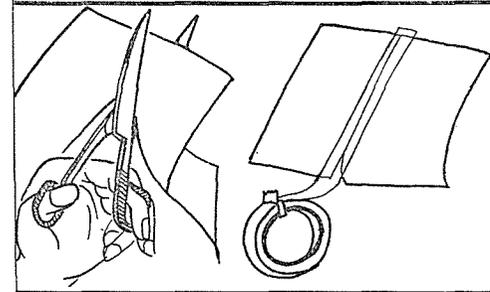
3



4

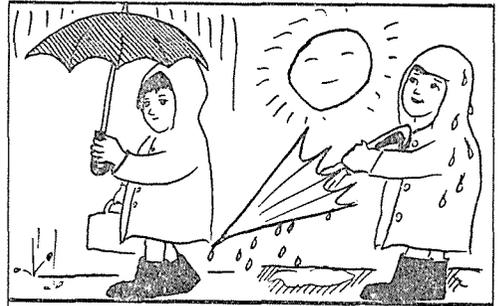


5



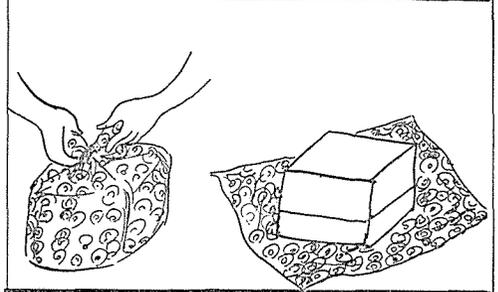
C 3

1



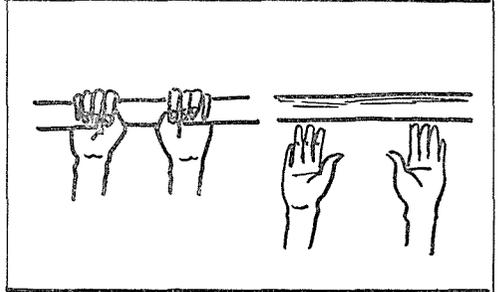
1

2



2

3



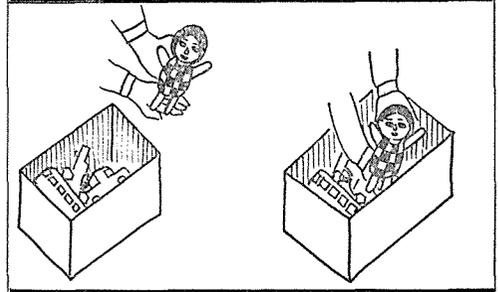
3

4



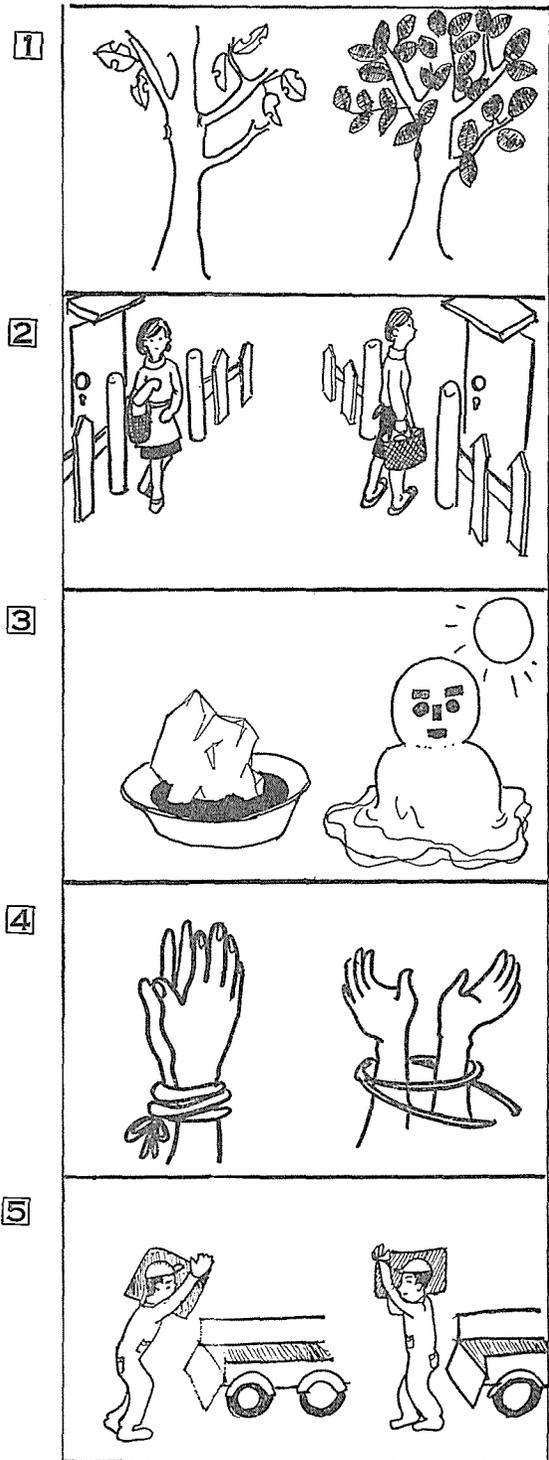
4

5



5

C 4

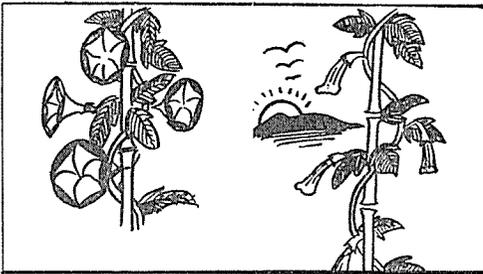


C 5

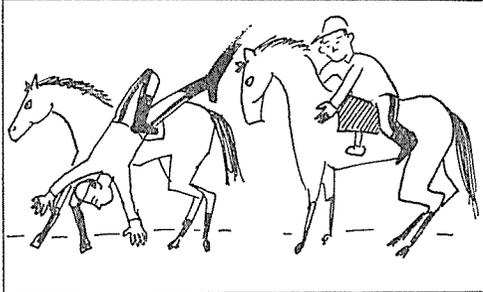


C 6

1



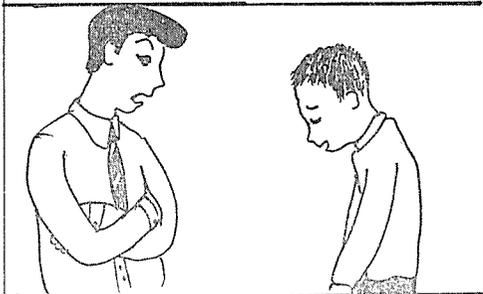
2



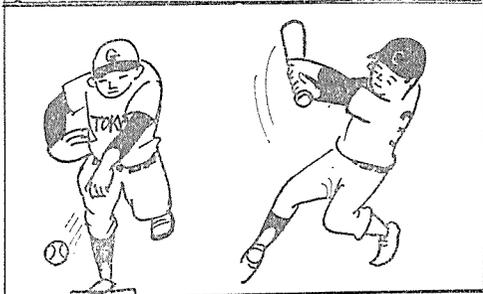
3



4



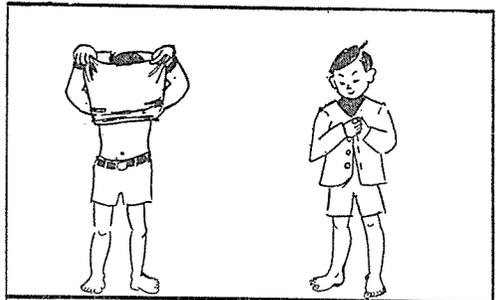
5



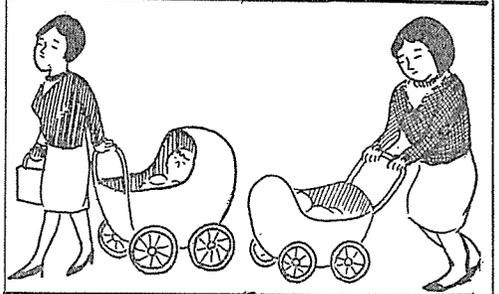
C 7

付録資料

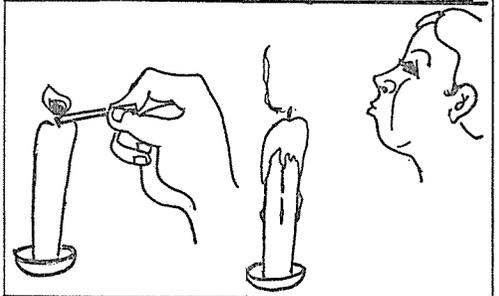
1



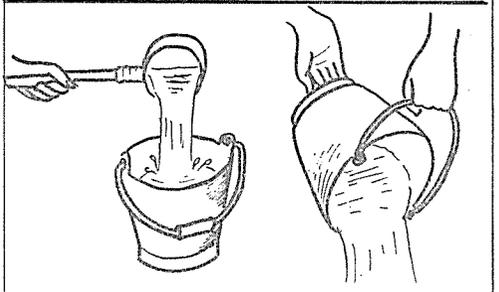
2



3



4



5



D 1

1

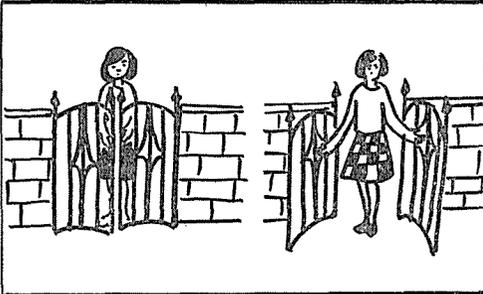
2

3

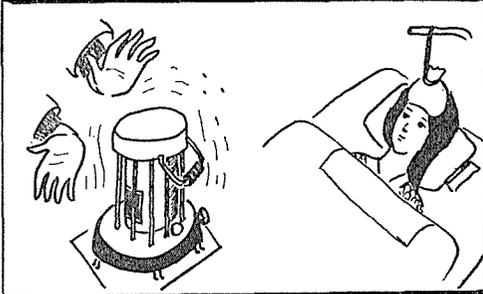
4

5

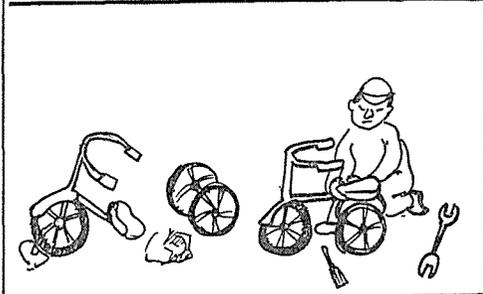
1



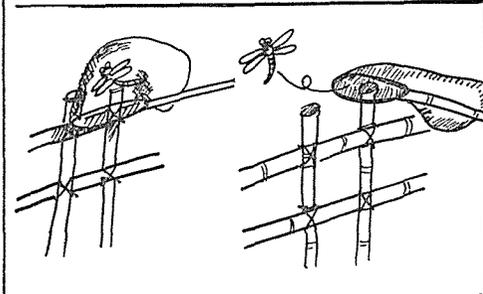
2



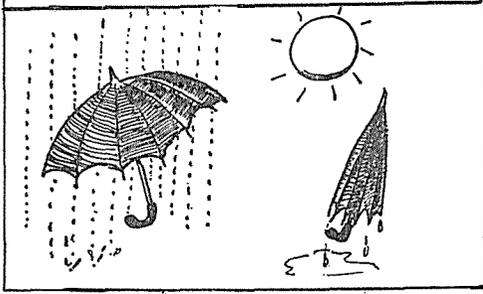
3



4

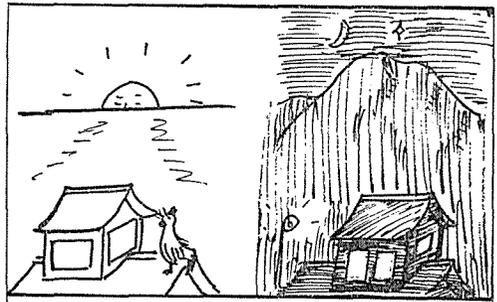


5

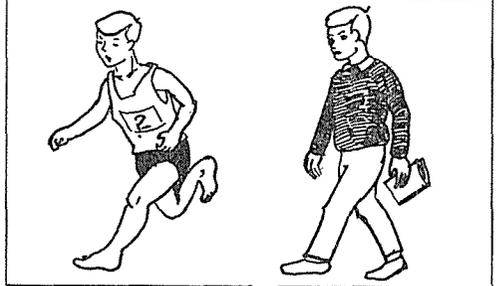


D 2

1



2



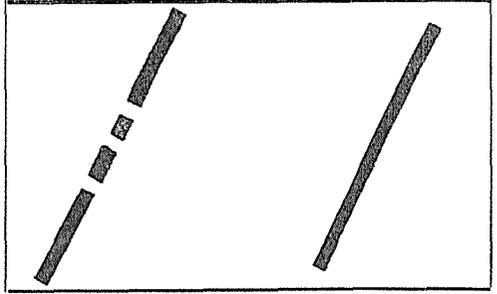
3



4



5



D 3

1

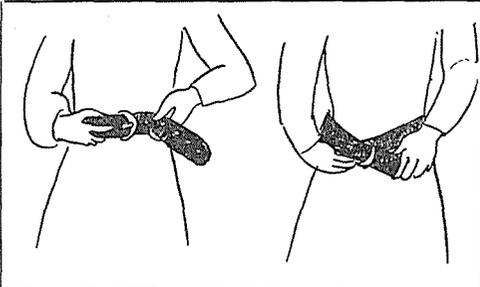
2

3

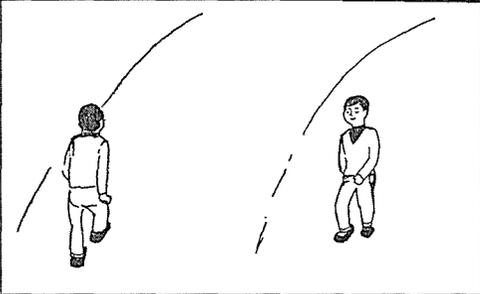
4

5

1



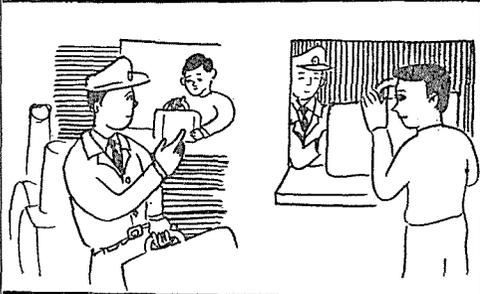
2



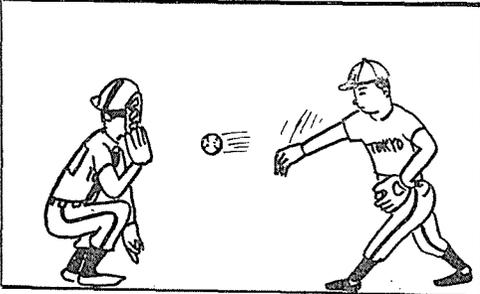
3



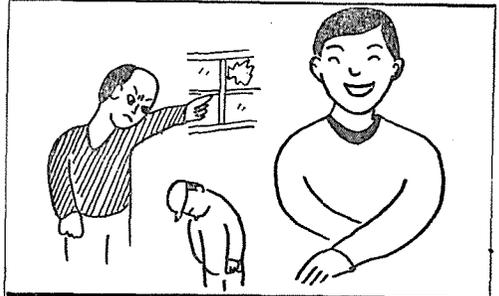
4



5



1



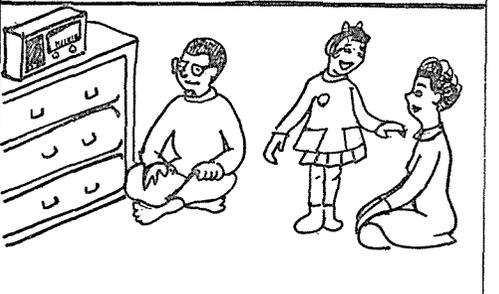
1

2



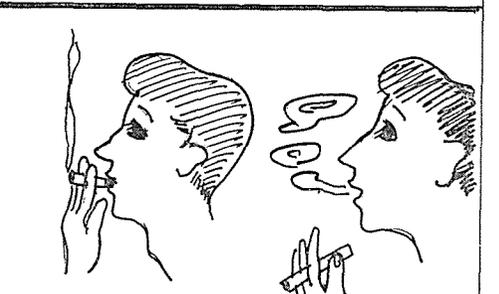
2

3



3

4



4

5



5

D 4  
付録資料

D 5

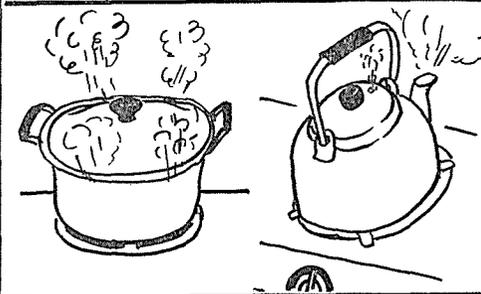
1



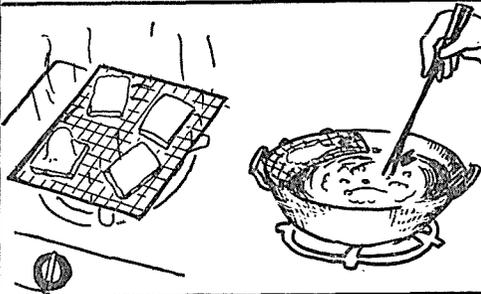
2



3



4

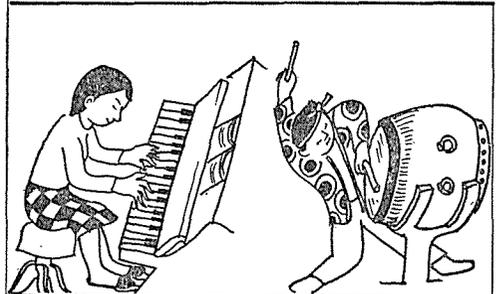


5

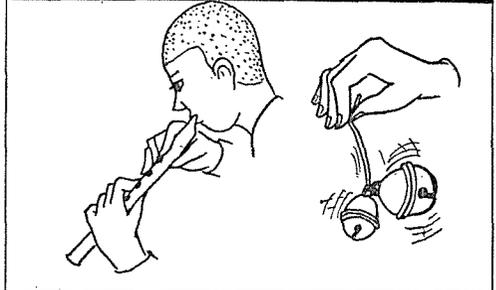


D 6

1



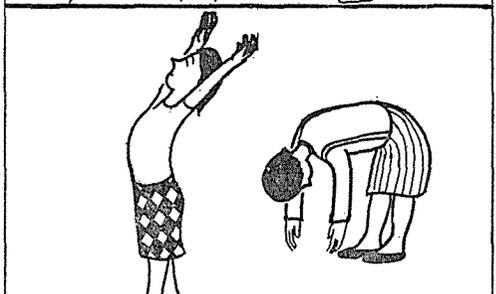
2



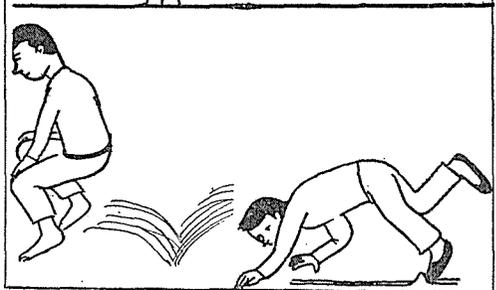
3



4



5



D 7

1

2

3

4

5

[付録資料5 被験者の特性《アンケート調査》]

この付録には、被験者の特性をアンケート調査結果にしたがって知る資料としてあげてある。

- 1 資料はアンケート質問項目順にしたがって記されている。
- 2 資料は本調査の3種類のテストの被験者を含む。

性状語テスト 194名

時間・空間語テスト 228名

動詞テストA 184名

- 3 性状語および時間・空間語テストの被験者の資料は地域別に分かれている。動詞テストの被験者の地域は性状語および時間・空間語テストI被験者の地域と重複するので、地域例には分けなかった。
- 4 動詞テストAのアンケート項目には、18.子どもの活動に関するものが含まれていない。

1. 被験者の性別

	計	1	2
		男	女
性状語			
1 岩手	72 100.0	35 48.6	37 51.4
2 仙台	70 100.0	34 48.6	36 51.4
3 東京	52 100.0	21 40.4	31 59.6
合計	194 100.0	90 46.4	104 53.6
時間・空間語			
1 和歌山	77 100.0	36 46.8	41 53.2
2 京都	78 100.0	38 48.7	40 51.3
3 東京	73 100.0	33 45.2	40 54.8
合計	228 100.0	107 46.9	121 53.1
動詞			
合計	184 100.0	89 48.4	95 51.6

## 2. 被験者の年齢

	計	1	2	3	4	5	6
		4歳半以下	5歳以下	5歳半以下	6歳以下	6歳半以下	7歳以下
性 状 語							
1 岩 手	72 100.0		17 23.6	14 19.4	21 29.2	17 23.6	3 4.2
2 仙 台	70 100.0		21 30.0	18 25.7	15 21.4	15 21.4	1 1.4
3 東 京	52 100.0		10 19.2	14 26.9	19 36.5	9 17.3	
合 計	194 100.0		48 24.7	46 23.7	55 28.4	41 21.4	4 2.1
時 間 ・ 空 間 語							
1 和 歌 山	77 100.0		6 7.8	11 14.3	21 27.3	22 28.6	17 22.1
2 京 都	78 100.0		3 3.8	18 23.1	25 32.1	18 23.1	14 17.9
3 東 京	73 100.0	1 1.4	9 12.3	17 23.3	21 28.8	18 24.7	7 9.6
合 計	228 100.0	1 .4	18 7.9	46 20.2	67 29.4	58 25.4	38 16.7
動 詞							
合 計	184 100.0		26 14.1	38 20.7	51 27.7	33 17.9	36 19.6

## 3 被験者の兄弟数

	計	1	2	3	4	5
		1 年	2 年	3 年	4年以上	無回答
性 状 語						
1 岩 手	72 100.0	51 70.8	20 27.8	1 1.4		
2 仙 台	70 100.0	57 81.4	13 18.6			
3 東 京	52 100.0	27 51.9	22 42.3	3 5.8		
合 計	194 100.0	135 69.6	55 28.4	4 2.1		

時間・空間語						
1 和歌山	77 100.0	39 50.6	26 33.8	12 15.6		
2 京都	78 100.0	48 61.5	29 37.2	1 1.3		
3 東京	73 100.0	30 41.1	27 37.0	14 19.2	2 2.7	
合計	228 100.0	117 51.3	82 36.0	27 11.8	2 .9	
動詞						
合計	184 100.0	110 59.8	61 33.2	13 7.1		

#### 4 被験者の他の幼稚園経験の有無

	計	1	2	3
		ない	ある	無回答
性 状 語				
1 岩手	72 100.0	67 93.1	5 6.9	
2 仙台	70 100.0	68 97.1	2 2.9	
3 東京	52 100.0	49 94.2	2 3.8	1 1.9
合計	194 100.0	184 94.8	9 4.6	1 .5
時間・空間語				
1 和歌山	77 100.0	72 93.5	5 6.5	
2 京都	78 100.0	75 96.2	3 3.8	
3 東京	73 100.0	66 90.4	6 8.2	1 1.4
合計	228 100.0	213 93.4	14 6.1	1 .4
動 詞				
合計	184 100.0	171 92.9	13 7.1	

#### 5 被験者の病気の経験

	計	1	2	3
		ある	ない	無回答
性 状 語				
1 岩手	72 100.0	65 90.3	7 9.7	
2 仙台	70 100.0	65 92.9	5 7.1	
3 東京	52 100.0	44 84.6	8 15.4	
合計	194 100.0	174 89.7	20 10.3	
時間・空間語				
1 和歌山	77 100.0	73 89.7	2 2.6	2 2.6
2 京都	78 100.0	74 94.9	4 5.1	
3 東京	73 100.0	66 90.4	7 9.6	
合計	228 100.0	213 93.4	13 5.7	2 .9
動 詞				
合計	184 100.0	157 85.3	23 12.5	4 2.2

## 6 被験者の利手

	計	1	2	3	4
		右	左	両方	無回答
性 状 語					
1 岩 手	72 100.0	66 91.7	3 4.2	3 4.2	
2 仙 台	70 100.0	62 88.6	3 4.3	5 7.1	
3 東 京	52 100.0	46 88.5	2 3.8	4 7.7	
合 計	194 100.0	174 89.7	8 4.1	12 6.2	
時間・空間語					
1 和 歌 山	77 100.0	71 92.2	2 2.6	4 5.2	
2 京 都	78 100.0	74 94.9	2 2.6	2 2.6	
3 東 京	73 100.0	68 93.2	1 1.4	4 5.5	
合 計	228 100.0	213 93.4	5 2.2	10 4.4	
動 詞					
合 計	184 100.0	169 91.8	8 4.3	6 3.3	1 .5

## 7 被験者の家族人数

	計	1	2	3	4	5
		2 人	4 人以下	6 人以下	7 人以上	無 回 答
性 状 語						
1 岩 手	72 100.0	1 1.4	28 38.6	29 40.3	13 18.1	1 1.4
2 仙 台	70 100.0		36 51.4	20 28.6	13 18.6	1 1.4

3 東 京	52 100.0		22 42.3	19 36.5	4 7.7	7 13.5
合 計	194 100.0	1 .5	86 44.3	68 35.1	30 15.5	9 4.6
時間・空間語						
1 和 歌 山	77 100.0	1 1.3	32 41.6	32 41.6	12 15.6	
2 京 都	78 100.0		17 21.8	39 50.0	22 28.2	
3 東 京	73 100.0	1 1.4	36 49.3	26 35.6	10 13.7	
合 計	228 100.0	2 .9	85 37.3	97 42.5	44 19.3	
動 詞						
合 計	184 100.0		72 39.1	73 39.7	39 21.2	

#### 8 被験者のきょうだい数

	計	1	2	3	4
		1 人	2 人	3人以上	無回答
性 状 語					
1 岩 手	72 100.0	9 12.5	52 72.5	11 15.3	
2 仙 台	70 100.0	10 14.3	50 71.4	10 14.3	
3 東 京	52 100.0	8 15.4	40 76.9	4 7.7	
合 計	194 100.0	27 13.9	142 73.2	25 12.9	
時間・空間語					
1 和 歌 山	77 100.0	6 7.8	58 75.3	13 16.9	
2 京 都	78 100.0	8 10.3	54 69.2	16 20.5	
3 東 京	73 100.0	13 17.8	47 64.4	13 17.8	

合 計	228 100.0	27 11.8	159 69.7	42 18.4	
動 詞					
合 計	184 100.0	17 9.2	127 69.0	40 21.8	6 3.3

### 9 両親の共働き

	計	1	2	3
		は い	い い え	無 回 答
性 状 語				
1 岩 手	72 100.0	24 33.3	42 58.3	6 8.3
2 仙 台	70 100.0	17 24.3	53 75.7	
3 東 京	52 100.0	10 19.2	42 80.8	
合 計	194 100.0	51 26.3	137 70.6	6 3.1
時 間 ・ 空 間 語				
1 和 歌 山	77 100.0	22 28.6	54 70.1	1 1.3
2 京 都	78 100.0	22 28.2	56 71.8	
3 東 京	73 100.0	21 28.8	51 69.9	1 1.4
合 計	228 100.0	65 28.5	161 70.6	2 .9
動 詞				
合 計	184 100.0	44 23.9	137 74.5	3 1.6

### 10 父の年齢

	計	1	2	3	4	5	6	7
		25歳以下	30歳以下	35歳以下	40歳以下	45歳以下	46歳以上	無回答
性 状 語								
1 岩 手	72 100.0		4 5.6	29 40.3	29 40.3	8 11.1	1 1.4	1 1.4
2 仙 台	70 100.0		3 4.3	30 42.9	29 41.4	6 8.6	1 1.4	1 1.4
3 東 京	52 100.0		1 1.9	16 30.8	20 38.5	13 25.0	2 3.8	
合 計	194 100.0		8 4.1	75 38.7	78 40.2	27 13.9	4 2.1	2 1.0
時 間 ・ 空 間 語								
1 和 歌 山	77 100.0		2 2.6	33 42.9	31 40.3	8 10.4	2 2.6	1 1.3
2 京 都	78 100.0		1 1.3	17 21.8	43 55.1	12 15.4	3 3.8	2 2.6
3 東 京	73 100.0		1 1.4	29 39.7	22 30.1	16 21.9	3 4.1	2 2.7
合 計	228 100.0		4 1.8	79 34.6	96 42.1	36 15.8	8 3.5	5 2.2
動 詞								
合 計	184 100.0		8 4.3	74 40.2	75 40.8	23 12.5	3 1.6	1 .5

### 11 母の年齢

	計	1	2	3	4	5	6	7
		25歳以下	30歳以下	35歳以下	40歳以下	45歳以下	46歳以上	無回答
性 状 語								
1 岩 手	72 100.0	1 1.4	23 31.9	34 47.2	11 15.3	3 4.2		
2 仙 台	70 100.0		23 32.9	38 54.3	8 11.4		1 1.4	

3 東 京	52 100.0		11 21.2	25 48.1	13 25.0	3 5.8		
合 計	194 100.0	1 .5	57 29.4	97 50.0	32 16.5	6 3.1	1 .5	
時間・空間語								
1 和 歌 山	77 100.0		19 24.7	32 41.6	21 27.3	5 6.5		
2 京 都	78 100.0		10 12.8	44 56.4	18 23.1	4 5.1		2 2.6
3 東 京	73 100.0		15 20.5	38 52.1	16 21.9	3 4.1	1 1.4	
合 計	228 100.0		44 19.3	114 50.0	55 24.1	12 5.3	1 .4	2 .9
動 詞								
合 計	184 100.0		50 27.2	94 51.1	32 17.4	7 3.8		1 .5

## 12 被験者の面倒を見る人

性 状 語	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		祖父	祖母	父	母	兄弟	その他の家族	お手伝いさん	その他	無回答
1 岩 手	72 100.0	2 2.8	18 25.0	1 1.4	42 58.3	1 1.4	3 4.2		1 1.4	4 5.6
2 仙 台	70 100.0	2 2.9	9 12.9	1 1.4	57 81.4	1 1.4				
3 東 京	52 100.0			1 1.9	49 94.2	1 1.9			1 1.9	
合 計	194 100.0	4 2.1	27 13.9	3 1.5	148 76.3	3 1.5	3 1.5		2 1.0	4 2.1
時間・空間語										
1 和 歌 山	77 100.0		16 20.8		56 72.7	2 2.6	2 2.6	1 1.3		
2 京 都	78 100.0	1 1.3	14 17.9	1 1.3	62 79.5					
3 東 京	73 100.0		6 8.2		60 82.2	3 4.1	2 2.7			

合 計	228 100.0	1 .4	36 15.8	1 .4	178 78.1	5 2.2	4 1.8	1 .4		2 .9
動 詞										
合 計	184 100.0	2 1.1	16 8.7		155 84.2	1 5.5	3 1.6	3 1.6	4 2.2	

### 13 すぐ上の兄姉の有無

	計	1	2	3
		兄	姉	無回答
性 状 語				
1 岩 手	33 100.0	15 45.5	18 54.5	
2 仙 台	26 100.0	8 30.8	18 69.2	
3 東 京	26 100.0	9 34.6	17 65.4	
合 計	85 100.0	32 37.6	53 62.4	
時間・空間語				
1 和 歌 山	42 100.0	21 50.0	20 47.6	1 2.4
2 京 都	42 100.0	24 57.1	18 42.9	
3 東 京	40 100.0	24 60.0	15 37.5	1 2.5
合 計	124 100.0	69 55.6	53 42.7	2 1.6
動 詞				
合 計	88 100.0	48 54.5	40 45.5	

14 子どもの本

性 状 語	計									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1 岩 手	5 6.9	28 38.9	22 30.6	3 4.2	4 5.6			7 9.7		3 4.2
2 仙 台	4 5.7	15 21.4	26 37.1	12 17.1	6 8.6	3 4.3		2 2.9		2 2.9
3 東 京	4 7.7	15 28.8	17 32.7	11 21.2	2 3.8			2 3.8		1 1.9
合 計	13 6.7	58 29.9	65 33.5	26 13.4	12 6.2	3 1.5		11 5.7		6 3.1
時 間・空 間 語										
1 和 歌 山	9 11.7	29 37.7	25 32.5	2 2.6	7 9.1	1 1.3	1 1.3	2 2.6		1 1.3
2 京 都	6 7.7	22 28.2	27 34.6	12 15.4	5 6.4			6 7.7		
3 東 京	1 1.4	17 23.3	28 38.4	13 17.8	6 8.2	2 2.7		4 5.5		2 2.7
合 計	16 7.0	68 29.8	80 35.1	27 11.8	18 7.9	3 1.3	1 .4	12 5.3		3 1.3
動 詞										
合 計	19 10.3	61 33.2	56 30.4	30 16.3	13 7.1			2 1.1		3 1.6

## 15 家庭生活(1)

性 状 語	計			(1)テレビは毎日見る			(2)好きな番組を見る			(3)テレビはたまに見る			(4)テレビはぜんぜん見ない		
	は	い	無回答	は	い	無回答	は	い	無回答	は	い	無回答	は	い	無回答
1 岩 手	72 100.0	63 87.5	3 4.2	6 8.3	25 34.7	11 15.3	36 50.0	4 5.6	27 37.5	41 56.9					
2 仙 台	70 100.0	69 98.6	1 1.4		18 25.7	19 27.1	33 47.1	1 1.4	33 47.1	36 51.4			1 1.4	34 48.6	35 50.0
3 東 京	52 100.0	46 88.5	3 5.8	3 5.8	23 44.2	14 26.9	15 28.8	1 1.9	33 63.5	18 34.6				34 65.4	18 34.6
合 計	194 100.0	178 91.8	7 3.6	9 4.6	66 34.0	44 22.7	84 43.3	6 3.1	93 47.9	95 49.0			1 .5	100 51.5	93 47.9
時間・空間語															
1 和 歌 山	77 100.0	70 90.9	6 7.8	1 1.3	23 29.9	18 23.4	36 46.8	1 1.3	35 45.5	41 53.2			1 1.3	36 46.8	40 51.9
2 京 都	78 100.0	75 96.2	2 2.6	1 1.3	27 34.6	22 28.2	29 37.2	3 3.8	46 59.0	29 37.2				49 62.8	29 37.2
3 東 京	73 100.0	60 82.2	8 11.0	5 6.8	27 37.0	20 27.4	26 35.6	2 2.7	36 49.3	35 47.9				39 53.4	34 46.6
合 計	228 100.0	205 89.9	16 7.0	7 3.1	77 33.8	60 26.3	91 39.9	6 2.6	117 51.3	105 46.1			1 .4	124 54.4	103 45.2
動 詞															
合 計	184 100.0	172 93.5	9 4.9	3 1.6	61 33.2	46 25.0	77 41.8	7 3.8	91 49.5	86 46.7			1 .5	102 55.4	81 44.0

16 テレビを見る時間

	計	1	2	3	4	5	6
		1時間 以下	2時間 以下	3時間 以下	4時間 以下	5時間 以上	無回答
性 状 語							
1 岩 手	72 100.0	10 13.9	35 48.6	13 18.1	9 12.5	3 4.2	2 2.8
2 仙 台	70 100.0	1 1.4	29 41.4	20 28.6	14 20.0	6 8.6	
3 東 京	52 100.0	5 9.6	18 34.6	20 38.5	8 15.4	1 1.9	
合 計	194 100.0	16 8.2	82 42.3	53 27.3	31 16.0	10 5.2	2 1.0
時間・空間語							
1 和 歌 山	77 100.0	10 13.0	39 50.6	20 26.0	7 9.1	1 1.3	
2 京 都	78 100.0	4 5.1	36 46.2	25 32.1	9 11.5	3 3.8	1 1.3
3 東 京	73 100.0	10 13.7	20 27.4	31 42.5	8 11.0	1 1.4	3 4.1
合 計	228 100.0	24 10.5	95 41.7	76 33.3	24 10.5	5 2.2	4 1.8
動 詞							
合 計	184 100.0	15 8.2	62 33.7	68 37.0	28 15.2	9 4.9	2 1.1

## 17 家庭生活(2)

性 状 語	計	(6)絵本・漫画は毎日見る			(7)絵本・漫画はよく見る			(8)絵本・漫画は買ったときだけ見る		
		はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
1 岩 手	72 100.0	33 45.8	20 27.8	19 26.4	33 45.8	12 16.7	27 37.5	6 8.3	36 50.0	30 41.7
2 仙 台	70 100.0	40 57.1	23 32.9	7 10.0	32 45.7	15 21.4	23 32.9	4 5.7	40 57.1	26 37.1
3 東 京	52 100.0	30 57.7	17 32.7	5 9.6	28 53.8	14 26.9	10 19.2	2 3.8	38 73.1	12 23.1
合 計	194 100.0	103 53.1	60 30.9	31 16.0	93 47.9	41 21.1	60 30.9	12 6.2	114 58.8	68 35.1
時間・空間語										
1 和 歌 山	77 100.0	36 46.8	26 33.8	15 19.5	43 55.8	12 15.6	22 28.6	5 6.5	41 53.2	31 40.3
2 京 都	78 100.0	39 50.0	28 35.9	11 14.1	41 52.6	20 25.6	17 21.8	4 5.1	51 65.4	23 29.5
3 東 京	73 100.0	42 57.5	18 24.7	13 17.8	36 49.3	16 21.9	21 28.8	4 5.5	39 53.4	30 41.1
合 計	228 100.0	117 51.3	72 31.6	39 17.1	120 52.6	48 21.1	60 26.3	13 5.7	131 57.5	84 36.8
動 詞										
合 計	184 100.0	92 50.0	57 31.0	35 19.0	95 51.6	37 20.1	52 28.3	18 9.8	115 62.5	51 27.7

1	2		3		1	2		3		1	2		3	
	は	いいえ	無	回答		は	いいえ	無	回答		は	いいえ	無	回答
(9)絵本・漫画はたまたまに見る程度														
(10)絵本・漫画は面白くない														
(11)物語の本もよく読む														
(12)何かおけいこをしている														
17	26	29	31	21	41	10	9	54	9	21	10	22	26	4
23.6	36.1	40.3	43.1	29.2	56.9	13.9	12.5	75.0	12.5	38	11	20	44	6
11	33	26	28	54.3	21	15.7	28.6	62.9	28.6	27	6	22	26	4
15.7	47.1	37.1	40.0	51.9	30.0	11.5	42.3	50.0	42.3	86	27	51	124	19
8	30	14	14	44.3	19	6	26.8	63.9	26.8	35	10	15	58	5
15.4	57.7	26.9	26.9	41.8	36.5	11.5	19.2	74.4	19.2	32	20	27	44	6
36	89	69	73	86	81	27	35.1	57.1	35.1	35	33	35	33	5
18.6	45.9	35.6	37.6	44.3	41.8	13.9	35.1	57.1	35.1	44	17	47.9	45.2	6.8
19	27	31	32	32	25	20	27	44	27	35	10	35	33	5
24.7	35.1	40.3	41.6	41.6	32.5	35.1	35.1	57.1	35.1	44	12	47.9	45.2	6.8
12	43	23	25	35	33	10	15	58	15	44	17	77	135	16
15.4	55.1	29.5	32.1	44.9	42.3	12.8	19.2	74.4	19.2	60.3	23.3	33.8	59.2	7.0
9	33	31	29	44	12	17	35	33	35	44	23.3	77	135	16
12.3	45.2	42.5	39.7	60.3	16.4	20.6	47.9	45.2	47.9	44	17	33.8	59.2	7.0
40	103	85	86	111	70	47	77	135	77	111	47	33.8	59.2	7.0
17.5	45.2	37.3	37.7	48.7	30.7	20.6	33.8	59.2	33.8	80	40	50	111	23
46	67	71	68	80	64	40	50	111	50	43.5	21.7	21.7	27.2	12.5
25.0	36.4	38.6	37.0	43.5	34.8	21.7	21.7	27.2	21.7					

性 状 語	1			2			3			1			2			3																				
	計									(14)電話の応待に出ますか									(15)なぞなぞ遊びをしますか									(16)幼児音が残っていますか								
	は	い	い	い	え	無	回	答		は	い	い	い	え	無	回	答		は	い	い	い	え	無	回	答		は	い	い	い	え	無	回	答	
1 岩 手	72	21	11						49	18	5							4	64	4							5.6	88.9	5.6							
2 仙 台	70	24	7	1					60	9	1						5	63	2							7.1	90.0	2.9								
3 東 京	52	37	7						47	4	1						7	40	5							13.5	76.9	9.6								
合 計	194	82	25	1					156	31	7					16	167	11							8.2	86.1	5.7									
時間・空間語																																				
1 和 歌 山	77	31	14	1					54	17	6					5	69	3							6.5	89.6	3.9									
2 京 都	78	46	21						68	10						9	68	1							11.5	87.2	1.3									
3 東 京	73	49	14						66	5	2					7	63	3							9.6	86.3	4.1									
合 計	228	126	49	1					188	32	8					21	200	7							9.2	87.7	3.1									
動 詞																																				
合 計	184	109	28	47					157	21	6					17	164	3							9.2	89.1	1.6									

18 子どもの活動

性 状 語	計			1			2			3		
	は	(1) 子どもの遊びが 行われる		は	(2) 子どもの遊びが 行われる		は	(3) 子どもの遊びが 行われる		は	(4) 子どもの遊びが 行われる	
		いいえ	無回答		いいえ	無回答		いいえ	無回答		いいえ	無回答
1 岩 手	72 100.0	43 59.7	24 33.3	5 6.9	36 50.0	30 41.7	6 8.3					
2 仙 台	70 100.0	49 70.0	14 20.0	7 10.0	35 50.0	29 41.4	6 8.6					
3 東 京	52 100.0	31 59.6	19 36.5	2 3.8	28 53.8	20 38.5	4 7.7					
合 計	194 100.0	123 63.4	57 29.4	14 7.2	99 51.0	79 40.7	16 8.2					
時間・空間語												
1 和歌山	77 100.0	56 72.7	18 23.4	3 3.9	40 51.9	31 40.3	6 7.8					
2 京 都	78 100.0	56 71.8	22 28.2		38 48.7	36 46.2	4 5.1					
3 東 京	73 100.0	39 53.4	28 38.4	6 8.2	37 50.7	32 43.8	4 5.5					
合 計	228 100.0	151 66.2	68 29.8	9 3.9	115 50.4	99 43.4	14 6.1					

計	1			2			3		
	は	(17)おしゃべりなほうですか		は	(18)外で遊ぶほうが好きですか		は	(19)外で遊ぶほうが好きですか	
		いいえ	無回答		いいえ	無回答		いいえ	無回答
72 100.0	47 65.3	21 29.2	4 5.6	51 70.8	19 26.4	2 2.8			
70 100.0	46 65.7	23 32.9	1 1.4	46 65.7	24 34.3				
52 100.0	41 78.8	10 19.2	1 1.9	39 75.0	12 23.1	1 1.9			
194 100.0	134 69.1	54 27.8	6 3.1	136 70.1	55 28.4	3 1.5			
77 100.0	50 64.9	26 33.8	1 1.3	62 80.5	13 16.9	2 2.6			
78 100.0	62 79.5	13 16.7	3 3.8	52 66.7	25 32.1	1 1.3			
73 100.0	58 79.5	15 20.5		48 65.8	23 31.5	2 2.7			
228 100.0	170 74.6	54 23.7	4 1.8	162 71.1	61 26.8	5 2.2			
184 100.0	118 64.1	62 33.7	4 2.2	126 68.5	53 28.8	5 2.7			

1	2	3	(3) 友誼の字を見つけて			(4) 空く			(5) 空を喜んでくれとせがむ			(6) 空字にはまだ用心がな			(7) 空字の字に用心がある		
			1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
43	26	3	47	19	6	72	48	19	5	14	52	6	35	31	6		
59.7	36.1	4.2	65.3	26.4	8.3	100.0	66.7	26.4	6.9	19.4	72.2	8.3	48.6	43.1	8.3		
43	23	4	53	12	5	70	43	25	2	6	59	5	50	15	5		
61.4	32.9	5.7	75.7	17.1	7.1	100.0	61.4	35.7	2.9	8.6	84.3	7.1	71.4	21.4	7.1		
36	14	2	40	9	3	52	33	18	1	5	45	2	41	9	2		
69.2	26.9	3.8	76.9	17.3	5.8	100.0	63.5	34.6	1.9	9.6	86.5	3.8	78.8	17.3	3.8		
122	63	9	140	40	14	194	124	62	8	25	156	13	126	55	13		
62.9	32.5	4.6	72.2	20.6	7.2	100.0	63.9	32.0	4.1	12.9	80.4	6.7	64.9	28.4	6.7		
50	23	4	57	15	5	77	44	28	5	5	69	3	59	15	3		
64.9	29.9	5.2	74.0	19.5	6.5	100.0	57.1	36.4	6.5	6.5	89.6	3.9	76.6	19.5	3.9		
50	26	2	58	18	2	78	37	39	2	9	66	3	54	23	1		
64.1	33.3	2.6	74.4	23.1	2.6	100.0	47.4	50.0	2.6	11.5	84.6	3.8	69.2	29.5	1.3		
41	29	3	48	22	3	73	40	30	3	2	66	5	59	11	3		
56.2	39.7	4.1	65.	30.1	4.1	100.0	54.8	41.1	4.1	2.7	90.4	6.8	80.8	15.1	4.1		
141	78	9	163	55	10	228	121	97	10	16	201	11	172	49	7		
61.8	34.2	3.9	71.5	24.1	4.4	100.0	53.1	42.5	4.4	7.0	88.2	4.8	75.4	21.5	3.1		

1	2	3	計			1	2	3	(8) しりとり遊びをおぼえた			1	2	3	
			はい	いいえ	無回答				はい	いいえ	無回答				はい
49	19	4	72	25	45	2	35	36	1	42	29	1	20	47	5
68.1	26.4	5.6	100.0	34.7	62.5	2.8	48.6	50.0	1.4	58.3	40.3	1.4	27.8	65.3	6.9
49	15	6	70	39	31		49	20	1	44	25	1	24	37	9
70.0	21.4	8.6	100.0	55.7	44.3		70.0	28.6	1.4	62.9	35.7	1.4	34.3	52.9	12.9
30	19	3	52	29	23		32	20	2	34	16	2	13	37	2
57.7	36.5	5.8	100.0	55.8	44.2		61.5	38.5		65.4	30.8	3.8	25.0	71.2	3.8
128	53	13	194	93	99	2	116	76	2	120	70	4	57	121	16
66.0	27.3	6.7	100.0	47.9	51.0	1.0	59.8	39.2	1.0	61.9	36.1	2.1	29.4	62.4	8.2
49	23	5	77	32	41	4	45	28	4	48	24	5	12	55	10
63.6	29.9	6.5	100.0	41.6	53.2	5.2	58.4	36.4	5.2	62.3	31.2	6.5	15.6	71.4	13.0
60	17	1	78	43	35		52	25	1	54	24		29	44	5
76.9	21.8	1.3	100.0	55.1	44.9		66.7	32.1	1.3	69.2	30.8		37.2	56.4	6.4
49	20	4	73	45	25	3	52	19	2	50	20	3	20	46	7
67.1	27.4	5.5	100.0	61.6	34.2	4.1	71.2	26.0	2.7	68.5	27.4	4.1	27.4	63.0	9.6
158	60	10	228	120	101	7	149	72	7	152	68	8	61	145	22
69.3	26.3	4.4	100.0	52.6	44.3	3.1	65.4	31.6	3.1	66.7	29.8	3.5	26.8	63.6	9.6

計	(13) 病状の名前も書ける			(14) 病状の病名をさがす			(15) 病に対する関心が強い			(16) 本をよまると自分で読む		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
72	43	29		14	56	2	40	30	2	42	29	1
100.0	59.7	40.3		19.4	77.8	2.8	55.6	41.7	2.8	58.3	40.3	1.4
70	56	11	3	30	39	1	52	16	2	46	22	2
100.0	80.0	15.7	4.3	42.9	55.7	1.4	74.3	22.9	2.9	65.7	31.4	2.9
52	42	9	1	23	29		36	15	1	32	18	2
100.0	80.8	17.3	1.9	44.2	55.8		69.2	28.8	1.9	61.5	34.6	3.8
194	141	49	4	67	124	3	128	61	5	120	69	5
100.0	72.7	25.3	2.1	34.5	63.9	1.5	66.0	31.4	2.6	61.9	35.6	2.6
77	52	20	5	25	46	6	51	19	7	40	32	5
100.0	67.5	26.0	6.5	32.5	59.7	7.8	66.2	24.7	9.1	51.9	41.6	6.5
78	60	18		40	37	1	55	22	1	55	22	1
100.0	76.9	23.1		51.3	47.4	1.3	70.5	28.2	1.3	70.5	28.2	1.3
73	62	10	1	30	40	3	54	14	5	48	21	4
100.0	84.9	13.7	1.4	41.1	54.8	4.1	74.0	19.2	6.8	65.8	28.8	5.5
228	174	48	6	95	123	10	160	55	13	143	75	10
100.0	76.3	21.1	2.6	41.7	53.9	4.4	70.2	24.1	5.7	62.7	32.9	4.4

19 子どもの扱い方

性 状 語	計			(1) 自然におぼえるのを待つ			(2) マンガの姿は見えない			(3) 絵本を心に読む			(4) 五語は初級国語にまがせる		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
	は	い	無回答	は	い	無回答	は	い	無回答	は	い	無回答	は	い	無回答
1 岩 手	72 100.0	64 88.9	8 11.1		3 4.2	67 93.7	2 2.8	51 70.8	19 26.4	2 2.8	38 52.8	33 45.8	1 1.4		
2 仙 台	70 100.0	63 90.0	7 10.0		2 2.9	68 97.1		48 68.6	21 30.0	1 1.4	28 40.0	41 58.6	1 1.4		
3 東 京	52 100.0	46 88.5	6 11.5		2 3.8	48 92.3	2 3.8	39 75.0	11 21.2	2 3.8	15 28.8	34 65.4	3 5.8		
合 計	194 100.0	173 89.2	21 10.8		7 3.6	183 94.3	4 2.1	138 71.1	51 26.3	5 2.6	81 41.8	108 55.7	5 2.6		
時間・空間語															
1 岩 手	77 100.0	66 85.7	9 11.7	2 2.6	3 3.9	73 94.8	1 1.3	52 67.5	24 31.2	1 1.3	43 55.8	31 40.3	3 3.9		
2 仙 台	78 100.0	72 92.3	6 7.7		2 2.6	76 97.4		46 59.0	32 41.0		41 52.6	36 46.2	1 1.3		
3 東 京	73 100.0	68 93.2	5 6.8		2 2.7	71 97.3		52 71.2	21 28.8		23 31.5	49 67.1	1 1.4		
合 計	228 100.0	206 90.4	20 8.8	2 .9	7 3.1	220 96.5	1 .4	150 65.8	77 33.8	1 .4	107 46.9	116 50.9	5 2.2		
動 詞															
合 計	184 100.0	159 86.4	22 12.0	3 1.6	2 1.1	179 97.3	3 1.6	135 73.4	44 23.9	5 2.7	63 34.2	112 60.9	9 4.9		

計	(5) 悪い言葉使いは じかる			(6) 悪いほどめんごさいと いわれる			(7) 朝のあいざつを とせる			(8) だる朝のあいざつを とせる			計
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
	は	い	無回答	は	い	無回答	は	い	無回答	は	い	無回答	
72 100.0	63 87.5	7 9.7	2 2.8	65 90.3	5 6.9	2 2.8	44 61.1	25 34.7	3 4.2	48 66.7	20 27.8	4 5.6	72 100.0
70 100.0	63 90.0	7 10.0		67 95.7	3 4.3		48 68.6	22 31.4		60 85.7	10 14.3		70 100.0
52 100.0	45 86.5	6 11.5	1 1.9	51 98.1		1 1.9	45 86.5	6 11.5	1 1.9	47 90.4	4 7.7	1 1.9	52 100.0
194 100.0	171 88.1	20 10.3	3 1.5	183 94.3	8 4.1	3 1.5	137 70.6	53 27.3	4 2.1	155 79.9	34 17.5	5 2.6	194 100.0
77 100.0	70 90.9	6 7.8	1 1.3	68 88.3	8 10.4	1 1.3	46 59.7	29 37.7	2 2.6	55 71.4	21 27.3	1 1.3	77 100.0
78 100.0	64 82.1	13 16.7	1 1.3	74 94.9	4 5.1		55 70.5	23 29.5		59 75.6	18 23.1	1 1.3	78 100.0
73 100.0	60 82.2	13 17.8		72 98.6	1 1.4		57 78.1	15 20.5	1 1.4	60 82.2	12 16.4	1 1.4	73 100.0
228 100.0	194 85.1	32 14.0	2 .9	214 93.9	13 5.7	1 .4	158 69.3	67 29.4	3 1.3	174 76.3	51 22.4	3 1.3	228 100.0
184 100.0	163 88.6	16 8.7	5 2.7	174 94.6	1 .5	9 4.9	125 67.9	49 26.6	10 5.4	144 78.3	32 17.4	8 4.3	184 100.0

1	2	3	(9) 外であったことを たずねる			(10) テレビは自由に 見せる			(11) テレビを見ながら 寝るはしない			(12) 長年の病に悩ま ず		
			はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
53	17	2	50	21	1	29	41	2	41	29	41	29	2	
73.6	23.6	2.8	69.4	29.2	1.4	40.3	56.9	2.8	56.9	40.3	56.9	40.3	2.8	
54	16		59	11		23	46	1	44	25	44	25	1	
77.1	22.9		84.3	15.7		32.9	65.7	1.4	62.9	35.7	62.9	35.7	1.4	
42	8	2	42	10		26	25	1	34	17	34	17	1	
80.8	15.4	3.8	80.8	19.2		50.0	48.1	1.9	65.4	32.7	65.4	32.7	1.9	
149	41	4	151	42	1	78	112	4	119	71	119	71	4	
76.8	21.1	2.1	77.8	21.6	.5	40.2	57.7	2.1	61.3	36.6	61.3	36.6	2.1	
59	16	2	59	17	1	31	44	2	47	28	47	28	2	
76.6	20.8	2.6	76.6	22.1	1.3	40.3	57.1	2.6	61.0	36.4	61.0	36.4	2.6	
62	16		72	6		21	56	1	42	33	42	33	3	
79.5	20.5		92.3	7.7		26.9	71.8	1.3	53.8	42.3	53.8	42.3	3.8	
60	12	1	61	12		41	32		46	25	46	25	2	
82.2	16.4	1.4	83.6	16.4		56.2	43.8		63.0	34.2	63.0	34.2	2.7	
181	44	3	192	35	1	93	132	3	135	86	135	86	7	
79.4	19.3	1.3	84.2	15.4	.4	40.8	57.9	1.3	59.2	37.7	59.2	37.7	3.1	
136	42	6	142	34	8	73	103	8	100	73	100	73	11	
73.9	22.8	3.3	77.2	18.5	4.3	39.7	56.0	4.3	54.3	39.7	54.3	39.7	6.0	

1	2	3	(13) 難しい問題は 無視する			(14) ナンパゾン遊びの 相手をする		
			は	いいえ	無回答	は	いいえ	無回答
38	31	3				53	17	2
52.8	43.1	4.2				73.6	23.6	2.8
24	44	2				66	4	
34.3	62.9	2.9				94.3	5.7	
26	22	4				48	4	
50.0	42.3	7.7				92.3	7.7	
88	97	9				167	25	2
45.4	50.0	4.6				86.1	12.9	1.0
40	31	6				58	16	3
51.9	40.3	7.8				75.3	20.8	3.9
35	40	3				70	7	1
44.9	51.3	3.8				89.7	9.0	1.3
28	43	2				67	6	
38.4	58.9	2.7				91.8	8.2	
103	114	11				195	29	4
45.2	50.0	4.8				85.5	12.7	1.8
81	89	14				159	17	8
44.0	48.4	7.6				86.4	9.2	4.3

## 〔付録資料6 系の成立〈図表〉〕

幼児が性状語や時間・空間語、また動作、行為、現象を表す動詞の意味を構造的に理解していくためには、対語関係にある単語は対義の意味の構造を、また系列関係にある単語は系列的意味の構造を理解していく必要がある。

そしてこの点に関しては次の2点に注目する必要がある。すなわち、第1はその構造的意味の理解は単語・事物の系や事物・事物の系とともに、単語・単語の系が、自覚的、意識的に構造化されていることが必要である。それらは本質的に自己充足的な体系を持つと考えられるからである。

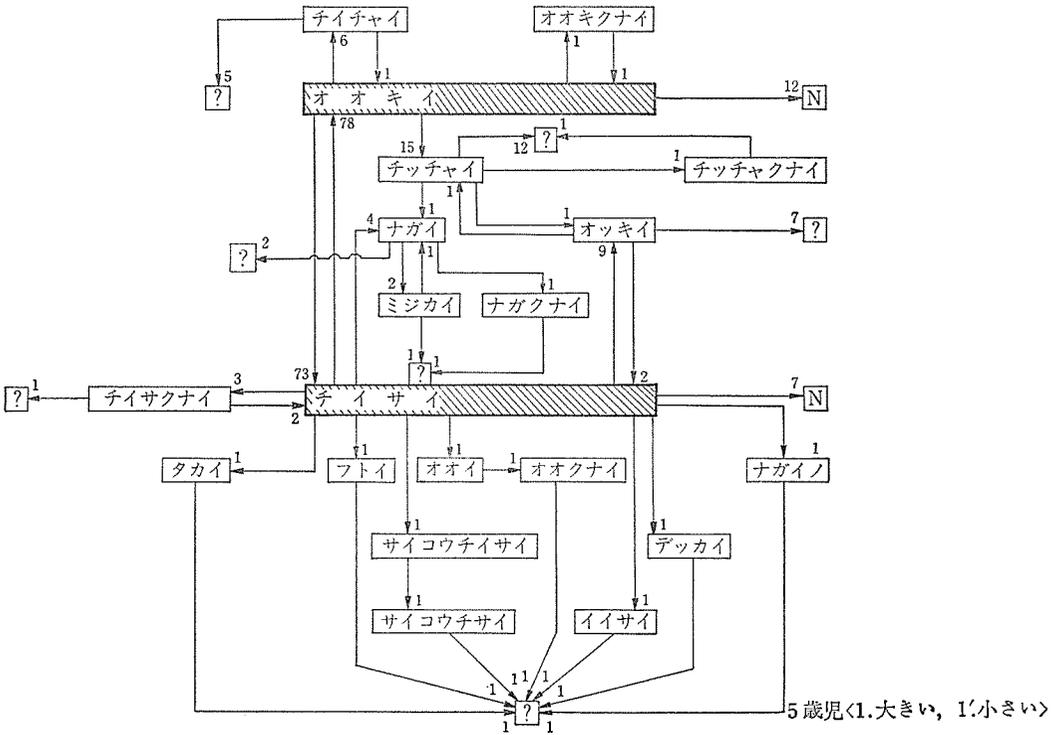
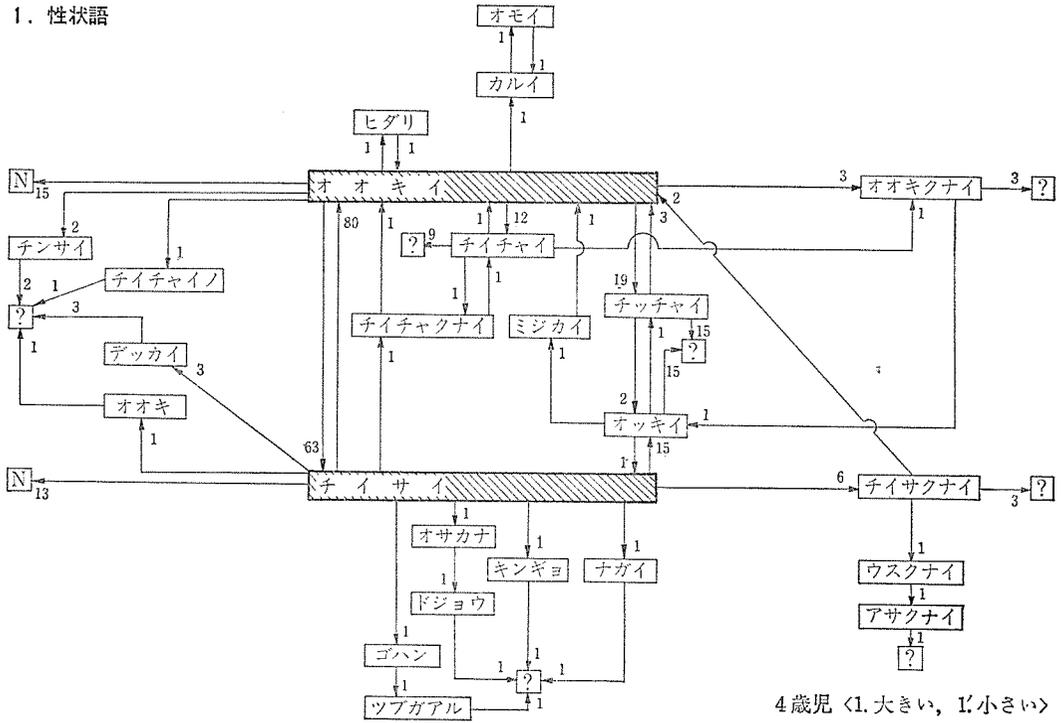
そして、第2は前項のことと関連し、言語は自己充足的な体系を持つものであるため、対語あるいは系列的構造も充足的な体系を持つことが必要になるが、それは成人の体系とは異なっていることが考えられる。

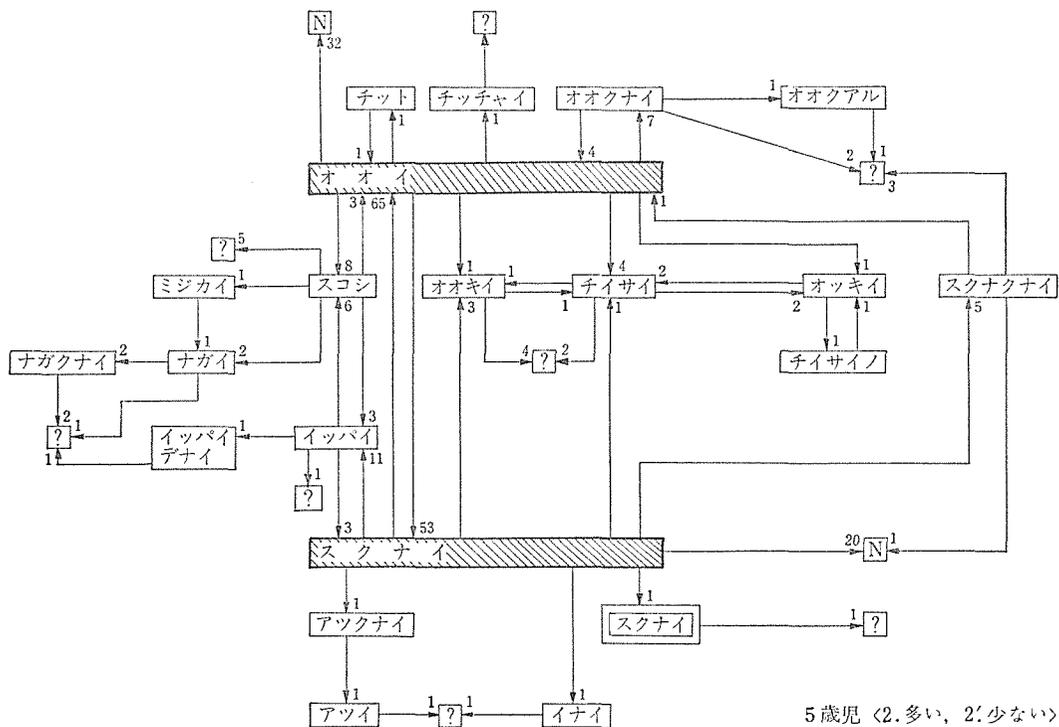
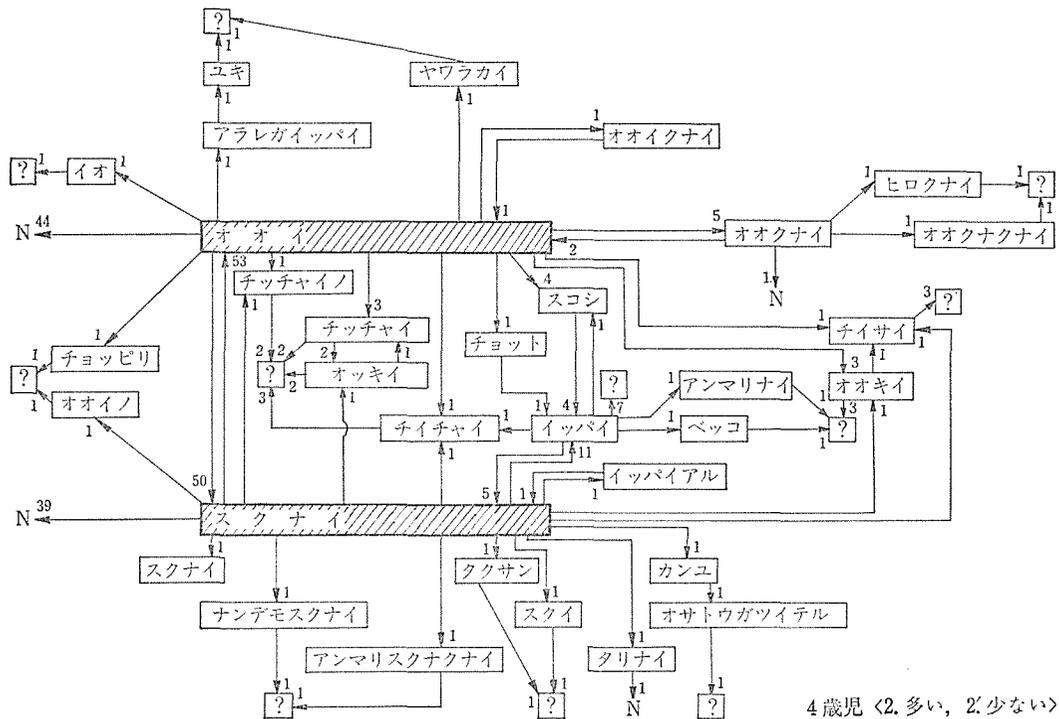
そこで以上のことを明らかにするための資料を得るために、性状語、時間・空間語の対語テストおよび動詞（Aテストに限る）の対語、対文テストにおける系の成立図を4歳児クラスと5歳児クラスとに分けて作成した。なお、時間・空間語のサークル・シリーズの単語の系に関しては取り扱わなかった。

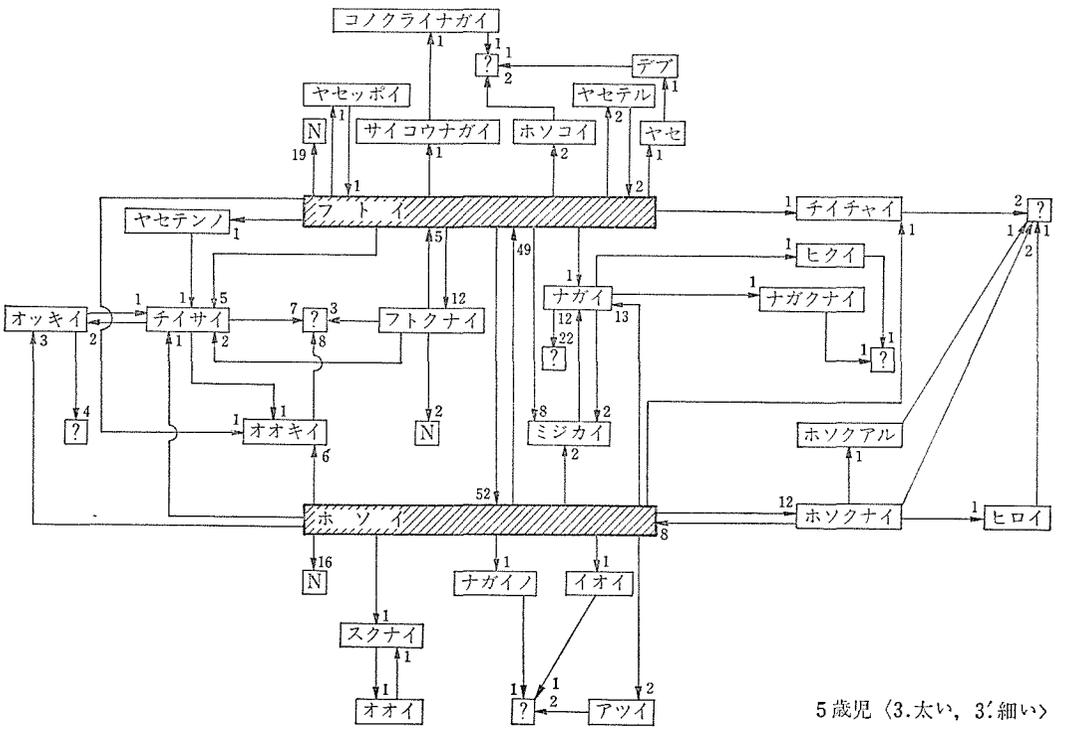
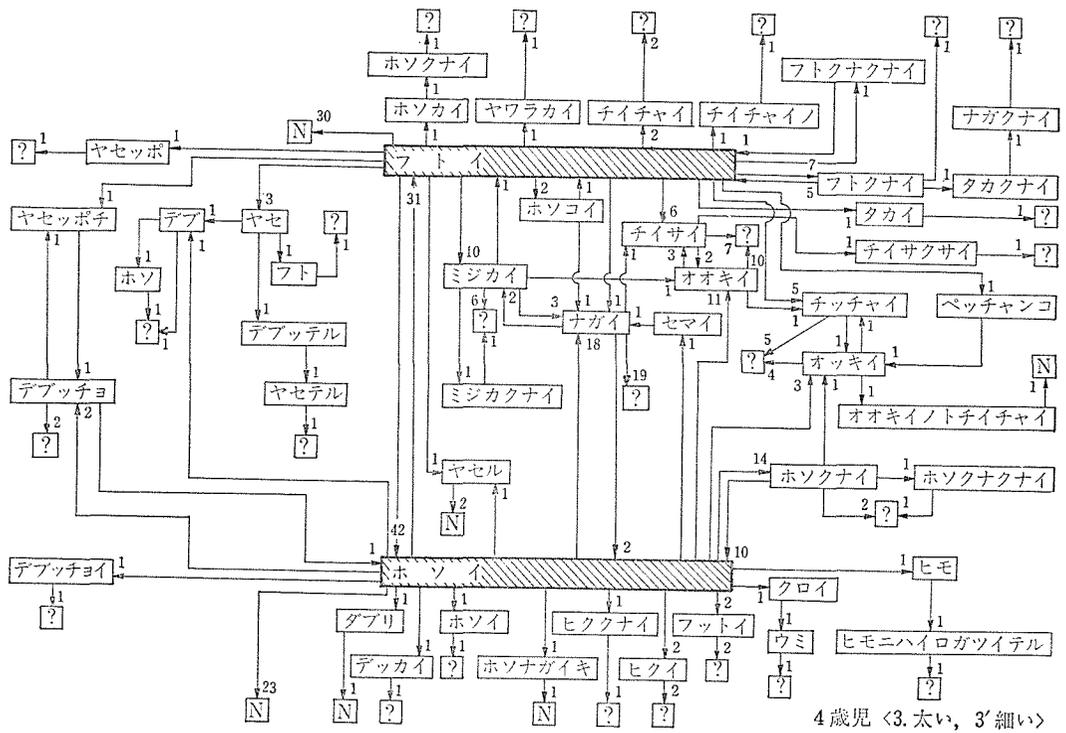
そして、質問はたとえば「大きいの反対は何？」と問い、「小さい」と答えれば、改めて必要な実施手順間隔を置いて、「小さいの反対は何？」と問う。それが「小さくない」と答えれば、「小さくないの反対は何？」と問いかけ、その被験者にとって充足した系の成立が得られるまで、テストがくりかえされていくという手続きである。ただし、被験者が「知らない」「分からない」（N反応）と答えたり、無答（?反応）だったりすればそこでテストは終わる。

ここにあげた諸図を基に、被験者ごとにその反応をマークしていけば、反応類型が明らかにされることになる。なお、各図の反応人数は数字で示してあるが、本調査の被験者のほかに、特にこの調査のために若干名が加えられている。

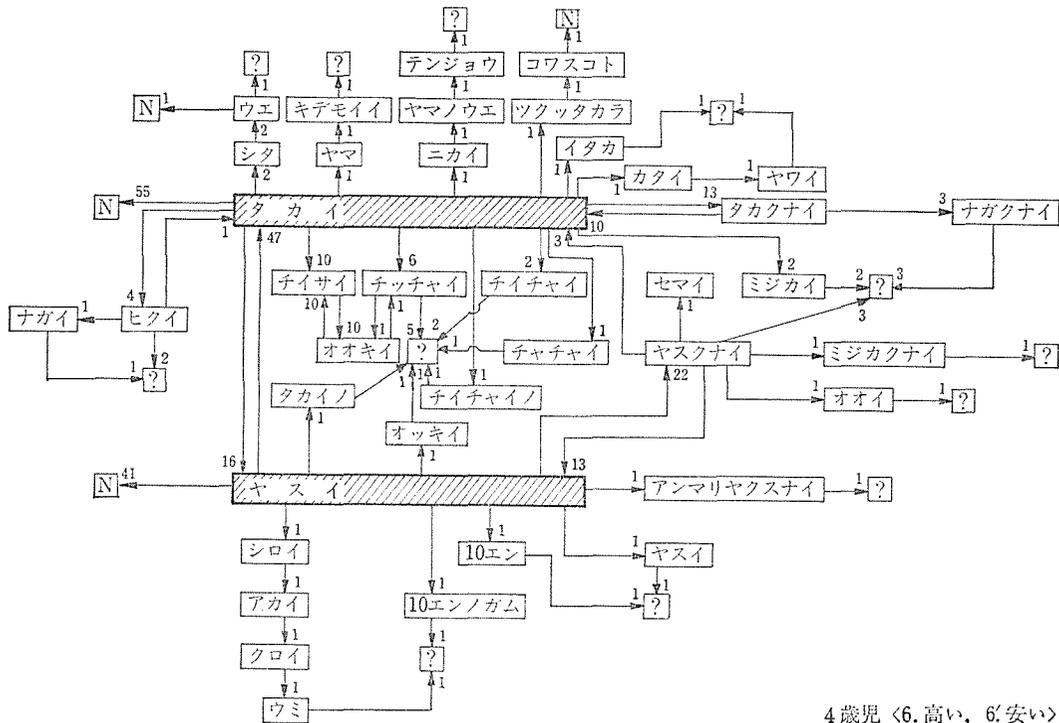
1. 性状語



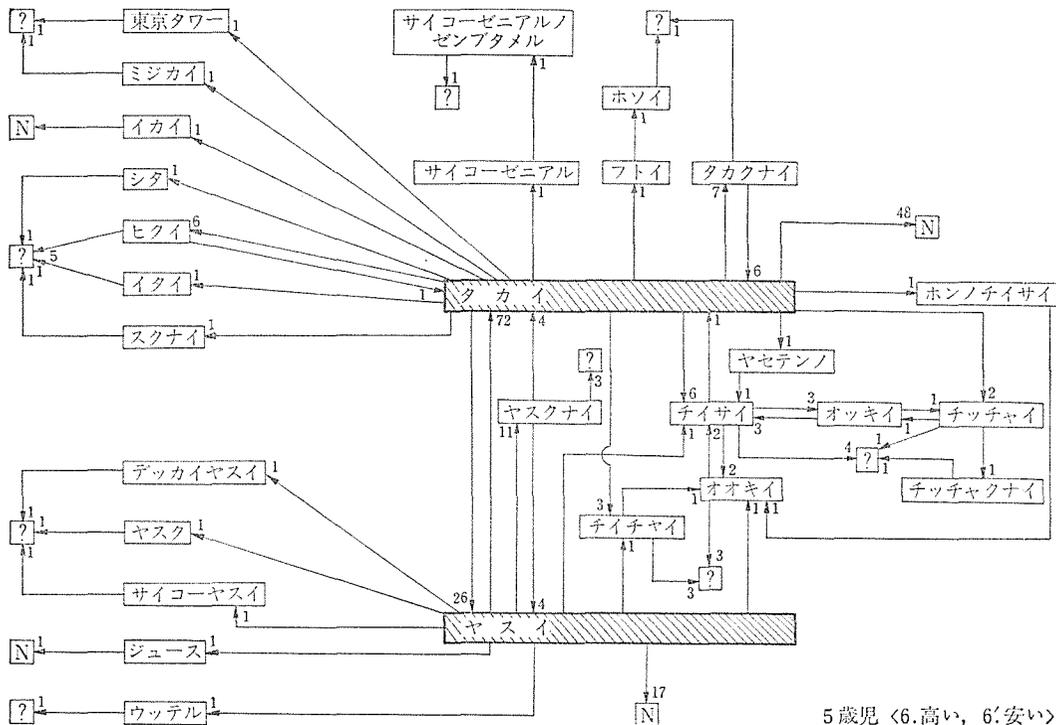






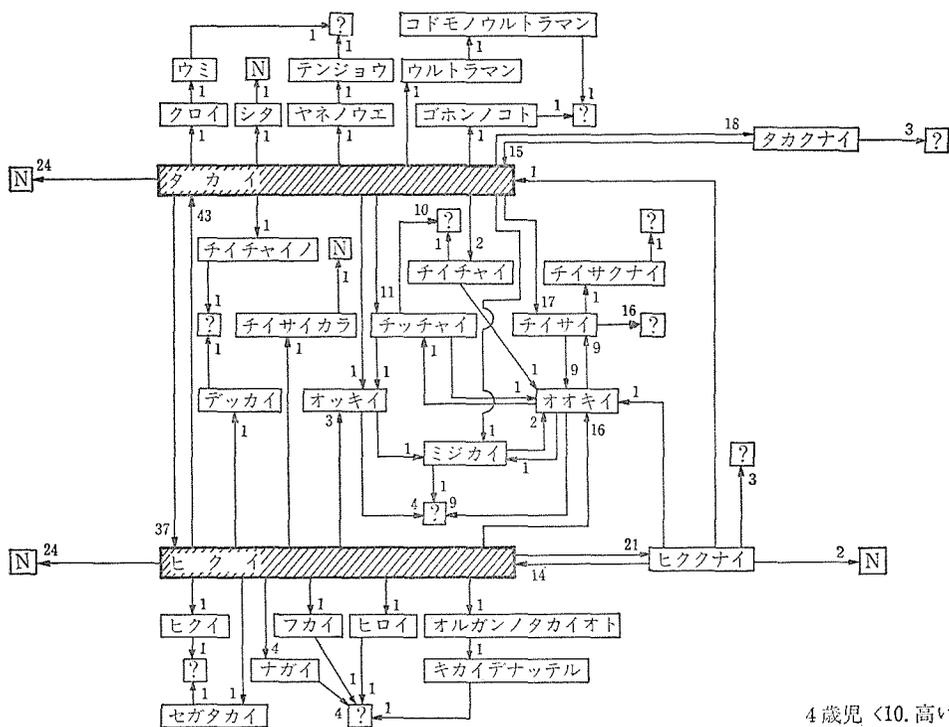


4歳児 <6.高い, 6'安い>

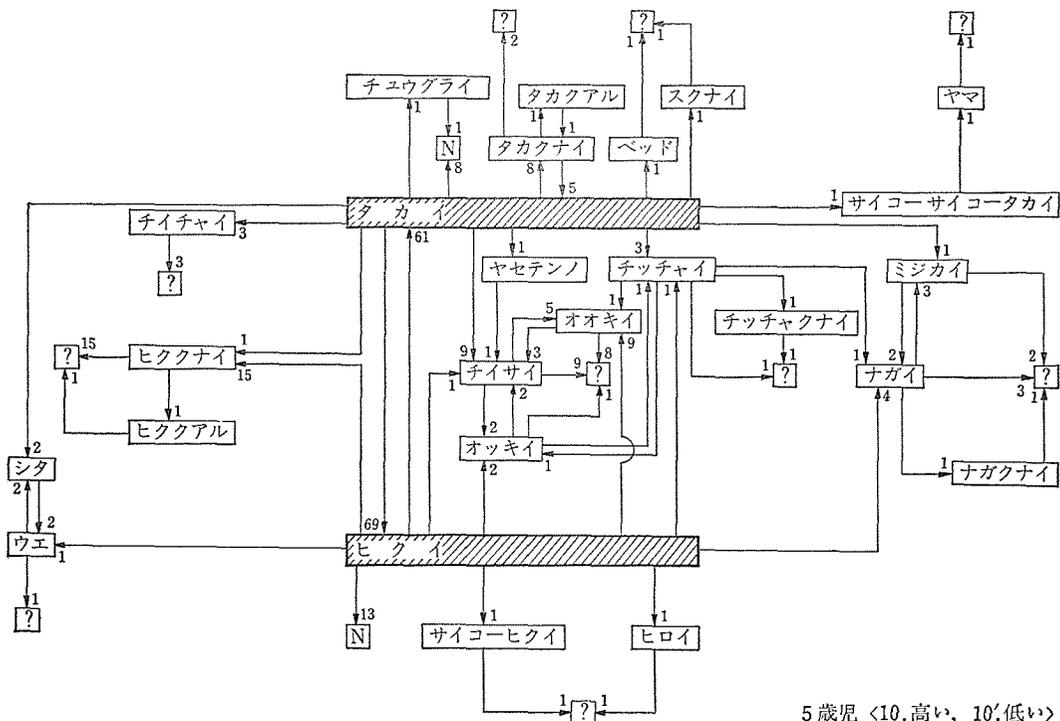


5歳児 <6.高い, 6'安い>

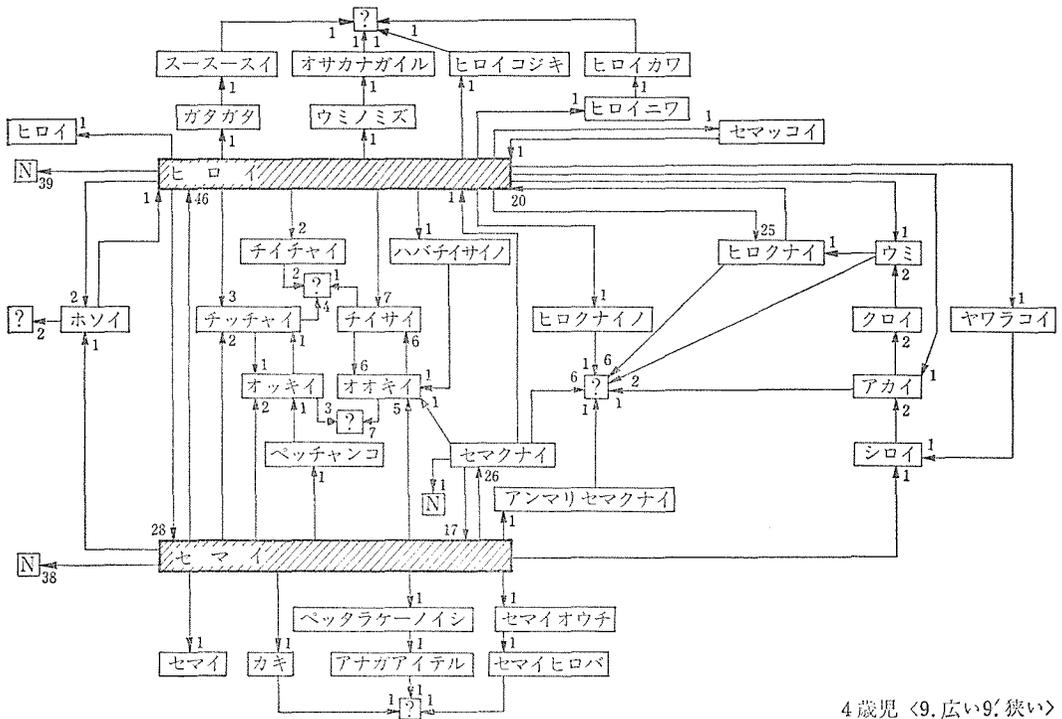




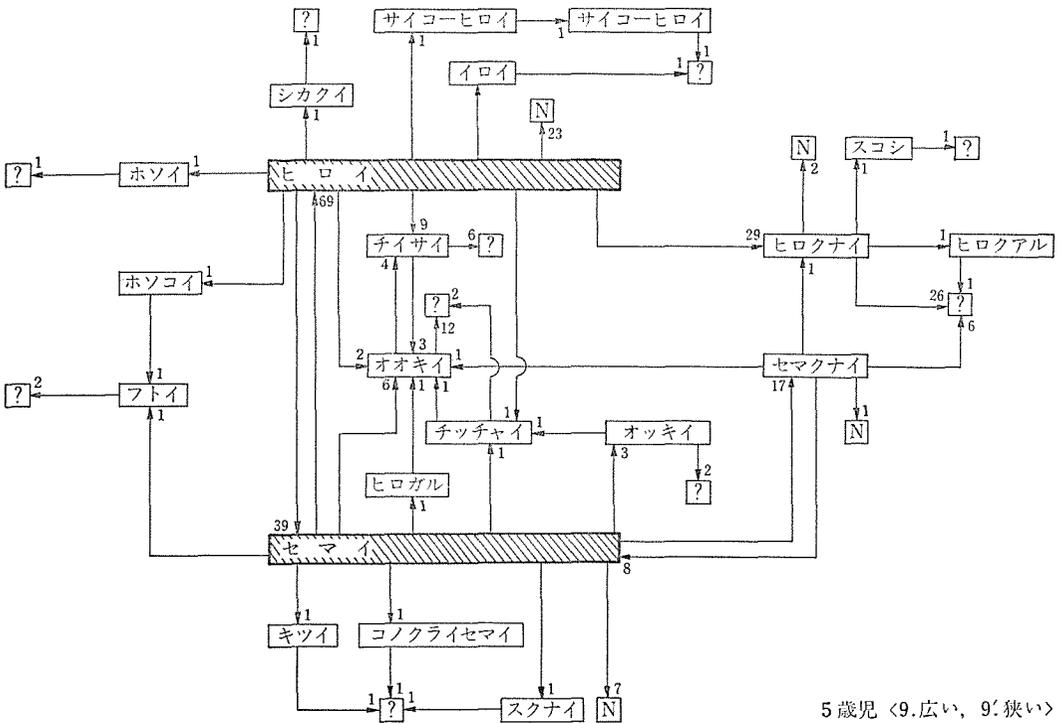
4歳児 <10.高い, 10'低い>



5歳児 <10.高い, 10'低い>

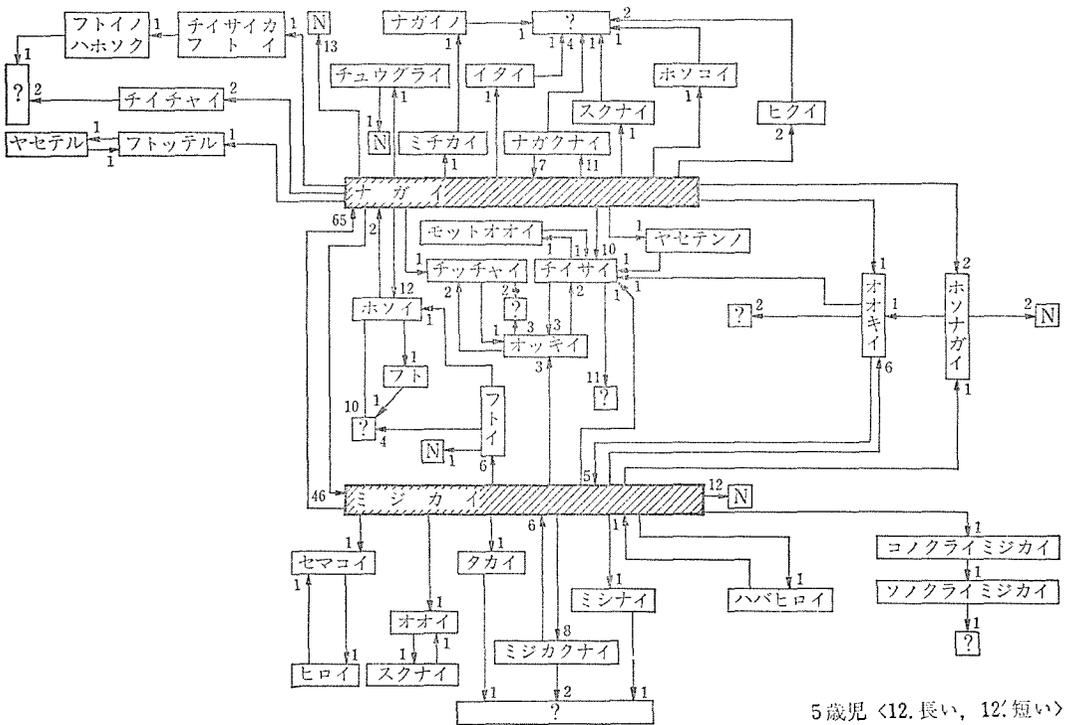
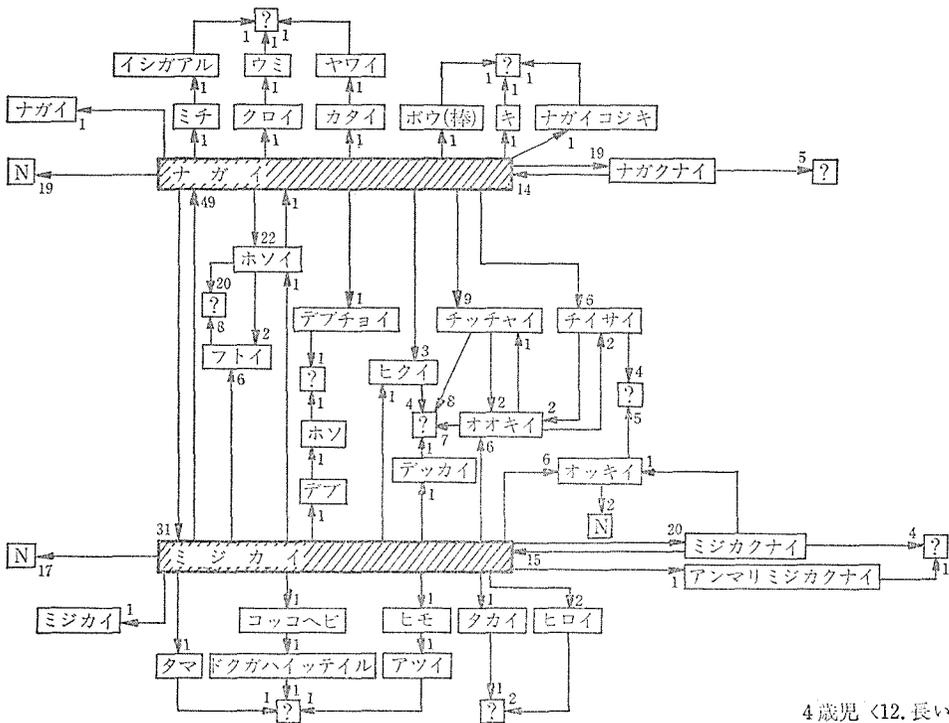


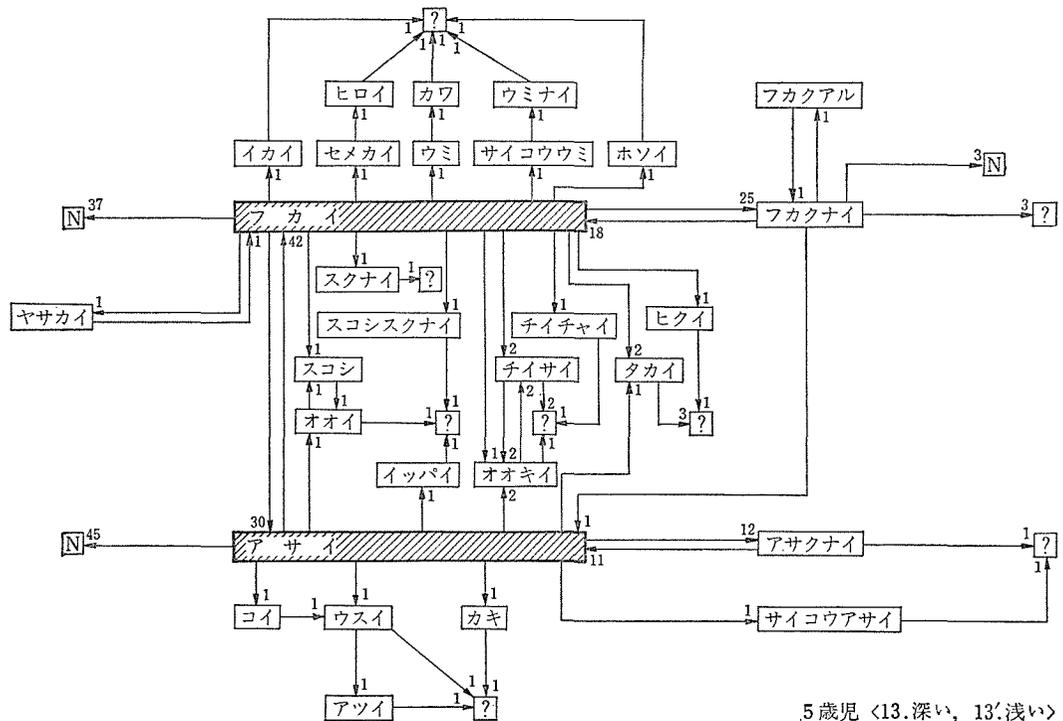
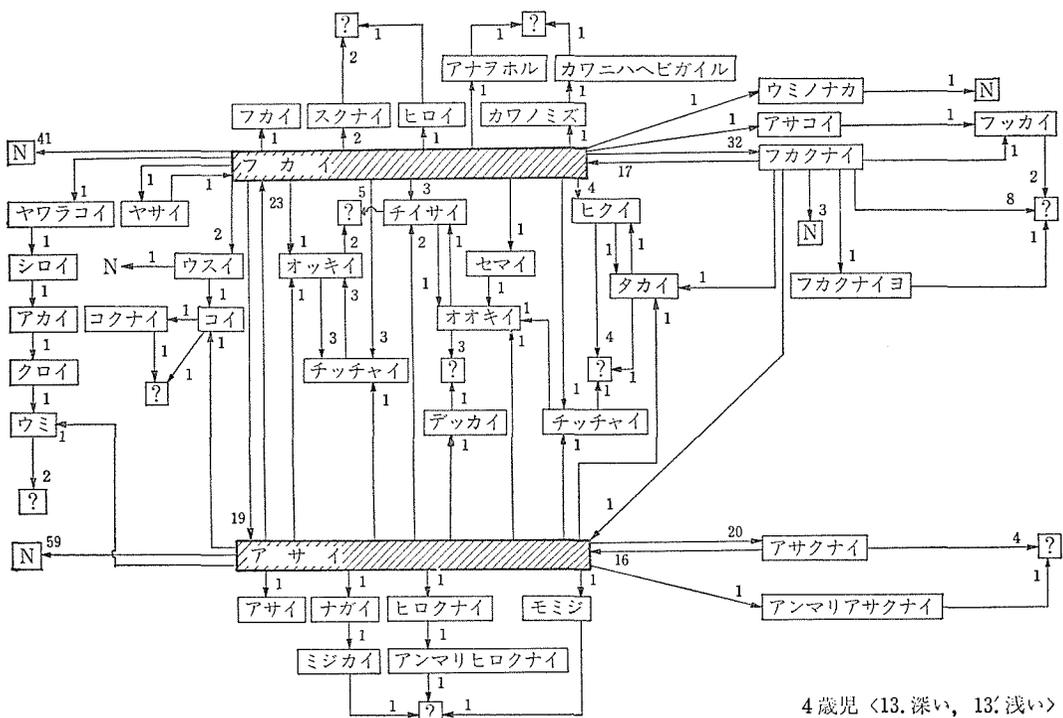
4 歳児 <9. 広い 9' 狭い>



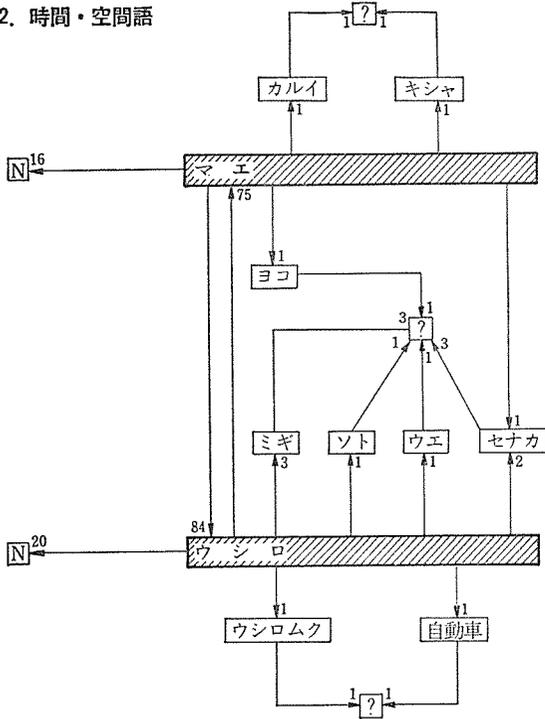
5 歳児 <9. 広い, 9' 狭い>



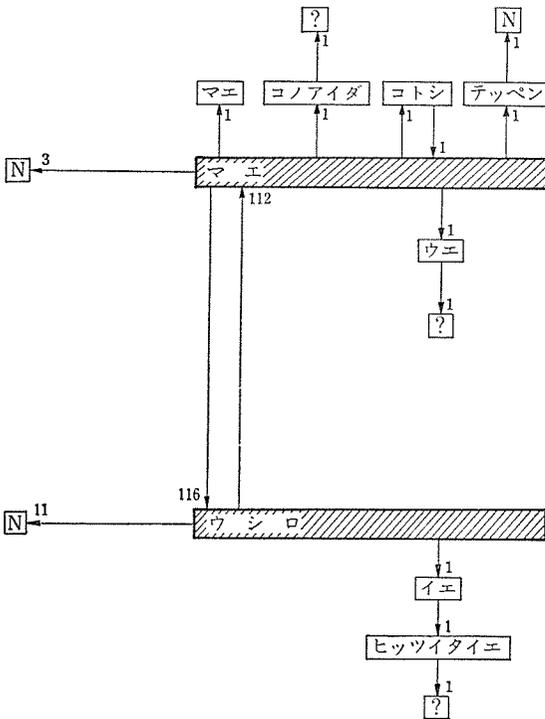




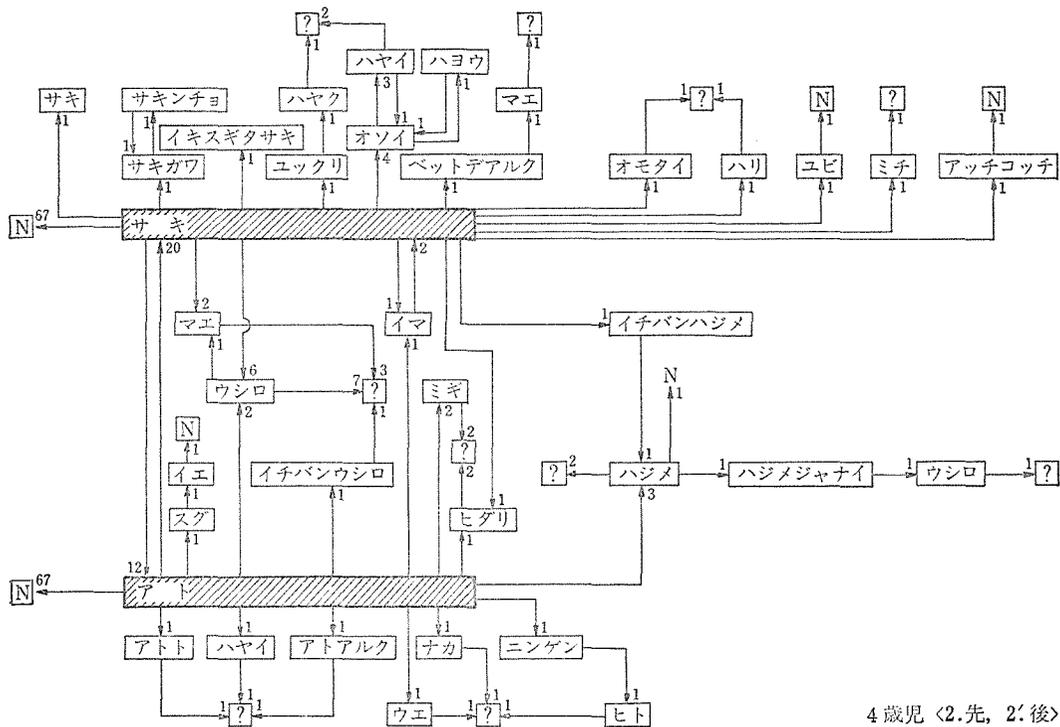
2. 時間・空間語



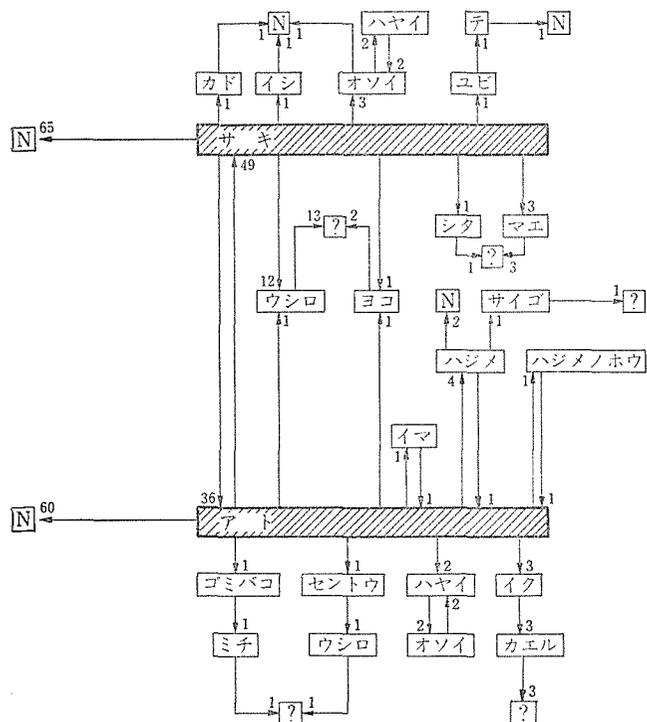
4 歳児 <1.前, 1'後ろ>



5 歳児 <1.前, 1'後ろ>

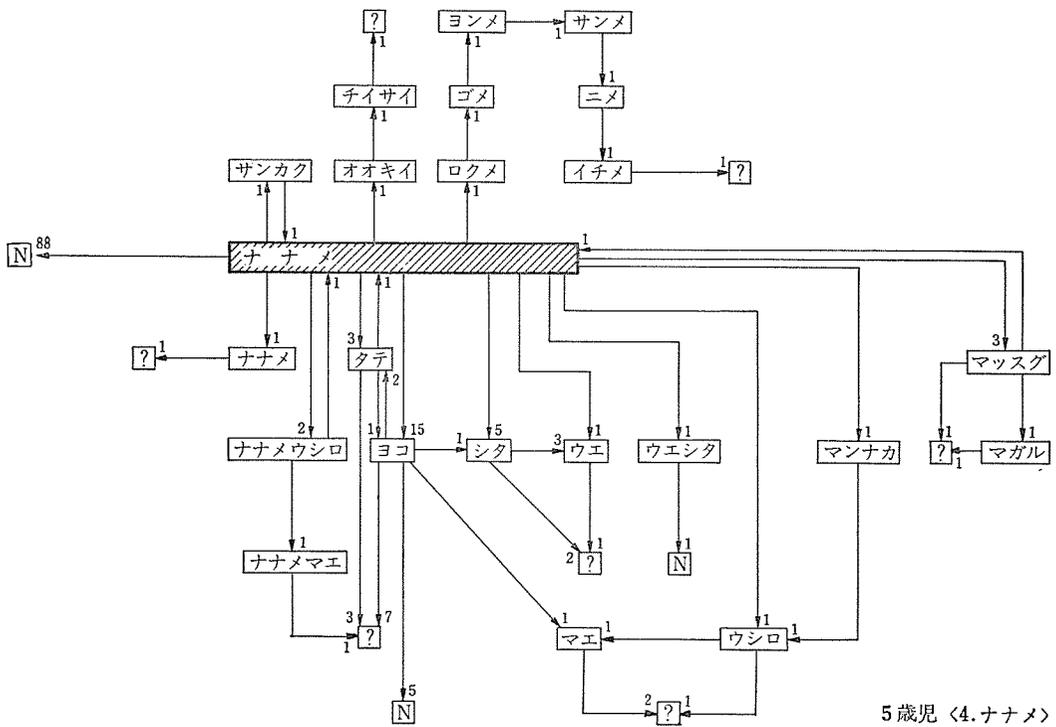
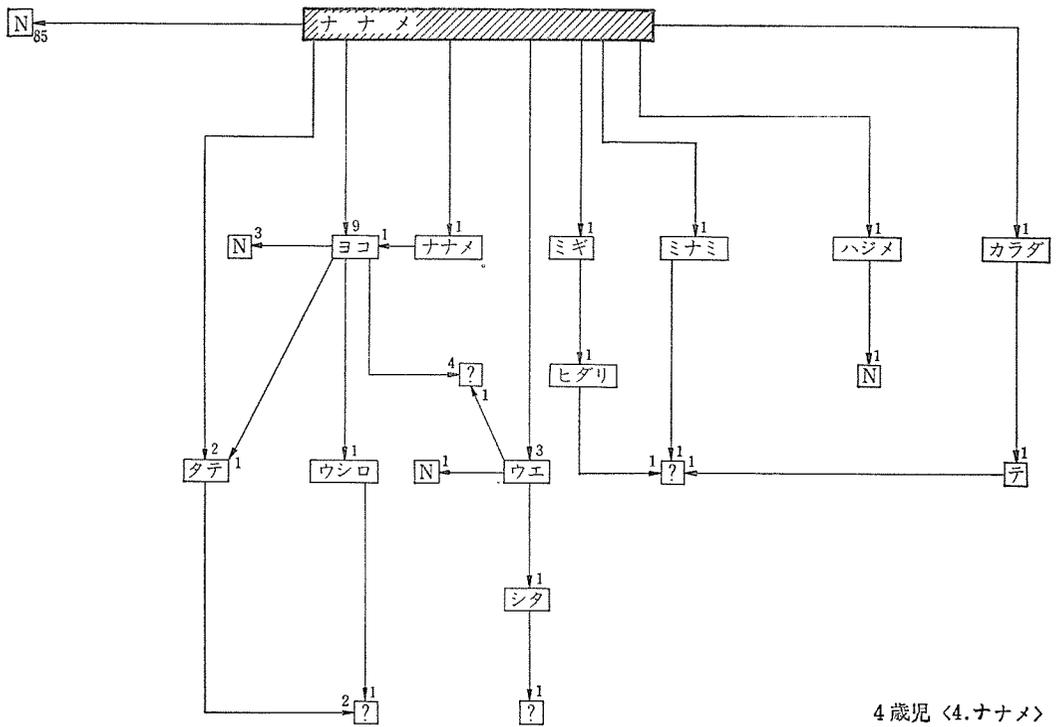


4 歳児 <2.先, 2'後>

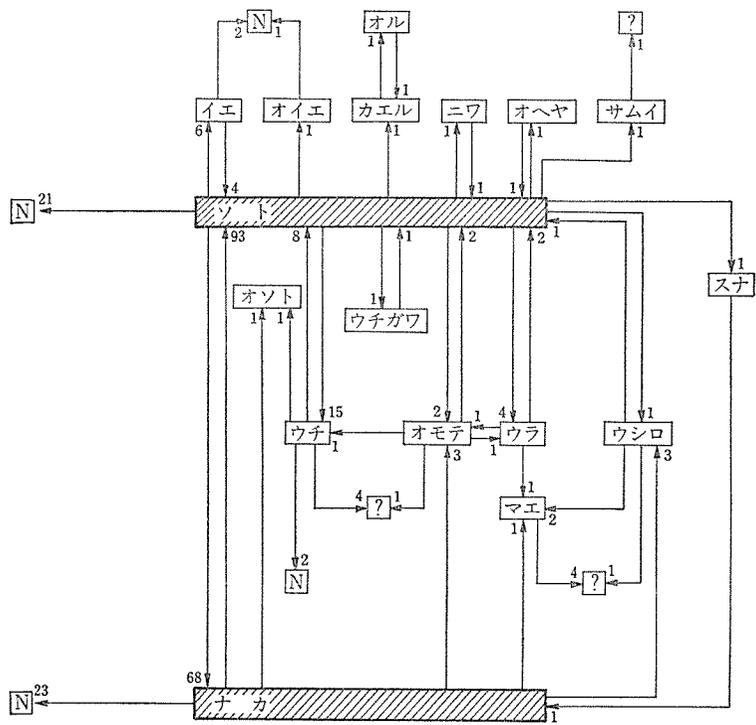
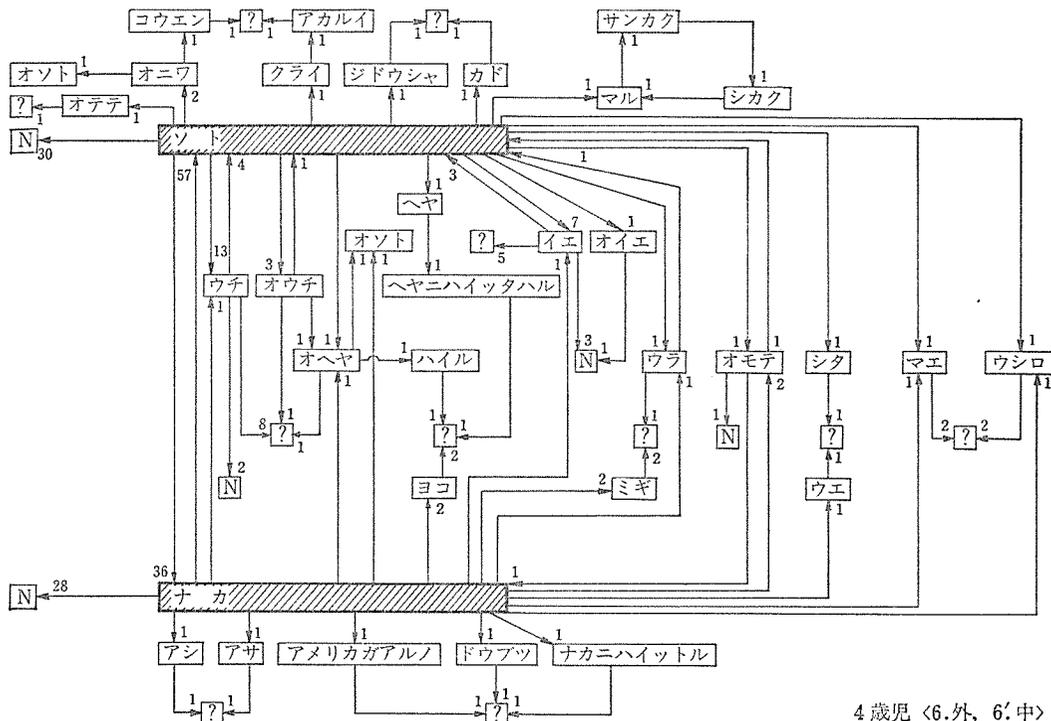


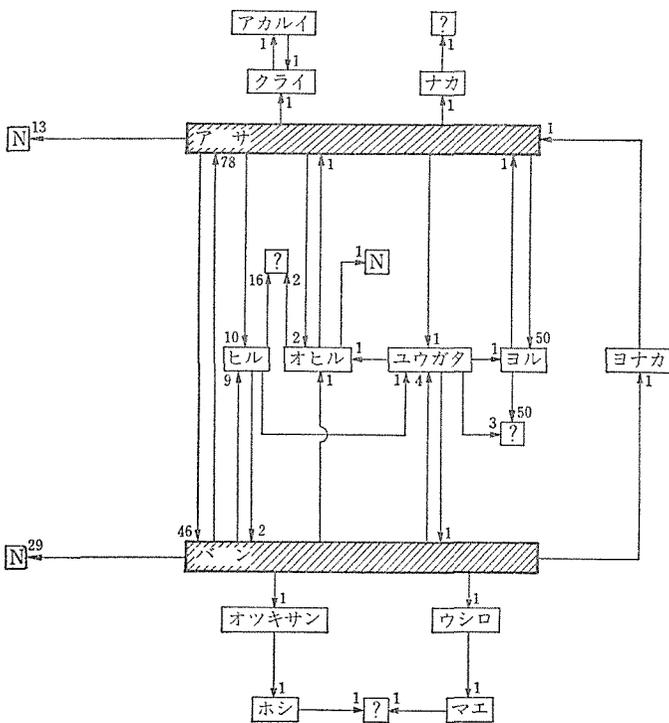
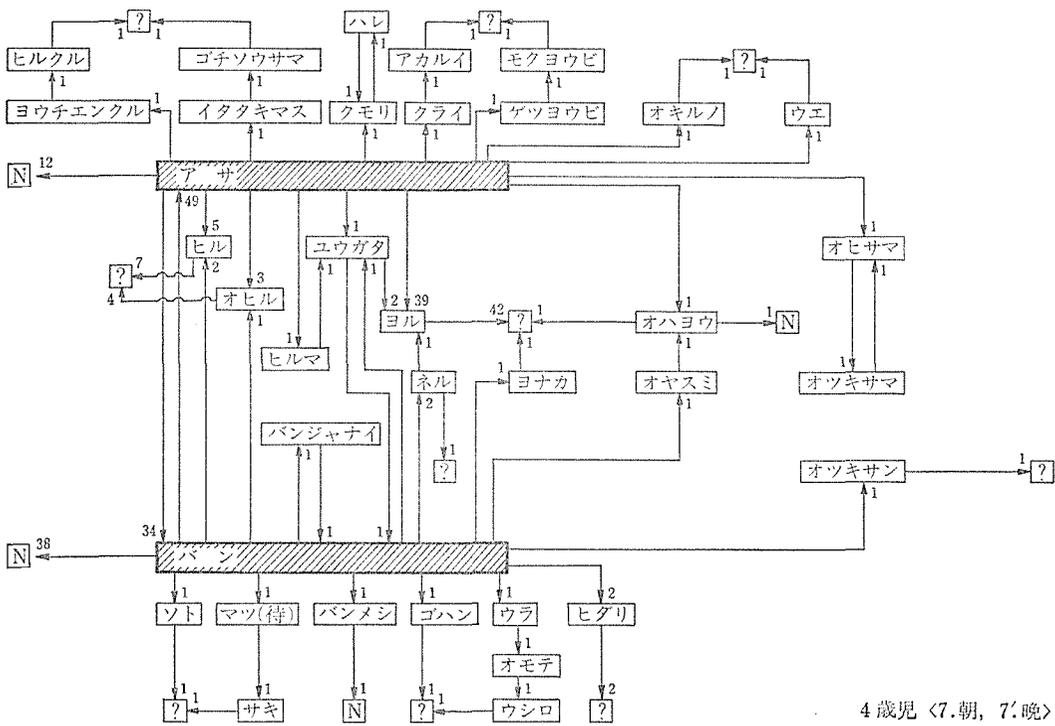
5 歳児 <2.先, 2'後>

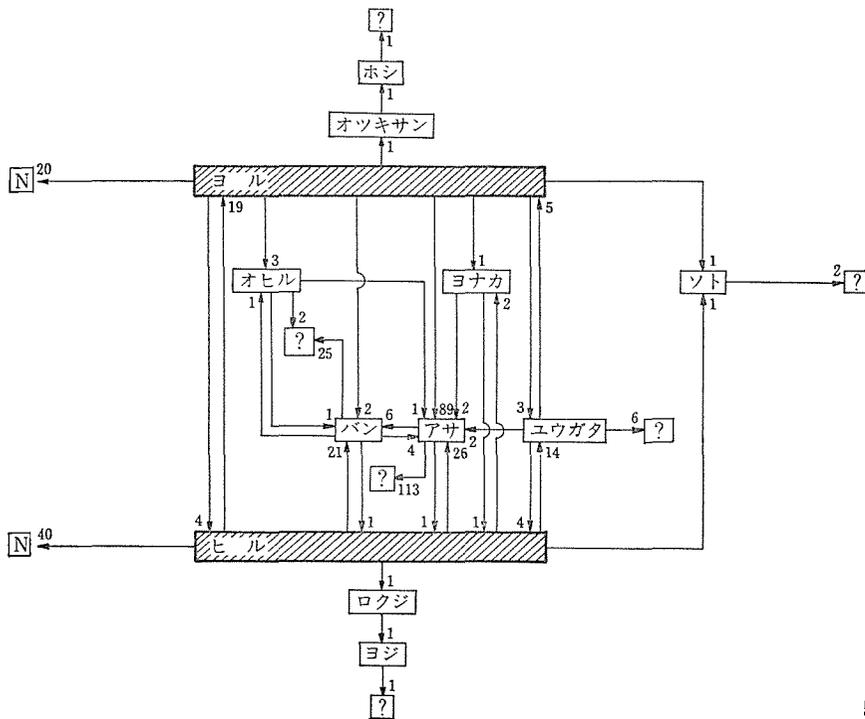
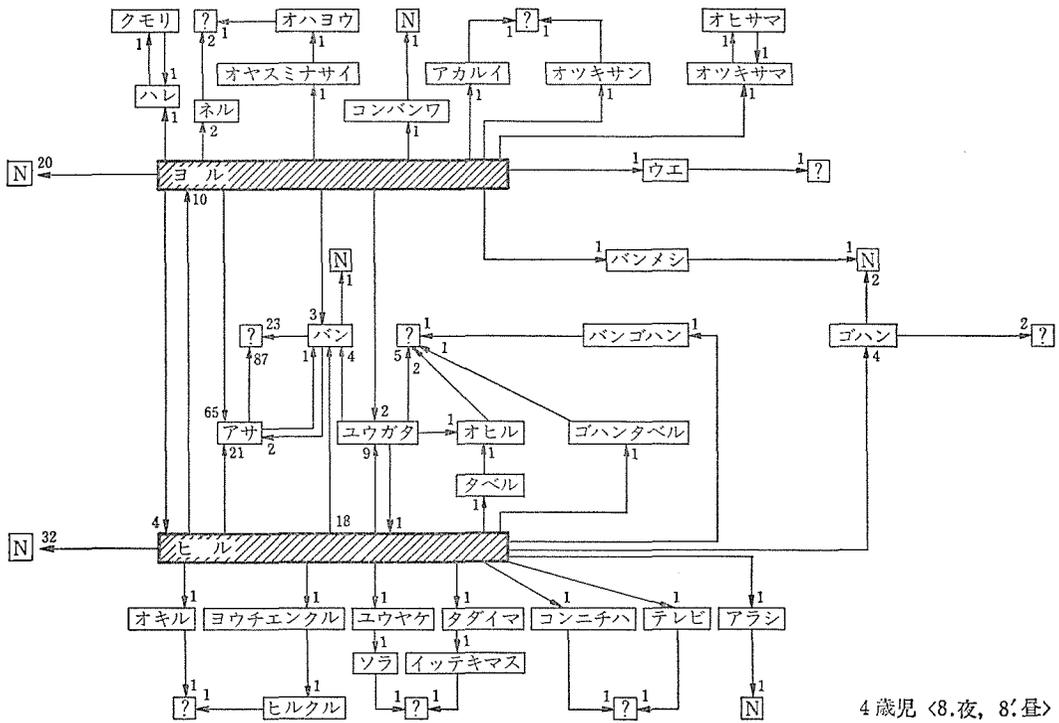


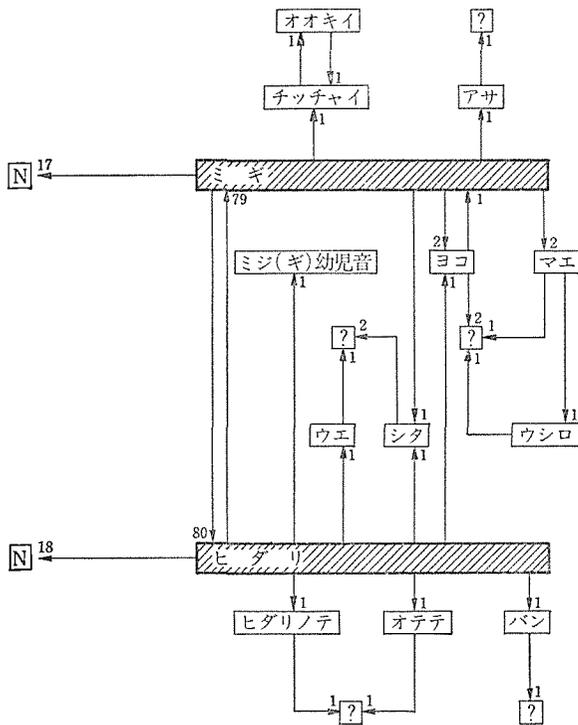




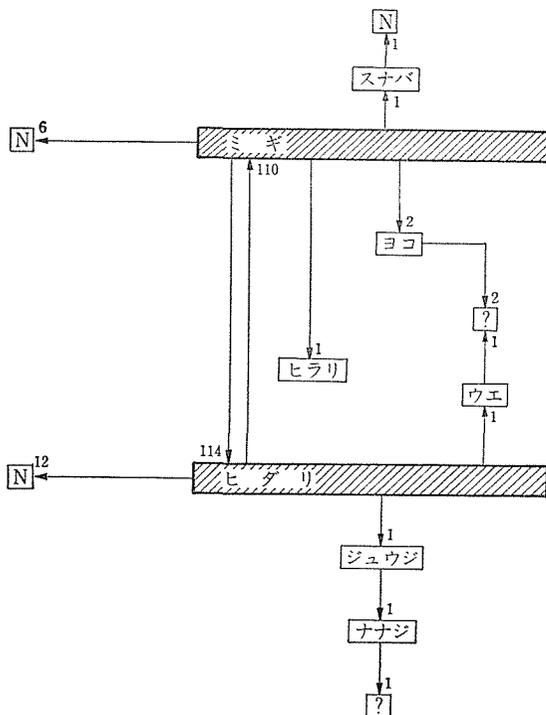




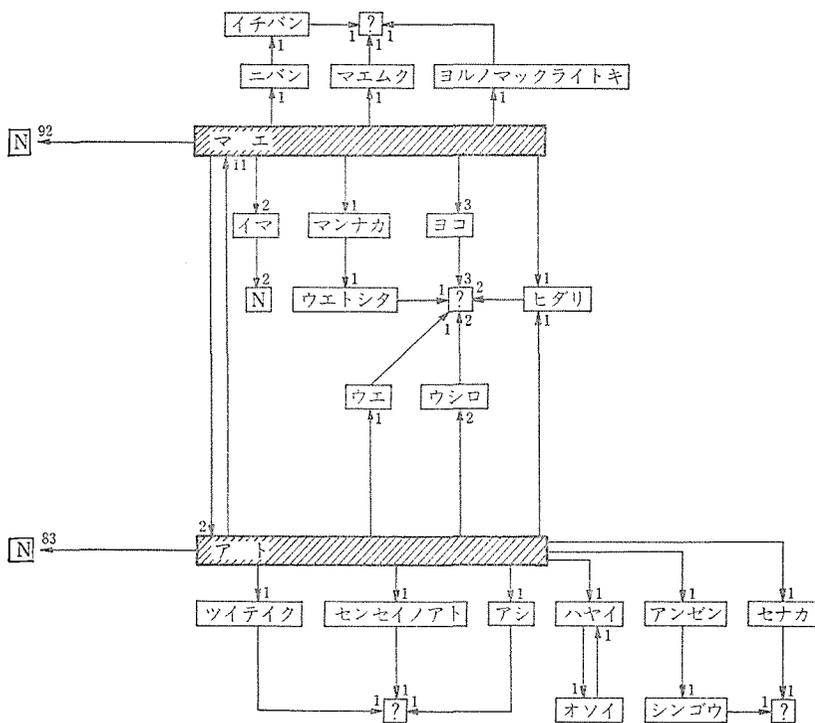




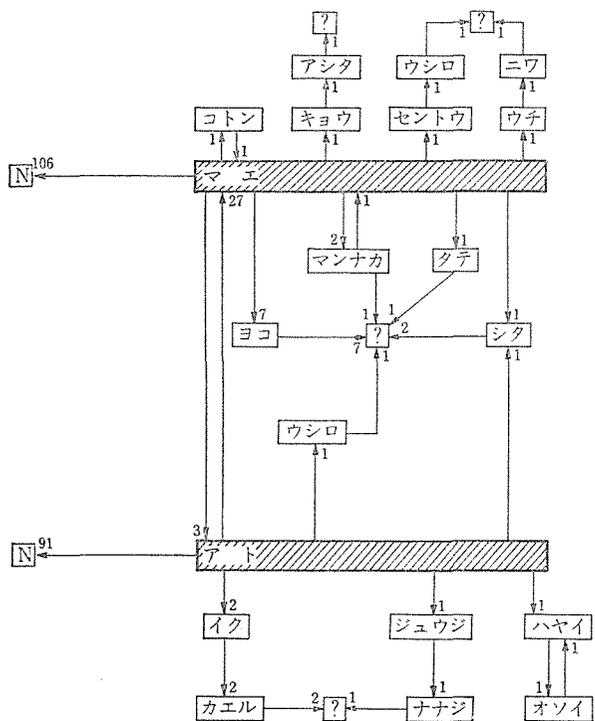
4 歳児 <9.右, 9.左>



5 歳児 <9.右, 9.左>

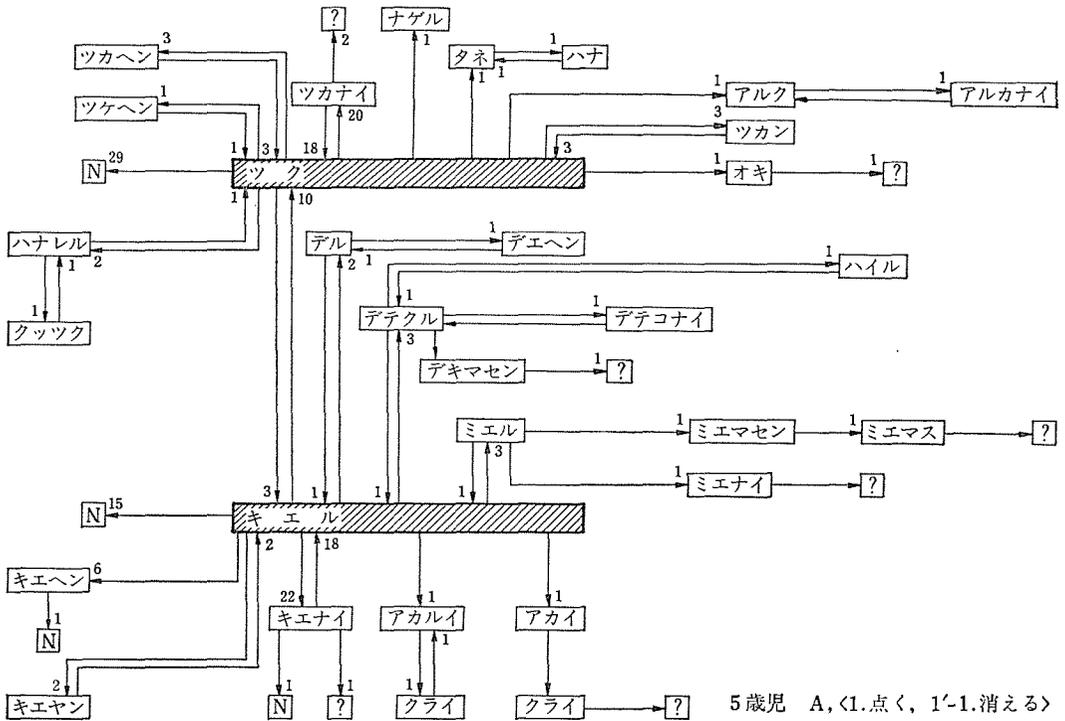
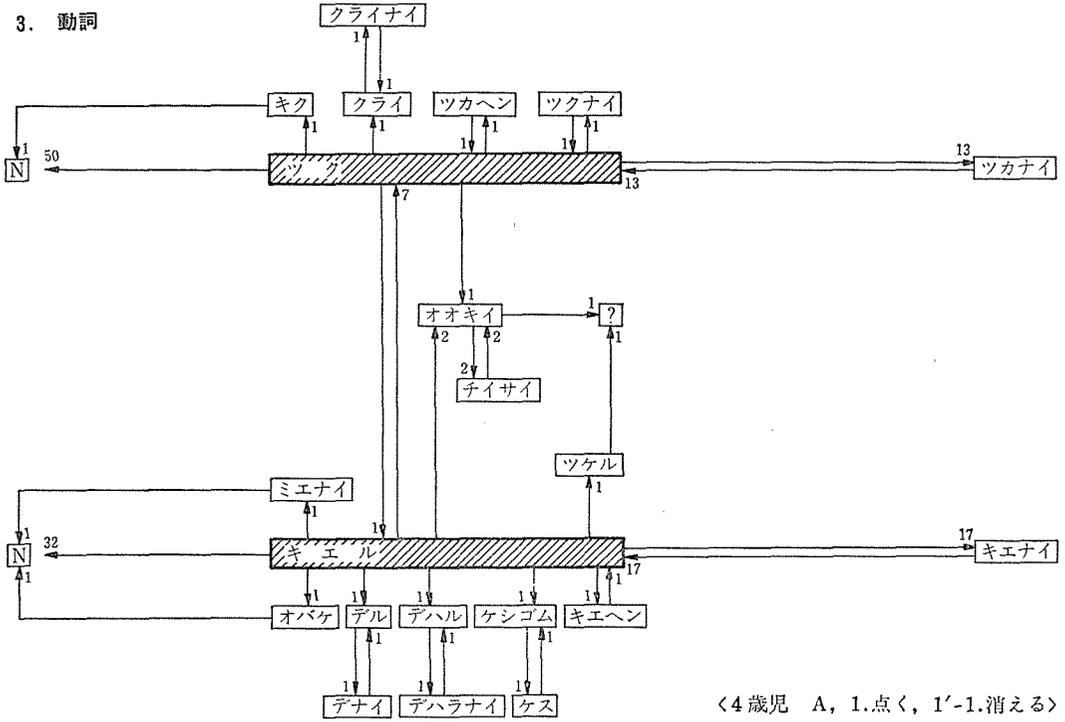


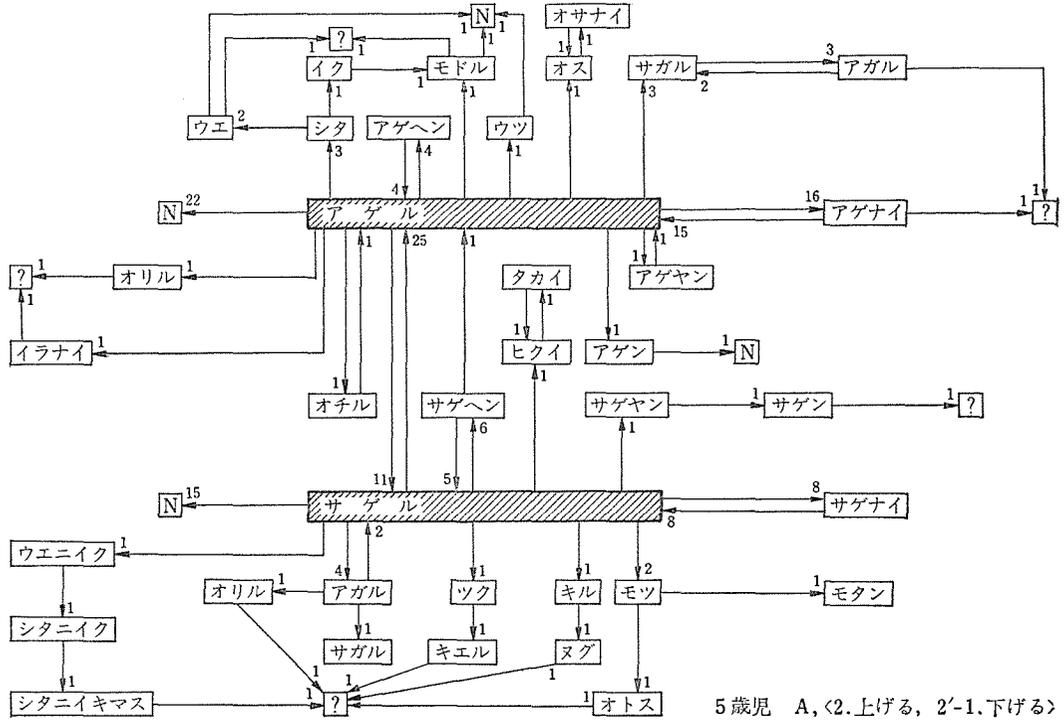
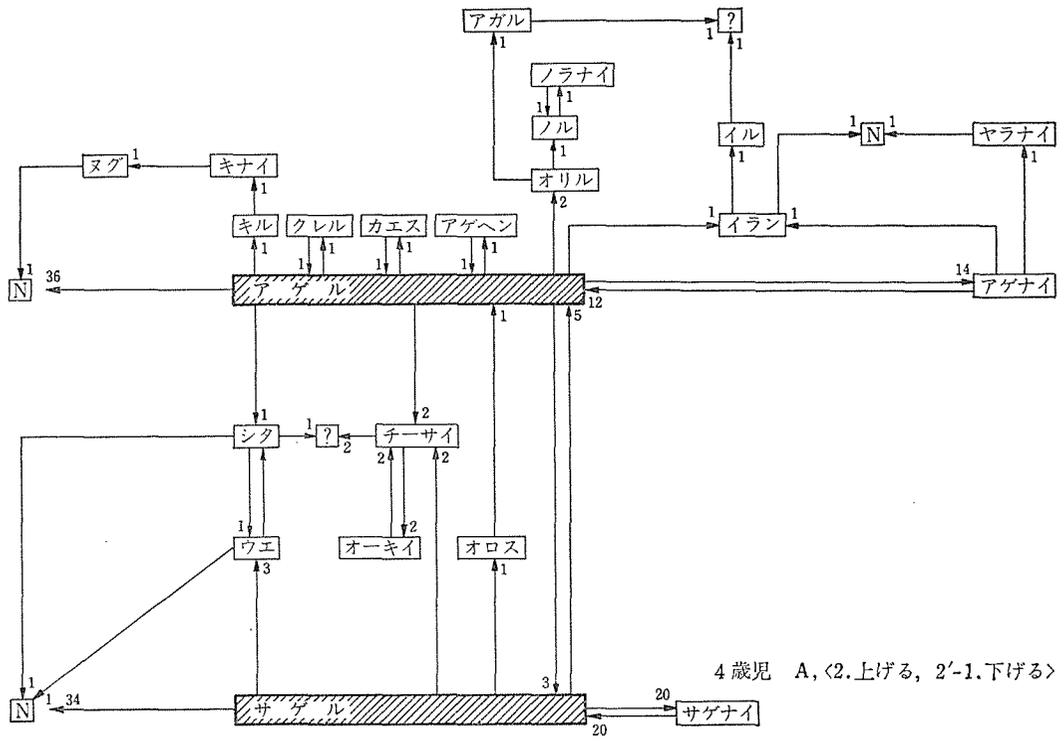
4 歳児 <10.前, 10.後>

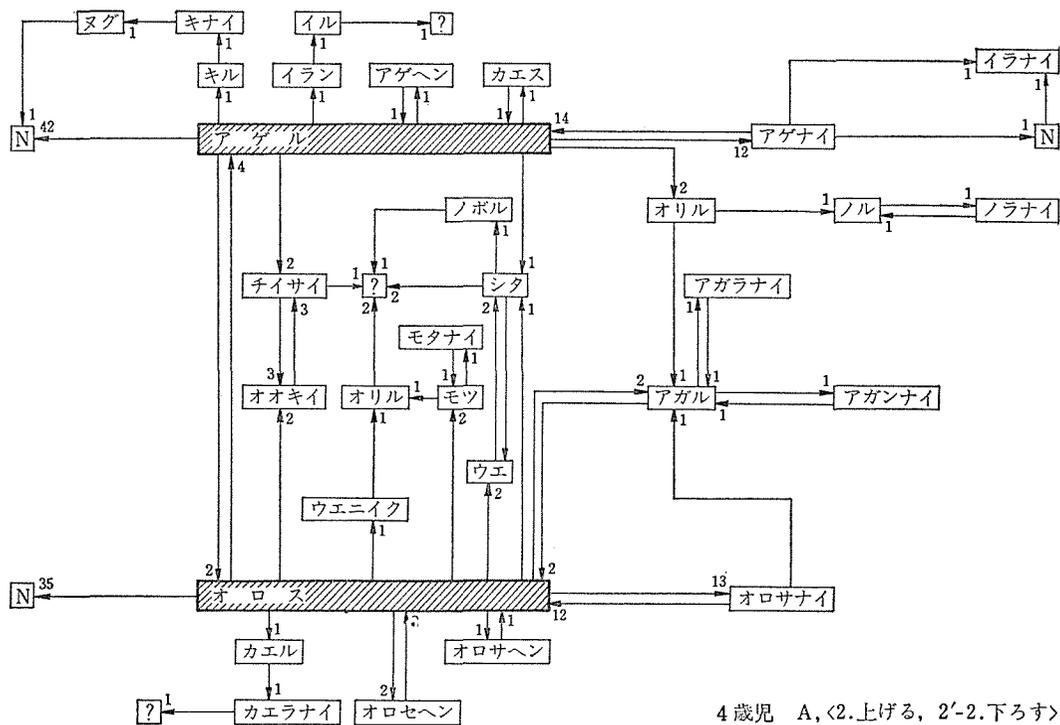


5 歳児 <10.前, 10.後>

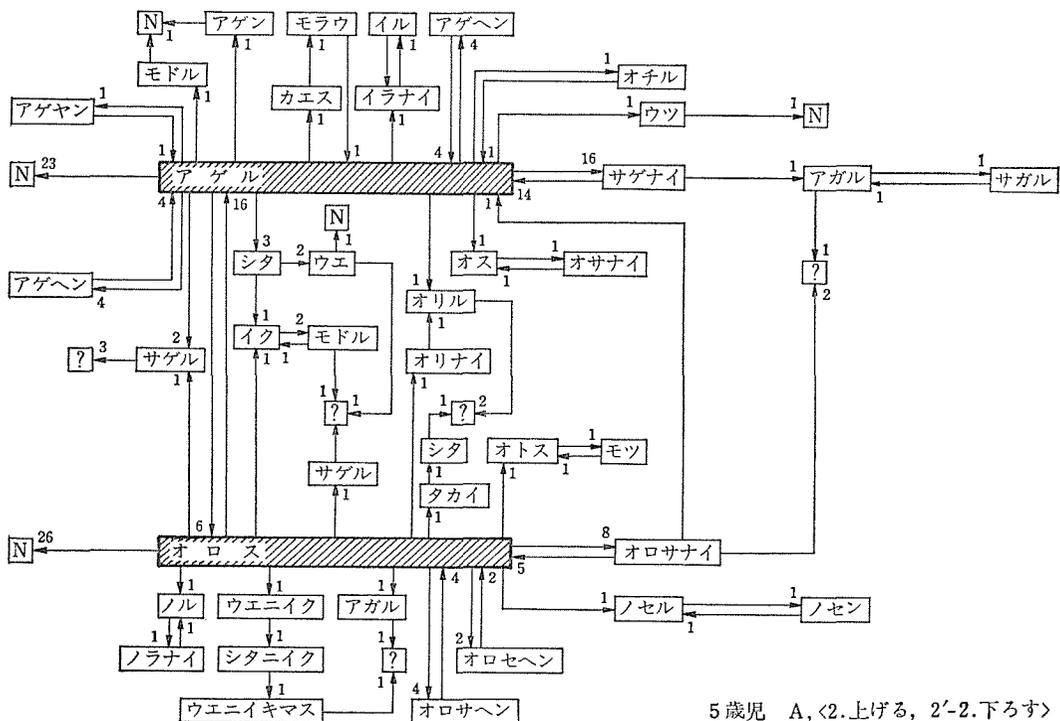
3. 動詞





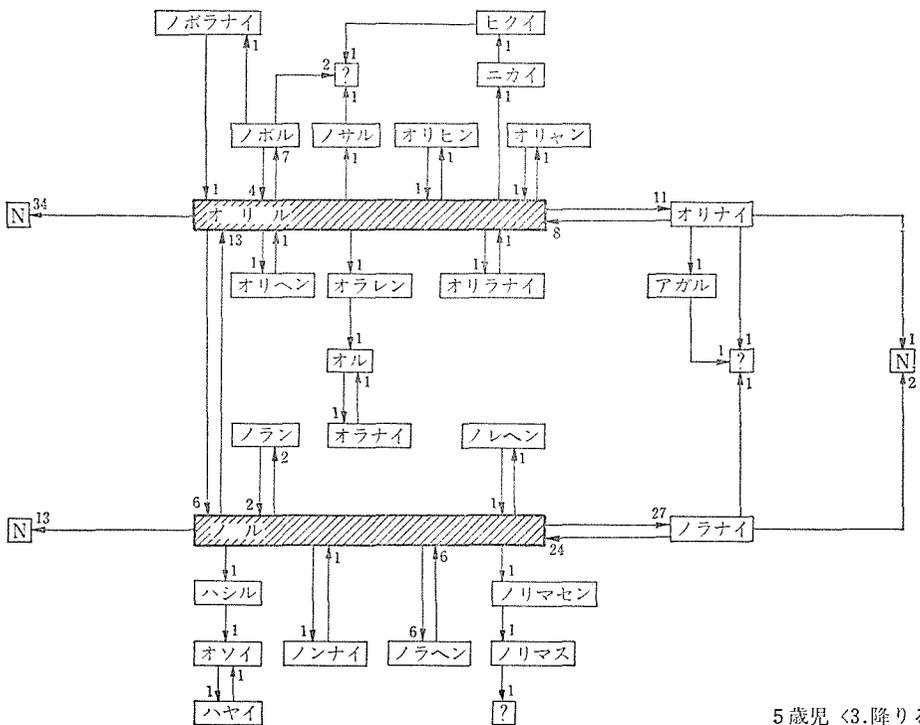
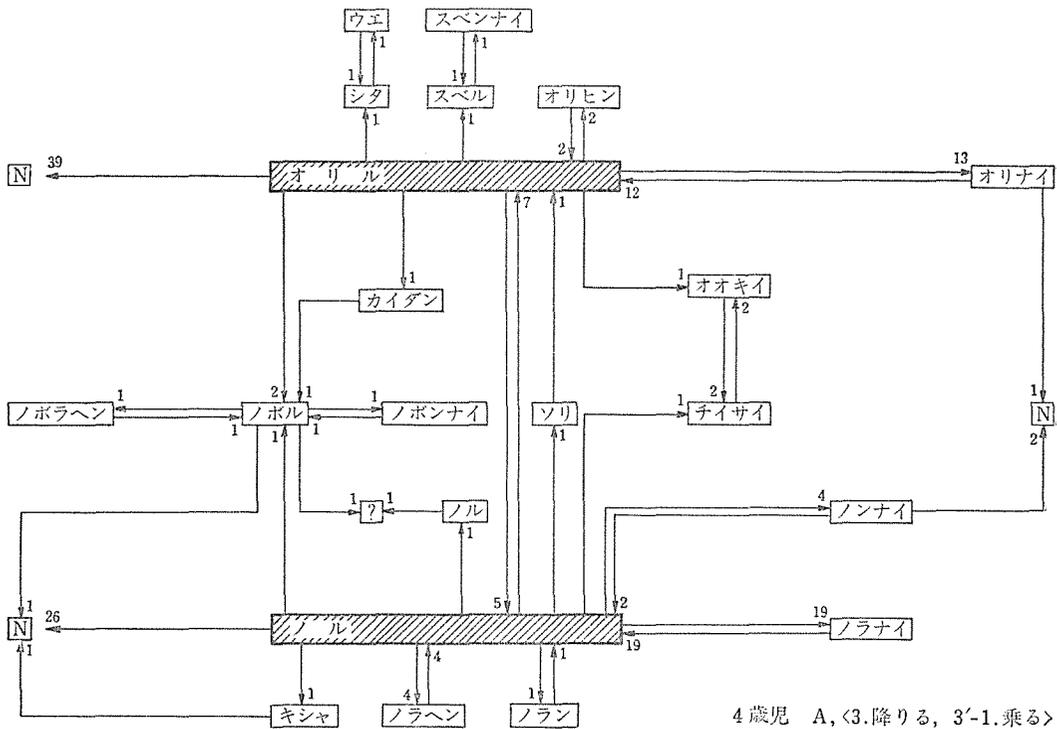


4歳児 A, <2.上げる, 2'-2.下ろす>

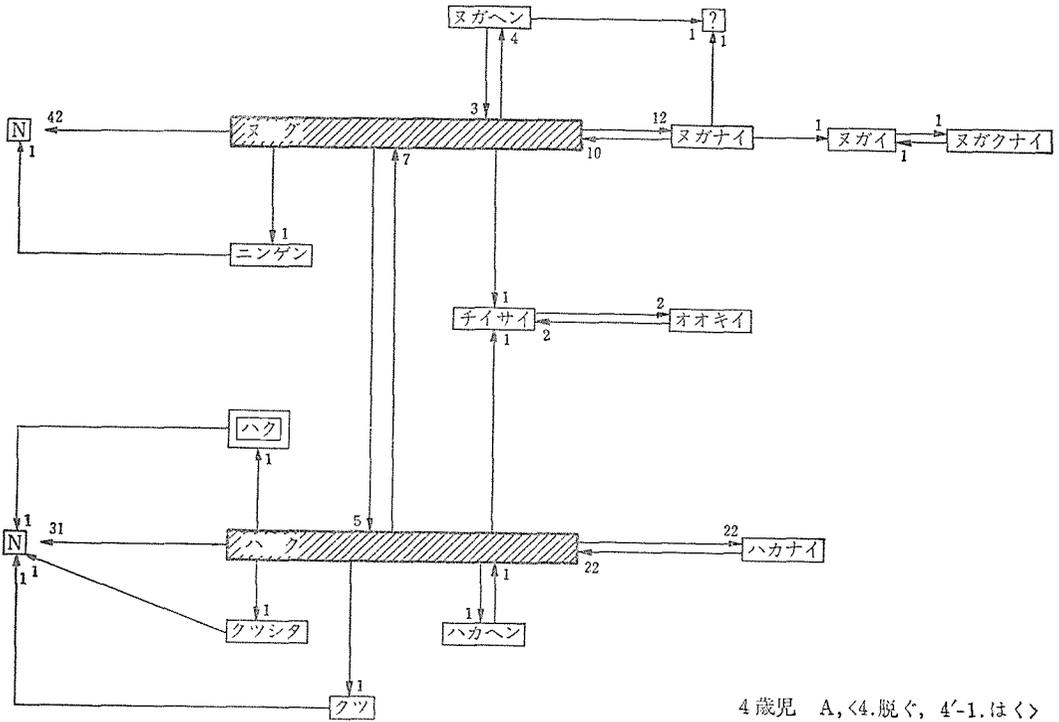


5歳児 A, <2.上げる, 2'-2.下ろす>

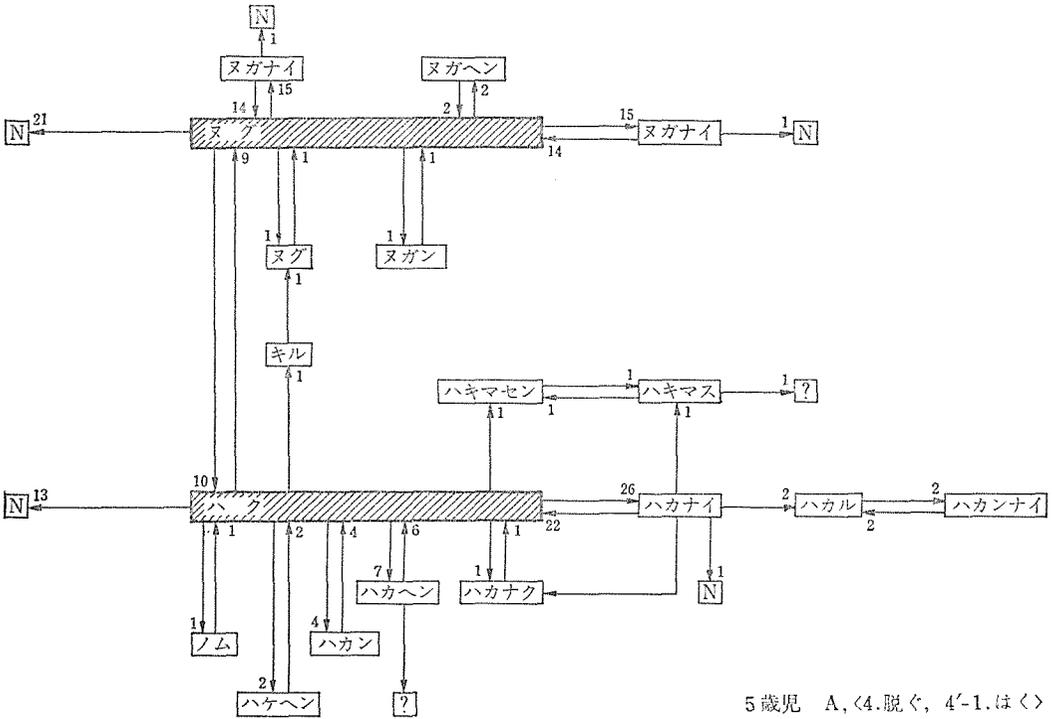




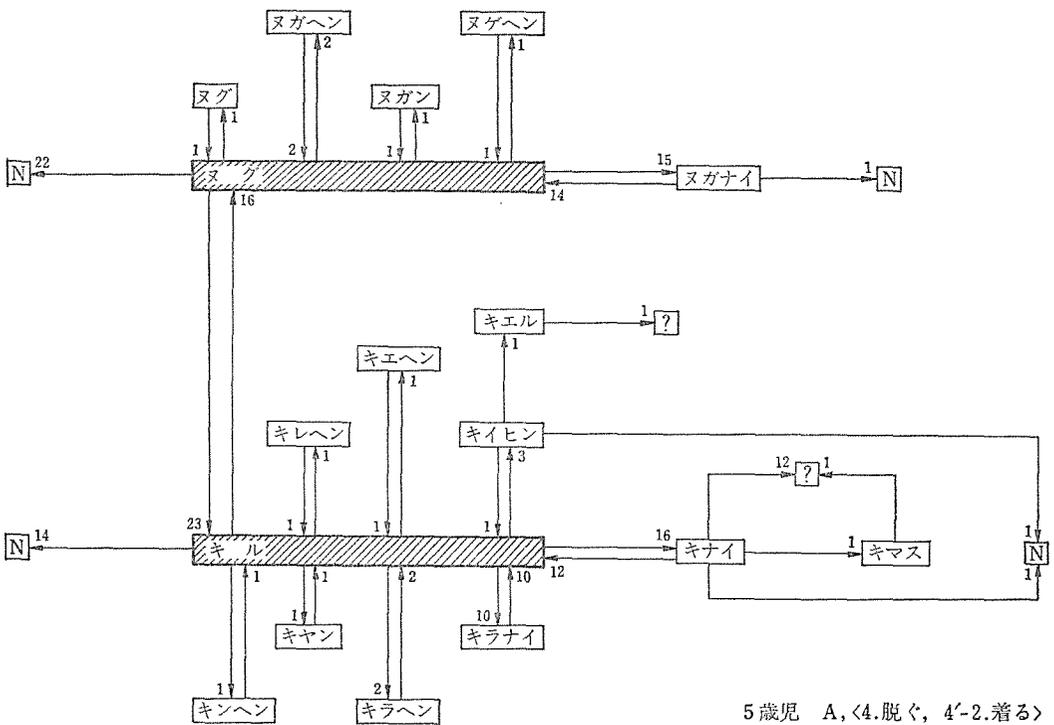
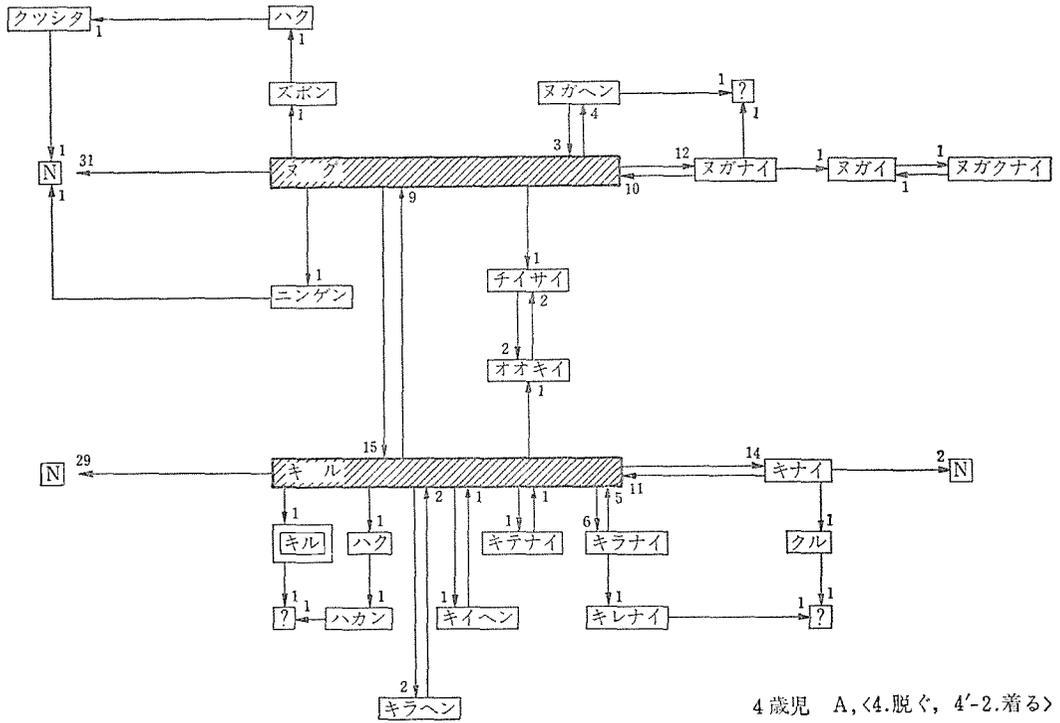


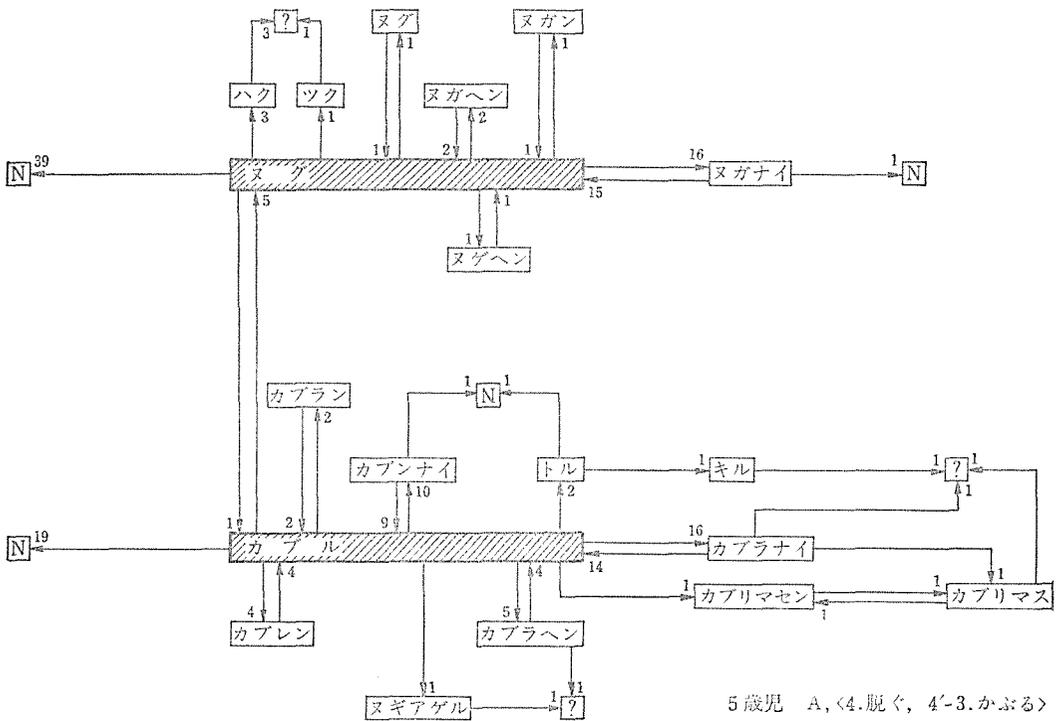
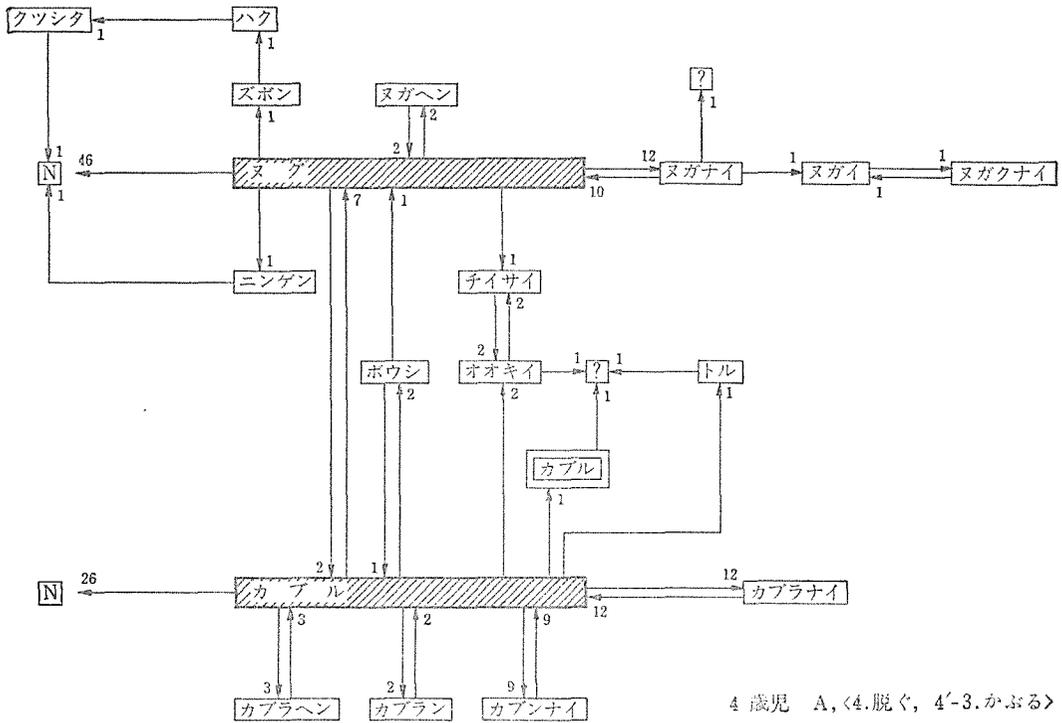


4歳児 A, <4.脱ぐ, 4'-1.はく>

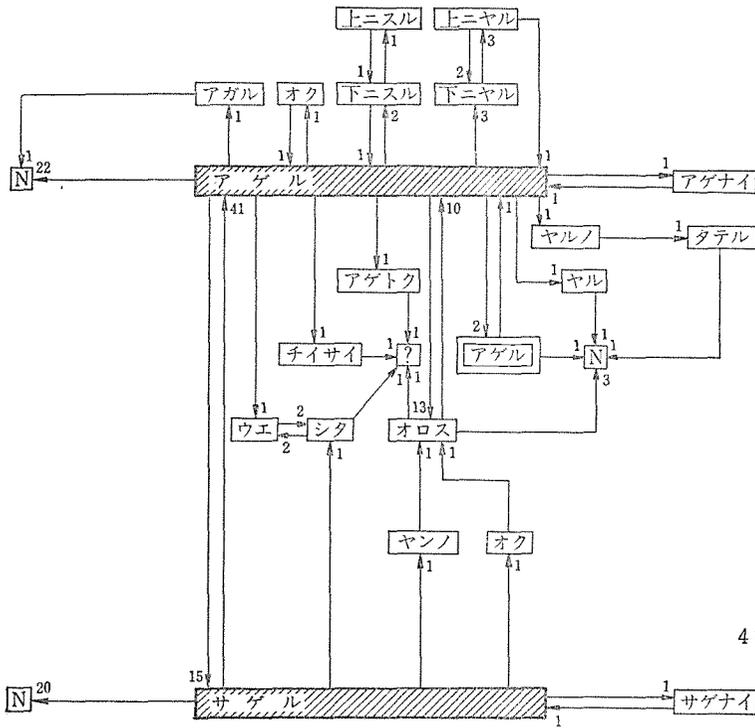


5歳児 A, <4.脱ぐ, 4'-1.はく>

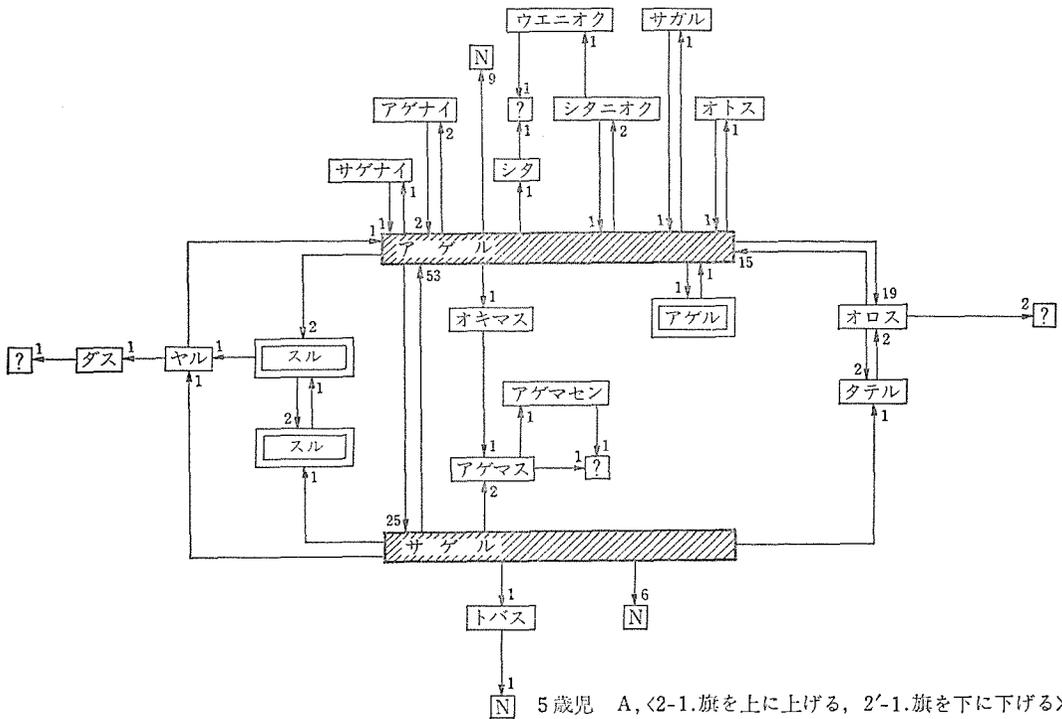




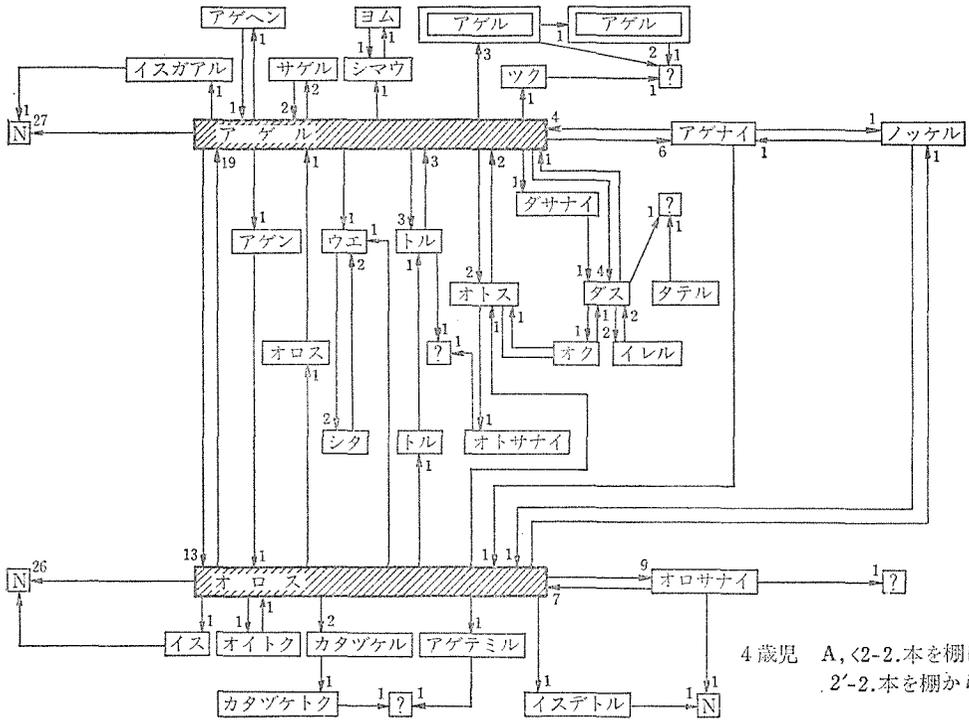




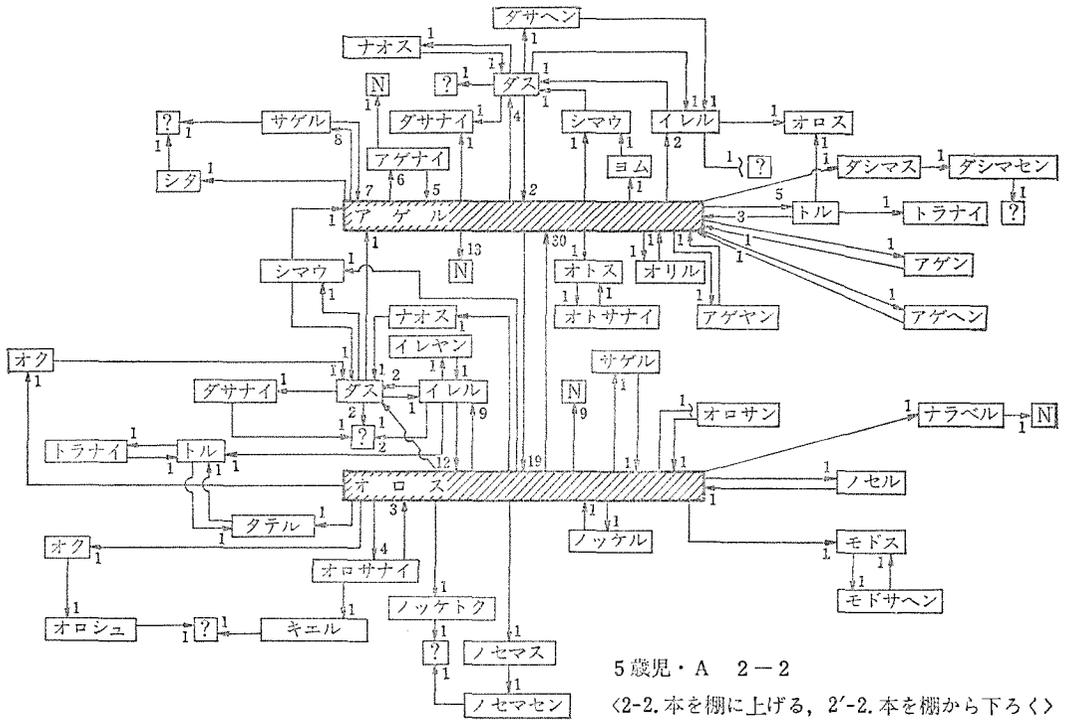
4 歳児 A、<2-1.旗を上上げる、  
2'-1.旗を下に下げる>



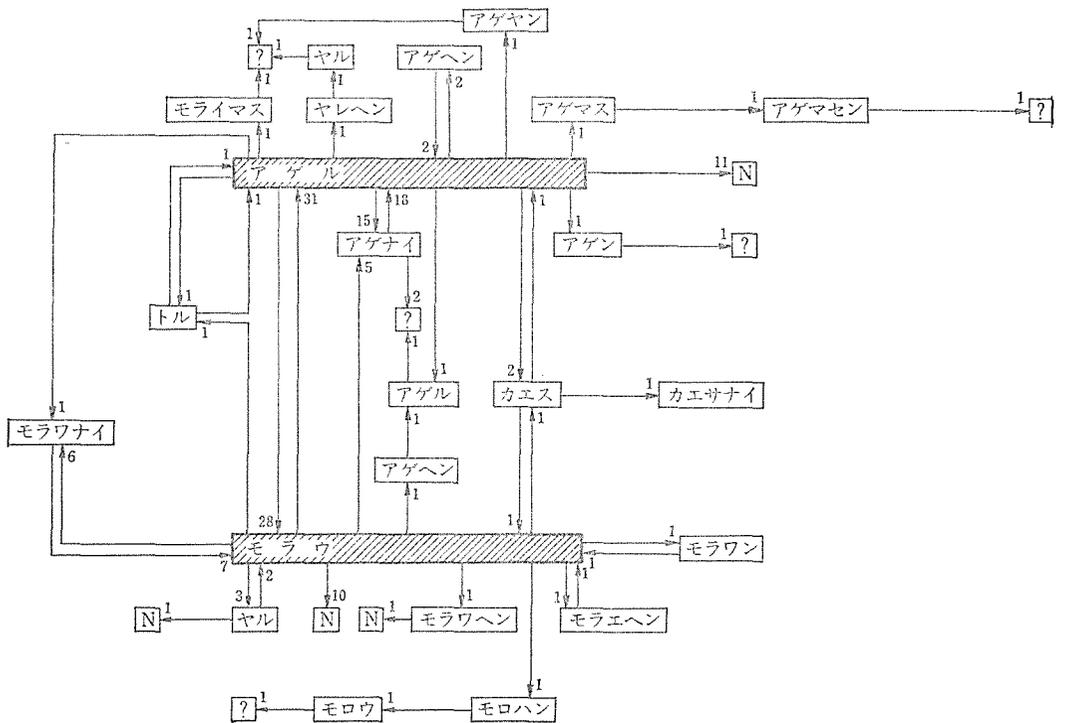
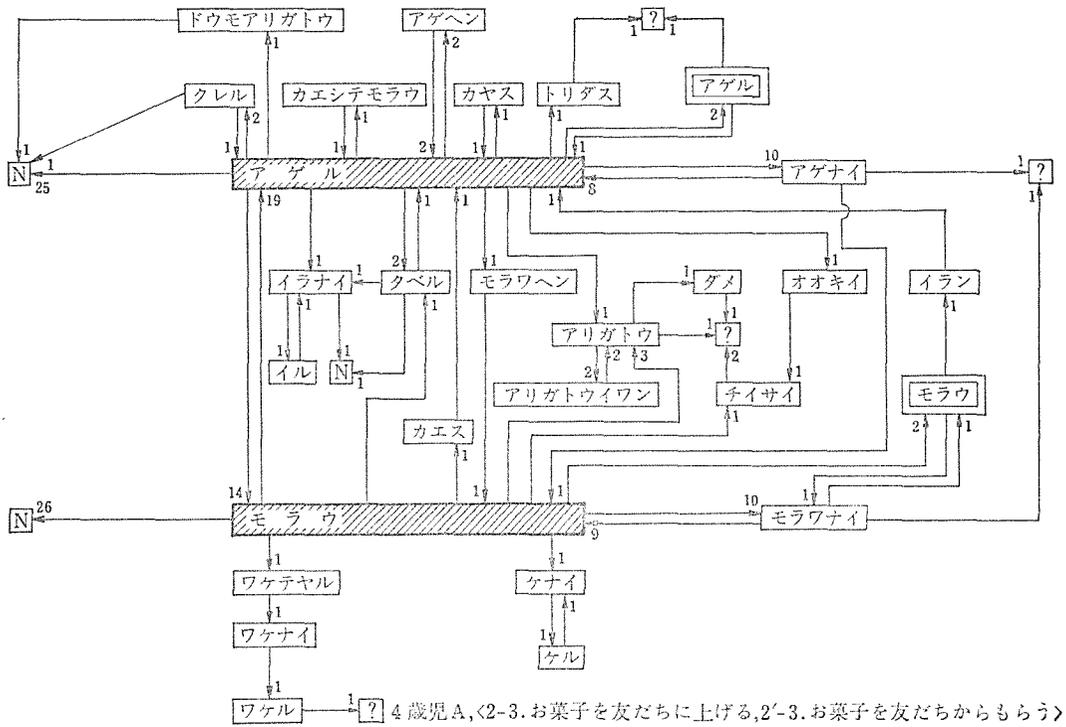
5 歳児 A、<2-1.旗を上上げる、2'-1.旗を下に下げる>

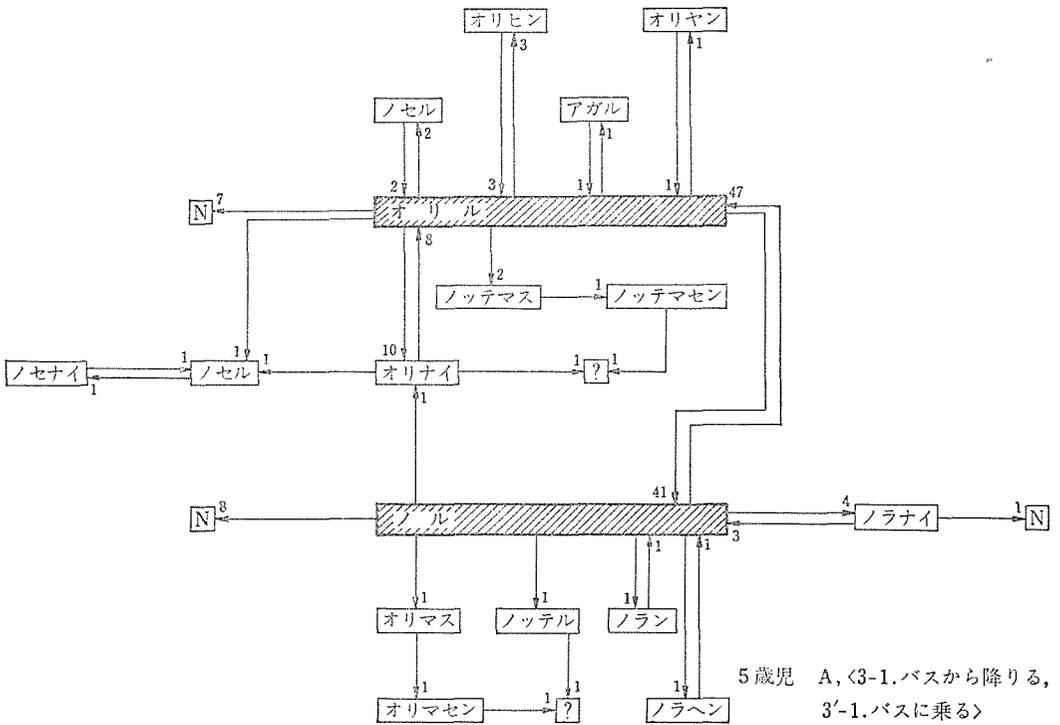
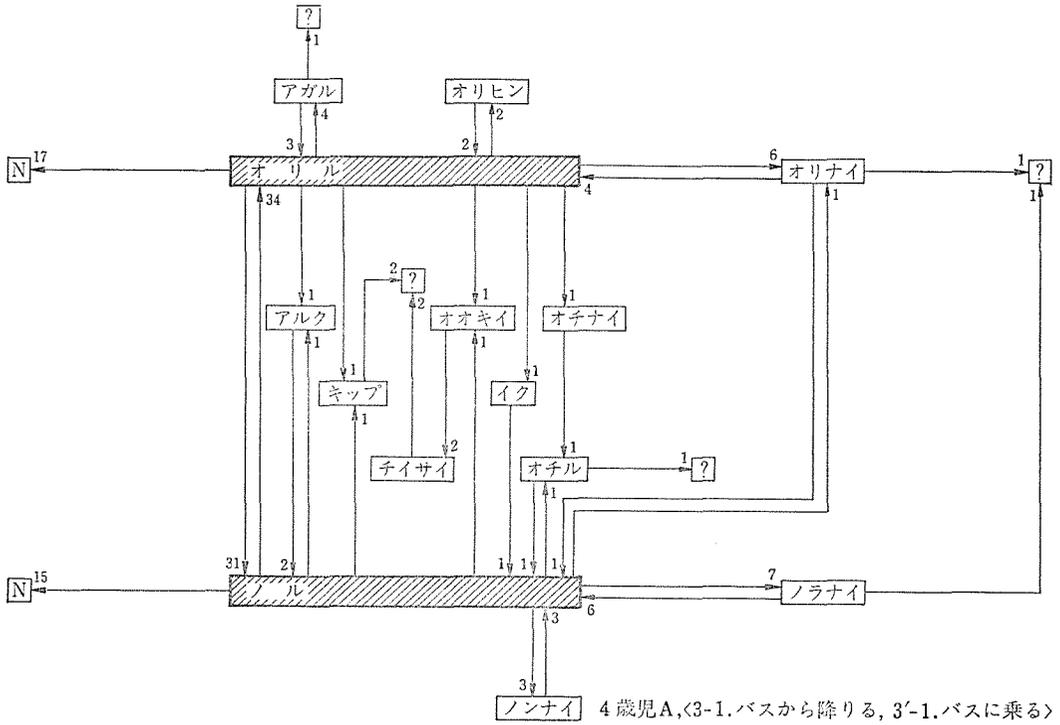


4歳児 A, <2-2.本を棚に上げる, 2'-2.本を棚から下ろす>

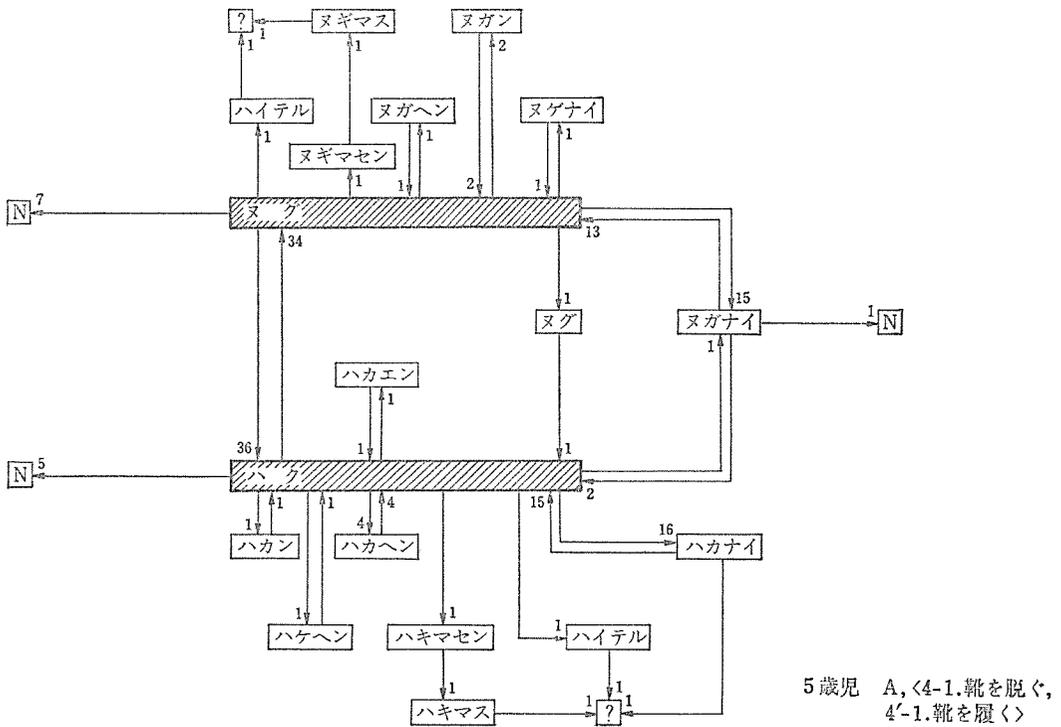
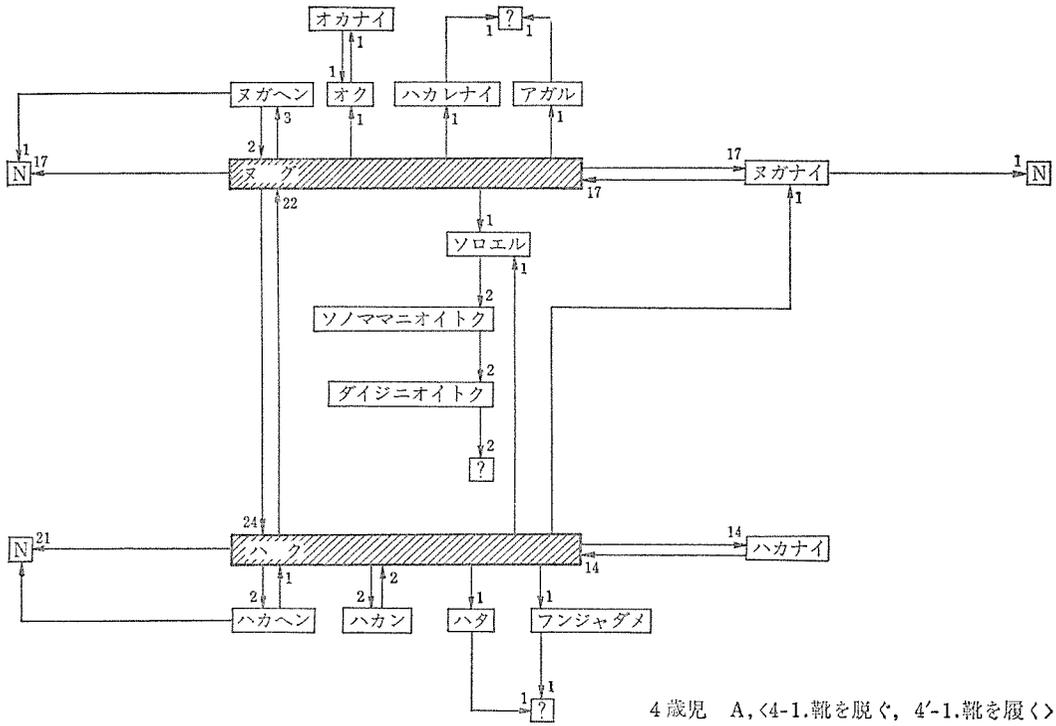


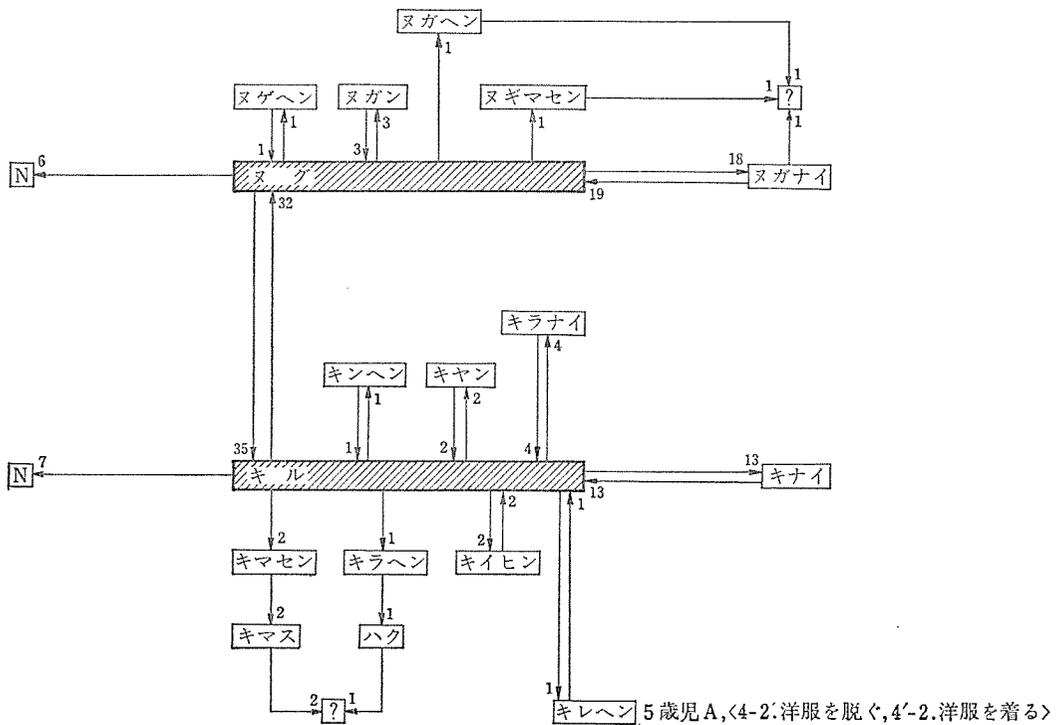
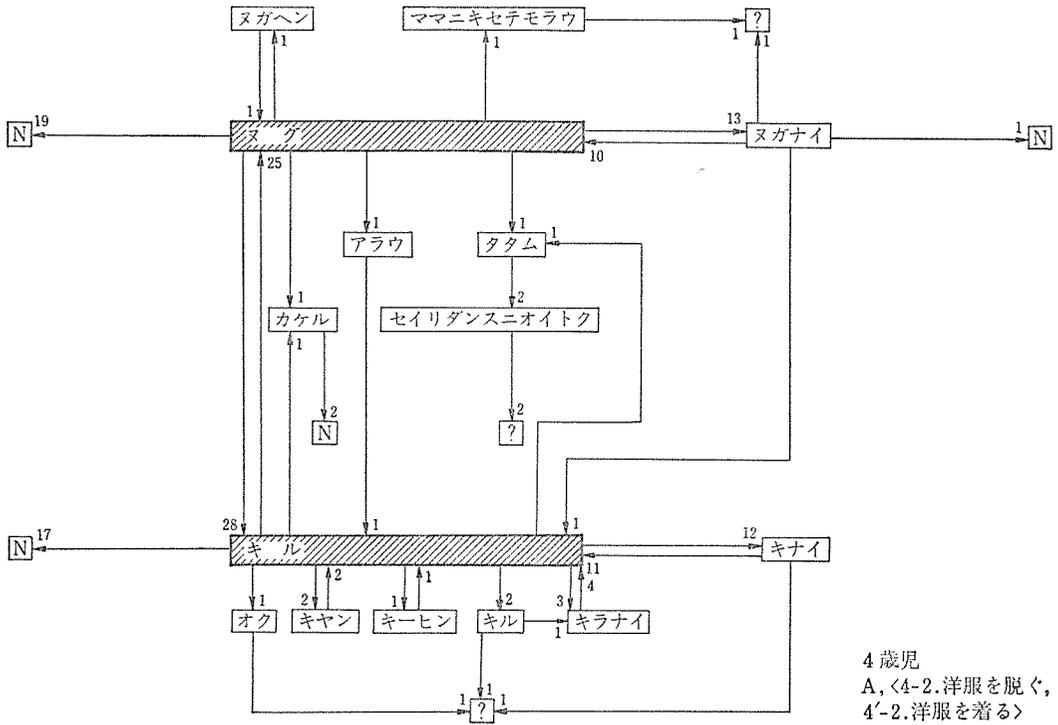
5歳児・A 2-2  
<2-2.本を棚に上げる, 2'-2.本を棚から下ろく>

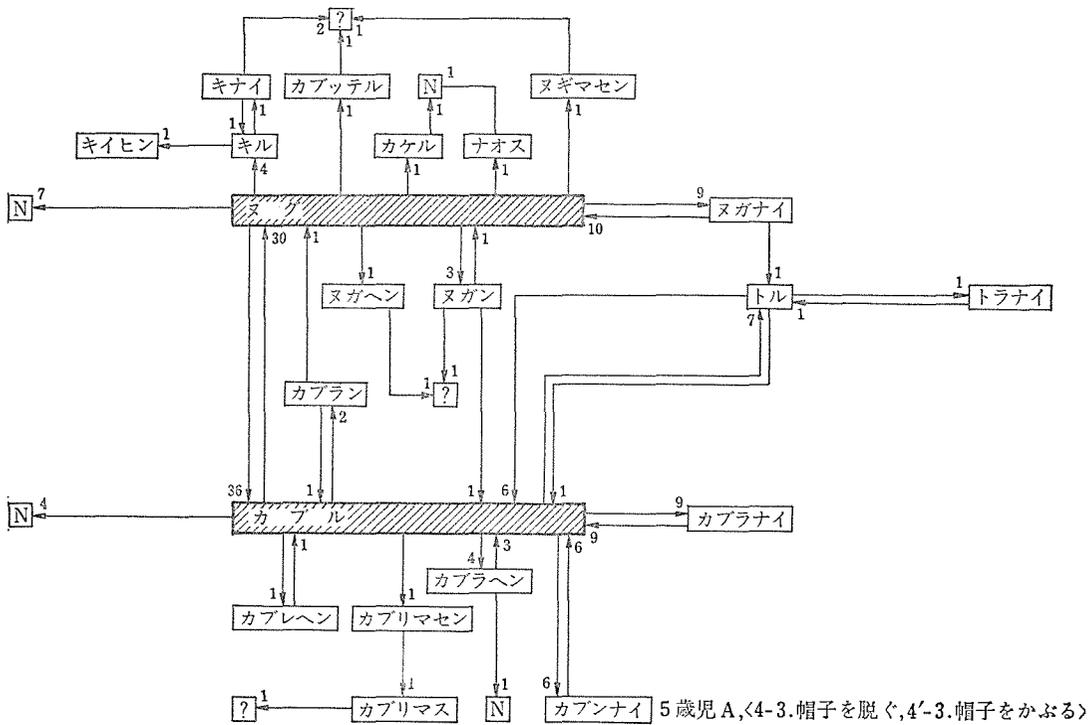
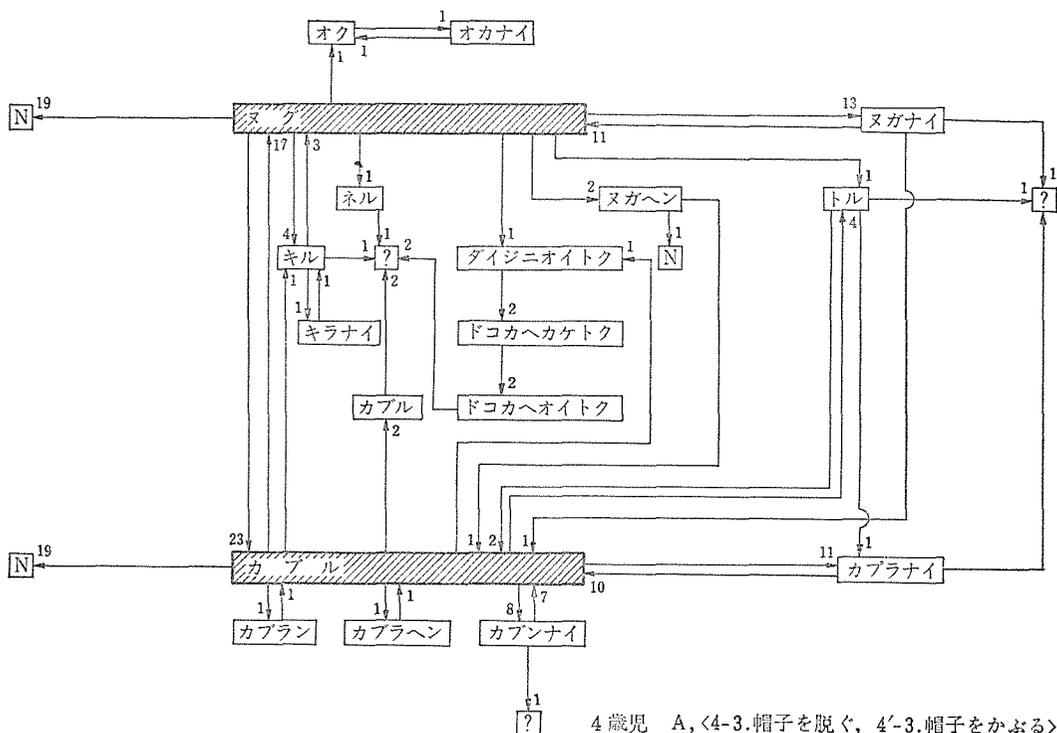












国立国語研究所報告 66

## 幼児の語彙能力

定価8000円

昭和55年 3月30日 第1刷発行 ©

著作者 国立国語研究所

発行者 東京書籍株式会社  
代表者 鈴木和夫

印刷者 図書印刷株式会社

発行者 東京書籍株式会社  
東京都台東区台東1丁目5番18号 〒110

(分) 3037 (製) 518015 (出) 5313

乱丁、落丁の場合はお取り替えいたします。

国立国語研究所報告45

# 幼児の読み書き能力

国立国語研究所

B5判 528ページ 上製本・ケース入り

定価4,500円

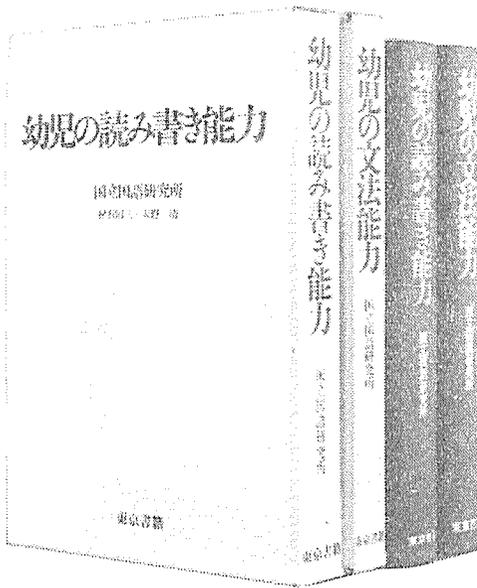
国立国語研究所報告58

# 幼児の文法能力

国立国語研究所

B5判 416ページ 上製本・ケース入り

定価5,500円



## 特色

- 「幼児の語彙能力」に先立ってまとめられた研究報告書です。
- 国立国語研究所が、就学前児童の言語能力を、全国の経済的・文化的風土の異なる地域の児童を対象に調査し、具体的な豊富な資料によってその実態を明らかにしました。
- これらの調査結果を分析し、幼児期における言語指導の望ましいあり方を追求するための諸資料、さらには、幼稚園をはじめとして小学校・中学校での言語教育の改善に役だつ問題提起を行っています。
- 巻末には付録として、調査に使用した文字カードや調査方法の手びきなどがついているので、各地の幼稚園や研究団体でも独自に調査ができ、経年的に定期調査して比較研究も可能です。
- この研究書は、調査の精度、そして調査規模の大きさともに、戦前・戦後を通じ、わが国で最高の水準にあるもので、幼稚園はもとより、小・中・高等学校、大学や教育研究所など、あらゆる教育の場に欠くことのできない基本的な資料といえましょう。

東京書籍

東京都台東区台東1-5-18 〒110

☎03-835-6074

## 幼児の語彙能力 訂正表

---

本文および表中の  $x^2$ ,  $x^2$  は  $\chi^2$  に訂正する。